

IM-AccelDB

株式会社 NTT データ イントラマート

IM-AccelDB

DB 操作機能

利用マニュアル

—目次—

1 はじめに	1
1-1 ご利用にあたって	3
1-2 記述ルールについて	4
2 DB 操作.....	5
2-1 DB 操作について.....	6
2-2 画面構成	7
2-3 常時操作可能メニュー.....	8
2-3-1 常時操作可能メニューの SQL の実行	12
2-3-2 常時操作可能メニューの SQL の実行結果のエクスポート	15
2-3-3 履歴一覧.....	19
2-3-4 常時操作可能メニューの検索の実行.....	29
2-3-5 ログアウト.....	33
2-4 サーバ個別操作メニュー.....	35
2-4-1 データベース一覧操作.....	37
2-4-2 ロール一覧操作	50
2-4-3 テーブル空間一覧操作.....	56
2-4-4 テーブル空間の特権操作	65
2-4-5 テーブル空間の作成.....	73
2-4-6 サーバのエクスポート.....	76
2-4-7 レポート一覧操作	81
2-5 データベース個別操作メニュー	96

2-5-1 スキーマ一覧操作	99
2-5-2 SQL の実行	111
2-5-3 検索の実行	118
2-5-4 変数の表示	121
2-5-5 プロセス一覧操作	123
2-5-6 ロック一覧	130
2-5-7 データベースの管理	132
2-5-8 データベースの特権操作	146
2-5-9 データベースのエクスポート	154
2-6 ロール個別操作	159
2-6-1 ロールの変更	161
2-6-2 ロールの破棄	165
2-7 レポート個別操作	168
2-7-1 レポートの編集	170
2-8 スキーマ個別操作メニュー	173
2-8-1 テーブル一覧操作	176
2-8-2 ビュー一覧操作	187
2-8-3 シーケンス一覧操作	198
2-8-4 関数一覧操作	216
2-8-5 全文テキスト検索操作メニュー	242
2-8-6 ドメイン一覧操作	270
2-8-7 スキーマの特権操作	276

2-8-8 スキーマのエクスポート.....	284
2-9 テーブル個別操作メニュー.....	289
2-9-1 テーブルのカラム一覧操作.....	292
2-9-2 テーブルのインデックス一覧操作.....	318
2-9-3 テーブルの検査制約一覧操作.....	330
2-9-4 テーブルのトリガー一覧操作.....	351
2-9-5 テーブルのルール一覧操作.....	367
2-9-6 テーブルの管理.....	375
2-9-7 テーブルの情報.....	397
2-9-8 テーブルの特権操作.....	399
2-9-9 テーブルのインポート.....	408
2-9-10 テーブルのエクスポート.....	411
2-10 テーブルのカラム個別操作メニュー.....	416
2-10-1 テーブルのカラムのプロパティ操作.....	418
2-10-2 テーブルのカラムの特権操作.....	433
2-11 ビュー個別操作メニュー.....	442
2-11-1 ビューのカラム一覧操作.....	444
2-11-2 ビューの定義.....	462
2-11-3 ビューのルール一覧操作.....	464
2-11-4 ビューの特権操作.....	472
2-11-5 ビューのエクスポート.....	480
2-12 シーケンス個別操作.....	484

2-12-1 シーケンスの変更.....	487
2-12-2 シーケンスの値の設定	491
2-12-3 シーケンスの値の増加	494
2-12-4 シーケンスのリスタート	496
2-12-5 シーケンスのリセット	498
2-13 関数個別操作	500
2-13-1 関数の変更	502
2-13-2 関数の破棄	506
2-14 全文テキスト検索設定個別操作	509
2-14-1 全文テキスト検索設定マップの破棄	512
2-14-2 全文テキスト検索設定マップの変更	515
2-14-3 全文テキスト検索設定マップの追加	518
2-15 ドメイン個別操作	522
2-15-1 ドメインの検査制約の破棄	525
2-15-2 ドメインの破棄	528
2-15-3 ドメインの検査制約の追加	531
2-15-4 ドメインの変更	534

1 はじめに

1	はじめに	1
1-1	ご利用にあたって	3
1-2	記述ルールについて	4
2	DB 操作.....	5
2-1	DB 操作について.....	6
2-2	画面構成	7
2-3	常時操作可能メニュー.....	8
2-4	サーバ個別操作メニュー.....	35
2-5	データベース個別操作メニュー	96
2-6	ロール個別操作	159
2-7	レポート個別操作	168
2-8	スキーマ個別操作メニュー	173

2-9 テーブル個別操作メニュー	289
2-10 テーブルのカラム個別操作メニュー	416
2-11 ビュー個別操作メニュー	442
2-12 シーケンス個別操作.....	484
2-13 関数個別操作	500
2-14 全文テキスト検索設定個別操作	509
2-15 ドメイン個別操作	522

本章では、本資料の位置づけと利用するにあたっての注意事項について示します。

1-1 ご利用にあたって

本資料で対象とする方

本資料は、以下の方を対象にしています。

- ・ IM-AccelDB の DB 操作機能を使用する方

前提条件

2 章以降の手順を実施する上で、以下の項目を前提条件としています。

- ・ 「ファーストステップガイド インストール編」に記載された作業が完了していること
- ・ IM-AccelDB 操作端末にブラウザ（Internet Explorer, Google Chrome 推奨）がインストールされていること

商標について

本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は、一般に各社の登録商標あるいは商標です。

1-2 記述ルールについて

操作対象の記述ルール

本資料において、操作対象となる画面名などは、表 1-2 のルールに則って記述します。

表 1-1 操作対象の記述ルール

NO	項目名	説明	例
1	画面名/画面項目	「鉤括弧」で括ります。	「Size」に値を入力します。
2	ユーザーによって 値が変わる項目	“ダブルクォート”で括ります。	“仮想マシン作成場所”を設定します。
3	ボタン	[角括弧] で括ります。	[Create] ボタンをクリックします。

2 DB 操作

1 はじめに	1
1-1 ご利用にあたって	3
1-2 記述ルールについて	4
2 DB 操作.....	5
2-1 DB 操作について.....	6
2-2 画面構成	7
2-3 常時操作可能メニュー.....	8
2-4 サーバ個別操作メニュー	35
2-5 データベース個別操作メニュー	96
2-6 ロール個別操作	159
2-7 レポート個別操作	168
2-8 スキーマ個別操作メニュー	173
2-9 テーブル個別操作メニュー	289
2-10 テーブルのカラム個別操作メニュー	416
2-11 ビュー個別操作メニュー	442
2-12 シーケンス個別操作.....	484
2-13 関数個別操作	500
2-14 全文テキスト検索設定個別操作.....	509

「DB 操作」の各機能について示します。

2-1 DB 操作について

【概要】 PostgreSQL サーバ の運用／管理する画面です。

【用途】

- 複数の PostgreSQL サーバの管理
- 以下のデータベースオブジェクトの GUI による管理
 - ユーザーとグループ、データベース、スキーマ、テーブル、ビュー、シーケンス、関数、インデックス、検査制約、トリガー、ルール、特権、レポート
- テーブルやビューなどのオブジェクトのデータ/構造の多様なインポート/エクスポート

DB 操作を使用するためには、DB が起動していることが必要です。メニューリストから、[運用管理] の [クラスタ管理] をクリックして、「PostgreSQL 起動状態」を確認してください。確認手順の詳細は、「IM-AccelDB マニュアル」を参照してください。

2-2 画面構成

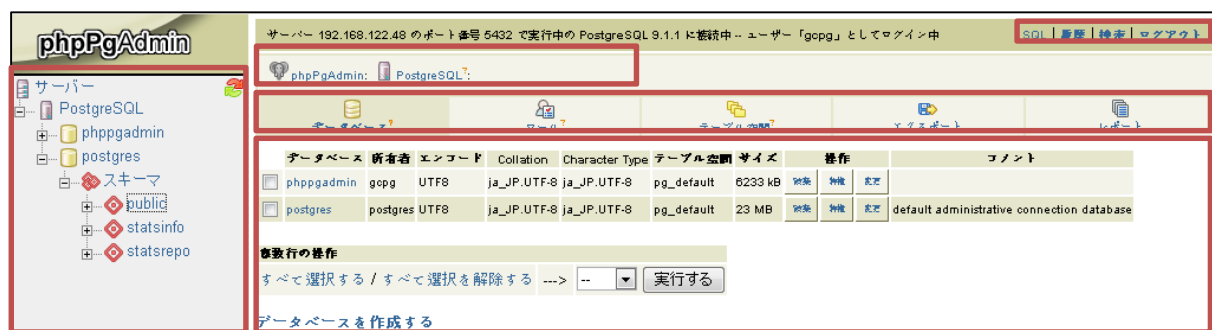


図 2-2-1 画面構成

表 2-2-2 画面構成項目

NO	項目名	説明
1	「ツリー」	「個別操作メニュー」を介さずに個々の画面を表示することができます。 以降ではこの部分の説明は割愛します。
2	「常時操作可能メニュー」	ログイン中は常時表示されているメニューです。次の操作が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ● SQL ● 履歴 ● 検索 ● ログアウト
3	「パンくずリスト」	現在表示している画面の階層を示します。
4	「個別操作メニュー」	ある対象に対して可能な操作のメニューです。
5	「メイン表示部」	画面の主となる表示部分です。

2-3 常時操作可能メニュー

★ 「常時操作可能メニュー」の表示を確認します。

① メニューリストから、[DB 操作] をクリックします。



図 2-3-1 [DB 操作]のクリック

② 「サイドバー」 から、「使用するサーバ名のサーバ」をクリックします。

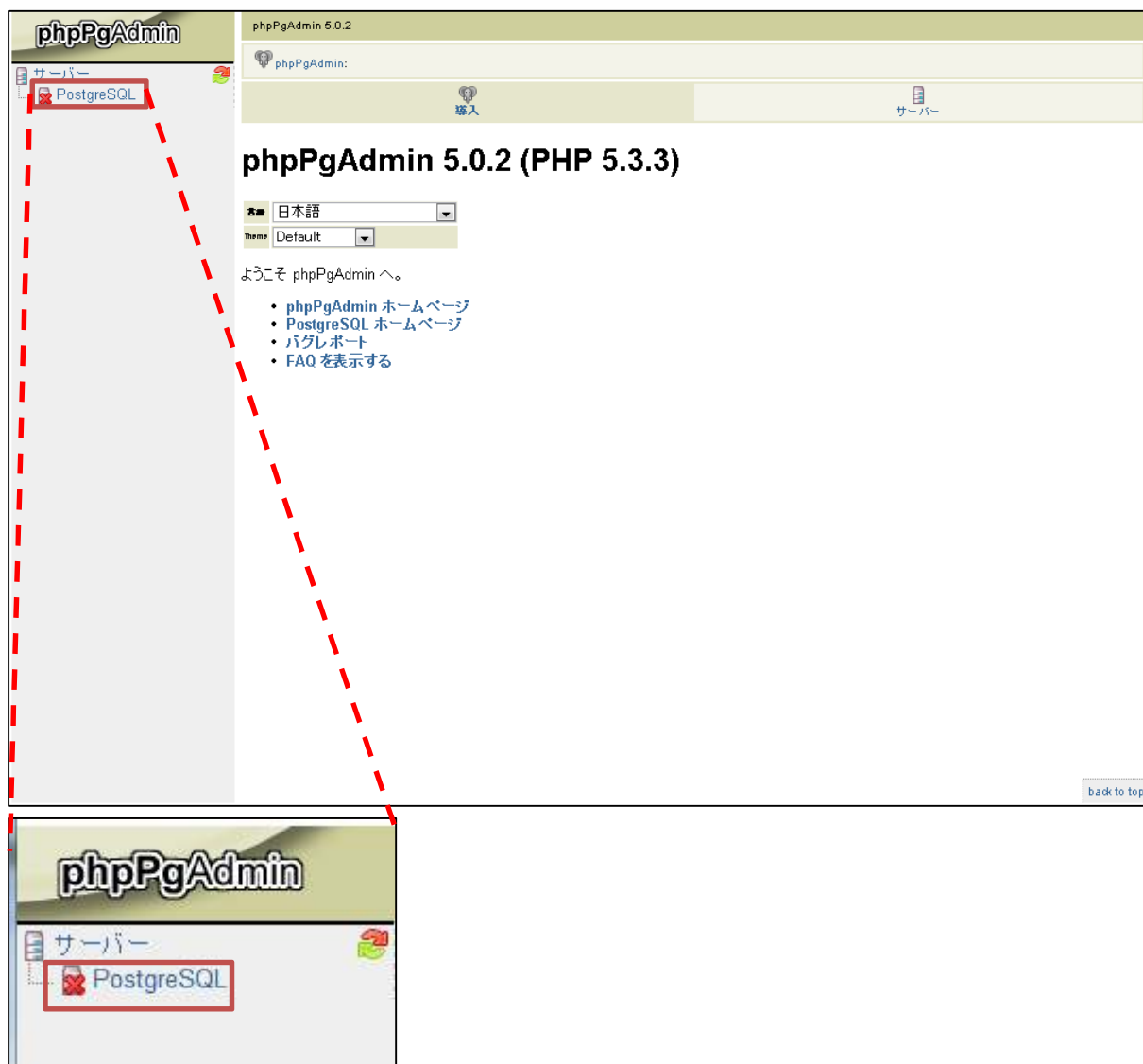


図 2-3-2 “使用するサーバ名のサーバ”のクリック

③サーバへのログインに必要な“ユーザー名”、“パスワード”を記述して、[ログイン]ボタンをクリックします。

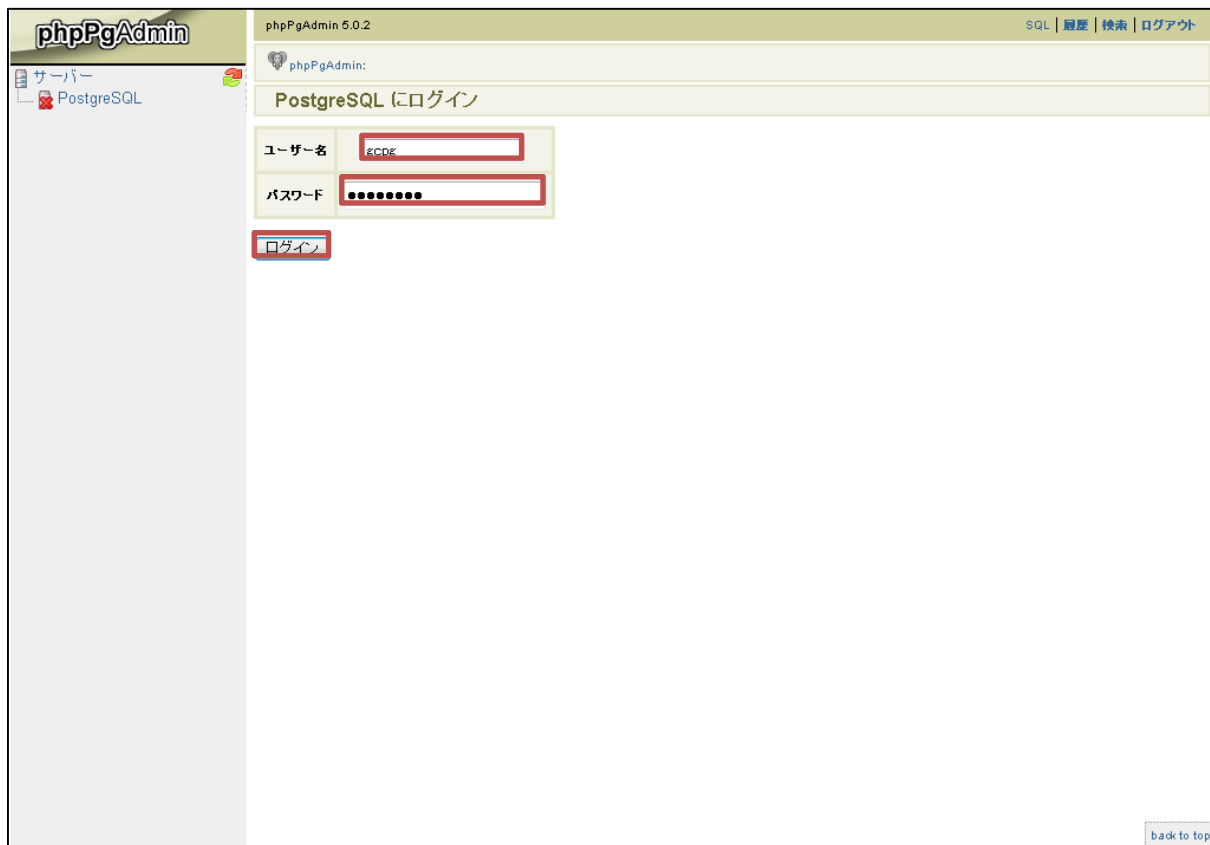


図 2-3-3 「ログイン画面」

④ 「常時操作可能メニュー」の表示を確認します。



図 2-3-4 「常時操作可能メニュー」

表 2-3-5 常時操作可能メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[SQL]	「常時操作可能メニューの SQL の実行」を表示します。 詳細は 2-3-1 「常時操作可能メニューの SQL の実行」を参照してください。
2	[履歴]	「履歴一覧」を表示します。 「常時操作可能メニューの SQL の実行」および、「SQL の実行」で実行された SQL の履歴が表示されます。 詳細は 2-3-3 「履歴一覧」を参照してください。
3	[検索]	「常時操作可能メニューの検索の実行」を表示します。 詳細は 2-3-4 「常時操作可能メニューの検索の実行」を参照してください。
4	[ログアウト]	DB 操作からログアウトします。 詳細は 2-3-5 「ログアウト」を参照してください。

2-3-1 常時操作可能メニューの SQL の実行

★ 実行したい SQL クエリを入力して、実行結果を表示します。

① 「常時操作可能メニュー」で[SQL]をクリックします。

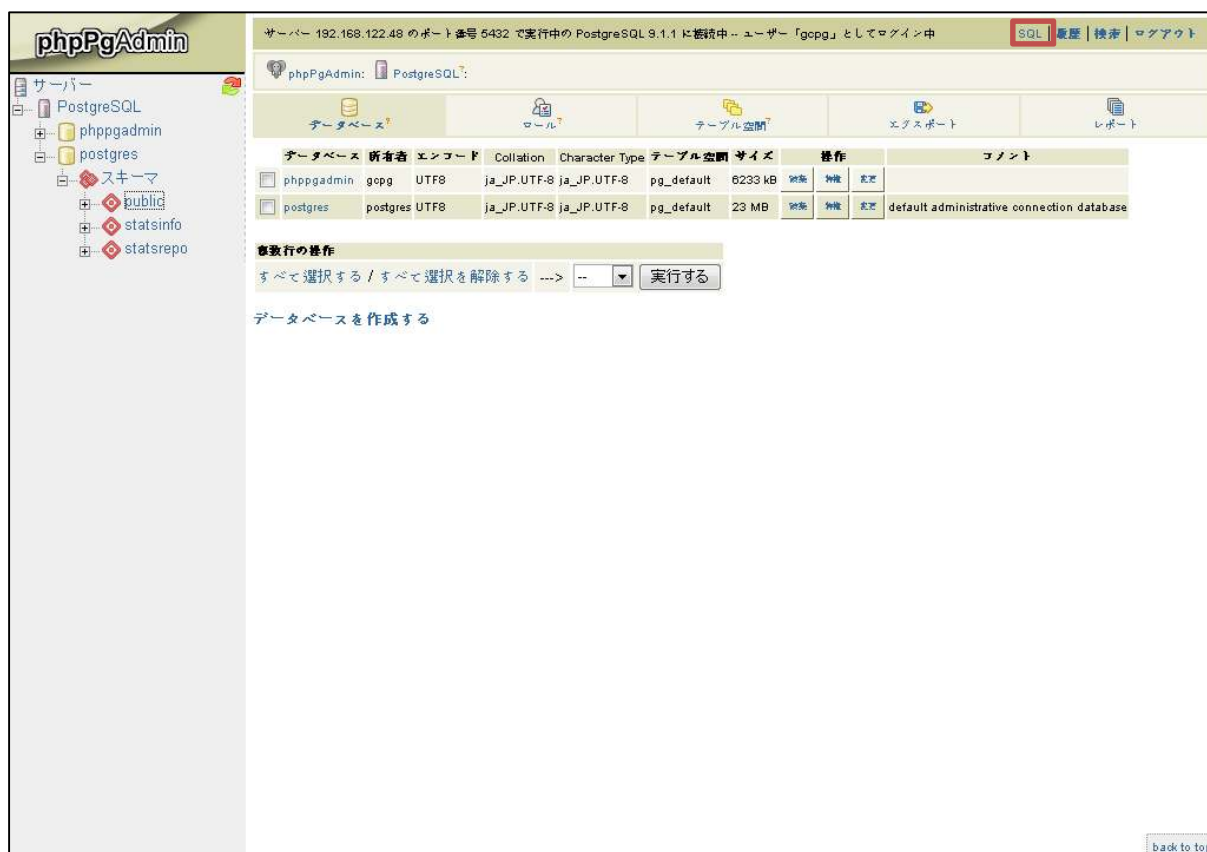


図 2-3-6 「常時操作可能メニュー」

② 「常時操作可能メニューの SQL の実行」で[実行する]ボタンをクリックします。

図 2-3-7 「常時操作可能メニューの SQL の実行」

表 2-3-8 常時操作可能メニューの SQL の実行画面項目

NO	項目名	説明
1	[サーバ]	対象サーバを指定します。
2	[データベース]	対象データベースを指定します。
3	[スキーマ検索パス]	スキーマ検索パスを指定します。
4	SQL	実行する SQL クエリを指定します。
5	[結果のページ分割処理を行う]	本項目を有効にすると、SQL の実行結果を一定の行数で分割して表示します。

6	[実行する]ボタン	SQL を実行します。
7	[リセット]ボタン	[スキーマ検索パス]の内容を消去します。

③SQL の実行結果を確認します。

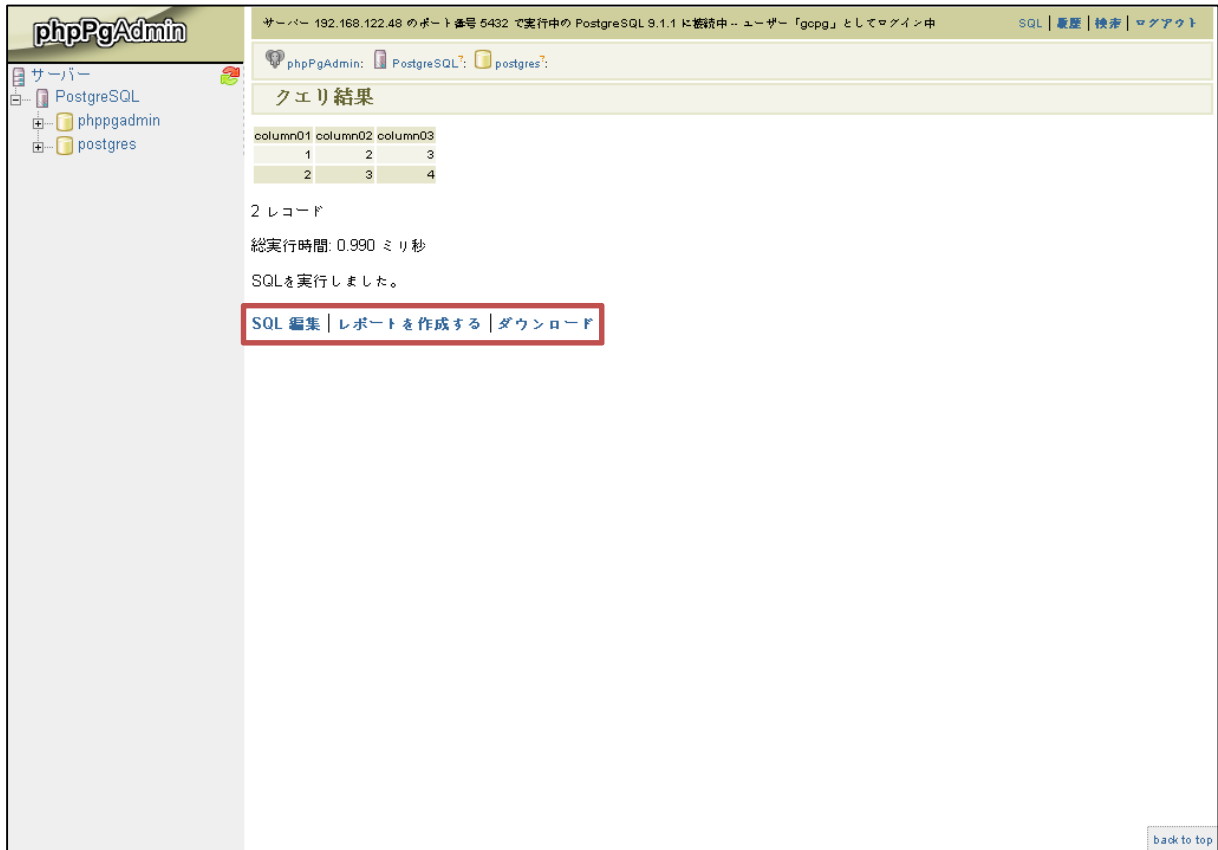


図 2-3-9 「SQL の実行結果」

表 2-3-10 SQL の実行結果画面項目

NO	項目名	説明
1	[SQL の編集]	「SQL の実行」を表示します。 詳細は 2-5-2 「SQL の実行」を参照してください。
2	[レポートを作成する]	実行した SQL クエリを元に「レポートの作成」を表示します。 詳細は 2-4-7-IV 「レポートの作成」を参照してください。
3	[ダウンロード]	SQL の実行結果をエクスポートする「SQL の実行結果のエクスポート」表示します。

詳細は 2-5-2-I 「SQL の実行結果のエクスポート」を参照してください。

2-3-2 常時操作可能メニューの SQL の実行結果のエクスポート

★ 常時操作可能メニューの SQL の実行結果をエクスポートします。

① 「常時操作可能メニューの SQL の実行結果」で [ダウンロード]をクリックします。

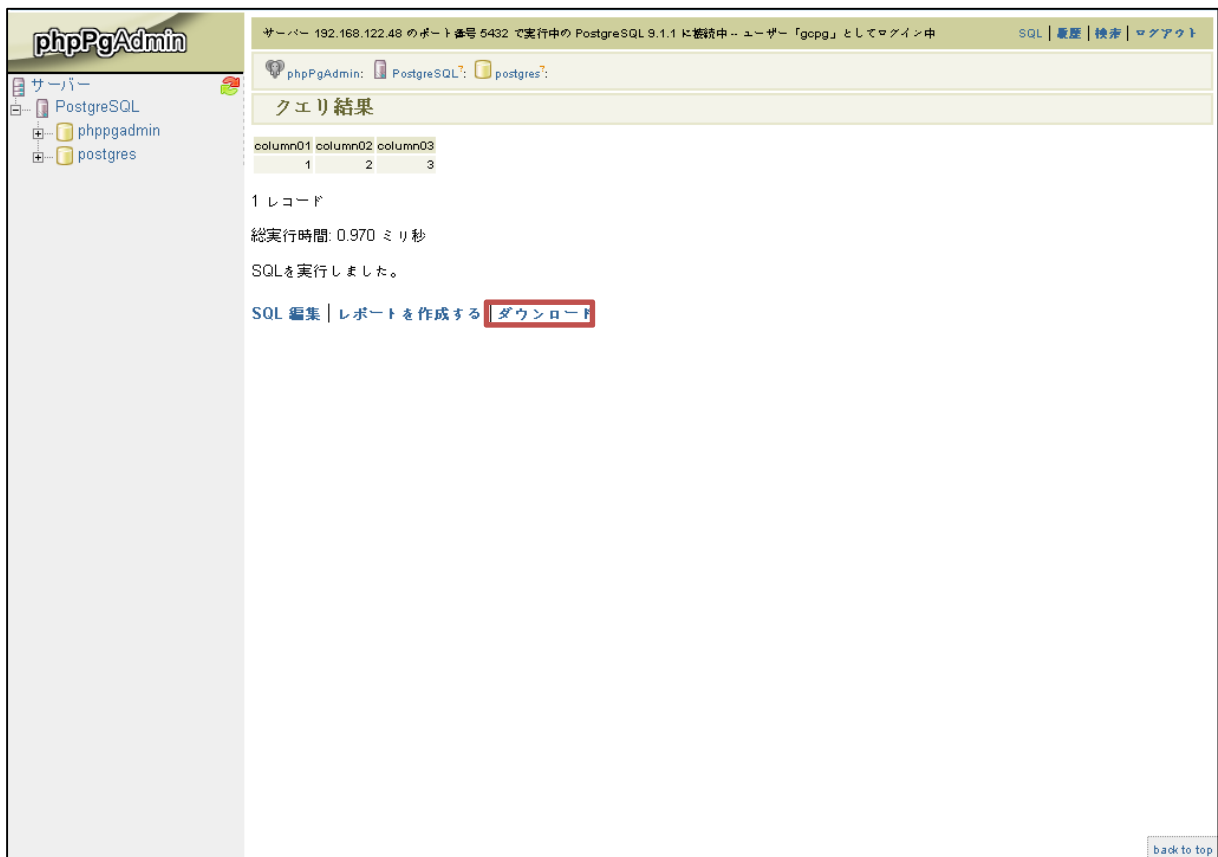


図 2-3-11 「SQL の実行結果」

② 「SQLの実行結果のエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

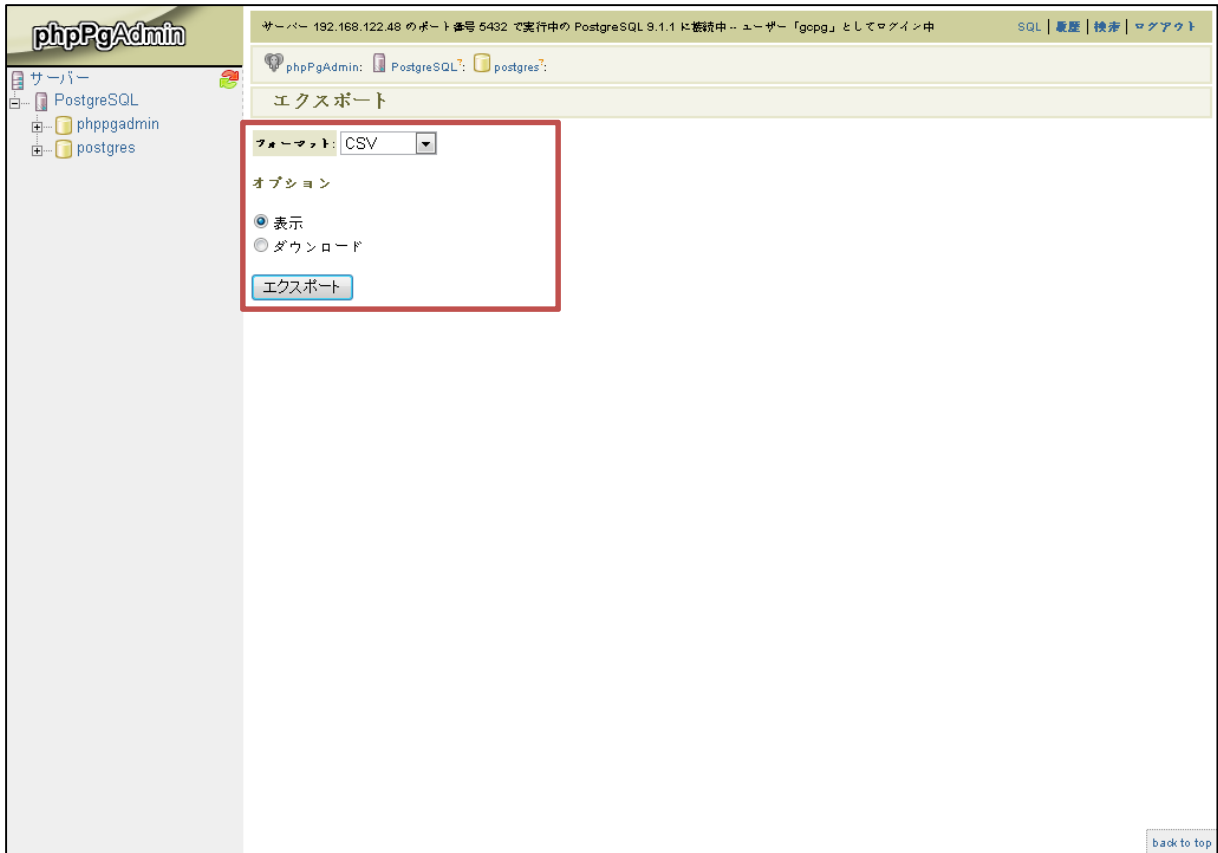


図 2-3-12 「SQLの実行結果のエクスポート」

表 2-3-13 SQLの実行結果のエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CSV ● タブ区切り ● XHTML ● XML
2	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
3	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。

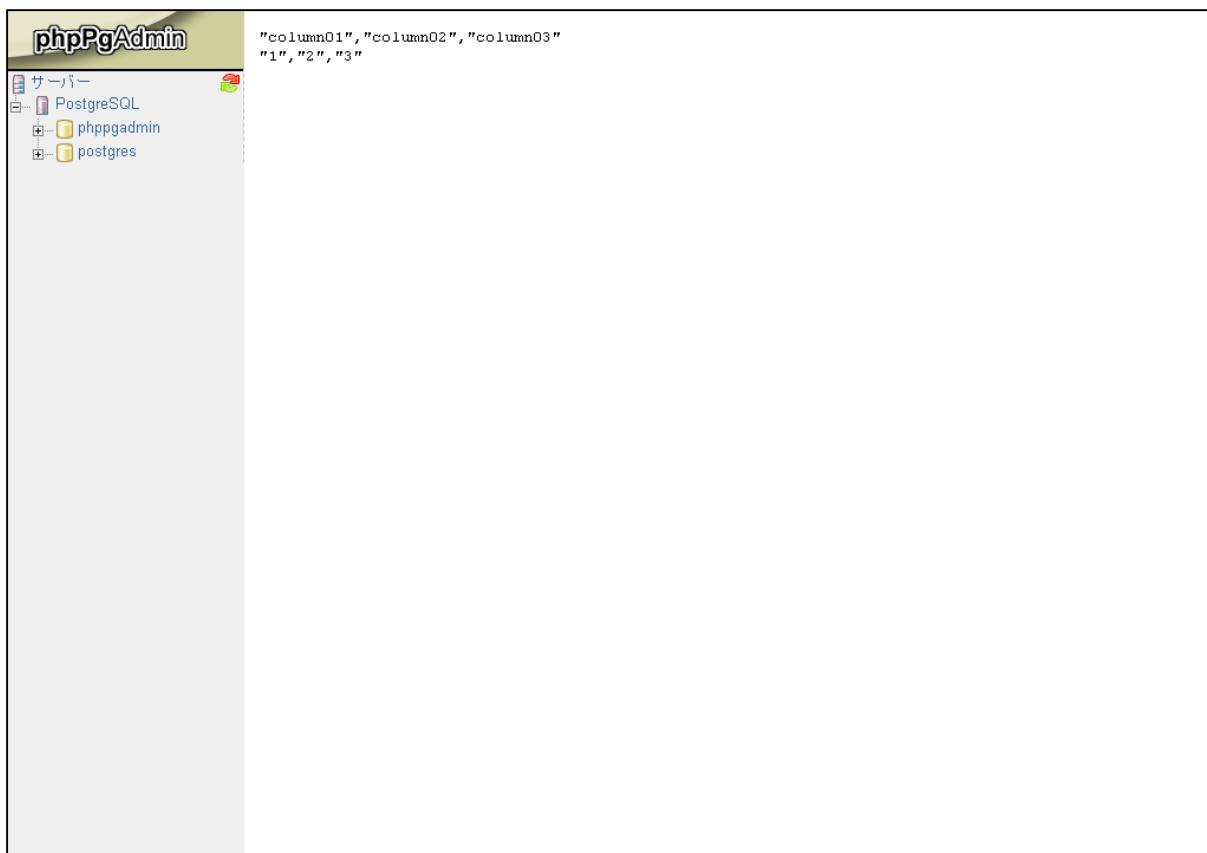


図 2-3-14 「常時操作可能メニューの SQL の実行結果のエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-3-15 「常時操作可能メニューの SQL の実行結果のエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-3-3 履歴一覧

★履歴を表示します。なお、本履歴には、「常時操作可能メニューのSQLの実行」および、「SQLの実行」で実行されたSQLが表示されます。履歴内のSQLの再実行、削除ができます。

- ① 「常時操作可能メニュー」で[履歴]をクリックします。

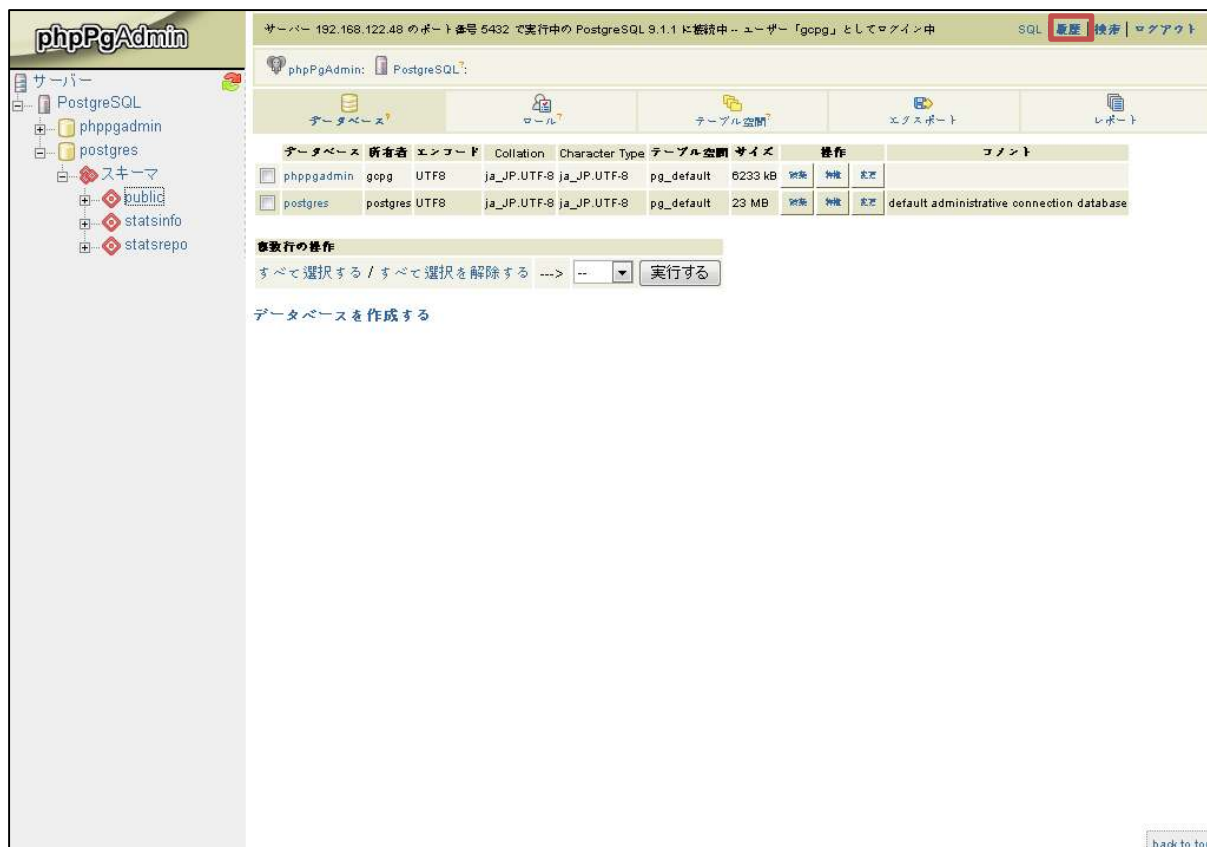


図 2-3-16 「常時操作可能メニュー」

② 「履歴一覧」を確認します。



図 2-3-17 「常時操作可能メニューの SQL の実行」

表 2-3-18 常時操作可能メニューの SQL の実行画面項目

NO	項目名	説明
1	[サーバ]	対象サーバを指定します。
2	[データベース]	対象データベースを指定します。
3	[実行する]ボタン	当該 SQL を再度実行します。 詳細は 2-3-3-I「常時操作可能メニューの履歴の実行」を参照してください。
4	[削除]ボタン	当該 SQL を履歴から削除します。 詳細は 2-3-3-II「履歴の削除」を参照してください。
5	[履歴を消去する]	履歴をすべて削除します。 詳細は 2-3-3-III「履歴の全削除」を参照してください。
6	[再表示]	本画面を再表示します。

2-3-3-I. 履歴の実行

★履歴を再度実行します。

① 「履歴一覧」で [実行する] ボタンをクリックします。



図 2-3-19 「履歴一覧」

②SQL の実行結果を確認します。

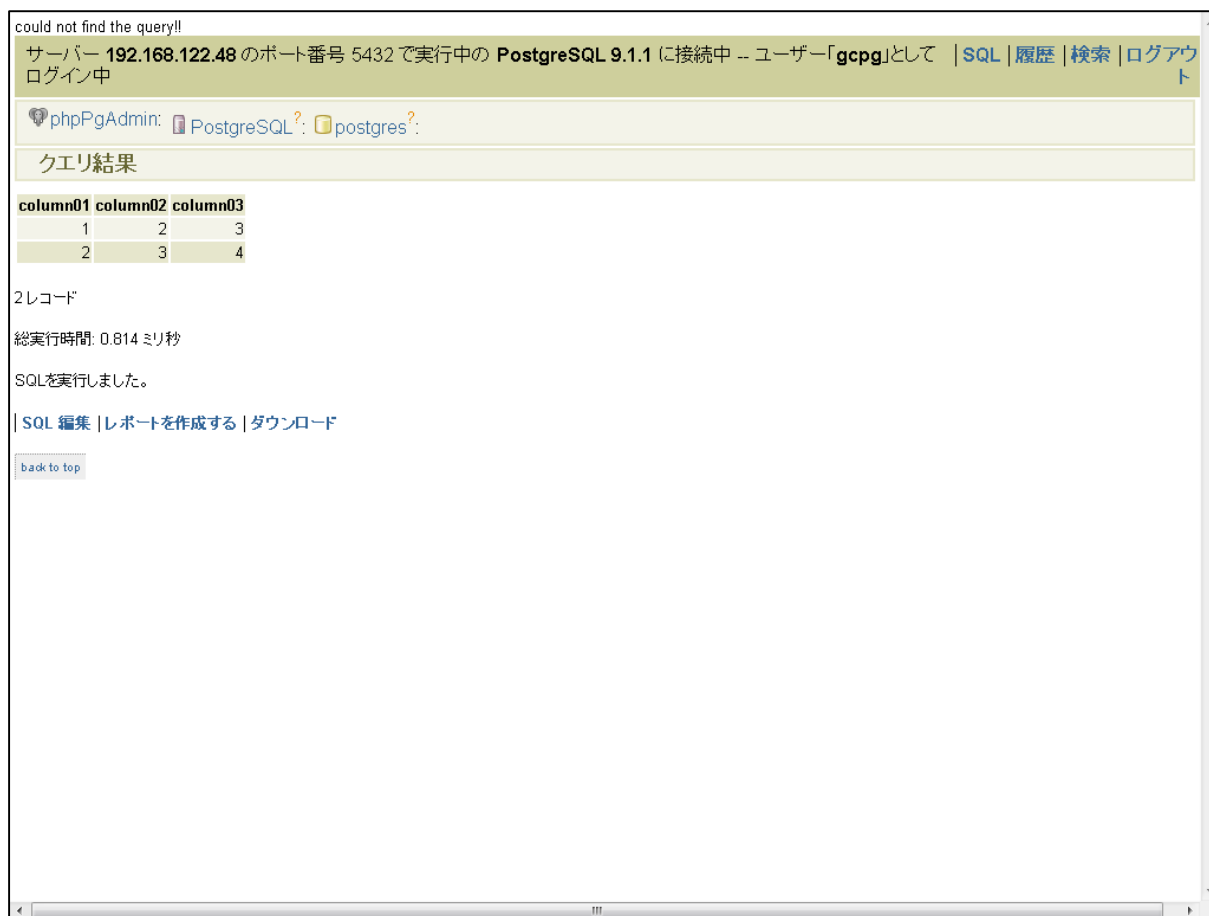


図 2-3-20 「SQL の実行結果のエクスポート」

以降は「常時操作可能メニューの SQL の実行」と同様のため、省略します。詳細は 2-3-1 「常時可能操作メニューの SQL の実行」を参照してください。

2-3-3-II. 履歴の削除

★履歴を削除します。

①「履歴一覧」で [削除] ボタンをクリックします。

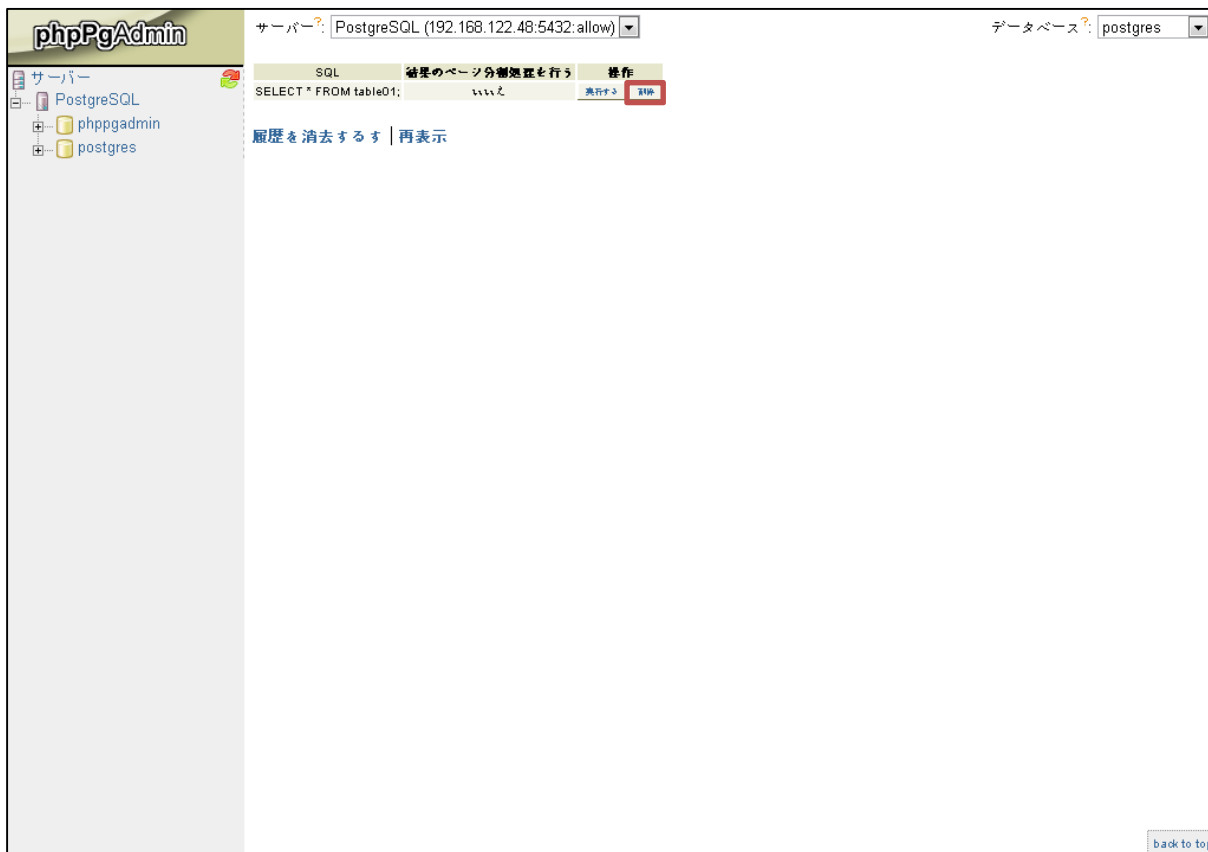


図 2-3-21 「履歴一覧」

② 「履歴の削除」で[削除]ボタンをクリックします。

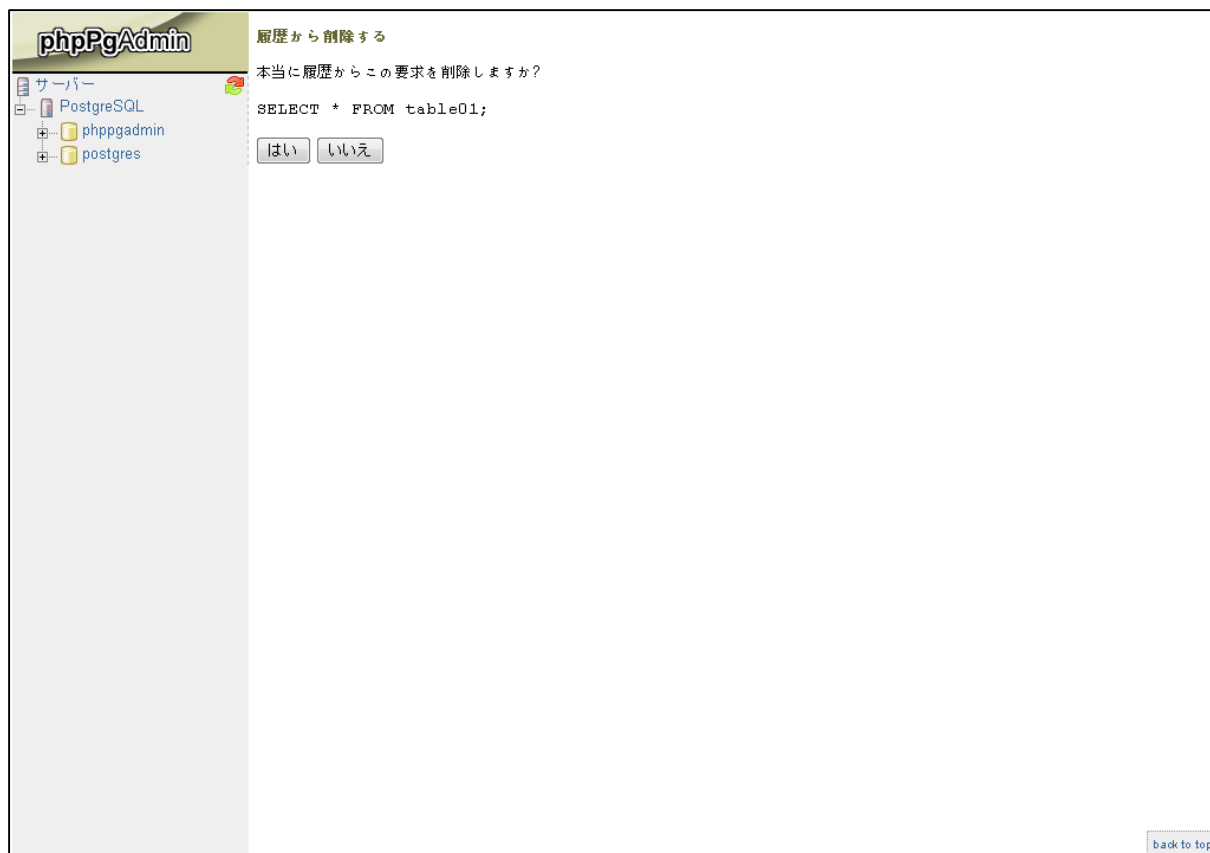


図 2-3-22 「履歴の削除」

表 2-3-23 履歴の削除画面項目

NO	項目名	説明
1	[はい]ボタン	削除操作を実行します。
2	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「履歴一覧」で履歴が削除されたことを確認します。

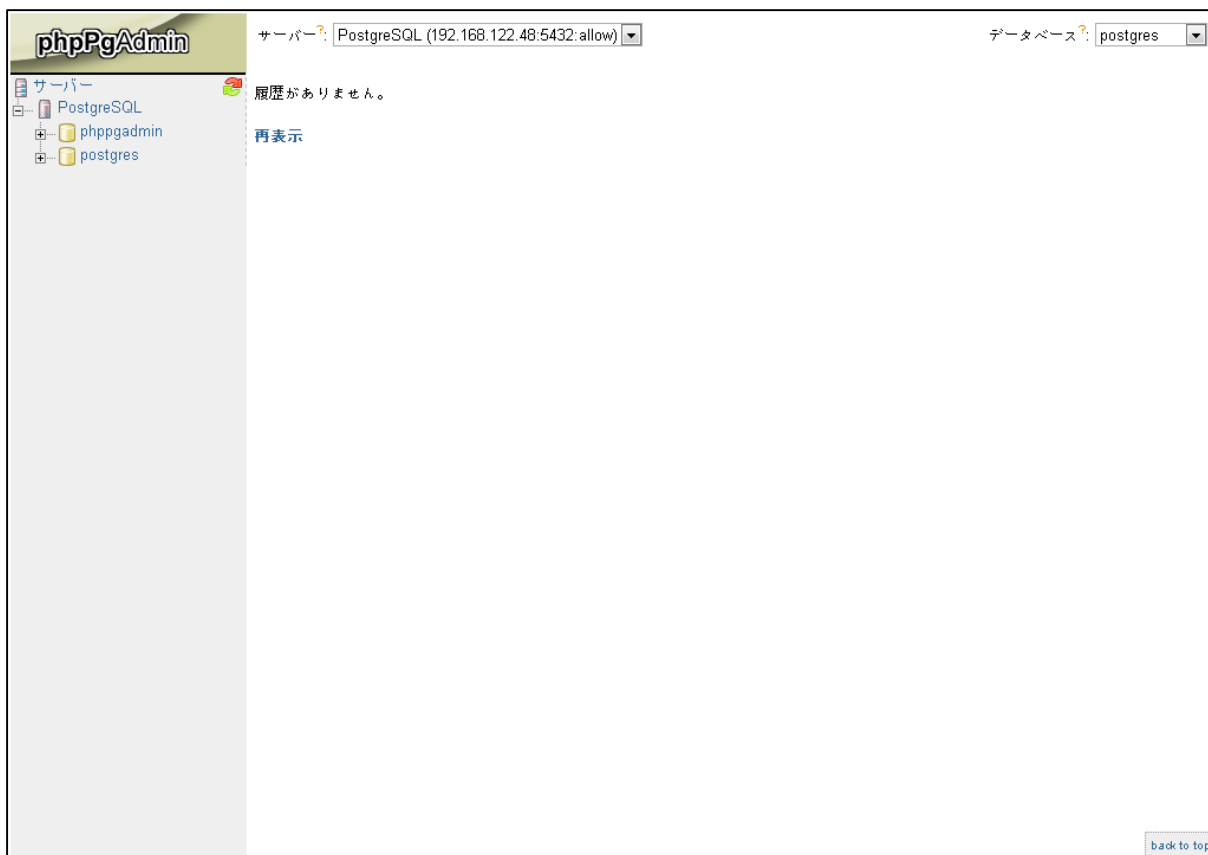


図 2-3-24 「履歴一覧」

2-3-3-III. 履歴の全削除

★履歴をすべて削除します。

①「履歴一覧」で [履歴を消去する] をクリックします。

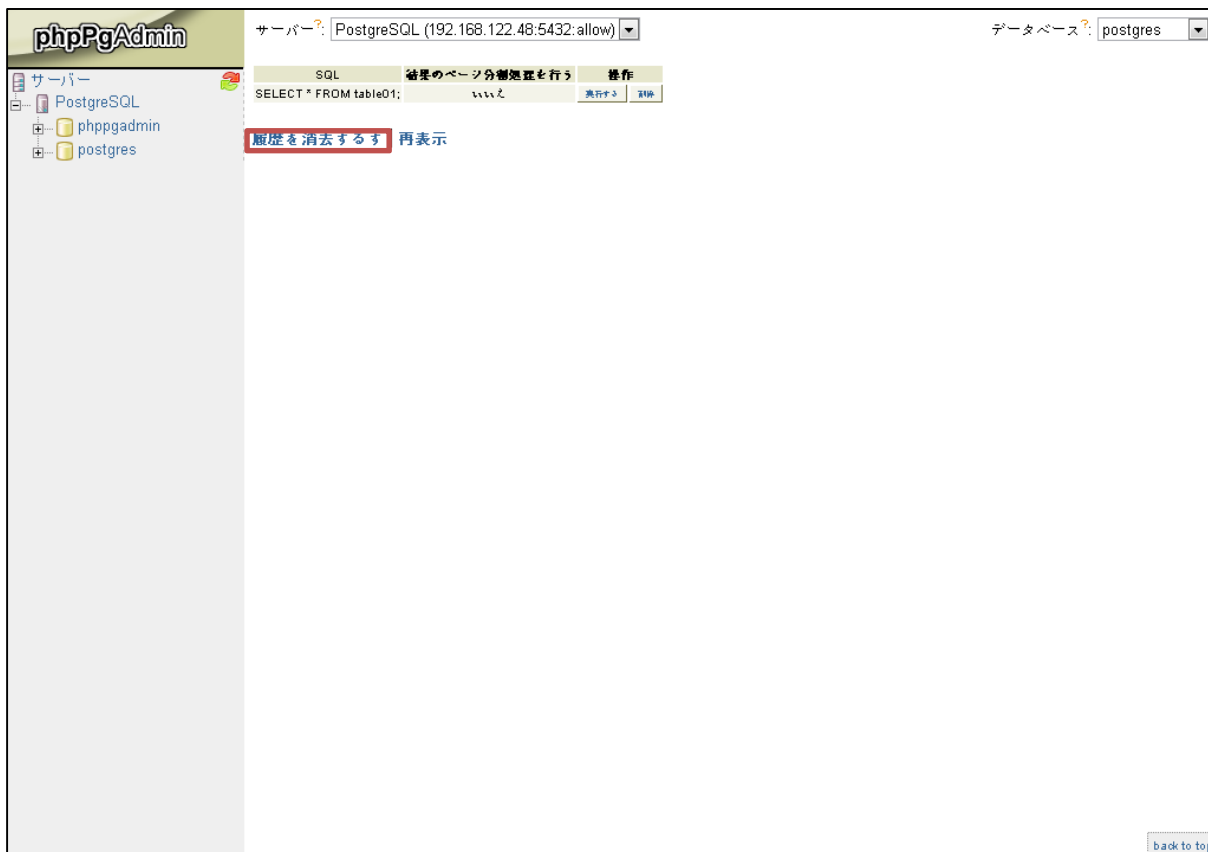


図 2-3-25 「履歴一覧」

② 「履歴の削除」で[削除]ボタンをクリックします。

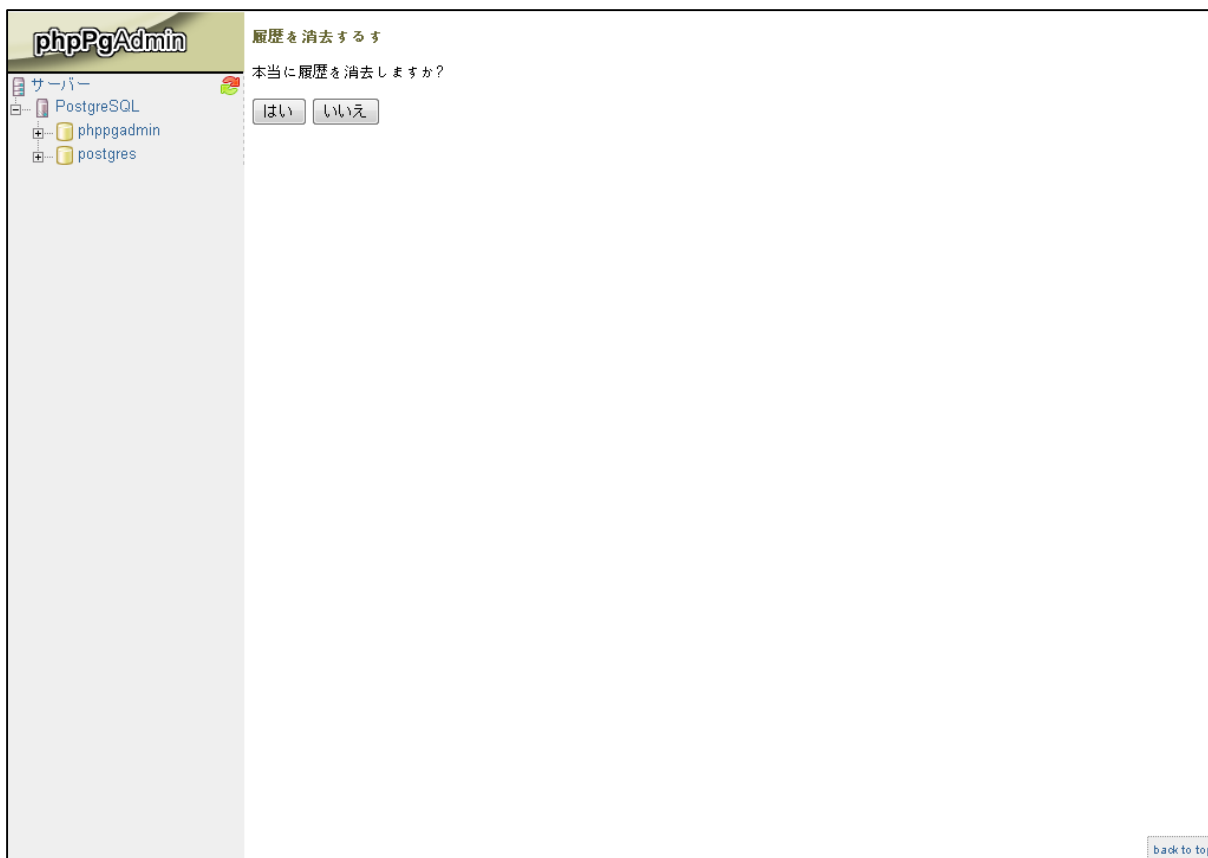


図 2-3-26 「履歴の全削除」

表 2-3-27 履歴の全削除画面項目

NO	項目名	説明
1	[はい]ボタン	全削除操作を実行します。
2	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「履歴一覧」で履歴が全削除されたことを確認します。

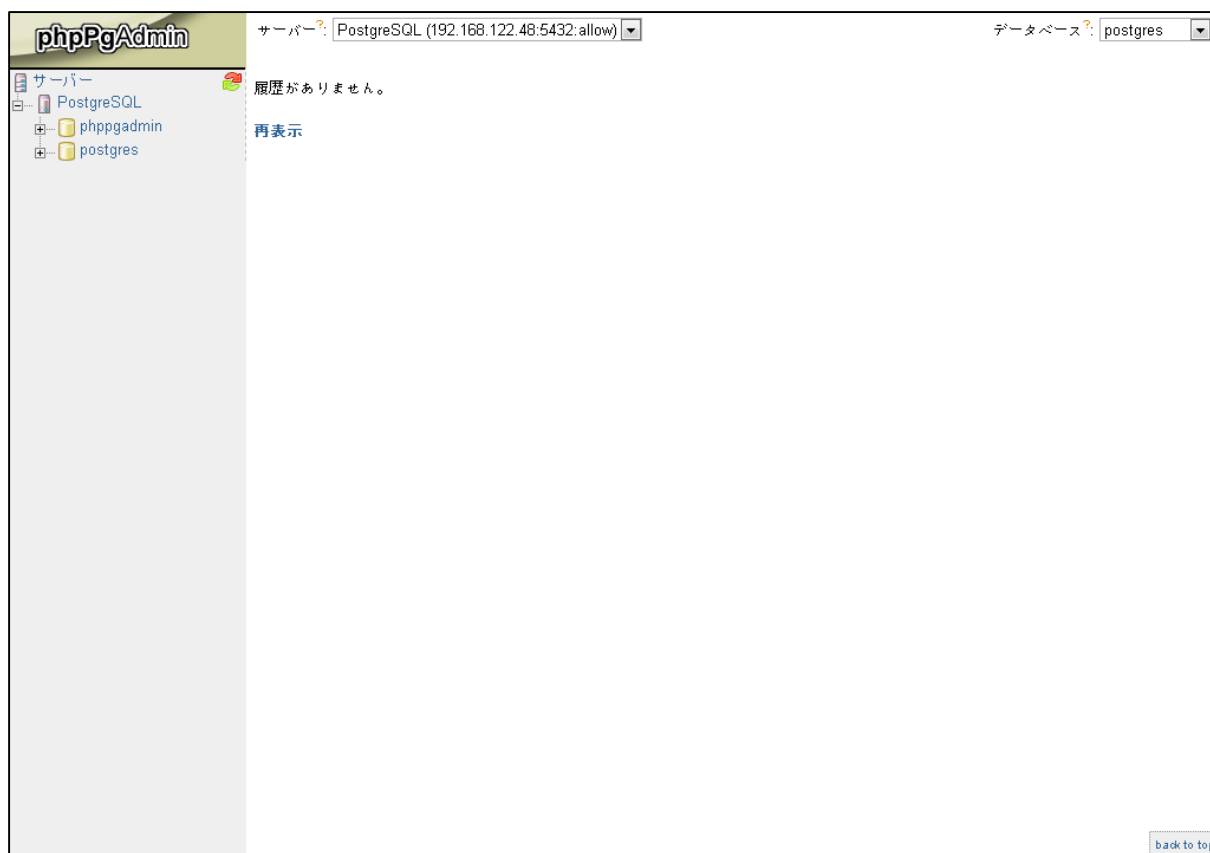


図 2-3-28 「履歴一覧」

2-3-4 常時操作可能メニューの検索の実行

★ 入力された文字列に合致するオブジェクトを検索します。

① 「常時操作可能メニュー」で[検索]をクリックします。



図 2-3-29 「常時操作可能メニュー」

② 「常時操作可能メニューの検索の実行」の表示を確認します。

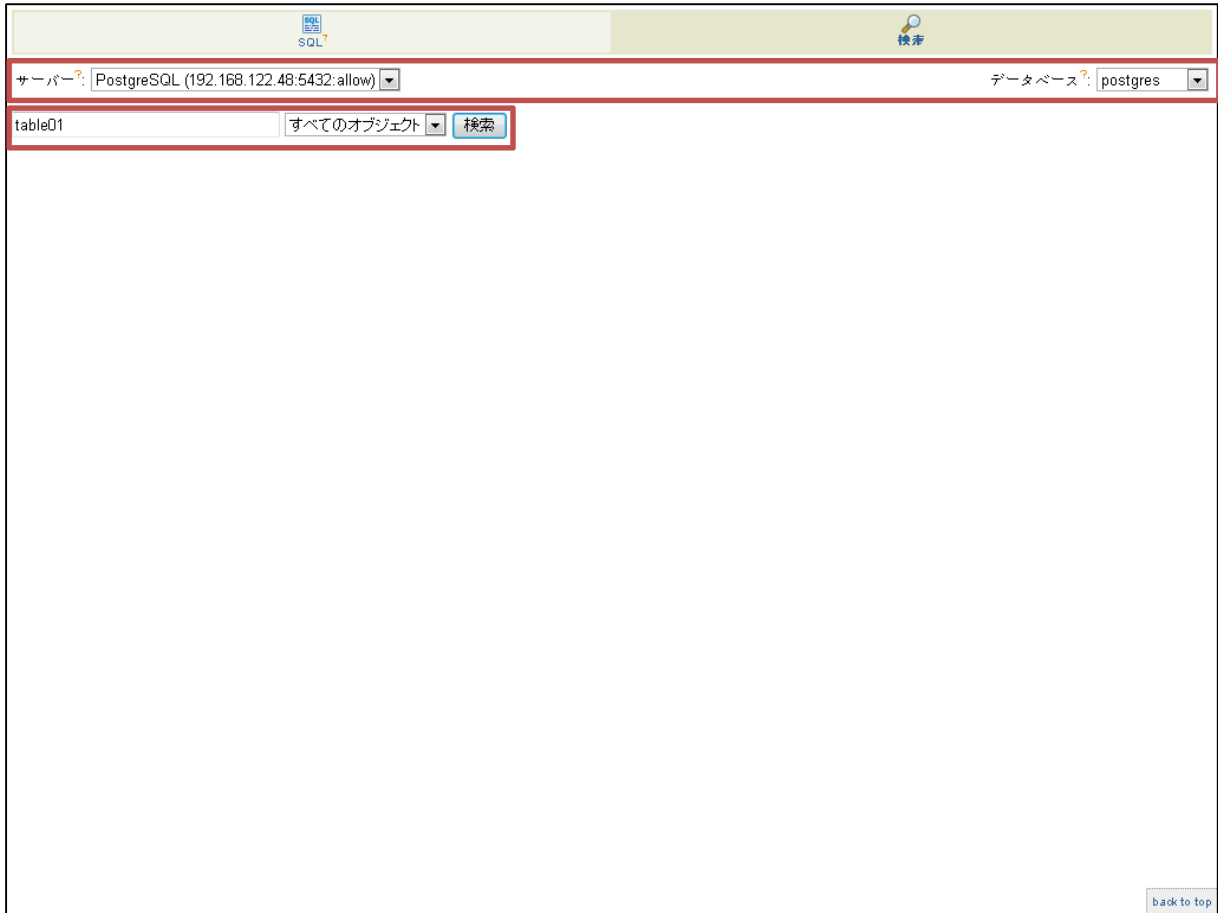


図 2-3-30 「常時操作可能メニューの検索の実行」

表 2-3-31 常時操作可能メニューの検索の実行画面項目

NO	項目名	説明
1	[サーバ]	対象サーバを指定します。
2	[データベース]	対象データベースを指定します。
3	検索文字列	検索する文字列を指定します。
4	検索対象	検索対象とするオブジェクトを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● すべてのオブジェクト ● スキーマ

		<ul style="list-style-type: none"> ● テーブル ● ビュー ● シーケンス ● カラム ● ルール ● インデックス ● トリガー ● 検査制約 ● 関数 ● ドメイン
5	[検索]ボタン	検索を実行します。

②常時操作可能メニューの検索の実行結果を確認します。

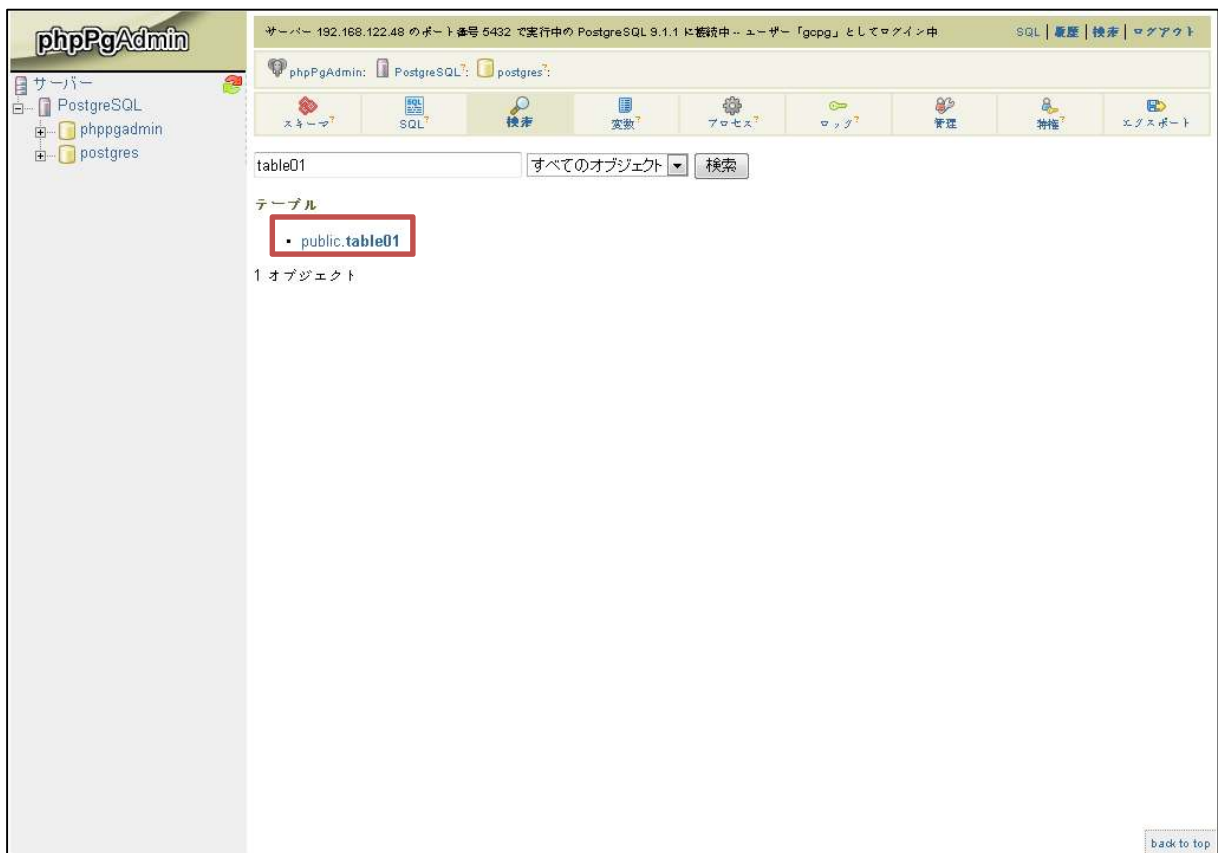


図 2-3-32 「常時操作可能メニューの検索の実行結果」

表 2-3-33 常時操作可能メニューの検索の実行結果画面項目

NO	項目名	説明
1	検索結果	対象オブジェクトの個別操作画面を表示します。

2-3-5 ログアウト

★ DB からログアウトします。

① 「常時操作可能メニュー」で[ログアウト]をクリックします。

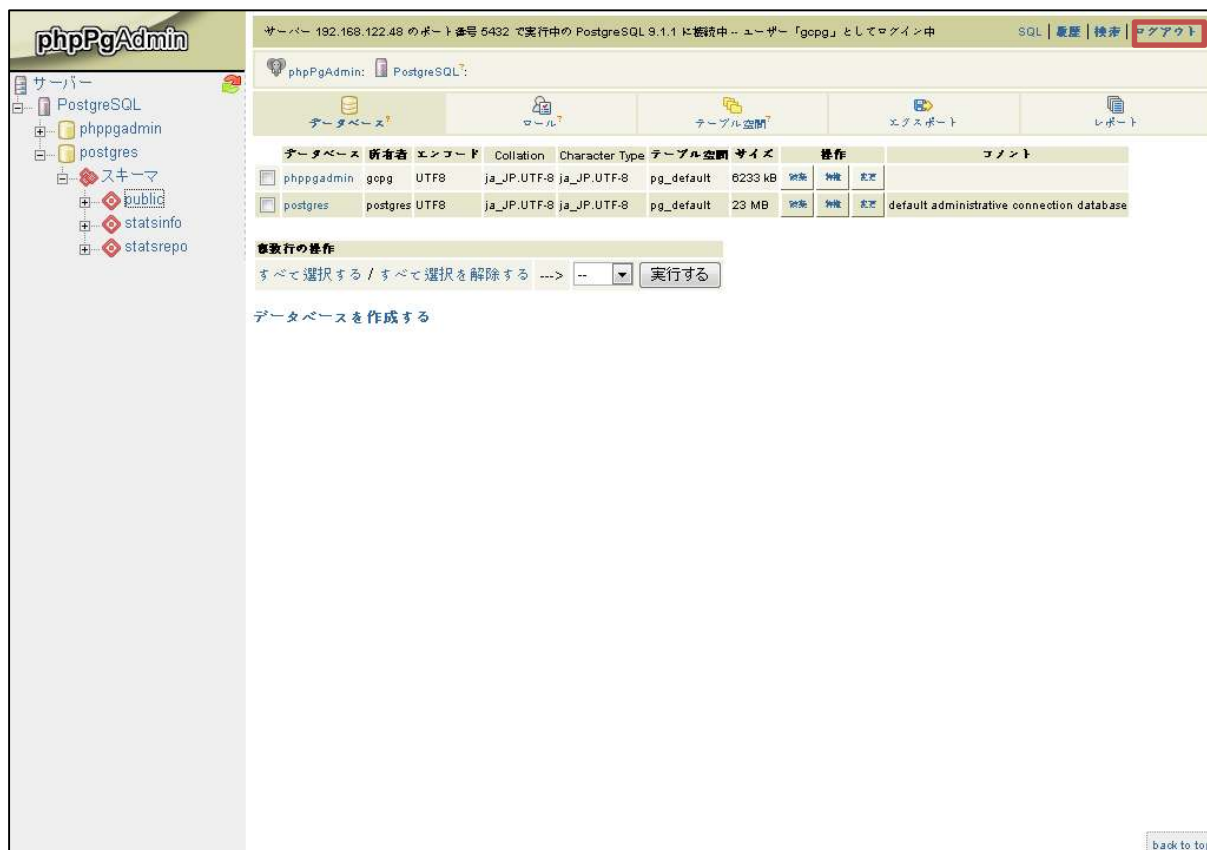


図 2-3-34 「常時操作可能メニュー」

②ログアウトしたことを確認します。

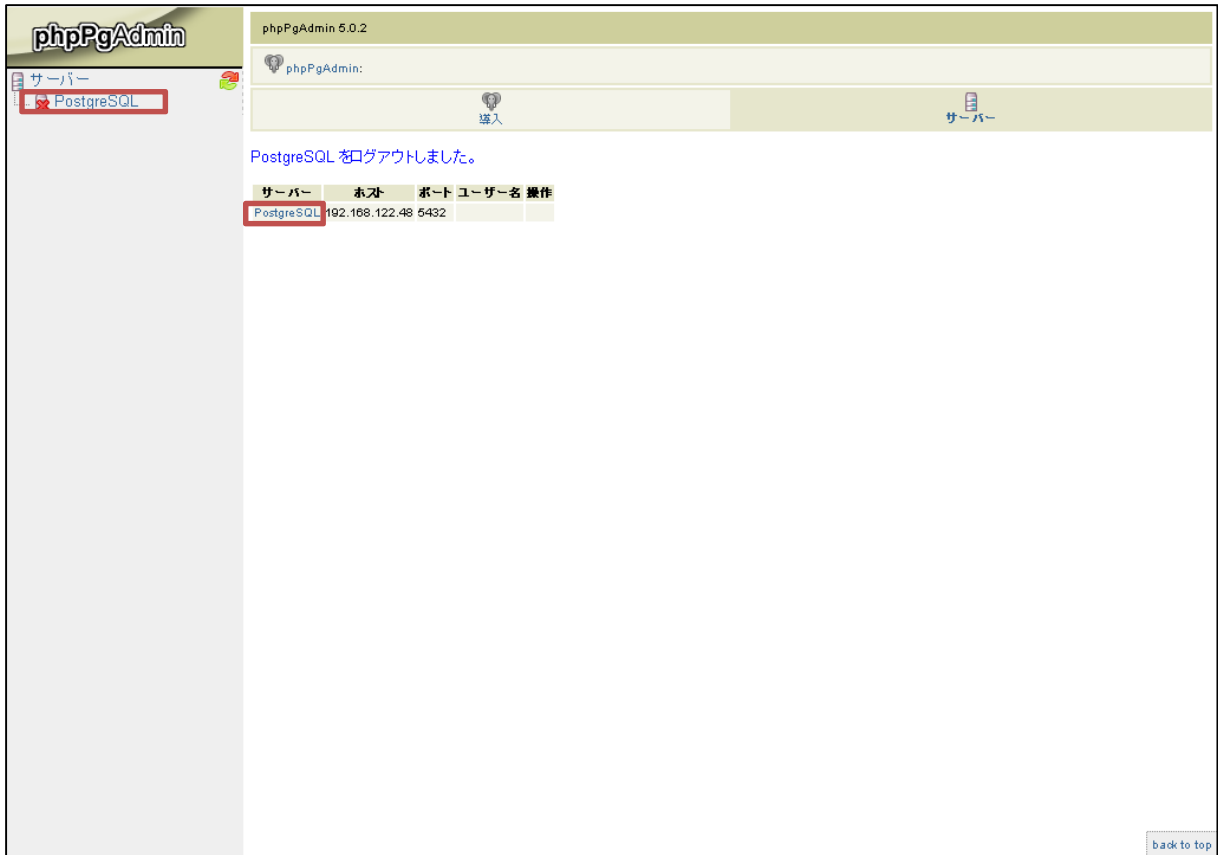


図 2-3-35 「ログアウト画面」

表 2-3-36 常時操作可能メニューの検索の実行結果画面項目

NO	項目名	説明
1	「ツリー」個別サーバ名	ログイン画面を表示します。ログイン後は、「サーバ個別操作メニュー」を表示します。 詳細は、2-4「サーバ個別操作メニュー」を参照してください。
2	「メイン表示部」個別サーバ名	ログイン画面を表示します。ログイン後は、「サーバ個別操作メニュー」を表示します。 詳細は、2-4「サーバ個別操作メニュー」を参照してください。

2-4 サーバ個別操作メニュー

★ 「サーバ個別操作メニュー」を表示します。

① ログインします。ログイン方法の詳細は 2-3 「常時操作可能メニュー」を参照してください。

② 「サーバ個別操作メニュー」の表示を確認します。



図 2-4-1 「サーバ個別操作メニュー」

表 2-4-2 サーバ個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[データベース]	データベースの一覧を表示します。データベースについての操作を行うことができます。

2	[ロール]	ロールの一覧を表示します。ロールについての操作を行うことができます。
3	[テーブル空間]	テーブル空間の一覧を表示します。テーブル空間についての操作を行うことができます。
4	[エクスポート]	サーバの情報をエクスポートすることができます。
5	[レポート]	レポートの一覧を表示します。レポートについての操作を行うことができます。レポートとは予め登録した SQL を実行できる機能です。

2-4-1 データベース一覧操作

★ 「データベース一覧操作」を表示します。データベースの作成、破棄、変更などができます。

① 「サーバ個別操作メニュー」から[データベース]をクリックします。

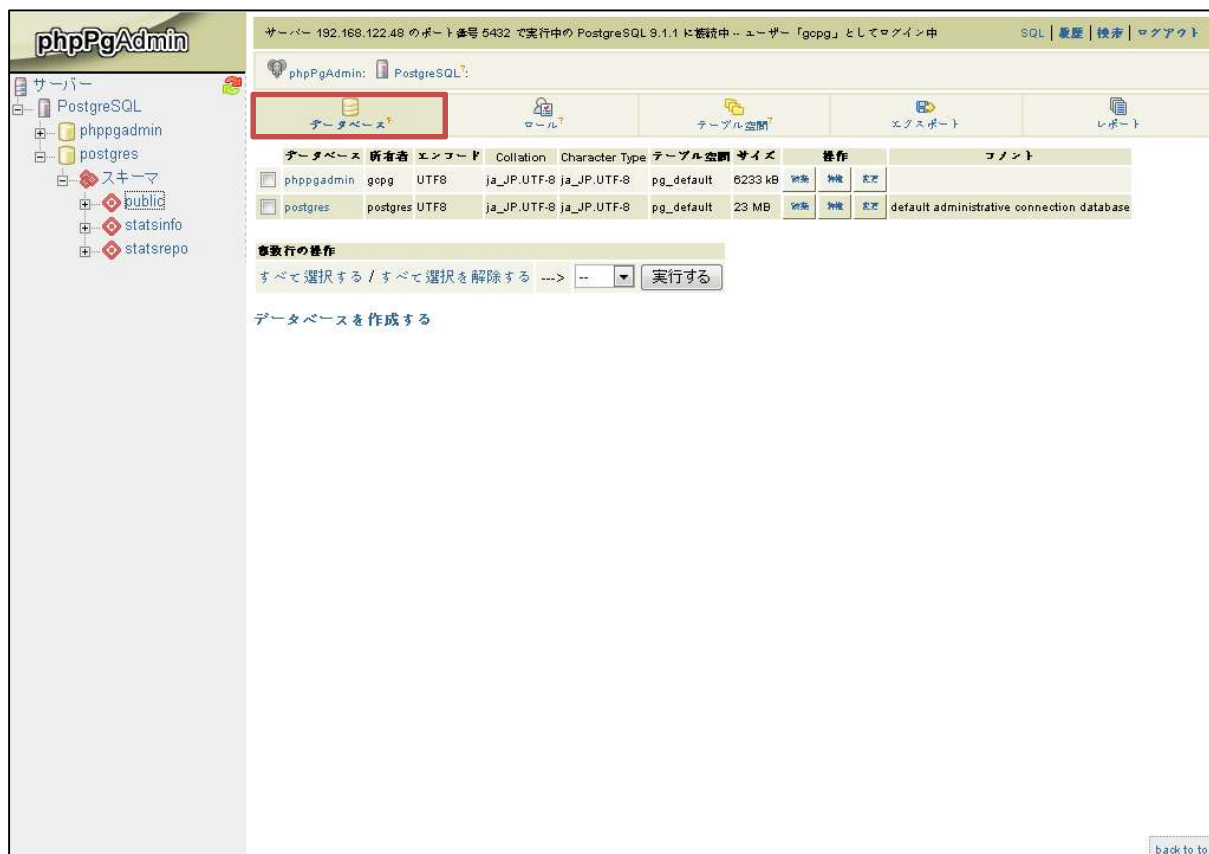


図 2-4-3 「サーバ個別操作メニュー」

② 「データベース一覧操作」の表示を確認します。

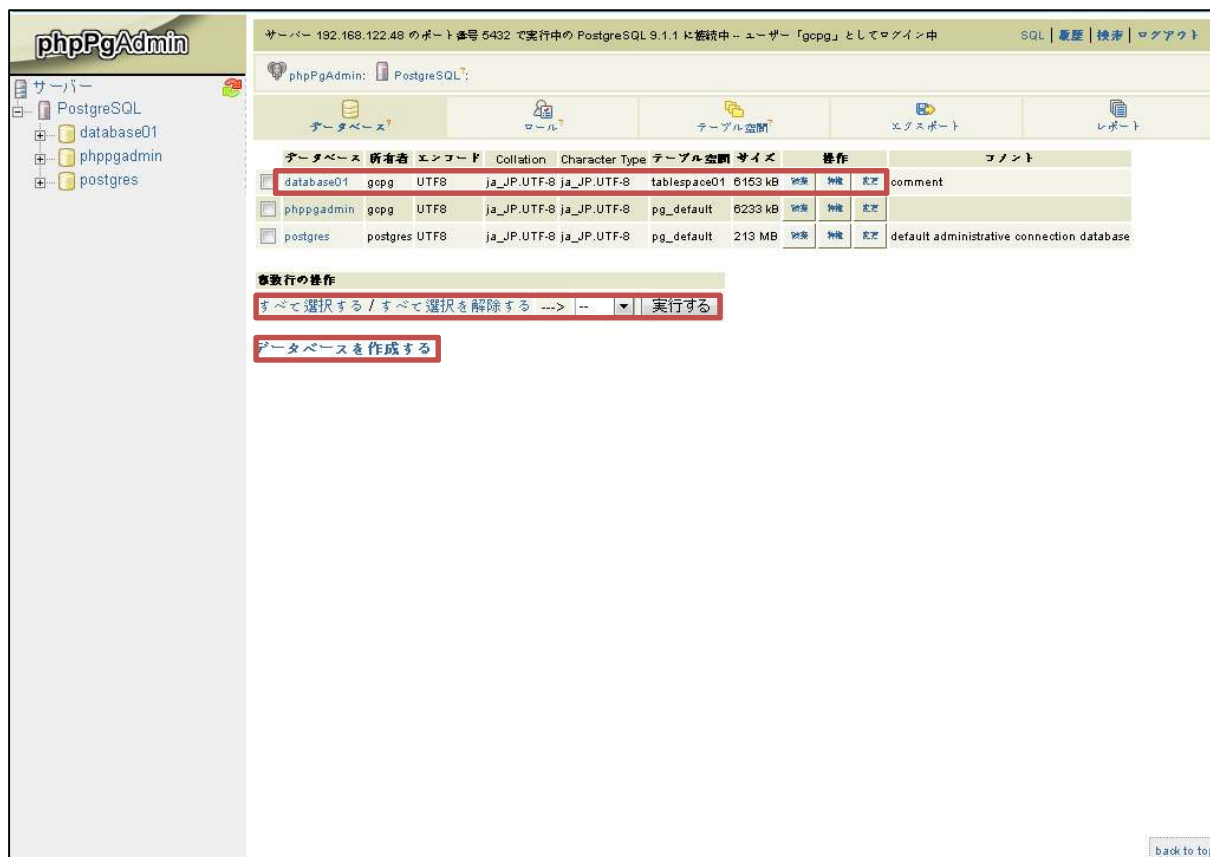


図 2-4-4 「データベース一覧操作」

表 2-4-5 データベース一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別データベース名”	「データベース個別操作メニュー」を表示します。 詳細は 2-5「データベース個別操作メニュー」を参照してください。
2	[破棄]ボタン	データベースを削除することができます。(DROP DATABASE に相当) 詳細は 2-4-1-I-i「データベースの破棄」を参照してください。
3	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当)

		詳細は 2-5-8「データベースの特権操作」を参照してください。
4	[変更]ボタン	データベース定義を変更することができます。(ALTER DATABASE に相当) 詳細は 2-4-1-I-ii「データベースの変更」を参照してください。
5	[複数行の操作]	選択されているデータベースに対して以下の操作を一括で行います。 ● 破棄 対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。
6	[データベースを作成する]	新しいデータベースを定義することができます。(CREATE DATABASE に相当) 詳細は 2-4-1-I-iii「データベースの作成」を参照してください。

2-4-1-I-i. データベースの破棄

★ データベースを破棄します。

① 「データベース一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-4-6 「データベース一覧操作」

② 「データベースの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

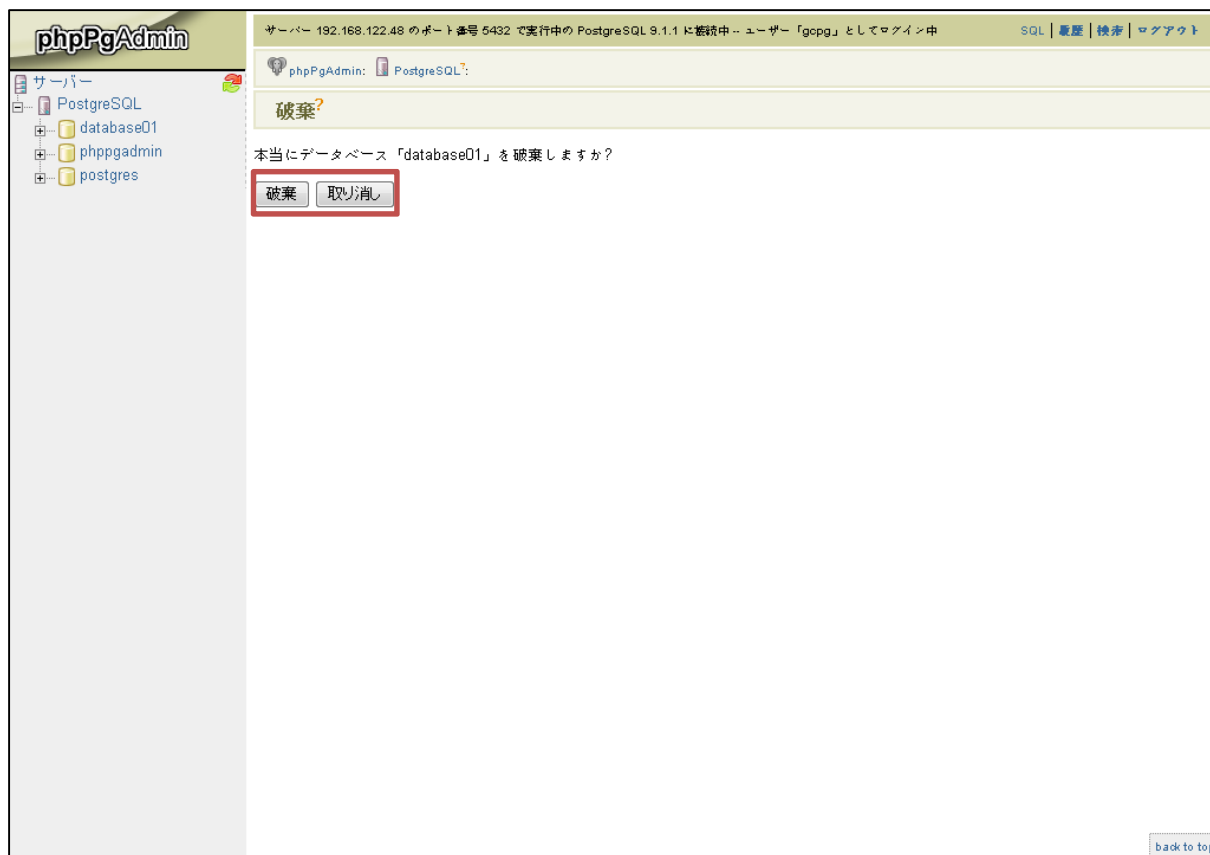


図 2-4-7 「データベースの破棄」

表 2-4-8 データベースの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベース一覧操作」でデータベースが破棄されたことを確認します。



図 2-4-9 「データベース一覧操作」

2-4-1-I-ii. データベースの変更

★ データベースの定義を変更します。

① 「データベース一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。



図 2-4-10 「データベース一覧操作」

② 「データベースの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

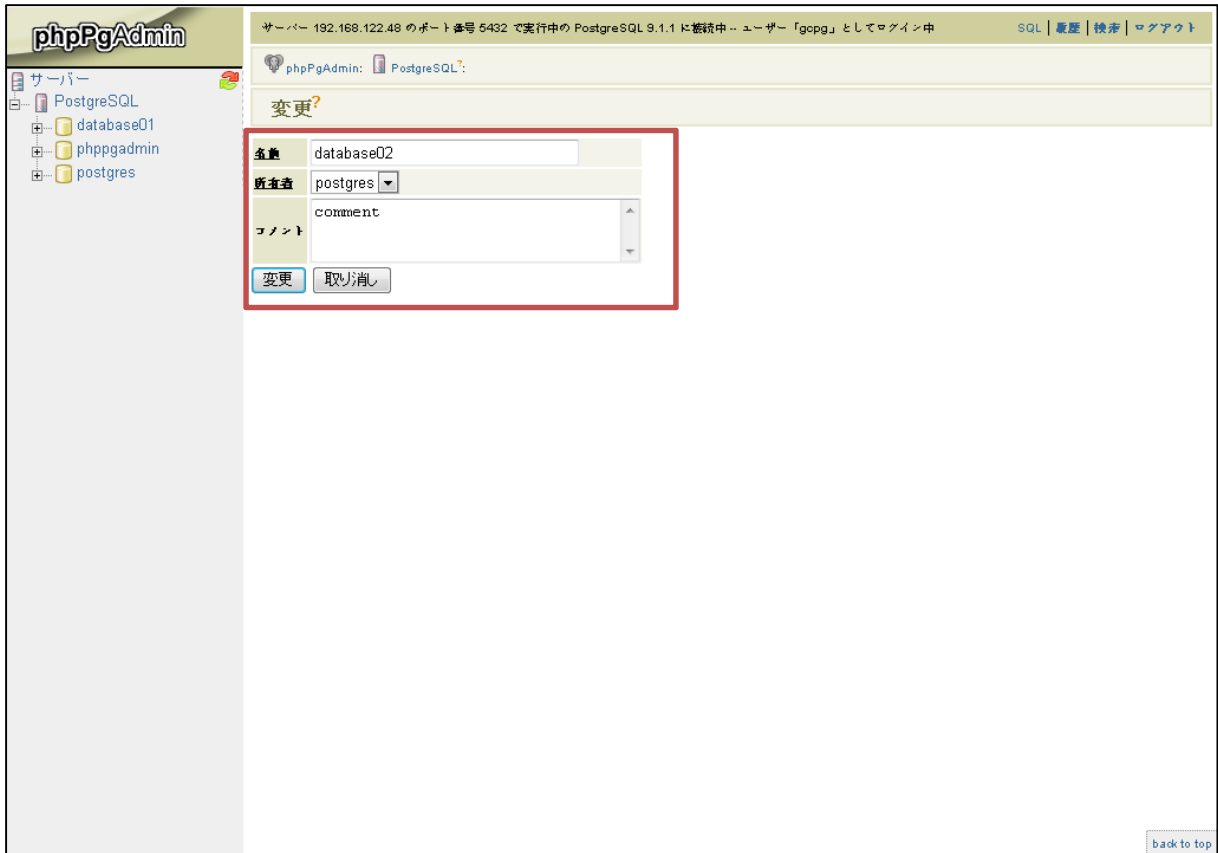


図 2-4-11 「データベースの変更」

表 2-4-12 データベースの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	データベースの名称を指定します。
2	[所有者]	データベースの所有者を指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベース一覧操作」でデータベースが変更されたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface. At the top, it displays the server information: "サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中... ユーザー「gopg」としてログイン中". Below this, there are navigation tabs for "データベース", "ロール", "テーブル空間", "エクスポート", and "レポート". A message states "データベースを変更しました。". Below the message is a table listing databases:

データベース	所有者	エンコード	Collation	Character Type	テーブル空間	サイズ	操作	コメント
database02	postgres	UTF8	ja_JP.UTF-8	ja_JP.UTF-8	tablespace01	8153 kB	削除 複製 更新	comment
phppgadmin	gopg	UTF8	ja_JP.UTF-8	ja_JP.UTF-8	pg_default	8233 kB	削除 複製 更新	
postgres	postgres	UTF8	ja_JP.UTF-8	ja_JP.UTF-8	pg_default	213 MB	削除 複製 更新	default administrative connection database

Below the table, there is a section for "複数行の操作" with a dropdown menu and an "実行する" button. At the bottom right, there is a "back to top" link.

図 2-4-13 「データベース一覧操作」

2-4-1-I-iii. データベースの作成

★ データベースを作成します。

① 「データベース一覧操作」で[データベースを作成する]をクリックします。

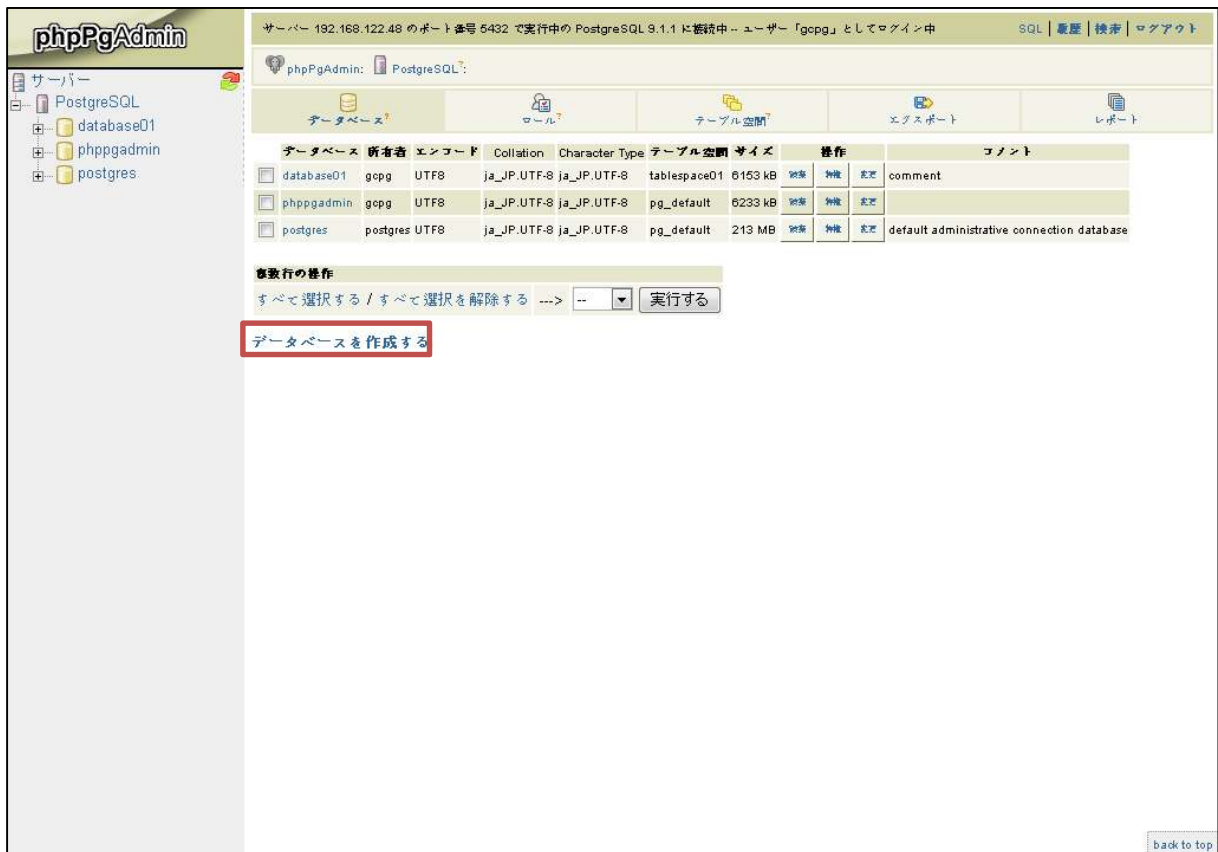


図 2-4-14 「データベース一覧操作」

② 「データベースの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

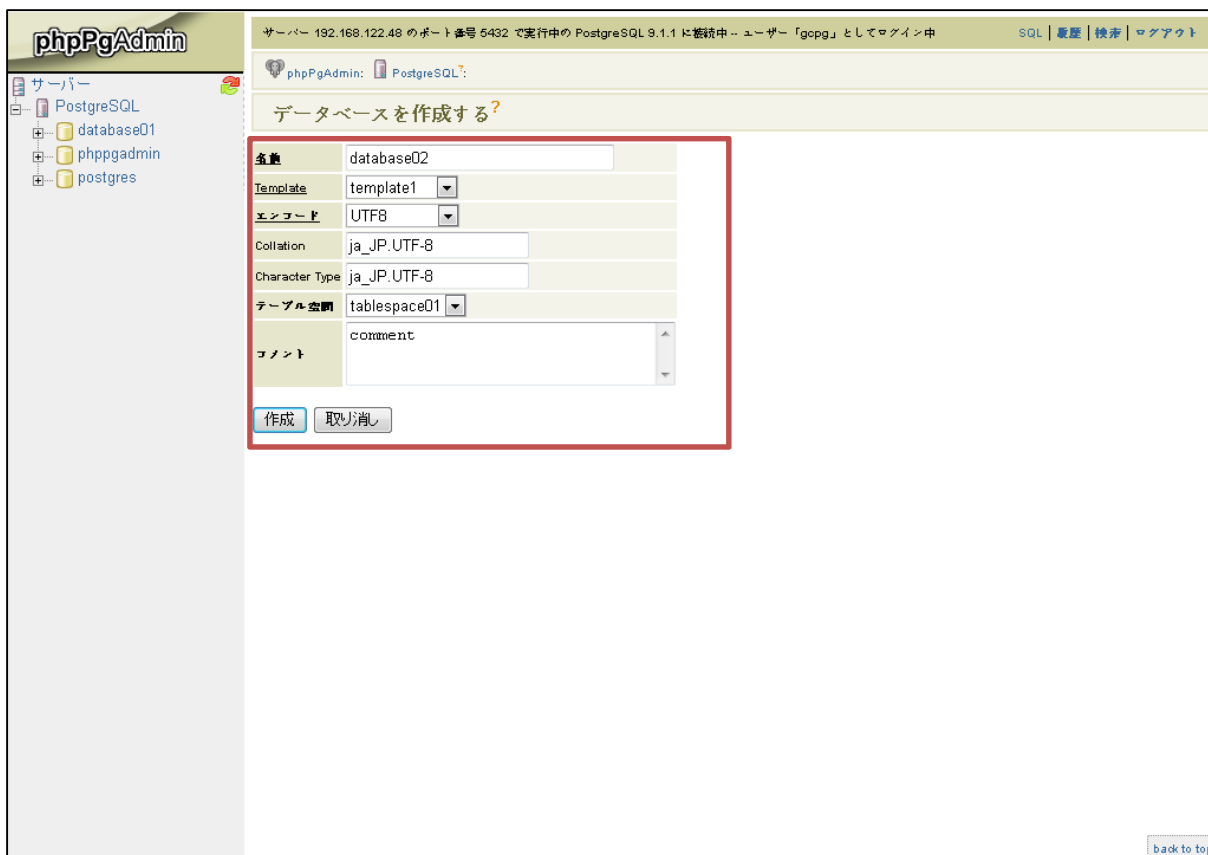


図 2-4-15 「データベースの作成」

表 2-4-16 データベースの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	データベースの名称を指定します。
2	[Template]	データベースの元となるテンプレートを指定します。 指定できるテンプレートは、デフォルトテンプレートである template1 および、「データベースの作成」で作成したデータベースです。
3	[エンコード]	文字セット符号化方式を下記から選択します。 ● BIG5

- EUC_CN
- EUC_JP
- EUC_KR
- EUC_TW
- GB18030
- GBK
- ISO_8859_5
- ISO_8859_6
- ISO_8859_7
- ISO_8859_8
- JOHAB
- KOI8
- LATIN1
- LATIN2
- LATIN3
- LATIN4
- LATIN5
- LATIN6
- LATIN7
- LATIN8
- LATIN9
- LATIN10
- SJIS
- SQL_ASCII
- UHC
- UTF8
- WIN866
- WIN874
- WIN1250
- WIN1251
- WIN1252
- WIN1256
- WIN1258

4	[Collation]	文字並び替え順序を指定します。
5	[Character Type]	文字分類を指定します。
6	[テーブル空間]	データベースが作成されるテーブル空間を指定します。 指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
7	[コメント]	コメントを指定します。
8	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

「データベース一覧操作」でデータベースが作成されたことを確認します。



図 2-4-17 「データベース一覧操作」

2-4-2 ロール一覧操作

★ 「ロール一覧操作」を表示します。ロールの作成、破棄、変更ができます。

① 「サーバ個別操作メニュー」から[ロール]をクリックします。

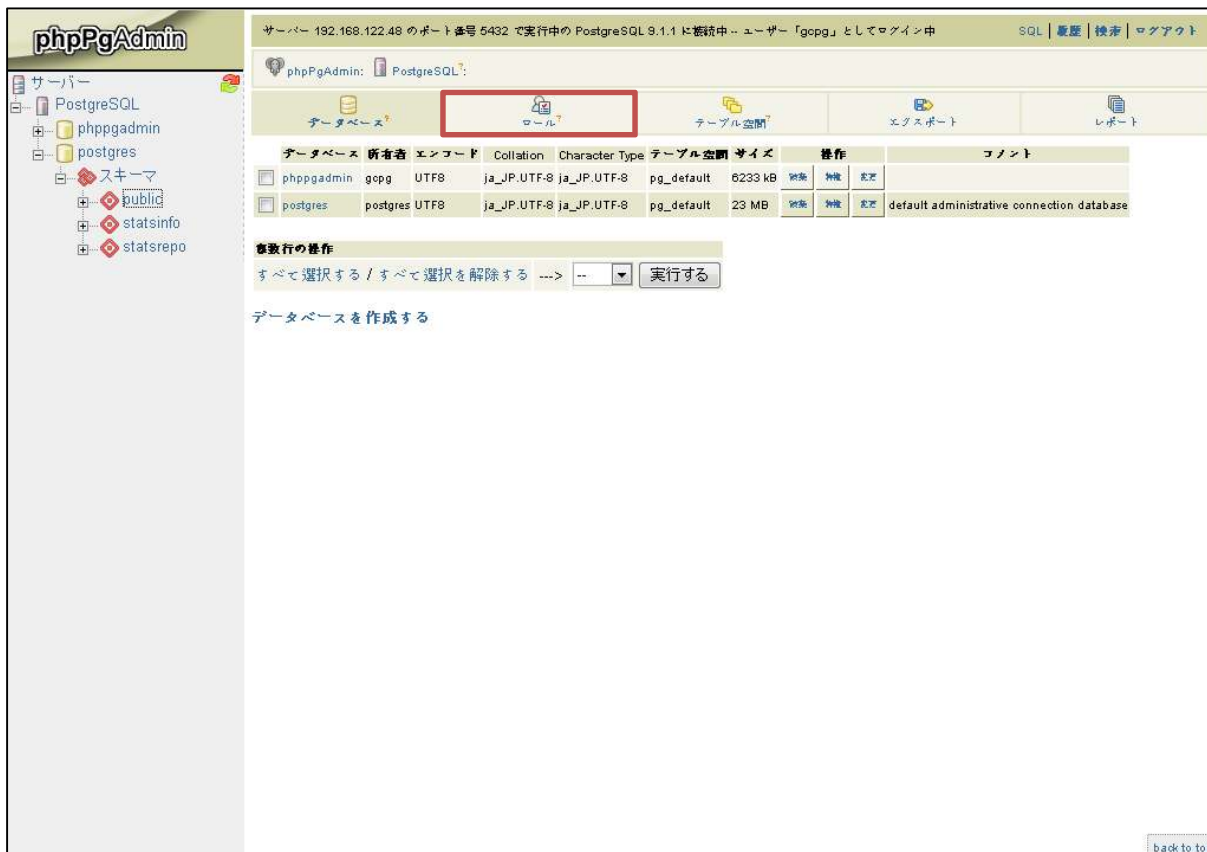


図 2-4-18 「サーバ個別操作メニュー」

② 「ロール一覧操作」 の表示を確認します。

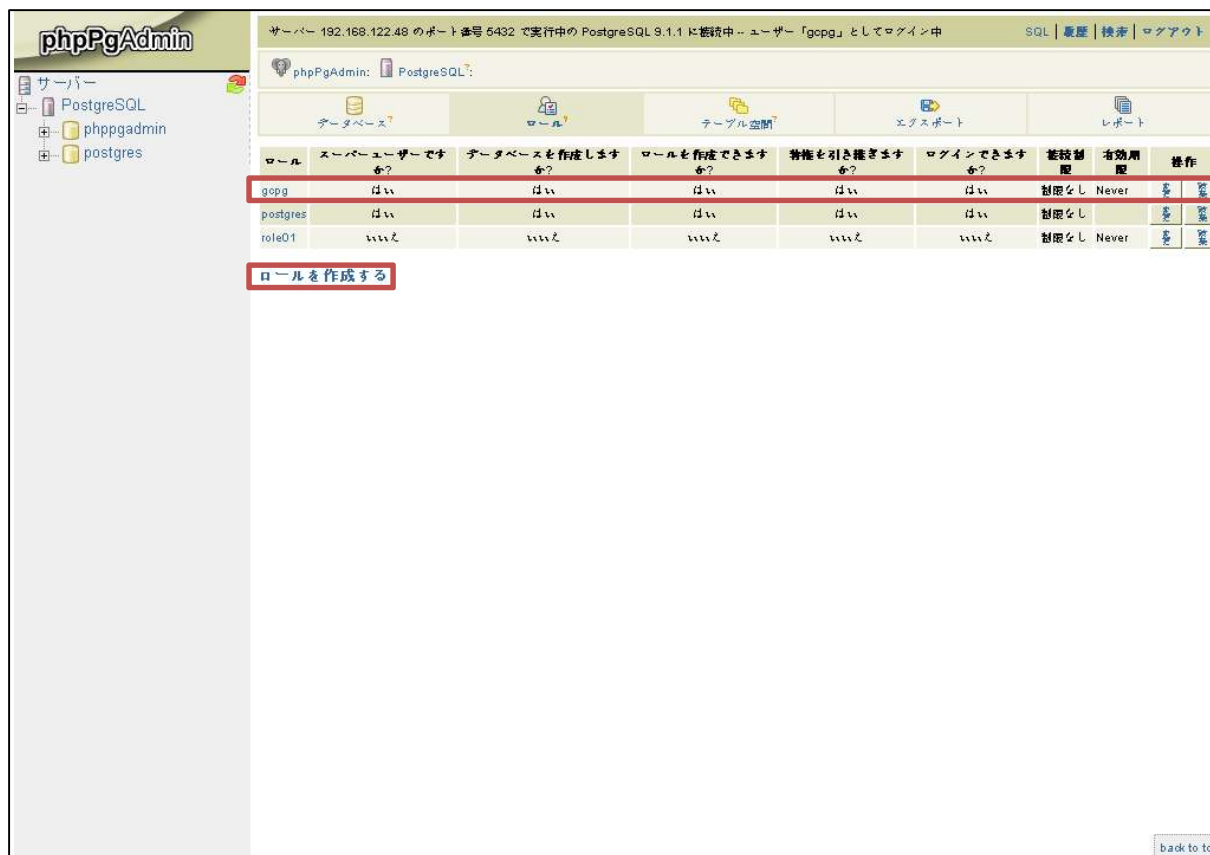


図 2-4-19 「ロール一覧操作」

表 2-4-20 ロール一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別ロール名”	「ロール個別操作」を表示します。 詳細は 2-6 「ロール個別操作」を参照してください。
2	[変更]ボタン	ロール定義を変更することができます。(ALTER ROLE に相当) 詳細は 2-6-1 「ロールの変更」を参照してください。
3	[破棄]ボタン	ロールを削除することができます。(DROP ROLE に相当) 詳細は 2-6-2 「ロールの破棄」を参照してください。
4	[ロールを作成する]	新しいロールを定義することができます。(CREATE ROLE に相当) 詳細は 2-4-2-I 「ロールの作成」を参照してください。

2-4-2-I. ロールの作成

★ ロールを作成します。

① 「ロール一覧操作」で[ロールを作成する]をクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. At the top, it displays the server information: "サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中 - ユーザー「gpg」としてログイン中". Below this, there are navigation tabs for "データベース", "ロール", "テーブル空間", "エクスポート", and "レポート". The main content area contains a table of roles with the following data:

ロール	スーパーユーザーですか?	データベースを作成しますか?	ロールを作成できますか?	特権を引き継ぎますか?	ログインできますか?	接続制限	有効期限	操作
gpg	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし	Never	見る 編集
postgres	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし	Never	見る 編集
role01	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	制限なし	Never	見る 編集

Below the table, a button labeled "ロールを作成する" is highlighted with a red box. At the bottom right of the interface, there is a "back to top" link.

図 2-4-21 「ロール一覧操作」

② 「ロールの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

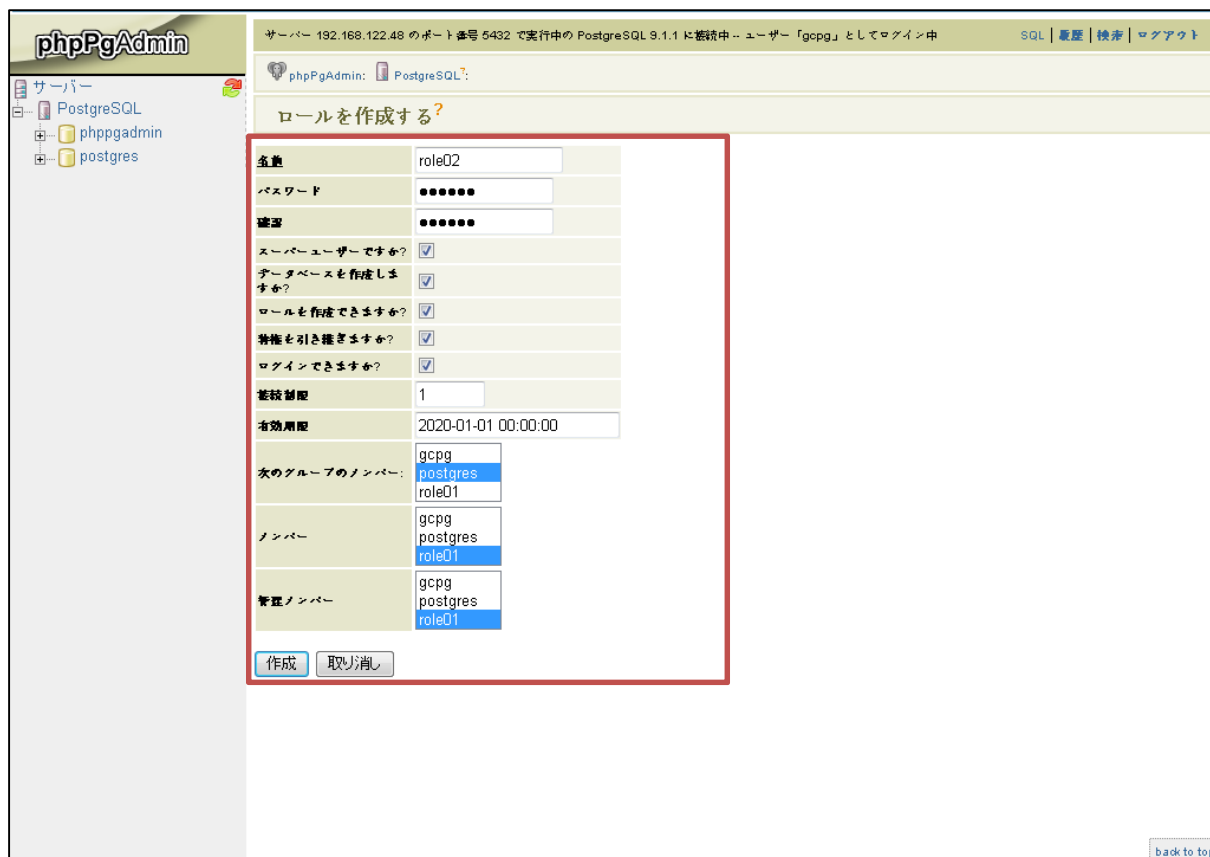


図 2-4-22 「ロールの作成」

表 2-4-23 ロールの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ロールの名称を指定します。
2	[パスワード]	パスワードを指定します。
3	[確認]	[パスワード]と同一の文字列を指定します。
4	[スーパーユーザーですか?]	スーパーユーザーか否か指定します。
5	[データベースを作成しますか?]	データベースの作成権限の有無を指定します。
6	[ロールを作成できますか?]	ロールの作成権限の有無を指定します。

7	[特権を引き継ぎますか?]	このロールが属するロールから特権を引き継ぐか否か指定します。
8	[ログインできますか?]	ログインできるか否か指定します。
9	[接続制限]	[ログインできますか?]が有効の場合、本項目は、ロールが確立できる最大同時接続数を指定します。デフォルトは-1（無制限）です。
10	[有効期限]	パスワードが無効になる期限を指定します。デフォルトは無期限です。
11	[次のグループのメンバー]	当該ロールが属するロールを指定します。
12	[メンバー]	当該ロールに属するロールを指定します。
13	[管理メンバー]	当該ロールに属する管理ロールを指定します。管理ロールとなると、他ロールへの権限の付与/取り消しができません。
14	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
15	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ロール一覧操作」でロールが作成されたことを確認します。



図 2-4-24 「ロール一覧操作」

2-4-3 テーブル空間一覧操作

★ 「テーブル空間一覧操作」を表示します。テーブル空間の作成、破棄、変更などができます。

① 「サーバ個別操作メニュー」から[テーブル空間]をクリックします。

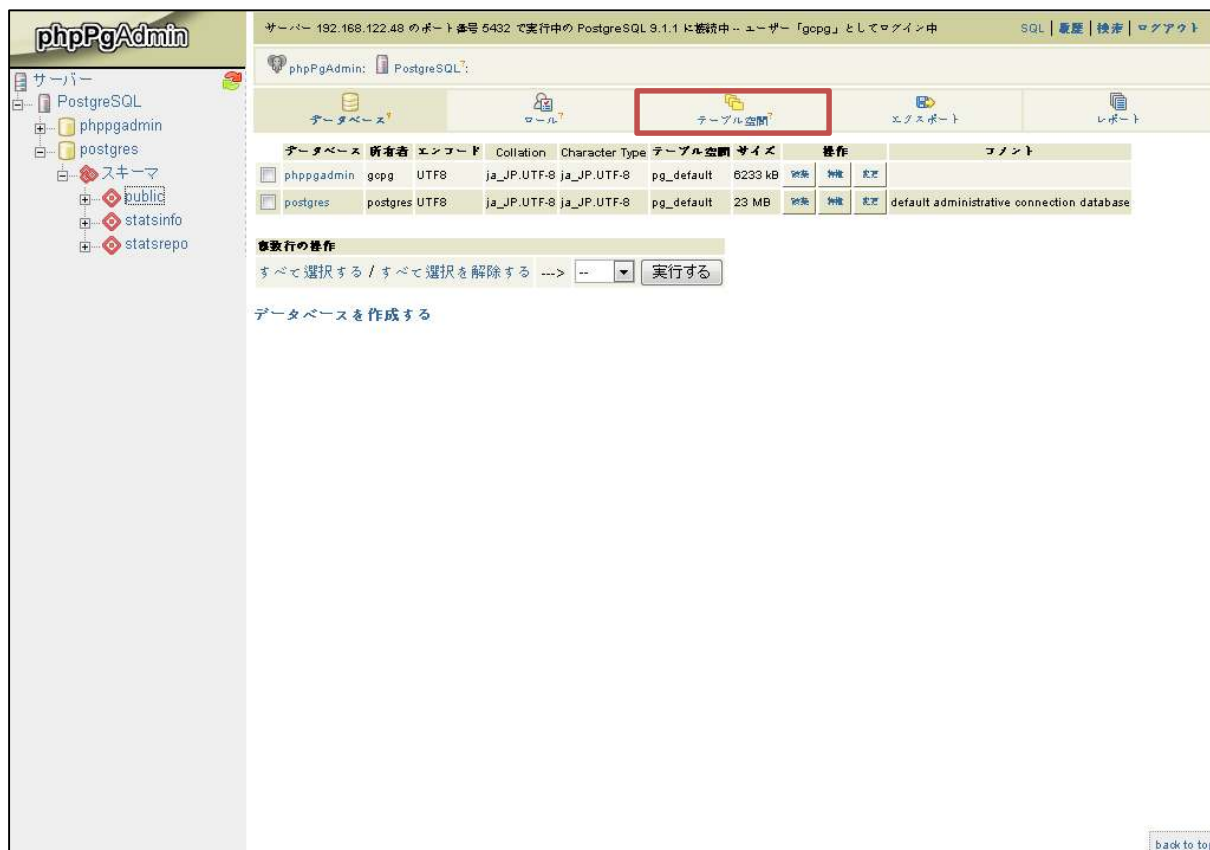


図 2-4-25 「サーバ個別操作メニュー」

② 「テーブル空間一覧操作」 の表示を確認します。

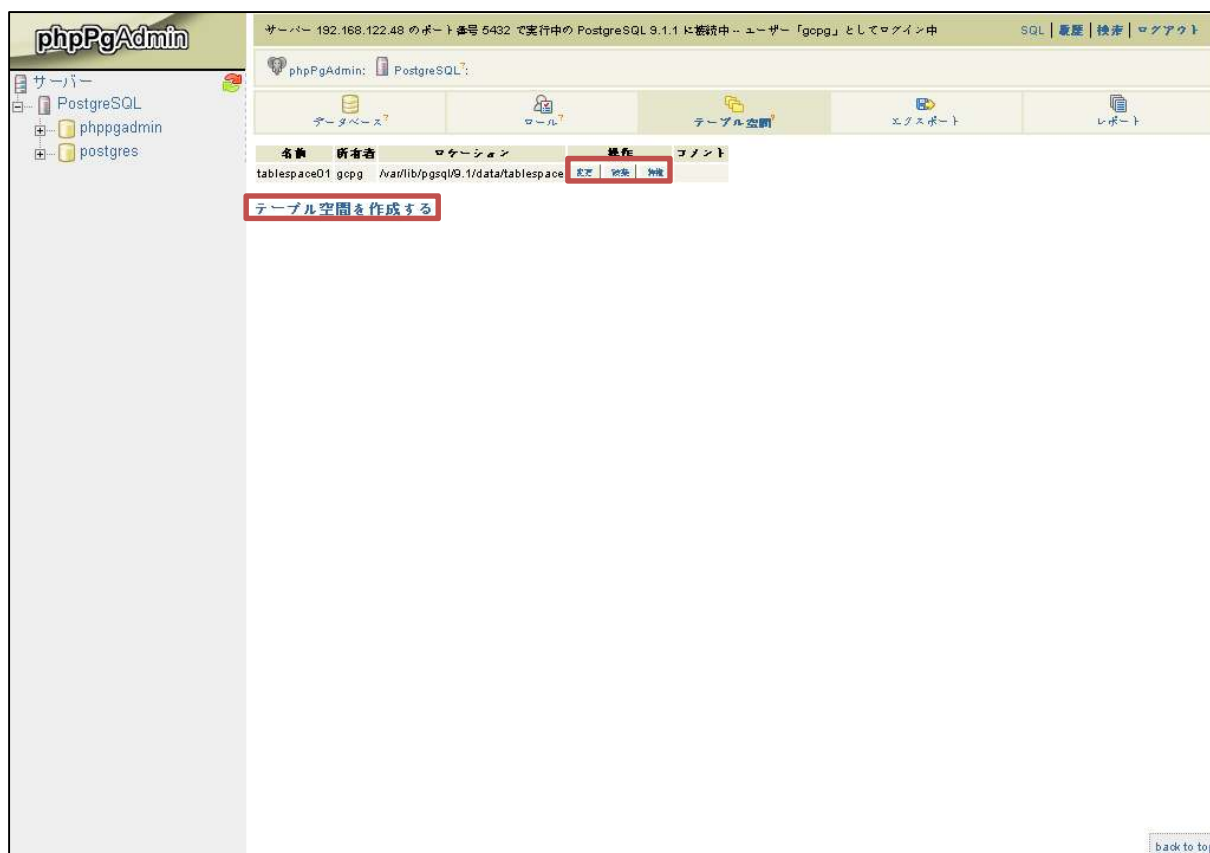


図 2-4-26 「テーブル空間一覧操作」

表 2-4-27 テーブル空間一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[変更]ボタン	テーブル空間を変更することができます。(ALTER TABLESPACE に相当) 詳細は 2-4-3-I「テーブル空間の変更」を参照してください。
2	[破棄]ボタン	テーブル空間を削除することができます。(DROP TABLESPACE に相当) 詳細は 2-4-3-II「テーブル空間の破棄」を参照してください。
3	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当)

		詳細は 2-4-4「テーブル空間の特権操作」を参照してください。
4	[テーブル空間を作成する]	新しいテーブル空間を定義することができます。 (CREATE TABLESPACE に相当) 詳細は 2-4-5「テーブル空間の作成」を参照してください。

2-4-3-I. テーブル空間の変更

★ テーブル空間の定義を変更します。

① 「テーブル空間一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。

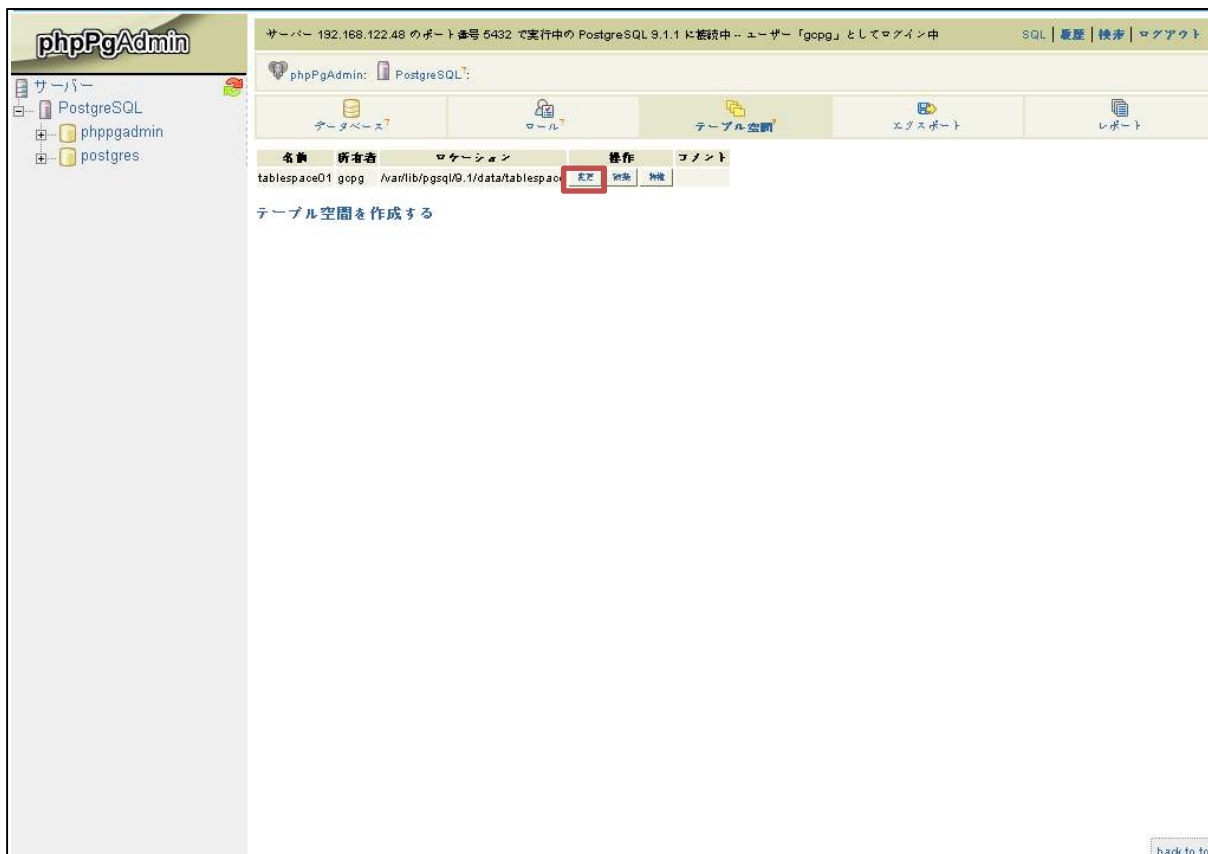


図 2-4-28 「テーブル空間一覧操作」

② 「テーブル空間の変更」で[変更]ボタンをクリックします。

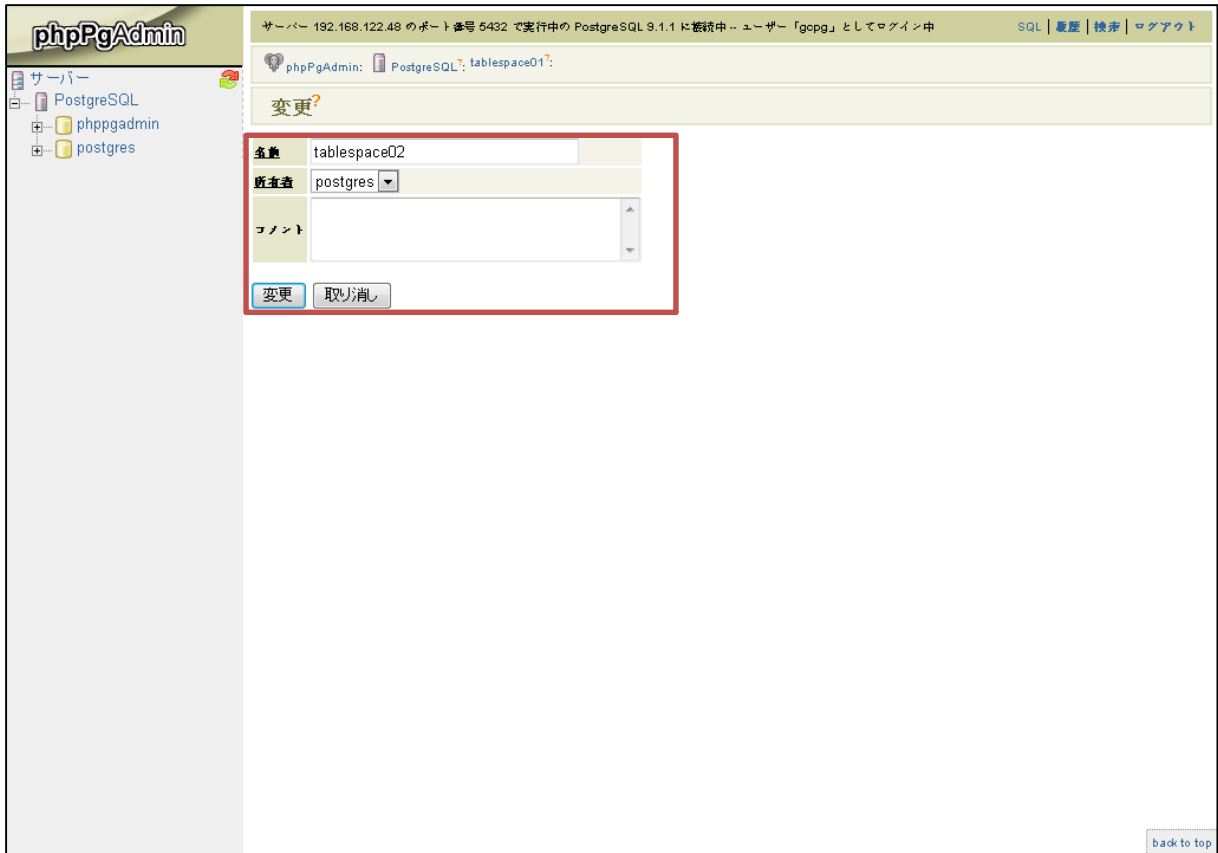


図 2-4-29 「テーブル空間の変更」

表 2-4-30 テーブル空間の変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	テーブル空間の名称を指定します。
2	[所有者]	テーブル空間の所有者を指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル空間一覧操作」でテーブル空間が変更されたことを確認します。

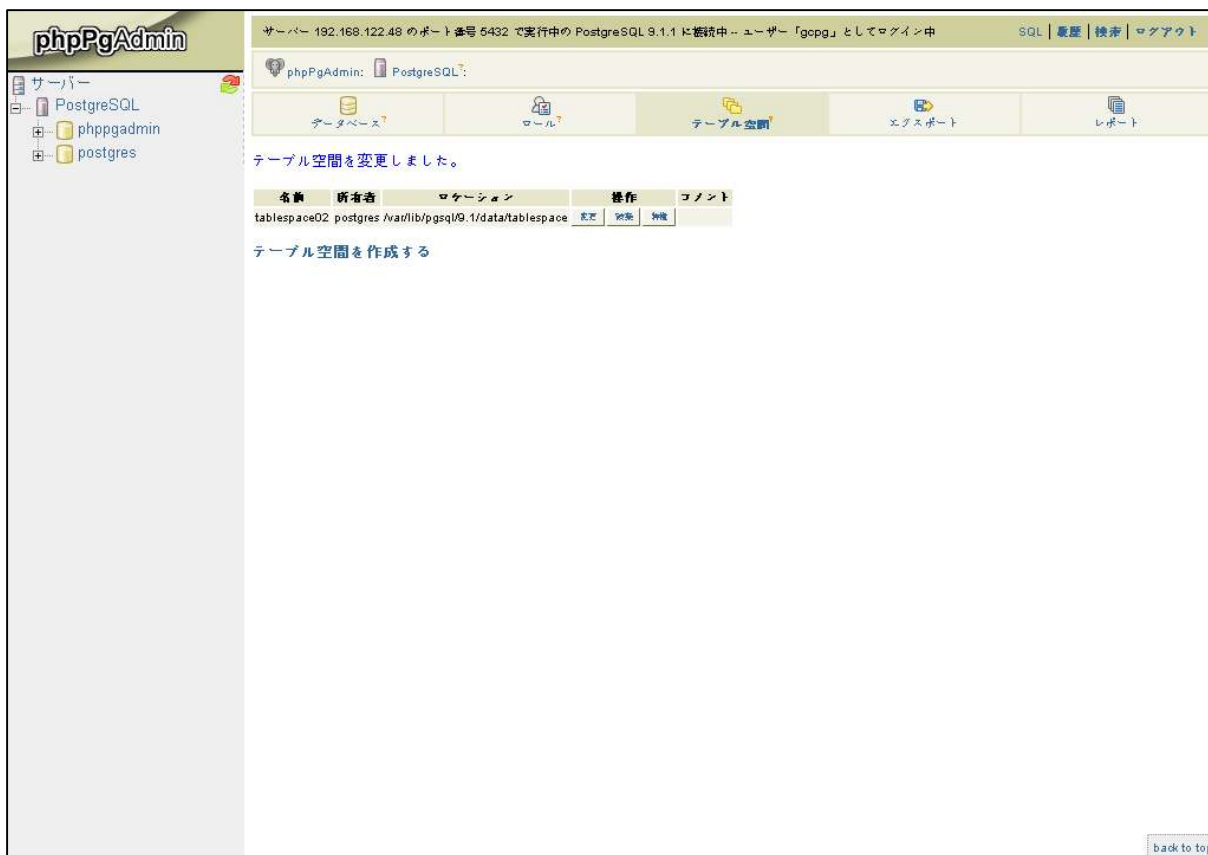


図 2-4-31 「テーブル空間一覧操作」

2-4-3-II. テーブル空間の破棄

★ テーブル空間を破棄します。

① 「テーブル空間一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

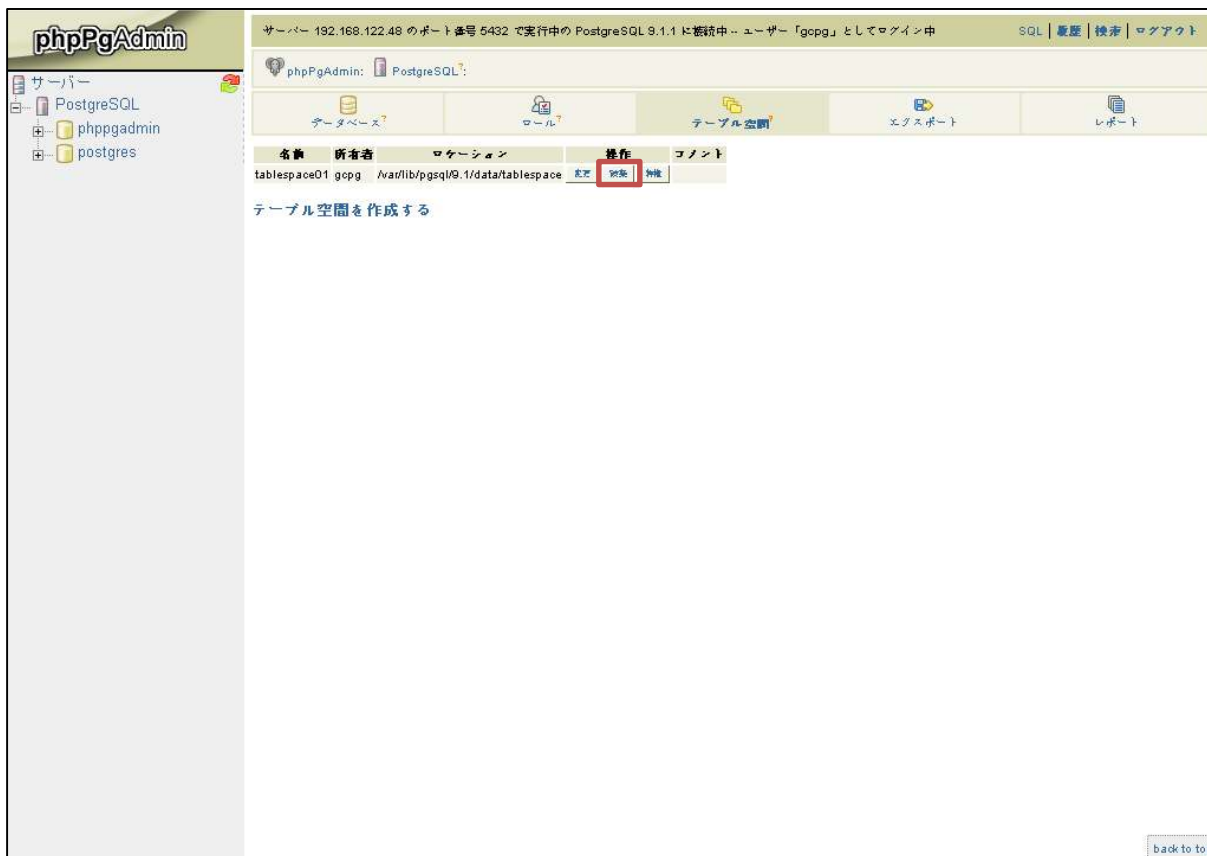


図 2-4-32 「テーブル空間一覧操作」

② 「テーブル空間の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

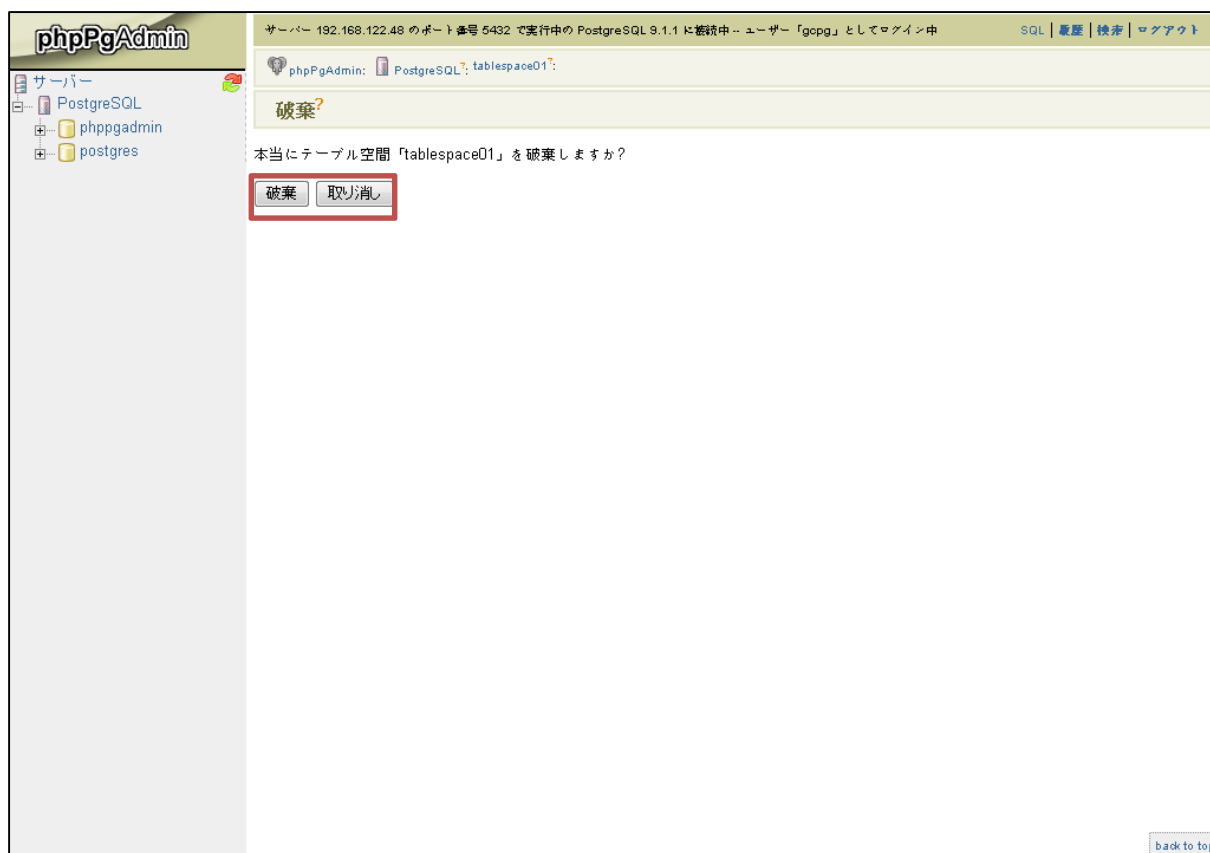


図 2-4-33 「テーブル空間の破棄」

表 2-4-34 テーブル空間の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル空間一覧操作」でテーブル空間が破棄されたことを確認します。

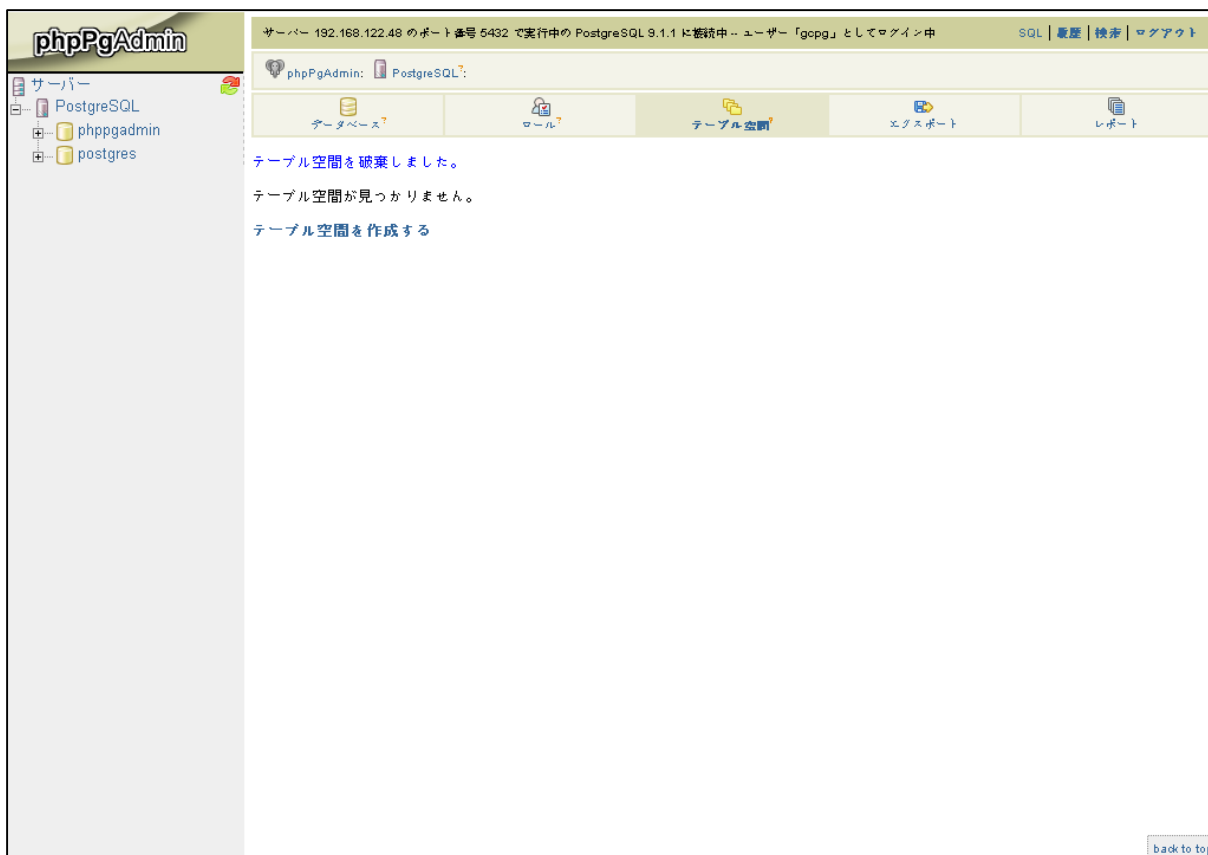


図 2-4-35 「テーブル空間一覧操作」

2-4-4 テーブル空間の特権操作

★ 「テーブル空間の特権操作」を表示します。

① 「テーブル空間一覧操作」で [特権]をクリックします。

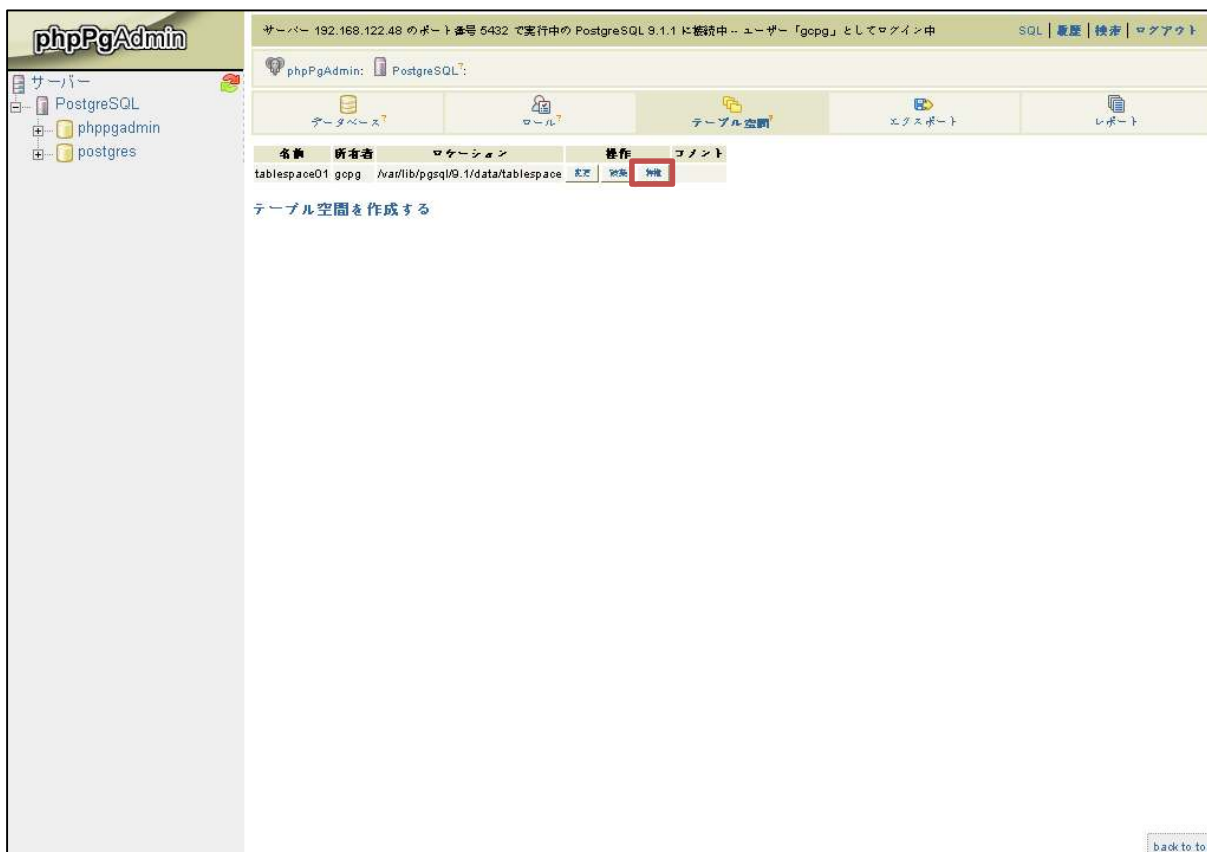


図 2-4-36 「テーブル空間一覧操作」

② 「テーブル空間の特権操作」の表示を確認します。

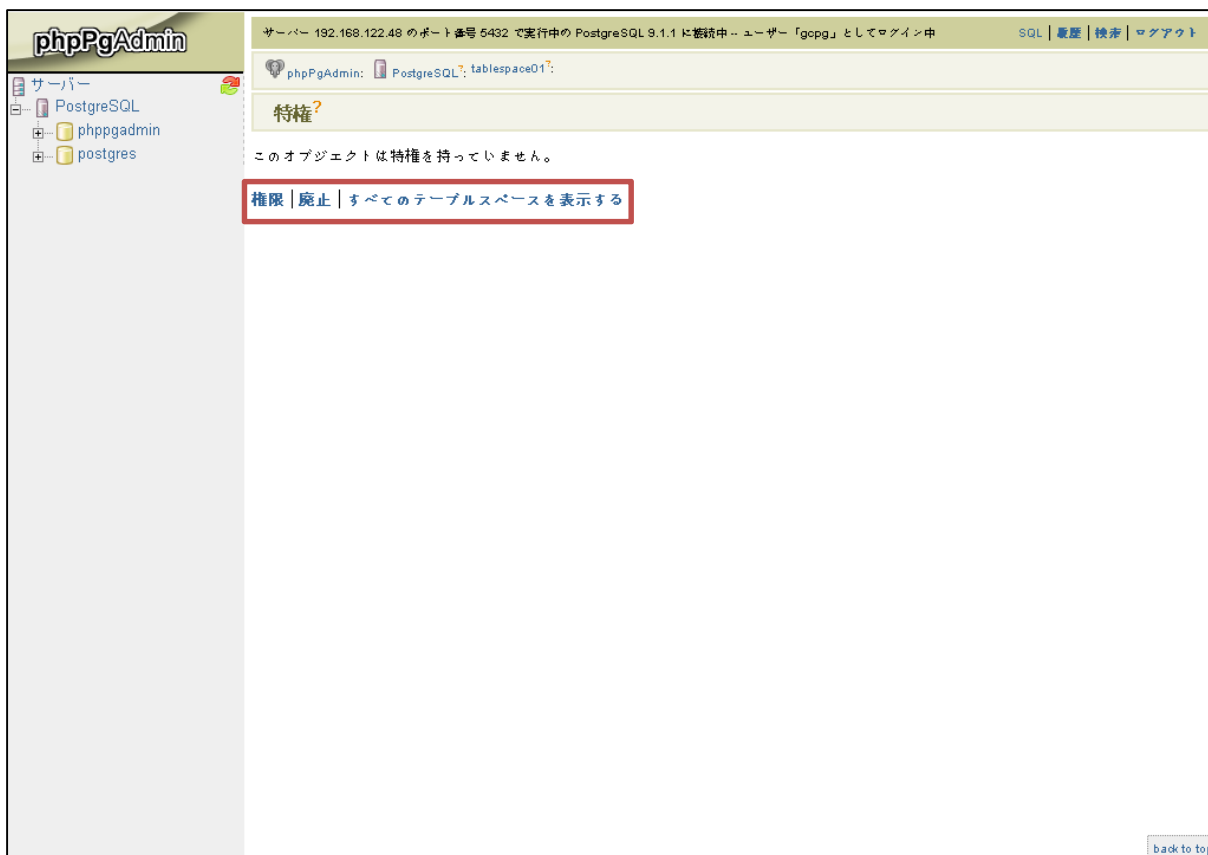


図 2-4-37 「テーブル空間の特権操作」

表 2-4-38 テーブル空間の特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該テーブル空間についてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-4-4-I「テーブル空間の特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該テーブル空間についてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-4-4-II「テーブル空間の特権破棄」を参照してください。
3	[すべてのテーブル空間を表示する]	「テーブル空間一覧操作」を表示します。 詳細は 2-4-3「テーブル空間一覧操作」を参照してください。

さい。

2-4-4-I. テーブル空間の特権追加

★ テーブル空間に対するアクセス権限を定義します。

① 「テーブル空間の特権操作」で[権限]をクリックします。

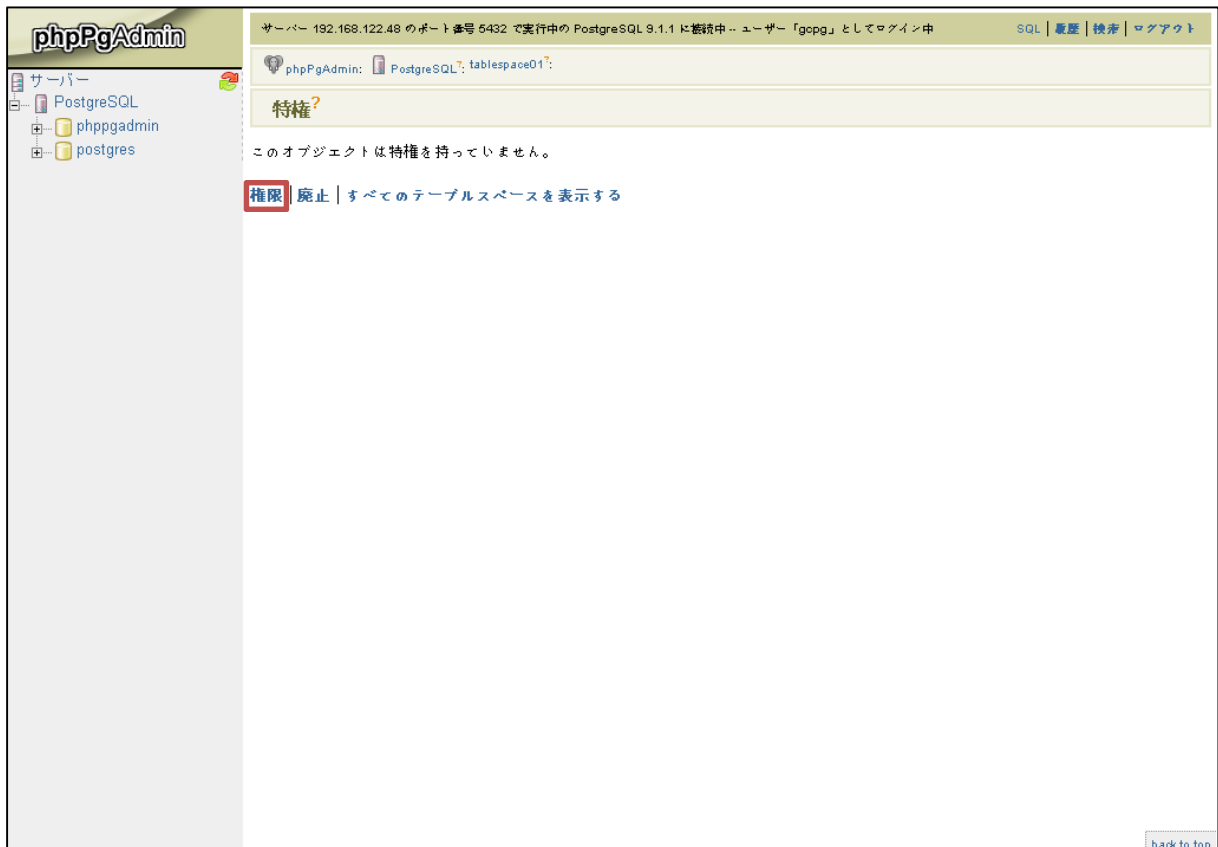


図 2-4-39 「テーブル空間の特権操作」

② 「テーブル空間の特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

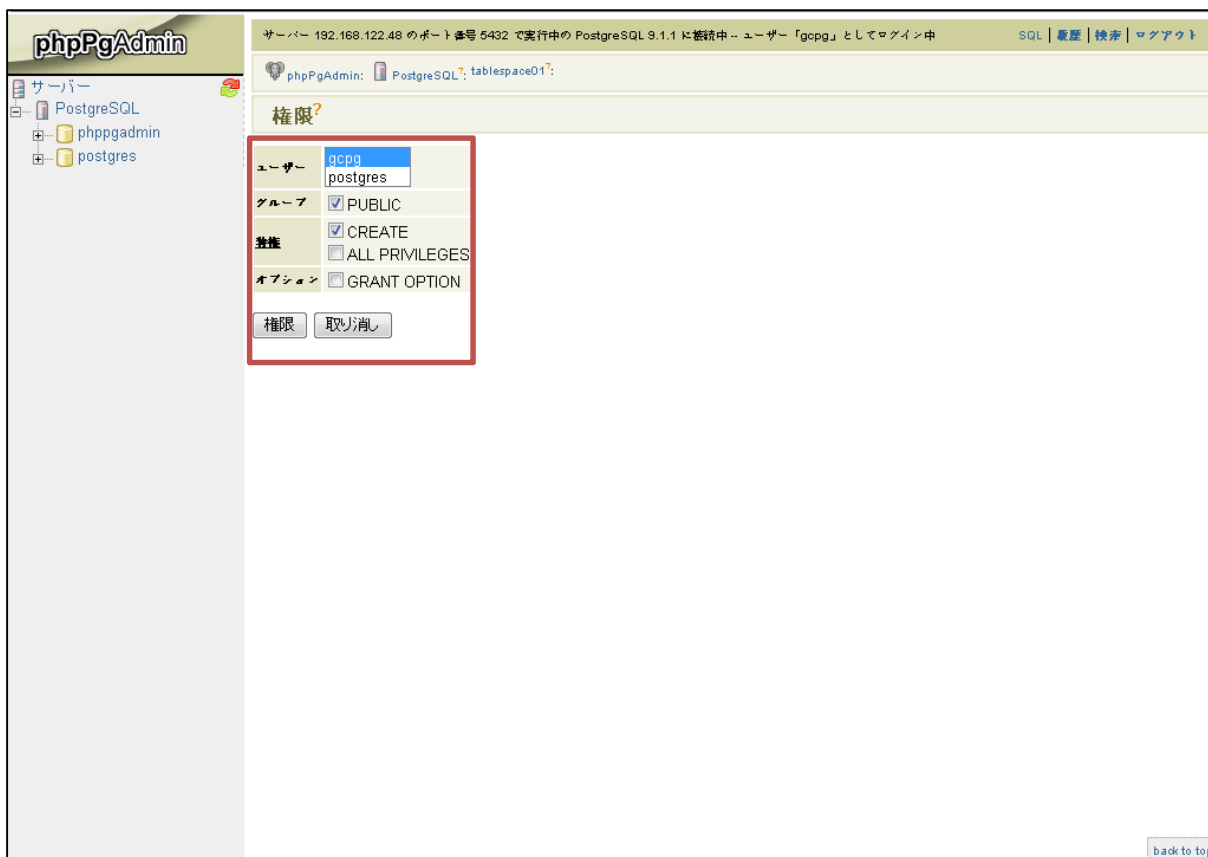


図 2-4-40 「テーブル空間の特権追加」

表 2-4-41 テーブル空間の特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロ

		ールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル空間の特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。



図 2-4-42 「テーブル空間の特権操作」

2-4-4-II. テーブル空間の特権破棄

★ テーブル空間に対するアクセス権限を取り消します。

① 「テーブル空間の特権操作」で[廃止]をクリックします。

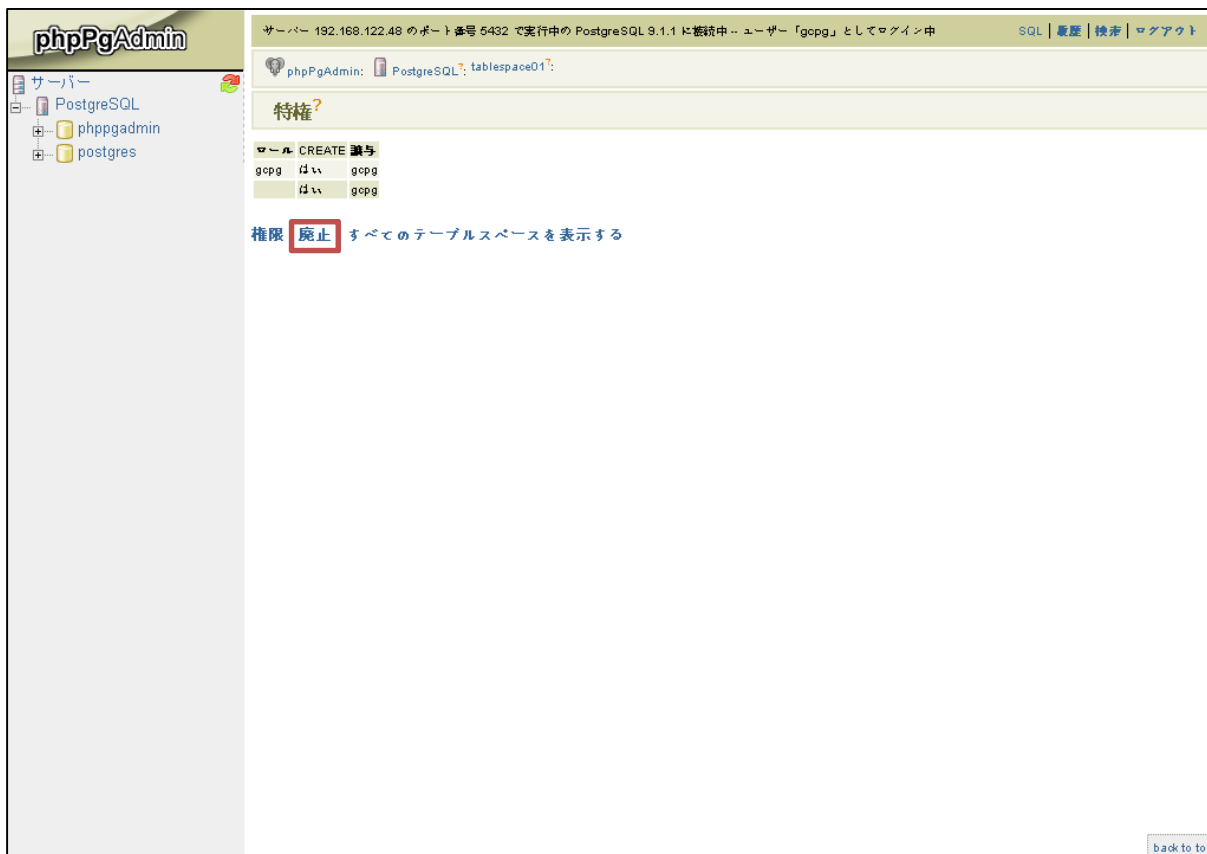


図 2-4-43 「テーブル空間の特権操作」

② 「テーブル空間の特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

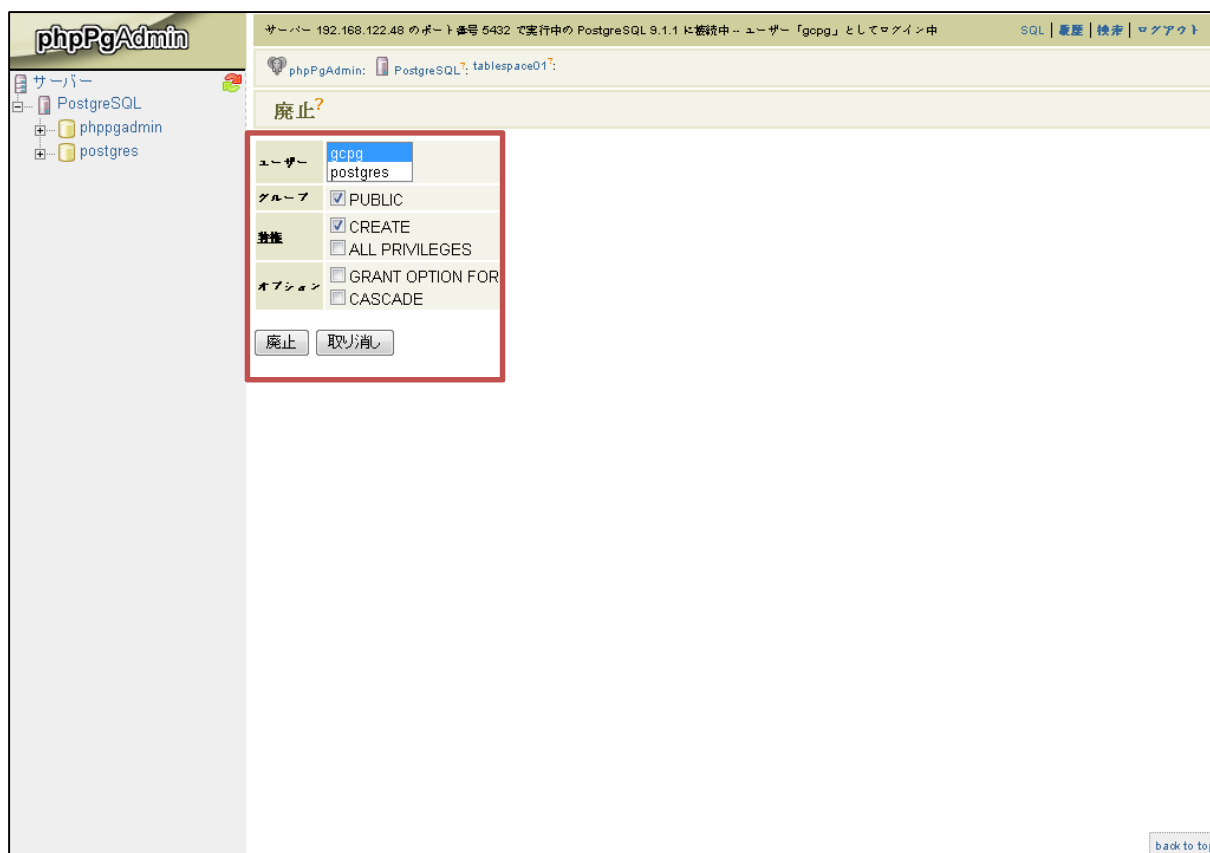


図 2-4-44 「テーブル空間の特権破棄」

表 2-4-45 テーブル空間の特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。
4	[オプション]	[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限の

		GRANT OPTION のみが取り消されます。 [CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されま す。
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル空間の特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

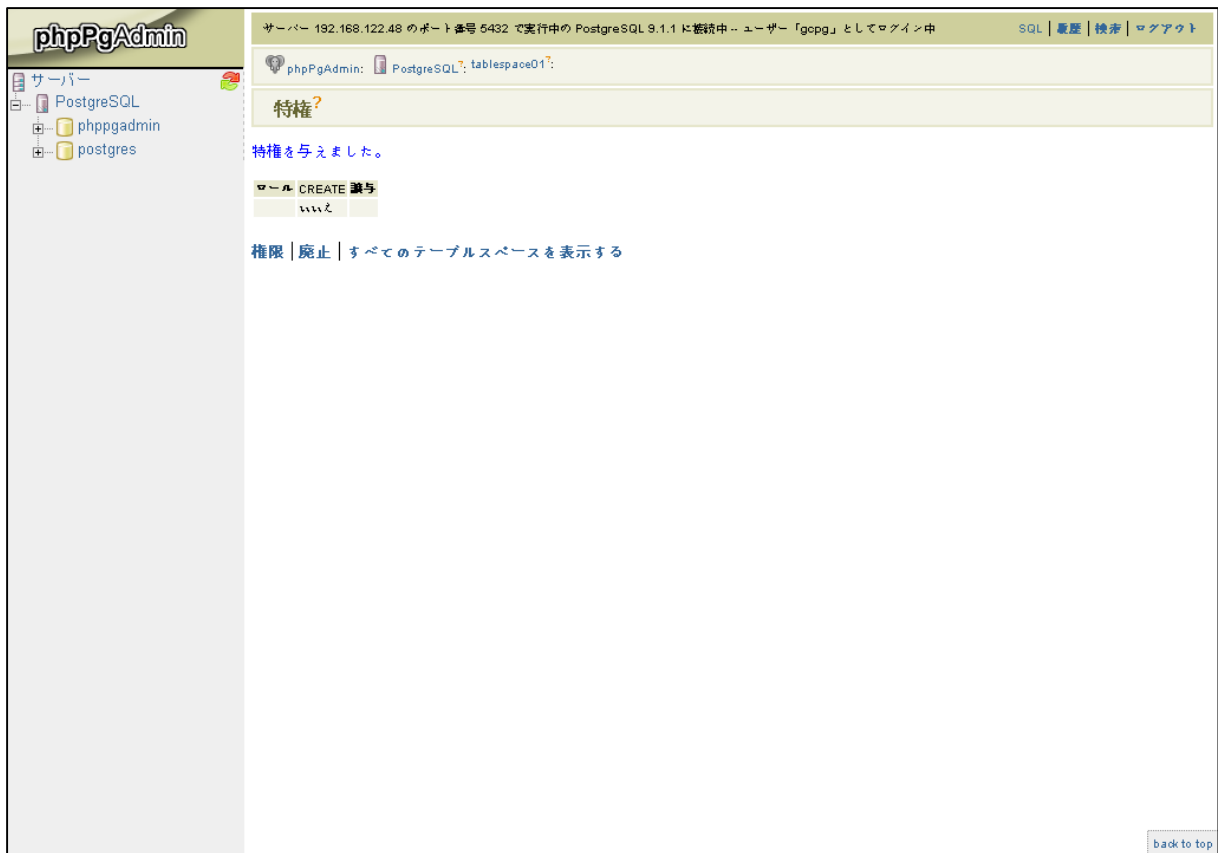


図 2-4-46 「テーブル空間の特権操作」

2-4-5 テーブル空間の作成

★ テーブル空間を作成します。

① 「テーブル空間一覧操作」で[テーブル空間を作成する]をクリックします。

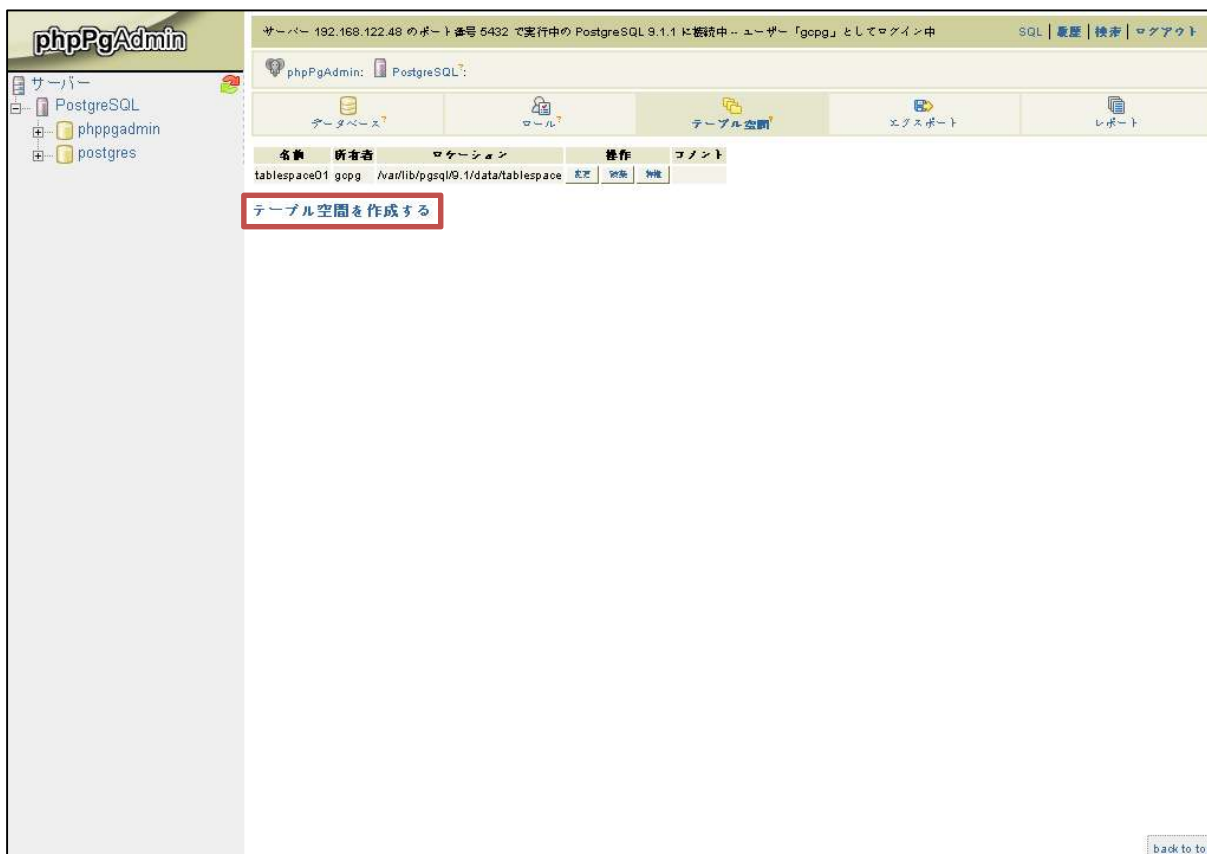


図 2-4-47 「テーブル空間一覧操作」

② 「テーブル空間の作成」で[作成]ボタンをクリックします。

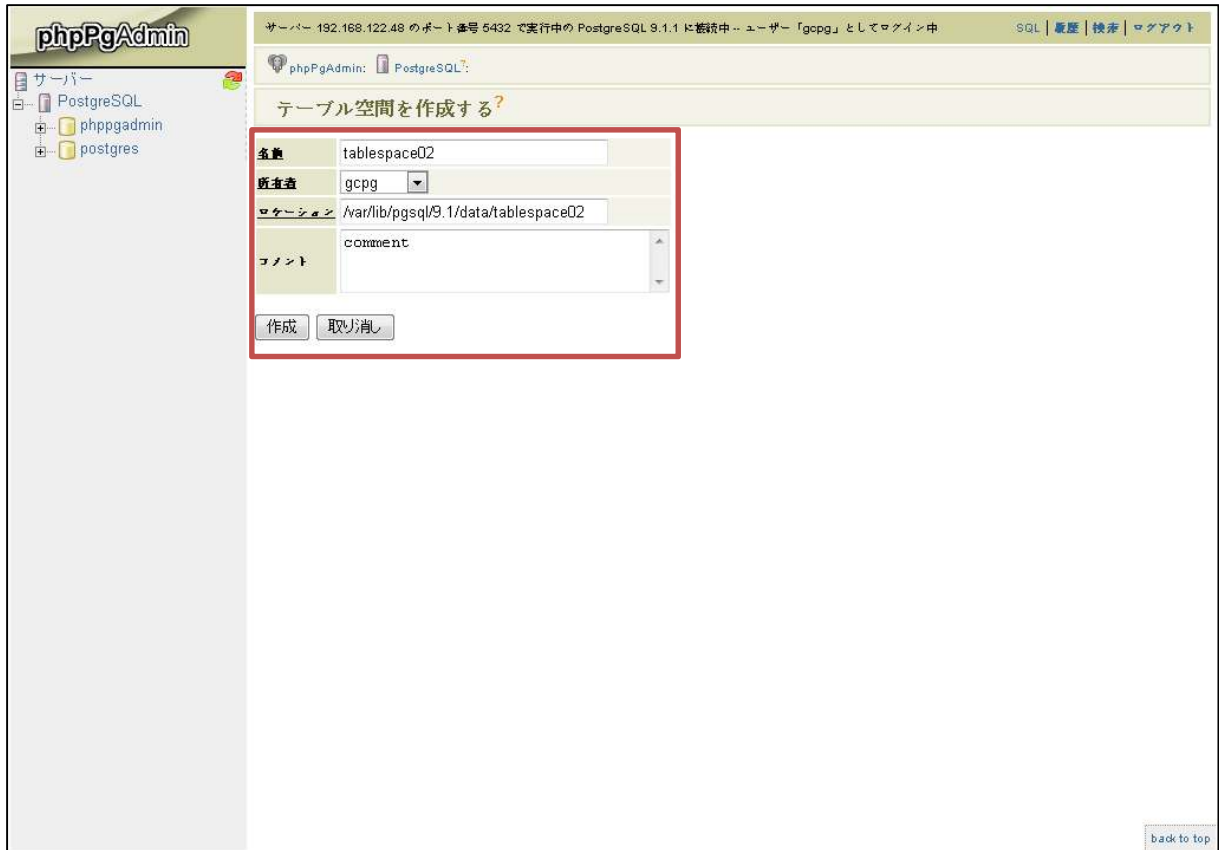


図 2-4-48 「テーブル空間の作成」

表 2-4-49 テーブル空間の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	テーブル空間の名称を指定します。
2	[所有者]	テーブル空間の所有者を指定します。
3	[ロケーション]	テーブル空間用に使用するディレクトリの場所を絶対パスで指定します。当該ディレクトリの所有者は PostgreSQL システムユーザーである必要があります。
4	[コメント]	コメントを指定します。
5	[作成]ボタン	作成操作を実行します。

6

[取り消し]ボタン

操作を取り消します。

③ 「テーブル空間一覧操作」でテーブル空間が作成されたことを確認します。



図 2-4-50 「テーブル空間一覧操作」

2-4-6 サーバのエクスポート

★ サーバのデータをエクスポートします。

① 「サーバ個別操作メニュー」で [エクスポート]をクリックします。



図 2-4-51 「サーバ個別操作メニュー」

② 「サーバのエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

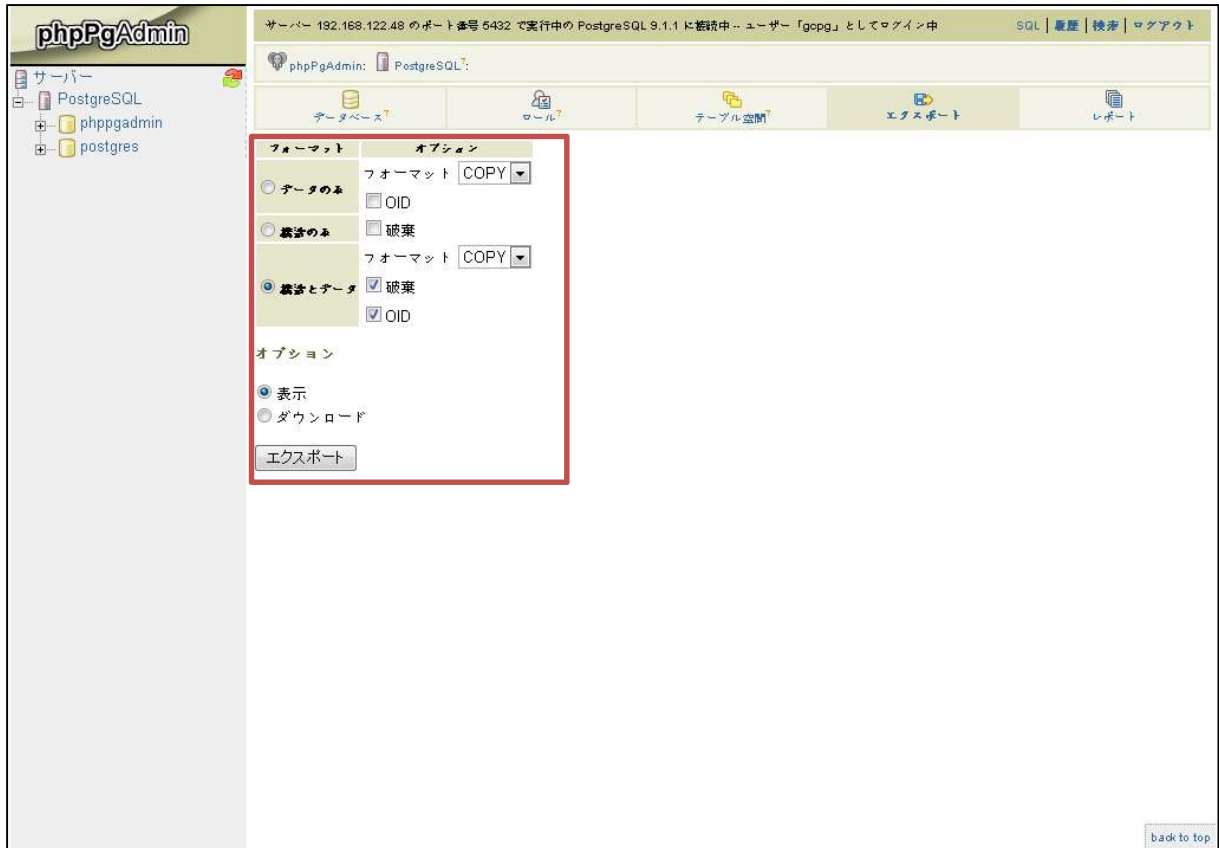


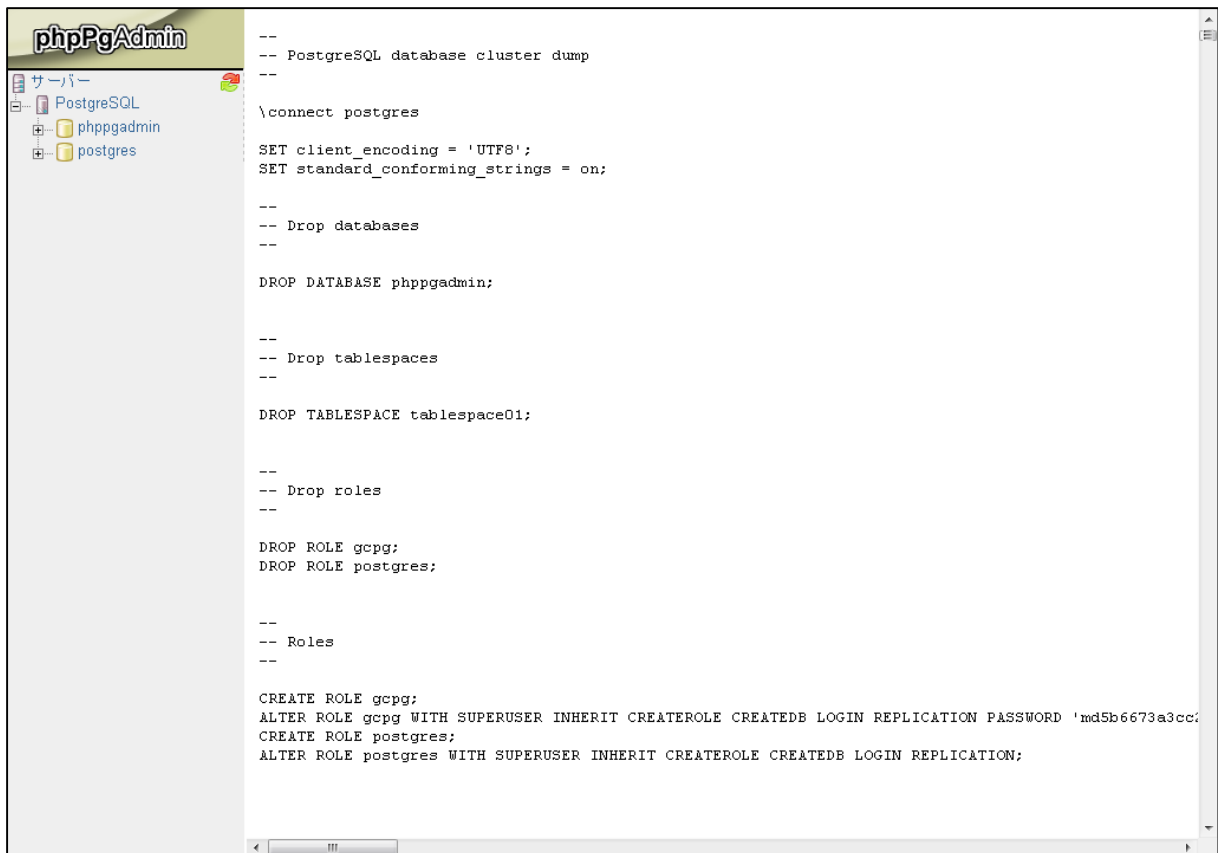
図 2-4-52 「サーバのエクスポート」

表 2-4-53 サーバのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● データのみ ● 構造のみ ● 構造とデータ
2	[フォーマット]でデータのみを選択した場合のオプション [フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL
3	[フォーマット]でデータのみ	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力しま

	を選択した場合のオプション [OID]	す。サーバがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
4	[フォーマット]で構造のみを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにサーバ内のオブジェクトが存在した場合に DROP してからオブジェクトを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
5	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 ● COPY ● SQL
6	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにサーバ内のオブジェクトが存在した場合に DROP してからオブジェクトを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
7	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [OID]	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力します。サーバがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
8	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
9	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。



```
-- PostgreSQL database cluster dump
--
--
\connect postgres
SET client_encoding = 'UTF8';
SET standard_conforming_strings = on;
--
-- Drop databases
--
DROP DATABASE phppgadmin;
--
-- Drop tablespaces
--
DROP TABLESPACE tablespace01;
--
-- Drop roles
--
DROP ROLE gcpg;
DROP ROLE postgres;
--
-- Roles
--
CREATE ROLE gcpg;
ALTER ROLE gcpg WITH SUPERUSER INHERIT CREATEROLE CREATEDB LOGIN REPLICATION PASSWORD 'md5b6673a3cc';
CREATE ROLE postgres;
ALTER ROLE postgres WITH SUPERUSER INHERIT CREATEROLE CREATEDB LOGIN REPLICATION;
```

図 2-4-54 「サーバのエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-4-55 「サーバのエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-4-7 レポート一覧操作

★ 「レポート一覧操作」を表示します。レポートとは予め登録した SQL を実行できる機能です。

レポートの作成、破棄、変更、実行などができます。

① 「サーバ個別操作メニュー」から[レポート]をクリックします。



図 2-4-56 「サーバ個別操作メニュー」

② 「レポート一覧操作」の表示を確認します。

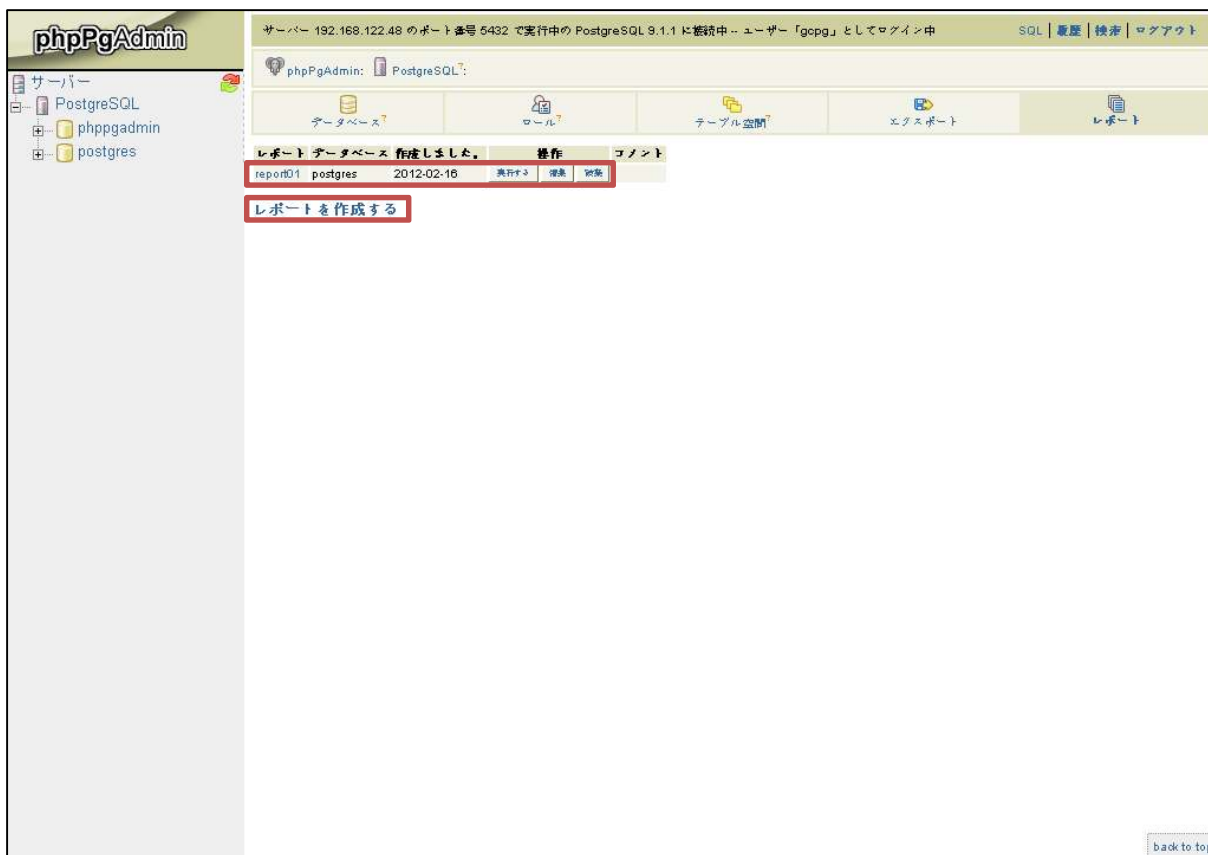


図 2-4-57 「レポート一覧操作」

表 2-4-58 レポート一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別レポート名”	「レポート個別操作」を表示します。 詳細は 2-7「レポート個別操作」を参照してください。
2	[実行する]ボタン	レポートを実行することができます。
3	[編集]ボタン	レポート定義を編集することができます。 詳細は 2-7-1「レポートの編集」を参照してください。
4	[破棄]ボタン	レポートを削除することができます。詳細は 2-4-7-III 「レポートの破棄」を参照してください。
5	[レポートを作成する]	新しいレポートを定義することができます。 詳細は 2-4-7-IV「レポートの作成」を参照してください。

2-4-7-I. レポートの実行

★ レポートを実行します。

① 「レポート一覧操作」で[実行する]ボタンをクリックします。

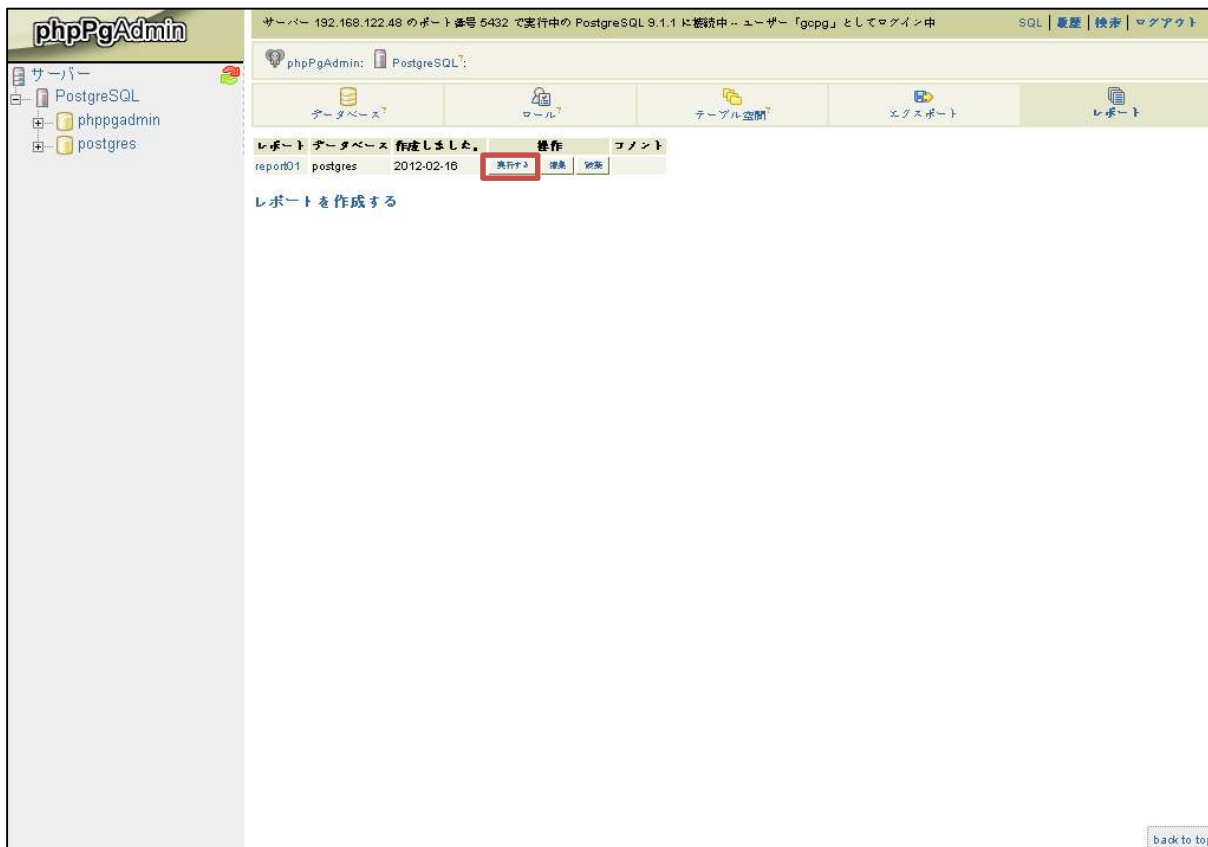


図 2-4-59 「レポート一覧操作」

②レポートの実行結果を確認します。

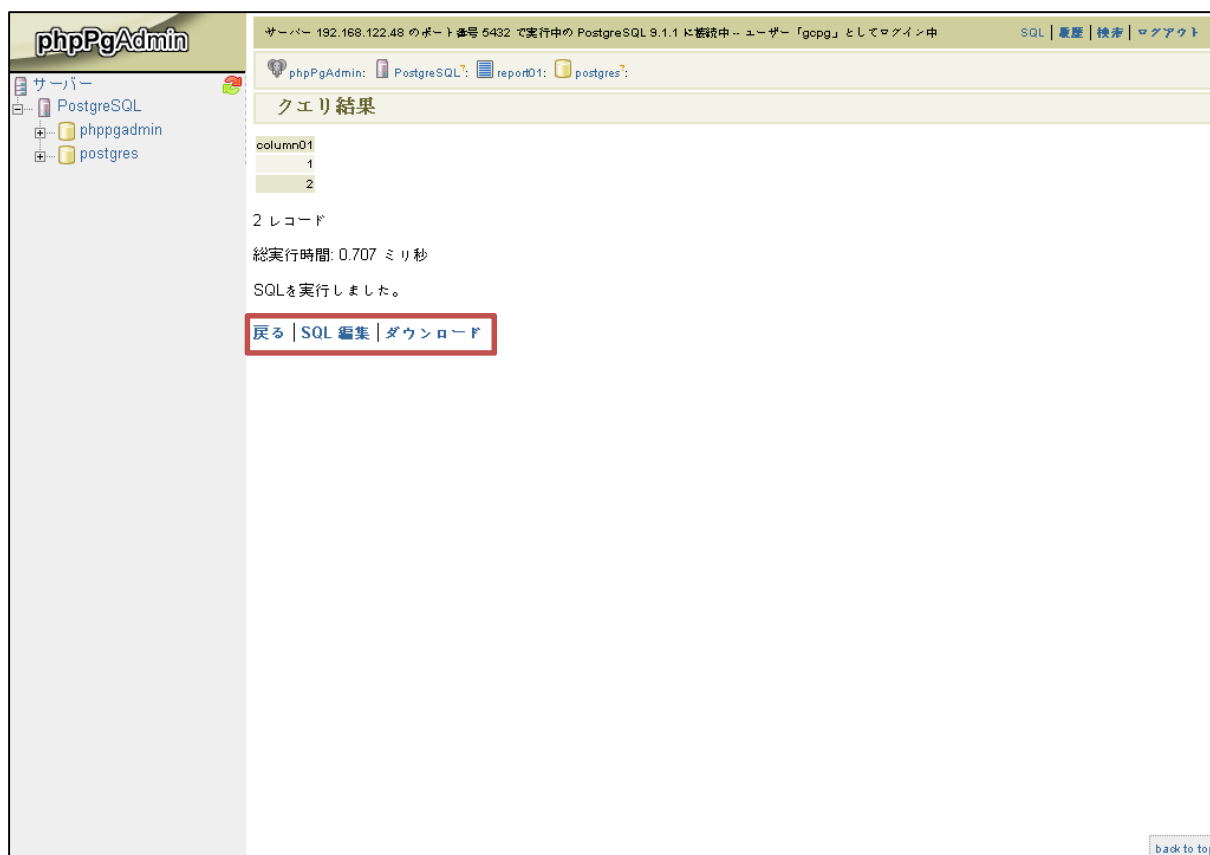


図 2-4-60 「レポートの実行結果」

表 2-4-61 レポートの実行結果画面項目

NO	項目名	説明
1	[SQL の編集]	「SQL の実行」を表示します。 詳細は 2-5-2 「SQL の実行」を参照してください。
2	[ダウンロード]	レポートの実行結果をエクスポートする「レポートの実行結果のエクスポート」表示します。 詳細は 2-4-7-II 「レポートの実行結果のエクスポート」を参照してください。

2-4-7-II. レポートの実行結果のエクスポート

★ レポートの実行結果をエクスポートします。

① 「レポートの実行結果」で [ダウンロード]をクリックします。

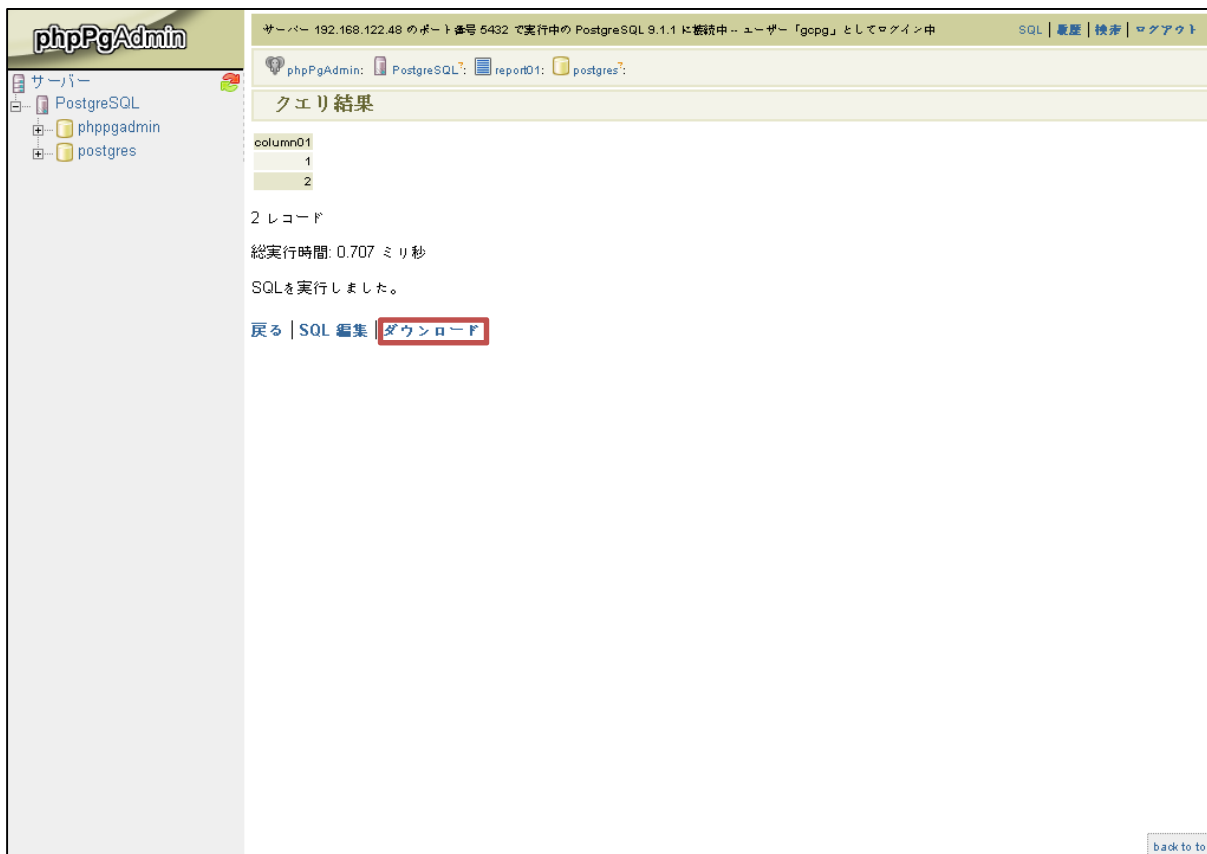


図 2-4-62 「レポートの実行結果」

② 「レポートの実行結果のエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

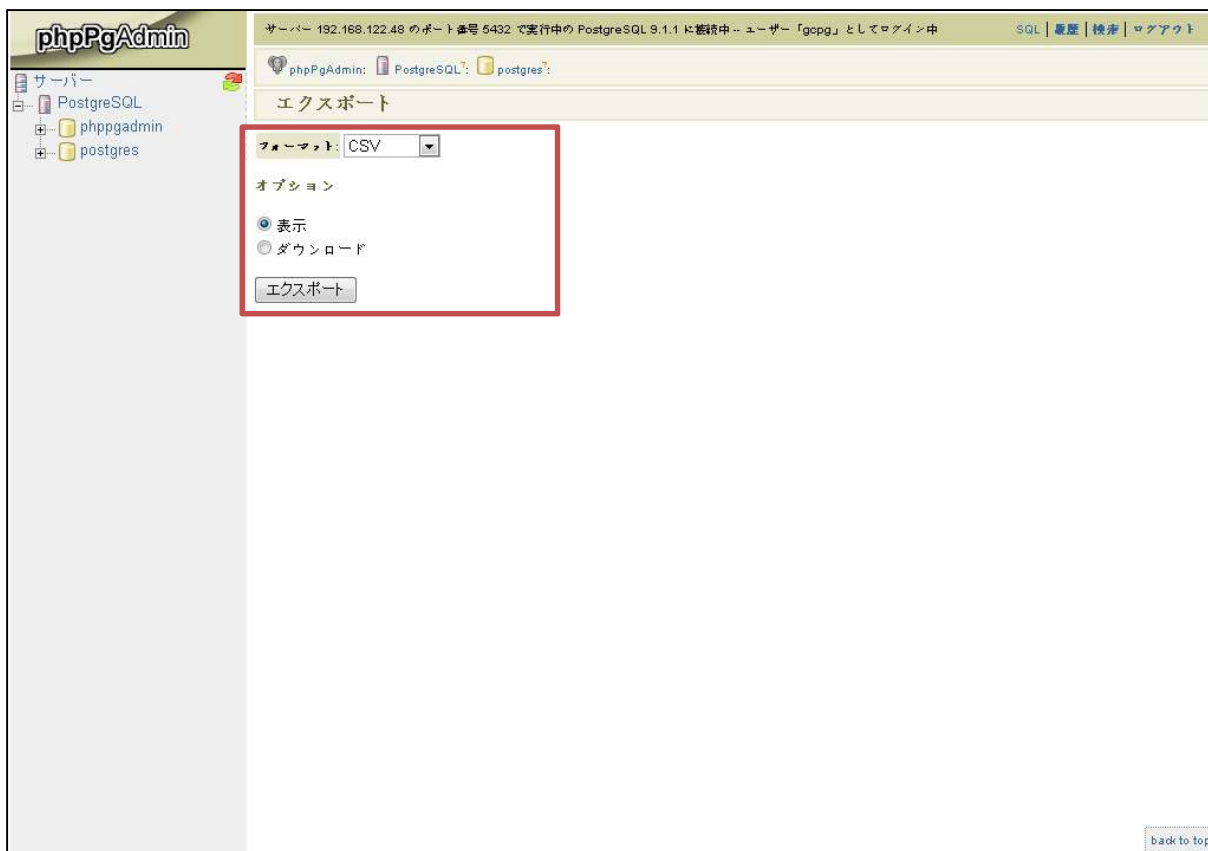


図 2-4-63 「レポートの実行結果のエクスポート」

表 2-4-64 レポートの実行結果のエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CSV ● タブ区切り ● XHTML ● XML
2	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
3	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。

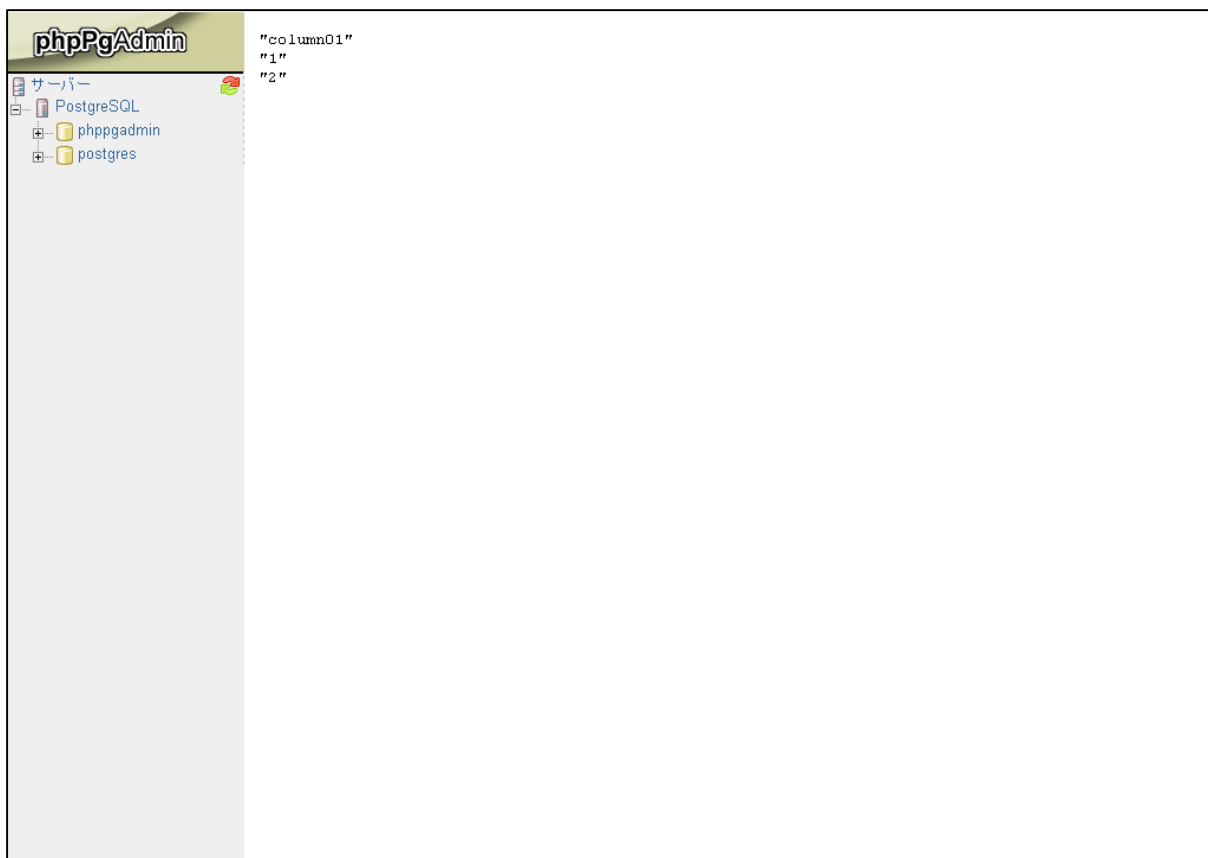


図 2-4-65 「レポートの実行結果のエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-4-66 「レポートの実行結果のエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-4-7-III. レポートの破棄

★ レポートを破棄します。

① 「レポート一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

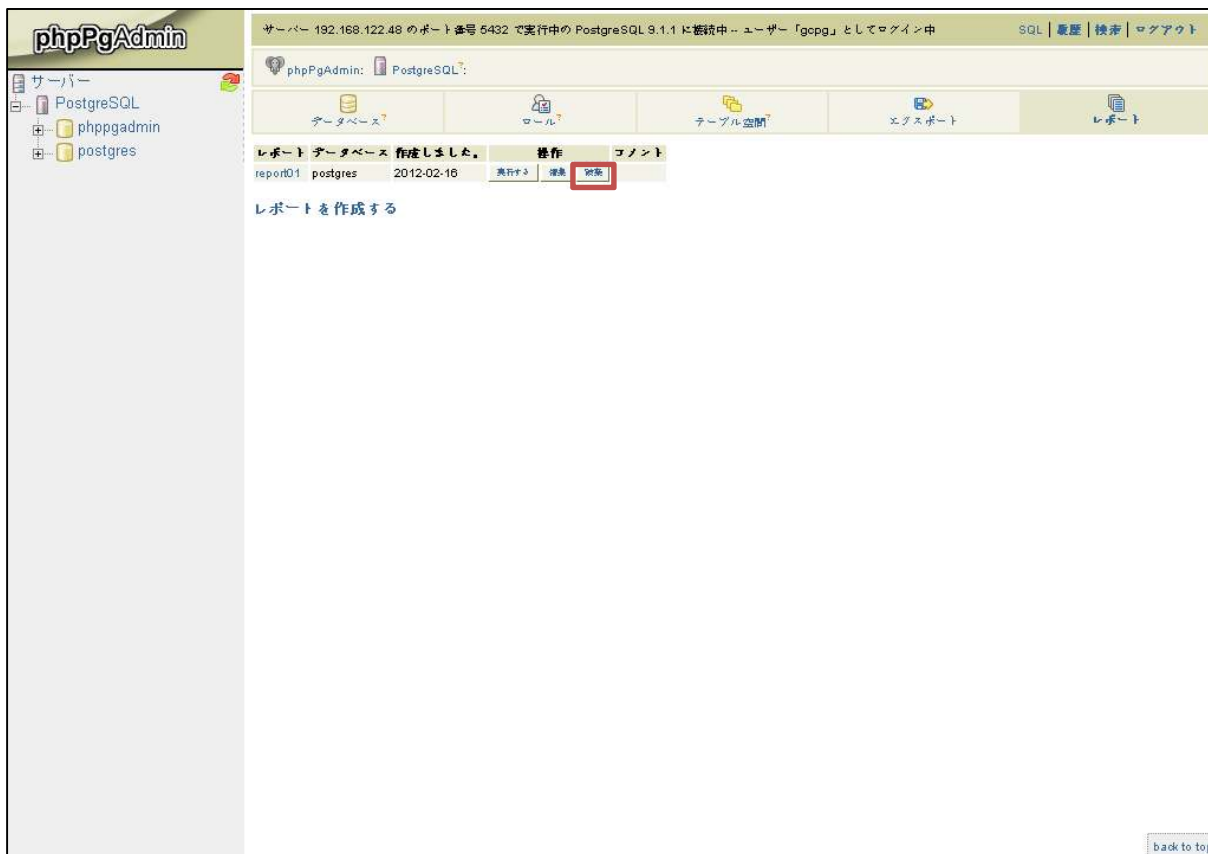


図 2-4-67 「レポート一覧操作」

② 「レポートの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

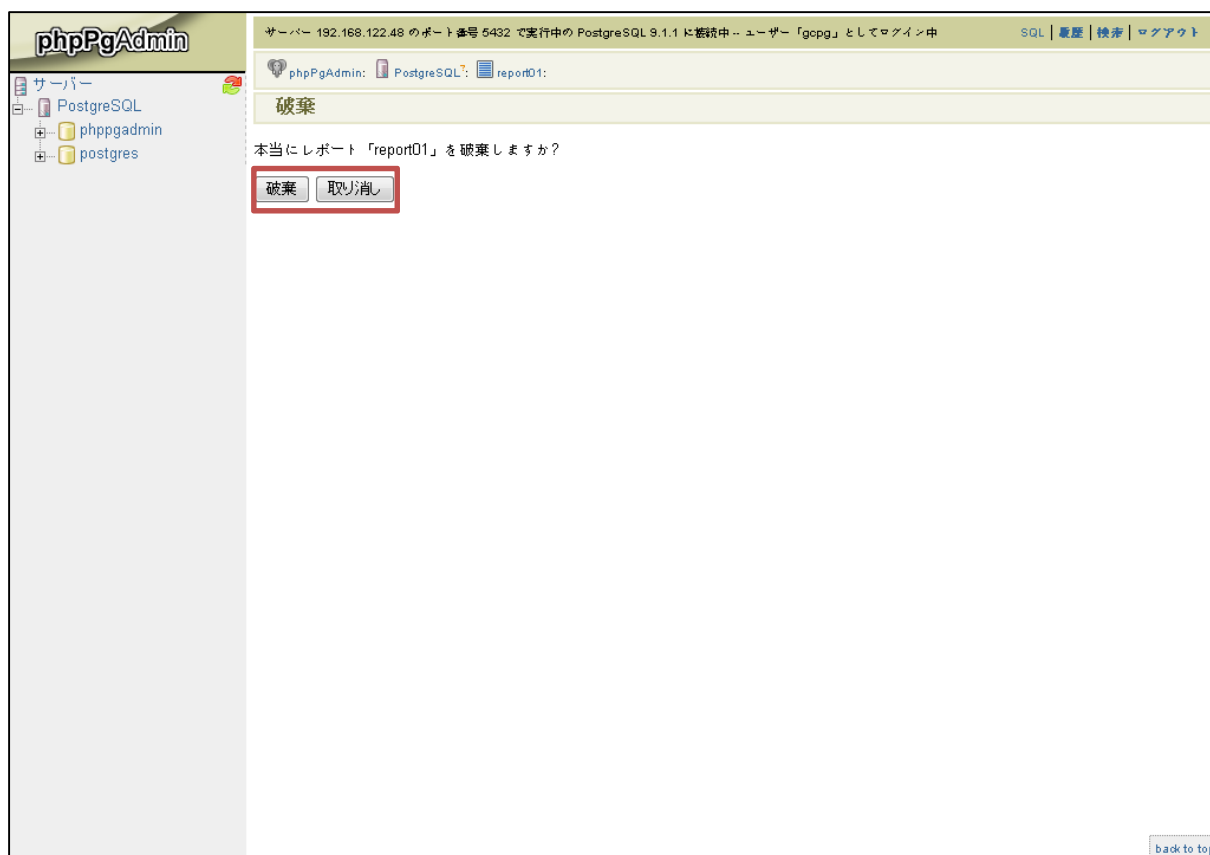


図 2-4-68 「レポートの破棄」

表 2-4-69 レポートの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「レポート一覧操作」でレポートが破棄されたことを確認します。

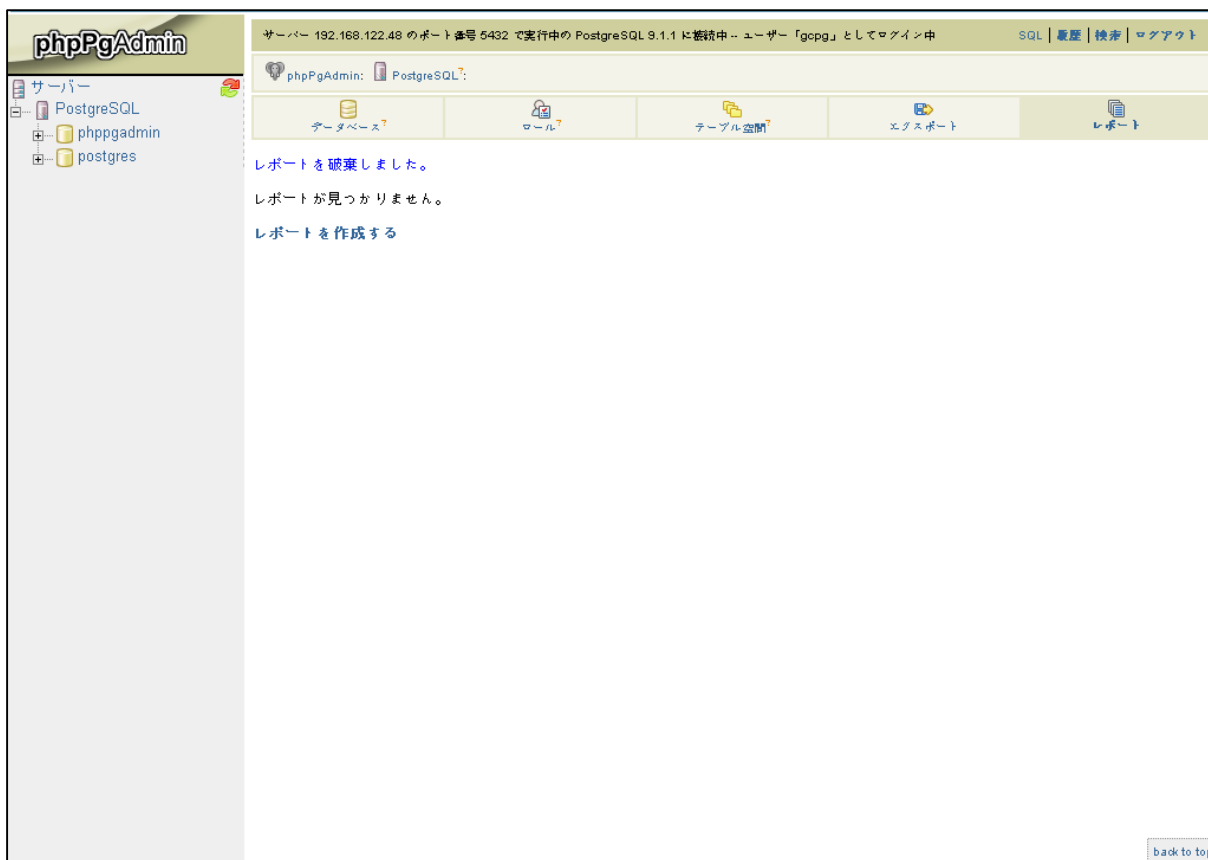


図 2-4-70 「レポート一覧操作」

2-4-7-IV. レポートの作成

★ レポートを作成します。

①【初回作成時のみ実施】「データベースの作成」で phppgadmin という名称のデータベースを作成する。

②【初回作成時のみ実施】下記 SQL を phppgadmin データベースの「SQL の実行」で実行する。

```
CREATE TABLE ppa_reports (  
    report_id SERIAL,  
    report_name varchar(255) NOT NULL,  
    db_name varchar(255) NOT NULL,  
    date_created date DEFAULT NOW() NOT NULL,  
    created_by varchar(255) NOT NULL,  
    descr text,  
    report_sql text NOT NULL,  
    paginate boolean NOT NULL,  
    PRIMARY KEY (report_id)  
);  
  
GRANT SELECT,INSERT,UPDATE,DELETE ON ppa_reports TO PUBLIC;  
GRANT SELECT,UPDATE ON ppa_reports_report_id_seq TO PUBLIC;
```

③ 「レポート一覧操作」で[レポートを作成する]をクリックします。

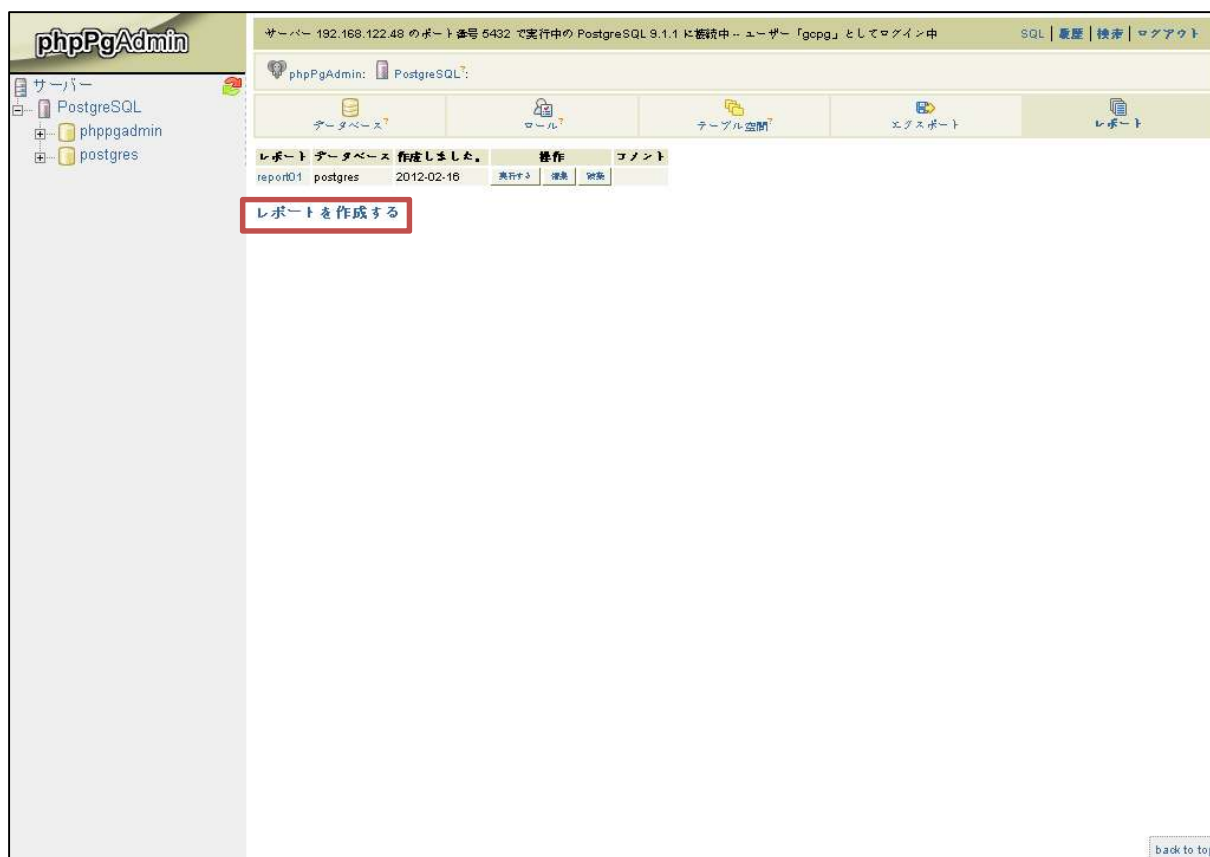


図 2-4-71 「レポート一覧操作」

④ 「レポートの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

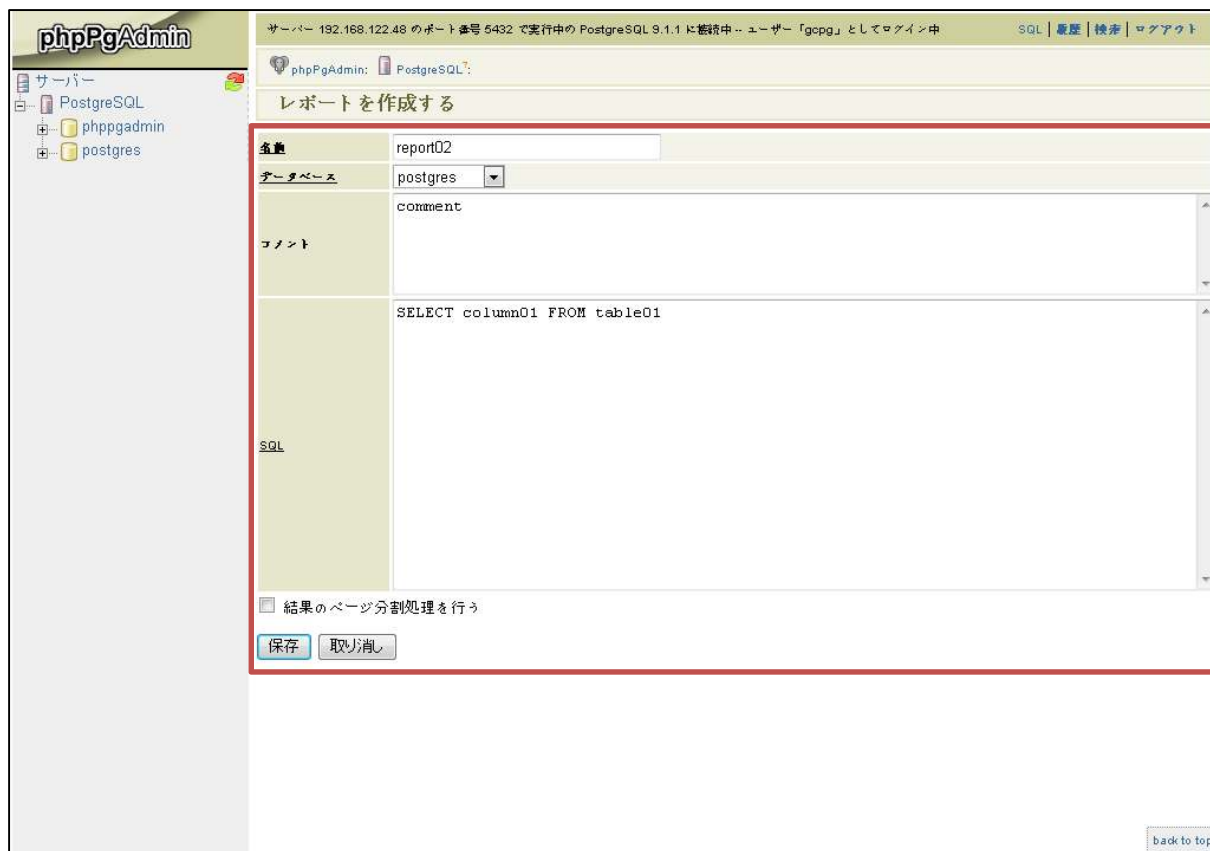


図 2-4-72 「レポートの作成」

表 2-4-73 レポートの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	レポートの名称を指定します。
2	[データベース]	対象とするデータベースを指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[SQL]	レポートとして保存する SQL クエリを指定します。
5	[結果のページ分割処理を行う]	本項目を有効にすると、SQL の実行結果を一定の行数で分割して表示します。
6	[保存]ボタン	保存操作を実行します。

7

[取り消し]ボタン

操作を取り消します。

⑤ 「レポート一覧操作」でレポートが作成されたことを確認します。

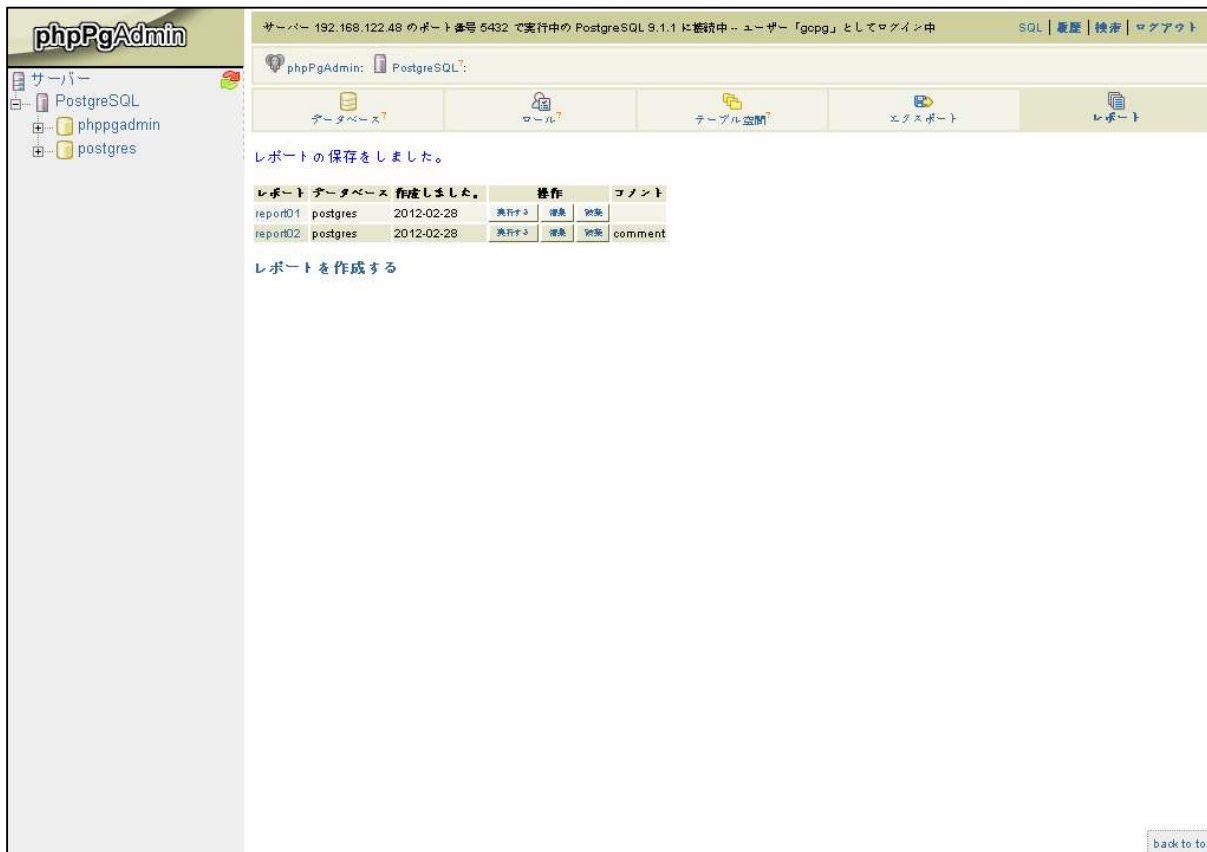


図 2-4-74 「レポート一覧操作」

2-5 データベース個別操作メニュー

★ 「データベース個別操作メニュー」を表示します。

① 「データベース一覧操作」で「個別データベース名」をクリックします。

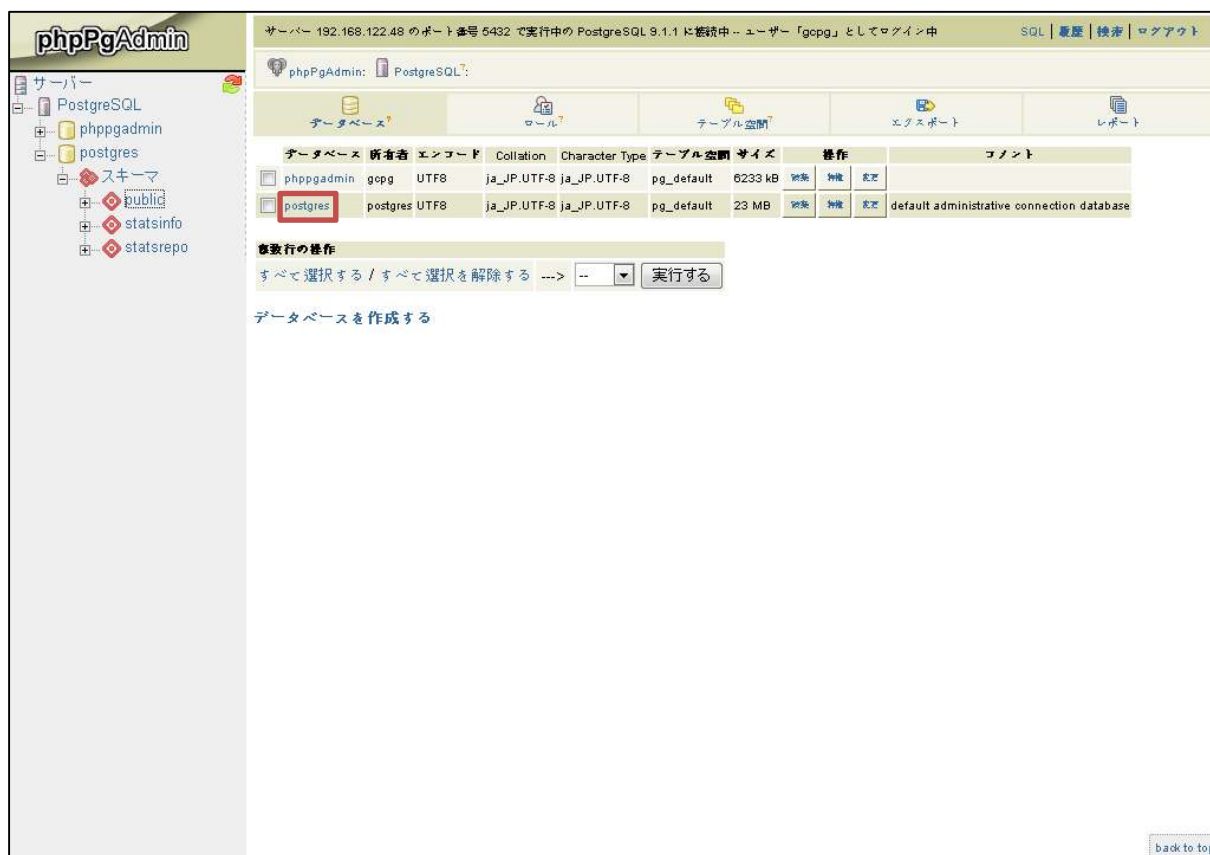


図 2-5-1 「データベース一覧操作」

② 「データベース個別操作メニュー」の表示を確認します。



図 2-5-2 「データベース個別操作メニュー」

表 2-5-3 データベース個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[スキーマ]	スキーマ一覧を表示します。スキーマについての操作を行うことができます。 詳細は 2-5-1 「スキーマ一覧操作」を参照してください。
2	[SQL]	SQL の実行を行うことができます。 詳細は 2-5-2 「SQL の実行」を参照してください。
3	[検索]	スキーマやテーブル、ビューなどのオブジェクトを検索することができます。 詳細は 2-5-3 「検索の実行」を参照してください。
4	[変数]	変数一覧を表示します。 詳細は 2-5-4 「変数の表示」を参照してください。

5	[プロセス]	<p>現在指定されているデータベース内の実行中のトランザクションのプロセスを表示します。プロセスについての操作を行うことができます。</p> <p>詳細は 2-5-5「プロセス一覧操作」を参照してください。</p>
6	[ロック]	<p>オープン中のトランザクションにより獲得されたロックを表示します。</p> <p>詳細は 2-5-6「ロック一覧」を参照してください。</p>
7	[管理]	<p>バキュームや解析を行うことができます。</p> <p>詳細は 2-5-7「データベースの管理」を参照してください。</p>
8	[特権]	<p>特権一覧を表示します。</p> <p>詳細は 2-5-8「データベースの特権操作」を参照してください。</p>
9	[エクスポート]	<p>データベースの情報をエクスポートすることができます。</p> <p>詳細は 2-5-9「データベースのエクスポート」を参照してください。</p>

2-5-1 スキーマ一覧操作

★ 「スキーマ一覧操作」を表示します。スキーマの作成、破棄、変更などができます。

① 「データベース個別操作メニュー」で[スキーマ]をクリックします。

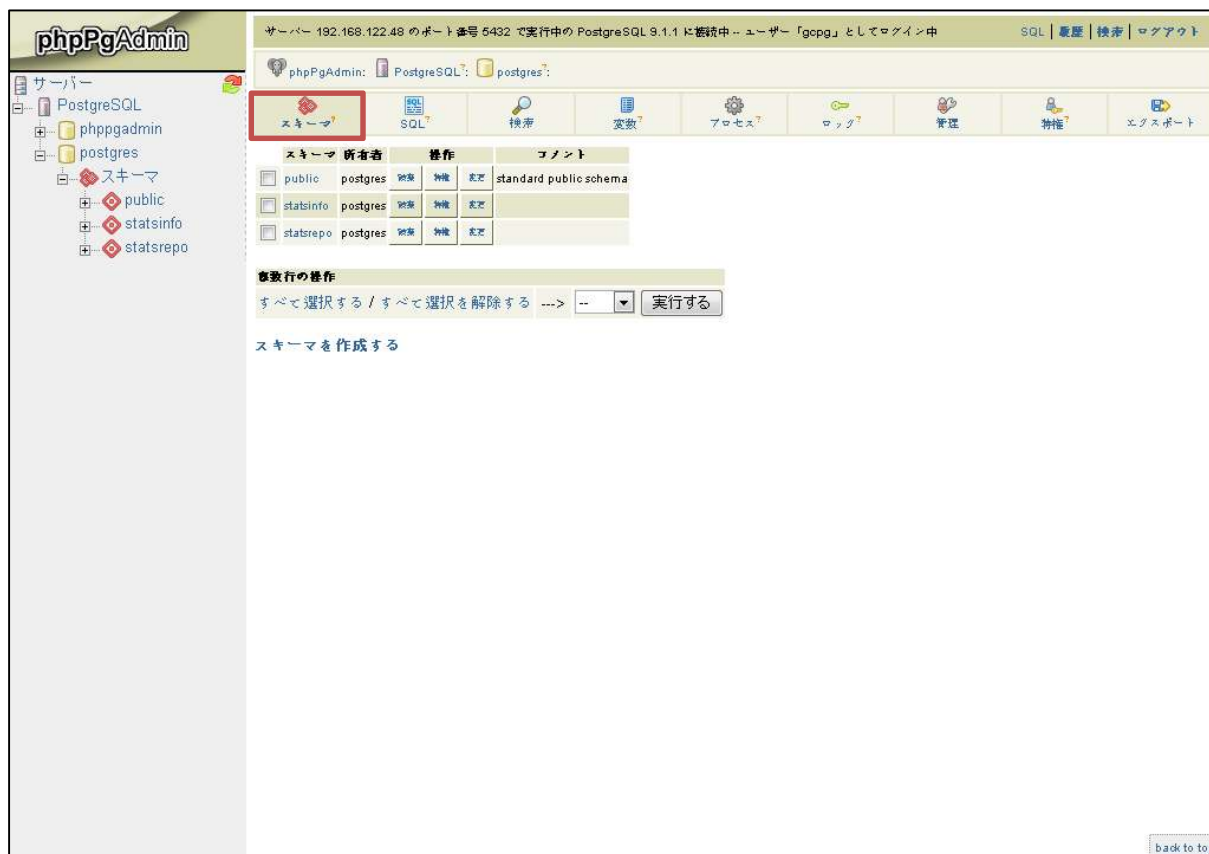


図 2-5-4 「データベース個別操作メニュー」

② 「スキーマ一覧操作」の表示を確認します。

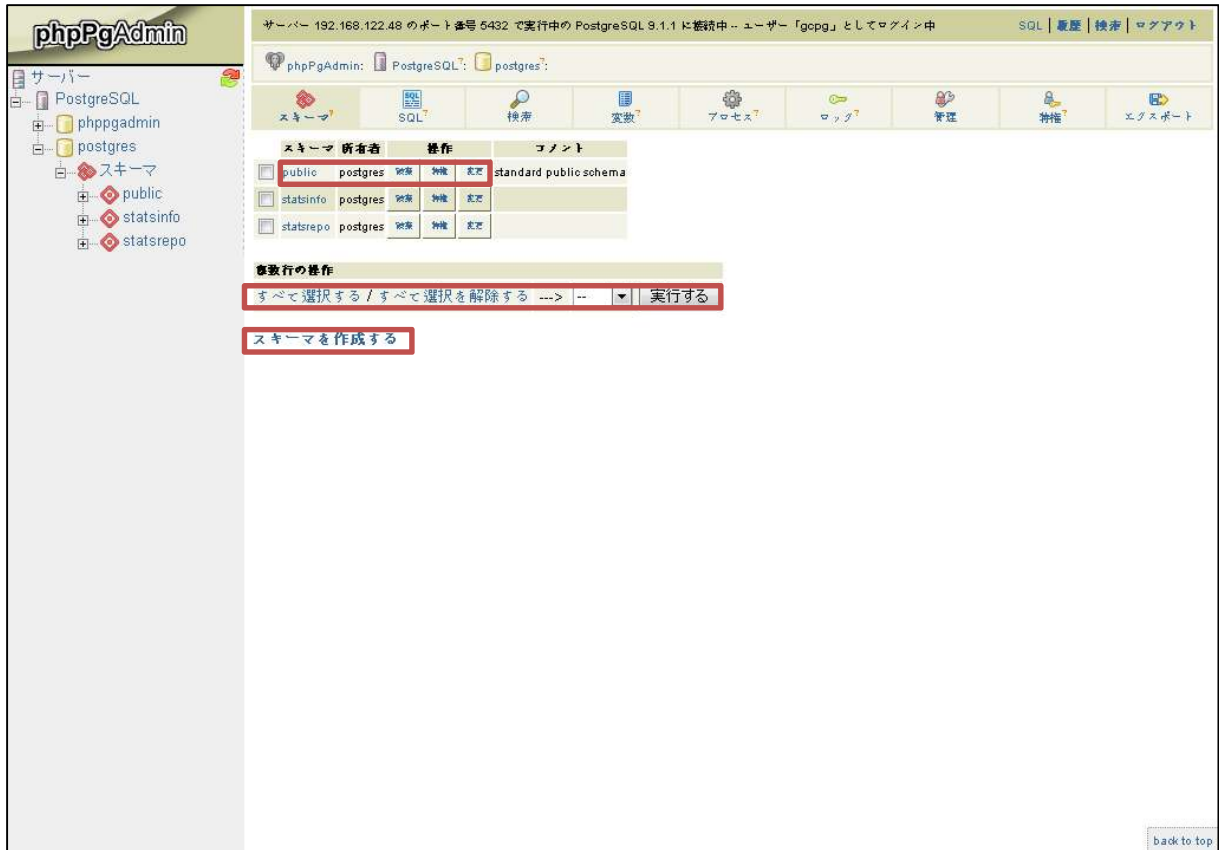


図 2-5-5 「スキーマ一覧操作」

表 2-5-6 スキーマ一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別スキーマ名”	「スキーマ個別操作メニュー」を表示します。 詳細は 2-8 「スキーマ個別操作メニュー」を参照してください。
2	[破棄]ボタン	スキーマを削除することができます。(DROP SCHEMA に相当) 詳細は 2-5-1-I 「スキーマの破棄」を参照してください。
3	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-8-7 「スキーマの特権操作」を参照してください。

4	[変更]ボタン	<p>スキーマ定義を変更することができます。(ALTER SCHEMA に相当)</p> <p>詳細は 2-5-1-II「スキーマの変更」を参照してください。</p>
5	[複数行の操作]	<p>選択されているスキーマに対して以下の操作を一括で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 破棄 <p>対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。</p>
6	[スキーマを作成する]	<p>新しいスキーマを定義することができます。(CREATE SCHEMA に相当)</p> <p>詳細は 2-5-1-III「スキーマの作成」を参照してください。</p>

2-5-1-I. スキーマの破棄

★ スキーマを破棄します。

① 「スキーマ一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

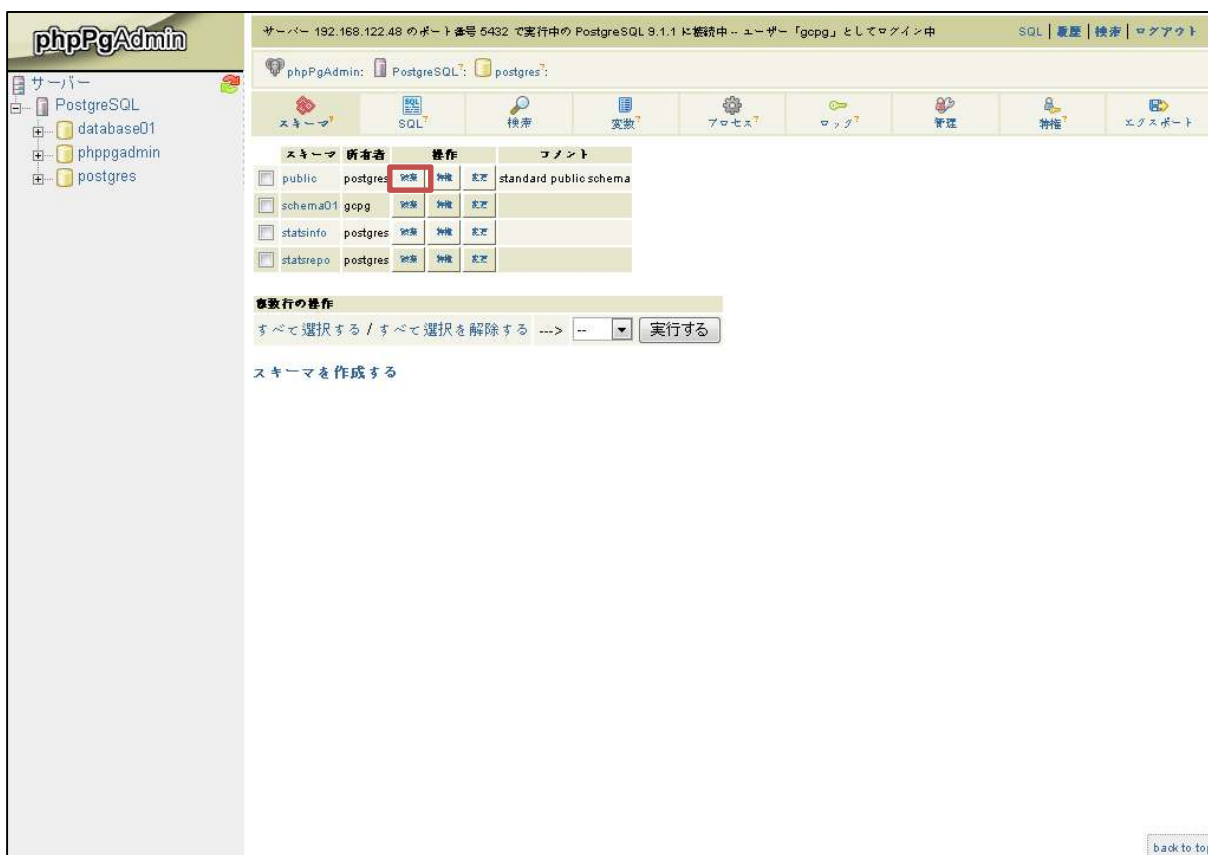


図 2-5-7 「スキーマ一覧操作」

② 「スキーマの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

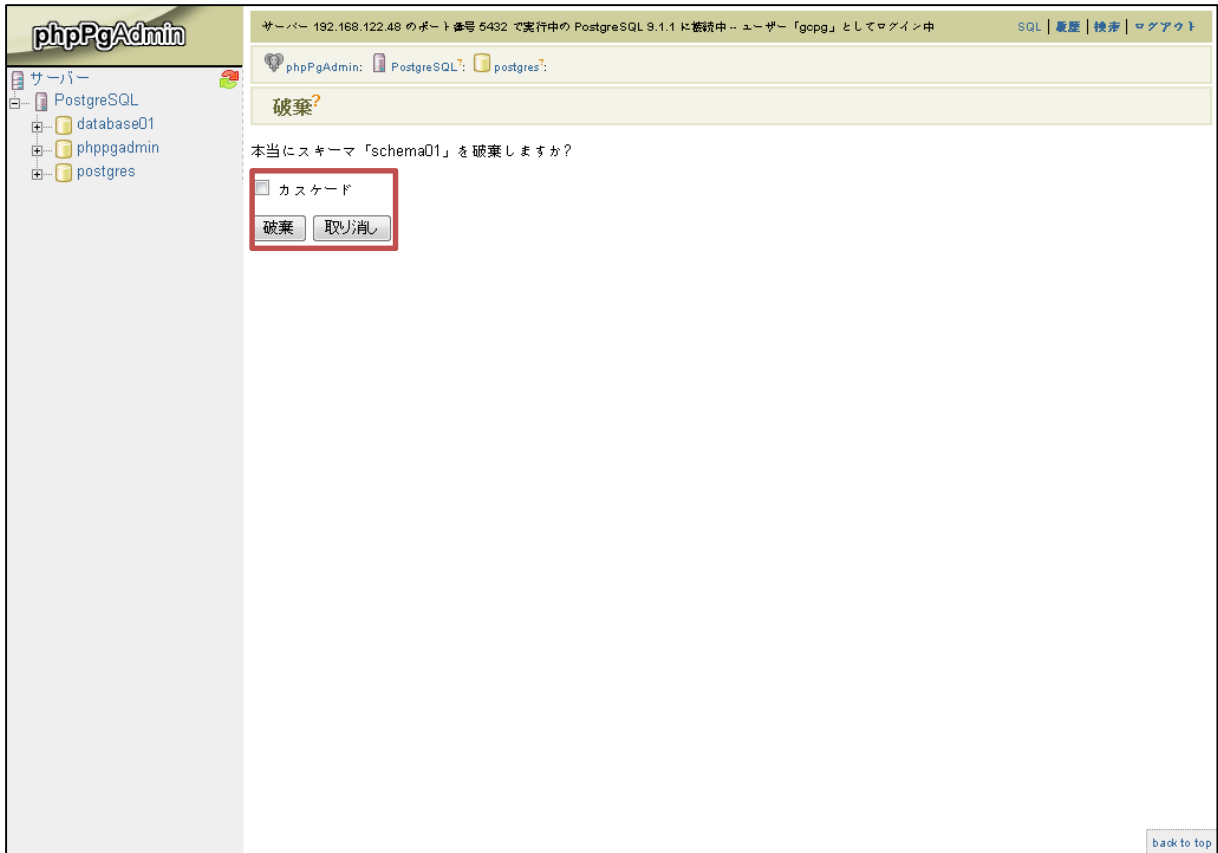


図 2-5-8 「スキーマの破棄」

表 2-5-9 スキーマの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するスキーマにテーブル、関数などが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「スキーマ一覧操作」でスキーマが破棄されたことを確認します。

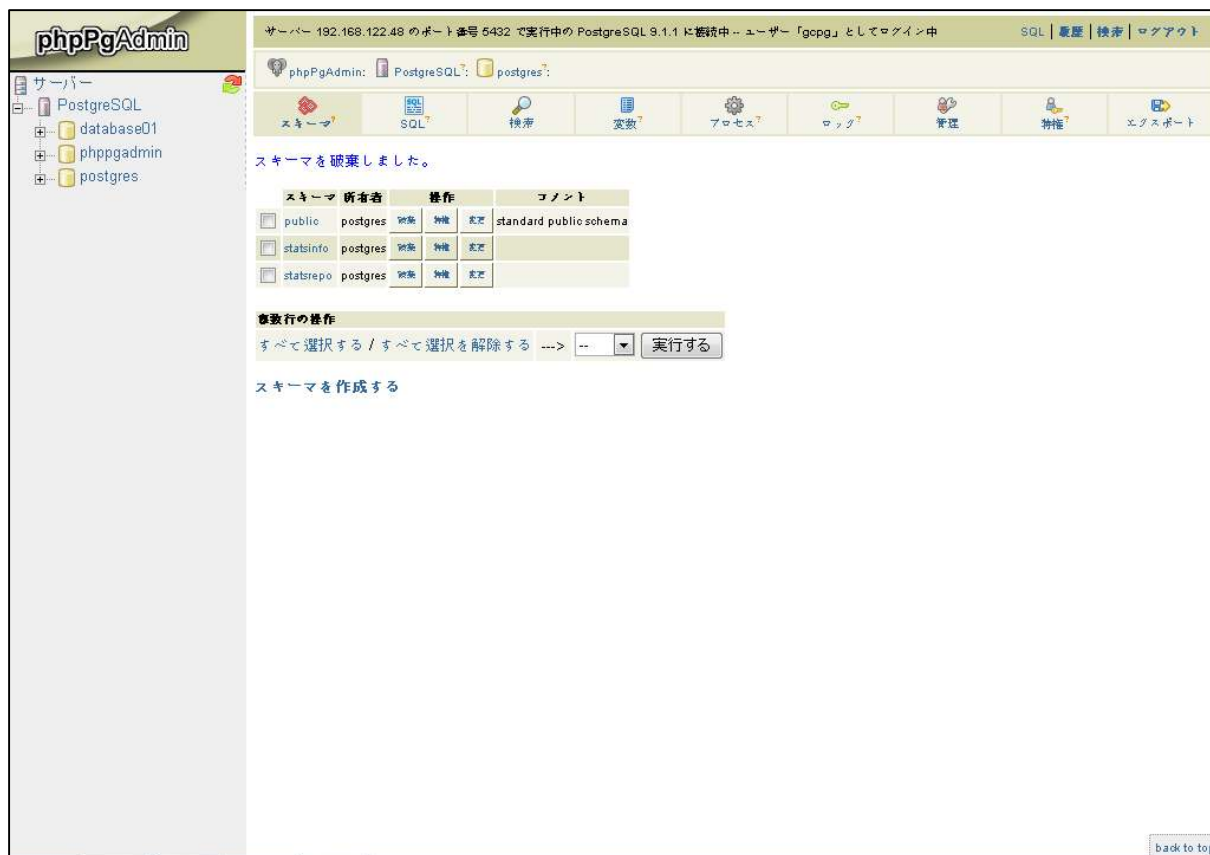


図 2-5-10 「スキーマ一覧操作」

2-5-1-II. スキーマの変更

★ スキーマの定義を変更します。

① 「スキーマ一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。

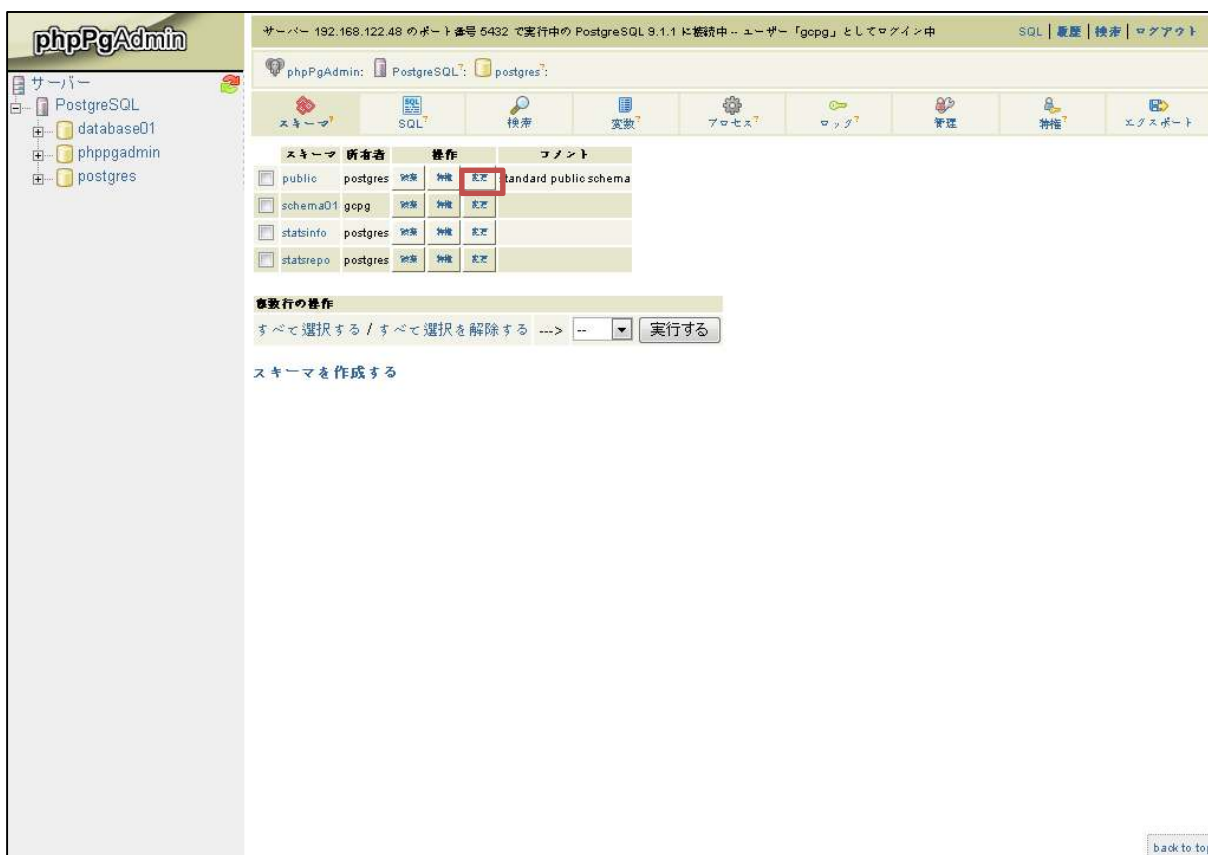


図 2-5-11 「スキーマ一覧操作」

② 「スキーマの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

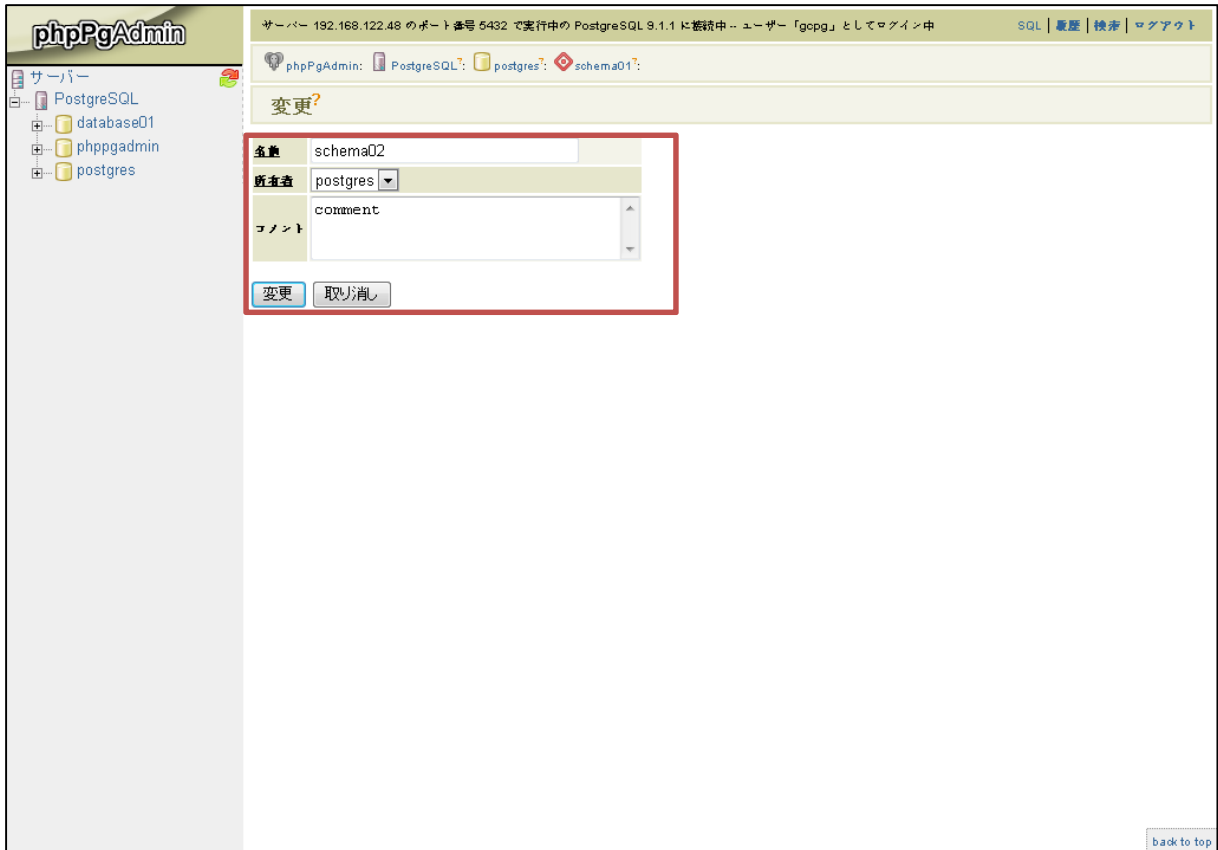


図 2-5-12 「スキーマの変更」

表 2-5-13 スキーマの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	スキーマの名称を指定します。
2	[所有者]	スキーマの所有者を指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「スキーマ一覧操作」でスキーマが変更されたことを確認します。

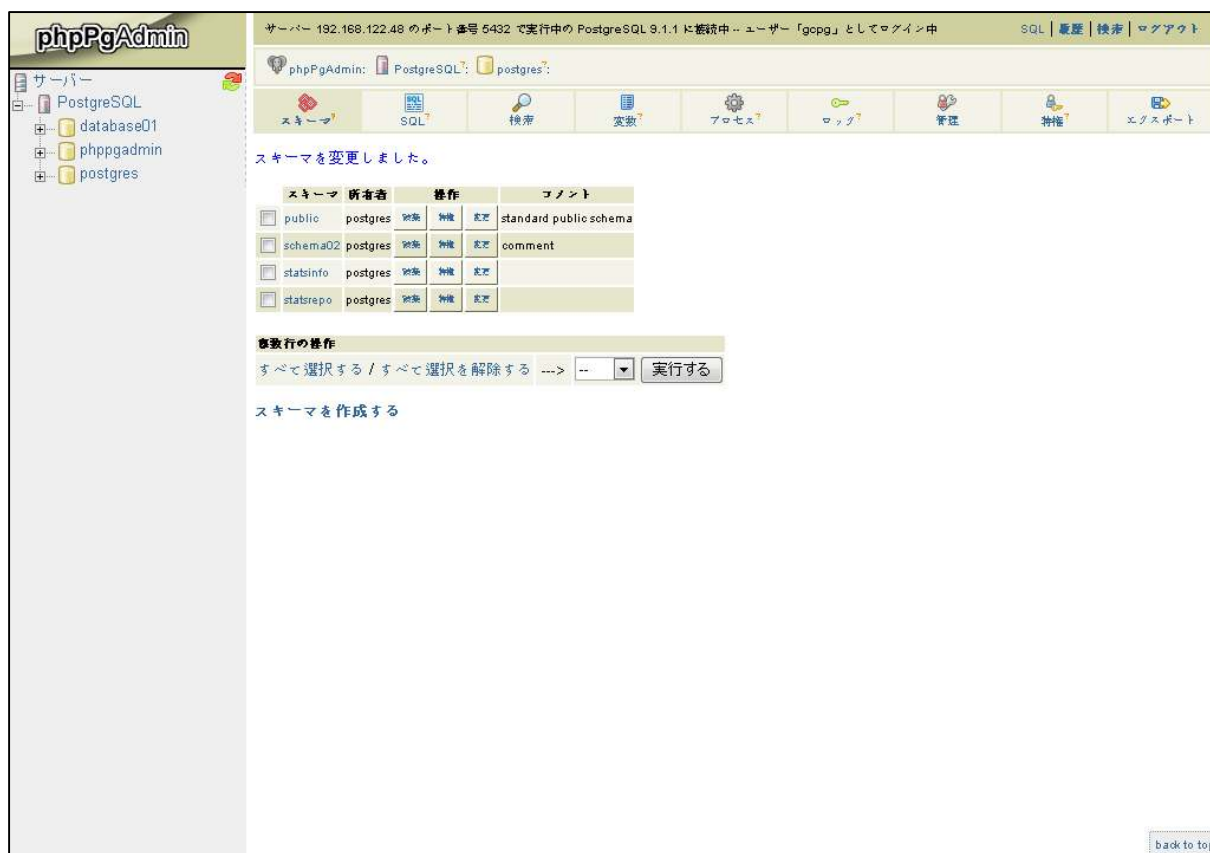


図 2-5-14 「スキーマ一覧操作」

2-5-1-III. スキーマの作成

★ スキーマを作成します。

① 「スキーマ一覧操作」で[スキーマを作成する]をクリックします。

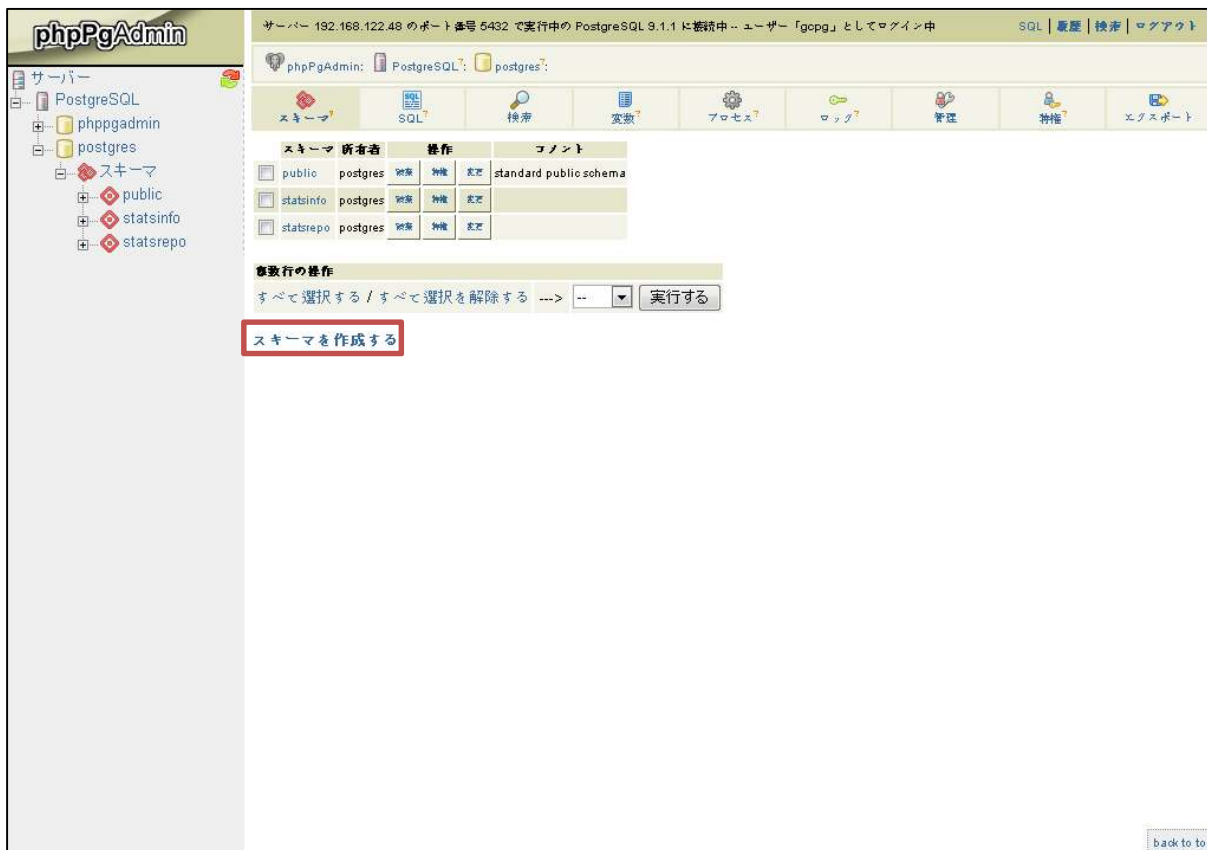


図 2-5-15 「スキーマ一覧操作」

② 「スキーマの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

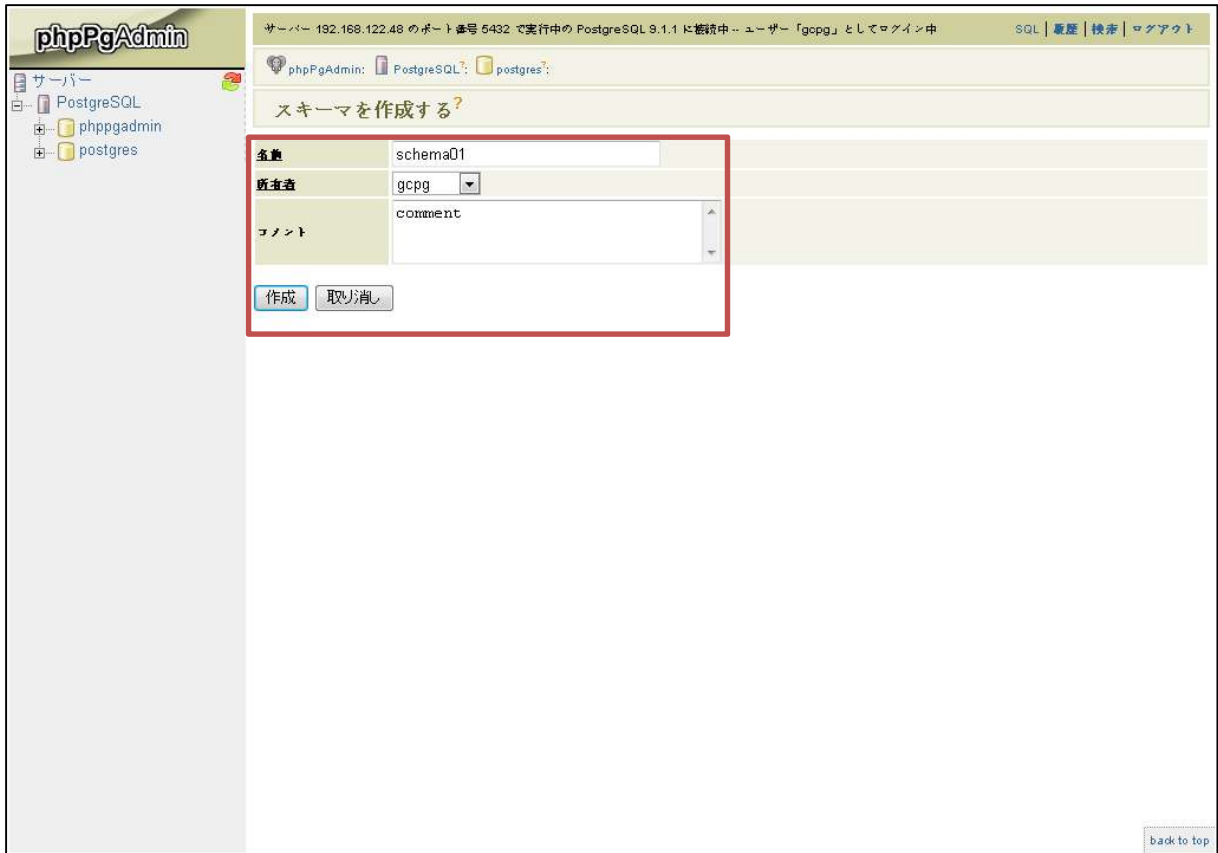


図 2-5-16 「スキーマの作成」

表 2-5-17 スキーマの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	スキーマの名称を指定します。
2	[所有者]	スキーマの所有者を指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「スキーマ一覧操作」でスキーマが作成されたことを確認します。

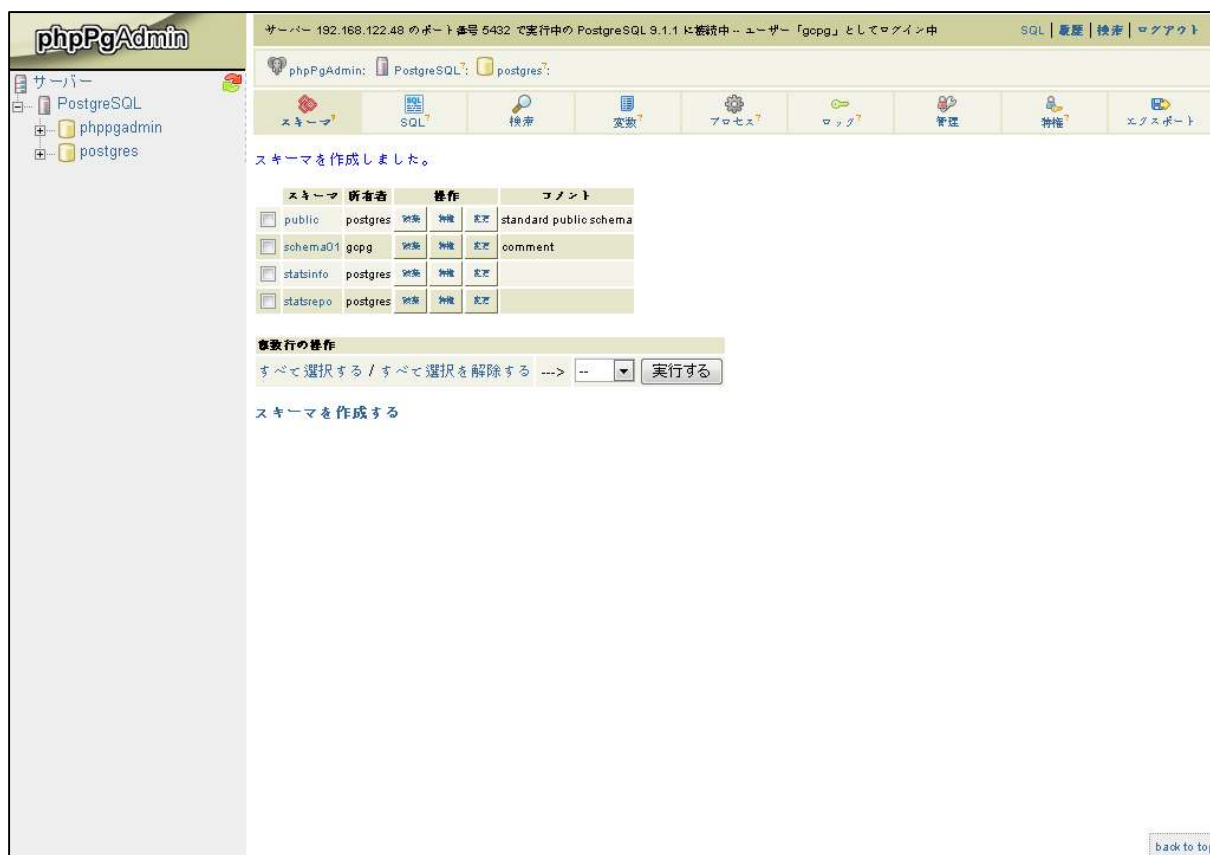


図 2-5-18 「スキーマ一覧操作」

2-5-2 SQL の実行

★ 実行したい SQL クエリを入力して、実行結果を表示します。

① 「データベース個別操作メニュー」で[SQL]をクリックします。

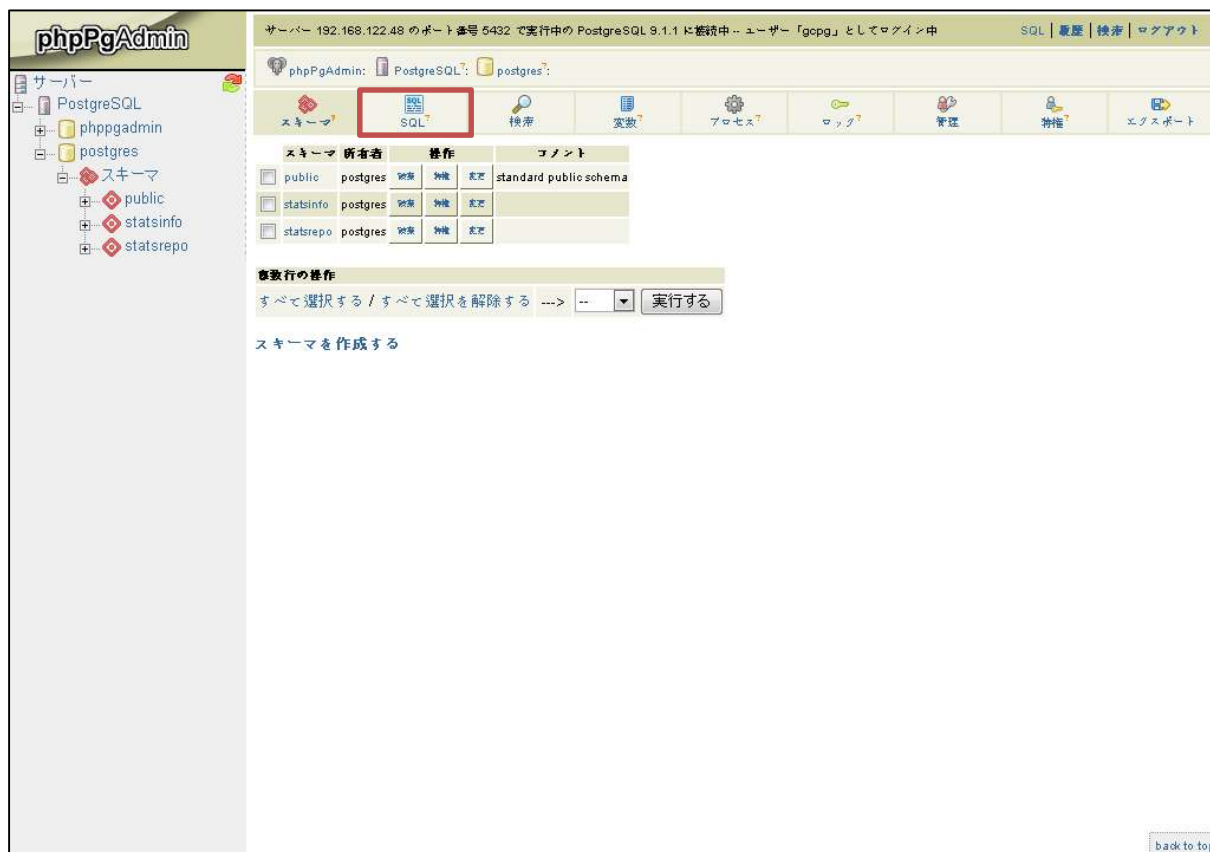


図 2-5-19 「データベース個別操作メニュー」

② 「SQLの実行」の表示を確認します。

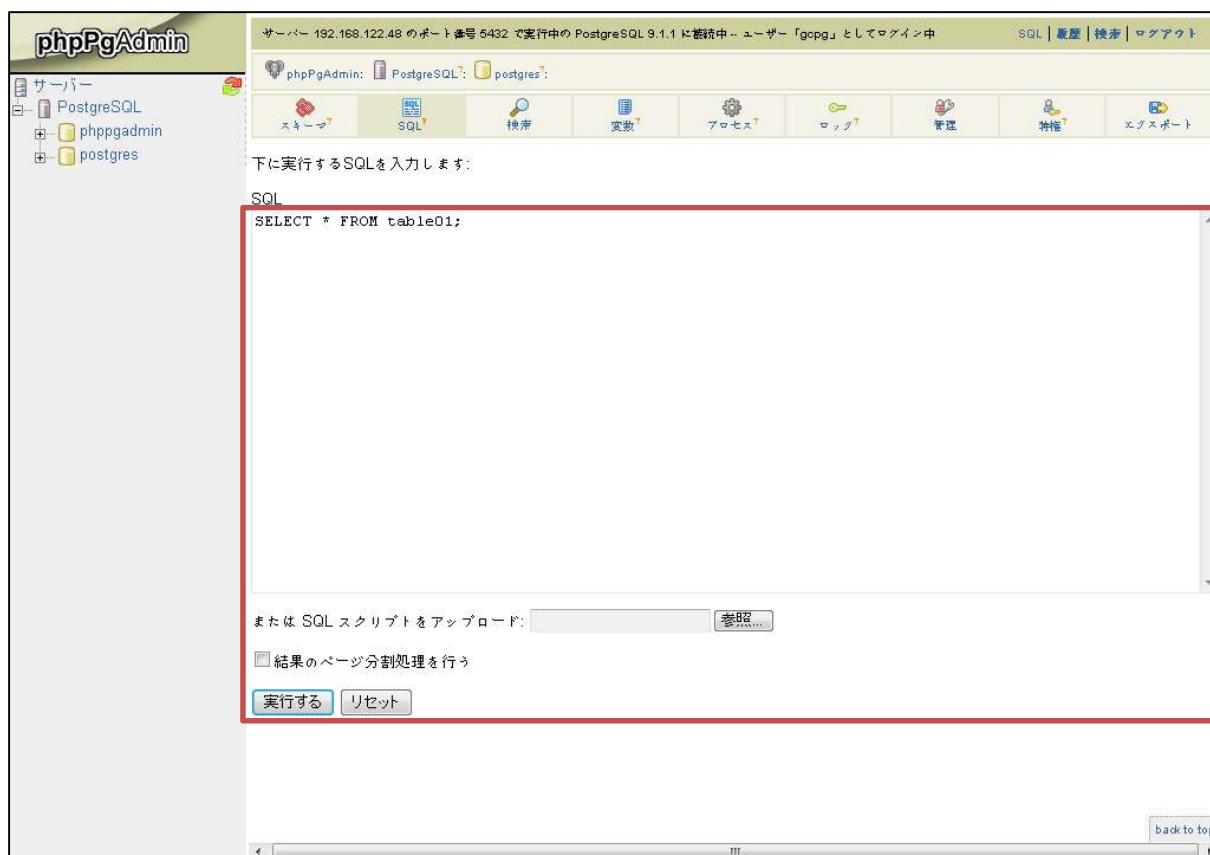


図 2-5-20 「SQLの実行」

表 2-5-21 SQLの実行画面項目

NO	項目名	説明
1	[SQL]	実行する SQL クエリを指定します。
2	[SQL スクリプトをアップロード]	実行する SQL クエリを[SQL]ではなく、クライアントマシン上のファイルをアップロードし、指定します。
3	[結果のページ分割処理を行う]	本項目を有効にすると、SQL の実行結果を一定の行数で分割して表示します。
4	[実行する]ボタン	SQL を実行します。
5	[リセット]ボタン	[SQL スクリプトをアップロード]、[結果のページ分割処理を行う]の内容を消去します。

③SQL の実行結果を確認します。



図 2-5-22 「SQL の実行結果」

表 2-5-23 SQL の実行結果画面項目

NO	項目名	説明
1	[SQL の編集]	「SQL の実行」を表示します。 詳細は 2-5-2 「SQL の実行」を参照してください。
2	[レポートを作成する]	実行した SQL クエリを元に「レポートの作成」を表示します。 詳細は 2-4-7-IV「レポートの作成」を参照してください。
3	[ダウンロード]	SQL の実行結果をエクスポートする「SQL の実行結果のエクスポート」表示します。 詳細は 2-5-2-I 「SQL の実行結果のエクスポート」を参照してください。

2-5-2-I. SQL の実行結果のエクスポート

★ SQL の実行結果をエクスポートします。

① 「SQL の実行結果」で [ダウンロード] をクリックします。

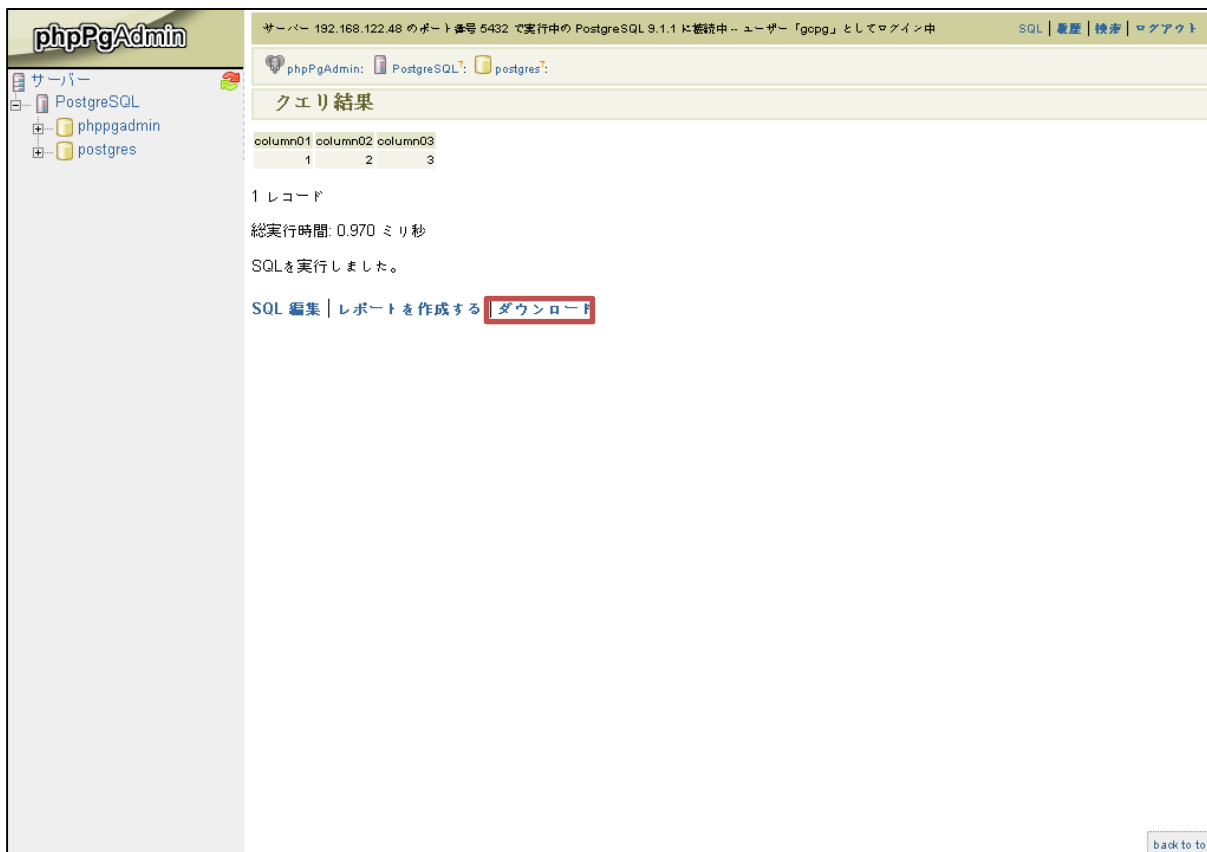


図 2-5-24 「SQL の実行結果」

② 「SQLの実行結果のエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

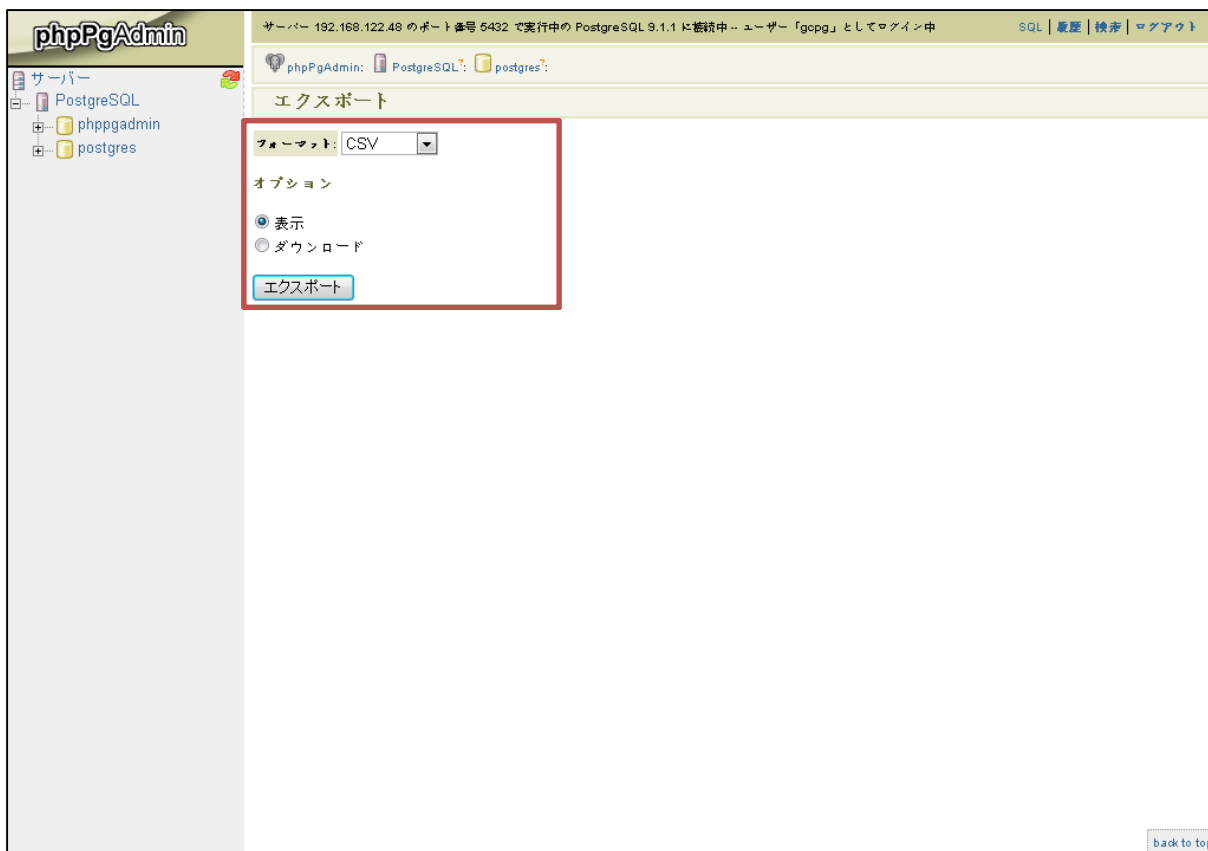


図 2-5-25 「SQLの実行結果のエクスポート」

表 2-5-26 SQLの実行結果のエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CSV ● タブ区切り ● XHTML ● XML
2	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
3	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。

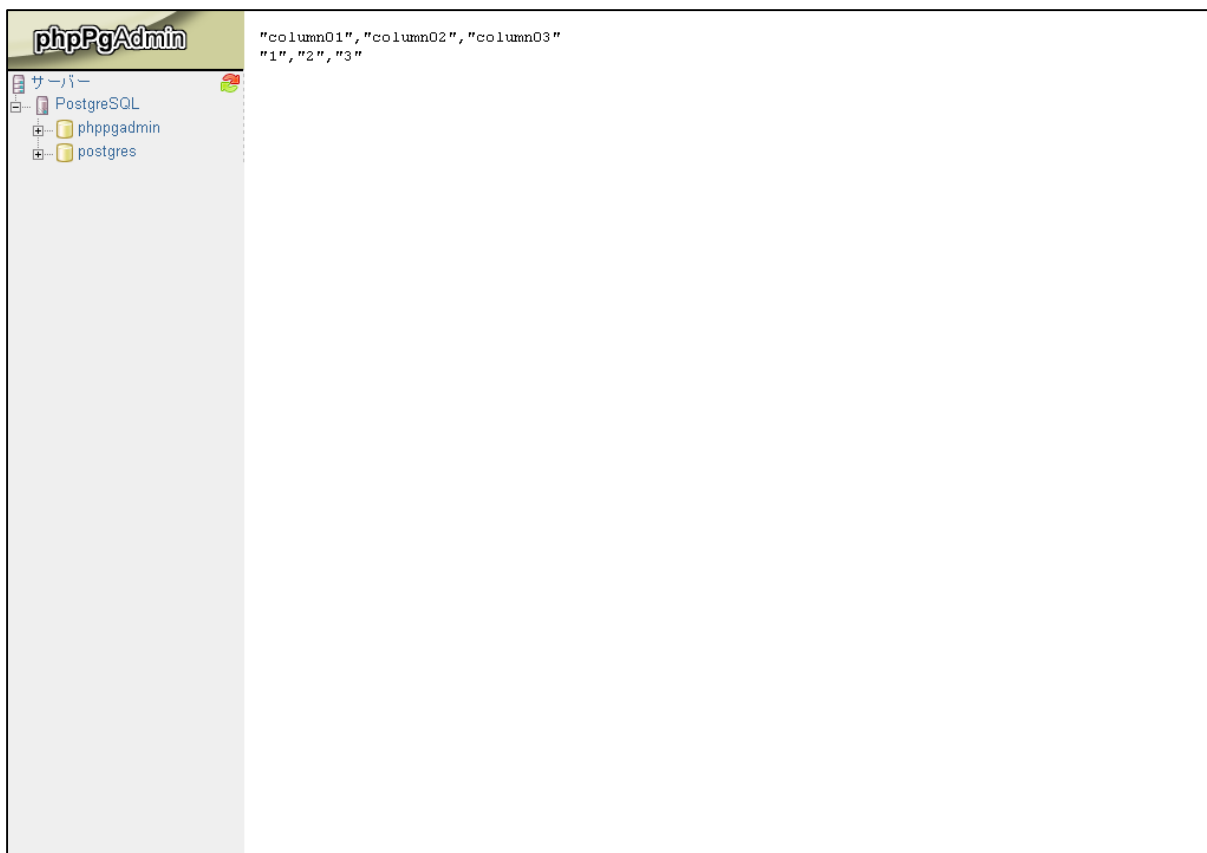


図 2-5-27 「SQLの実行結果のエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-5-28 「SQL の実行結果のエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-5-3 検索の実行

★ 入力された文字列に合致するオブジェクトを検索します。

① 「データベース個別操作メニュー」で[検索]をクリックします。

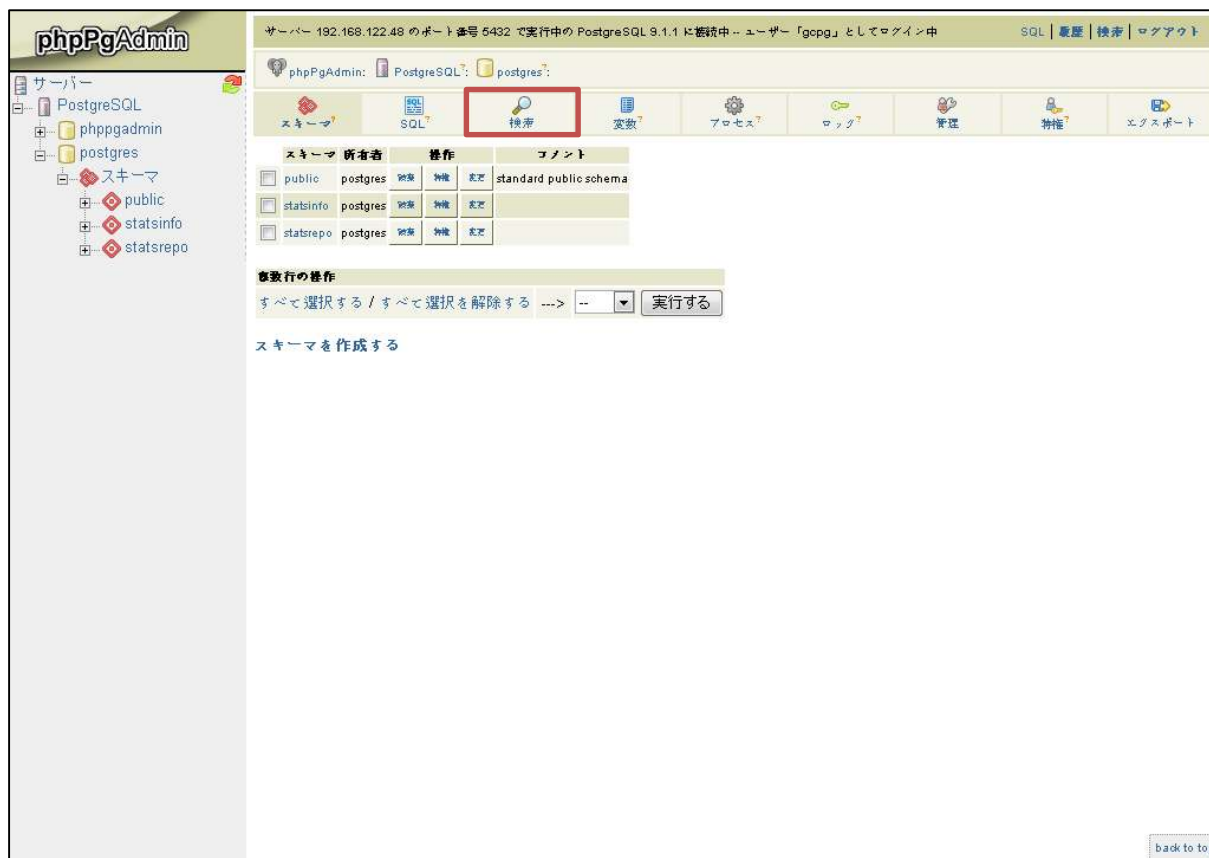


図 2-5-29 「データベース個別操作メニュー」

② 「検索の実行」の表示を確認します。

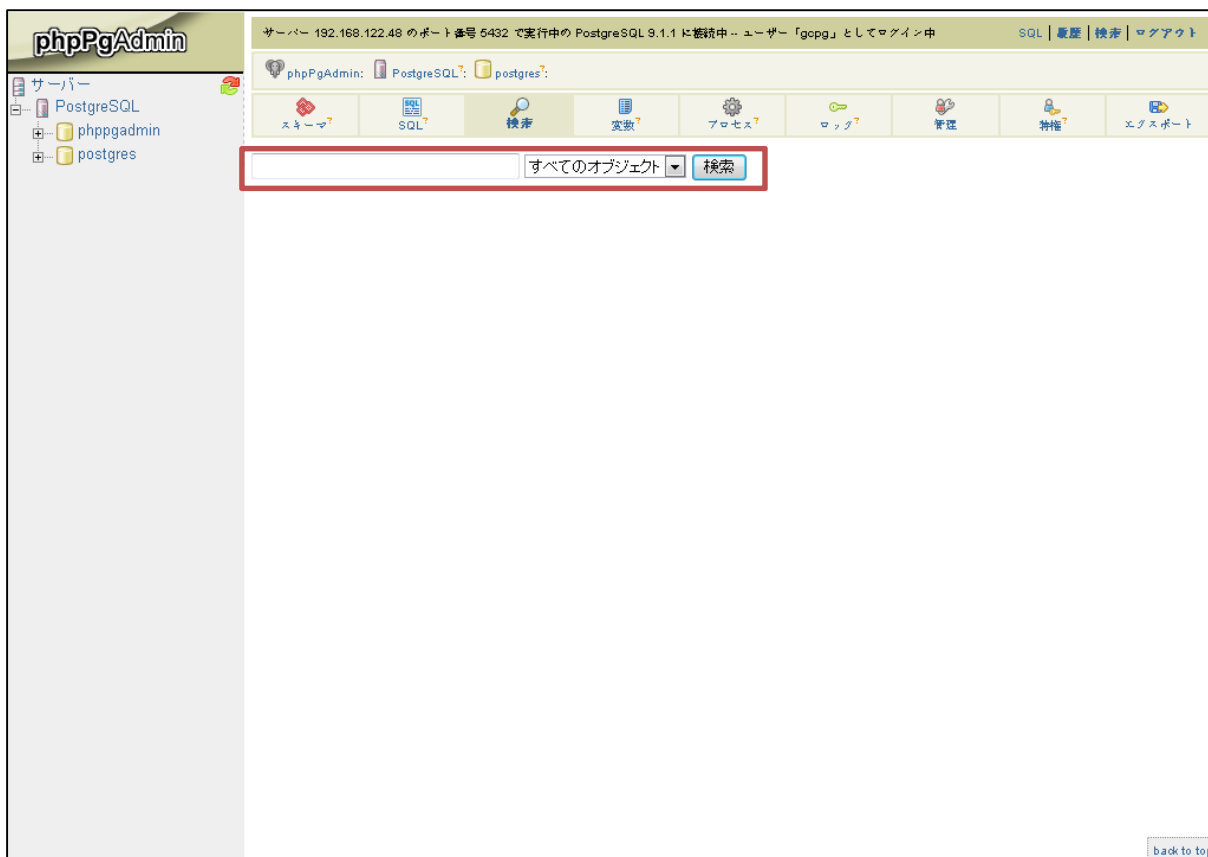


図 2-5-30 「検索の実行」

表 2-5-31 検索の実行画面項目

NO	項目名	説明
1	検索文字列	検索する文字列を指定します。
2	検索対象	<p>検索対象とするオブジェクトを下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべてのオブジェクト ● スキーマ ● テーブル ● ビュー ● シーケンス ● カラム ● ルール ● インデックス

		<ul style="list-style-type: none"> ● トリガー ● 検査制約 ● 関数 ● ドメイン
3	[検索]ボタン	検索を実行します。

②検索の実行結果を確認します。

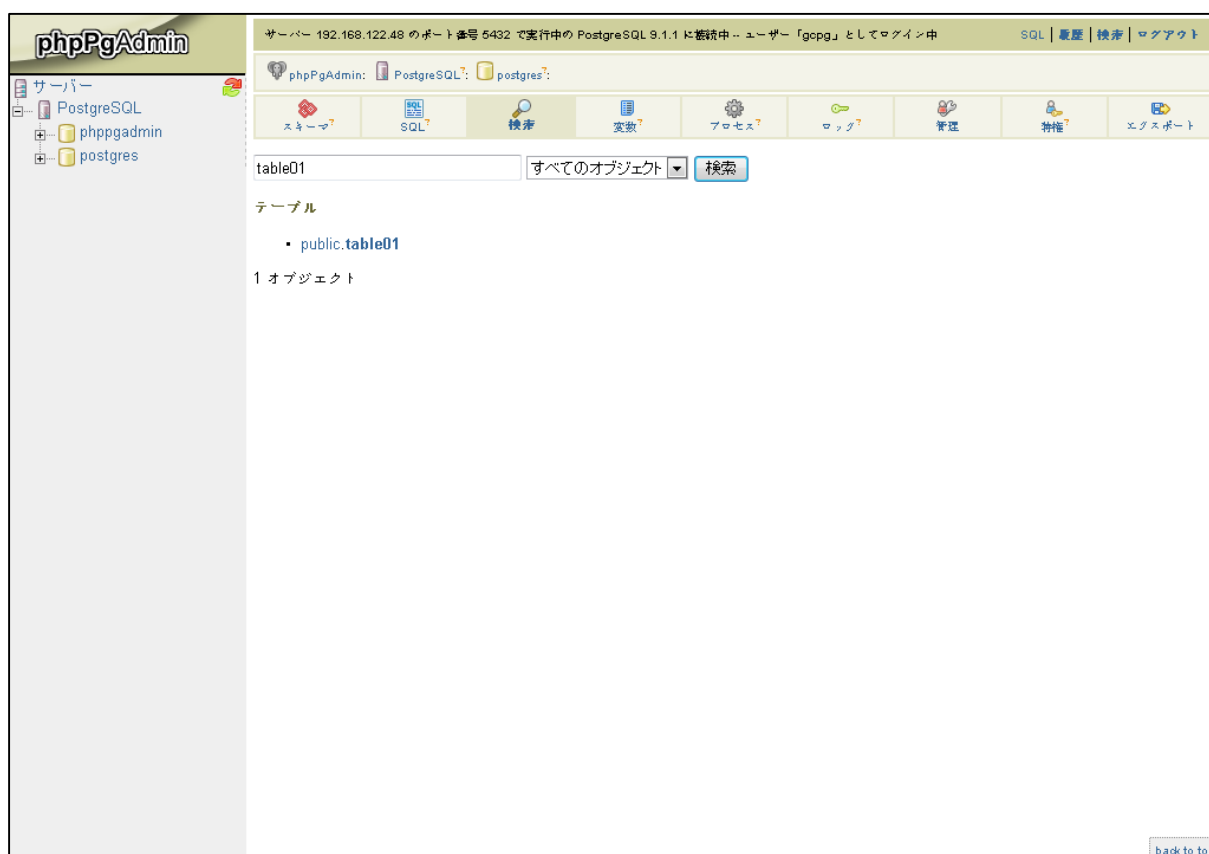


図 2-5-32 「検索の実行結果」

2-5-4 変数の表示

★ 設定されている変数名と値を表示します。

① 「データベース個別操作メニュー」で[変数]をクリックします。

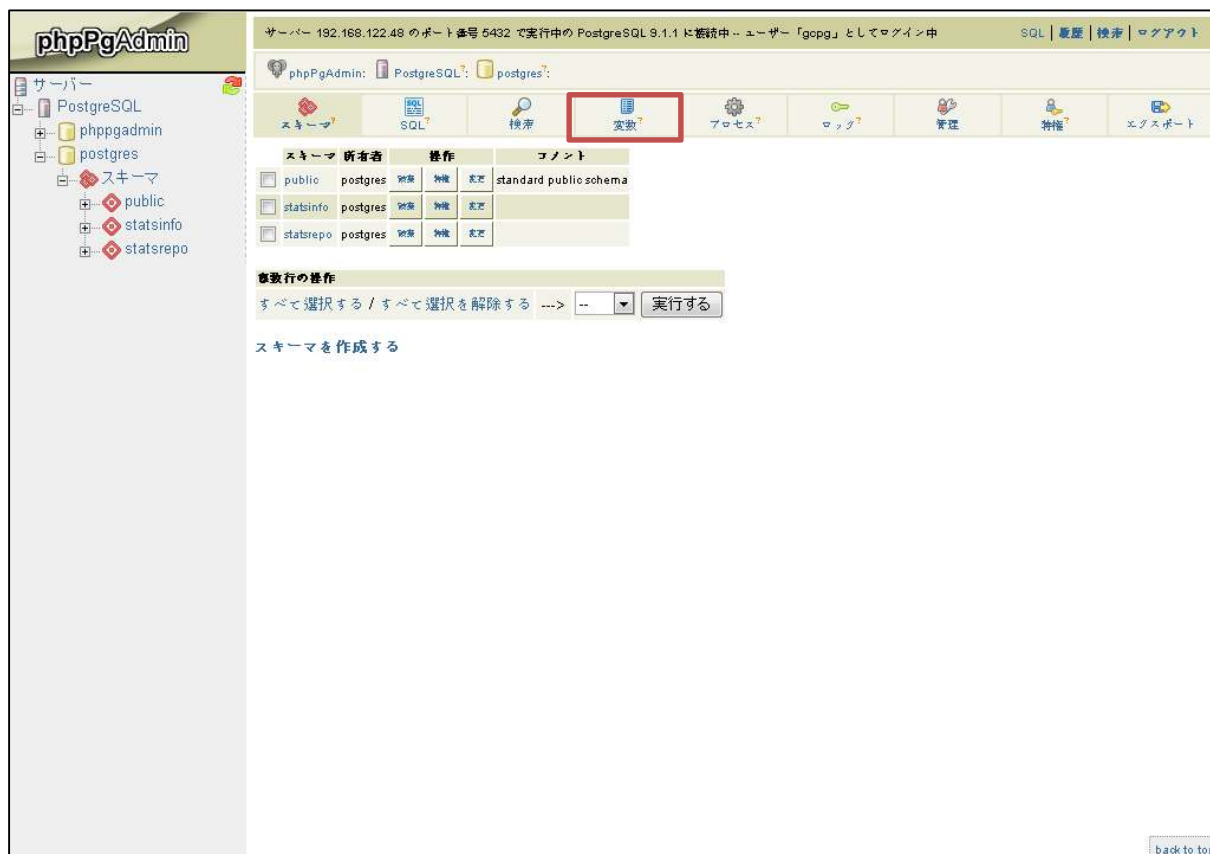


図 2-5-33 「データベース個別操作メニュー」

② 「検索の実行」の表示を確認します。

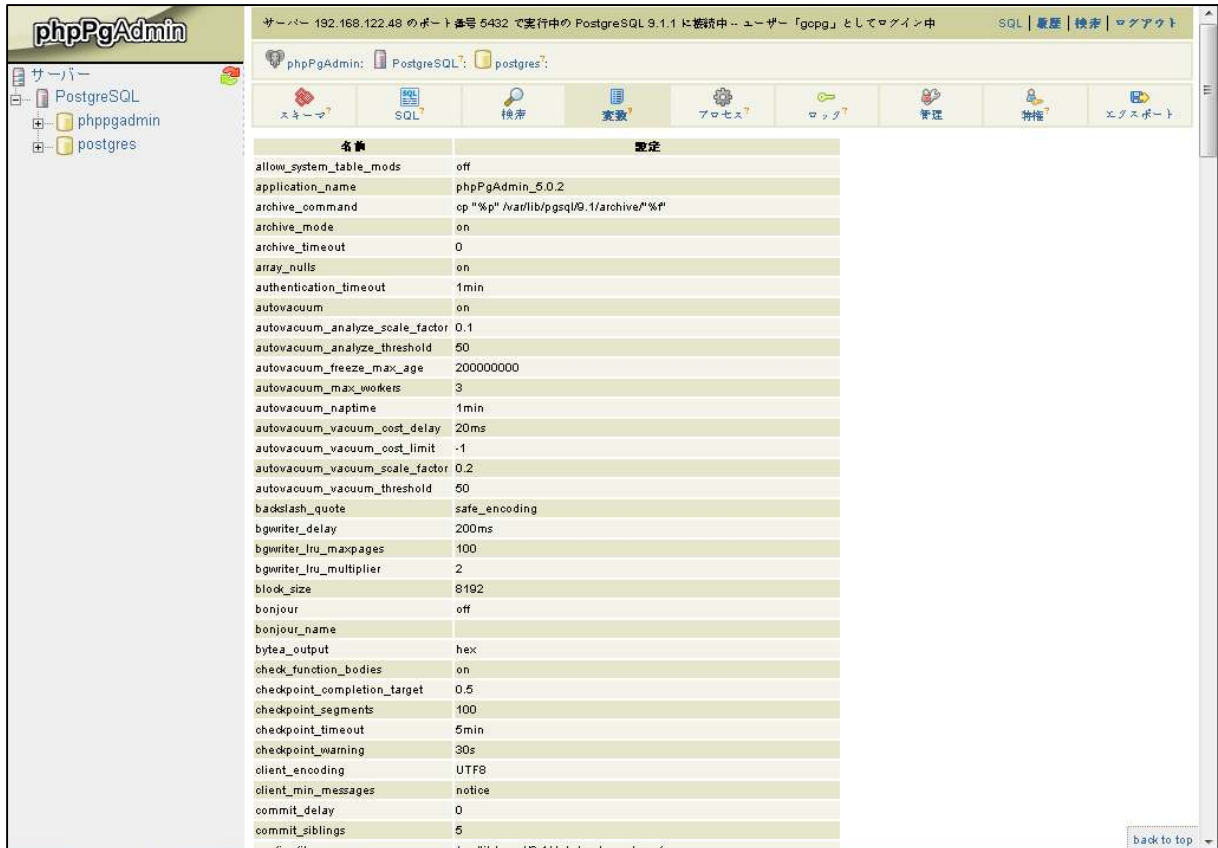


図 2-5-34 「検索の実行」

2-5-5 プロセス一覧操作

★現在指定されているデータベース内の実行中のトランザクションのプロセスを表示します。プロセスの取り消し、接続の強制切断ができます。

- ① 「データベース個別操作メニュー」で[プロセス]をクリックします。

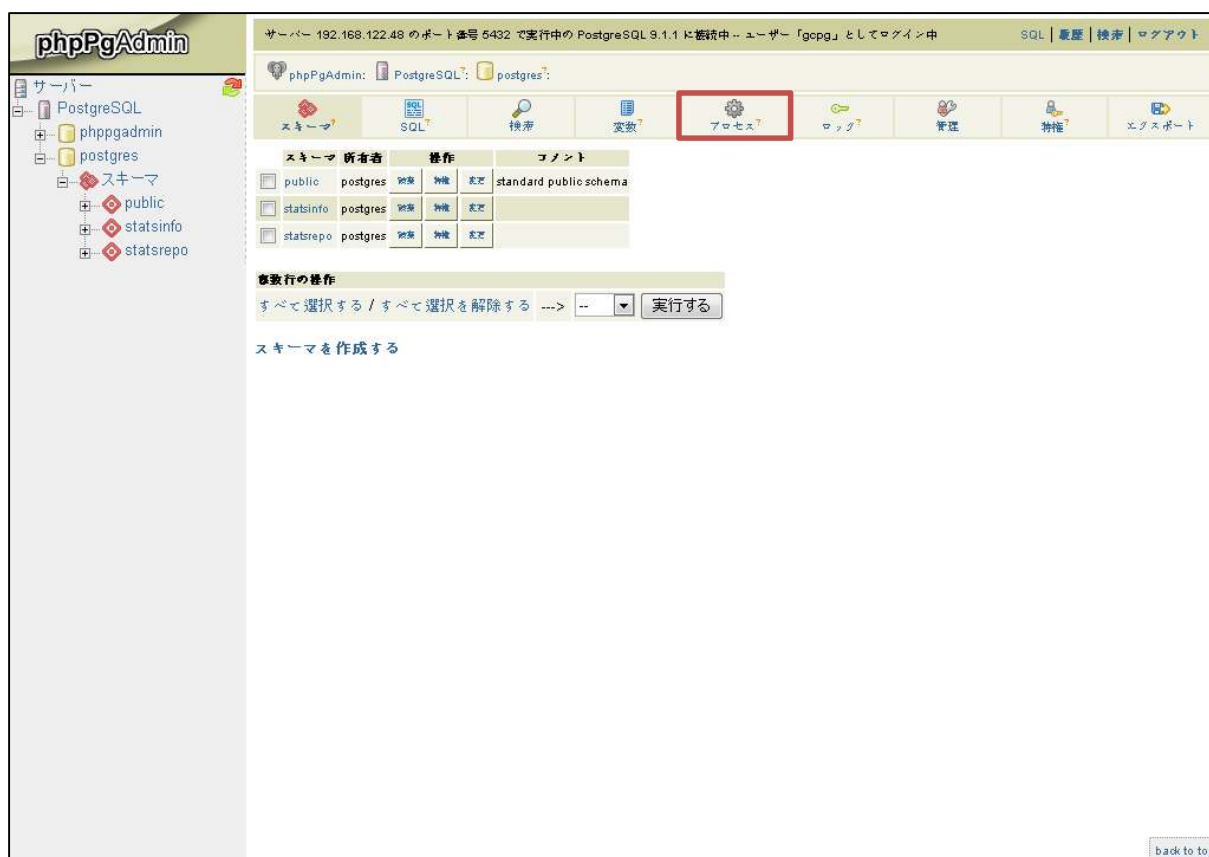


図 2-5-35 「データベース個別操作メニュー」

② 「プロセス一覧操作」の表示を確認します。

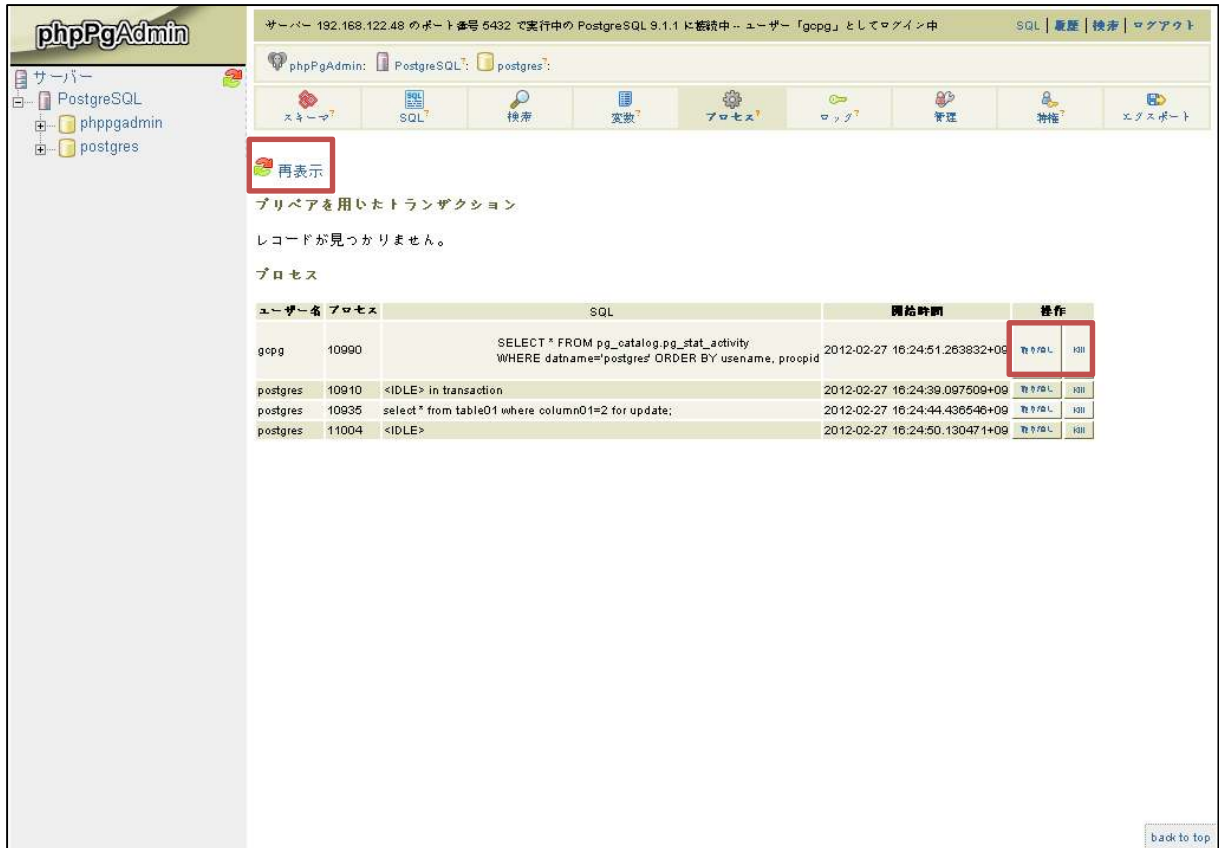


図 2-5-36 「プロセス一覧操作」

表 2-5-37 プロセス一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[再表示]	本画面を再表示します。
2	[取り消し]ボタン	プロセスに対して pg_cancel_backend を実行し、実行中の SQL クエリを取り消します。
3	[Kill]ボタン	プロセスに対して pg_terminate_backend を実行し、接続を強制切断します。「<IDLE> in transaction」状態になっている意図しないロングトランザクションを終了させるために使用できます。

2-5-5-I. プロセスの取り消し

★ プロセスをキャンセルします。

① 「プロセス一覧操作」で[取り消し]ボタンをクリックします。

サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中 -- ユーザー「gppg」としてログイン中 SQL | 履歴 | 検索 | ログアウト

phpPgAdmin: PostgreSQL: postgres:

スニーマ SQL 検索 変数 プロセス ログ 管理 権限 エクスポート

再表示

プリペアを用いたトランザクション

レコードが見つかりません。

プロセス

ユーザー名	プロセス	SQL	開始時刻	操作
gppg	10990	SELECT * FROM pg_catalog.pg_stat_activity WHERE datname='postgres' ORDER BY username, procpid	2012-02-27 16:24:51.263832+09	取り消し 強制終了
postgres	10910	<IDLE> in transaction	2012-02-27 16:24:39.097509+09	取り消し 強制終了
postgres	10935	select * from table01 where column01=2 for update;	2012-02-27 16:24:44.436546+09	取り消し 強制終了
postgres	11004	<IDLE>	2012-02-27 16:24:50.130471+09	取り消し 強制終了

back to top

図 2-5-38 「プロセス一覧操作」

② 「シグナル送信」と表示されることを確認します。その後、[プロセス]をクリックし、「プロセス一覧操作」を再表示します。

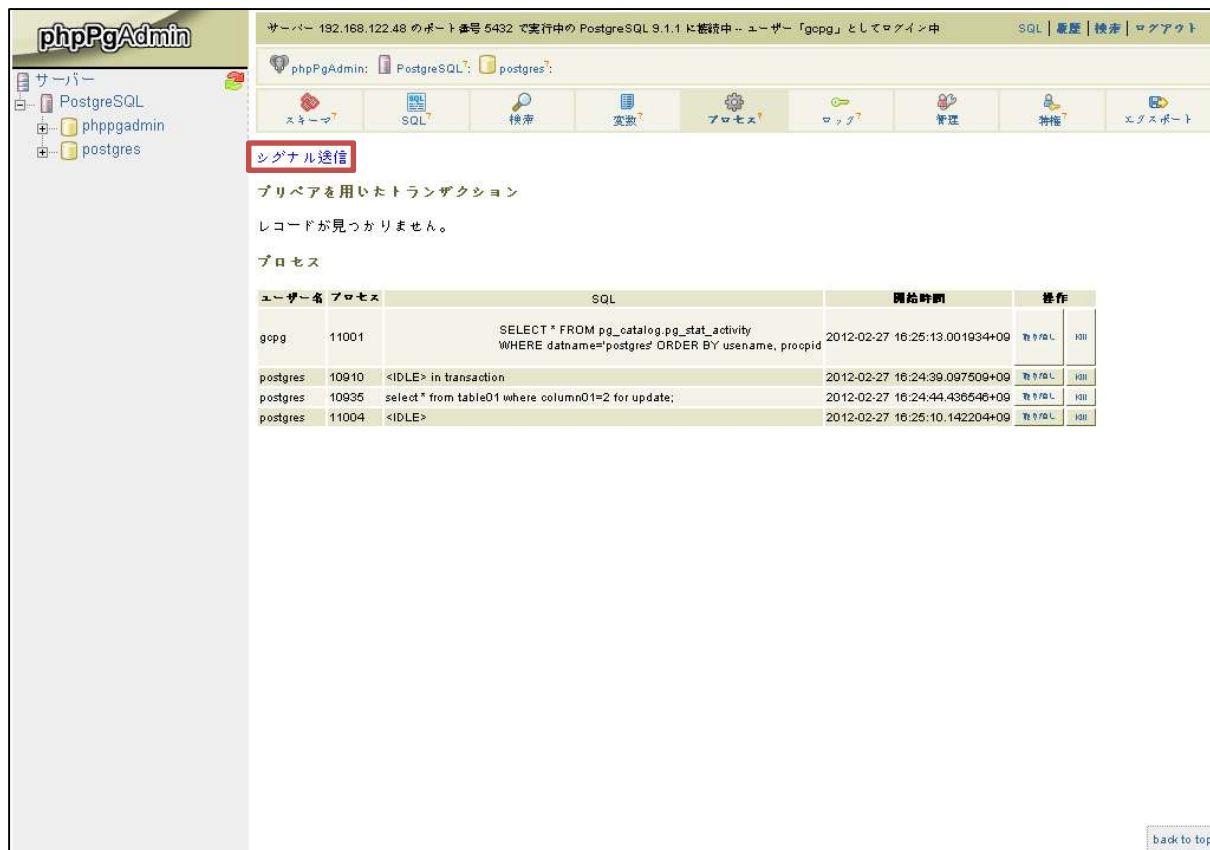


図 2-5-39 「プロセス一覧操作」

③ 「プロセス一覧操作」でプロセスがキャンセルされていることを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface. The top navigation bar includes 'サーバー', 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', and 'postgres'. The main content area displays the 'プロセス' (Processes) section. A table lists active processes with columns for 'ユーザー名', 'プロセス', 'SQL', '開始時刻', and '操作'. The process with ID 10935 is highlighted in red, showing the state '<IDLE> in transaction (aborted)'. The SQL query for the process with ID 11005 is visible: 'SELECT * FROM pg_catalog.pg_stat_activity WHERE datname='postgres' ORDER BY username, procpid'.

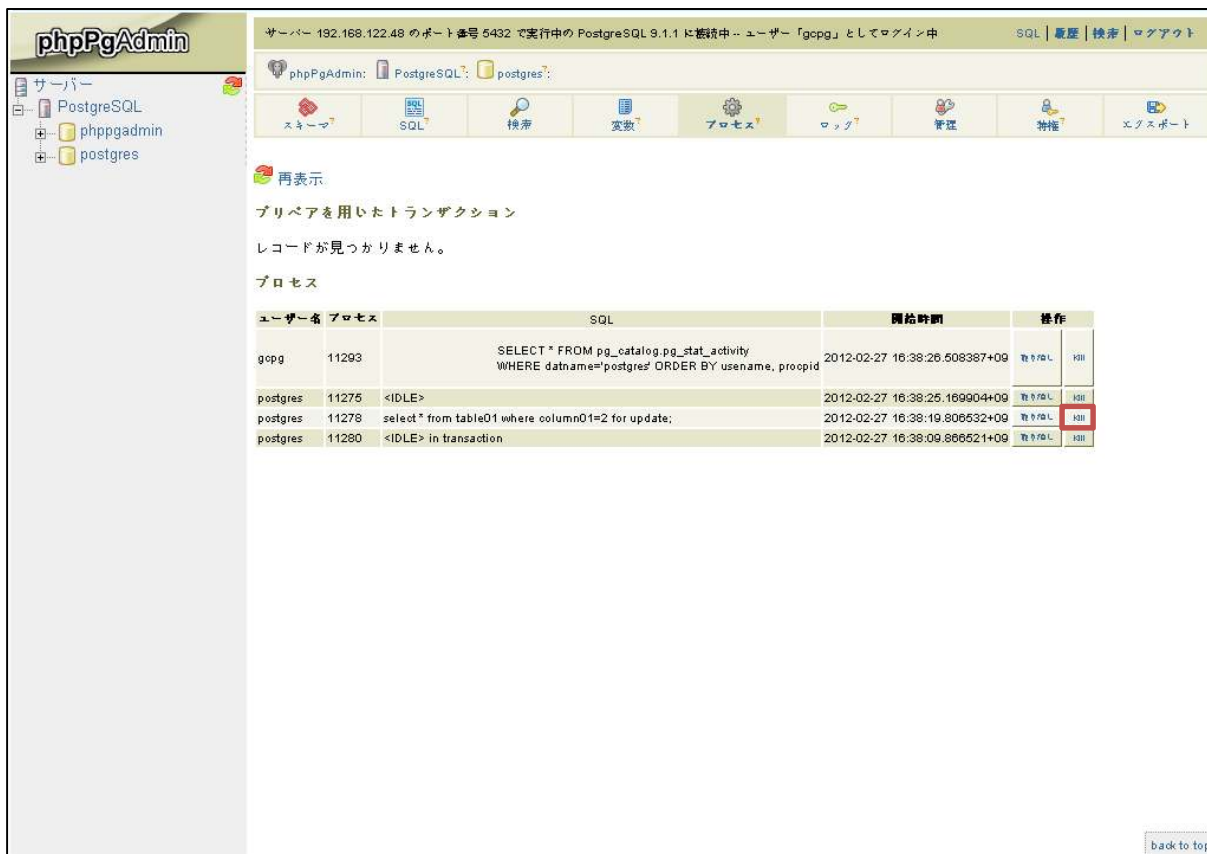
ユーザー名	プロセス	SQL	開始時刻	操作
gopg	11005	SELECT * FROM pg_catalog.pg_stat_activity WHERE datname='postgres' ORDER BY username, procpid	2012-02-27 16:25:39.457891+09	再表示 強制終了
postgres	10910	<IDLE> in transaction	2012-02-27 16:24:39.097509+09	再表示 強制終了
postgres	10935	<IDLE> in transaction (aborted)	2012-02-27 16:24:44.436646+09	再表示 強制終了
postgres	11003	<IDLE>	2012-02-27 16:25:37.058899+09	再表示 強制終了
postgres	11004	<IDLE>	2012-02-27 16:25:35.157298+09	再表示 強制終了

図 2-5-40 「プロセス一覧操作」

2-5-5-II. プロセスの終了

★ プロセスを終了します。

① 「プロセス一覧操作」で[Kill]ボタンをクリックします。



サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中 -- ユーザー「gppg」としてログイン中

phpPgAdmin: PostgreSQL: postgres:

スリープ SQL 検索 変数 プロセス ログ 管理 権限 エクスポート

再表示

プリベアを用いたトランザクション

レコードが見つかりません。

プロセス

ユーザー名	プロセス	SQL	開始時間	操作
gppg	11293	SELECT * FROM pg_catalog.pg_stat_activity WHERE datname='postgres' ORDER BY username, procpid	2012-02-27 16:38:26.508387+09	刷新 Kill
postgres	11275	<IDLE>	2012-02-27 16:38:25.169904+09	刷新 Kill
postgres	11278	select * from table01 where column01=2 for update;	2012-02-27 16:38:19.806532+09	刷新 Kill
postgres	11280	<IDLE> in transaction	2012-02-27 16:38:09.886621+09	刷新 Kill

back to top

図 2-5-41 「プロセス一覧操作」

② 「シグナル送信」と表示され、プロセスが終了していることを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface. The top navigation bar includes 'SQL', '履歴', and 'ログアウト'. The left sidebar shows a tree view with 'PostgreSQL' expanded to 'phpPgAdmin' and 'postgres'. The main content area has a 'プロセス' (Processes) tab selected. A red box highlights the 'シグナル送信' (Signal Send) button. Below this, there is a message: 'プリペアを用いたトランザクションレコードが見つかりません。' (No records found for prepared transactions). Below that, a table titled 'プロセス' (Processes) displays active database processes.

ユーザー名	プロセス	SQL	開始時刻	操作
gopg	11295	SELECT * FROM pg_catalog.pg_stat_activity WHERE datname='postgres' ORDER BY usename, procpid	2012-02-27 16:38:49.862008+09	やり直し Kill
postgres	11275	<IDLE>	2012-02-27 16:38:45.180925+09	やり直し Kill
postgres	11280	<IDLE> in transaction	2012-02-27 16:38:09.866521+09	やり直し Kill

図 2-5-42 「プロセス一覧操作」

2-5-6 ロック一覧

★オープン中のトランザクションにより獲得されたロックを表示します。

①「データベース個別操作メニュー」で[ロック]をクリックします。

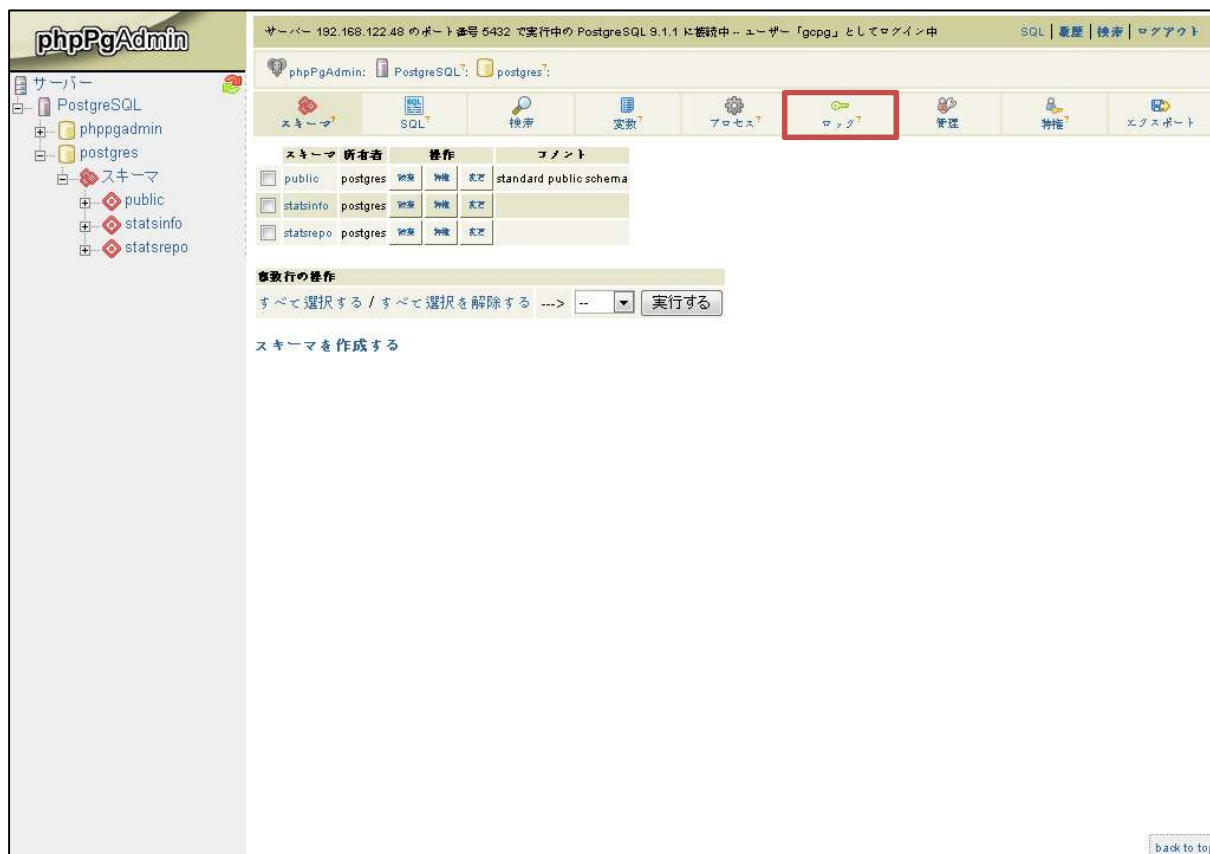


図 2-5-43 「データベース個別操作メニュー」

② 「ロッカー一覧」の表示を確認します。

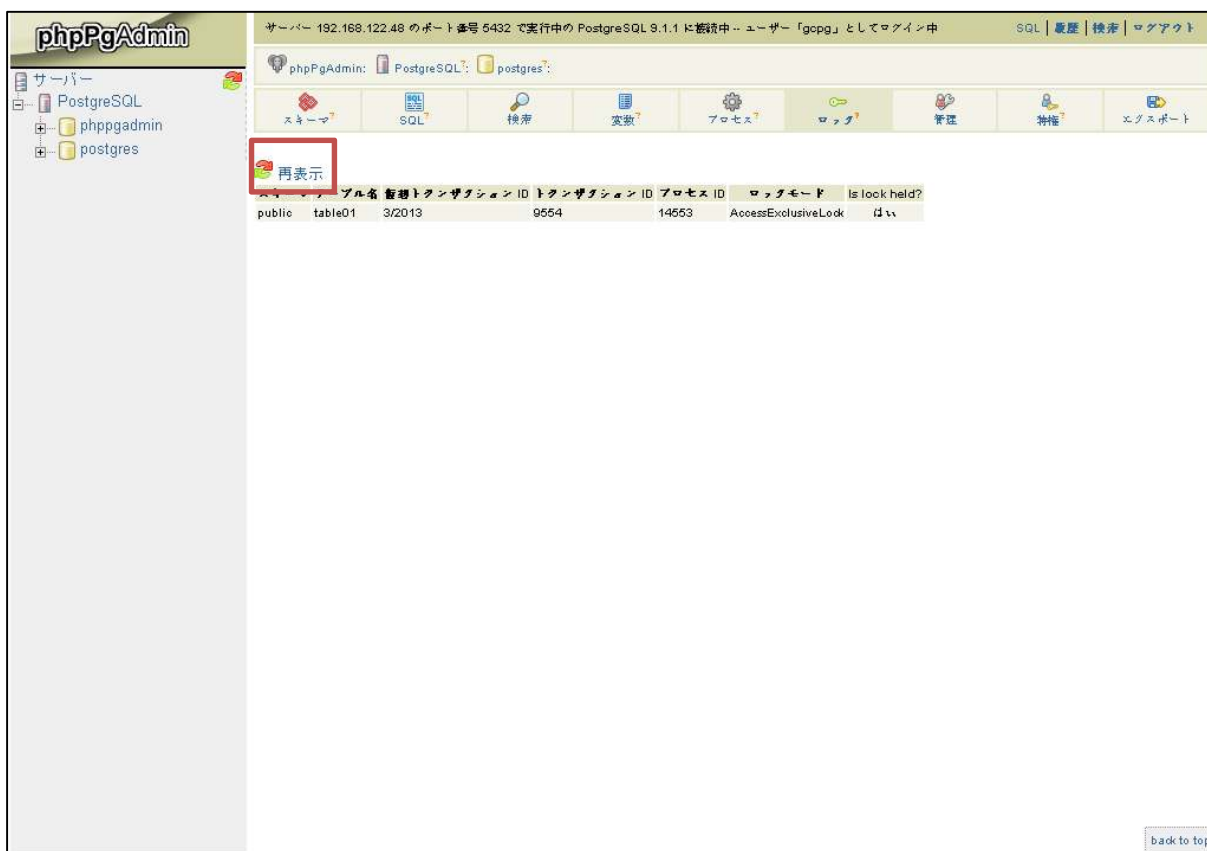


図 2-5-44 「ロッカー一覧」

表 2-5-45 プロセス一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[再表示]	本画面を再表示します。

2-5-7 データベースの管理

★ 「データベースの管理」を表示します。データベースのバックアップ、全テーブルの解析、クラストライズ、再インデックスができます。

- ① 「データベース個別操作メニュー」で [管理]をクリックします。

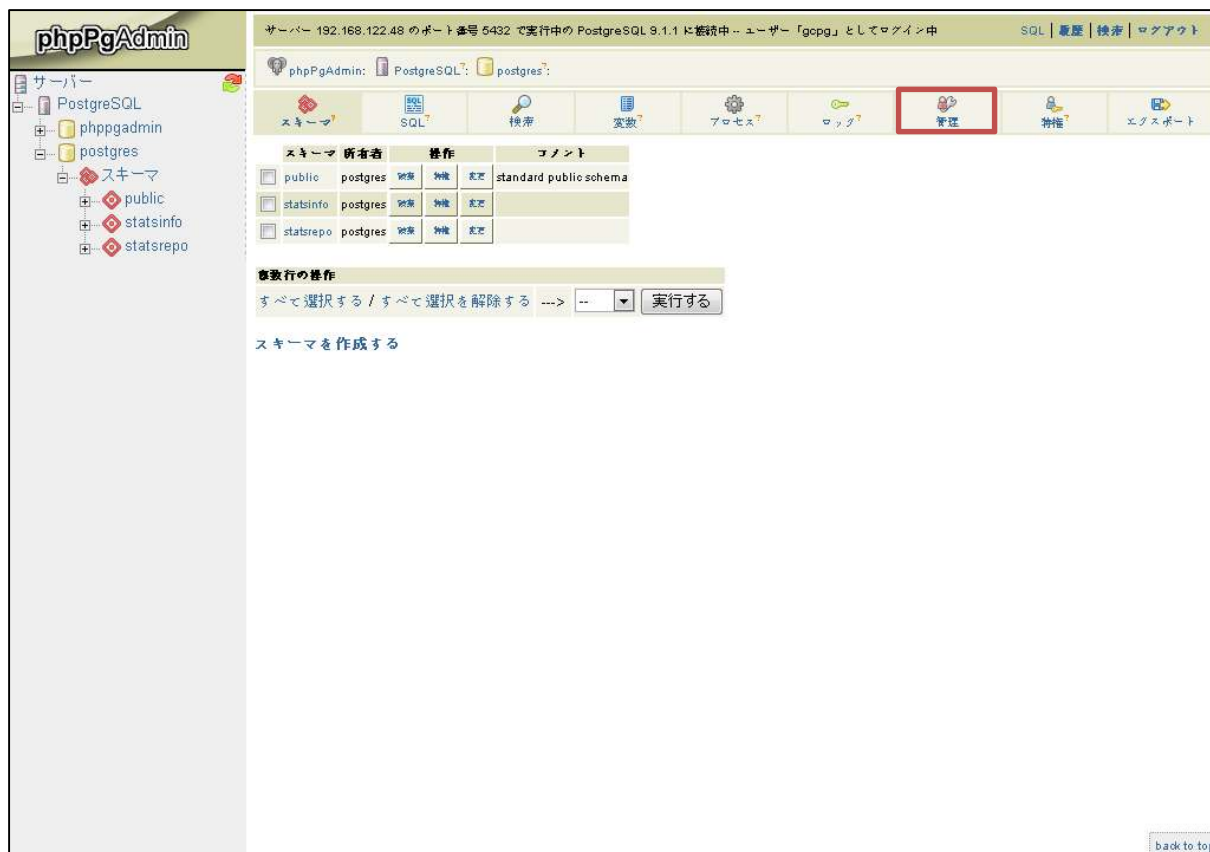


図 2-5-46 「データベース個別操作メニュー」

② 「データベースの管理」の表示を確認します。

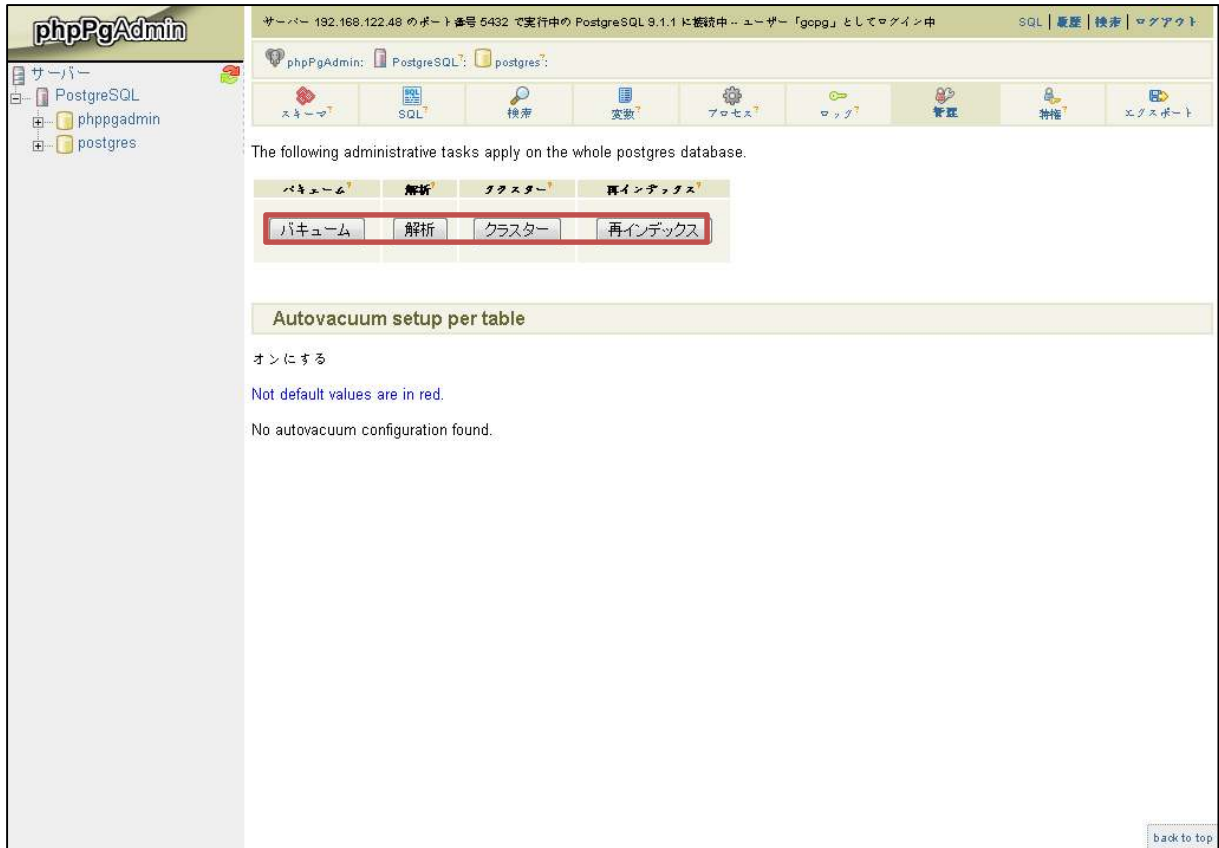


図 2-5-47 「データベースの管理」

表 2-5-48 データベースの管理画面項目

NO	項目名	説明
1	[バキューム]ボタン	データベースの不要領域を回収します。(VACUUM に相当)
2	[解析]ボタン	データベースについての統計を集計します。(ANALYZE に相当)
3	[クラスター]ボタン	インデックスに従って全テーブルをクラスター化します。(CLUSTER に相当)
4	[再インデックス]ボタン	インデックスを再構築します。(REINDEX に相当)

2-5-7-I. データベースのバキューム

★ データベースの不要領域を回収します。

① 「データベースの管理」で[バキューム]ボタンをクリックします。

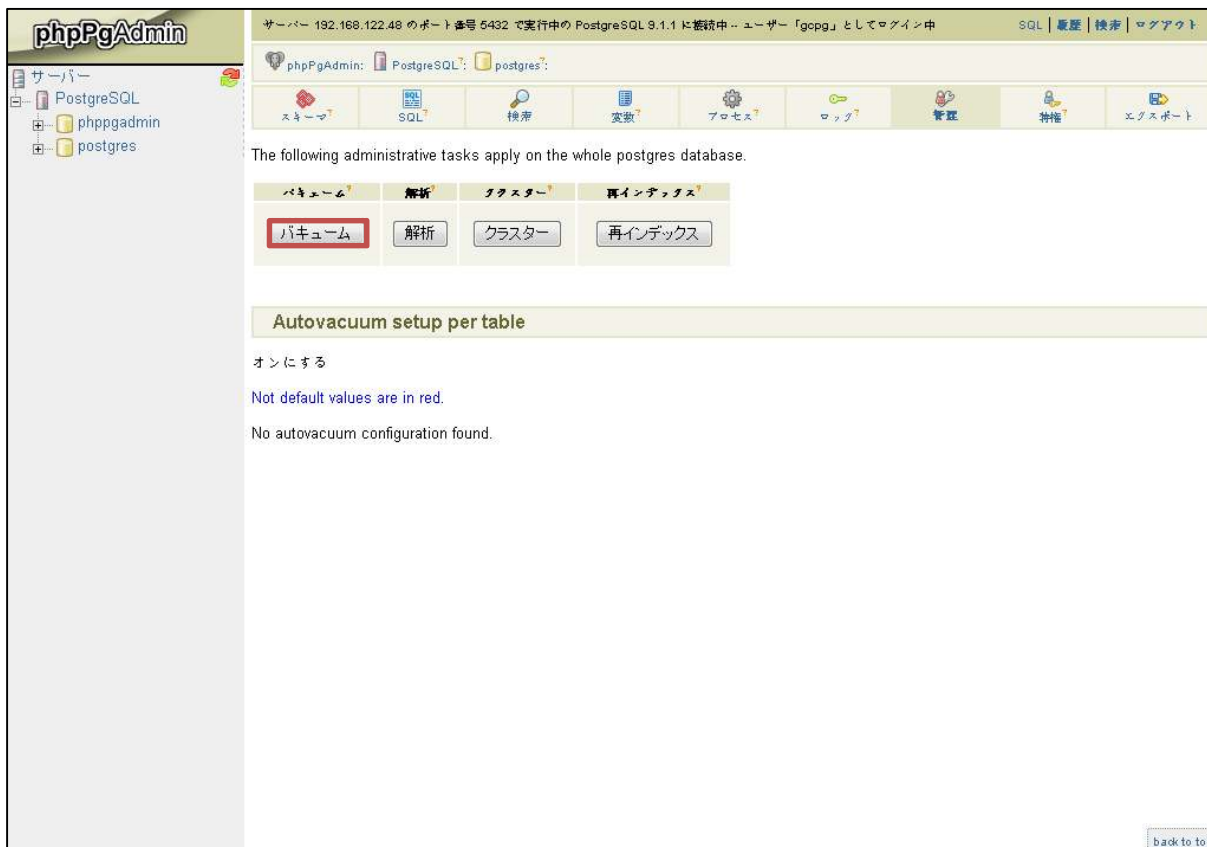


図 2-5-49 「データベースの管理」

② 「データベースのバキューム」で[バキューム]ボタンをクリックします。

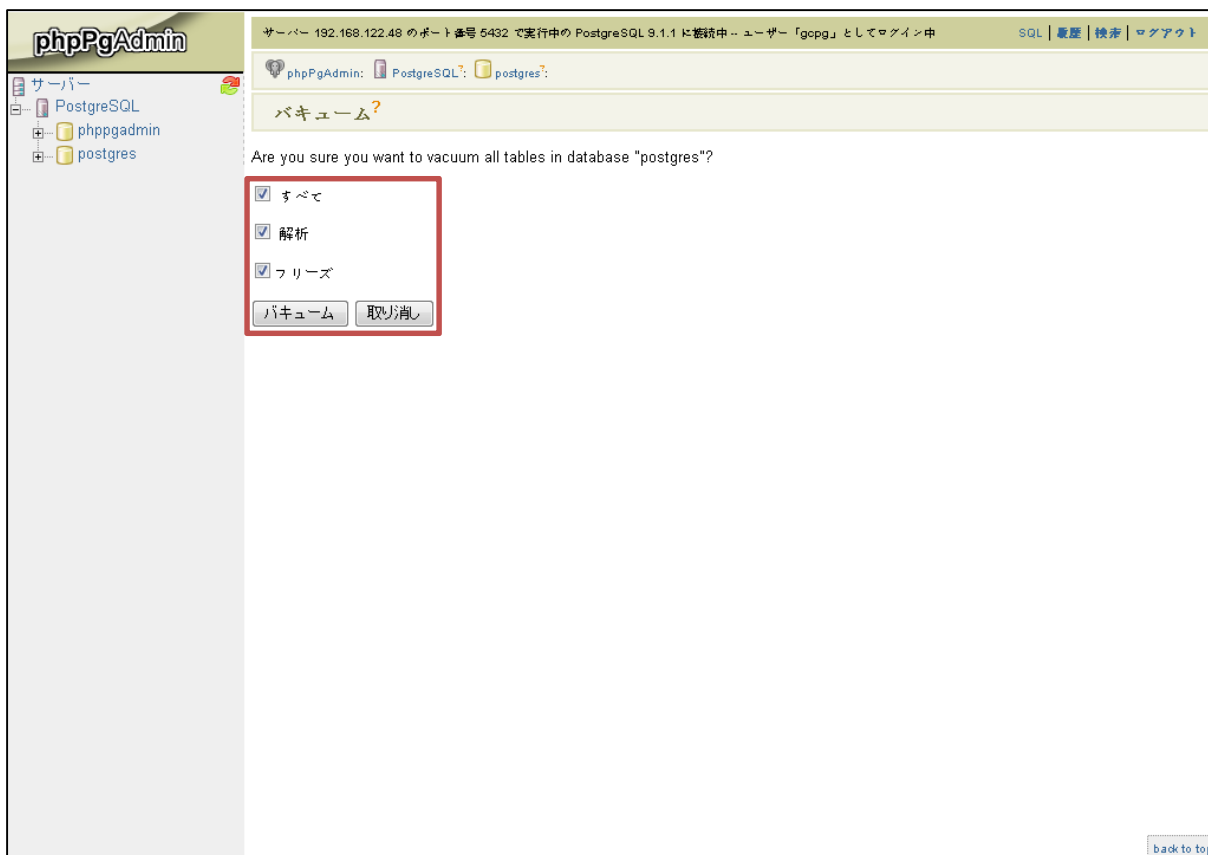


図 2-5-50 「データベースのバキューム」

表 2-5-51 データベースのバキューム画面項目

NO	項目名	説明
1	[すべて]	本項目を有効にすると、完全なバキュームを実行します。ただし、通常よりも時間がかかります。また、排他ロックも必要になります。
2	[解析]	ANALYZE を実行し、統計情報を更新します。
3	[フリーズ]	積極的にタプルの凍結(トランザクション ID を特殊な ID に置き換える処理)を行います。
4	[バキューム]ボタン	バキューム操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの管理」でバキュームが実行されたことを確認します。

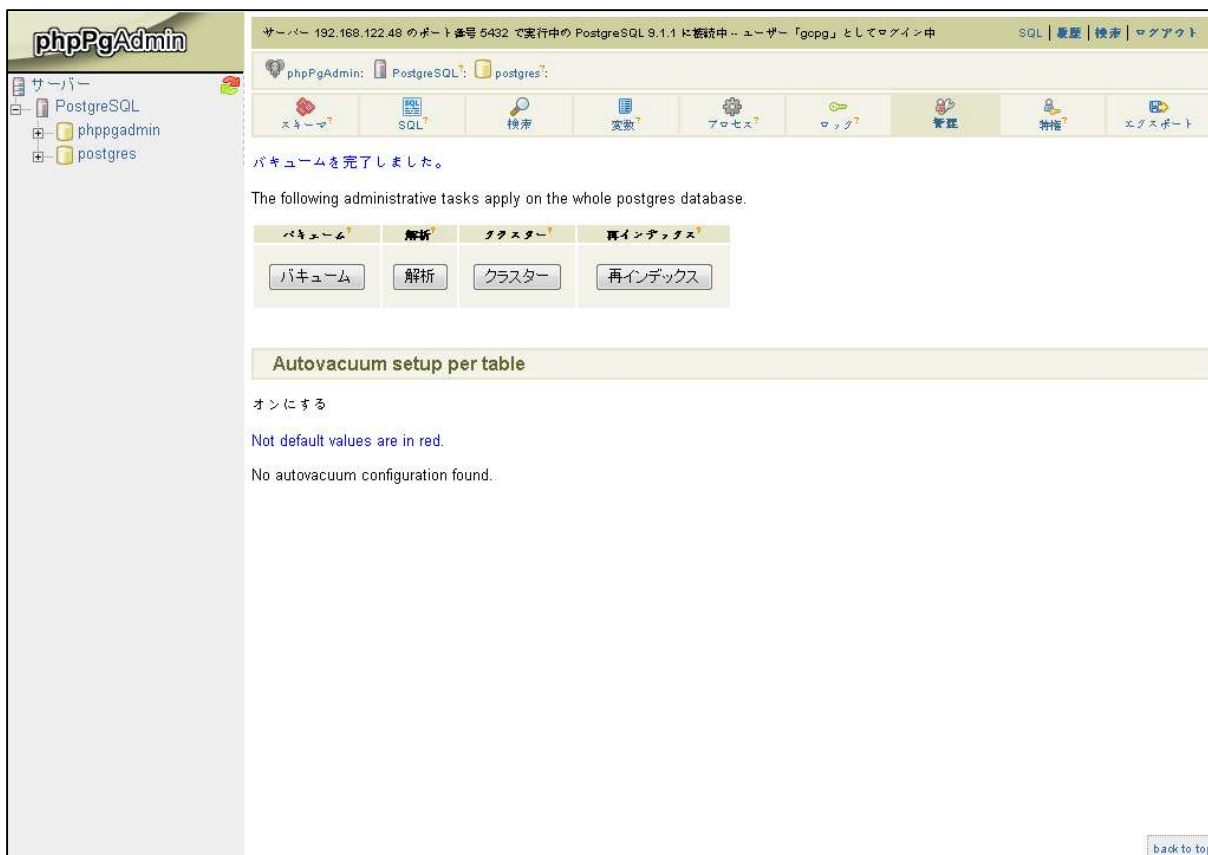


図 2-5-52 「データベースの管理」

2-5-7-II. 全テーブルの解析

★ データベースについての統計を集計します。

① 「データベースの管理」で[解析]ボタンをクリックします。

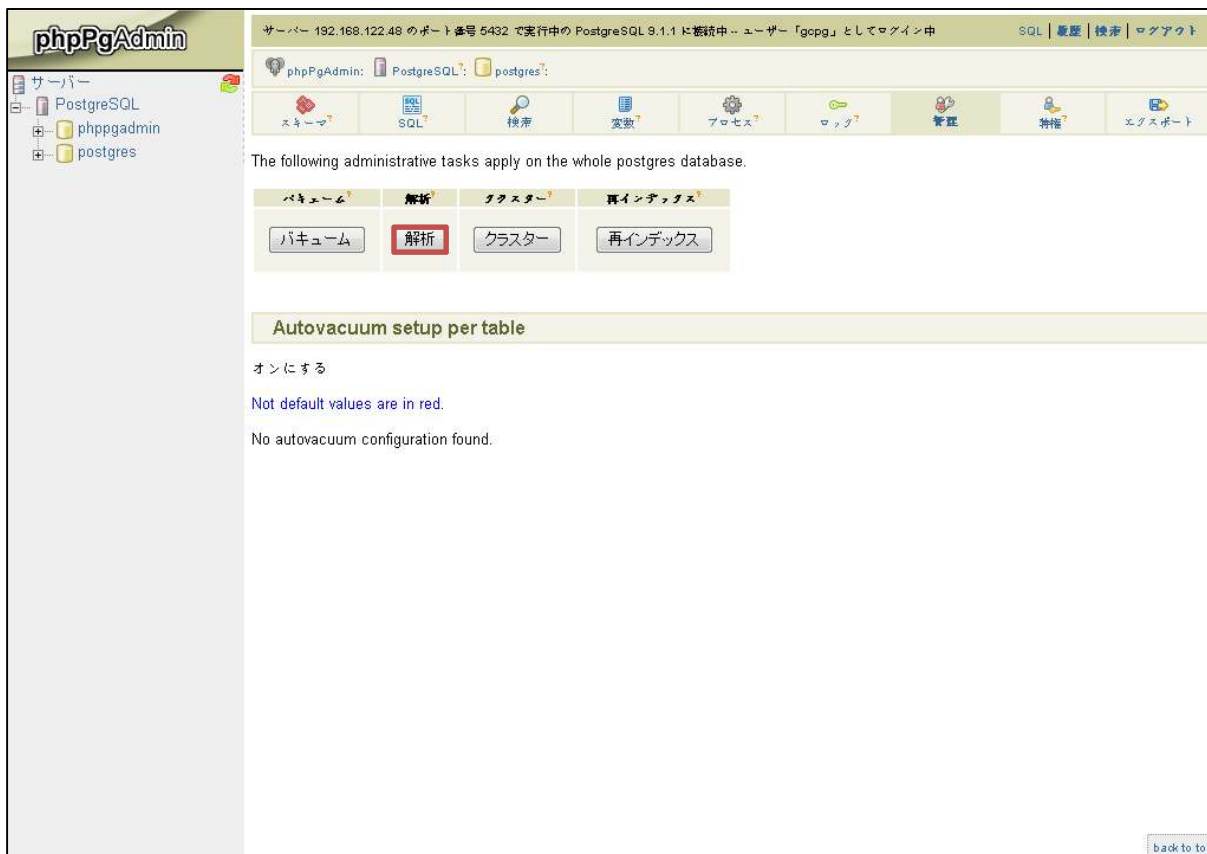


図 2-5-53 「データベースの管理」

② 「全テーブルの解析」で[解析]ボタンをクリックします。

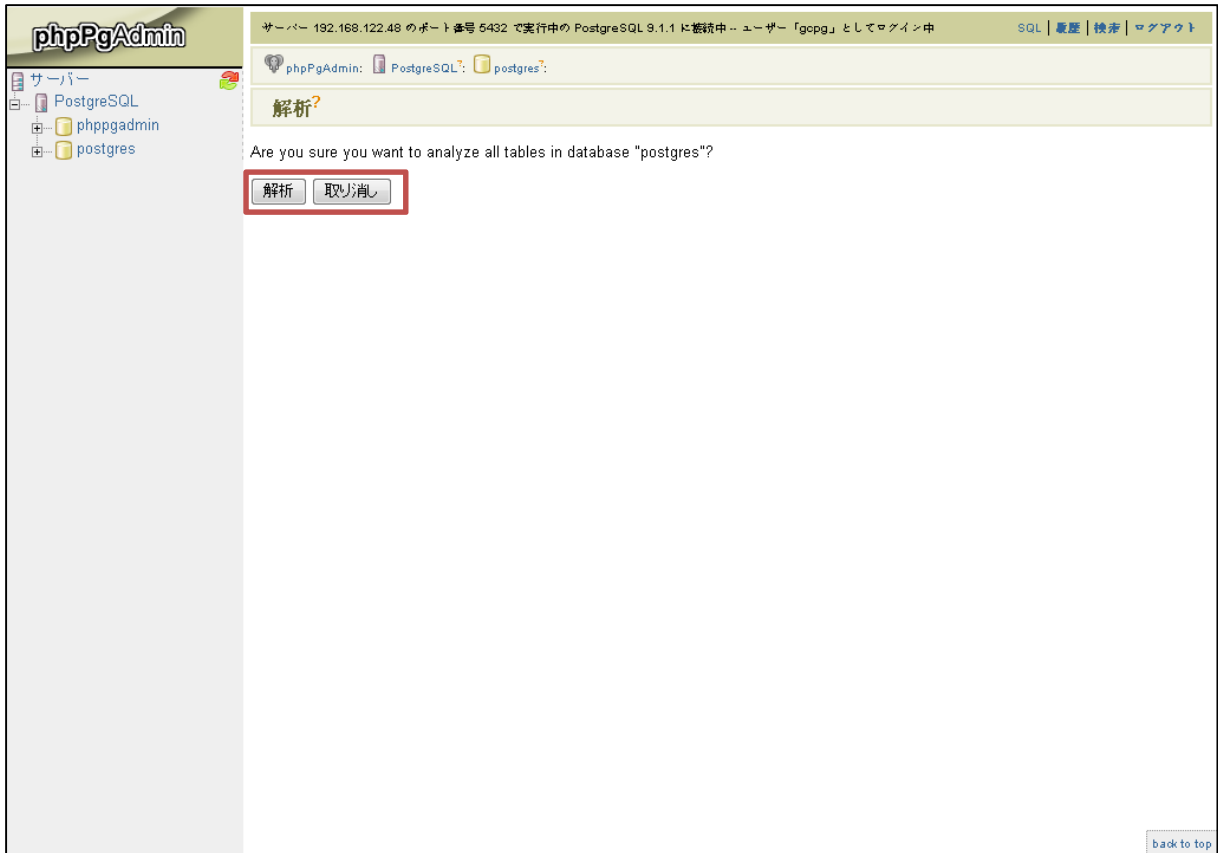


図 2-5-54 「全テーブルの解析」

表 2-5-55 全テーブルの解析画面項目

NO	項目名	説明
1	[解析]ボタン	解析操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの管理」で解析が実行されたことを確認します。

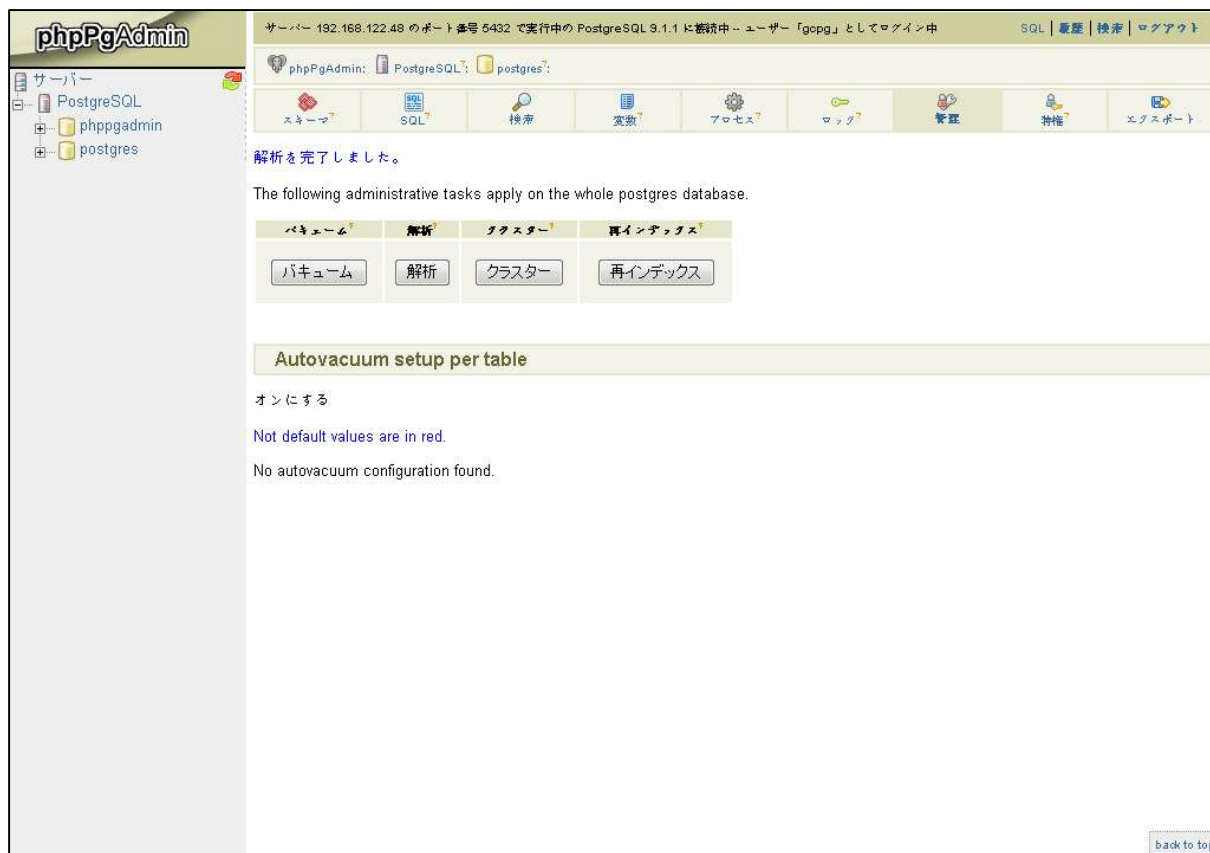


図 2-5-56 「データベースの管理」

2-5-7-III. 全テーブルのクラスター化

★ インデックスに従って全テーブルをクラスター化します。

① 「データベースの管理」で[クラスター]ボタンをクリックします。

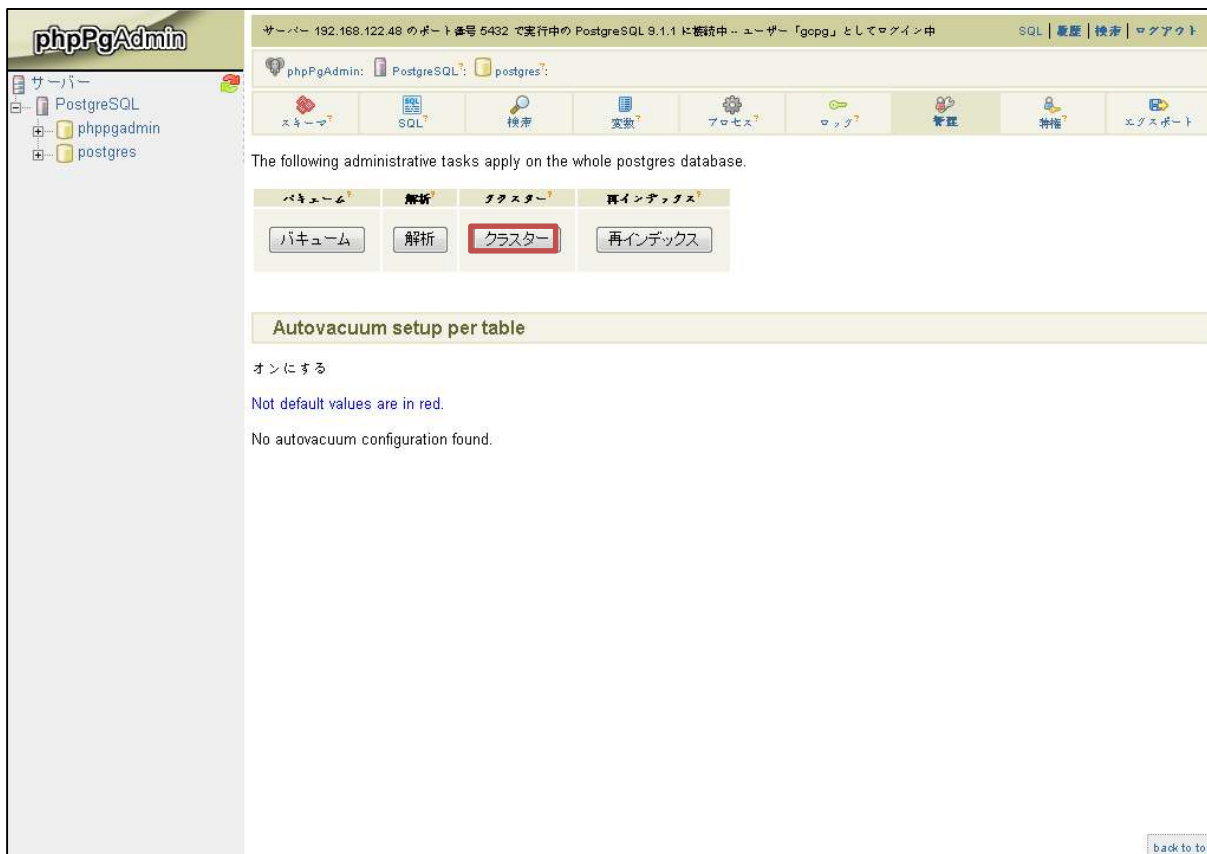


図 2-5-57 「データベースの管理」

② 「全テーブルのクラスター化」で[クラスター]ボタンをクリックします。

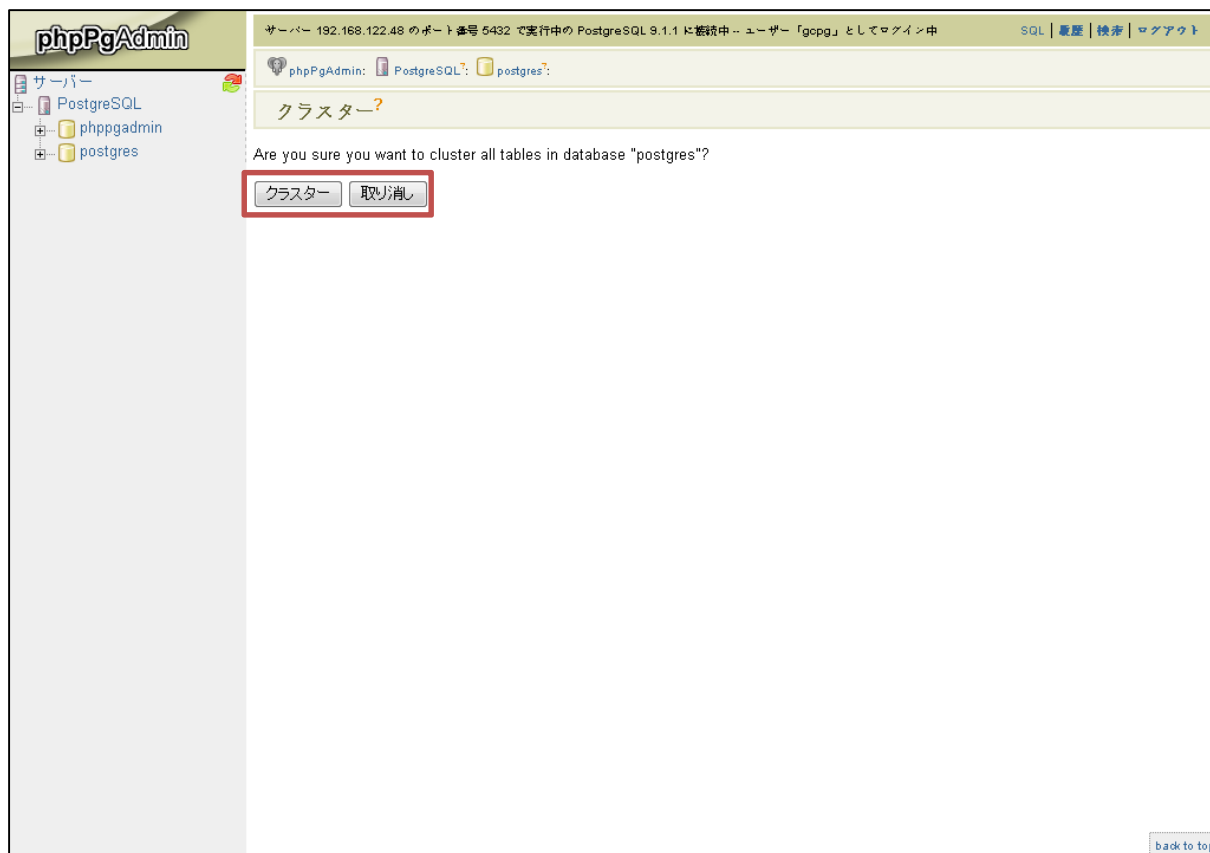


図 2-5-58 「全テーブルのクラスター化」

表 2-5-59 全テーブルのクラスター化画面項目

NO	項目名	説明
1	[クラスター]ボタン	クラスター化操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの管理」でクラスター化が実行されたことを確認します。

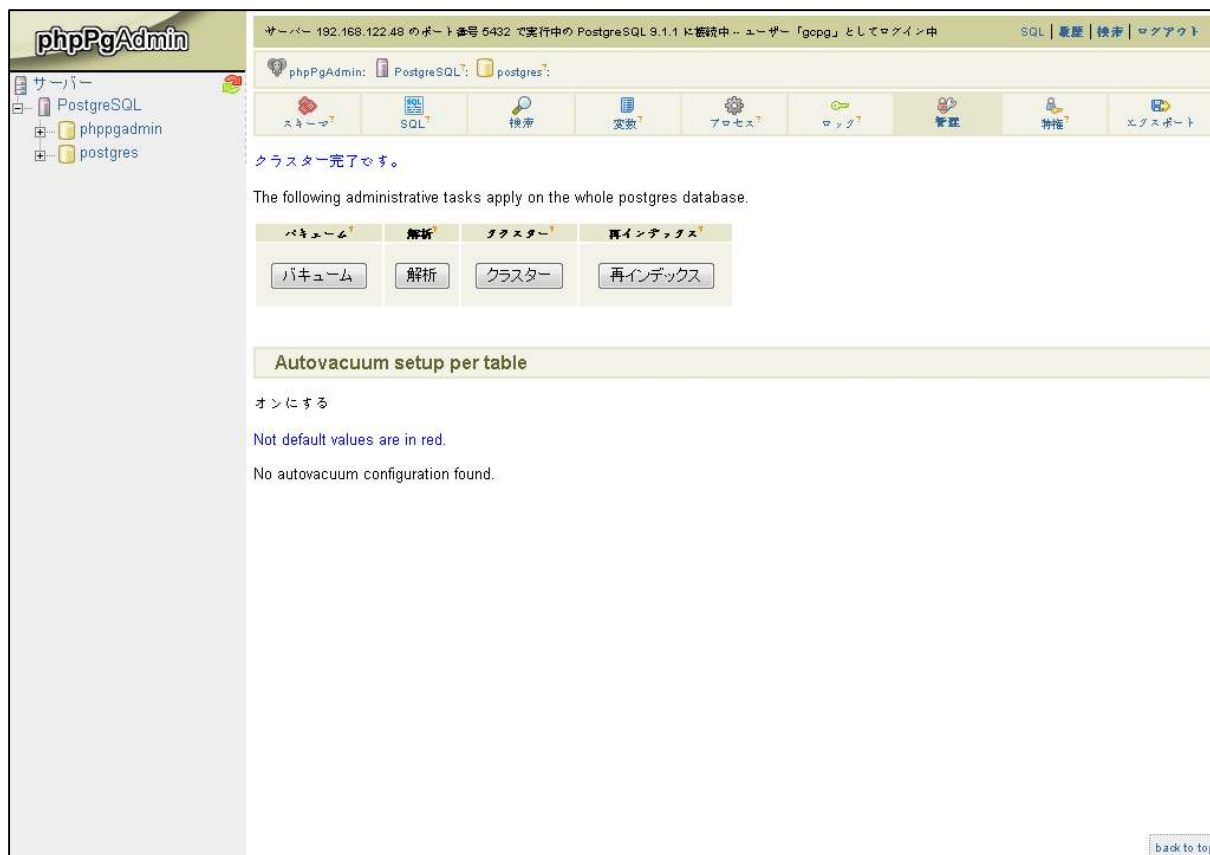


図 2-5-60 「データベースの管理」

2-5-7-IV. 全テーブルの再インデックス

★ インデックスを再構築します。

① 「データベースの管理」で[再インデックス]ボタンをクリックします。

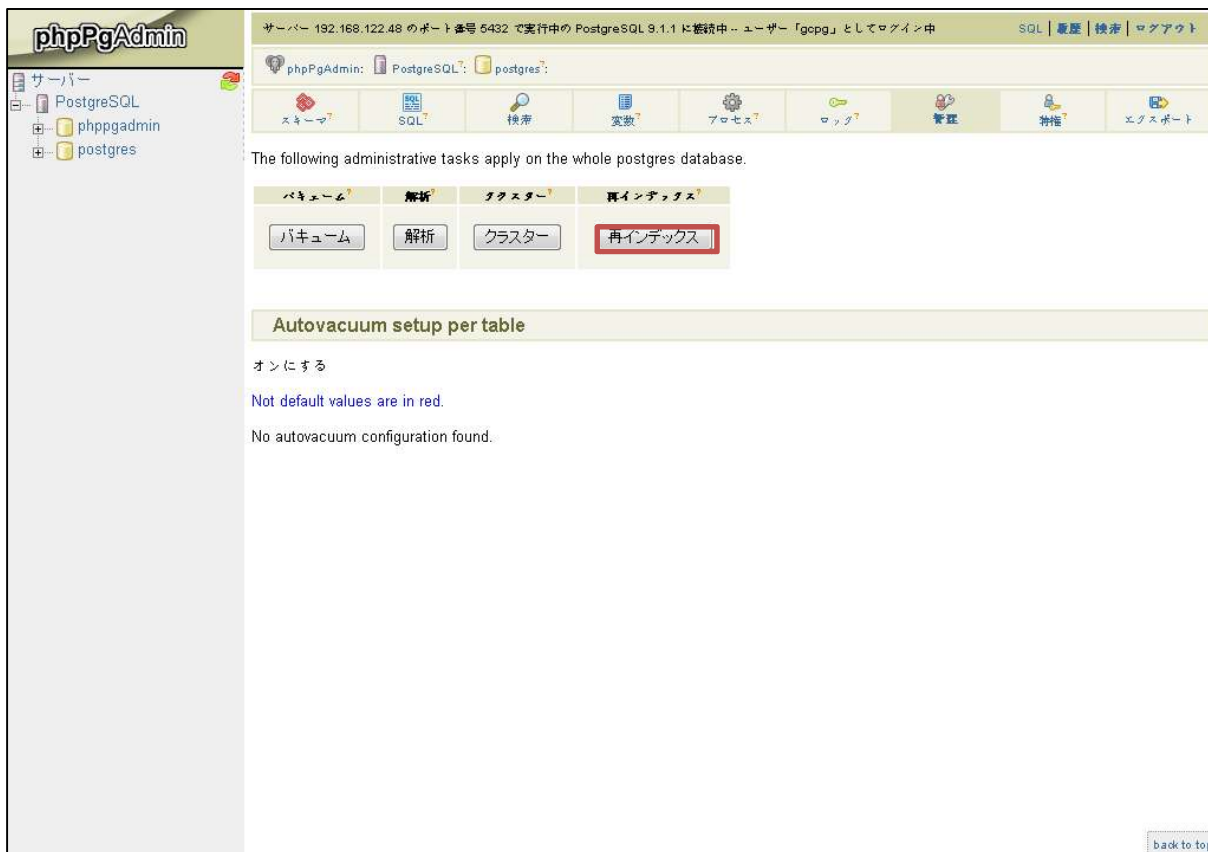


図 2-5-61 「データベースの管理」

② 「全テーブルの再インデックス」で[再インデックス]ボタンをクリックします。

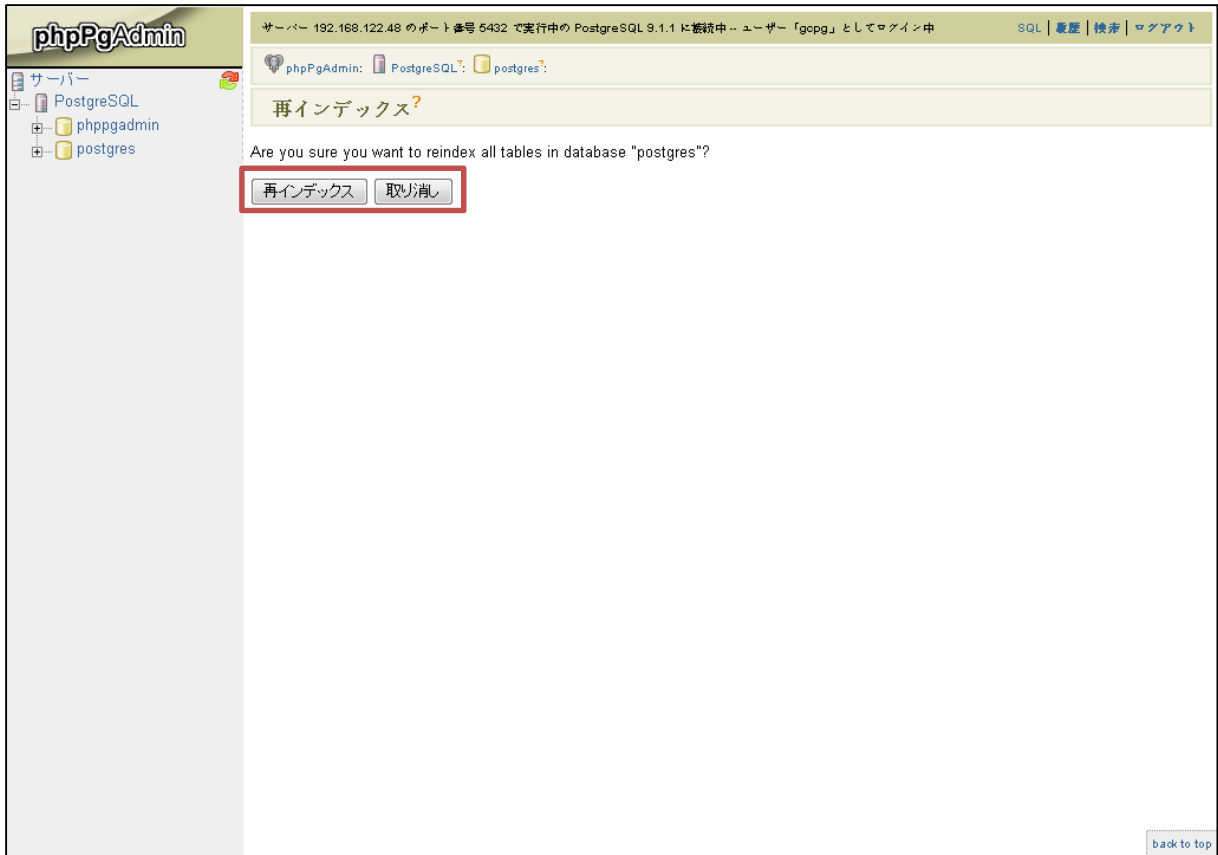


図 2-5-62 「全テーブルの再インデックス」

表 2-5-63 全テーブルの再インデックス画面項目

NO	項目名	説明
1	[再インデックス]ボタン	再インデックス操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの管理」で再インデックスが実行されたことを確認します。

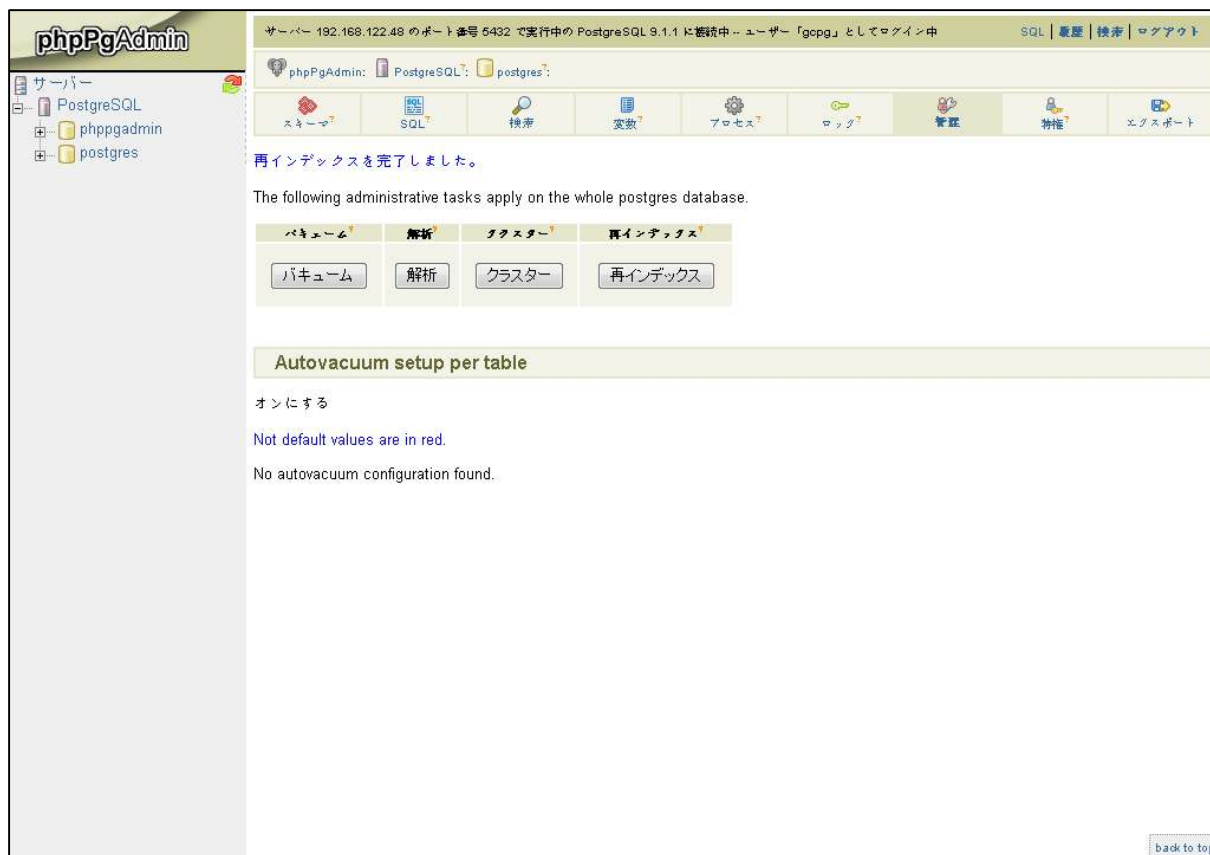


図 2-5-64 「データベースの管理」

2-5-8 データベースの特権操作

★ 「データベースの特権操作」を表示します。データベースに対する特権を追加、破棄できます。

① 「データベース個別操作メニュー」で [特権]をクリックします。

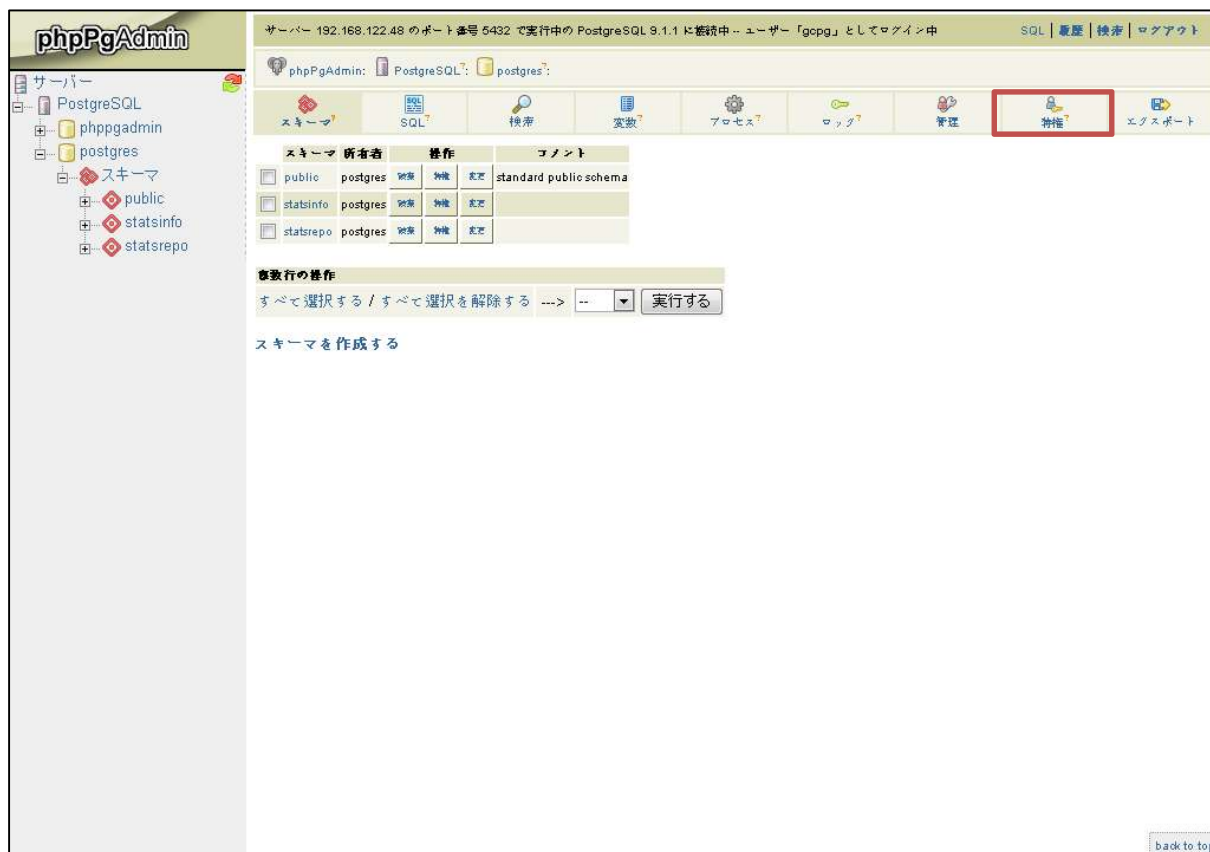


図 2-5-65 「データベース個別操作メニュー」

② 「データベースの特権操作」の表示を確認します。

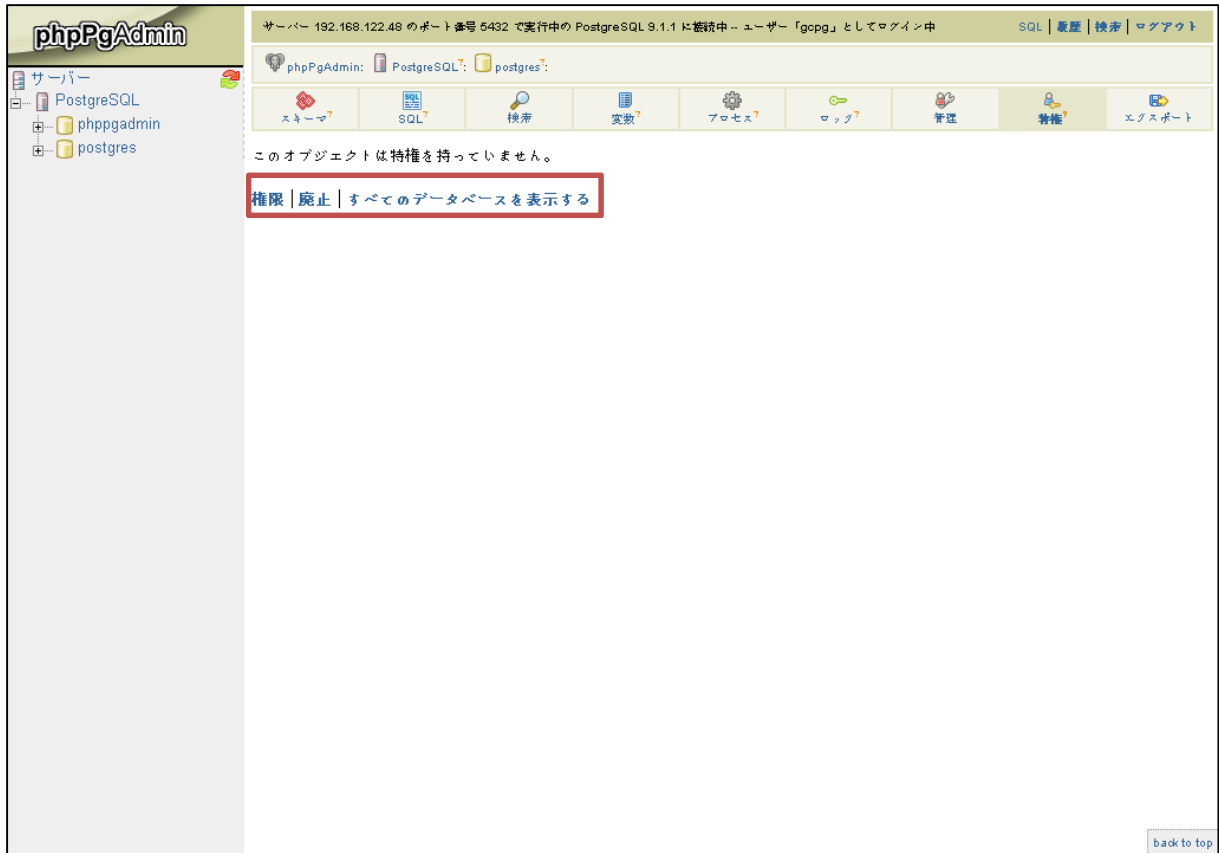


図 2-5-66 「データベースの特権操作」

表 2-5-67 データベースの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該データベースについてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-5-8-I「データベースの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該データベースについてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-5-8-II「データベースの特権破棄」を参照してください。
3	[すべてのデータベースを表示する]	「データベース一覧操作」を表示します。 詳細は 2-4-1「データベース一覧操作」を参照してください。

さい。

2-5-8-I. データベースの特権追加

★ データベースに対するアクセス権限を定義します。

① 「データベースの特権操作」で[権限]をクリックします。

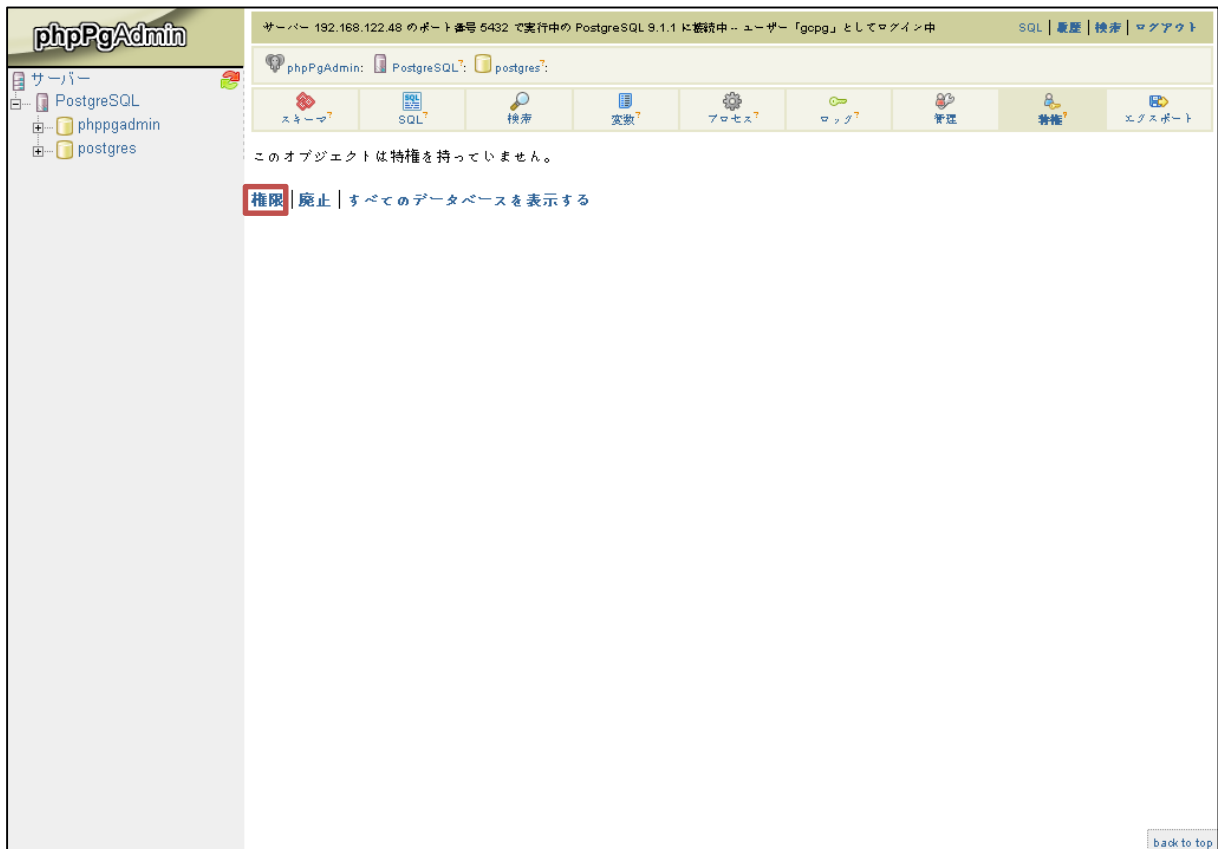


図 2-5-68 「データベースの特権操作」

② 「データベースの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

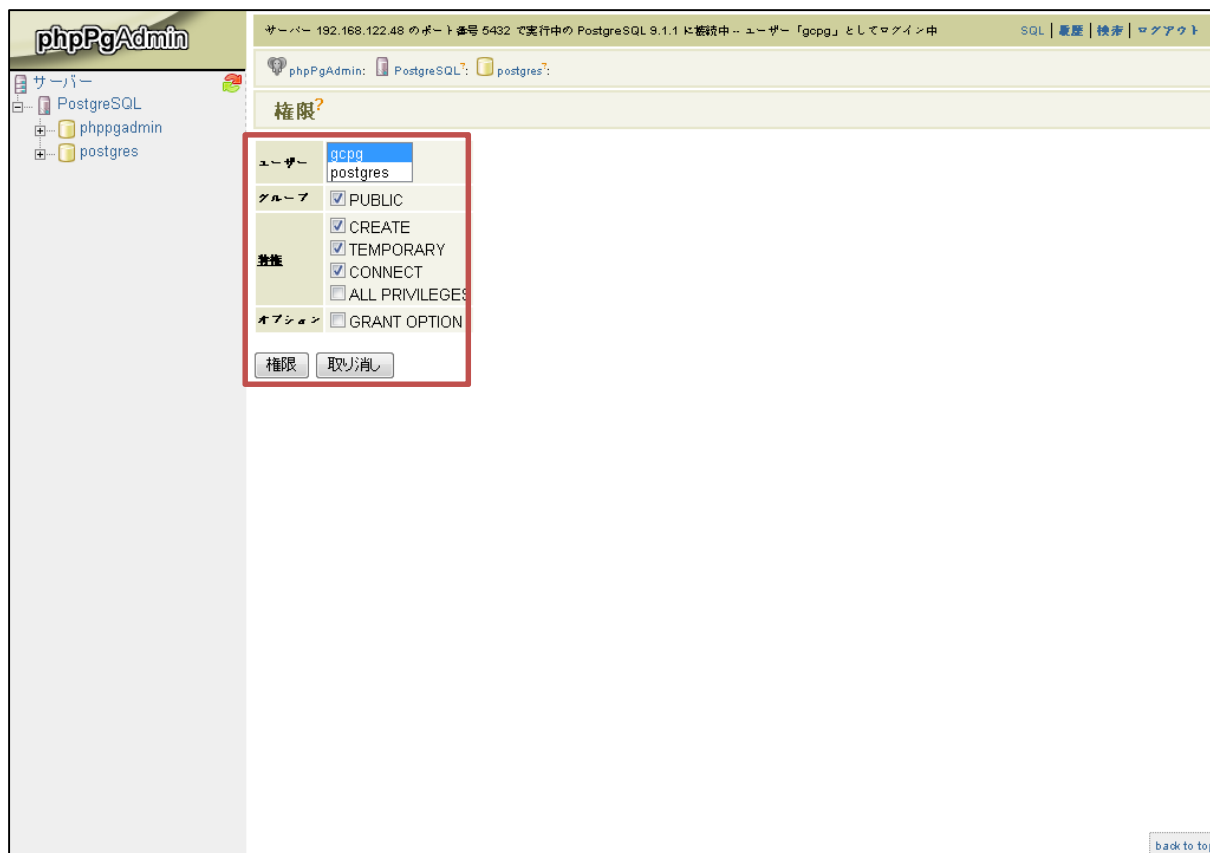


図 2-5-69 「データベースの特権追加」

表 2-5-70 データベースの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	<p>ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE を許可します。 ● TEMPORARY : TEMPORARY を許可します。 ● CONNECT : CONNECT を許可します。

		● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。

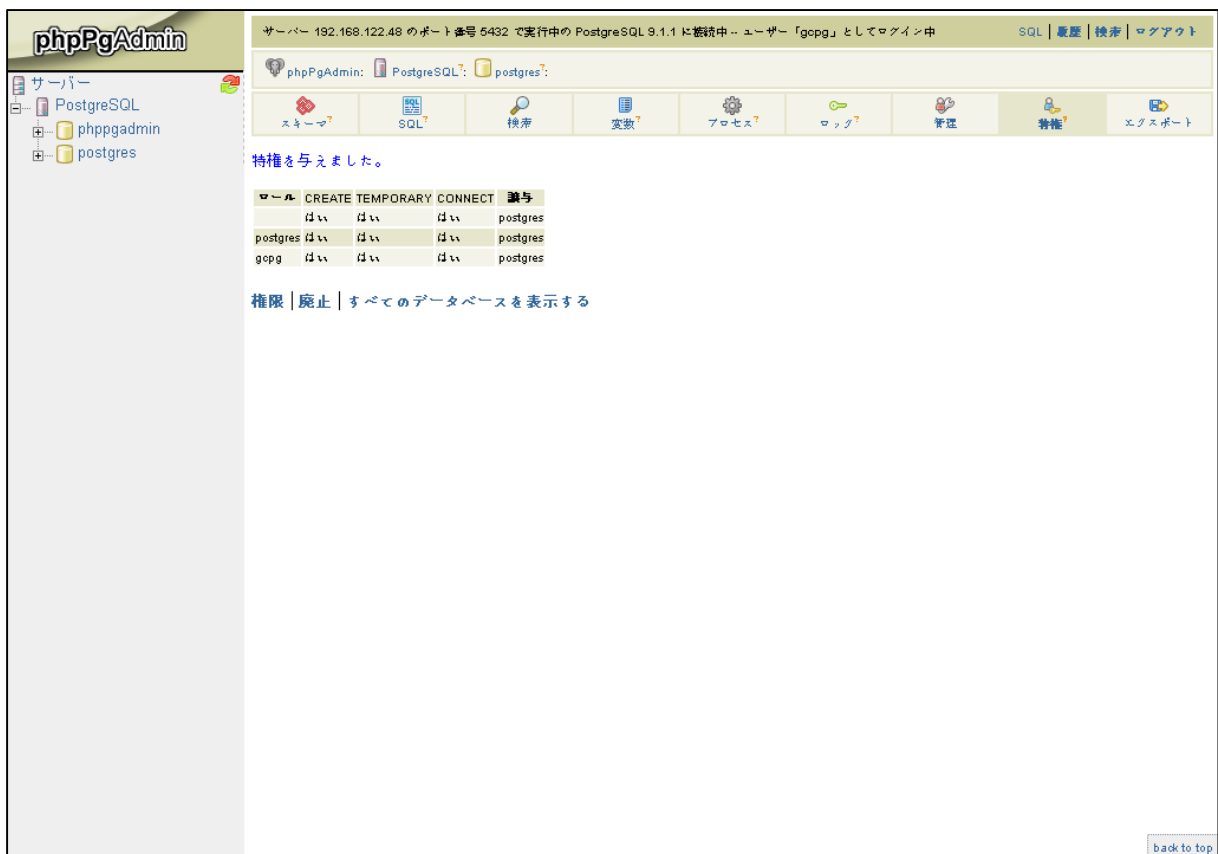


図 2-5-71 「データベースの特権操作」

2-5-8-II. データベースの特権破棄

★ データベースに対するアクセス権限を取り消します。

① 「データベースの特権操作」で[廃止]をクリックします。

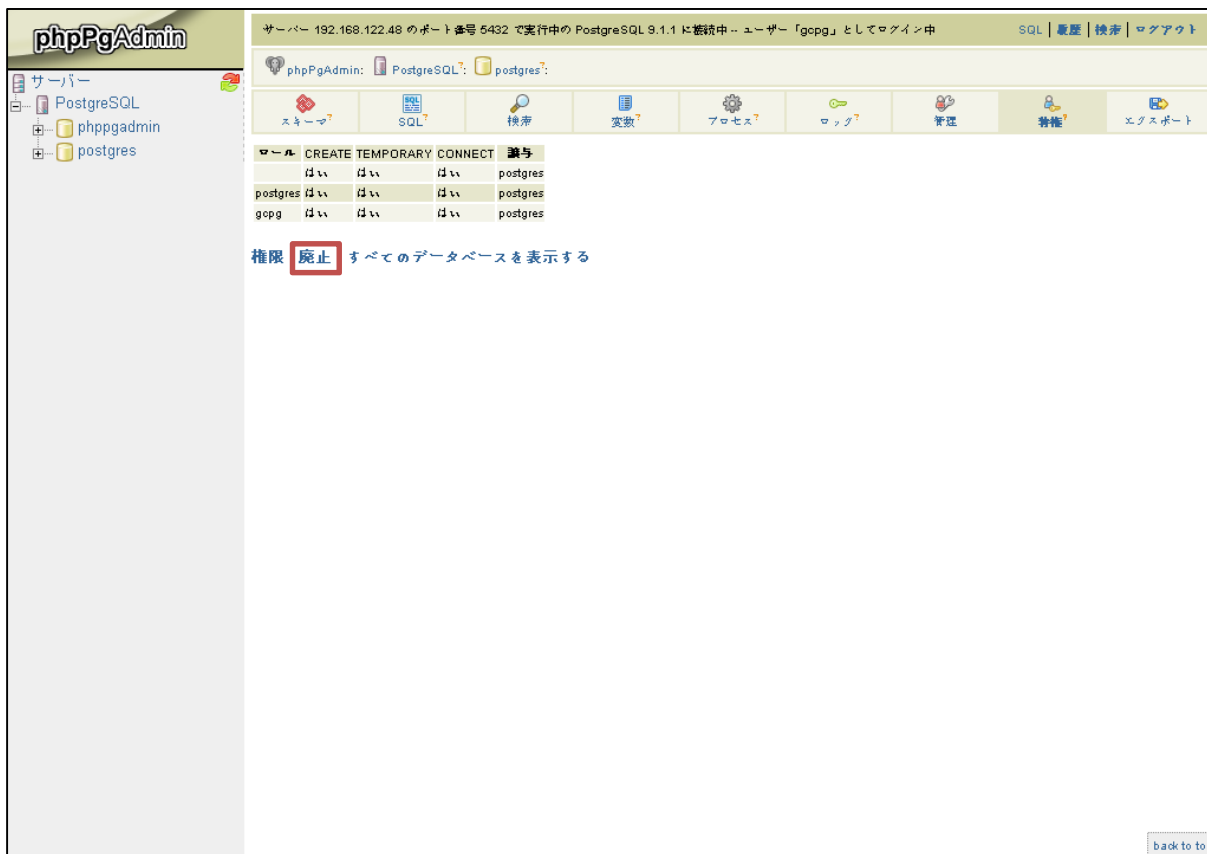


図 2-5-72 「データベースの特権操作」

② 「データベースの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

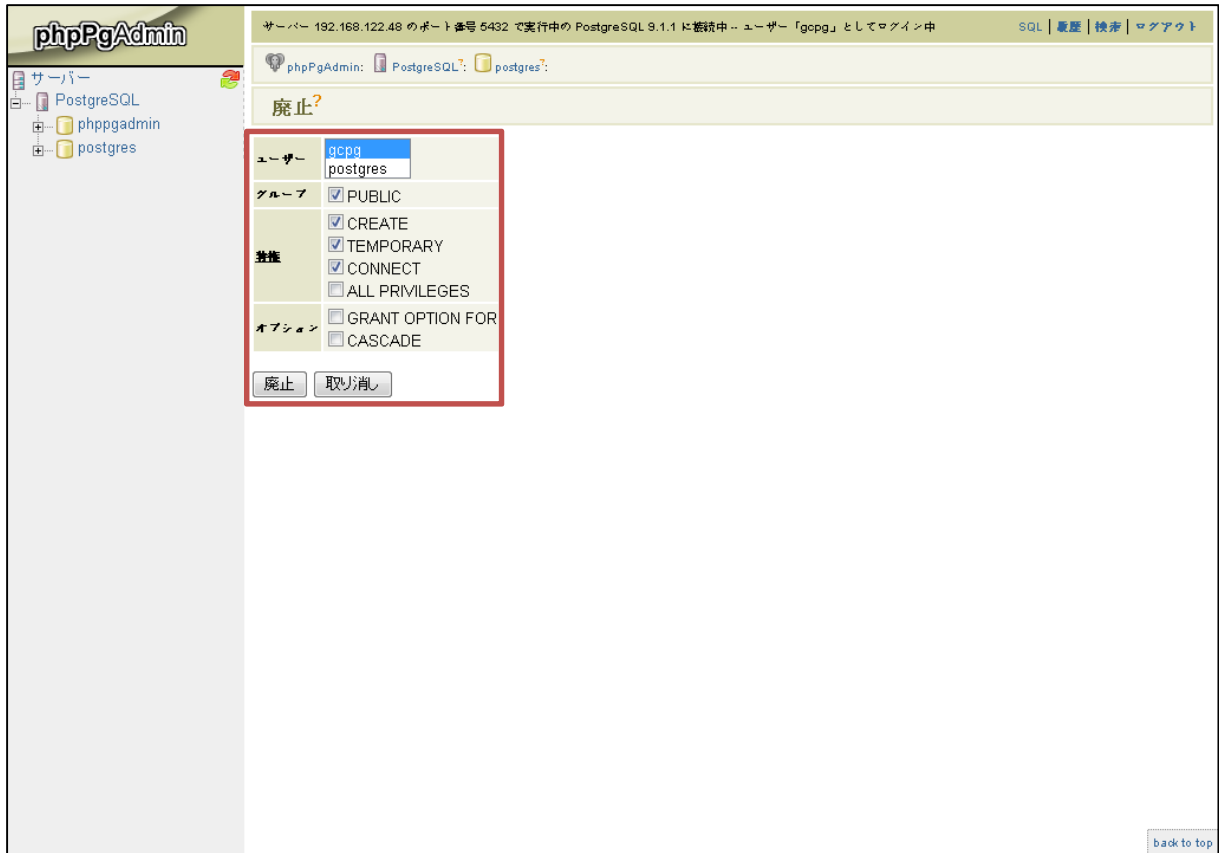


図 2-5-73 「データベースの特権破棄」

表 2-5-74 データベースの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	<p>ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE 権限を取り消します。 ● TEMPORARY : TEMPORARY 権限を取り消します。 ● CONNECT : CONNECT 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消し

		ます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限の GRANT OPTION のみを取り消されます。 [CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「データベースの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

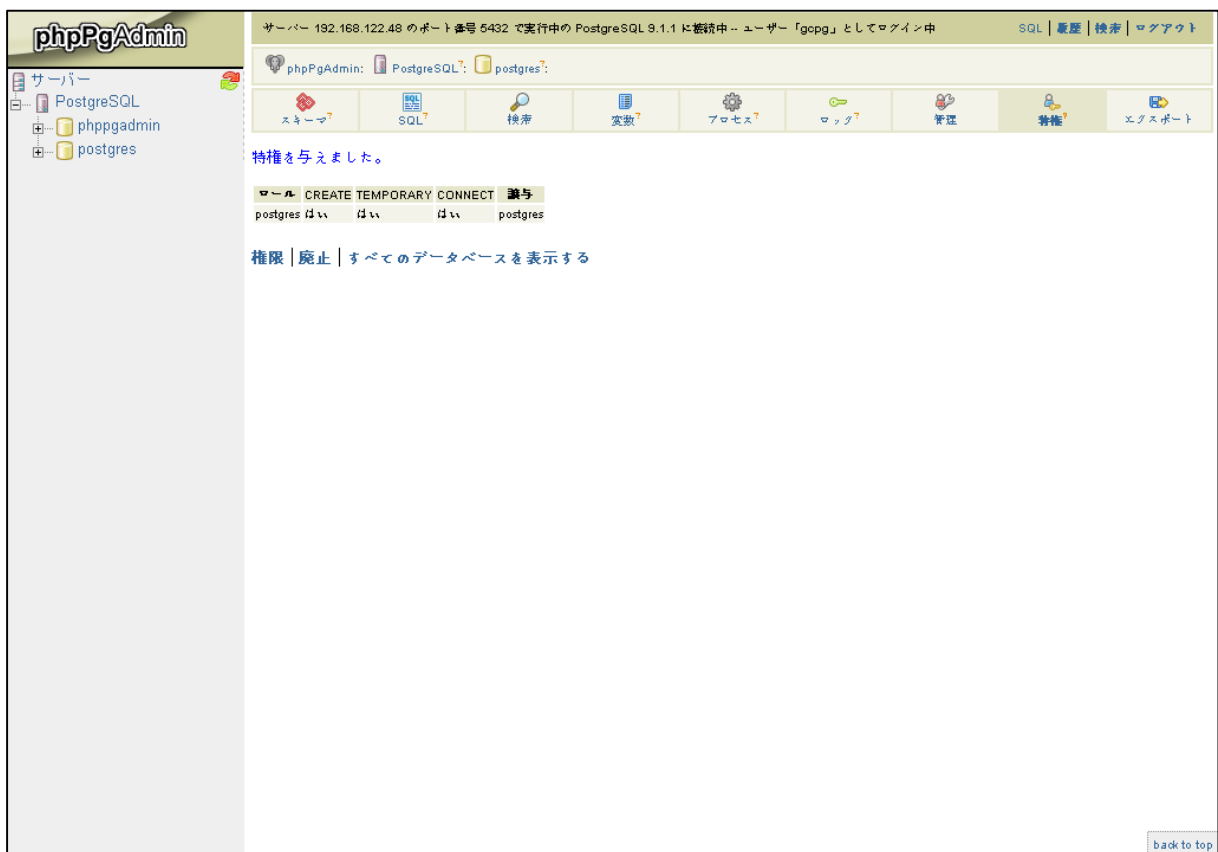


図 2-5-75 「データベースの特権操作」

2-5-9 データベースのエクスポート

★ データベースのデータをエクスポートします。

① 「データベース個別操作メニュー」で [エクスポート] をクリックします。

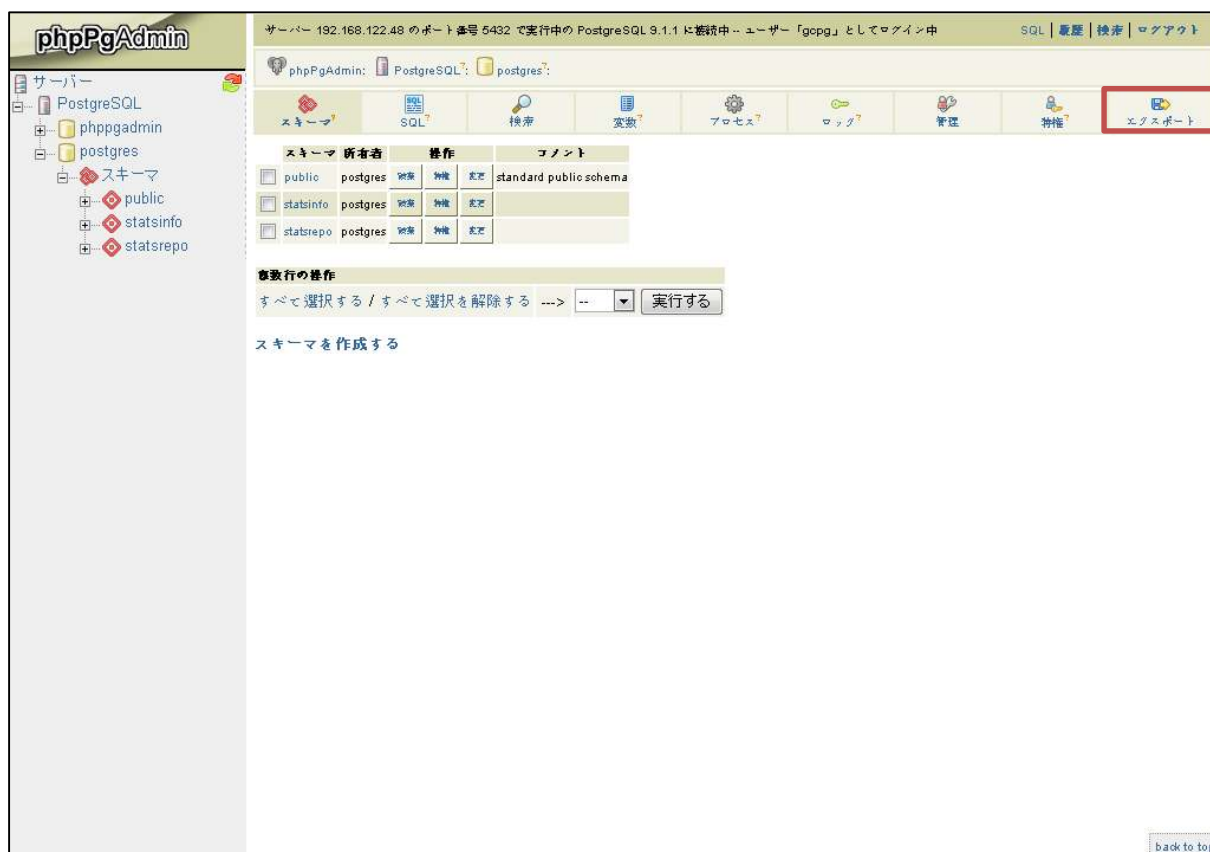


図 2-5-76 「データベース個別操作メニュー」

② 「データベースのエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

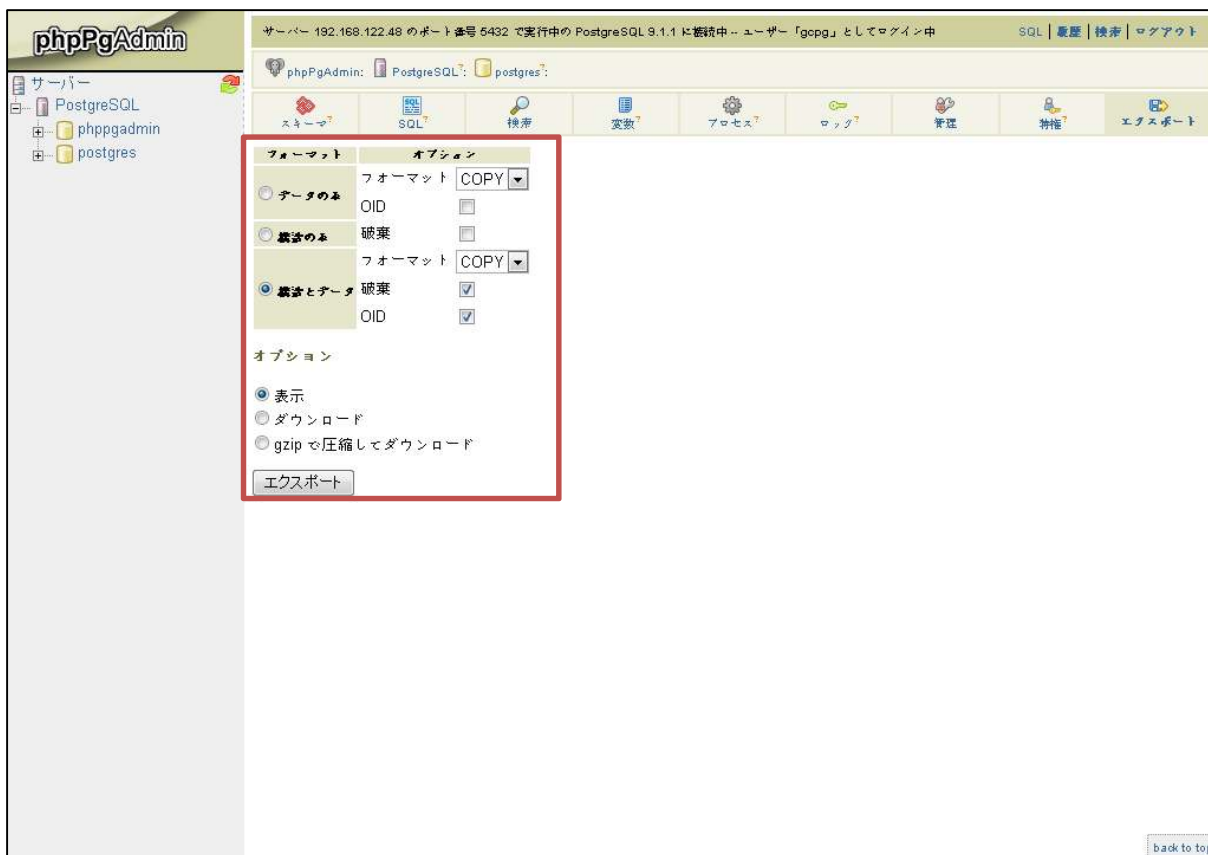


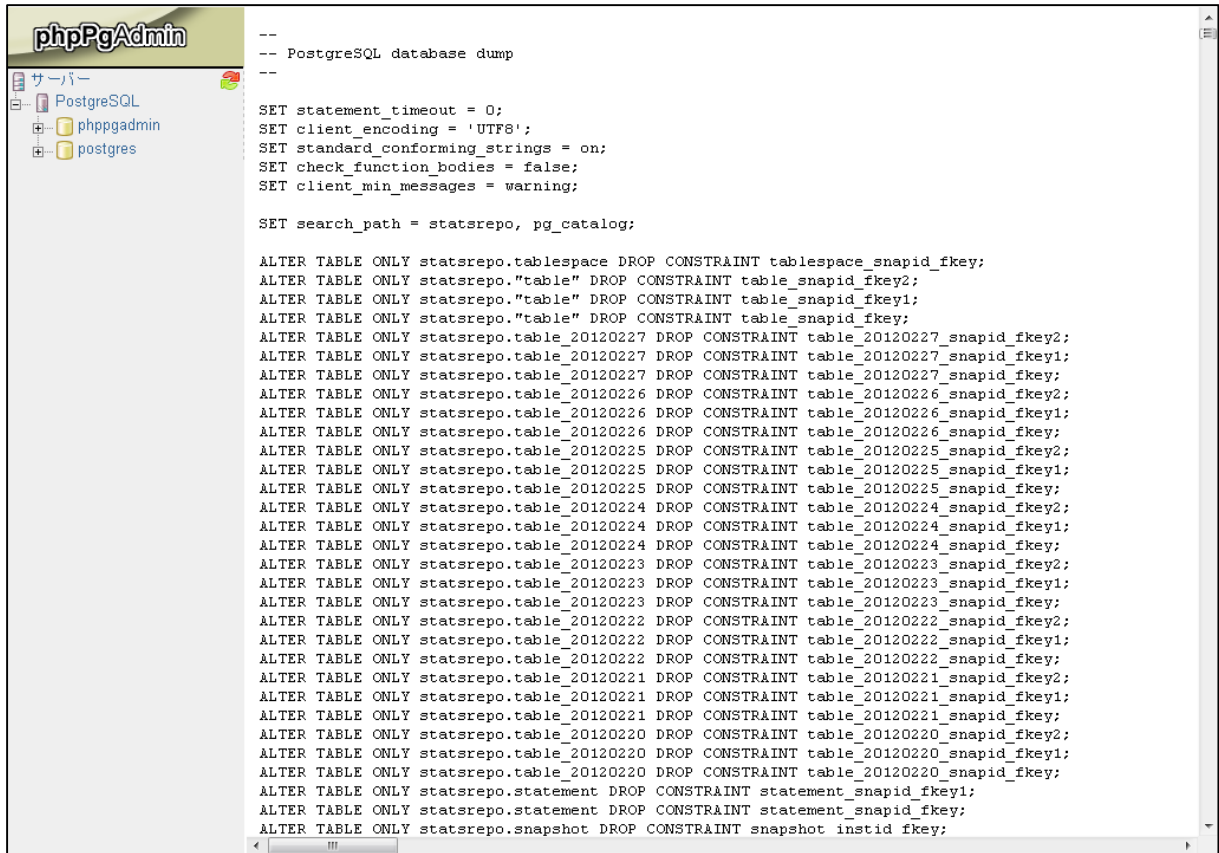
図 2-5-77 「データベースのエクスポート」

表 2-5-78 データベースのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● データのみ ● 構造のみ ● 構造とデータ
2	[フォーマット]でデータのみを選択した場合のオプション [フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL
3	[フォーマット]でデータのみ	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力しま

	を選択した場合のオプション [OID]	す。データベースがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
4	[フォーマット]で構造のみを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにデータベース内のオブジェクトが存在した場合に DROP してからオブジェクトを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
5	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 ● COPY ● SQL
6	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにデータベース内のオブジェクトが存在した場合に DROP してからオブジェクトを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
7	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [OID]	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力します。データベースがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
8	[オプション]	表示するかダウンロードするか gzip で圧縮してダウンロードするか選択します。
9	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。



```
--
-- PostgreSQL database dump
--

SET statement_timeout = 0;
SET client_encoding = 'UTF8';
SET standard_conforming_strings = on;
SET check_function_bodies = false;
SET client_min_messages = warning;

SET search_path = statsrepo, pg_catalog;

ALTER TABLE ONLY statsrepo.tablespace DROP CONSTRAINT tablespace_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo."table" DROP CONSTRAINT table_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo."table" DROP CONSTRAINT table_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo."table" DROP CONSTRAINT table_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120227 DROP CONSTRAINT table_20120227_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120227 DROP CONSTRAINT table_20120227_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120227 DROP CONSTRAINT table_20120227_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120226 DROP CONSTRAINT table_20120226_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120226 DROP CONSTRAINT table_20120226_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120226 DROP CONSTRAINT table_20120226_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120225 DROP CONSTRAINT table_20120225_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120225 DROP CONSTRAINT table_20120225_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120225 DROP CONSTRAINT table_20120225_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120224 DROP CONSTRAINT table_20120224_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120224 DROP CONSTRAINT table_20120224_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120224 DROP CONSTRAINT table_20120224_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120223 DROP CONSTRAINT table_20120223_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120223 DROP CONSTRAINT table_20120223_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120223 DROP CONSTRAINT table_20120223_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120222 DROP CONSTRAINT table_20120222_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120222 DROP CONSTRAINT table_20120222_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120222 DROP CONSTRAINT table_20120222_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120221 DROP CONSTRAINT table_20120221_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120221 DROP CONSTRAINT table_20120221_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120221 DROP CONSTRAINT table_20120221_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120220 DROP CONSTRAINT table_20120220_snapid_fkey2;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120220 DROP CONSTRAINT table_20120220_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.table_20120220 DROP CONSTRAINT table_20120220_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.statement DROP CONSTRAINT statement_snapid_fkey1;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.statement DROP CONSTRAINT statement_snapid_fkey;
ALTER TABLE ONLY statsrepo.snapshot DROP CONSTRAINT snapshot_instid_fkey;
```

図 2-5-79 「データベースのエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-5-80 「データベースのエクスポート-ダウンロードダイアログ」

③-c 【[gzip で圧縮してダウンロードする]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存]ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-5-81 「データベースのエクスポート-gzip ダウンロードダイアログ」

2-6 ロール個別操作

★ 「ロール個別操作」を表示します。

① 「ロール一覧操作」で“個別ロール名”をクリックします。



The screenshot shows the phpPgAdmin interface for PostgreSQL. The main content area displays a table of roles. The 'role01' role is highlighted with a red box. Below the table, there is a link to 'ロールを作成する' (Create Role).

ロール	スーパーユーザーですか?	データベースを作成しますか?	ロールを作成できますか?	特権を引き継ぎますか?	ログインできますか?	接続制限	有効期限	操作
gopg	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし	Never	表示 編集
postgres	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし		表示 編集
role01	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	制限なし	Never	表示 編集

[ロールを作成する](#)

図 2-6-1 「ロール一覧操作」

② 「ロール個別操作」の表示を確認します。



図 2-6-2 「ロール個別操作」

表 2-6-3 ロール個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[すべてロールを表示する]	「ロール一覧操作」を表示します。 詳細は 2-4-2 「ロール一覧操作」を参照してください。
2	[変更]	ロールの定義を変更することができます。(ALTER ROLE に相当) 詳細は 2-6-1 「ロールの変更」を参照してください。
3	[破棄]	ロールを削除することができます。(DROP ROLE に相当) 詳細は 2-6-2 「ロールの破棄」を参照してください。

2-6-1 ロールの変更

★ ロールの定義を変更します。

① 「ロール個別操作」で[変更]をクリックします。

サーバ: 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中 -- ユーザー「gppg」としてログイン中

phpPgAdmin: PostgreSQL: role01

プロパティ?

Description	Value
名前	role01
スーパーユーザーですか?	いいえ
データベースを作成しますか?	いいえ
ロールを作成できますか?	いいえ
特権を引き継ぎますか?	いいえ
ログインできますか?	いいえ
接続制限	制限なし
有効期限	Never
セッションデフォルト	
次のグループのメンバー:	
メンバー	
管理メンバー	

すべてのロールを表示する **変更** 破棄

back to top

図 2-6-4 「ロール個別操作」

② 「ロールの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

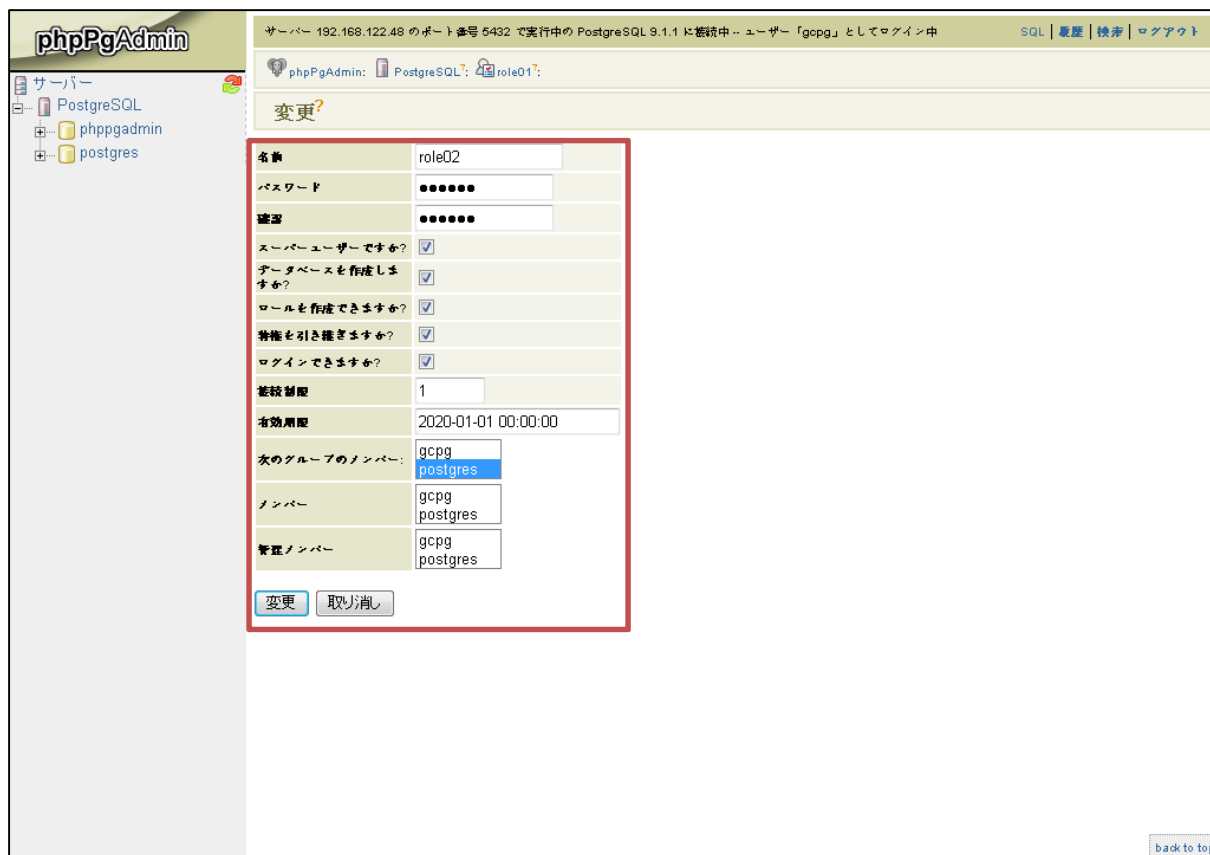


図 2-6-5 「ロールの変更」

表 2-6-6 ロールの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ロールの名称を指定します。
2	[パスワード]	パスワードを指定します。
3	[確認]	[パスワード]と同一の文字列を指定します。
4	[スーパーユーザーですか?]	スーパーユーザーか否か指定します。
5	[データベースを作成しますか?]	データベースの作成権限の有無を指定します。
6	[ロールを作成できますか?]	ロールの作成権限の有無を指定します。

7	[特権を引き継ぎますか?]	このロールが属するロールから特権を引き継ぐか否か指定します。
8	[ログインできますか?]	ログインできるか否か指定します。
9	[接続制限]	[ログインできますか?]が有効の場合、本項目は、ロールが確立できる最大同時接続数を指定します。デフォルトは-1（無制限）です。
10	[有効期限]	パスワードが無効になる期限を指定します。デフォルトは無期限です。
11	[次のグループのメンバー]	当該ロールが属するロールを指定します。
12	[メンバー]	当該ロールに属するロールを指定します。
13	[管理メンバー]	当該ロールに属する管理ロールを指定します。管理ロールとなると、他ロールへの権限の付与/取り消しができません。
14	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
15	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ロール個別操作」でロールが変更されたことを確認します。

サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中... ユーザー「gopg」としてログイン中

phpPgAdmin: PostgreSQL:

データベース? ロール? テーブル空間? エクスポート レポート

ロールを変更しました。

ロール	スーパーユーザーですか?	データベースを作成しますか?	ロールを作成できますか?	特権を引き継ぎますか?	ログインできますか?	接続制限	有効期限	操作
gopg	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし	Never	管理
postgres	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし		管理
role02	はい	はい	はい	はい	はい	1	2020-01-01 00:00:00+09	管理

ロールを作成する

back to top

図 2-6-7 「ロール個別操作」

2-6-2 ロールの破棄

★ ロールを削除します。

① 「ロール個別操作」で[破棄]をクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface for managing a PostgreSQL role named 'role01'. The left sidebar shows the server structure: サーバー > PostgreSQL > phppgadmin > postgres. The main content area displays the role's properties in a table format. At the bottom of the table, there is a link 'すべてのロールを表示する | 変更' and a red button labeled '破棄' (Delete). A 'back to top' link is visible in the bottom right corner.

Description	Value
名前	role01
スーパーユーザーですか?	いいえ
データベースを作成しますか?	いいえ
ロールを作成できますか?	いいえ
特権を引き継ぎますか?	いいえ
ログインできますか?	いいえ
接続制限	制限なし
有効期限	Never
セッションデフォルト	
次のグループのメンバー:	
メンバー	
管理メンバー	

すべてのロールを表示する | 変更 **破棄**

図 2-6-8 「ロール個別操作」

② 「ロールの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

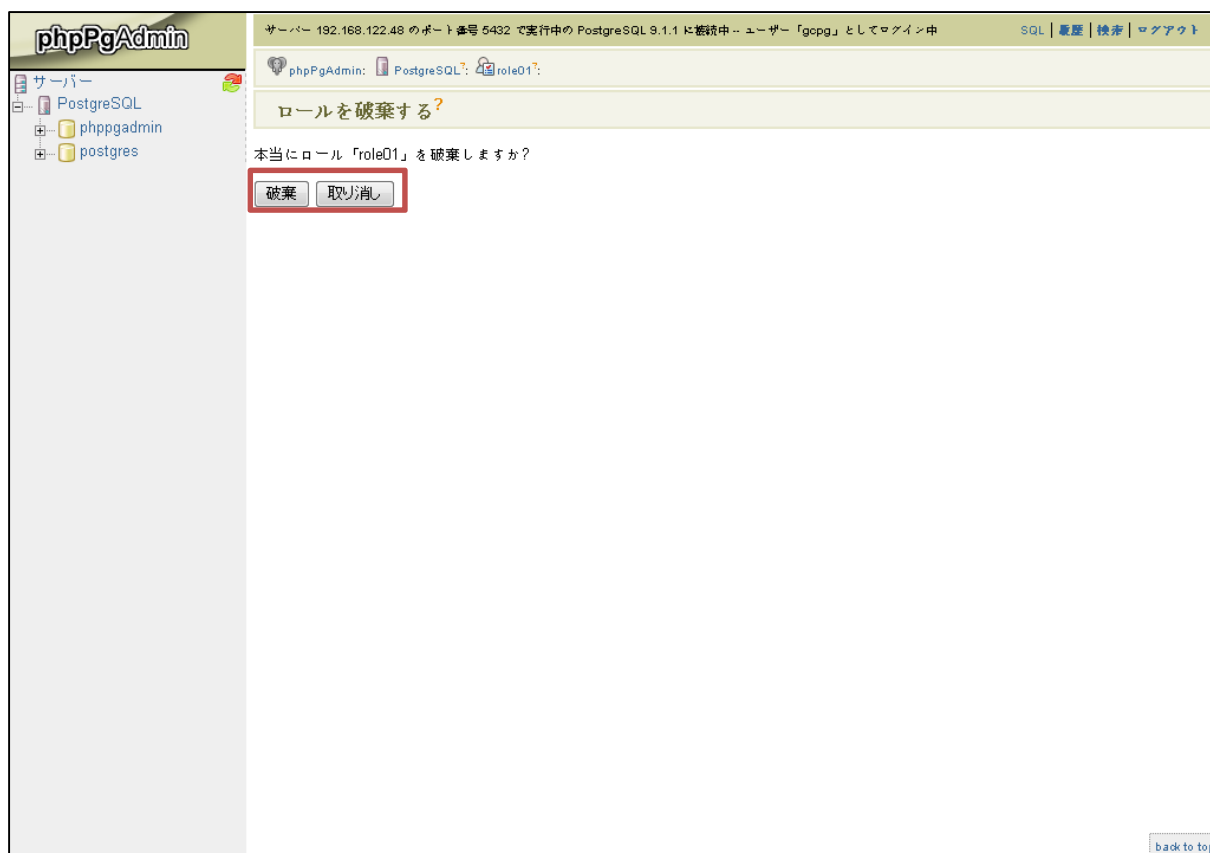


図 2-6-9 「ロールの破棄」

表 2-6-10 ロールの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ロール一覧操作」でロールが破棄されたことを確認します。

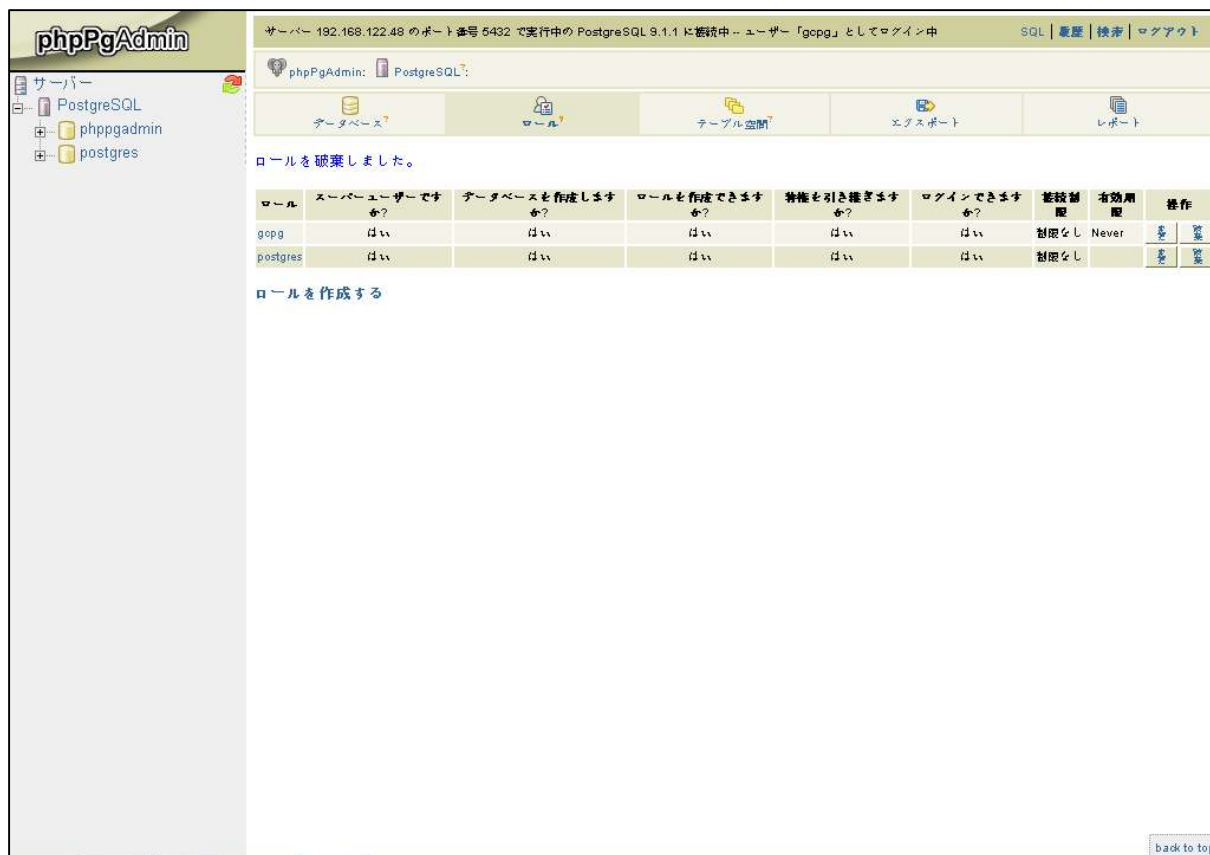


図 2-6-11 「ロール一覧操作」

2-7 レポート個別操作

★ 「レポート個別操作」を表示します。

① 「レポート一覧操作」で“個別レポート名”をクリックします。

ロール	スーパーユーザーですか?	データベースを作成しますか?	ロールを作成できますか?	特権を引き継ぎますか?	ログインできますか?	セキュリティ制限	有効期限	操作
gopg	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし	Never	表示 編集
postgres	はい	はい	はい	はい	はい	制限なし		表示 編集
role01	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	制限なし	Never	表示 編集

ロールを作成する

図 2-7-1 「レポート一覧操作」

② 「レポート個別操作」の表示を確認します。



図 2-7-2 「レポート個別操作」

表 2-7-3 レポート個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[すべてレポートを表示する]	「レポート一覧操作」を表示します。 詳細は 2-4-7 「レポート一覧操作」を参照してください。
2	[編集]	レポートの定義を編集できます。(ALTER ROLE に相当) 詳細は 2-7-1 「レポートの編集」を参照してください。
3	[破棄]	レポートを削除できます。(DROP ROLE に相当) 詳細は 2-4-7-III「レポートの破棄」を参照してください。

2-7-1 レポートの編集

★ レポートの定義を編集します。

① 「レポート個別操作」で[編集]をクリックします。



図 2-7-4 「レポート個別操作」

② 「レポートの編集」で[保存]ボタンをクリックします。

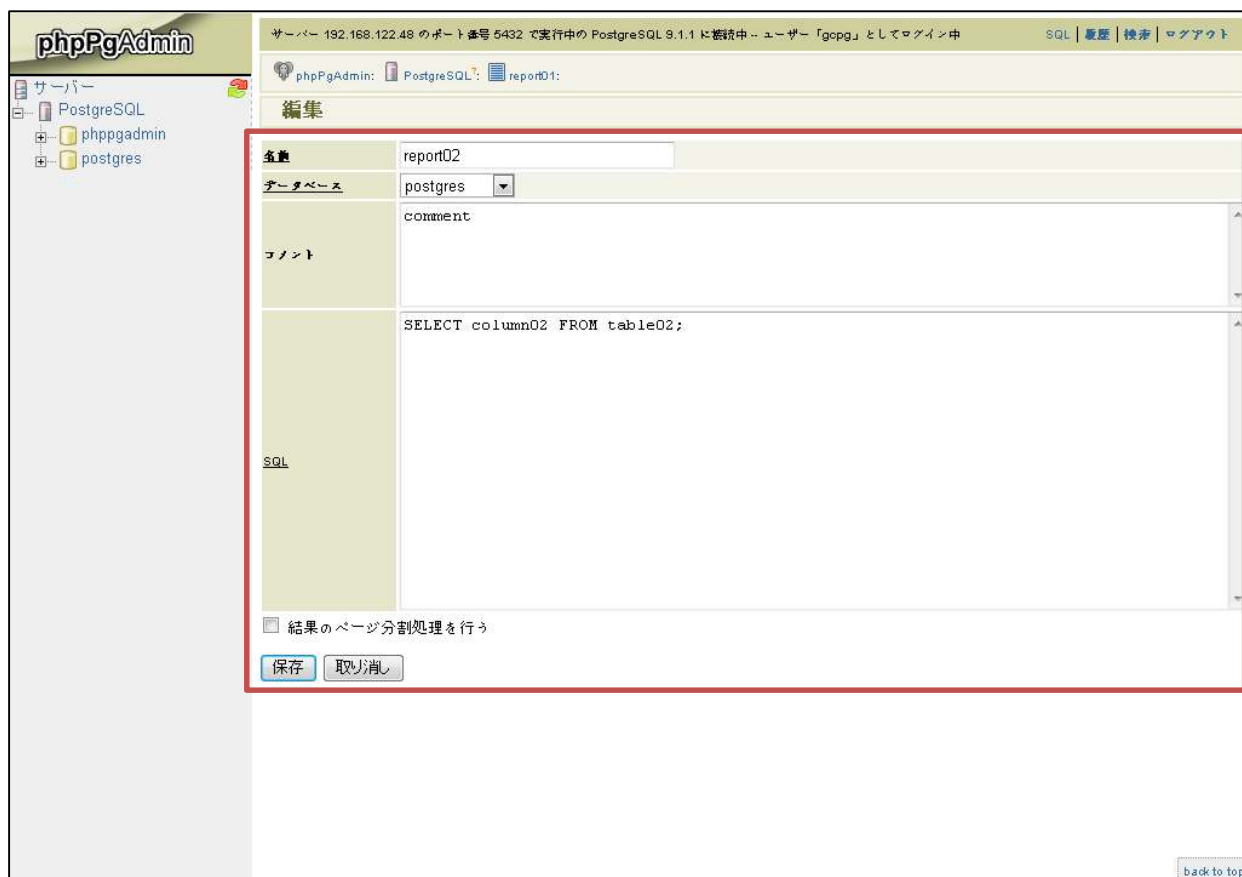


図 2-7-5 「レポートの編集」

表 2-7-6 レポートの編集画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	レポートの名称を指定します。
2	[データベース]	対象とするデータベースを指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[SQL]	レポートとして保存する SQL クエリを指定します。
5	[結果のページ分割処理を行う]	本項目を有効にすると、SQL の実行結果を一定の行数で分割して表示します。
6	[保存]ボタン	保存操作を実行します。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「レポート個別操作」でレポートが編集されたことを確認します。

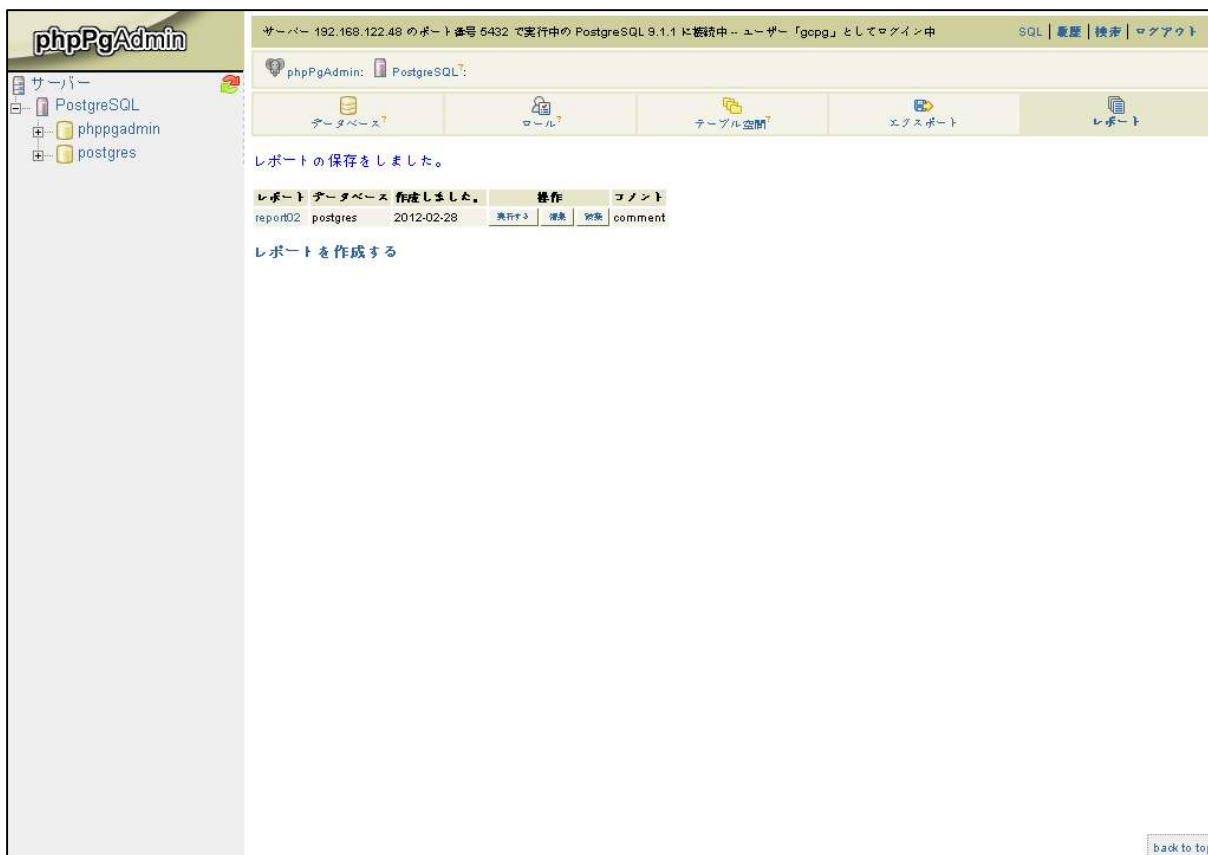


図 2-7-7 「レポート個別操作」

2-8 スキーマ個別操作メニュー

★ 「スキーマ個別操作メニュー」を表示します。

① 「スキーマ一覧操作」で“個別スキーマ名”をクリックします。

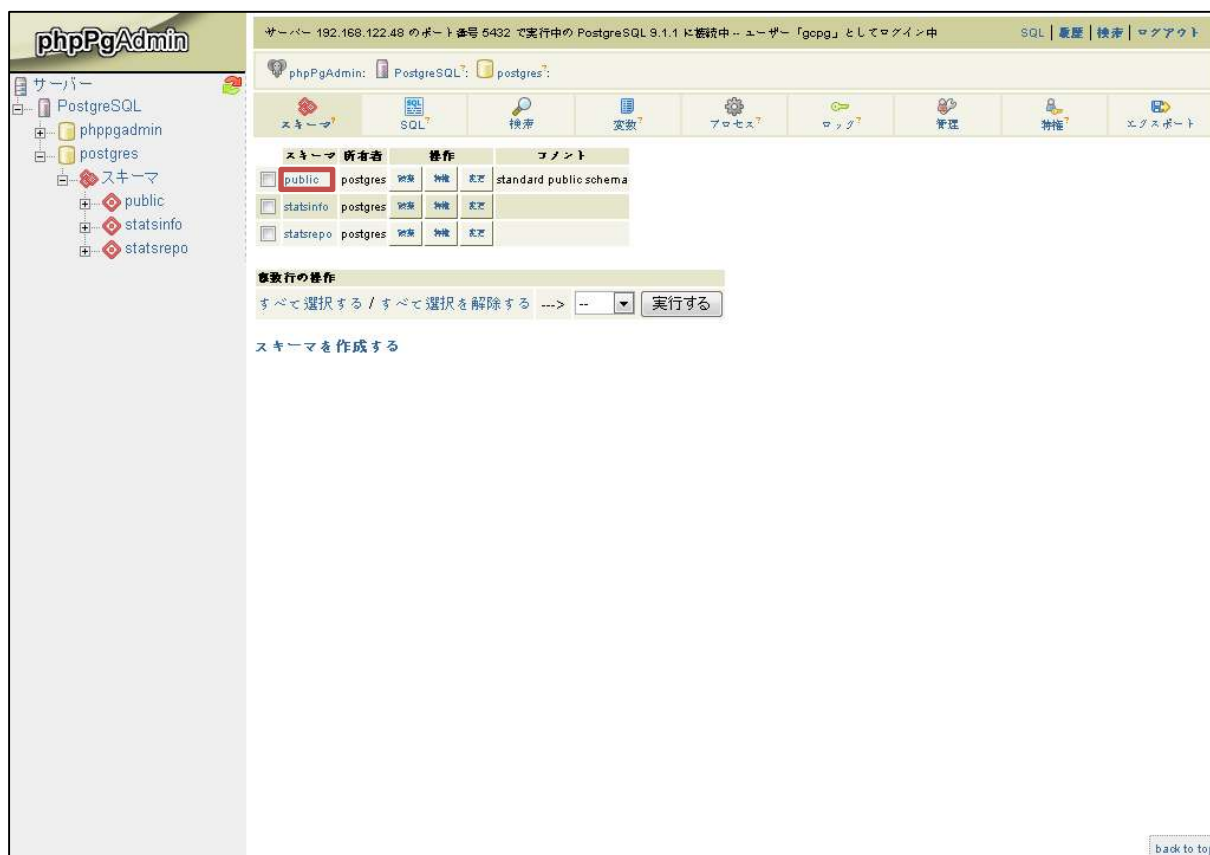


図 2-8-1 「スキーマ一覧操作」

② 「スキーマ個別操作メニュー」の表示を確認します。



図 2-8-2 「スキーマ個別操作メニュー」

表 2-8-3 スキーマ個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[テーブル]	テーブル一覧を表示します。テーブルについての操作を行うことができます。
2	[ビュー]	ビュー一覧を表示します。ビューについての操作を行うことができます。
3	[シーケンス]	シーケンス一覧を表示します。シーケンスについての操作を行うことができます。
4	[関数]	関数一覧を表示します。関数についての操作を行うことができます。
5	[全文テキスト検索]	全文テキスト検索についての情報を表示します。全文テキスト検索についての操作を行うことができます。

6	[ドメイン]	ドメイン一覧を表示します。ドメインについての操作を行うことができます。
7	[特権]	特権一覧を表示します。特権についての操作を行うことができます。
8	[エクスポート]	スキーマの情報をエクスポートすることができます。

2-8-1 テーブル一覧操作

★ 「テーブル一覧操作」を表示します。テーブルの作成、破棄、変更などができます。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [テーブル]をクリックします。

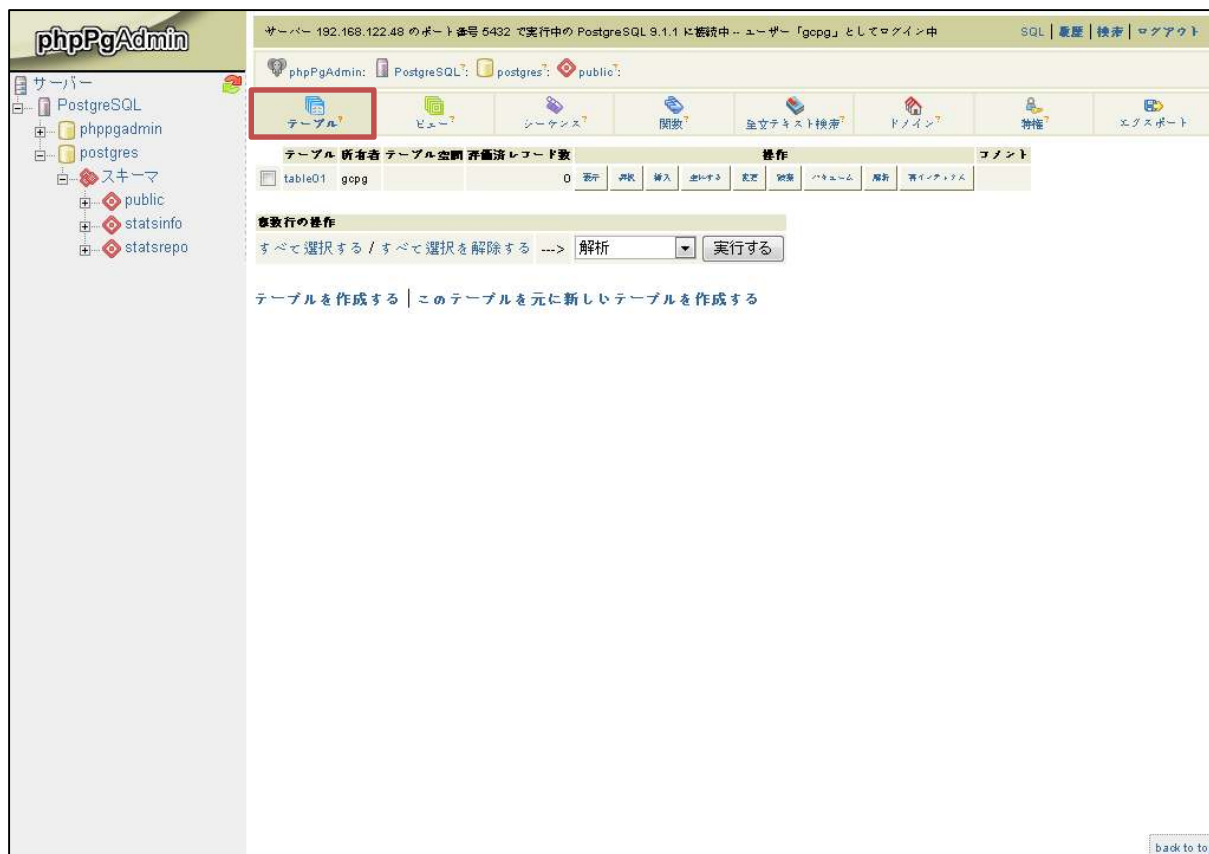


図 2-8-4 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「テーブル一覧操作」の表示を確認します。

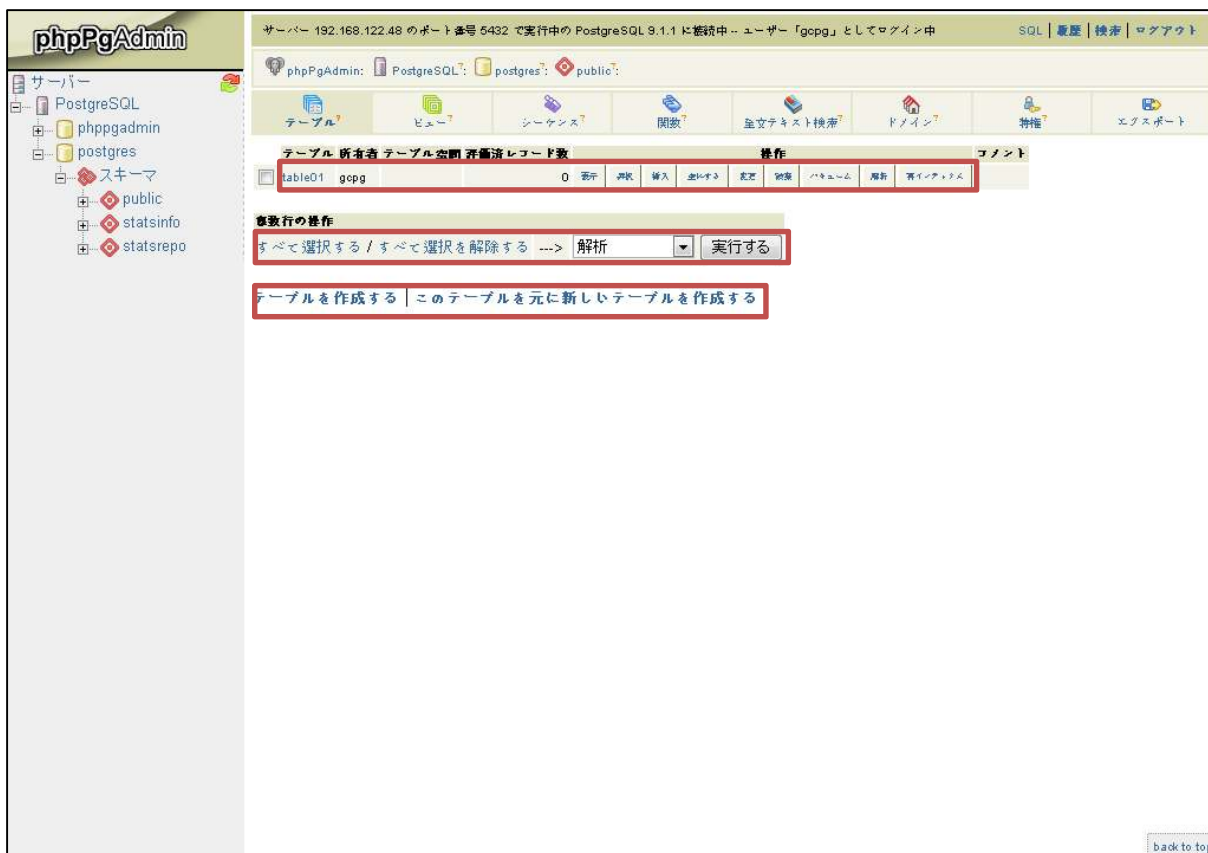


図 2-8-5 「テーブル一覧操作」

表 2-8-6 テーブル一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別テーブル名”	「テーブル個別操作メニュー」を表示します。 詳細は 2-9「テーブル個別操作メニュー」を参照してください。
2	[表示]ボタン	レコード一覧を表示します。 詳細は 2-9-1-I「テーブルの表示」を参照してください。
3	[選択]ボタン	指定条件でテーブルから行を検索することができます。 (SELECT に相当) 詳細は 2-9-1-II「テーブルの選択操作」を参照してください。
4	[挿入]ボタン	テーブルに新しい行を作成することができます。

		(INSERT に相当) 詳細は 2-9-1-III「テーブルの挿入操作」を参照してください。
5	[空にする]ボタン	テーブルを空にすることができます。(TRUNCATE に相当) 詳細は 2-9-1-IV「テーブルを空にする操作」を参照してください。
6	[変更]ボタン	テーブルの定義を変更することができます。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-1-VII「テーブルの変更」を参照してください。
7	[破棄]ボタン	テーブルを削除することができます。(DROP TABLE に相当) 詳細は 2-9-1-V「テーブルの破棄」を参照してください。
8	[バキューム]ボタン	データベースの不要領域の回収とデータベースの解析を行うことができます。(VACUUM に相当) 詳細は 2-9-6-I「テーブルのバキューム」を参照してください。
9	[解析]ボタン	データベースについての統計を集計することができます。(ANALYZE に相当) 詳細は 2-9-6-II「テーブルの解析」を参照してください。
10	[再インデックス]ボタン	インデックスを再構築することができます。(REINDEX に相当) 詳細は 2-9-6-IV「テーブルの再インデックス」を参照してください。
11	[複数行の操作]	選択されているテーブルに対して以下の操作を一括で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ● 空にする ● 破棄 ● バキューム ● 解析 ● 再インデックス 対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらない

		いため、本マニュアルでの説明は割愛します。
12	[テーブルを作成する]	新しいテーブルを定義することができます。(CREATE TABLE に相当) 詳細は 2-8-1-I-i「テーブルの作成」を参照してください。
13	[このテーブルを元に新しいテーブルを作成する]	指定したテーブルの定義を元に、新しいテーブルを定義することができます。(CREATE TABLE に相当) 詳細は 2-8-1-I-ii「既存テーブルを元にしたテーブルの作成」を参照してください。

2-8-1-I-i. テーブルの作成

★ テーブルを作成します。

① 「テーブル一覧操作」で[テーブルを作成する]をクリックします。



図 2-8-7 「テーブル一覧操作」

② 「テーブルの作成」で[次に]ボタンをクリックします。

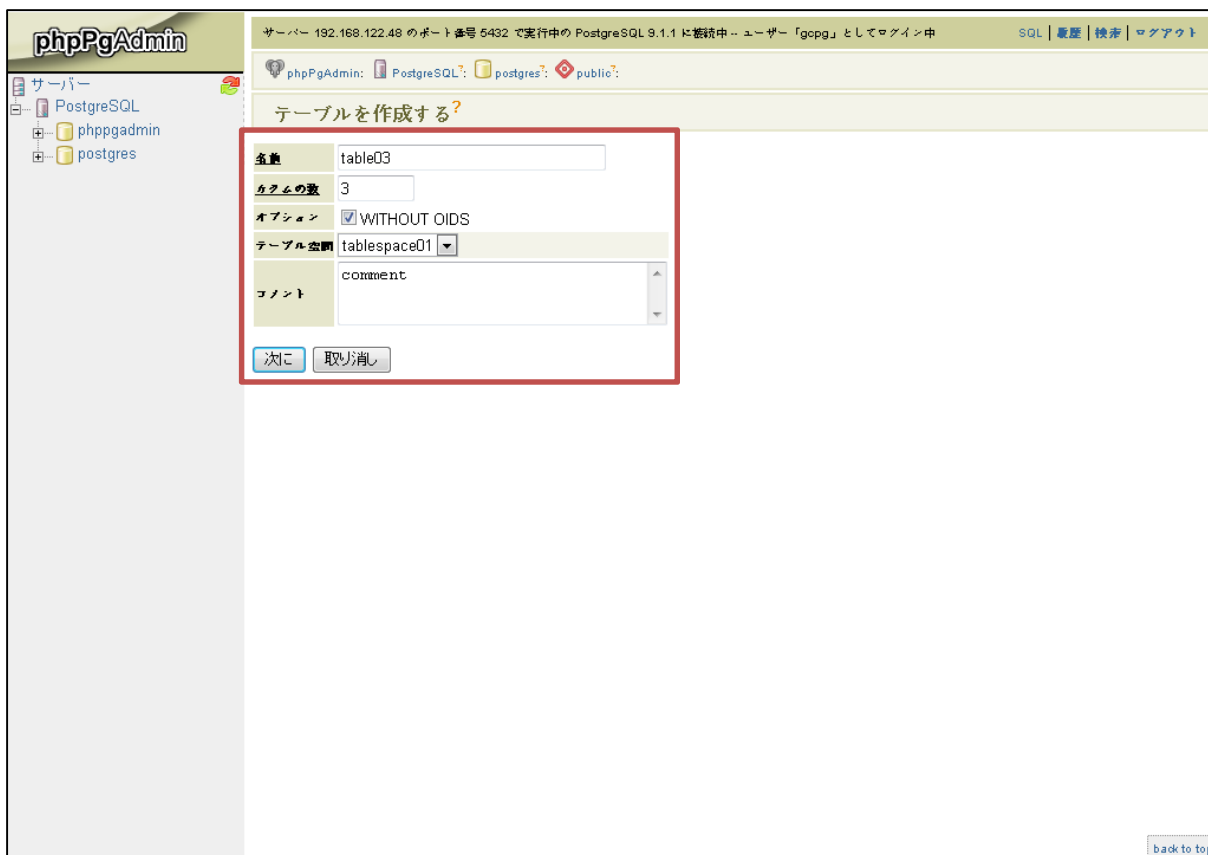


図 2-8-8 「テーブルの作成」

表 2-8-9 テーブルの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	テーブルの名称を指定します。
2	[カラムの数]	カラムの数を指定します。
3	[WITHOUT OIDS]	新しいテーブルがオブジェクト識別子を格納するか否かを指定します。
4	[テーブル空間]	テーブルが作成されるテーブル空間を指定します。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
5	[コメント]	コメントを指定します。

6	[次に]ボタン	テーブル作成操作を続けます。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの作成 2」 で[作成]ボタンをクリックします。

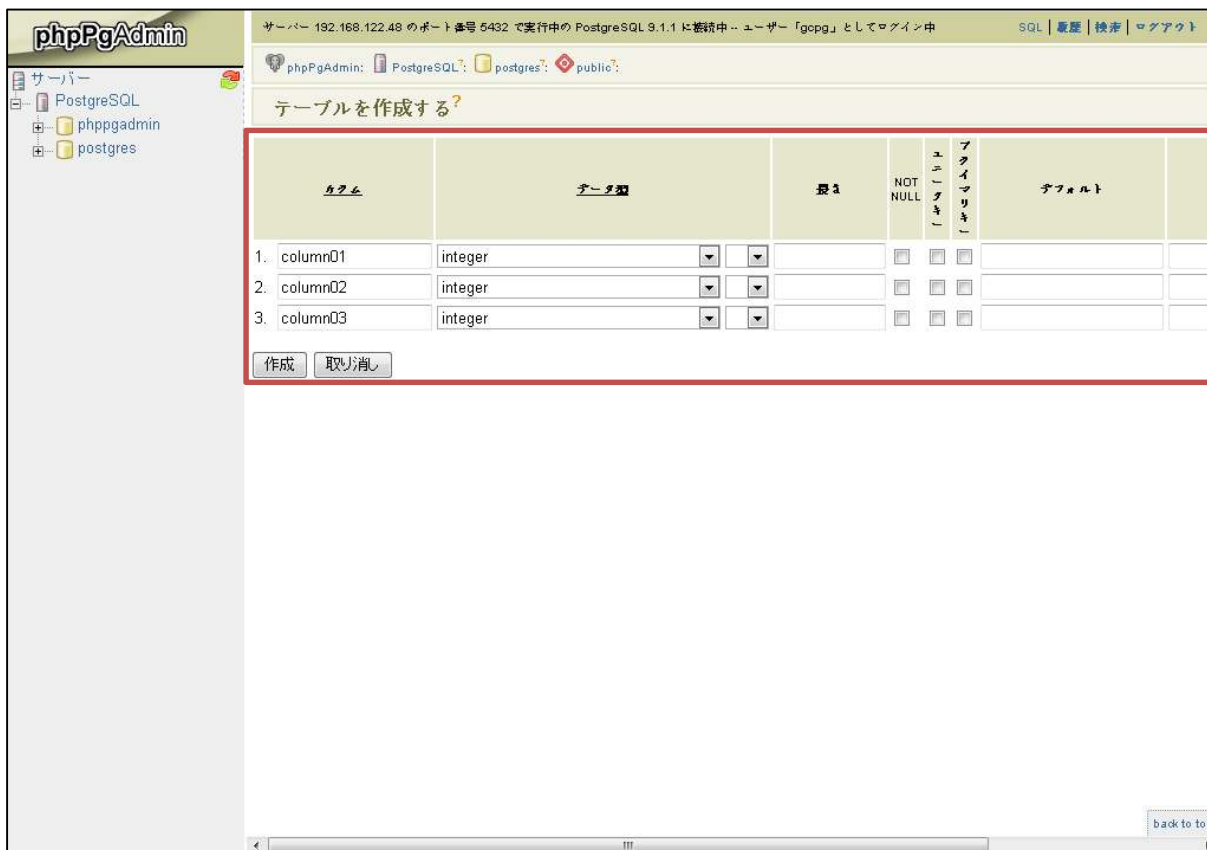


図 2-8-10 「テーブルの作成 2」

表 2-8-11 テーブルの作成 2 画面項目

NO	項目名	説明
1	[カラム]	カラムの名称を指定します。
2	[データ型]	カラムのデータ型を指定します。
3	配列	カラムのデータ型が配列か否か指定します。
4	[長さ]	カラムの長さを指定します。

5	[NOT NULL]	カラムに NOT NULL 制約を指定したい場合に有効にします。
6	[ユニークキー]	カラムにユニークキー制約を指定したい場合に有効にします。
7	[プライマリキー]	カラムにプライマリキー制約を指定したい場合に有効にします。
8	[デフォルト]	カラムのデフォルト値を指定します。
9	[コメント]	カラムのコメントを指定します。
10	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
11	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

④ 「テーブル一覧操作」でテーブルが作成されたことを確認します。



図 2-8-12 「テーブル一覧操作」

2-8-1-I-ii. 既存テーブルを元にしたテーブルの作成

★ 既存テーブルを元に新しいテーブルを作成します。

① 「テーブル一覧操作」で[このテーブルを元に新しいテーブルを作成する]をクリックします。

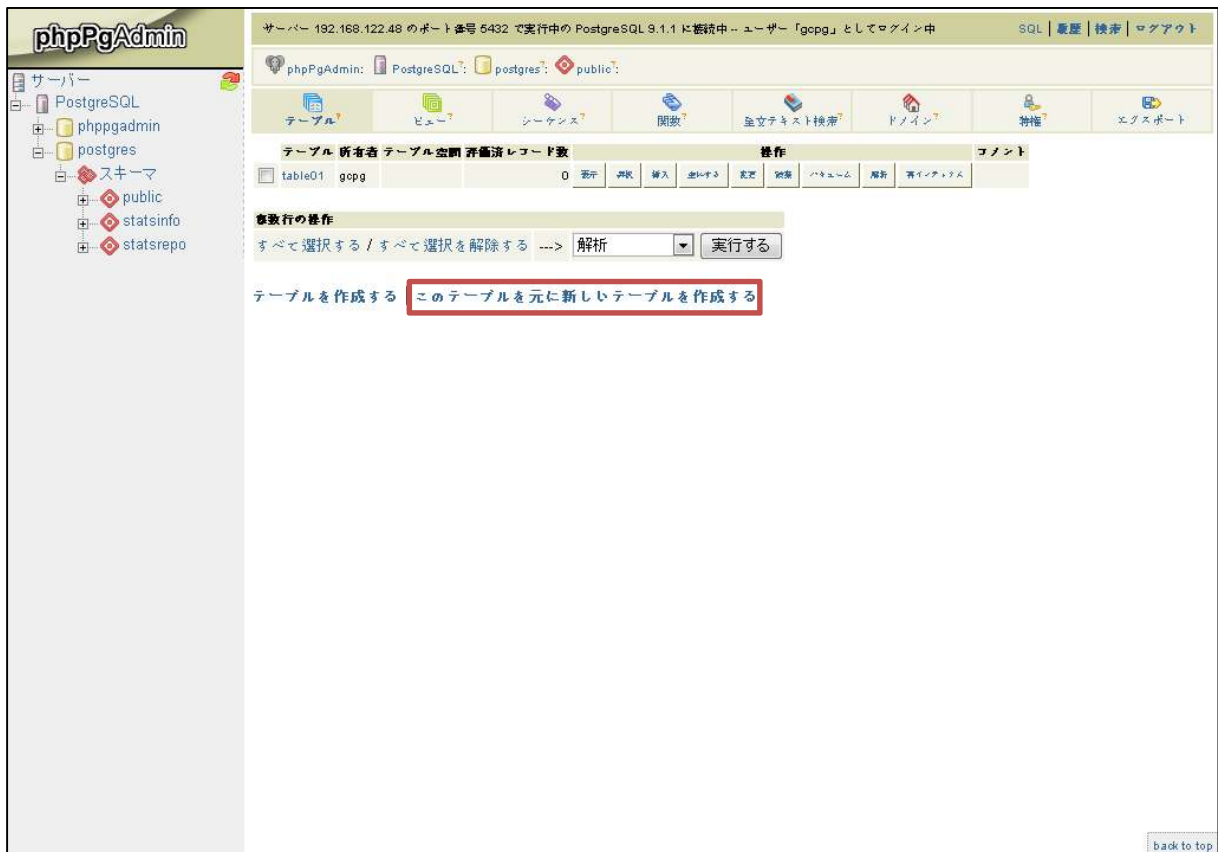


図 2-8-13 「テーブル一覧操作」

② 「既存テーブルを元にしたテーブルの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

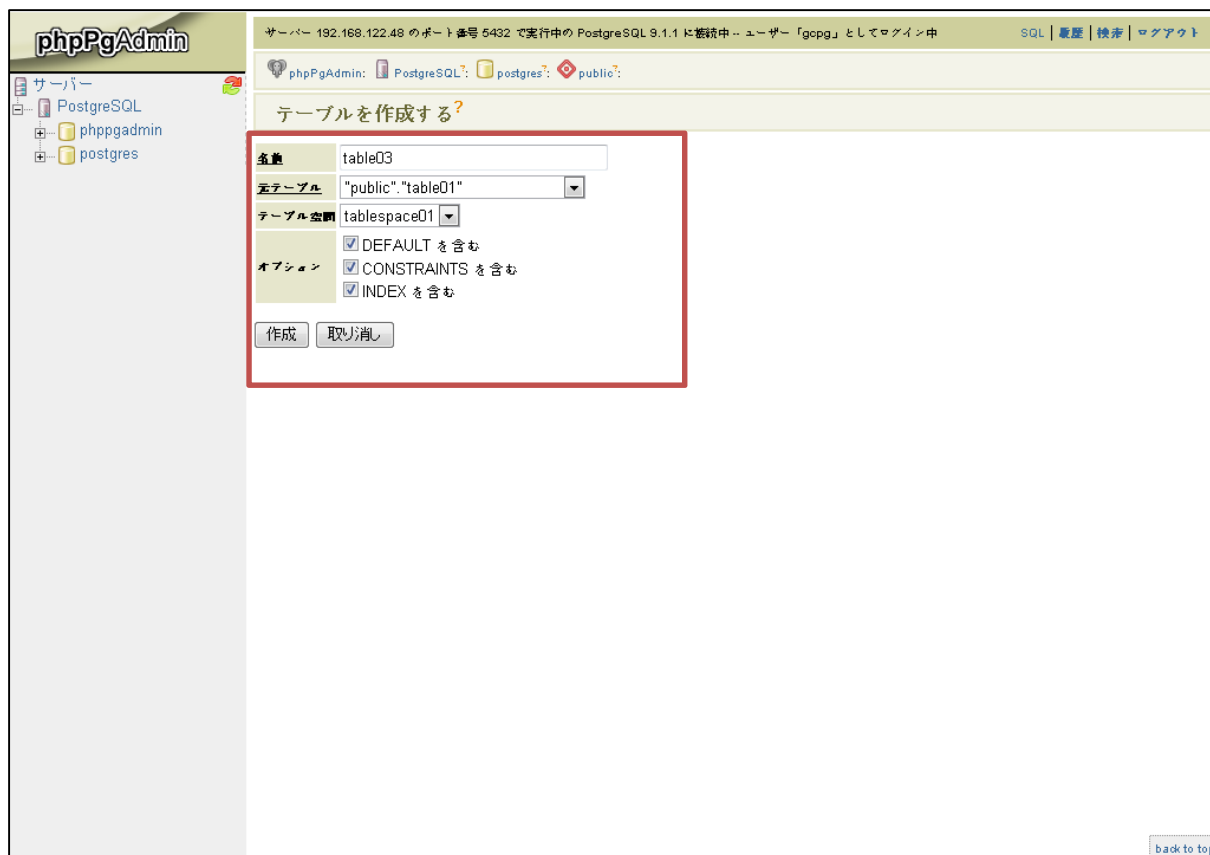


図 2-8-14 「既存テーブルを元にしたテーブルの作成」

表 2-8-15 既存テーブルを元にしたテーブルの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	テーブルの名称を指定します。
2	[元テーブル]	参照元とする既存テーブルを指定します。
3	[テーブル空間]	テーブルが作成されるテーブル空間を指定します。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
4	[DEFAULT を含む]	デフォルト値を含めるか否か指定します。
5	[CONSTRAINTS を含む]	制約を含めるか否か指定します。

6	[INDEX を含む]	インデックスを指定するか否か指定します。
7	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル一覧操作」でテーブルが作成されたことを確認します。



図 2-8-16 「テーブル一覧操作」

2-8-2 ビュー一覧操作

★ 「ビュー一覧操作」を表示します。ビューの作成、破棄、変更などができます。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [ビュー]をクリックします。



図 2-8-17 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「ビュー一覧操作」の表示を確認します。

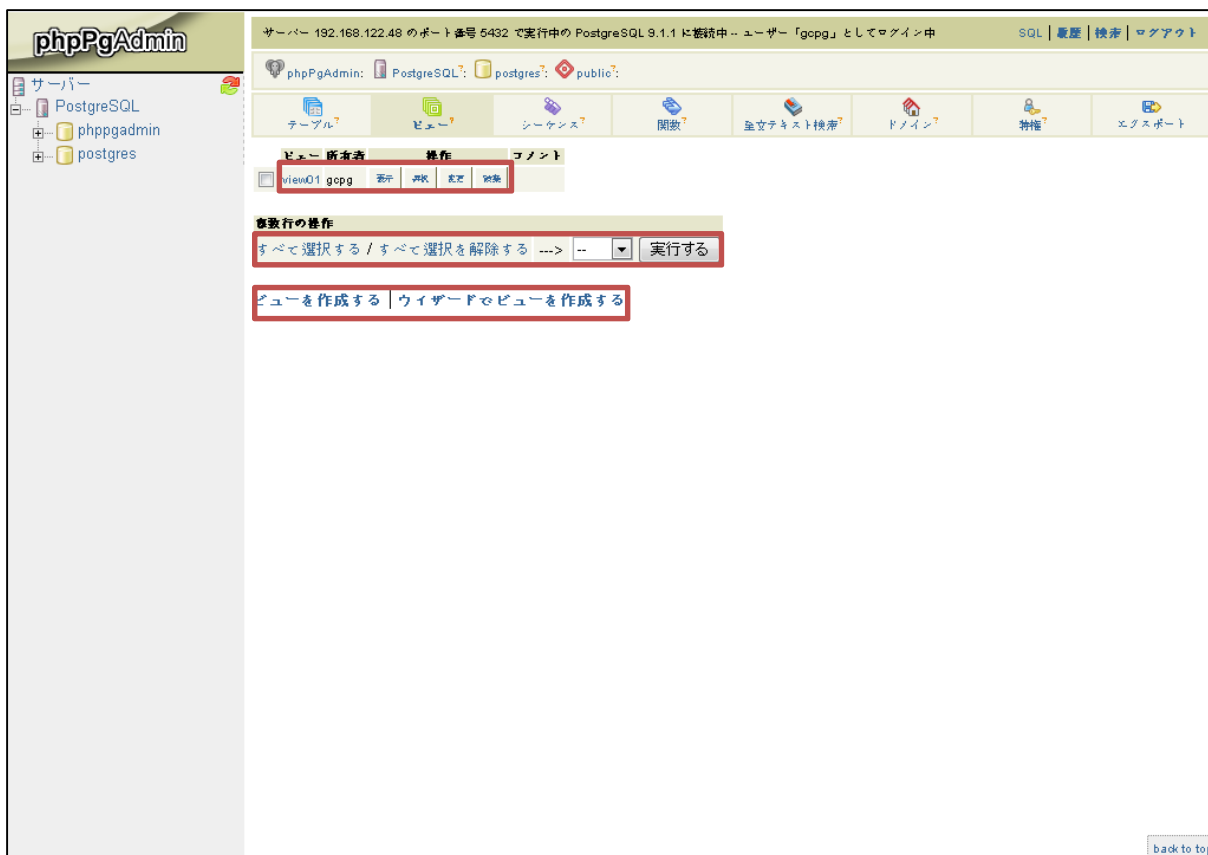


図 2-8-18 「ビュー一覧操作」

表 2-8-19 ビュー一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別ビュー名”	「ビュー個別操作メニュー」を表示します。 詳細は 2-11「ビュー個別操作メニュー」を参照してください。
2	[表示]ボタン	レコード一覧を表示します。 詳細は 2-11-1-II「ビューの表示」を参照してください。
3	[選択]ボタン	指定条件でビューから行を検索することができます。 (SELECT に相当)

		詳細は 2-11-1-III「ビューの選択操作」を参照してください。
4	[変更]ボタン	ビューの定義を変更することができます。(ALTER VIEW に相当) 詳細は 2-11-1-V「ビューの変更」を参照してください。
5	[破棄]ボタン	ビューを削除することができます。(DROP VIEW に相当) 詳細は 2-11-1-IV「ビューの破棄」を参照してください。
6	[複数行の操作]	選択されているビューに対して以下の操作を一括で行います。 ● 破棄 対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。
7	[ビューを作成する]	新しいビューを定義することができます。(CREATE VIEW に相当) 詳細は 2-8-2-I-i「ビューの作成」を参照してください。
8	[ウィザードでビューを作成する]	ウィザード形式で新しいビューを定義することができます。(CREATE VIEW に相当) 詳細は 2-8-2-I-ii「ウィザードを使ったビューの作成」を参照してください。

2-8-2-I-i. ビューの作成

★ ビューを作成します。

① 「ビュー一覧操作」で[ビューを作成する]をクリックします。

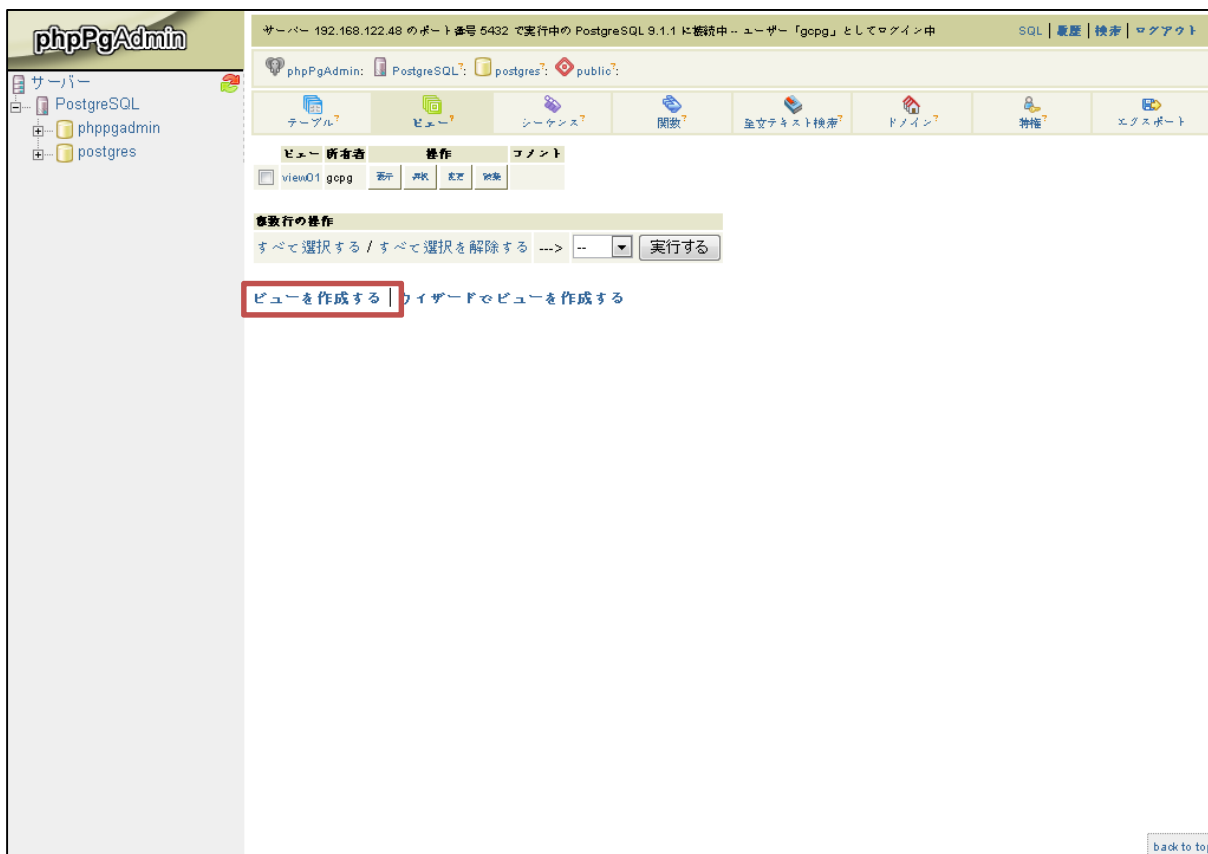


図 2-8-20 「ビュー一覧操作」

② 「ビューの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

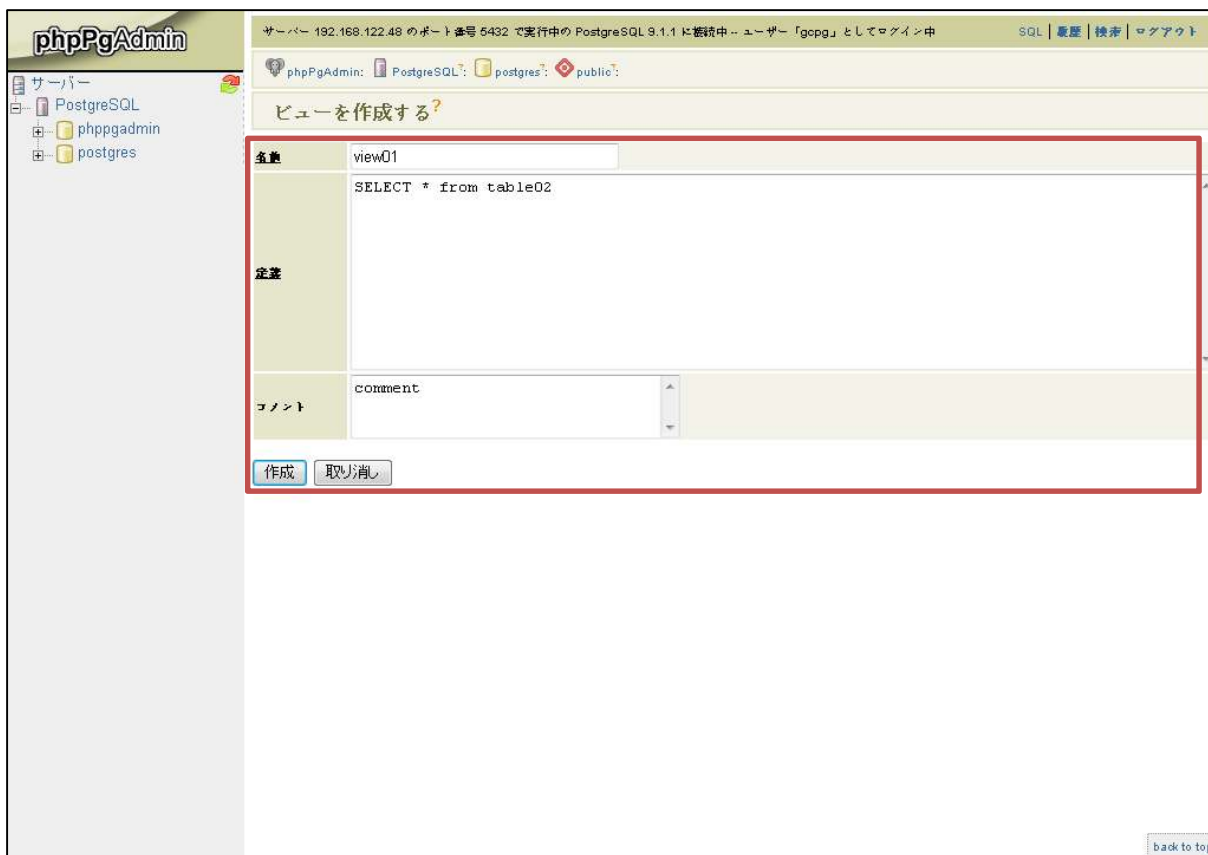


図 2-8-21 「ビューの作成」

表 2-8-22 ビューの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ビューの名称を指定します。
2	[定義]	ビューとして定義する SELECT 文または VALUES 文を指定します。
3	[コメント]	ビューについてのコメントを指定します。
4	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビュー一覧操作」でビューが作成されたことを確認します。

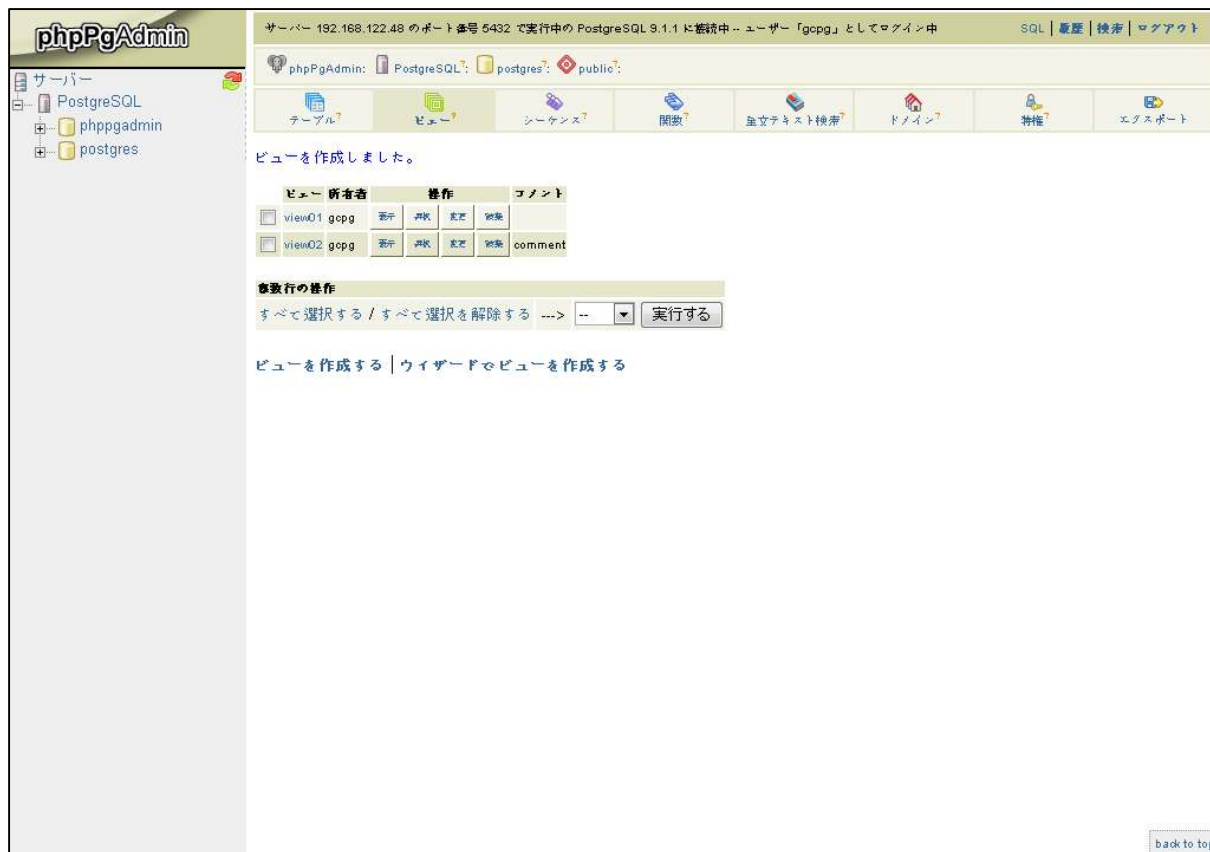


図 2-8-23 「ビュー一覧操作」

2-8-2-I-ii. ウィザードを使ったビューの作成

★ ウィザードを使って新しいテーブルを作成します。

① 「ビュー一覧操作」で[ウィザードでビューを作成する]をクリックします。



図 2-8-24 「ビュー一覧操作」

② 「ウィザードを使ったビューの作成」で[次に]ボタンをクリックします。

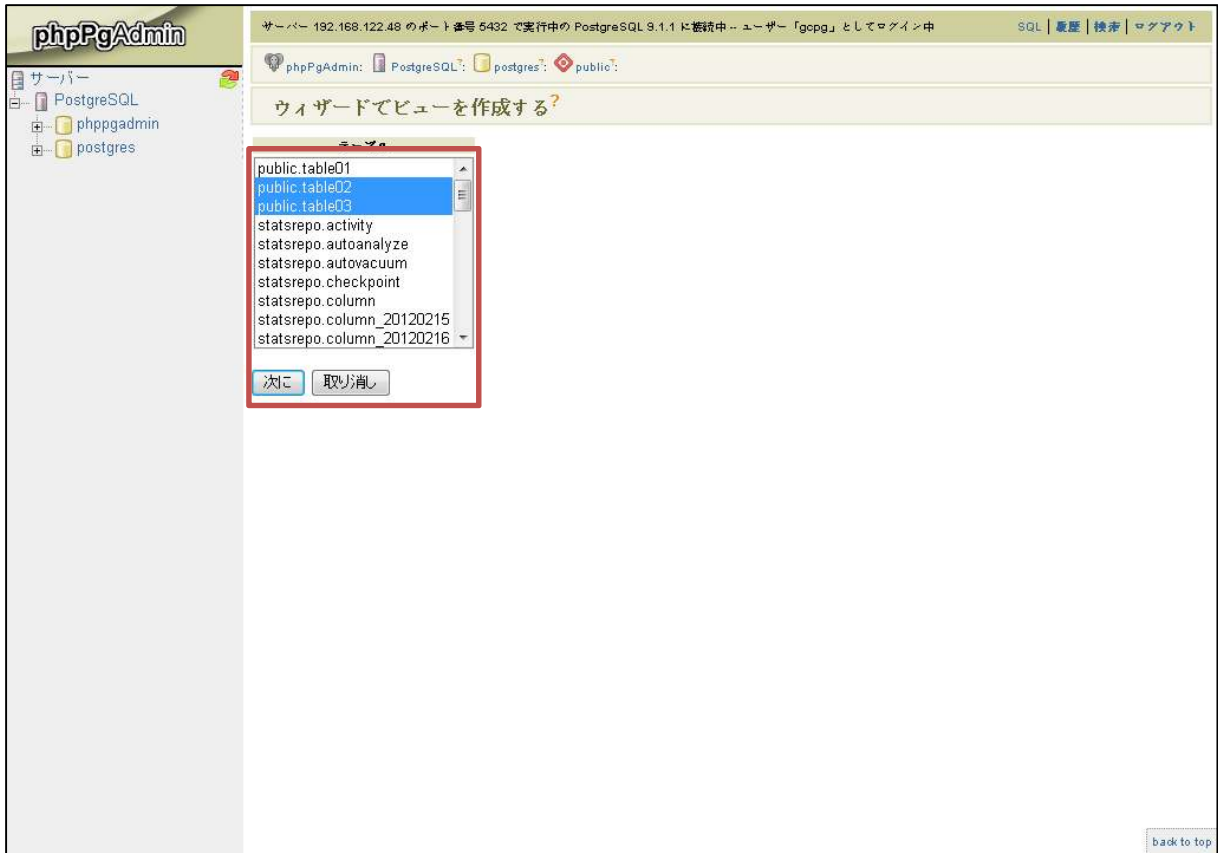


図 2-8-25 「ウィザードを使ったビューの作成」

表 2-8-26 ウィザードを使ったビューの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[テーブル]	参照先テーブルを指定します。
2	[次に]ボタン	作成操作を継続します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ウィザードを使ったビューの作成 2」で[作成]ボタンをクリックします。

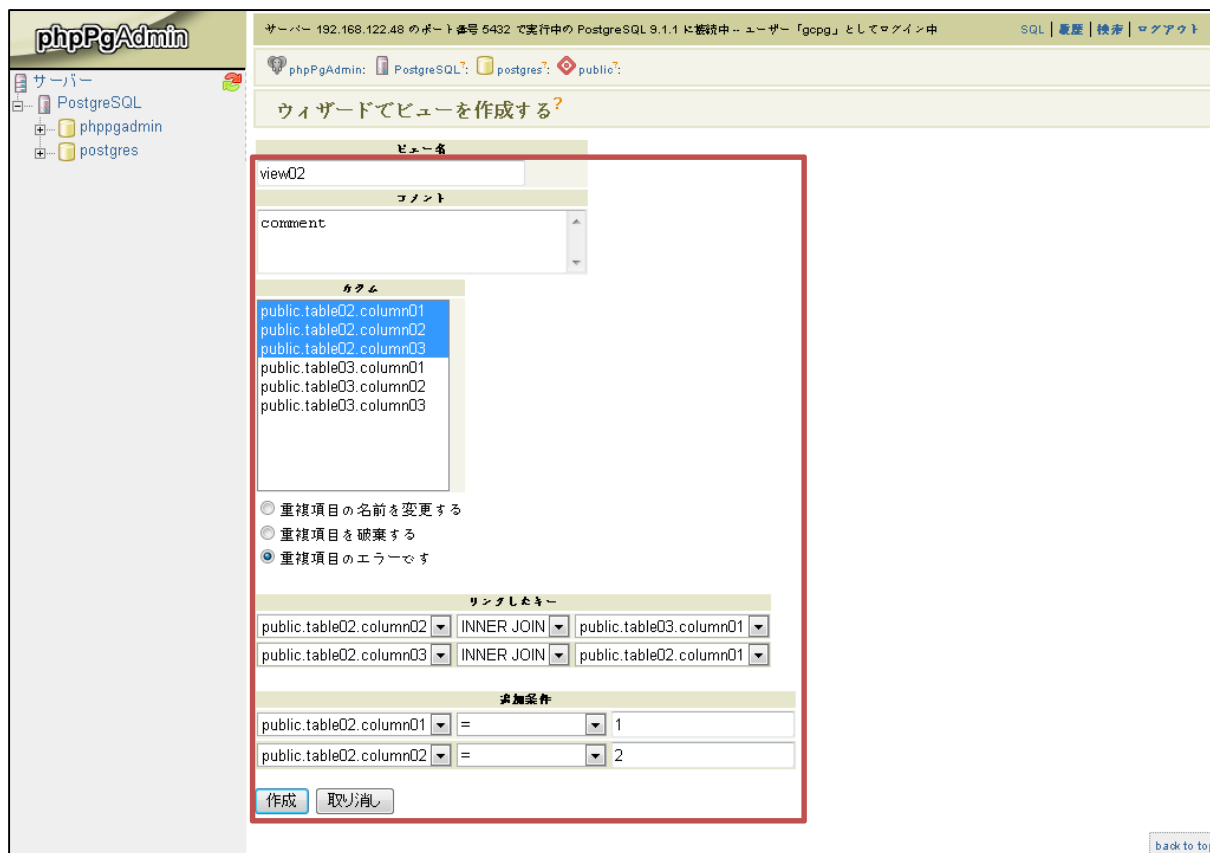


図 2-8-27 「ウィザードを使ったビューの作成」

表 2-8-28 ウィザードを使ったビューの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[ビュー名]	ビューの名称を指定します。
2	[コメント]	ビューについてのコメントを指定します。
3	[カラム]	ビューとして選択するカラムを指定します。
4	重複項目の扱い	<p>[カラム]で選択したカラム名が重複していた場合の扱い方を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重複項目の名前を変更する：重複したカラム名を自動的に変更してビューを作成します。 ● 重複項目を破棄する：重複したカラム名を破棄して

		<p>ビューを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重複項目のエラーです：重複したカラム名が存在するときはエラーを表示します。
5	[リンクしたキー]	<p>結合する場合は結合方法を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● INNER JOIN ● LEFT JOIN ● RIGHT JOIN ● FULL JOIN
6	[追加条件]	<p>追加する条件をカラムと比較演算子と値で指定します。 比較演算子は下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● = ● != ● < ● > ● <= ● >= ● << ● >> ● <<= ● >>= ● LIKE ● NOT LIKE ● ILIKE ● NOT ILIKE ● SIMILAR TO ● NOT SIMILAR TO ● ~ ● !~ ● ~* ● !~* ● @@ ● @@@ ● @>

		● <@
7	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

④ 「ビュー一覧操作」でビューが作成されたことを確認します。



図 2-8-29 「ビュー一覧操作」

2-8-3 シーケンス一覧操作

★ 「シーケンス一覧操作」を表示します。シーケンスの作成、破棄、変更などができます。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [シーケンス]をクリックします。

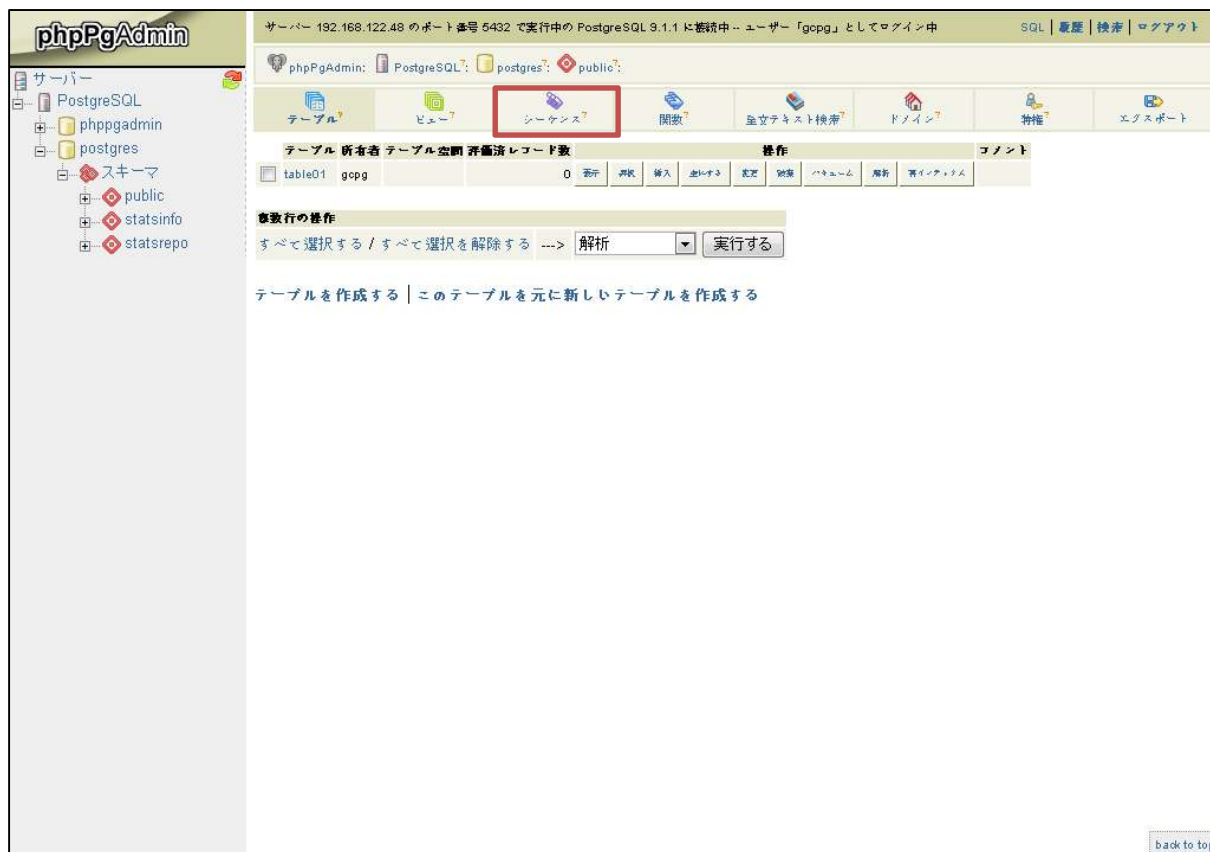


図 2-8-30 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「シーケンス一覧操作」の表示を確認します。

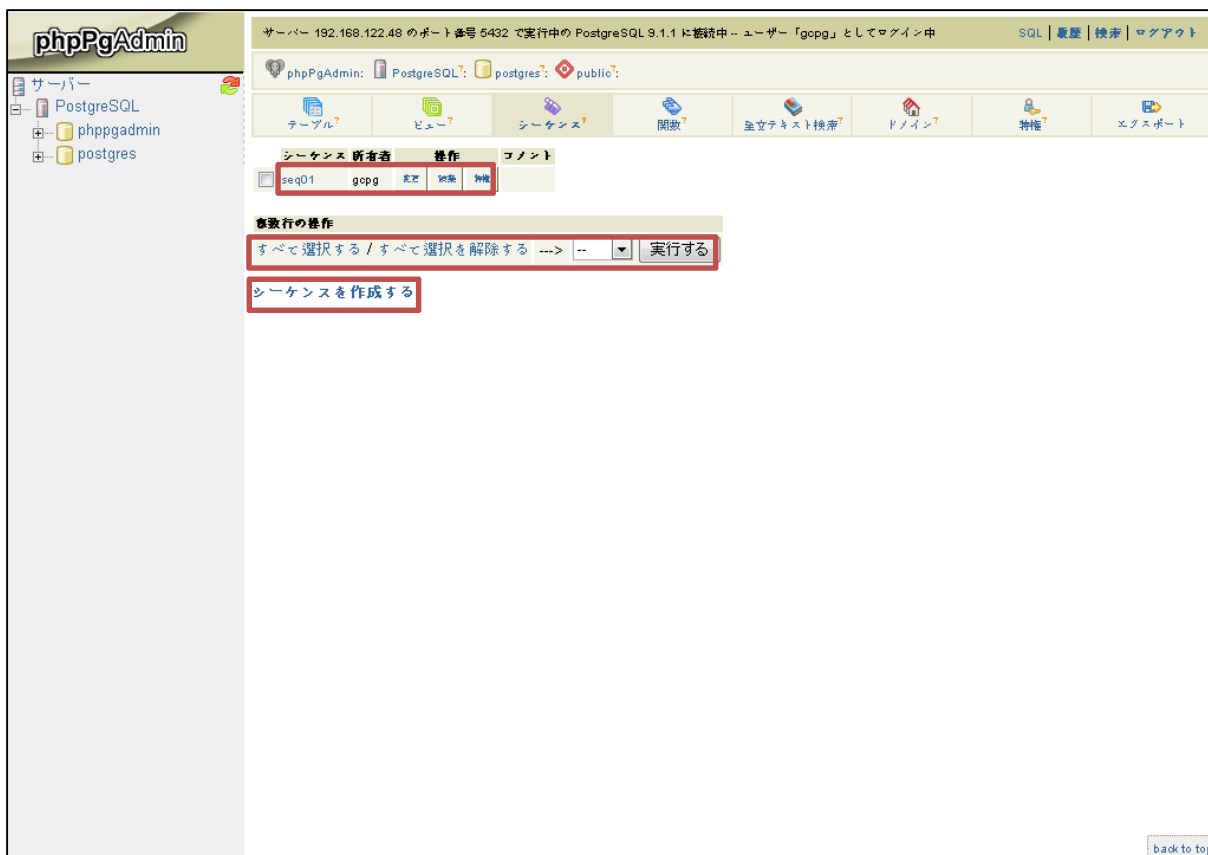


図 2-8-31 「シーケンス一覧操作」

表 2-8-32 シーケンス一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別シーケンス名”	「シーケンス個別操作」を表示します。 詳細は 2-12「シーケンス個別操作」を参照してください。
2	[変更]ボタン	シーケンスの定義を変更することができます。(ALTER SEQUENCE に相当) 詳細は 2-12-1「シーケンスの変更」を参照してください。
3	[破棄]ボタン	シーケンスを削除することができます。(DROP SEQUENCE に相当) 詳細は 2-8-3-I-i「シーケンスの破棄」を参照してください。
4	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相

		<p>当)</p> <p>詳細は 2-8-3-I-ii「シーケンスの特権操作」を参照してください。</p>
5	[複数行の操作]	<p>選択されているシーケンスに対して以下の操作を一括で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 破棄 <p>対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。</p>
6	[シーケンスを作成する]	<p>新しいシーケンスを定義することができます。(CREATE SEQUENCE に相当)</p> <p>詳細は 2-8-3-I-iii「シーケンスの作成」を参照してください。</p>

2-8-3-I-i. シーケンスの破棄

★ シーケンスを削除します。

① 「シーケンス一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

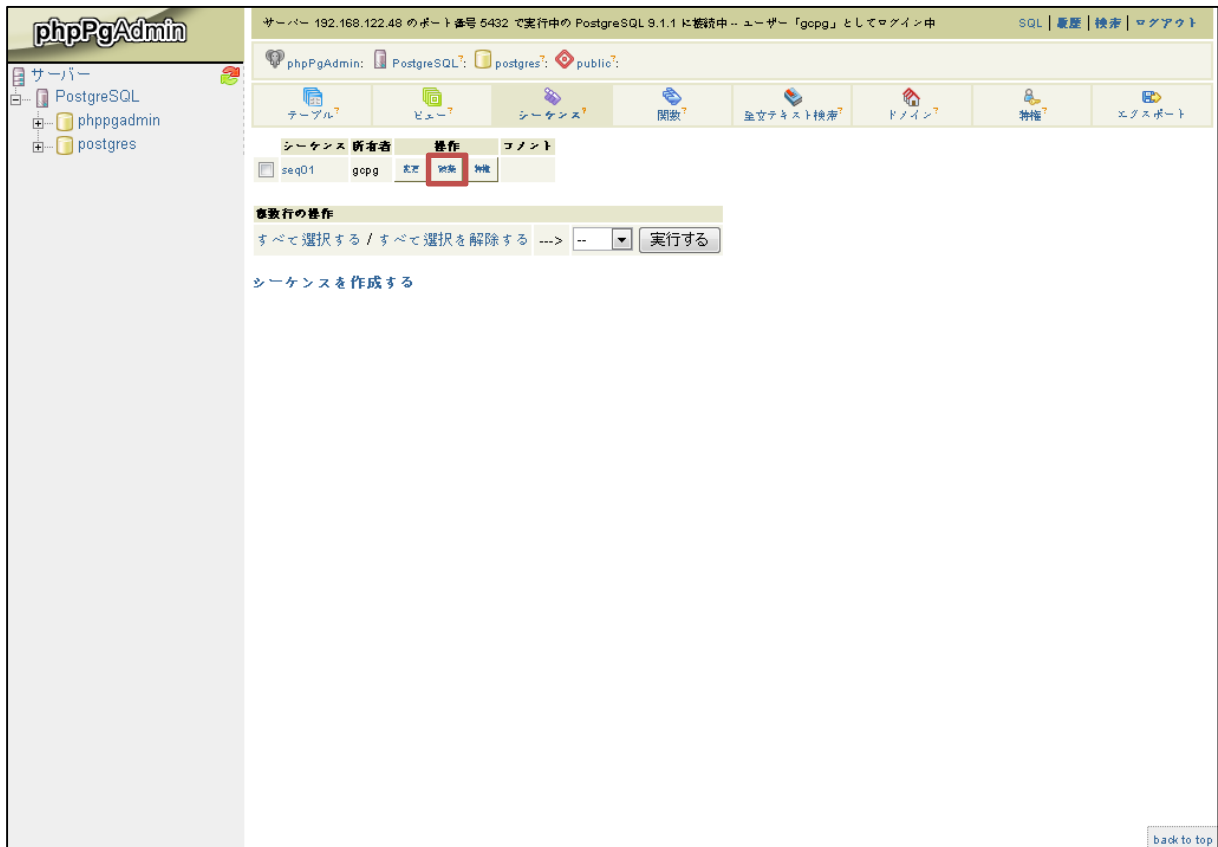


図 2-8-33 「シーケンス一覧操作」

② 「シーケンスの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

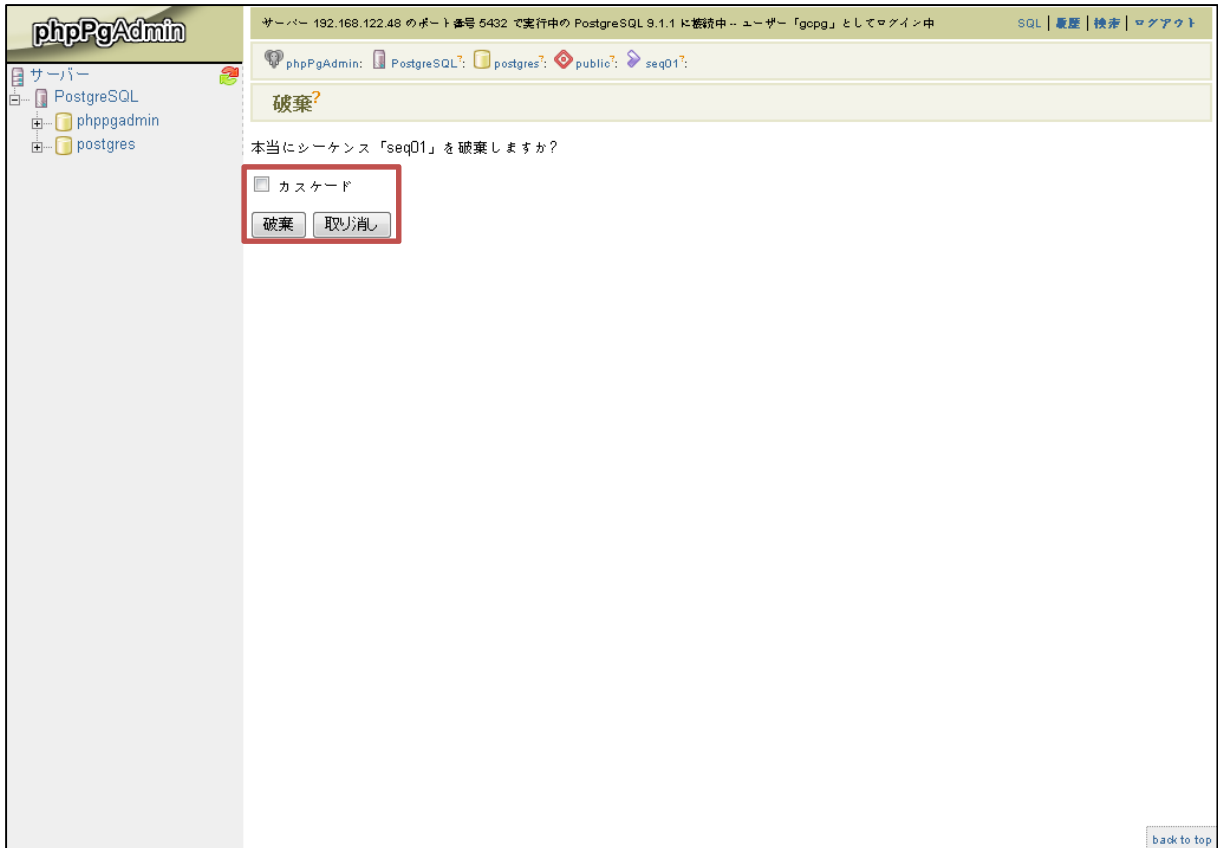


図 2-8-34 「シーケンスの破棄」

表 2-8-35 シーケンスの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するシーケンスにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンス一覧操作」でシーケンスが破棄されたことを確認します。

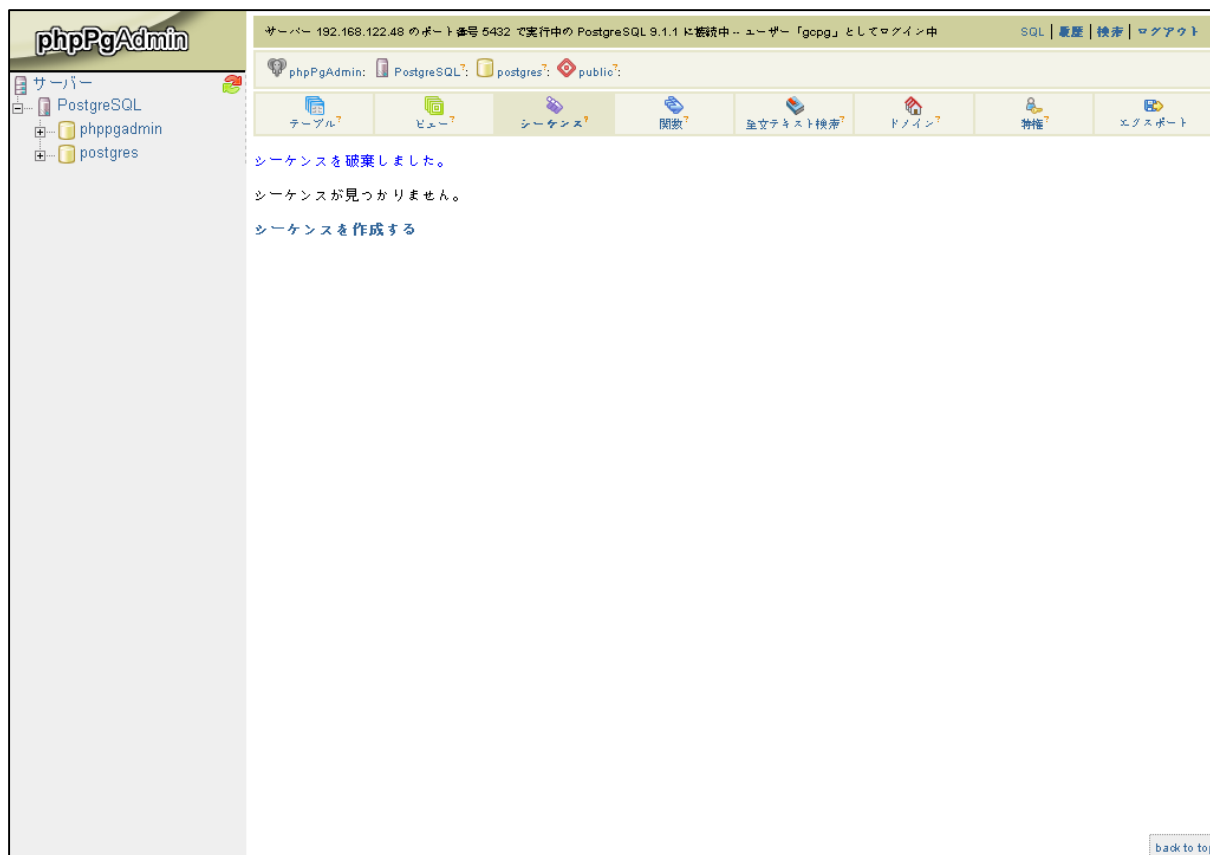


図 2-8-36 「シーケンス一覧操作」

2-8-3-I-ii. シーケンスの特権操作

★ 「シーケンスの特権操作」を表示します。

① 「シーケンス一覧操作」で [特権] ボタンをクリックします。

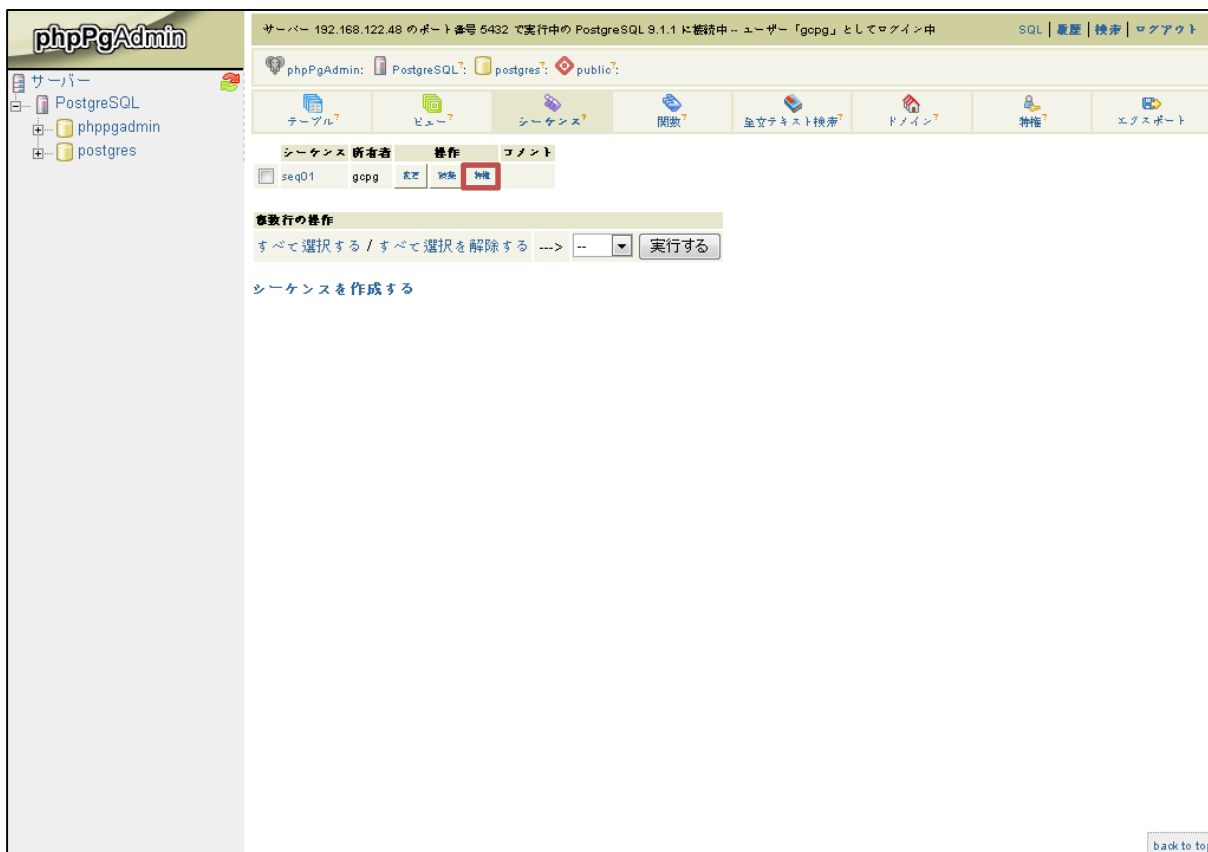


図 2-8-37 「シーケンス一覧操作」

② 「シーケンスの特権操作」の表示を確認します。

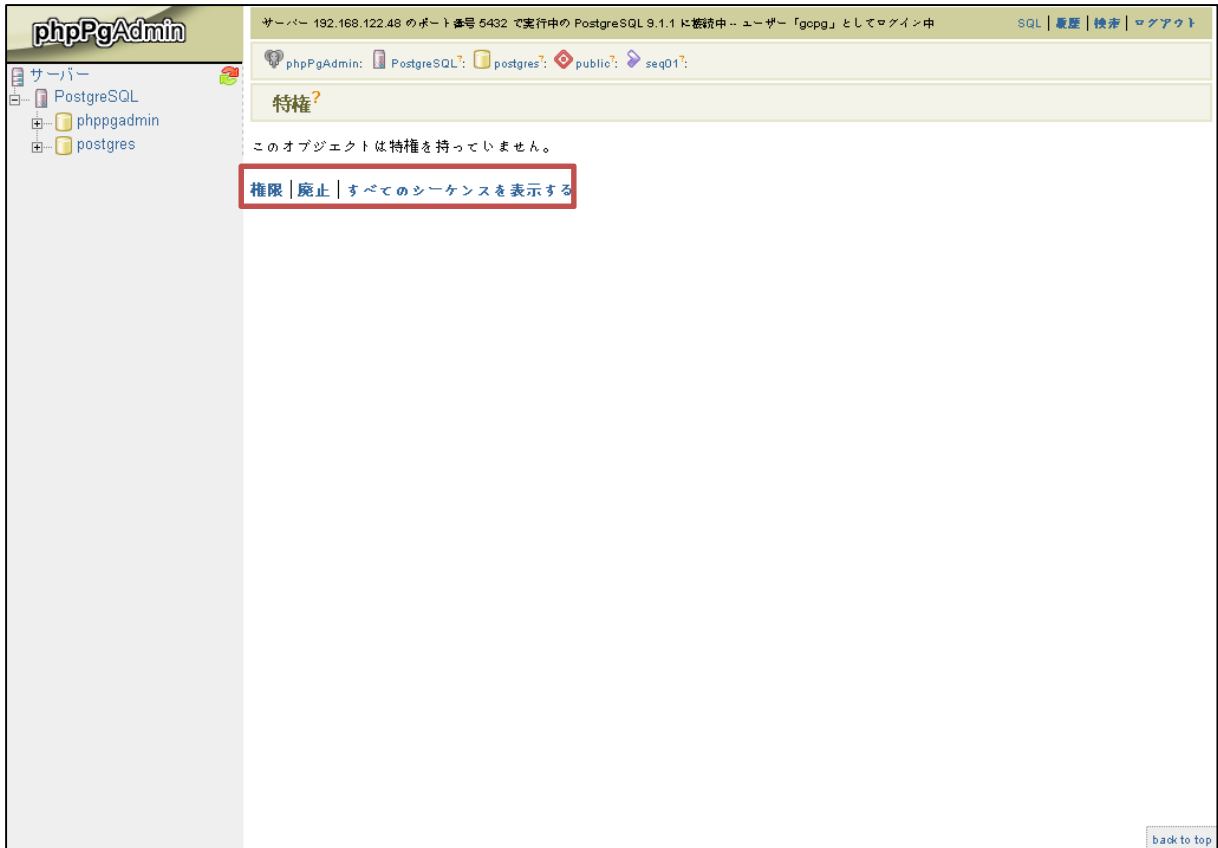


図 2-8-38 「シーケンスの特権操作」

表 2-8-39 シーケンスの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該シーケンスについてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-8-3-I-ii-A 「シーケンスの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該シーケンスについてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-8-3-I-ii-B 「シーケンスの特権破棄」を参照してください。

3	[すべてのシーケンスを表示する]	「シーケンス一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-3 「シーケンス一覧操作」を参照してください。
----------	------------------	---

2-8-3-I-ii-A. シーケンスの特権追加

★ シーケンスに対するアクセス権限を定義します。

① 「シーケンスの特権操作」で[権限]をクリックします。

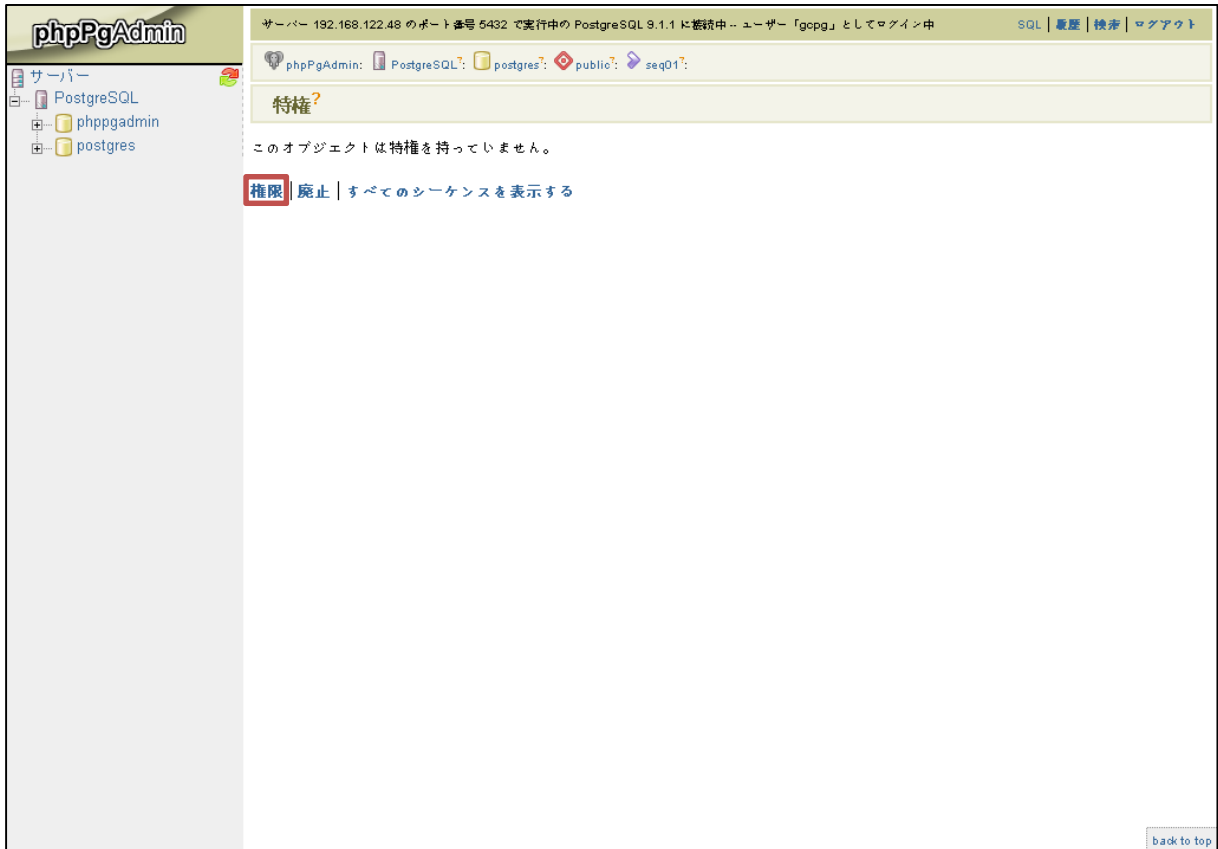


図 2-8-40 「シーケンスの特権操作」

② 「シーケンスの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

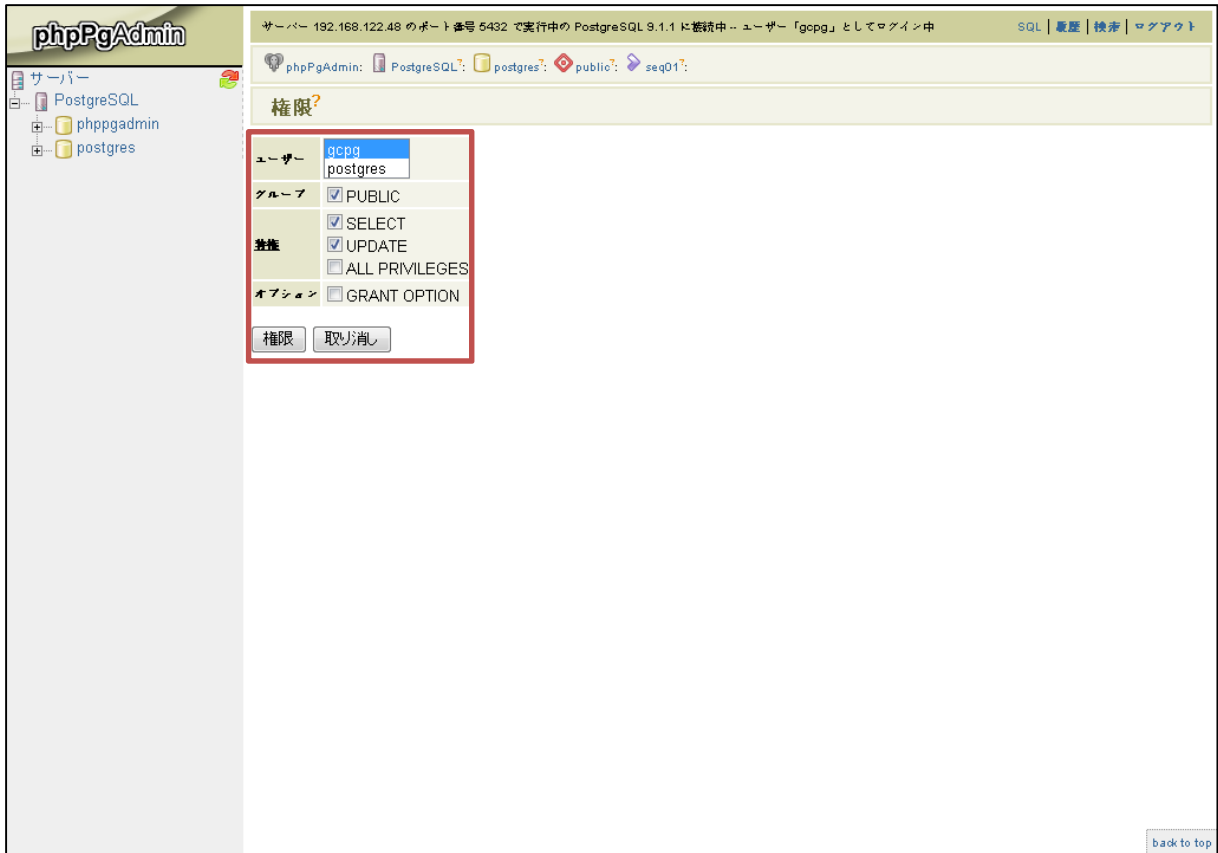


図 2-8-41 「シーケンスの特権追加」

表 2-8-42 シーケンスの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	<p>ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT を許可します。 ● UPDATE : UPDATE を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。

4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンスの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。



図 2-8-43 「シーケンスの特権操作」

2-8-3-I-ii-B. シーケンスの特権破棄

★ シーケンスに対するアクセス権限を取り消します。

① 「シーケンスの特権操作」で[廃止]をクリックします。

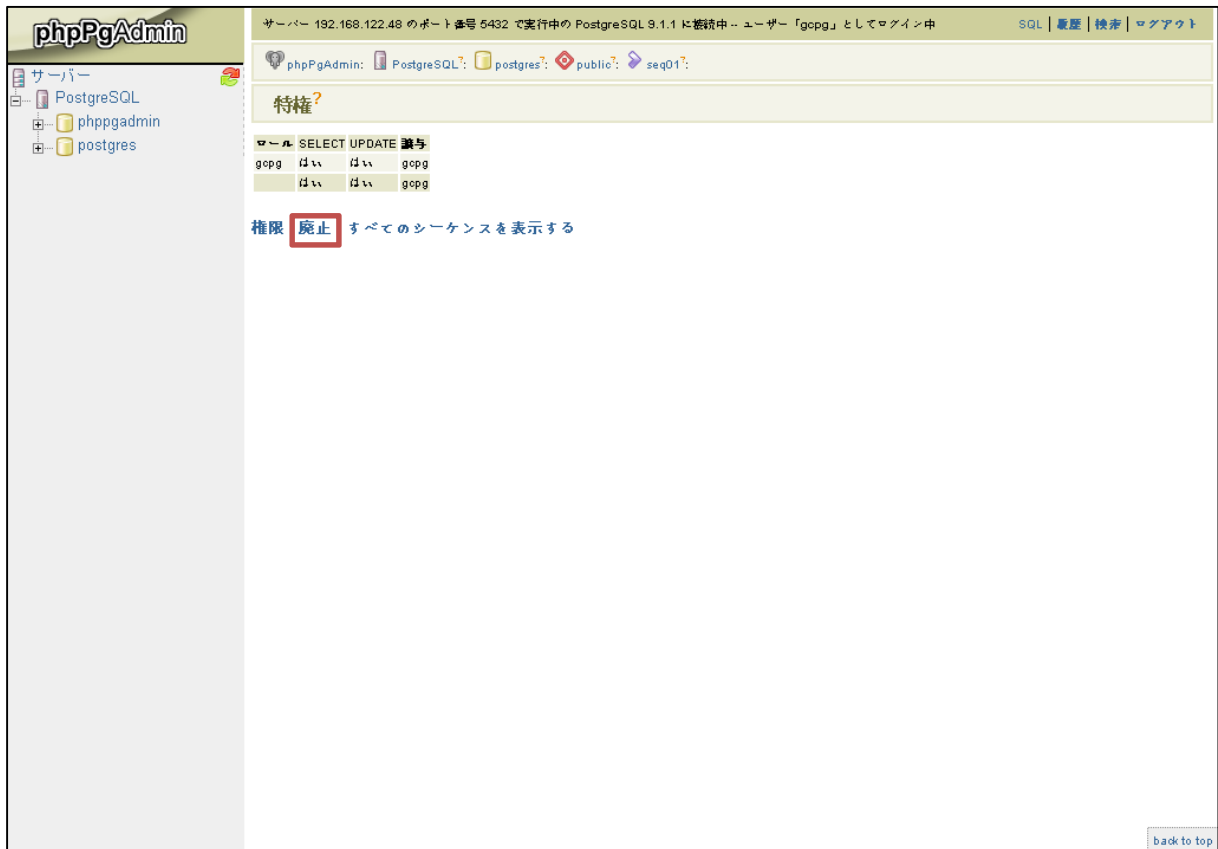


図 2-8-44 「シーケンスの特権操作」

② 「シーケンスの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

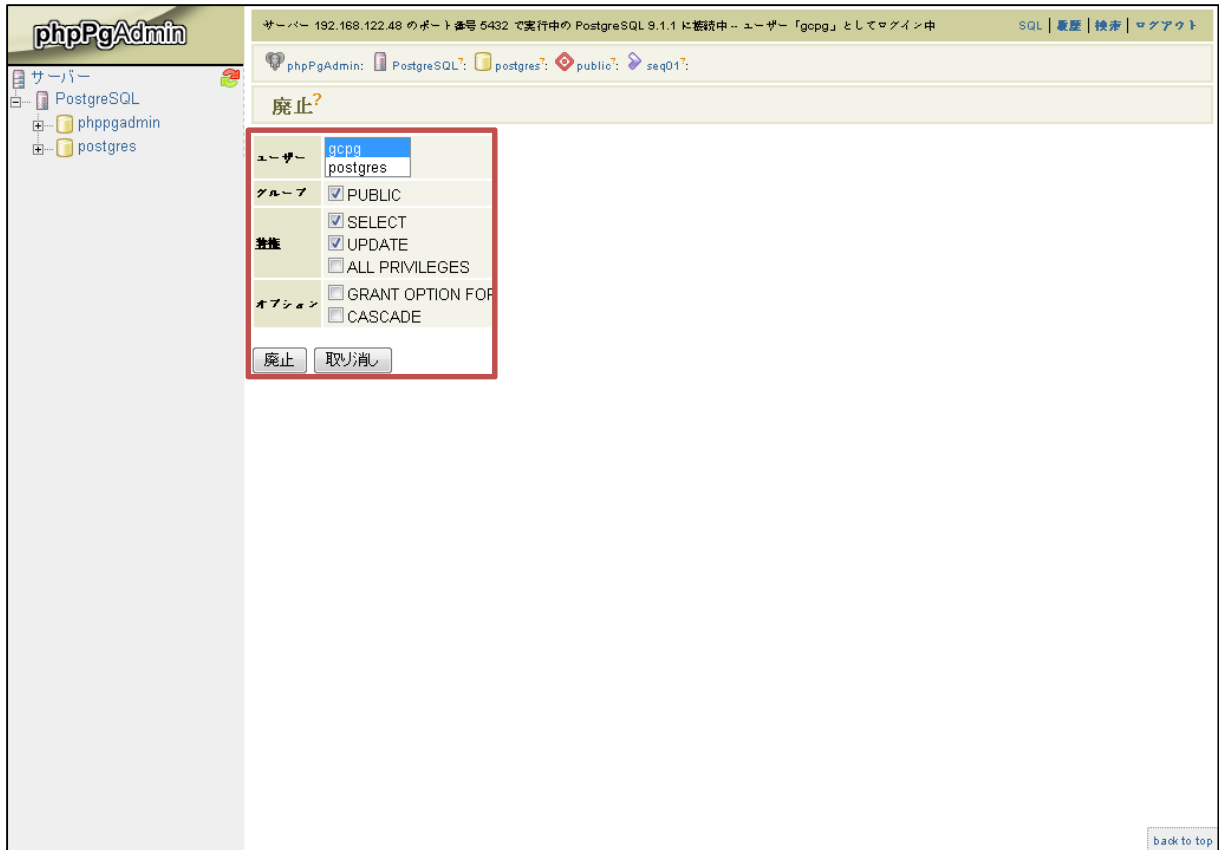


図 2-8-45 「シーケンスの特権破棄」

表 2-8-46 シーケンスの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT 権限を取り消します。 ● UPDATE : UPDATE 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。

4	[オプション]	[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限のGRANT OPTION のみを取り消されます。 [CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンスの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

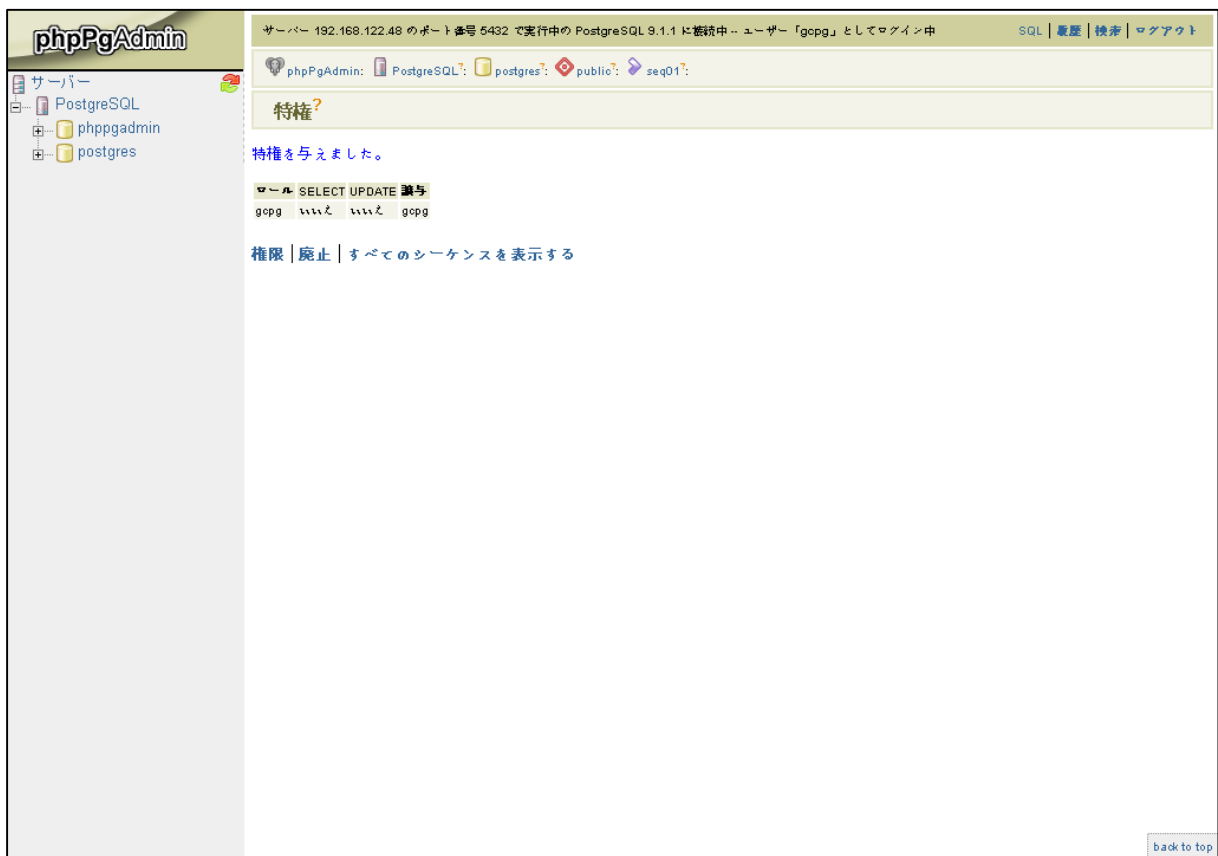


図 2-8-47 「シーケンスの特権操作」

2-8-3-I-iii. シーケンスの作成

★ 新しいシーケンスを定義します。

① 「シーケンス一覧操作」で[シーケンスを作成する]をクリックします。

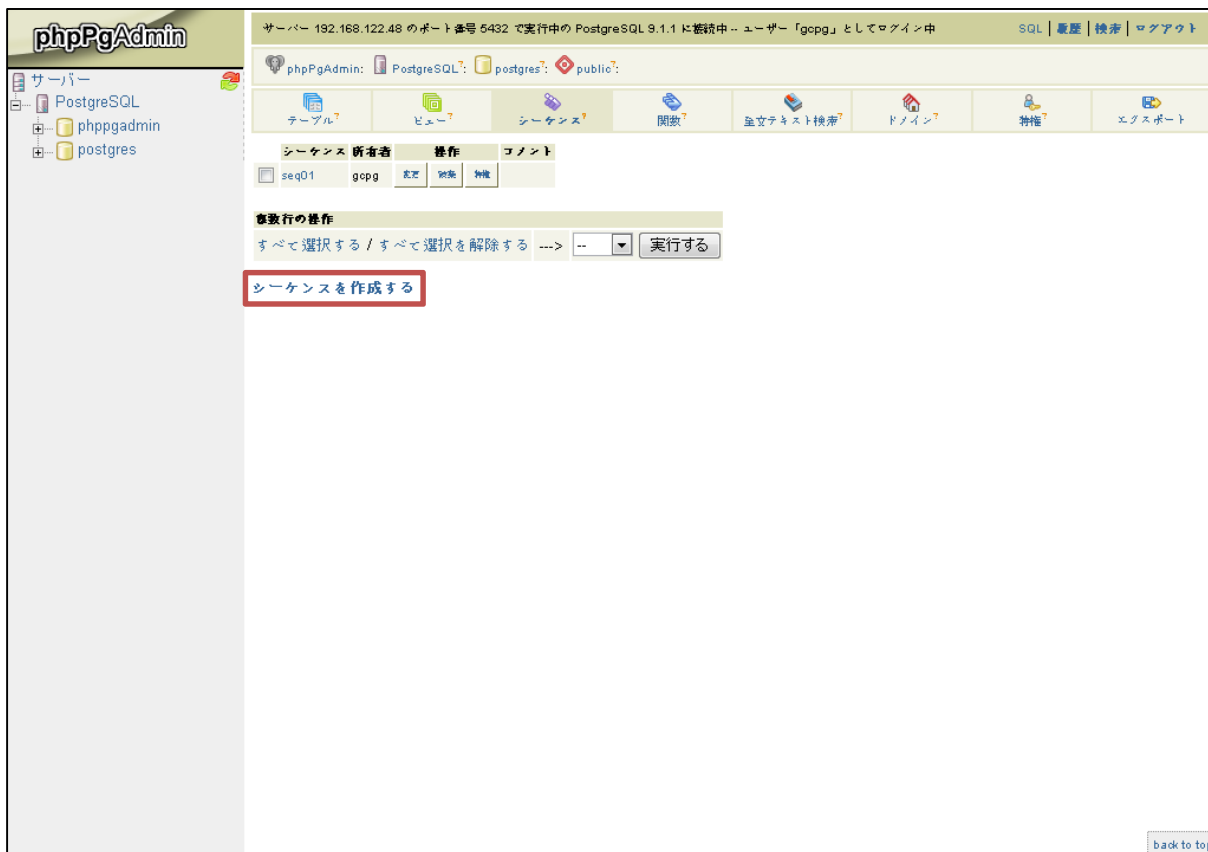


図 2-8-48 「シーケンス一覧操作」

② 「シーケンスの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

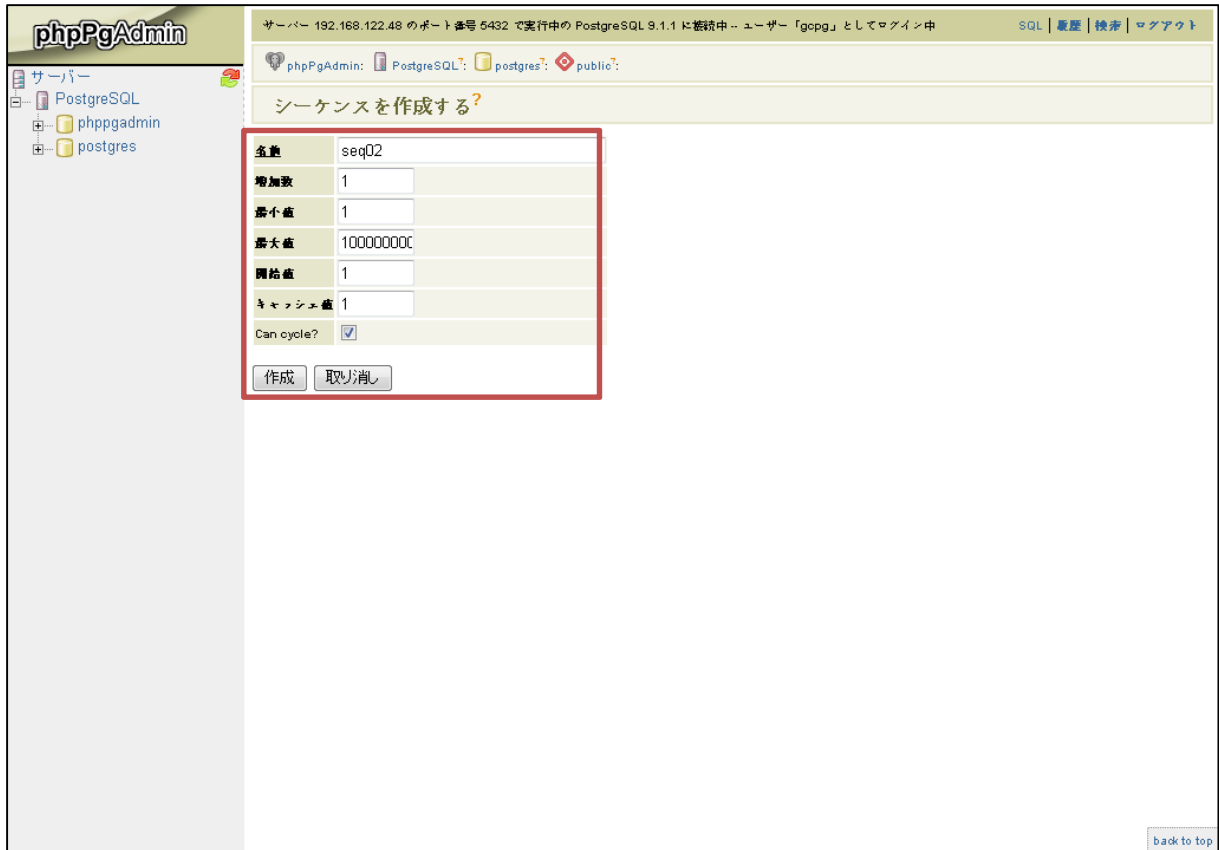


図 2-8-49 「シーケンスの作成」

表 2-8-50 シーケンスの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	シーケンスの名称を指定します。
2	[増加数]	現在のシーケンス値から新しいシーケンス値を作成する際の値の増加量を指定します。デフォルトは1です。
3	[最小値]	シーケンス値として作成される最小値を指定します。デフォルトは1です。
4	[最大値]	シーケンス値として作成される最大値を指定します。デフォルトは $2^{63}-1$ です。
5	[開始値]	シーケンス値の開始時の値を指定します。デフォルトは[最小値]です。

6	[キャッシュ値]	予めメモリに格納しておくシーケンスの量を指定します。デフォルトは1（キャッシュなし）です。
7	[Can cycle?]	本項目を有効にすると、シーケンスを周回させることができます。
8	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンス一覧操作」でシーケンスが作成されたことを確認します。



図 2-8-51 「シーケンス一覧操作」

2-8-4 関数一覧操作

★ 「関数一覧操作」を表示します。SQL 関数、手続き言語 (PL) 関数、内部関数、C 関数の作成、破棄、変更などができます。

- ① 「スキーマ個別操作メニュー」で [関数] をクリックします。



図 2-8-52 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「関数一覧操作」 の表示を確認します。

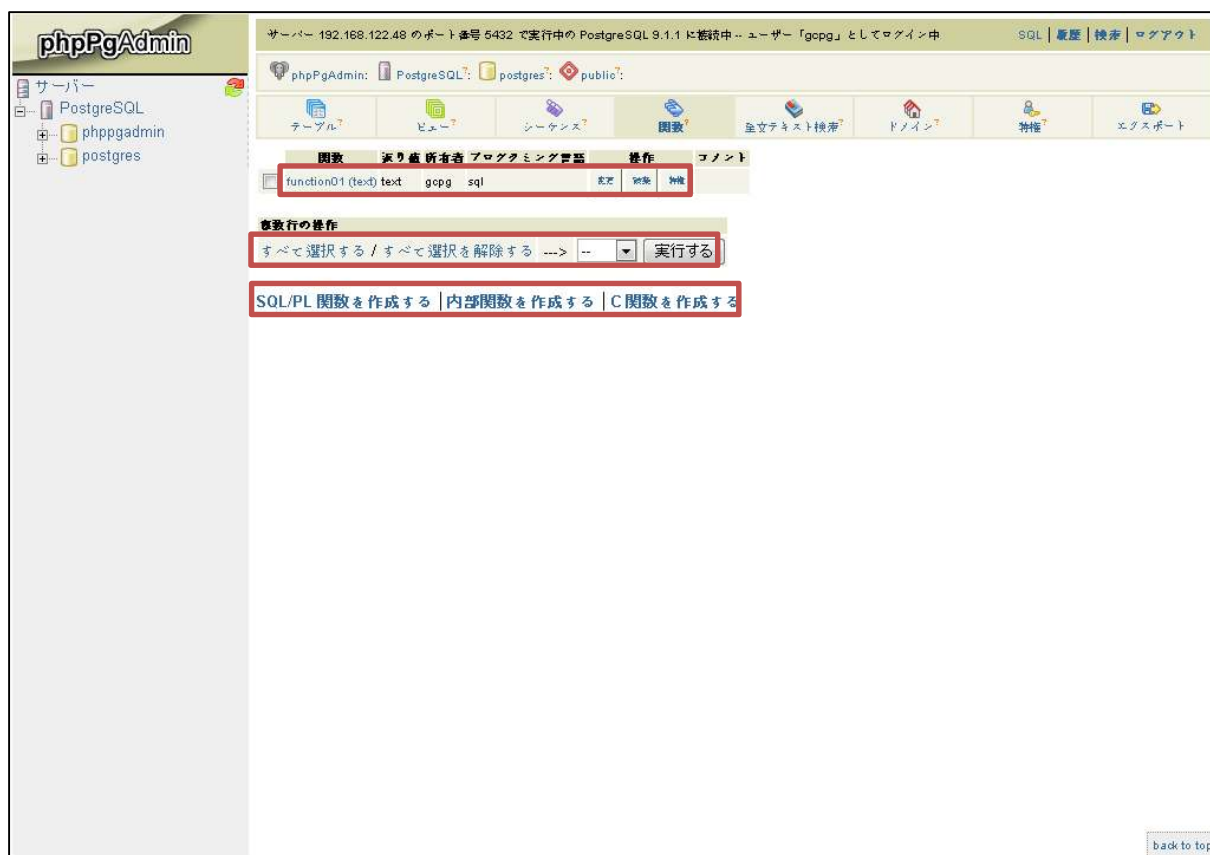


図 2-8-53 「関数一覧操作」

表 2-8-54 関数一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別関数名”	「関数個別操作」を表示します。 詳細は 2-13「関数個別操作」を参照してください。
2	[変更]ボタン	関数の定義を変更することができます。(ALTER FUNCTION に相当) 詳細は 2-13-1「関数の変更」を参照してください。
3	[破棄]ボタン	関数を削除することができます。(DROP FUNCTION に相当) 詳細は 2-13-2「関数の破棄」を参照してください。
4	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当)

		詳細は 2-8-4-I-i「関数の特権操作」を参照してください。
5	[複数行の操作]	<p>選択されている関数に対して以下の操作を一括で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 破棄 <p>対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。</p>
6	[SQL/PL 関数を作成する]	<p>新しい SQL 関数、または任意の手続き言語 (PL) の関数を定義することができます。(CREATE FUNCTION に相当)</p> <p>SQL 関数とは、任意の SQL 文のリストを定義したものであり、返り値は最後の問い合わせの結果です。</p> <p>手続き言語 (PL) 関数とは、任意の手続き言語に従って実行される命令を定義したものです。PostgreSQL の標準配布物に含まれる手続き言語は、PL/pgSQL、PL/Tcl、PL/Perl、PL/Python です。</p> <p>詳細は 2-8-4-I-ii「SQL/PL 関数の作成」を参照してください。</p>
7	[内部関数を作成する]	<p>内部関数とは、PostgreSQL サーバに静的にリンクされた関数であり、ここでは内部関数の新しい別名を定義することができます。(CREATE FUNCTION に相当)</p> <p>詳細は 2-8-4-I-iii「内部関数の作成」を参照してください。</p>
8	[C 関数を作成する]	<p>ユーザーが C 言語で作成した動的ロード可能オブジェクト (共有ライブラリ) を利用して新しい関数を定義することができます。(CREATE FUNCTION に相当)</p> <p>詳細は 2-8-4-I-i「C 関数の作成」を参照してください。</p>

2-8-4-I-i. 関数の特権操作

★ 「関数の特権操作」を表示します。

① 「関数一覧操作」で [特権]ボタンをクリックします。

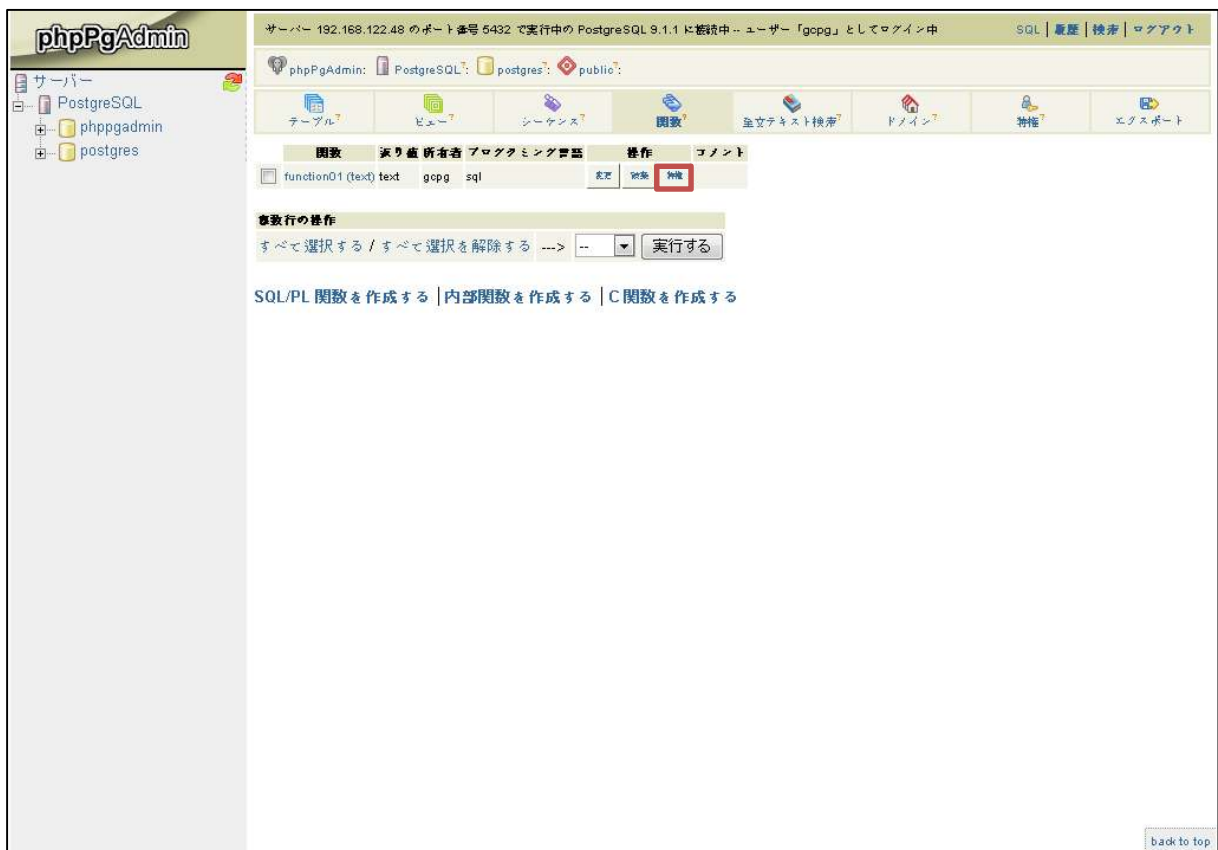


図 2-8-55 「関数一覧操作」

② 「関数の特権操作」 の表示を確認します。

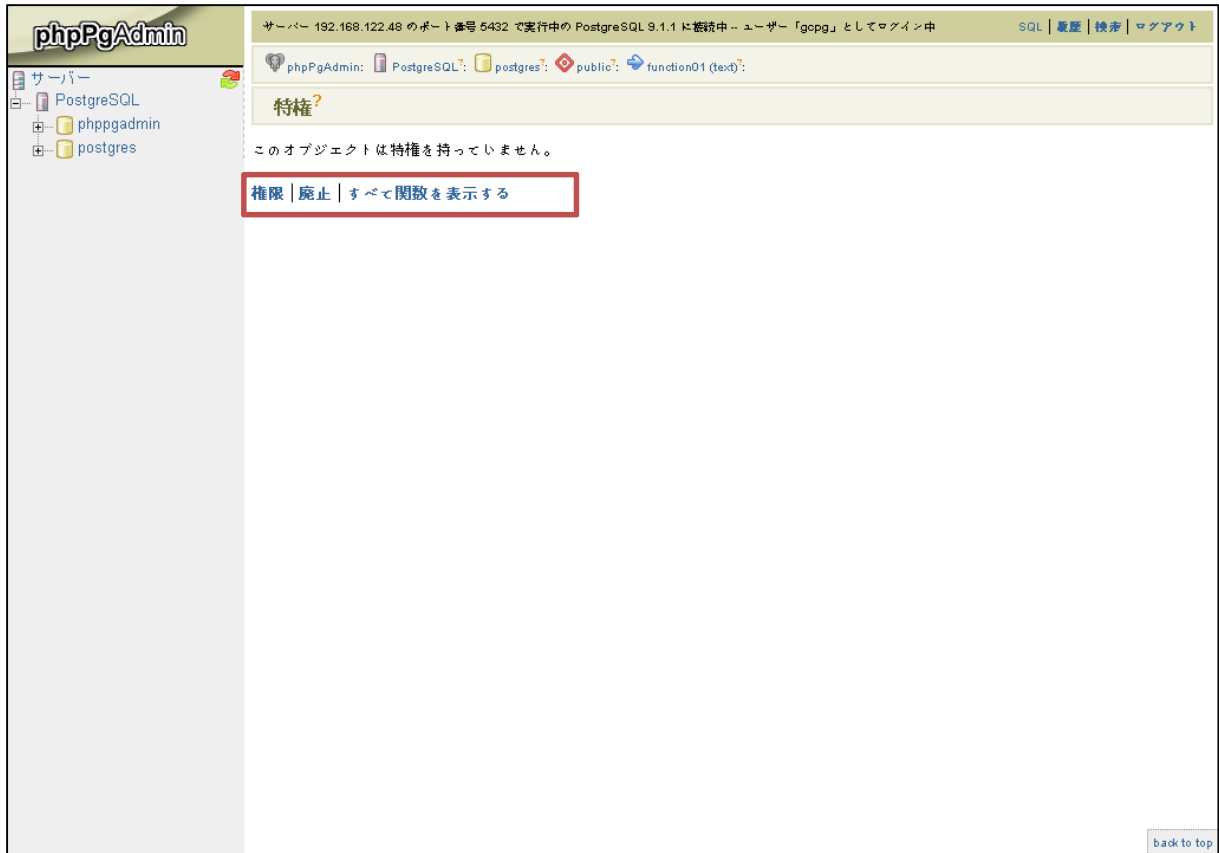


図 2-8-56 「関数の特権操作」

表 2-8-57 関数の特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該関数についてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-8-4-I-i-A 「関数の特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該関数についてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-8-4-I-i-B 「関数の特権破棄」を参照してください。
3	[すべての関数を表示する]	「関数一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-4 「関数一覧操作」を参照してください。

2-8-4-I-i-A. 関数の特権追加

★ 関数に対するアクセス権限を定義します。

① 「関数の特権操作」で[権限]をクリックします。

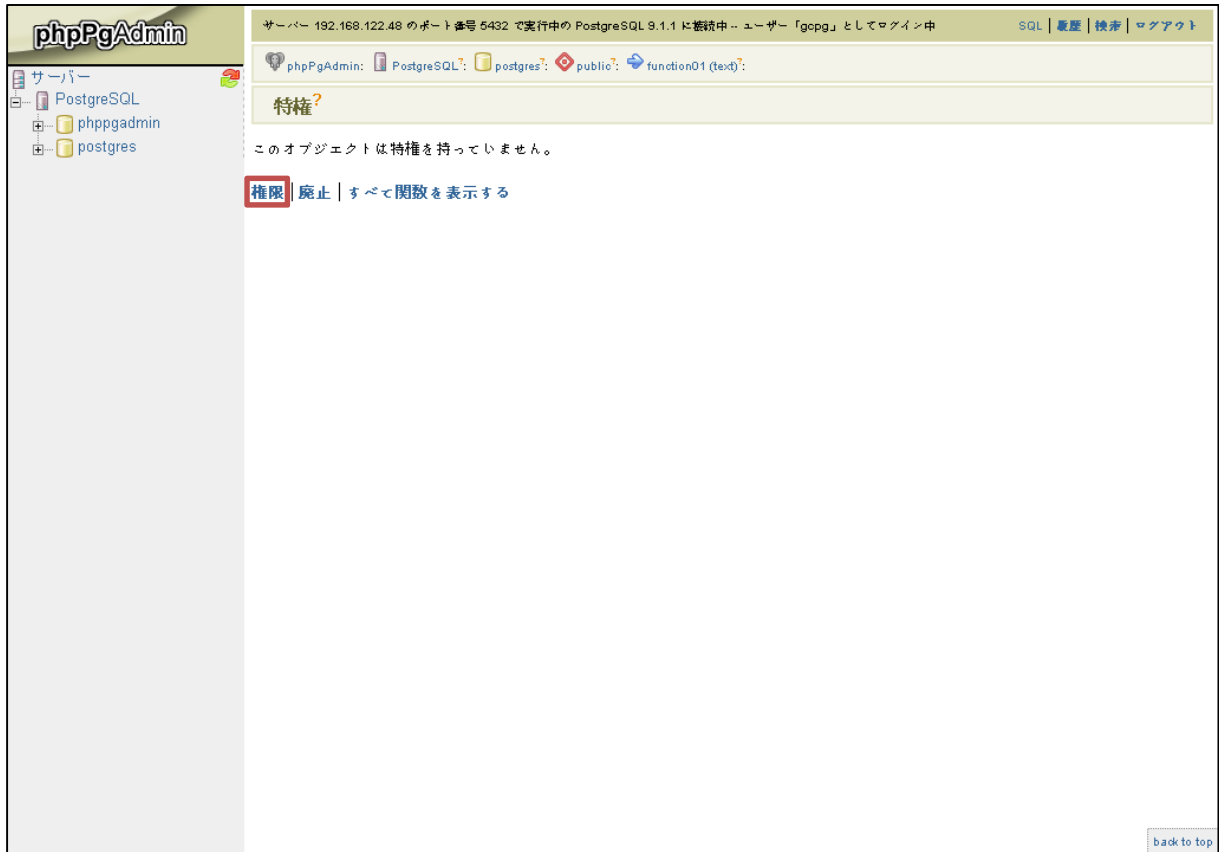


図 2-8-58 「関数の特権操作」

② 「関数の特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

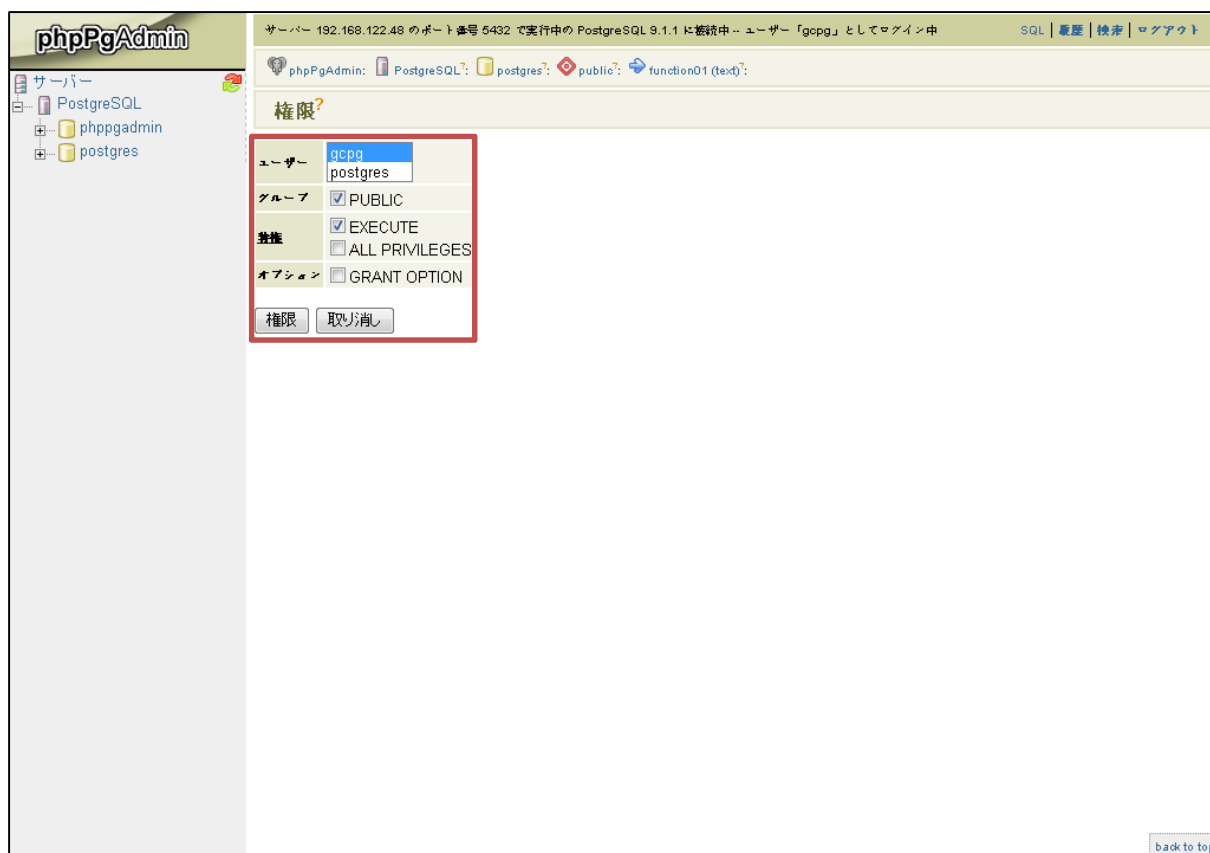


図 2-8-59 「関数の特権追加」

表 2-8-60 関数の特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● EXECUTE : EXECUTE を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロ

		ールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数の特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。



図 2-8-61 「関数の特権操作」

2-8-4-I-i-B. 関数の特権破棄

★ 関数に対するアクセス権限を取り消します。

① 「関数の特権操作」で[廃止]をクリックします。

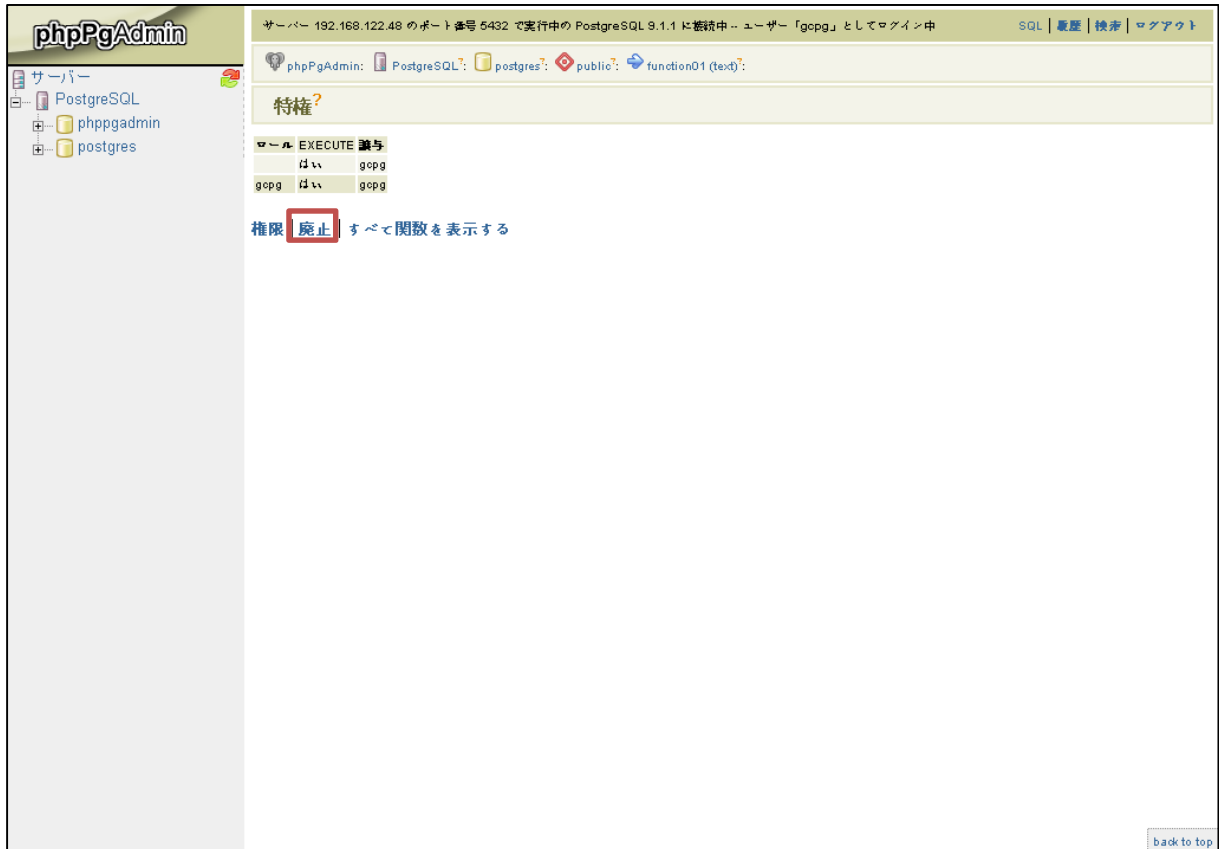


図 2-8-62 「関数の特権操作」

② 「関数の特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

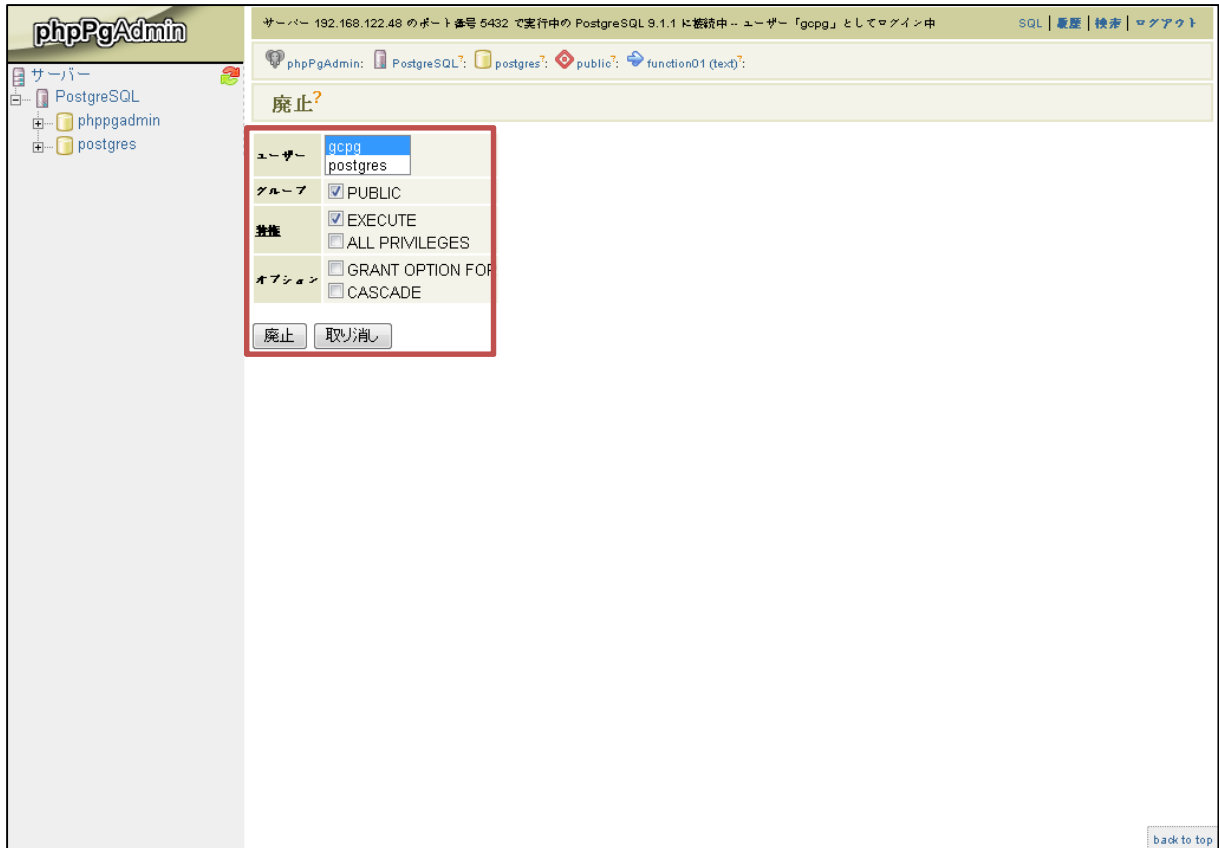


図 2-8-63 「関数の特権破棄」

表 2-8-64 関数の特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● EXECUTE : EXECUTE 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。
4	[オプション]	[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限の

		GRANT OPTION のみが取り消されます。 [CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されま す。
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数の特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

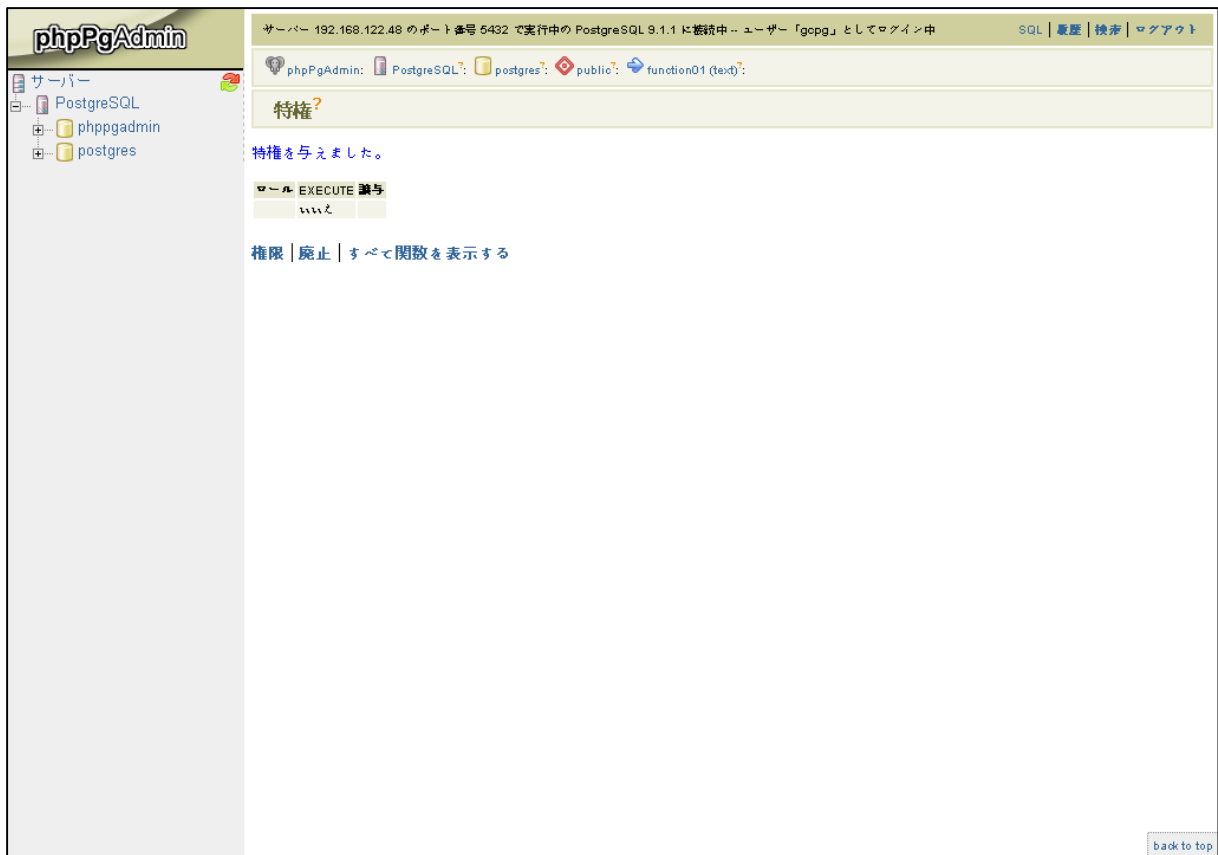


図 2-8-65 「関数の特権操作」

2-8-4-I-ii. SQL/PL 関数の作成

★ 新しいSQL/PL 関数を定義します。

① 「関数一覧操作」で[SQL/PL 関数を作成する]をクリックします。



図 2-8-66 「関数一覧操作」

② 「SQL/PL 関数の作成」 で[作成]ボタンをクリックします。

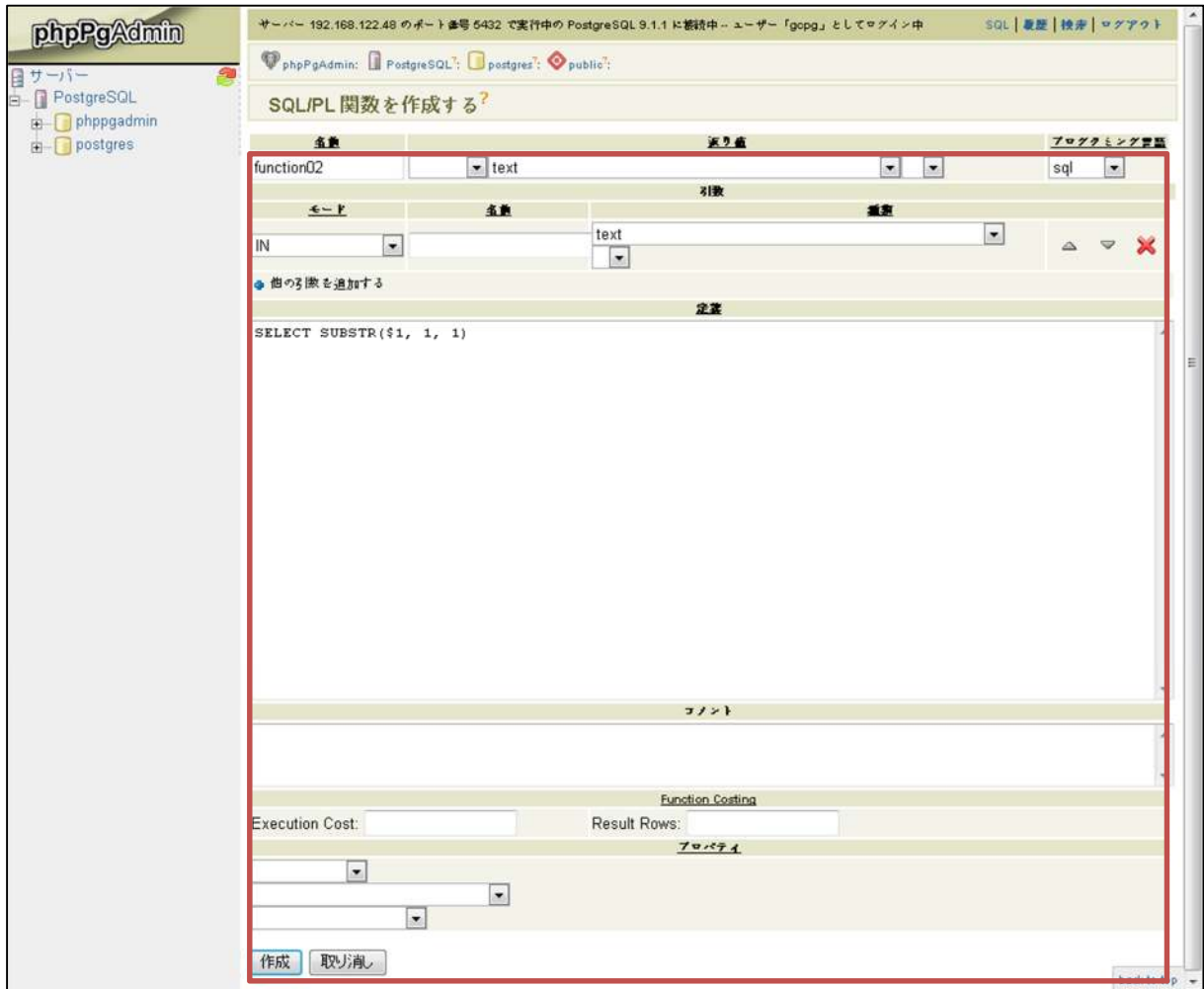


図 2-8-67 「SQL/PL 関数の作成」

表 2-8-68 SQL/PL 関数の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	関数の名称を指定します。
2	[戻り値]SETOF 修飾子	戻り値が複数の値の集合である場合に指定します。
3	[戻り値]戻り値の型	戻り値の型を指定します。
4	[戻り値]配列	戻り値が配列か否か指定します。
5	[プログラミング言語]	プログラミング言語を下記から選択します。 ● plpgsql

		<ul style="list-style-type: none"> ● sql
6	[引数][モード]	<p>引数のモードを下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IN : IN モードの引数を定義すると関数へ値を渡すことができます。 ● OUT : OUT モードの引数を定義すると呼び出し元に値を返すことができます。 ● INOUT : INOUT モードの引数を定義すると関数へ値を渡した後、値を変更し、呼び出し元に返すことができます。
7	[引数][名前]	引数の名称を指定します。
8	[引数]引数の型	引数の型を指定します。
9	[引数]配列	引数が配列か否か指定します。
10	[引数] [△]	引数の順序を上げます。
11	[引数] [▽]	引数の順序を下げます。
12	[引数] [×]	引数を削除します。
13	[引数][ほかの引数を追加する]	他の引数を追加します。
14	[定義]	関数の定義を指定します。
15	[コメント]	コメントを指定します。
16	[Function Costing][Execution Cost]	関数の推定実行コストを指定します。関数が集合を返す場合は 1 行当たりのコストとなります。デフォルトは 100 です。値を大きくするとプランナは必要以上に頻繁に関数を評価しなくなります。
17	[Function Costing][Result Rows]	関数が返す行数の推定値を指定します。[SETOF 修飾子]が指定されている場合のみ指定可能です。デフォルトは 1000 です。
18	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報を下記から選択します。デフォルトは VOLATILE です。

		<ul style="list-style-type: none"> ● VOLATILE: 1 テーブルスキャン内に関数の値が変化する可能性があり、最適化できないことを示します。 ● IMMUTABLE: データベースに変更を加えないこと、同引数値は同結果を返すことを示します。 ● STABLE: データベースに変更を加えないこと、同引数値は 1 テーブルスキャン内には同結果を返すことを示します。
19	引数に NULL が含まれている場合の挙動	<p>引数に NULL が含まれていた場合の挙動を下記から選択します。デフォルトは CALLED ON NULL INPUT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CALLED ON NULL INPUT: 引数に NULL が含まれている場合でも関数が呼び出されます。このとき NULL チェックは関数作成者の責任です。 ● RETURNS NULL ON NULL INPUT: 引数に NULL が含まれている場合、関数を呼び出さず、自動的に NULL を返します。
20	関数を実行する際の権限	<p>関数を実行する際の権限を下記から選択します。デフォルトは SECURITY INVOKER です。</p> <p>SECURITY INVOKER: 関数を呼び出したユーザーの権限で関数が実行されます。</p> <p>SECURITY DEFINER: 関数を作成したユーザーの権限で関数が実行されます。</p>
21	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
22	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数一覧操作」で関数が作成されたことを確認します。

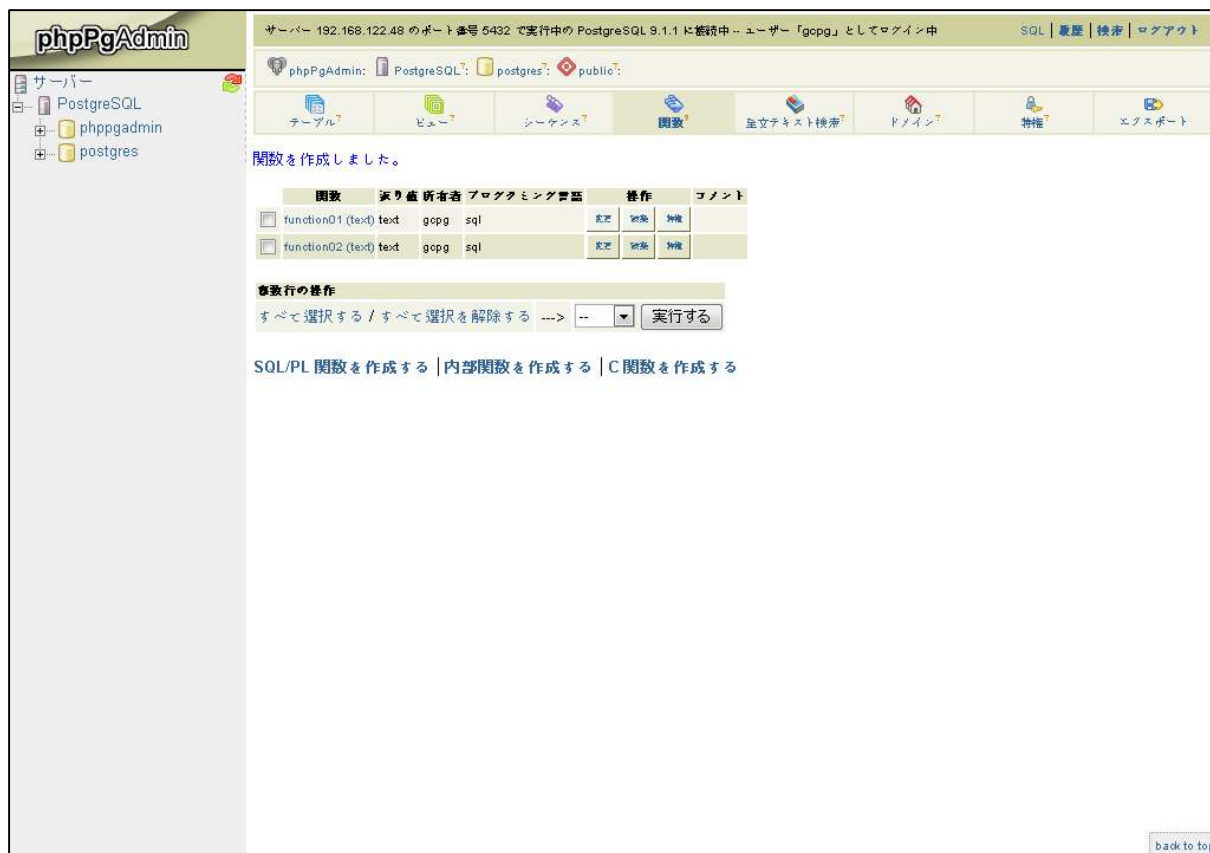


図 2-8-69 「関数一覧操作」

2-8-4-I-iii. 内部関数の作成

★ 新しい内部関数を定義します。

① 「関数一覧操作」で[内部関数を作成する]をクリックします。

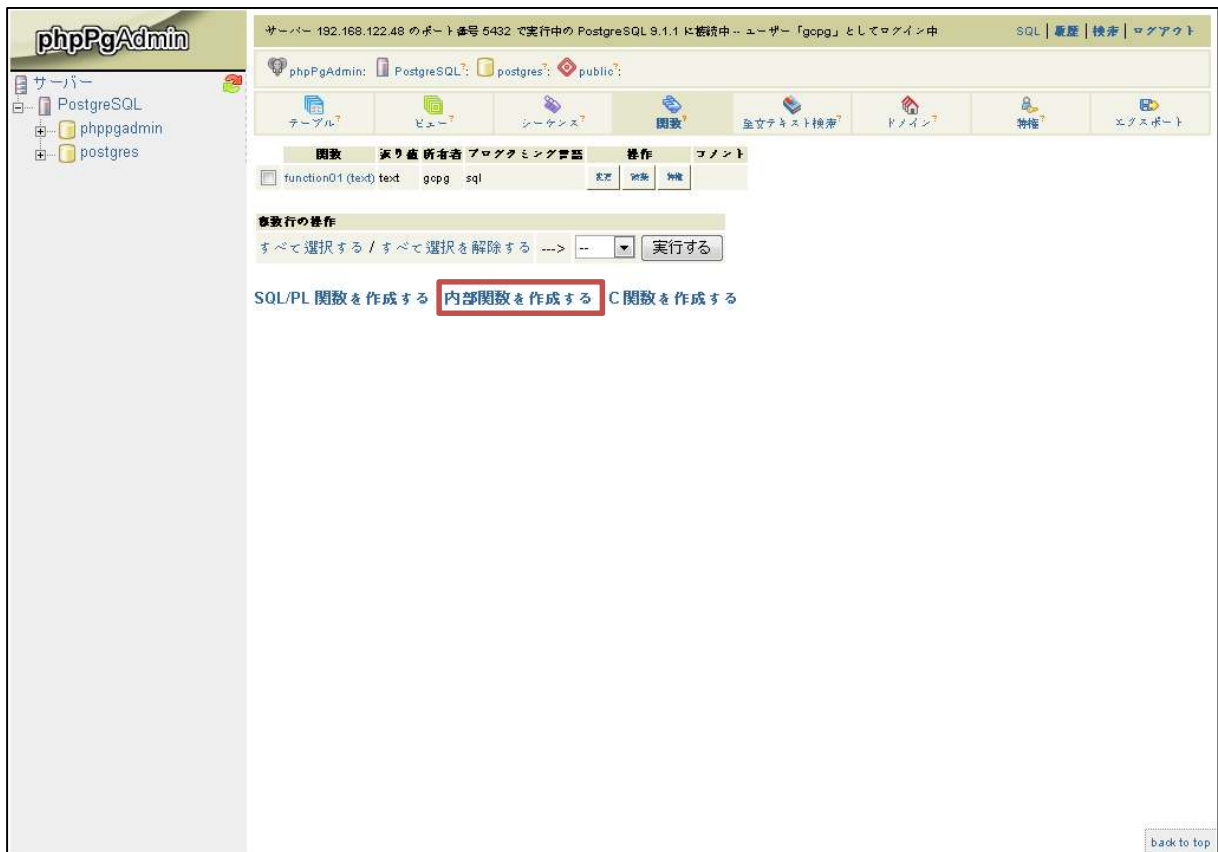


図 2-8-70 「関数一覧操作」

② 「内部関数の作成」で[作成]ボタンをクリックします。

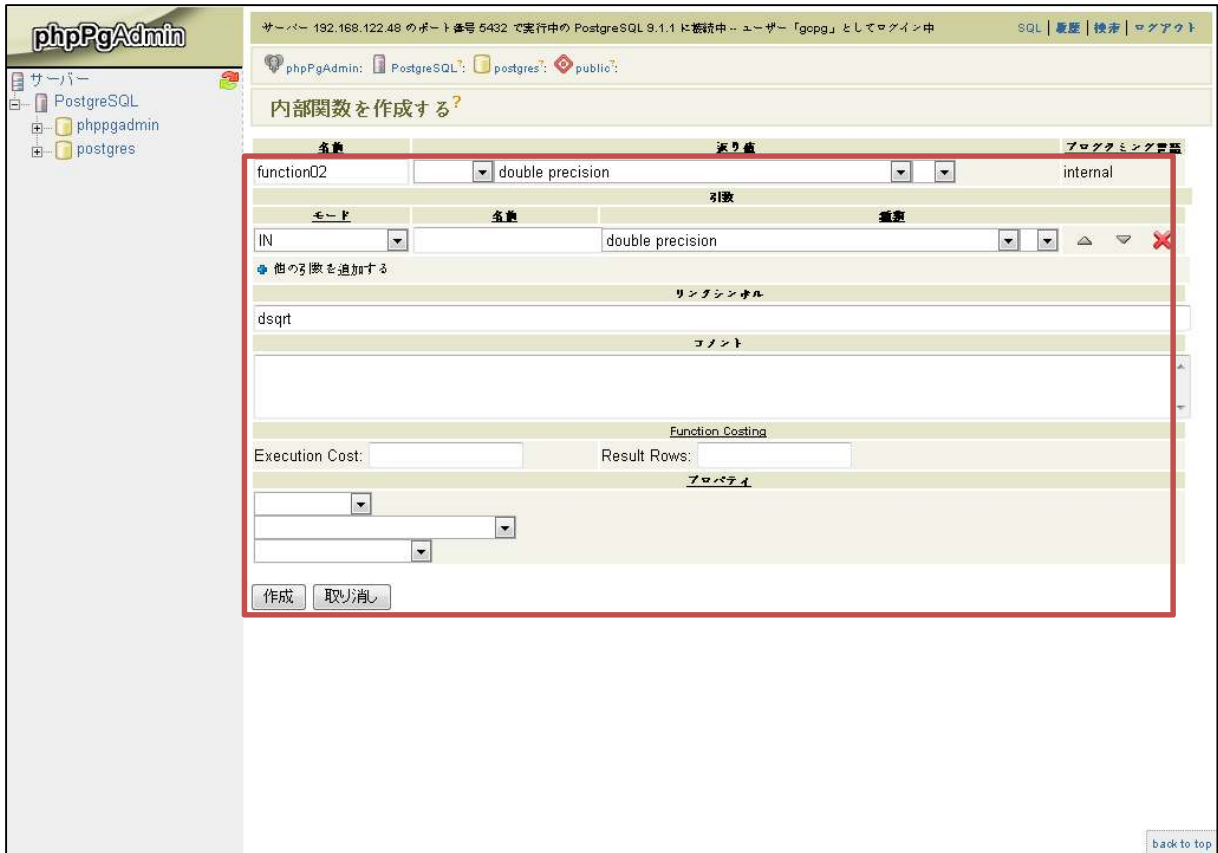


図 2-8-71 「内部関数の作成」

表 2-8-72 内部関数の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	関数の名称を指定します。
2	[返回值]SETOF 修飾子	返回值が複数の値の集合である場合に指定します。
3	[返回值]返回值の型	返回值の型を指定します。
4	[返回值]配列	返回值が配列か否か指定します。

5	[引数][モード]	引数のモードを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● IN : IN モードの引数を定義すると関数へ値を渡すことができます。 ● OUT : OUT モードの引数を定義すると呼び出し元に値を返すことができます。 ● INOUT : INOUT モードの引数を定義すると関数へ値を渡した後、値を変更し、呼び出し元に返すことができます。
6	[引数][名前]	引数の名称を指定します。
7	[引数]引数の型	引数の型を指定します。
8	[引数]配列	引数が配列か否か指定します。
9	[引数] [△]	引数の順序を上げます。
10	[引数] [▽]	引数の順序を下げます。
11	[引数] [×]	引数を削除します。
12	[引数][ほかの引数を追加する]	他の引数を追加します。
13	[リンクシンボル]	C 言語ソースコード中の関数の名称を指定します。省略した場合は[名前]と同一となります。
14	[コメント]	コメントを指定します。
15	[Function Costing][Execution Cost]	関数の推定実行コストを指定します。関数が集合を返す場合は 1 行当たりのコストとなります。デフォルトは 1 です。値を大きくするとプランナは必要以上に頻りに関数を評価しなくなります。
16	[Function Costing][Result Rows]	関数が返す行数の推定値を指定します。[SETOF 修飾子]が指定されている場合のみ指定可能です。デフォルトは 1000 です。
17	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報を下記から選択します。デフォルトは VOLATILE です。 <ul style="list-style-type: none"> ● VOLATILE : 1 テーブルスキャン内に関数の値が変化

		<p>する可能性があり、最適化できないことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● IMMUTABLE : データベースに変更を加えないこと、同引数値は同結果を返すことを示します。 ● STABLE : データベースに変更を加えないこと、同引数値は 1 テーブルスキャン内には同結果を返すことを示します。
18	引数に NULL が含まれている場合の挙動	<p>引数に NULL が含まれていた場合の挙動を下記から選択します。デフォルトは CALLED ON NULL INPUT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CALLED ON NULL INPUT : 引数に NULL が含まれている場合でも関数が呼び出されます。このとき NULL チェックは関数作成者の責任です。 ● RETURNS NULL ON NULL INPUT : 引数に NULL が含まれている場合、関数を呼び出さず、自動的に NULL を返します。
19	関数を実行する際の権限	<p>関数を実行する際の権限を下記から選択します。デフォルトは SECURITY INVOKER です。</p> <p>SECURITY INVOKER : 関数を呼び出したユーザーの権限で関数が実行されます。</p> <p>SECURITY DEFINER : 関数を作成したユーザーの権限で関数が実行されます。</p>
20	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
21	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数一覧操作」で関数が作成されたことを確認します。



図 2-8-73 「関数一覧操作」

2-8-4-I-i. C 関数の作成

★ 新しいC 関数を定義します。

① 「関数一覧操作」で[C 関数を作成する]をクリックします。



図 2-8-74 「関数一覧操作」

② 「C関数の作成」で[作成]ボタンをクリックします。

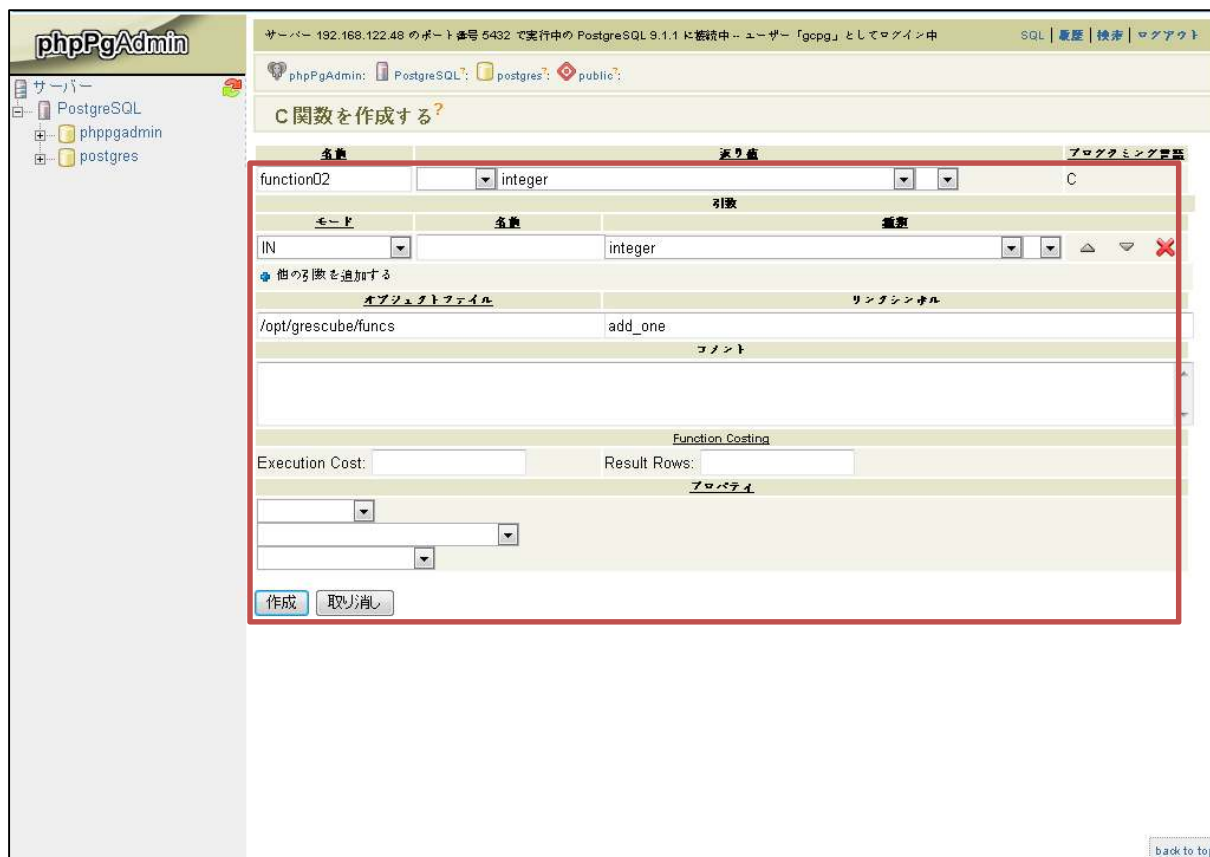


図 2-8-75 「内部関数の作成」

表 2-8-76 内部関数の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	関数の名称を指定します。
2	[戻り値]SETOF 修飾子	戻り値が複数の値の集合である場合に指定します。
3	[戻り値]戻り値の型	戻り値の型を指定します。
4	[戻り値]配列	戻り値が配列か否か指定します。

5	[引数][モード]	引数のモードを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● IN : IN モードの引数を定義すると関数へ値を渡すことができます。 ● OUT : OUT モードの引数を定義すると呼び出し元に値を返すことができます。 ● INOUT : INOUT モードの引数を定義すると関数へ値を渡した後、値を変更し、呼び出し元に返すことができます。
6	[引数][名前]	引数の名称を指定します。
7	[引数]引数の型	引数の型を指定します。
8	[引数]配列	引数が配列か否か指定します。
9	[引数] [△]	引数の順序を上げます。
10	[引数] [▽]	引数の順序を下げます。
11	[引数] [×]	引数を削除します。
12	[引数][ほかの引数を追加する]	他の引数を追加します。
13	[オブジェクトファイル]	動的にロードできるオブジェクトを含むファイルの名称を指定します。
14	[リンクシンボル]	C 言語ソースコード中の関数の名称を指定します。省略した場合は[名前]と同一となります。
15	[コメント]	コメントを指定します。
16	[Function Costing][Execution Cost]	関数の推定実行コストを指定します。関数が集合を返す場合は 1 行当たりのコストとなります。デフォルトは 1 です。値を大きくするとプランナは必要以上に頻繁に関数を評価しなくなります。
17	[Function Costing][Result Rows]	関数が返す行数の推定値を指定します。[SETOF 修飾子]が指定されている場合のみ指定可能です。デフォルトは 1000 です。

18	<p>オプティマイザに提供する関数の動作についての情報</p>	<p>オプティマイザに提供する関数の動作についての情報を下記から選択します。デフォルトは VOLATILE です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● VOLATILE : 1 テーブルスキャン内に関数の値が変化する可能性があり、最適化できないことを示します。 ● IMMUTABLE : データベースに変更を加えないこと、同引数値は同結果を返すことを示します。 ● STABLE : データベースに変更を加えないこと、同引数値は 1 テーブルスキャン内には同結果を返すことを示します。
19	<p>引数に NULL が含まれている場合の挙動</p>	<p>引数に NULL が含まれていた場合の挙動を下記から選択します。デフォルトは CALLED ON NULL INPUT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CALLED ON NULL INPUT : 引数に NULL が含まれている場合でも関数が呼び出されます。このとき NULL チェックは関数作成者の責任です。 ● RETURNS NULL ON NULL INPUT : 引数に NULL が含まれている場合、関数を呼び出さず、自動的に NULL を返します。
20	<p>関数を実行する際の権限</p>	<p>関数を実行する際の権限を下記から選択します。デフォルトは SECURITY INVOKER です。</p> <p>SECURITY INVOKER : 関数を呼び出したユーザーの権限で関数が実行されます。</p> <p>SECURITY DEFINER : 関数を作成したユーザーの権限で関数が実行されます。</p>
21	<p>[作成]ボタン</p>	<p>作成操作を実行します。</p>
22	<p>[取り消し]ボタン</p>	<p>操作を取り消します。</p>

③「関数一覧操作」で関数が作成されたことを確認します。

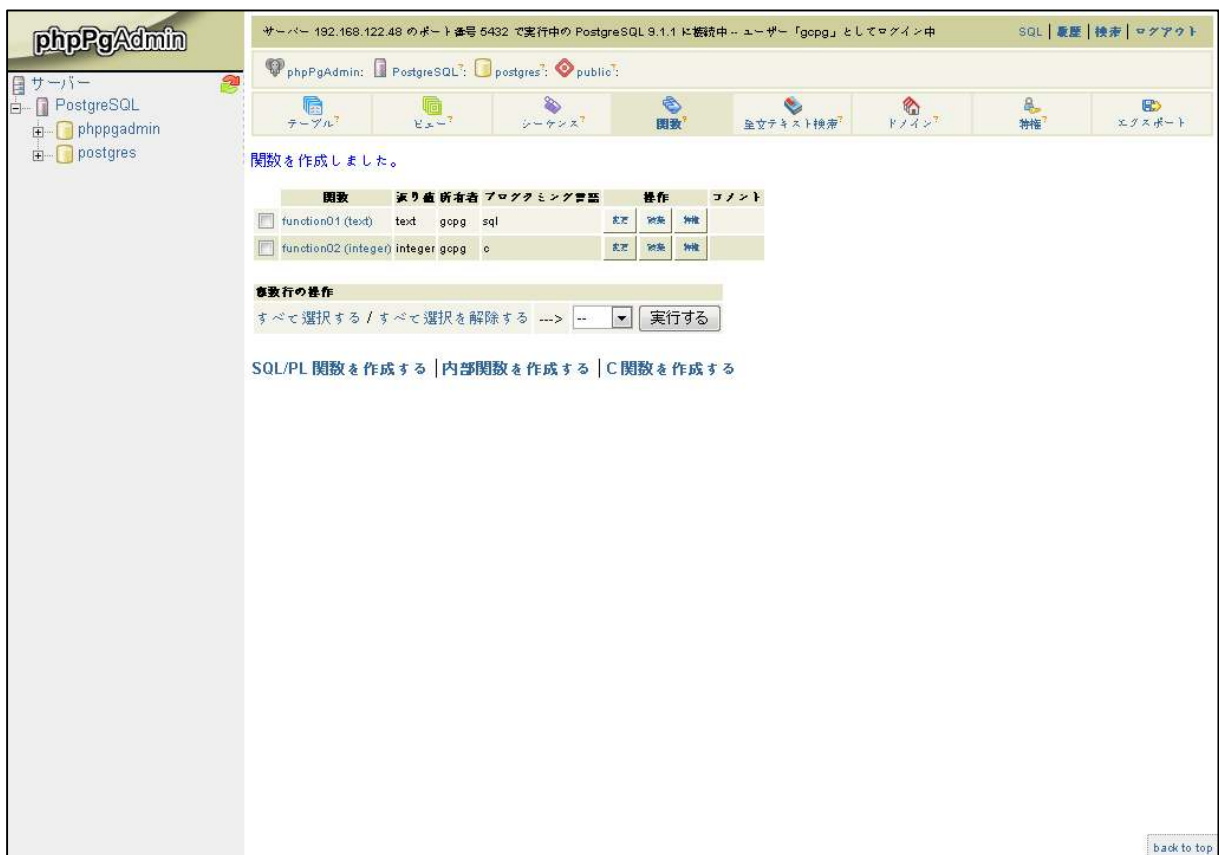


図 2-8-77 「関数一覧操作」

2-8-5 全文テキスト検索操作メニュー

★ 「全文テキスト検索操作メニュー」を表示します。全文テキスト検索の設定、辞書、パーサーの作成、破棄、変更ができます。

なお、「全文テキスト検索」は画面上では FTS (=Full Text Search の省略形) と記載されている場合があります。

- ① 「スキーマ個別操作メニュー」で [全文テキスト検索]をクリックします。

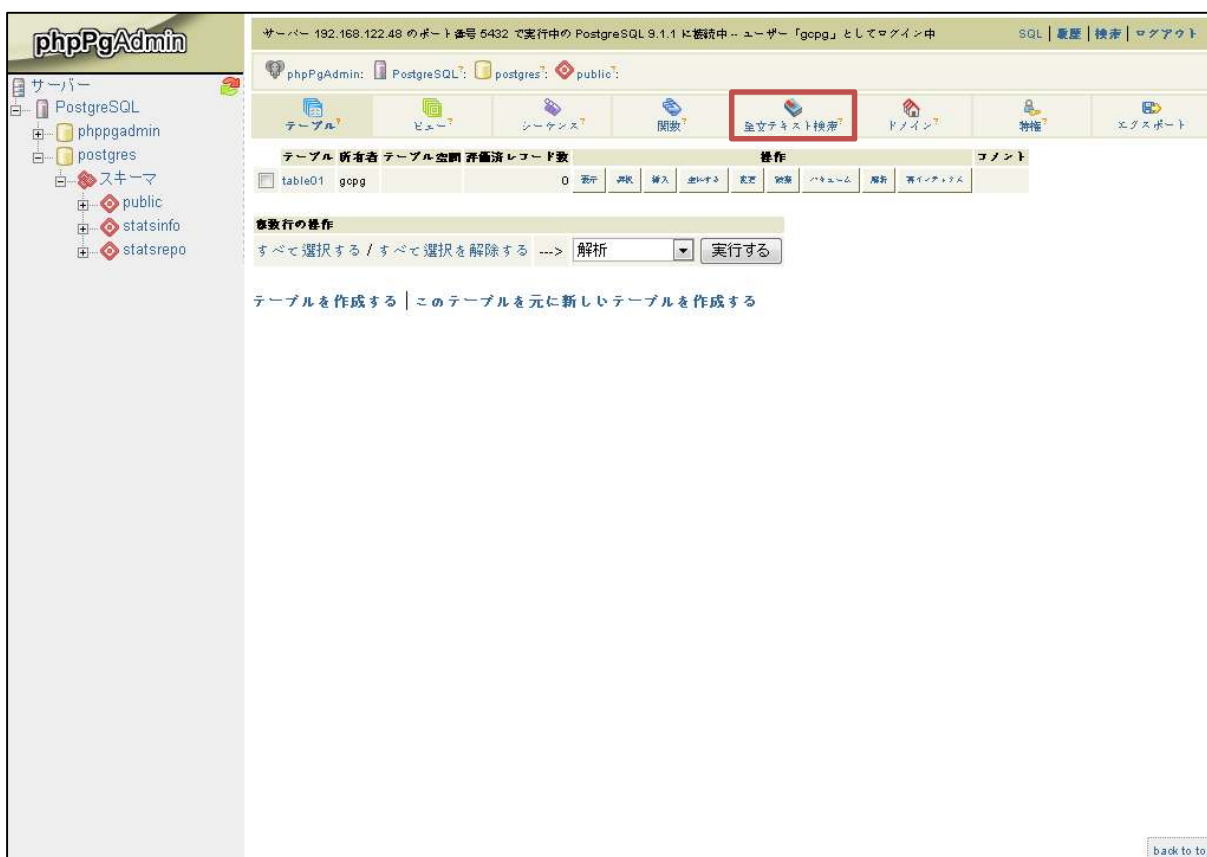


図 2-8-78 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「全文テキスト検索操作メニュー」の表示を確認します。

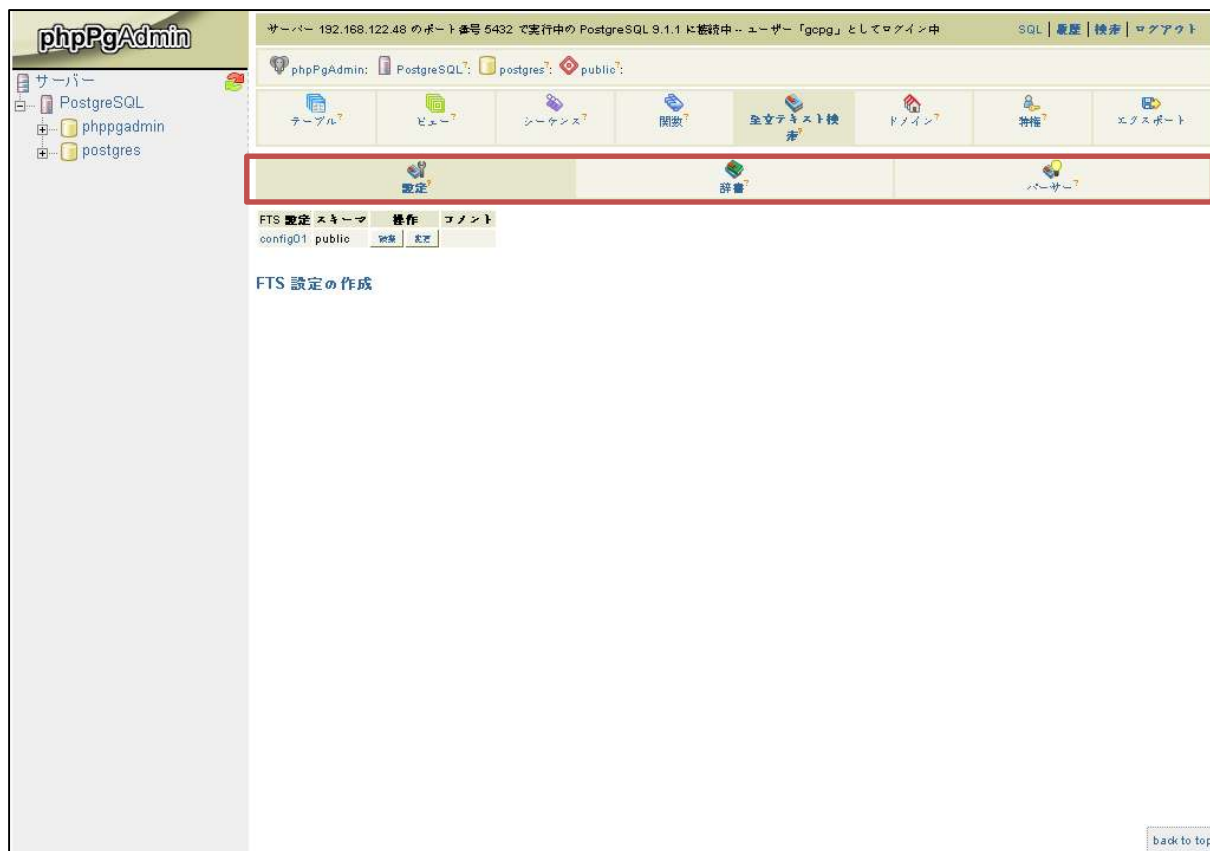


図 2-8-79 「全文テキスト検索操作メニュー」

表 2-8-80 全文テキスト検索操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[設定]	全文テキスト検索の設定一覧を表示します。全文テキスト検索の設定についての操作を行うことができます。
2	[辞書]	全文テキスト検索の辞書一覧を表示します。全文テキスト検索の辞書についての操作を行うことができます。
3	[パーサー]	全文テキスト検索のパーサー一覧を表示します。全文テキスト検索のパーサーについての操作を行うことができます。

2-8-5-I. 全文テキスト検索の設定一覧操作

★ 「全文テキスト検索の設定一覧操作」を表示します。

① 「全文テキスト検索操作メニュー」で [設定] をクリックします。

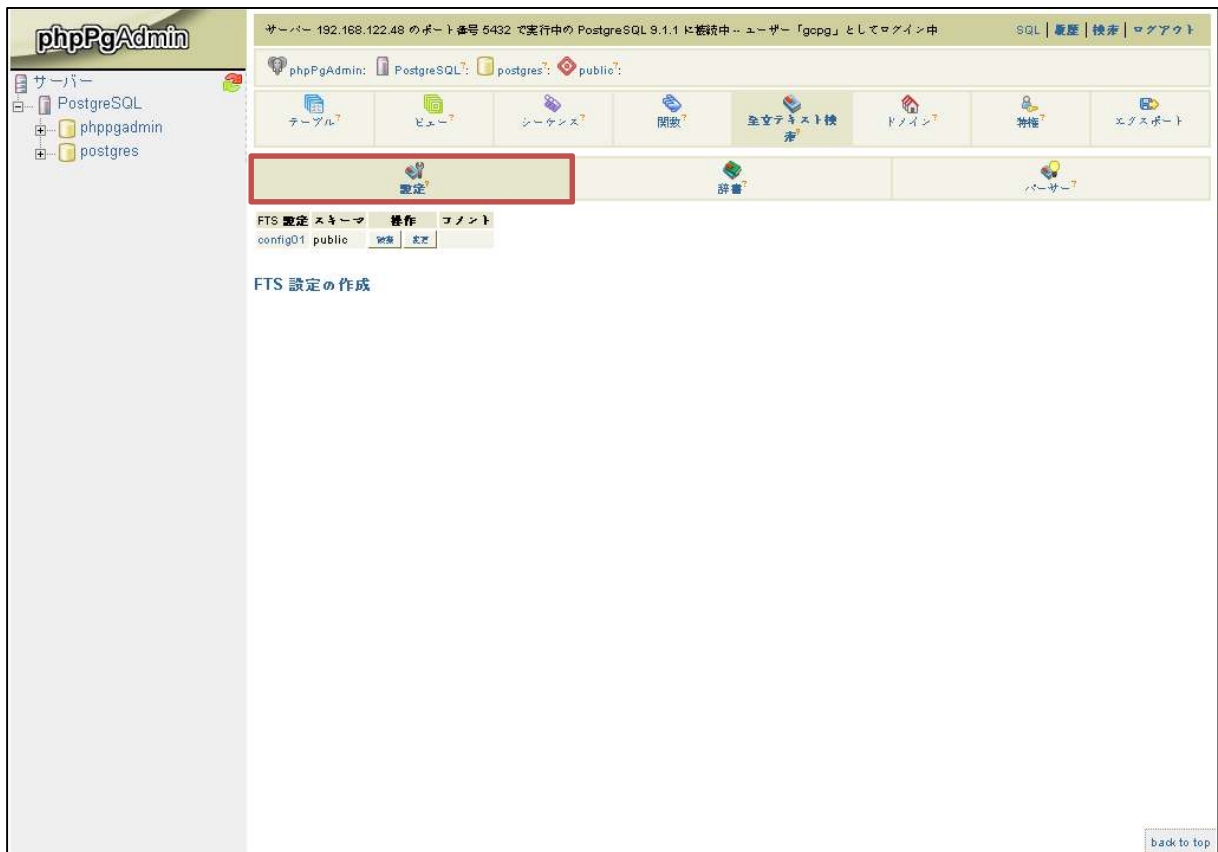


図 2-8-81 「全文テキスト検索操作メニュー」

② 「全文テキスト検索の設定一覧操作」の表示を確認します。

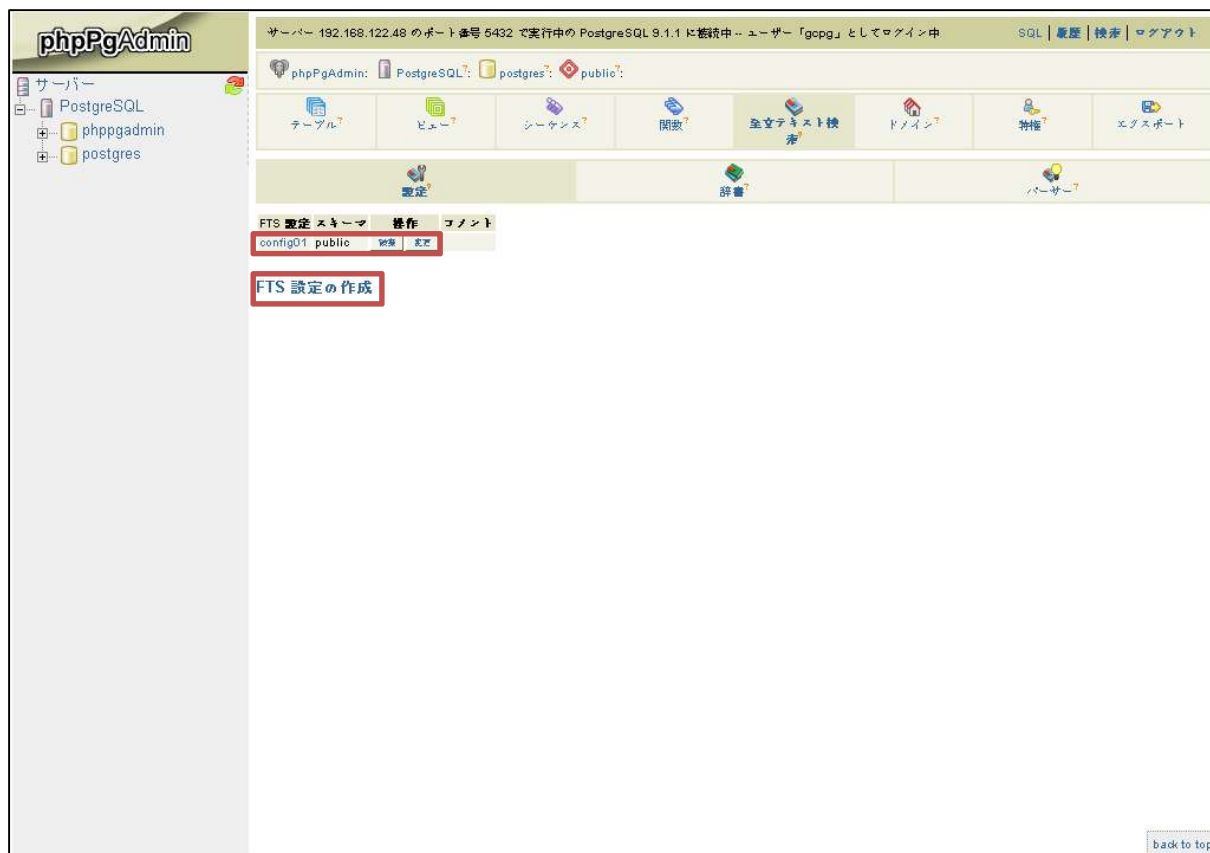


図 2-8-82 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

表 2-8-83 全文テキスト検索の設定一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別全文テキスト検索設定名”	「全文テキスト検索設定個別操作」を表示します。 詳細は 2-14「全文テキスト検索設定個別操作」を参照してください。
2	[破棄]ボタン	全文テキスト検索設定を削除することができます。 (DROP TEXT SEARCH CONFIGURATION に相当) 詳細は 2-8-5-I-i「全文テキスト検索設定の破棄」を参照してください。
3	[変更]ボタン	全文テキスト検索設定を変更することができます。 (ALTER TEXT SEARCH CONFIGURATION に相当) 詳細は 2-8-5-I-ii「全文テキスト検索設定の変更」を参照

		してください。
4	[FTS 設定の作成]	新しい全文テキスト検索設定を定義することができます。(CREATE TEXT SEARCH CONFIGURATION に相当) 詳細は 2-8-5-I-iii 「全文テキスト検索設定の作成」を参照してください。

2-8-5-I-i. 全文テキスト検索設定の破棄

★ 全文テキスト検索設定を削除します。

① 「全文テキスト検索の設定一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-8-84 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

② 「全文テキスト検索設定の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-8-85 「全文テキスト検索設定の破棄」

表 2-8-86 全文テキスト検索設定の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄する全文テキスト検索設定にオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の設定一覧操作」で全文テキスト検索設定が破棄されたことを確認します。

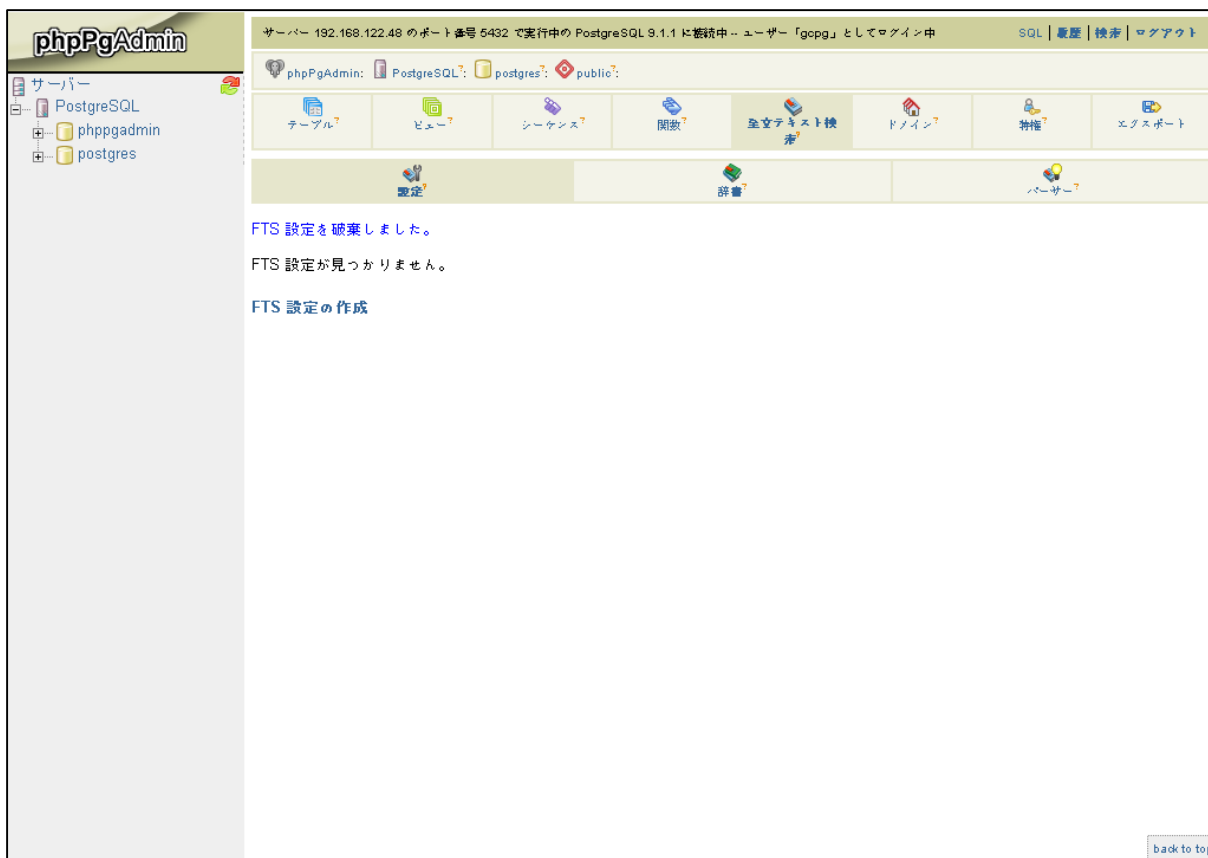


図 2-8-87 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

2-8-5-I-ii. 全文テキスト検索設定の変更

★ 全文テキスト検索設定の定義を変更します。

① 「全文テキスト検索の設定一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。

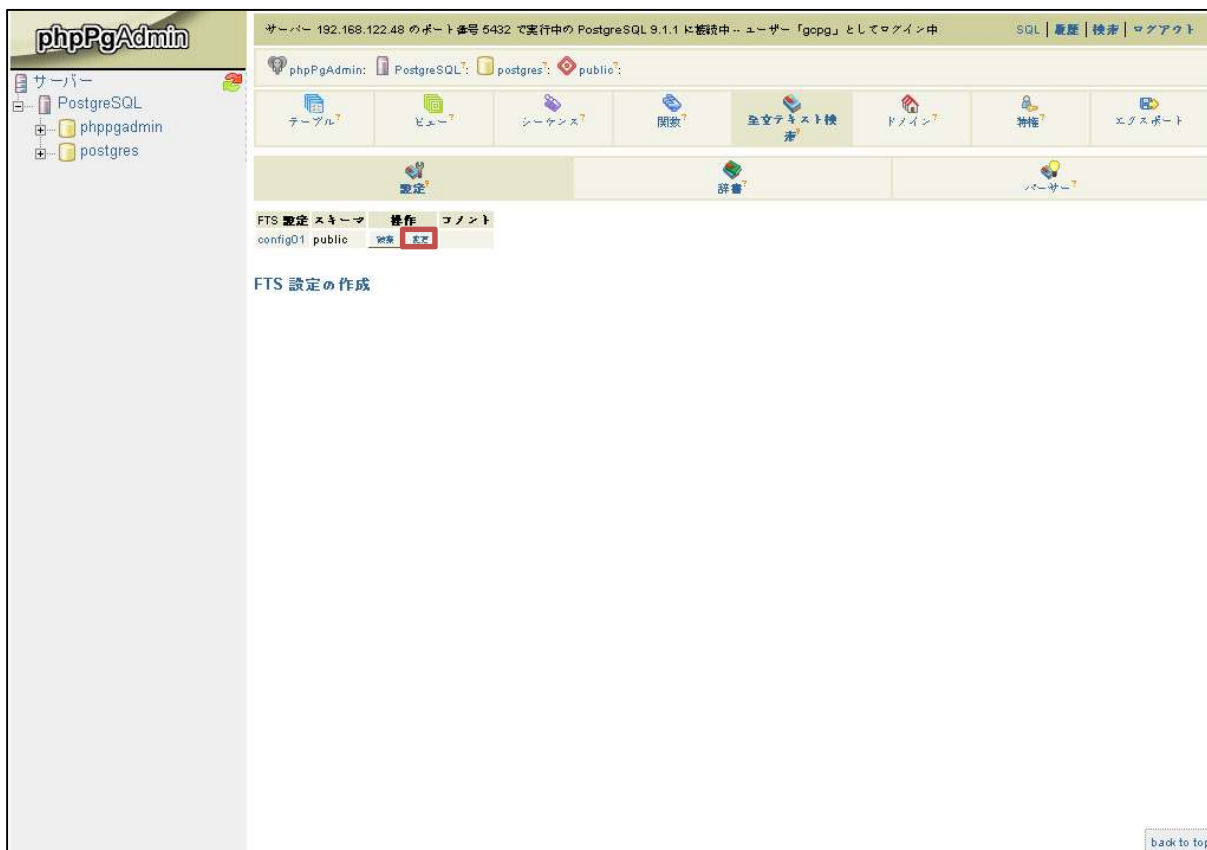


図 2-8-88 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

② 「全文テキスト検索設定の変更」で[変更]ボタンをクリックします。

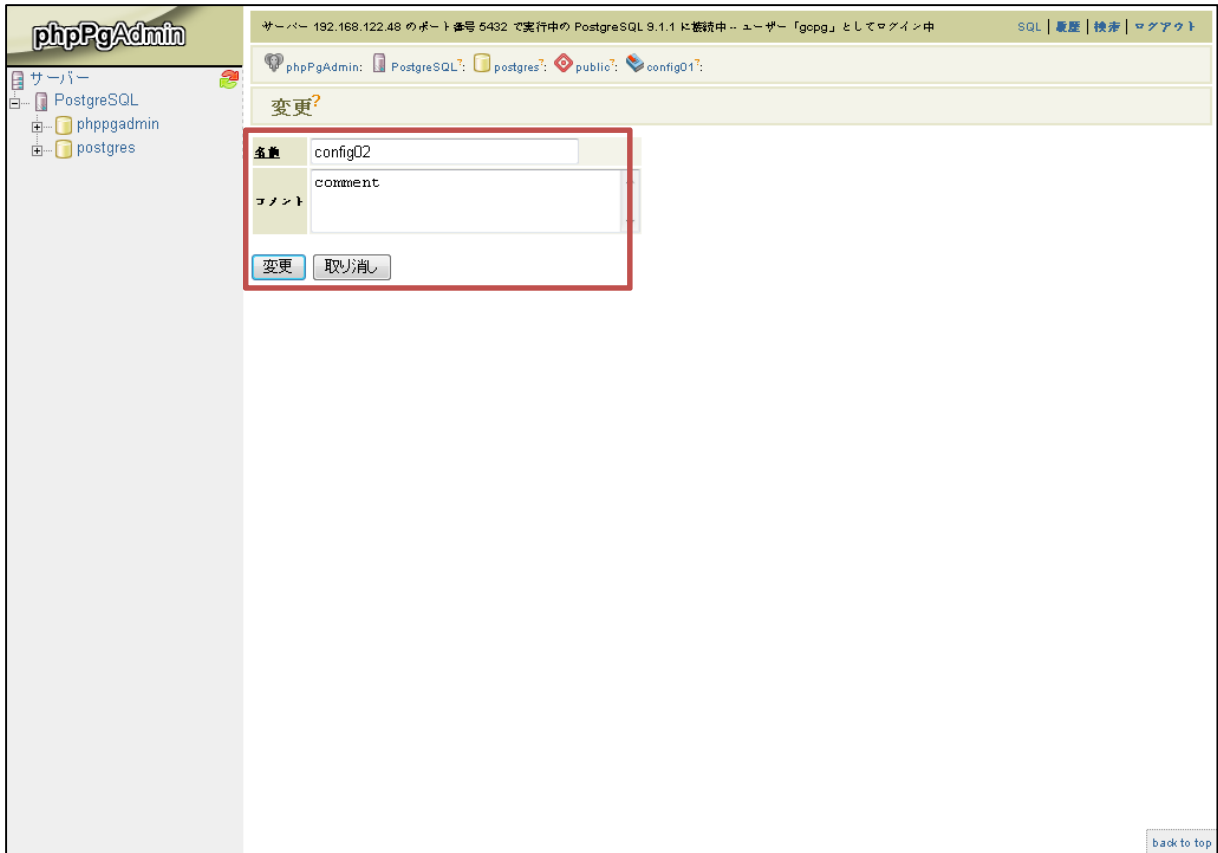


図 2-8-89 「全文テキスト検索設定の変更」

表 2-8-90 全文テキスト検索設定の変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	全文テキスト検索設定の名称を指定します。
2	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の設定一覧操作」で全文テキスト検索設定が変更されたことを確認します。



図 2-8-91 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

2-8-5-I-iii. 全文テキスト検索設定の作成

★ 新しい全文テキスト検索設定を定義します。

① 「全文テキスト検索の設定一覧操作」で[FTS 設定の作成]をクリックします。

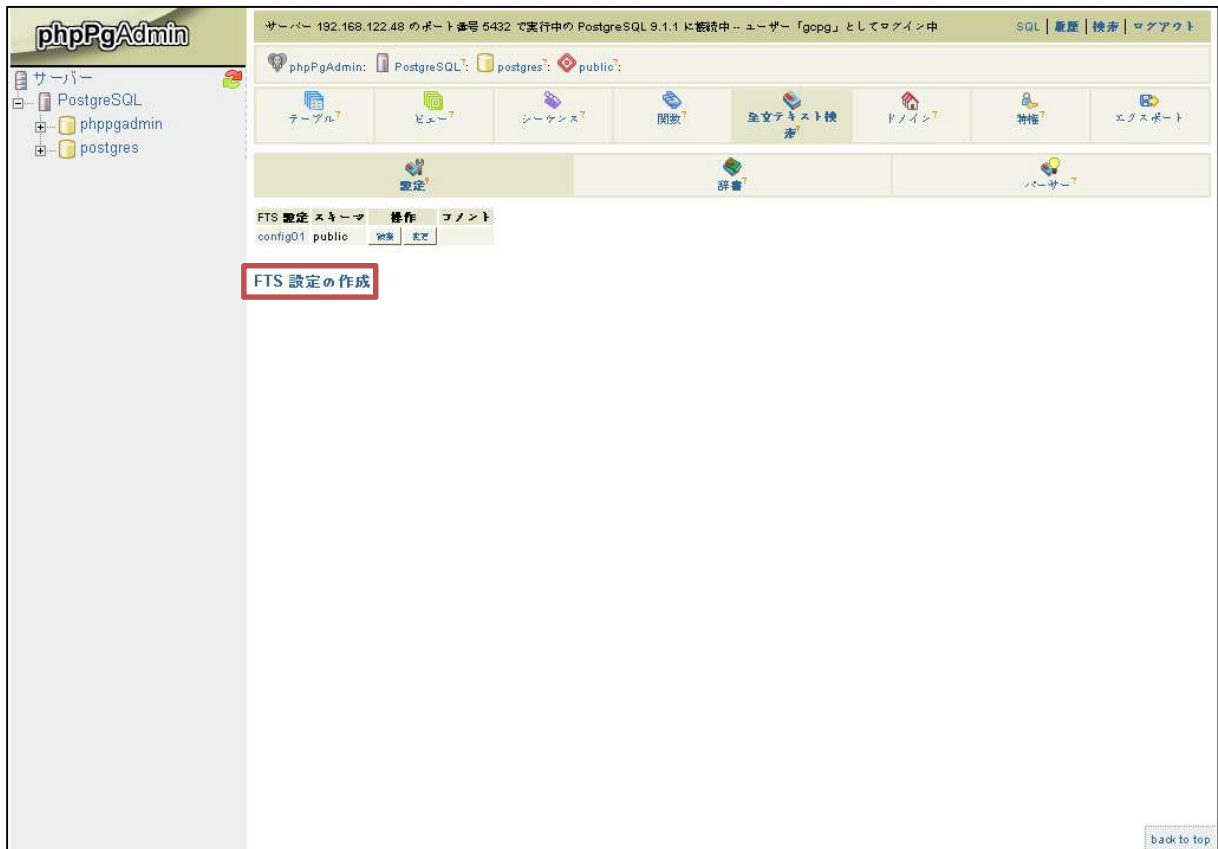


図 2-8-92 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

② 「全文テキスト検索設定の作成」で[作成]ボタンをクリックします。

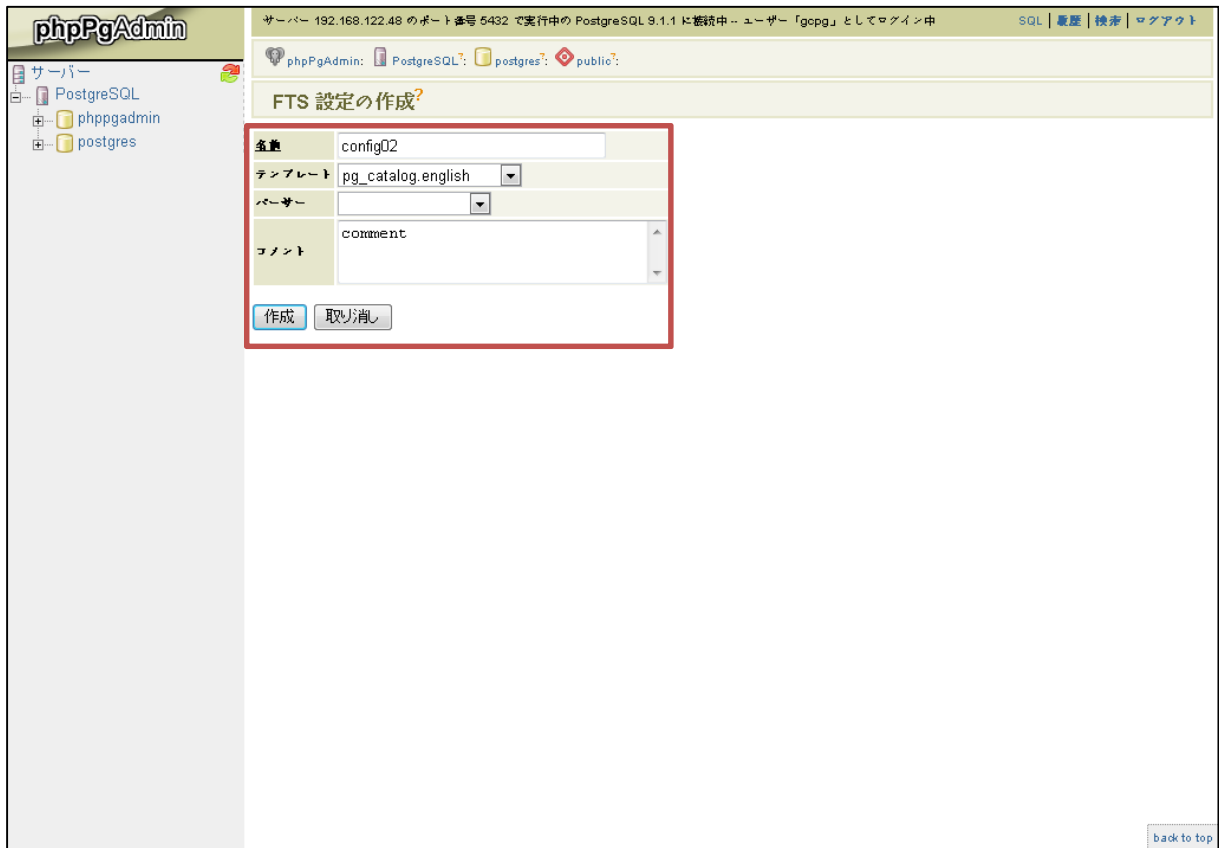


図 2-8-93 「全文テキスト検索設定の作成」

表 2-8-94 全文テキスト検索設定の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	全文テキスト検索設定の名称を指定します。
2	[テンプレート]	全文テキスト検索設定の元となるテンプレートを指定します。 指定できるテンプレートは、システムカタログスキーマである pg_catalog スキーマに存在する全文テキスト検索設定および、「全文テキスト検索設定一覧」で表示されている全文テキスト検索設定です。
3	[パーサー]	全文テキスト検索用のパーサーを指定します。 指定できるパーサーは、システムカタログスキーマである pg_catalog スキーマに存在するパーサーおよび、「全

		文テキスト検索のパーサー一覧」で表示されている全文テキスト検索パーサーです。
4	[コメント]	コメントを指定します。
5	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の設定一覧操作」で全文テキスト検索設定が作成されたことを確認します。

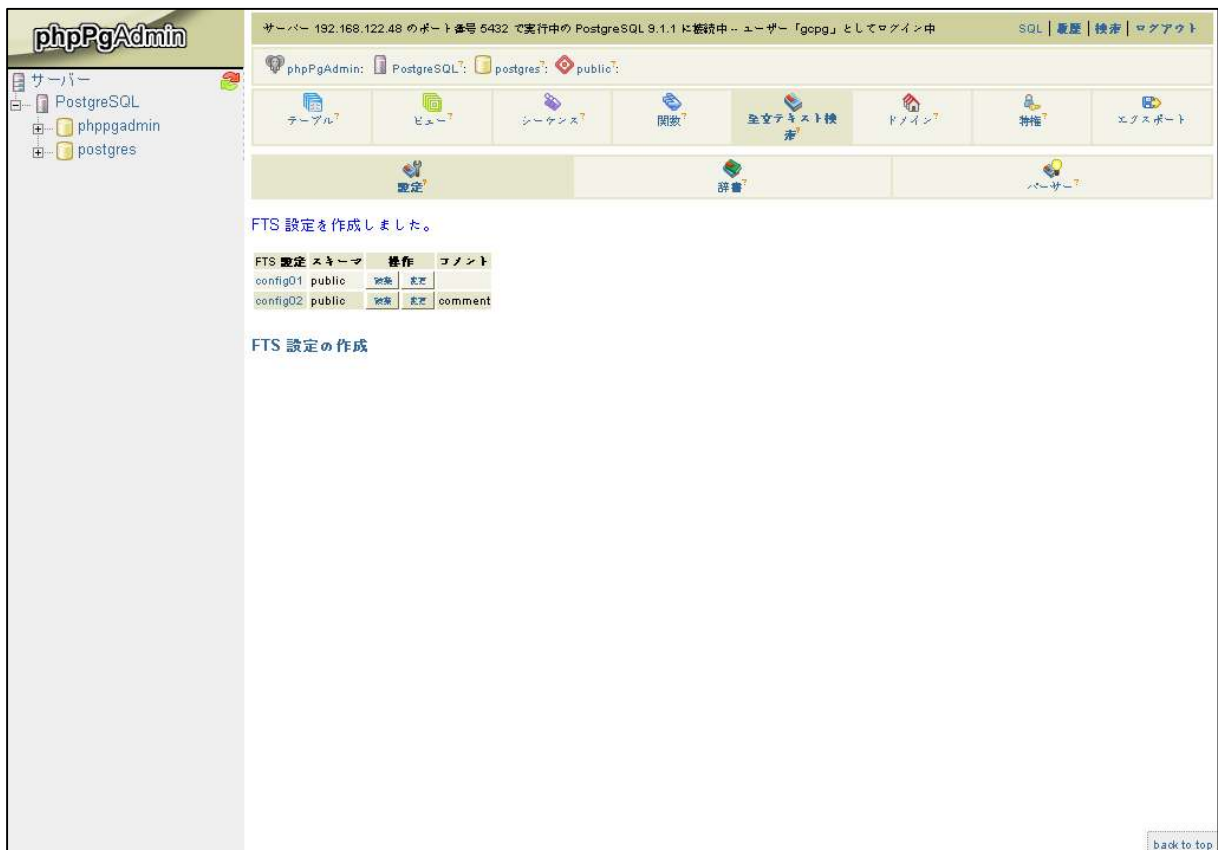


図 2-8-95 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

2-8-5-II. 全文テキスト検索の辞書一覧操作

★ 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」を表示します。

① 「全文テキスト検索操作メニュー」で [辞書]をクリックします。

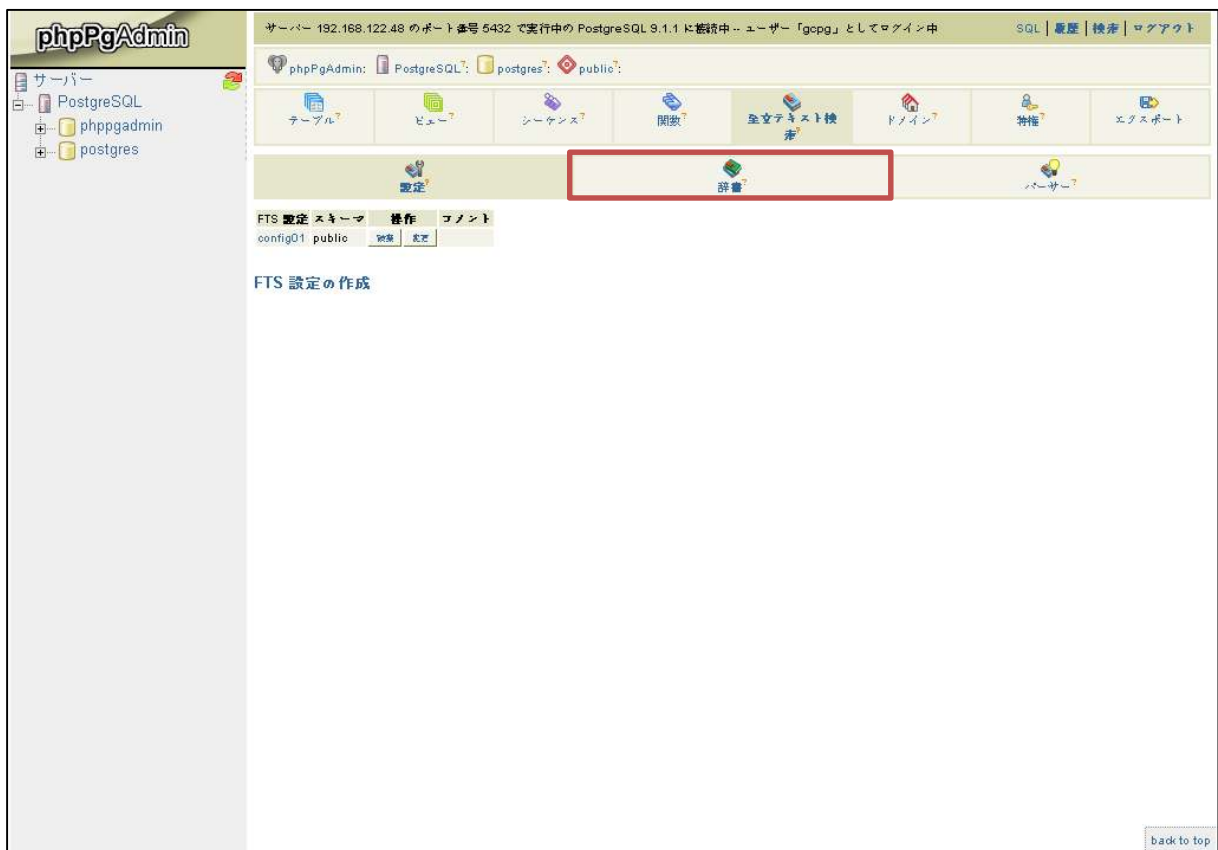


図 2-8-96 「全文テキスト検索操作メニュー」

② 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」の表示を確認します。

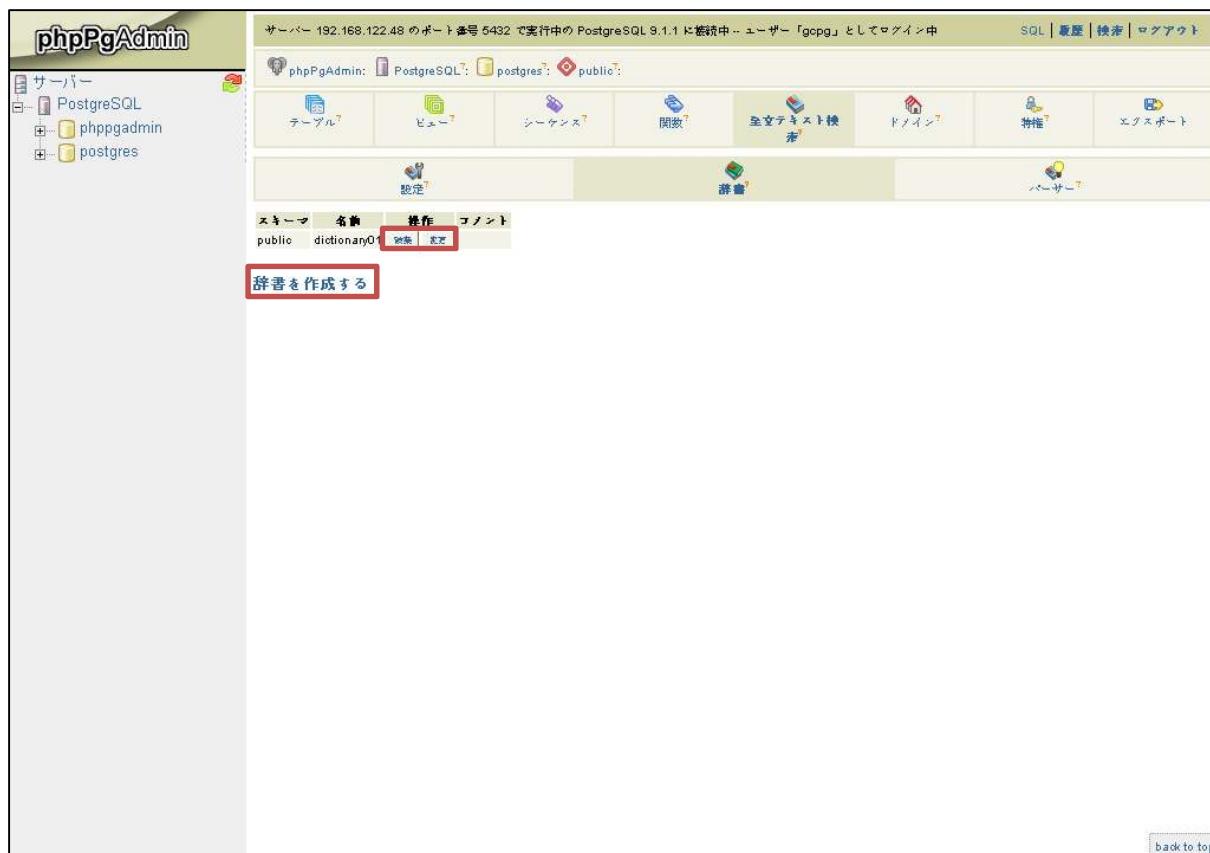


図 2-8-97 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

表 2-8-98 全文テキスト検索の辞書一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	全文テキスト検索辞書を削除することができます。 (DROP TEXT SEARCH DICTIONARY に相当) 詳細は 2-8-5-II-i「全文テキスト検索辞書の破棄」を参照してください。
2	[変更]ボタン	全文テキスト検索辞書を変更することができます。 (ALTER TEXT SEARCH DICTIONARY に相当) 詳細は 2-8-5-II-ii「全文テキスト検索辞書の変更」を参照してください。
3	[辞書を作成する]	新しい全文テキスト検索辞書を定義することができます。(CREATE TEXT SEARCH DICTIONARY または

CREATE TEXT SEARCH TEMPLATE (に相当)

詳細は 2-8-5-II-iii「全文テキスト検索辞書の作成」を参照してください。

2-8-5-II-i. 全文テキスト検索辞書の破棄

★ 全文テキスト検索辞書を削除します。

① 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-8-99 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

② 「全文テキスト検索辞書の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-8-100 「全文テキスト検索辞書の破棄」

表 2-8-101 全文テキスト検索辞書の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄する全文テキスト検索辞書にオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で全文テキスト検索辞書が破棄されたことを確認します。



図 2-8-102 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

2-8-5-II-ii. 全文テキスト検索辞書の変更

★ 全文テキスト検索辞書の定義を変更します。

① 「全文テキスト検索の辞書一覧変更」で[変更]ボタンをクリックします。



図 2-8-103 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

② 「全文テキスト検索設定の破棄」で[変更]ボタンをクリックします。

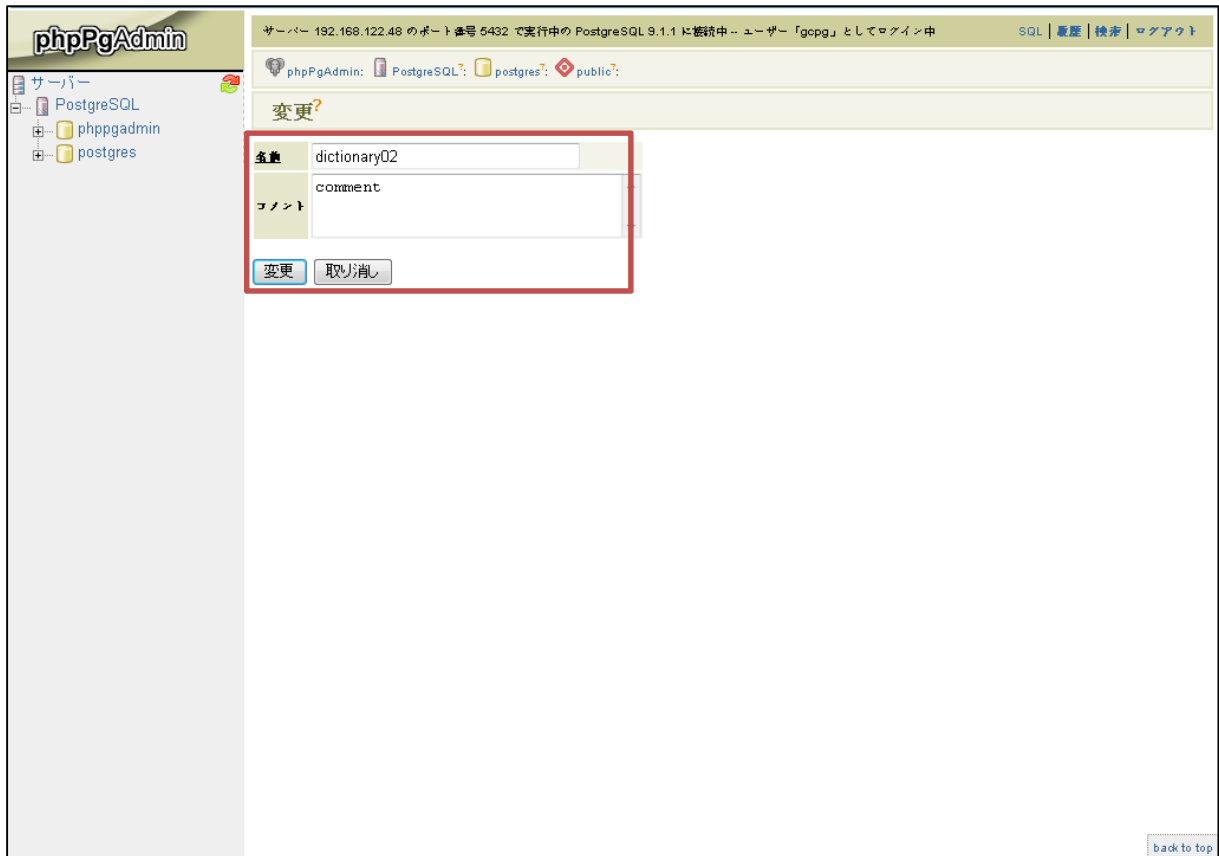


図 2-8-104 「全文テキスト検索辞書の変更」

表 2-8-105 全文テキスト検索辞書の変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	全文テキスト検索辞書の名称を指定します。
2	[コメント]	コメントを指定します。
3	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
4	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で全文テキスト検索辞書が変更されたことを確認します。



図 2-8-106 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

2-8-5-II-iii. 全文テキスト検索辞書の作成

★ 新しい全文テキスト検索辞書を定義します。

① 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で[辞書を作成する]をクリックします。

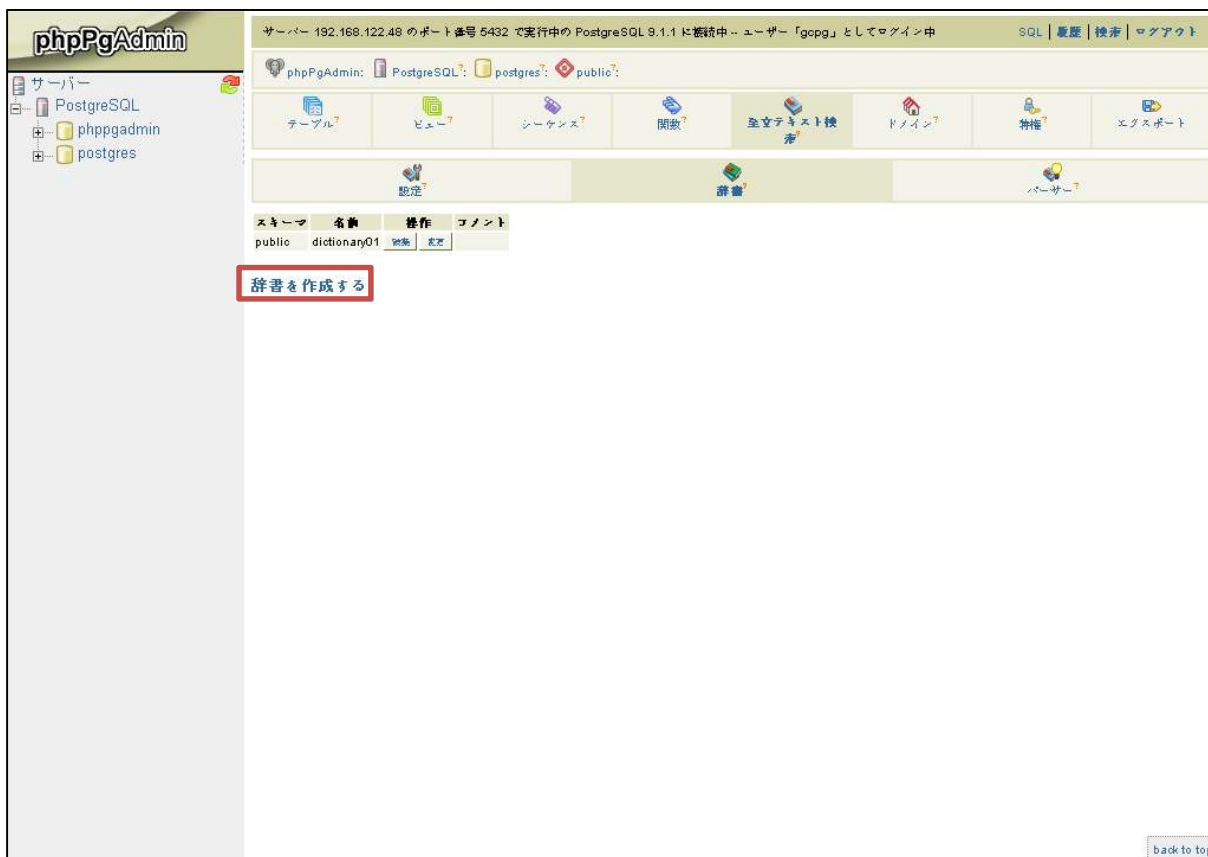


図 2-8-107 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

② 「全文テキスト検索辞書の作成」で[作成]ボタンをクリックします。

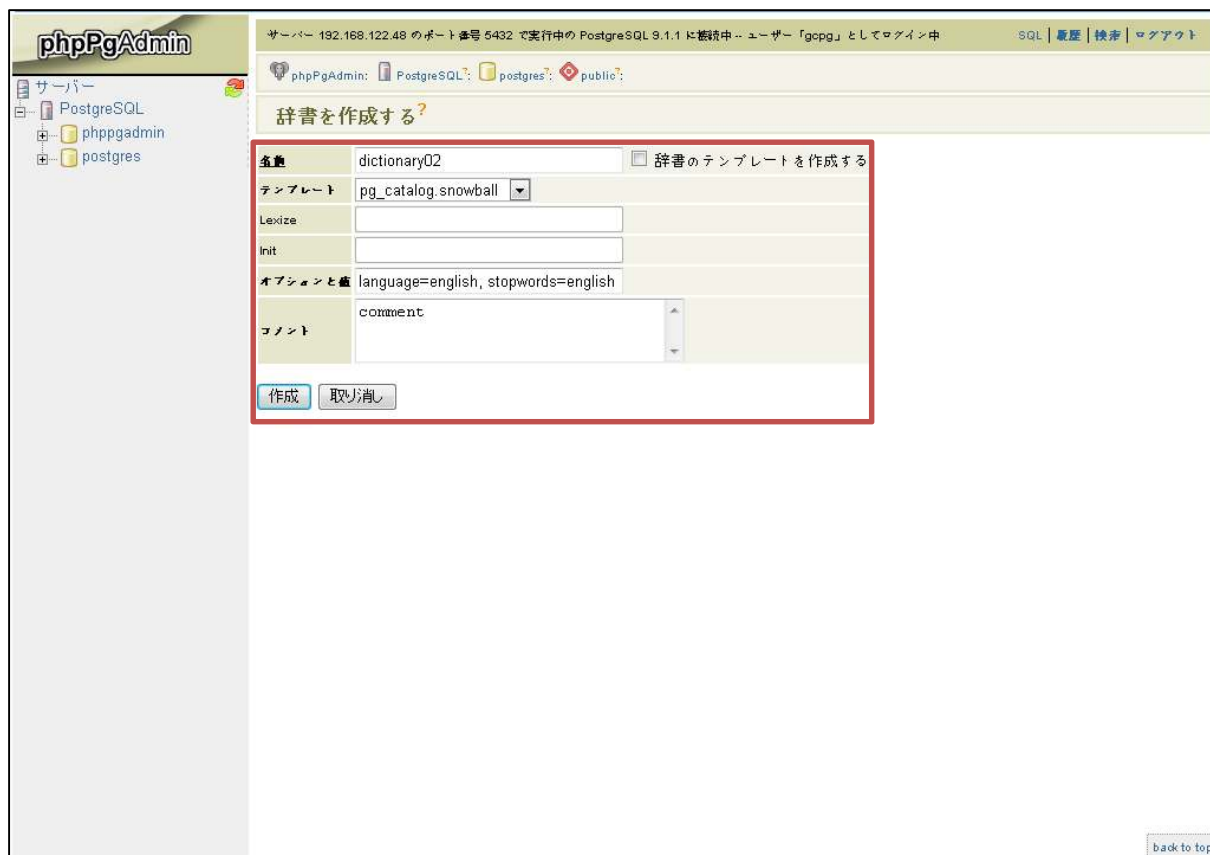


図 2-8-108 「全文テキスト検索辞書の作成」

表 2-8-109 全文テキスト検索辞書の作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	全文テキスト検索設定の名称を指定します。
2	[辞書のテンプレートを 作成する]	辞書のテンプレートを作成する場合、有効にします。 [テンプレート]、[オプションと値]が指定不可になり、 [Lexize]、[Init]が指定できます。
3	[テンプレート]	全文テキスト検索辞書の元となるテンプレートを指定し ます。 指定できるテンプレートは、システムカタログスキーマ である pg_catalog スキーマに存在する全文テキスト検 索テンプレートおよび、「全文テキスト検索辞書の作成」 でテンプレートとして作成した全文テキスト検索テンブ

		レートです。
4	[Lexize]	テンプレートの字句化関数の名称です。
5	[Init]	テンプレートの初期化関数の名称です。
6	[オプションと値]	テンプレートで使用されるオプションと値の組です。
7	[コメント]	コメントを指定します。
8	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で全文テキスト検索辞書が作成されたことを確認します。

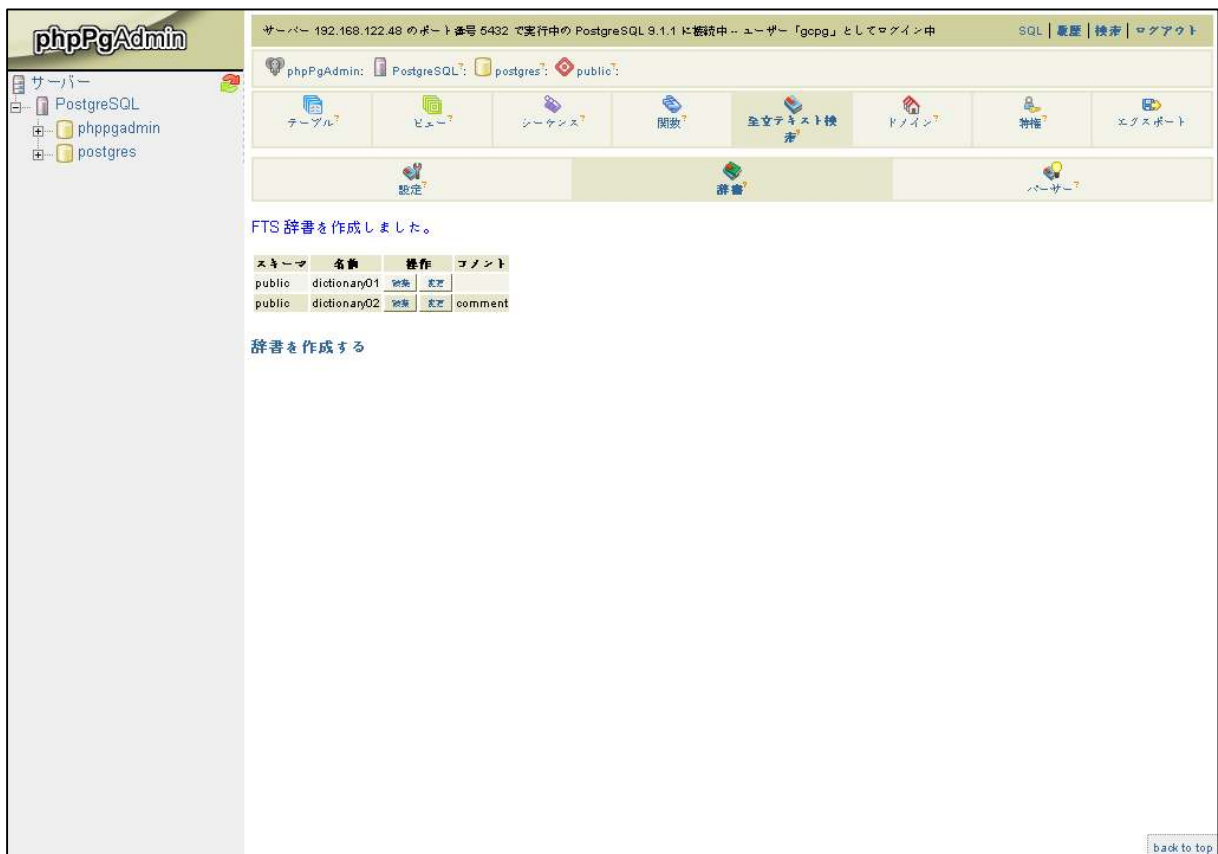


図 2-8-110 「全文テキスト検索の辞書一覧操作」

2-8-5-III. 全文テキスト検索のパーサー一覧

★ 「全文テキスト検索のパーサー一覧」を表示します。

① 「全文テキスト検索操作メニュー」で [パーサー]をクリックします。

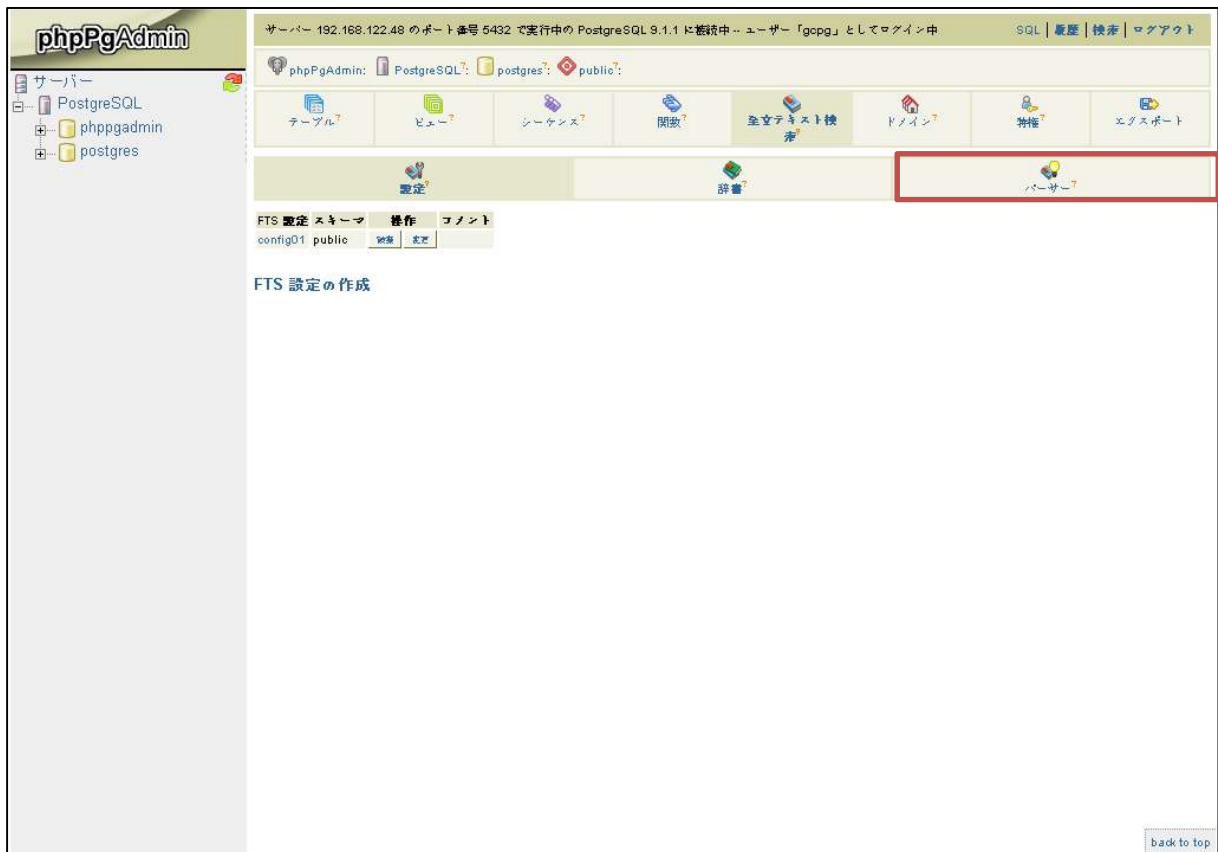


図 2-8-111 「全文テキスト検索操作メニュー」

② 「全文テキスト検索のパルーサー一覧」の表示を確認します。

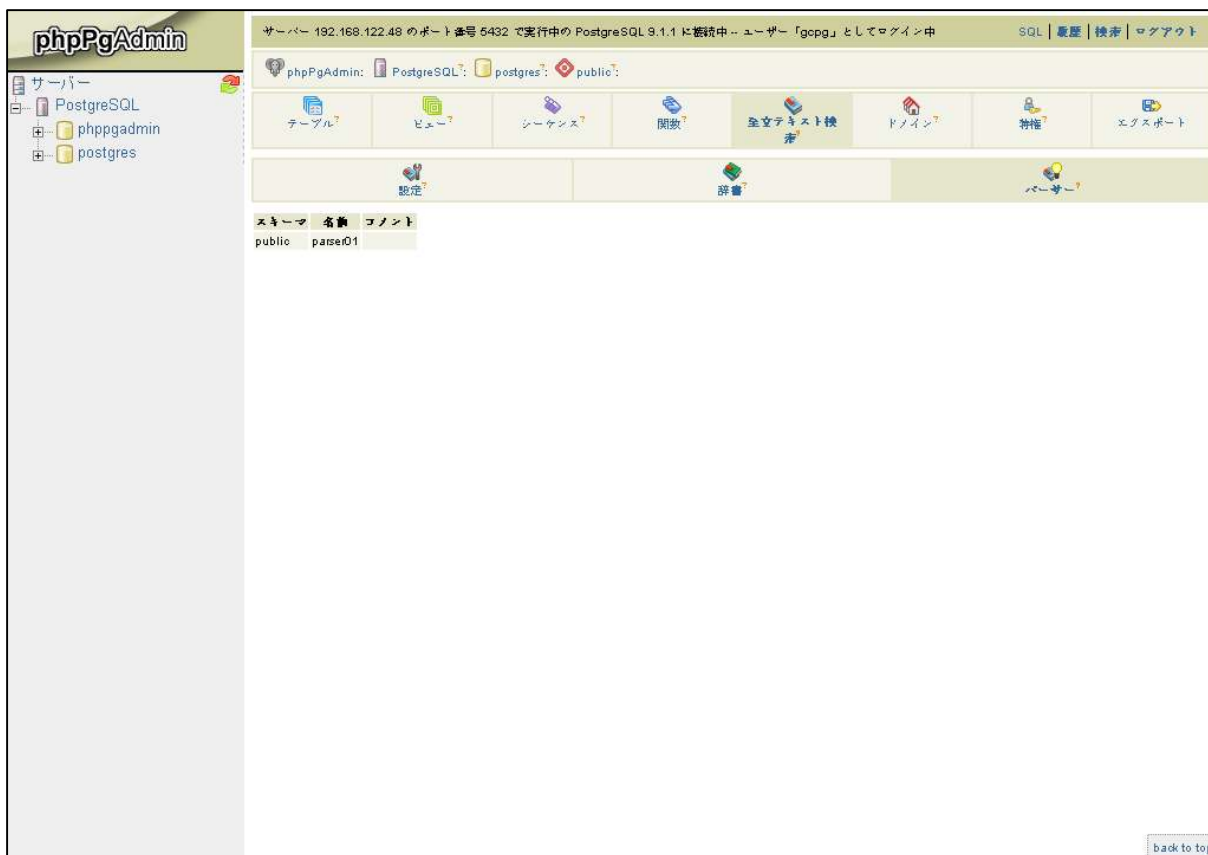


図 2-8-112 「全文テキスト検索のパルーサー一覧」

2-8-6 ドメイン一覧操作

★ 「ドメイン一覧操作」を表示します。ドメインの作成、破棄、変更ができます。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [ドメイン]をクリックします。



図 2-8-113 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「ドメイン一覧操作」の表示を確認します。

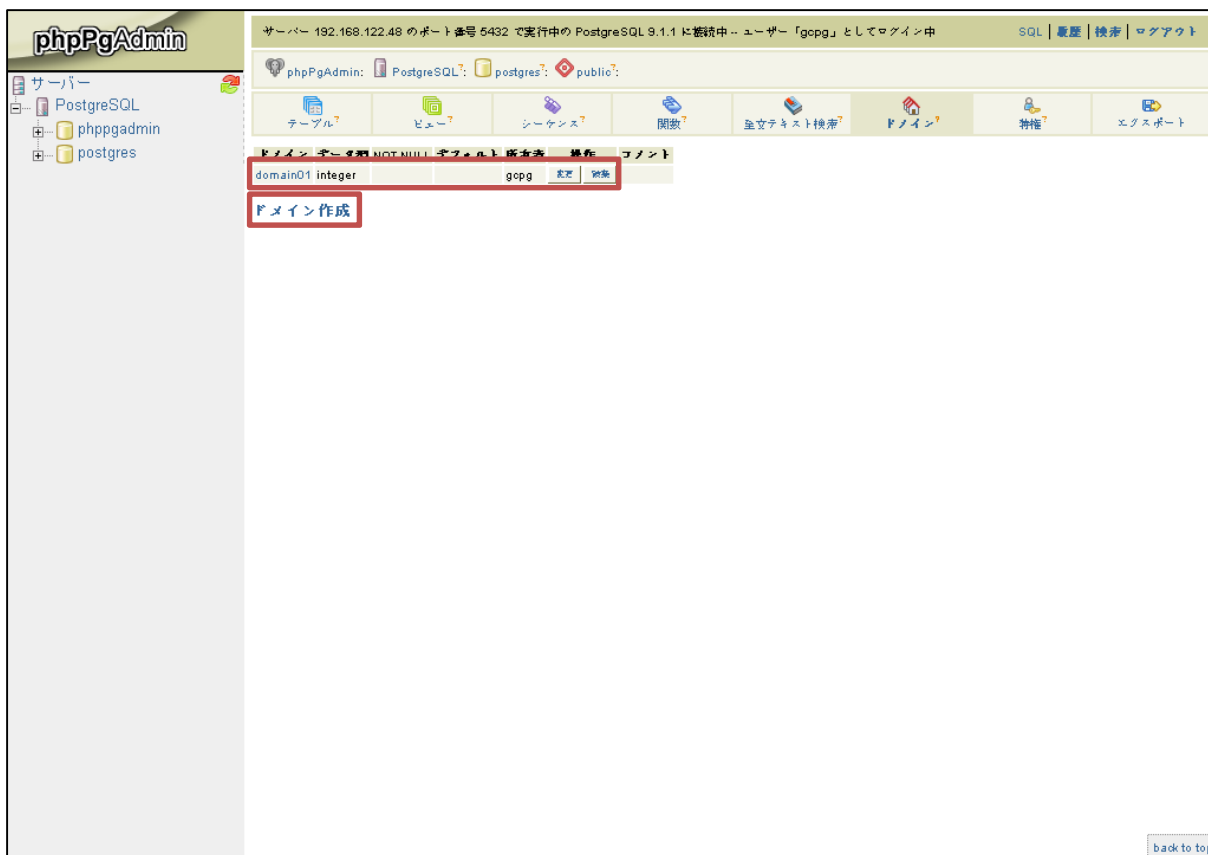


図 2-8-114 「ドメイン一覧操作」

表 2-8-115 ドメイン一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別ドメイン名”	「ドメイン個別操作」を表示します。 詳細は 2-15 「ドメイン個別操作」を参照してください。
2	[変更]ボタン	ドメインの定義を変更することができます。(ALTER DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-4 「ドメインの変更」を参照してください。
3	[破棄]ボタン	ドメインを削除することができます。(DROP DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-2 「ドメインの破棄」を参照してください。

4	[ドメイン作成]	新しいドメインを定義することができます。(CREATE DOMAIN に相当) 詳細は 2-8-6-I「ドメインの作成」を参照してください。
---	----------	---

2-8-6-I. ドメインの作成

★ 新しいドメインを定義します。

① 「ドメイン一覧操作」で[ドメイン作成]をクリックします。

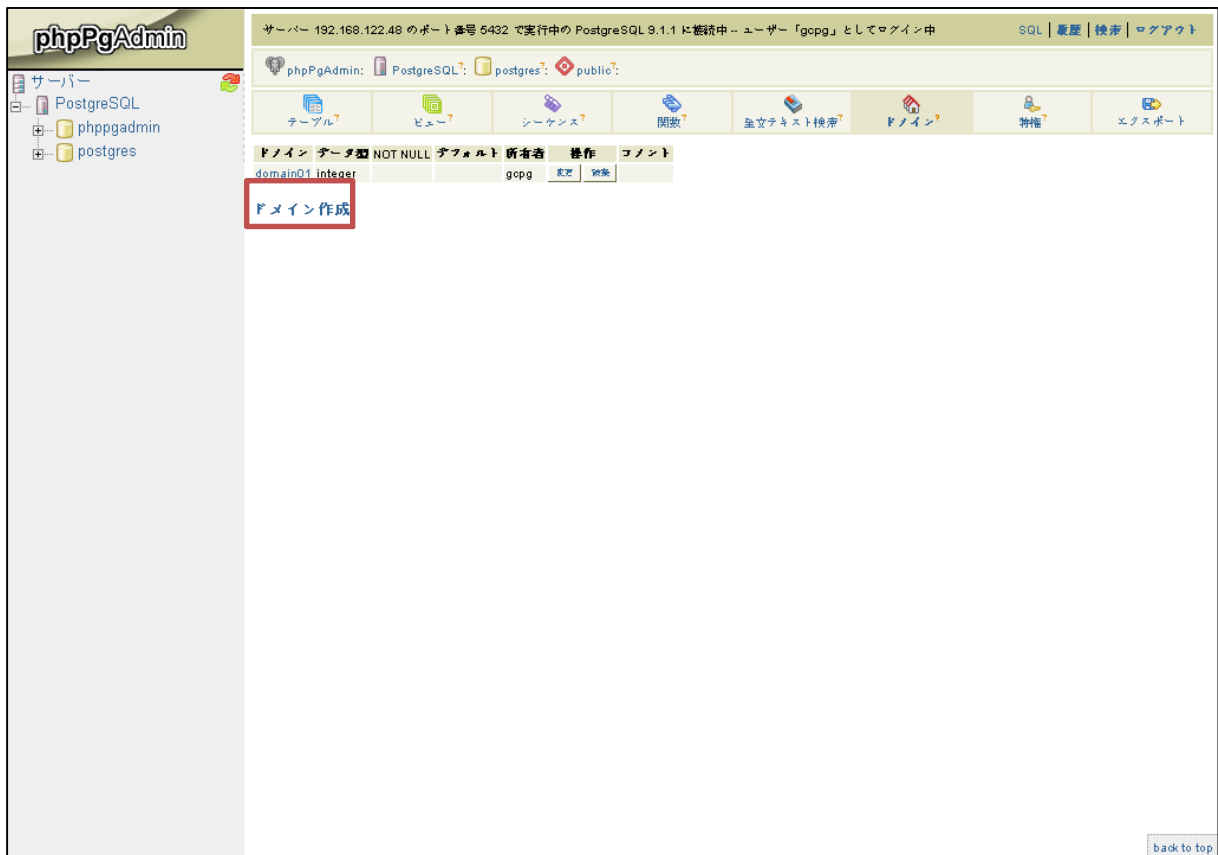


図 2-8-116 「ドメイン一覧操作」

② 「ドメインの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

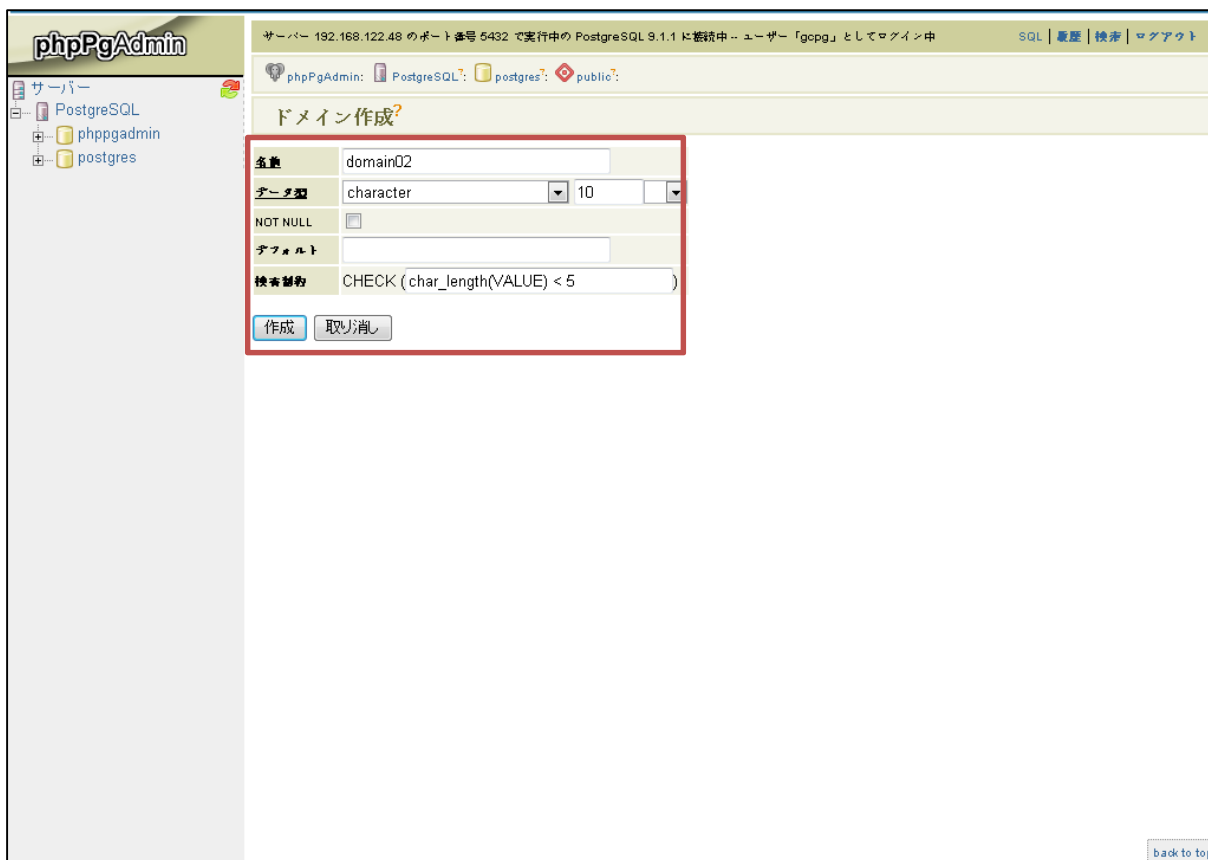


図 2-8-117 「ドメインの作成」

表 2-8-118 ドメインの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ドメインの名称を指定します。
2	[データ型]型	ドメインのデータ型を指定します。
3	[データ型]型修飾子	ドメインのデータ型に対する型修飾子を指定します。
4	[データ型]配列	ドメインのデータ型が配列か否か指定します。
5	[NOT NULL]	ドメインに NOT NULL 制約を指定したい場合に有効にします。
6	[デフォルト]	ドメインのデフォルト値を指定します。

7	[検査制約]	検査制約として定義する式を指定します。CREATE DOMAIN の CHECK()内に記述する式に相当。本項目に指定された式を満たすか否か検査する制約が追加されます。
8	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ドメイン一覧操作」でドメインが作成されたことを確認します。

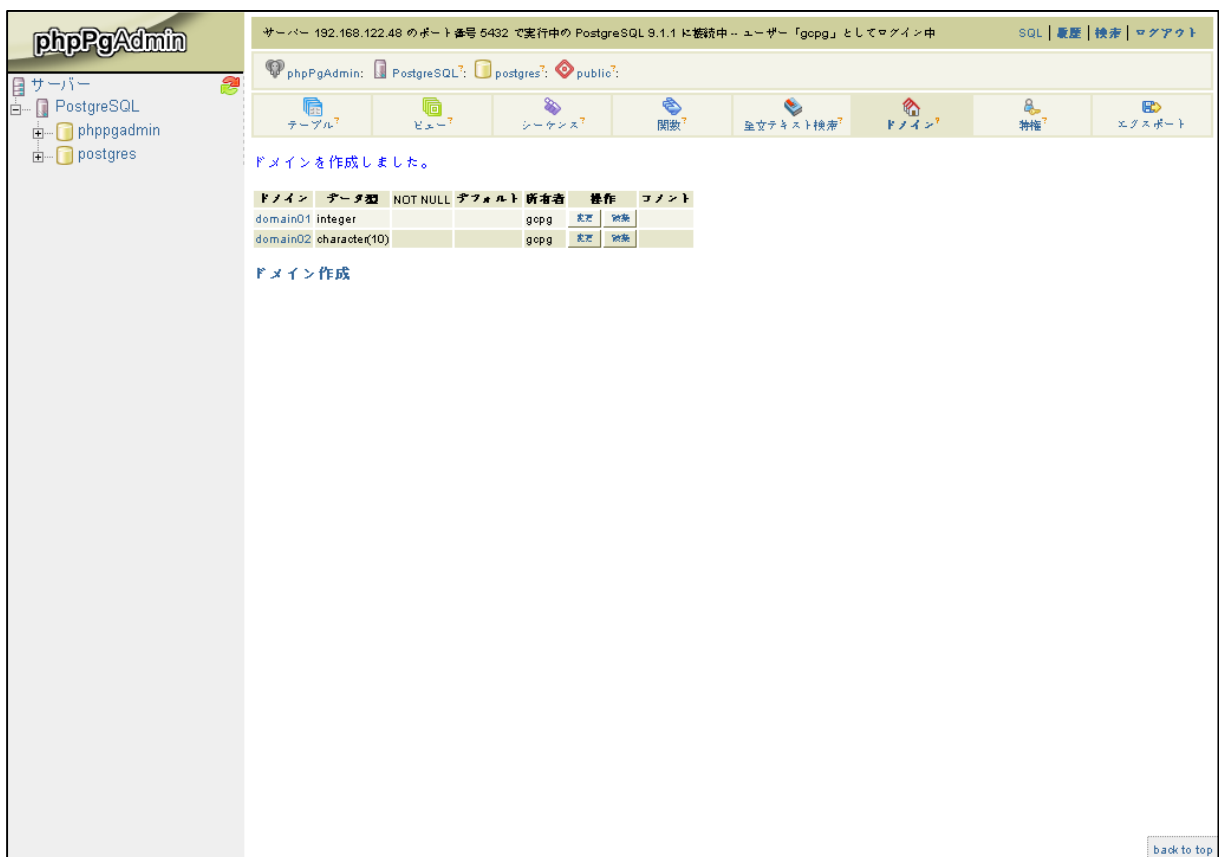


図 2-8-119 「ドメイン一覧操作」

2-8-7 スキーマの特権操作

★ 「スキーマの特権操作」を表示します。スキーマに対する特権の追加、破棄ができます。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [特権]をクリックします。

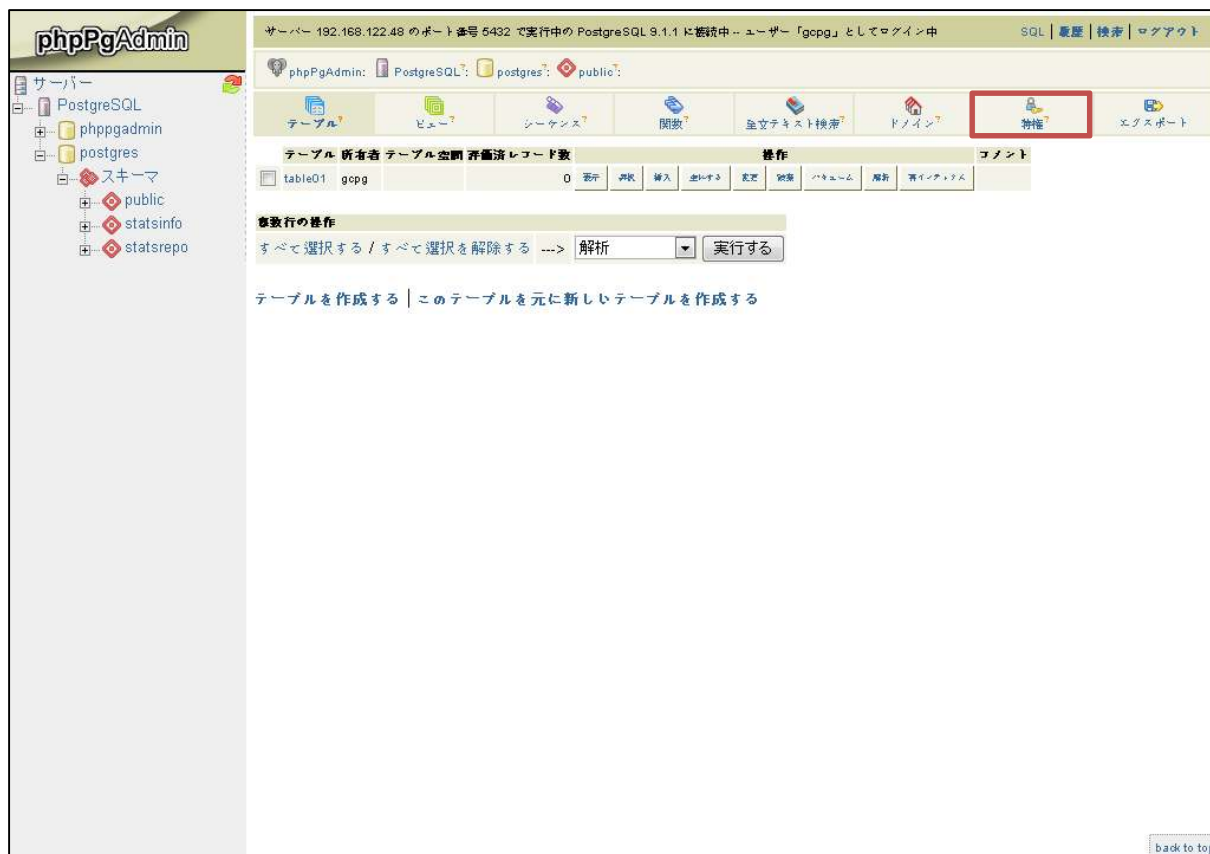


図 2-8-120 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「スキーマの特権操作」の表示を確認します。

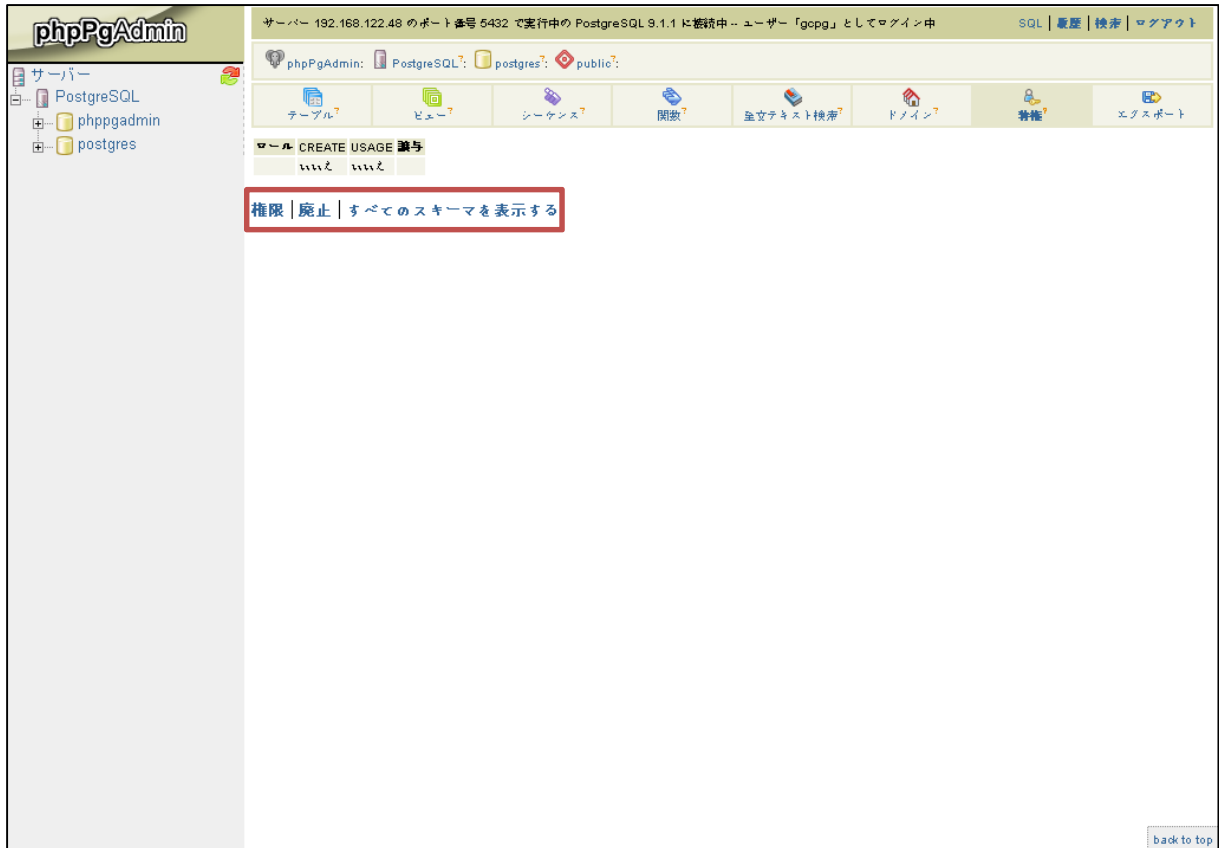


図 2-8-121 「スキーマの特権操作」

表 2-8-122 スキーマの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該スキーマについてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-8-7-I「スキーマの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該スキーマについてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-8-7-II「スキーマの特権破棄」を参照してください。
3	[すべてのスキーマを表示する]	「スキーマ一覧操作」を表示します。 詳細は 2-5-1「スキーマ一覧操作」を参照してください。

2-8-7-I. スキーマの特権追加

★ スキーマに対するアクセス権限を定義します。

① 「スキーマの特権操作」で[権限]をクリックします。

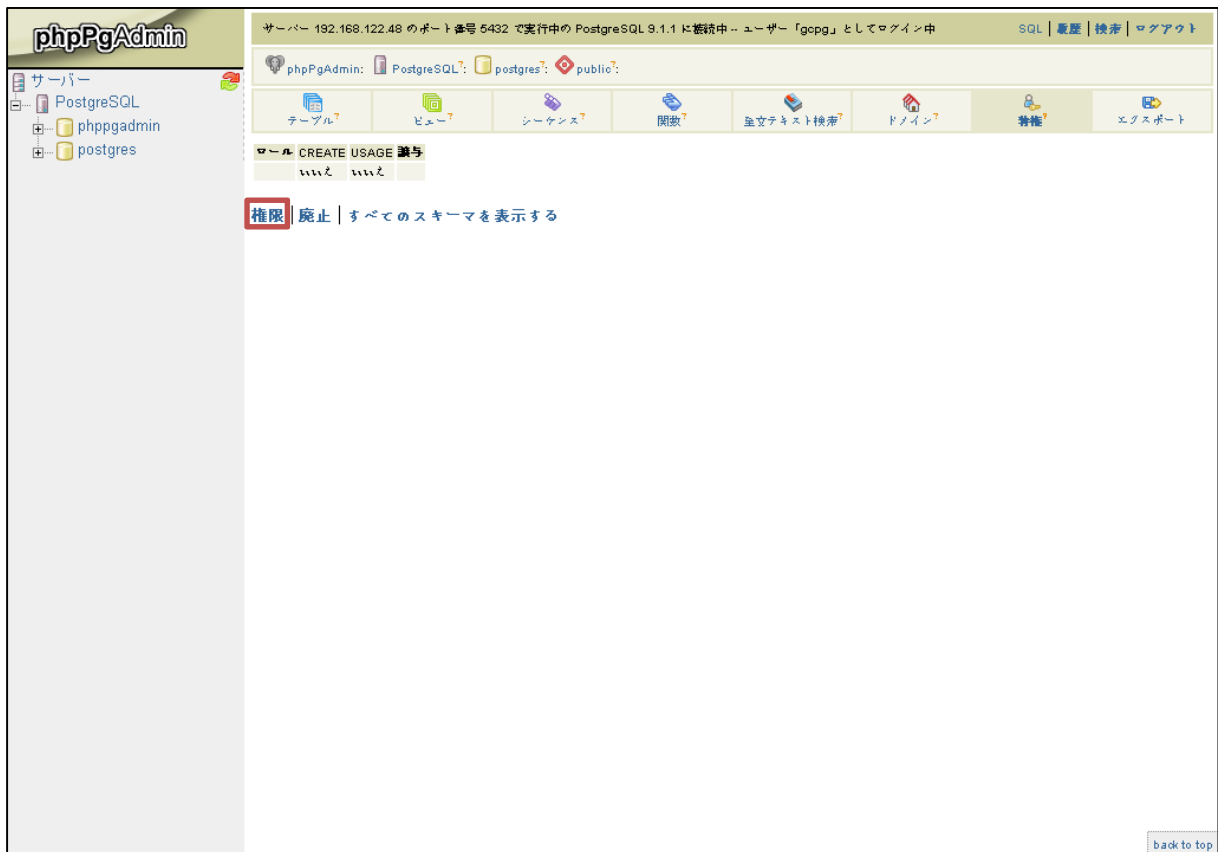


図 2-8-123 「スキーマの特権操作」

② 「スキーマの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

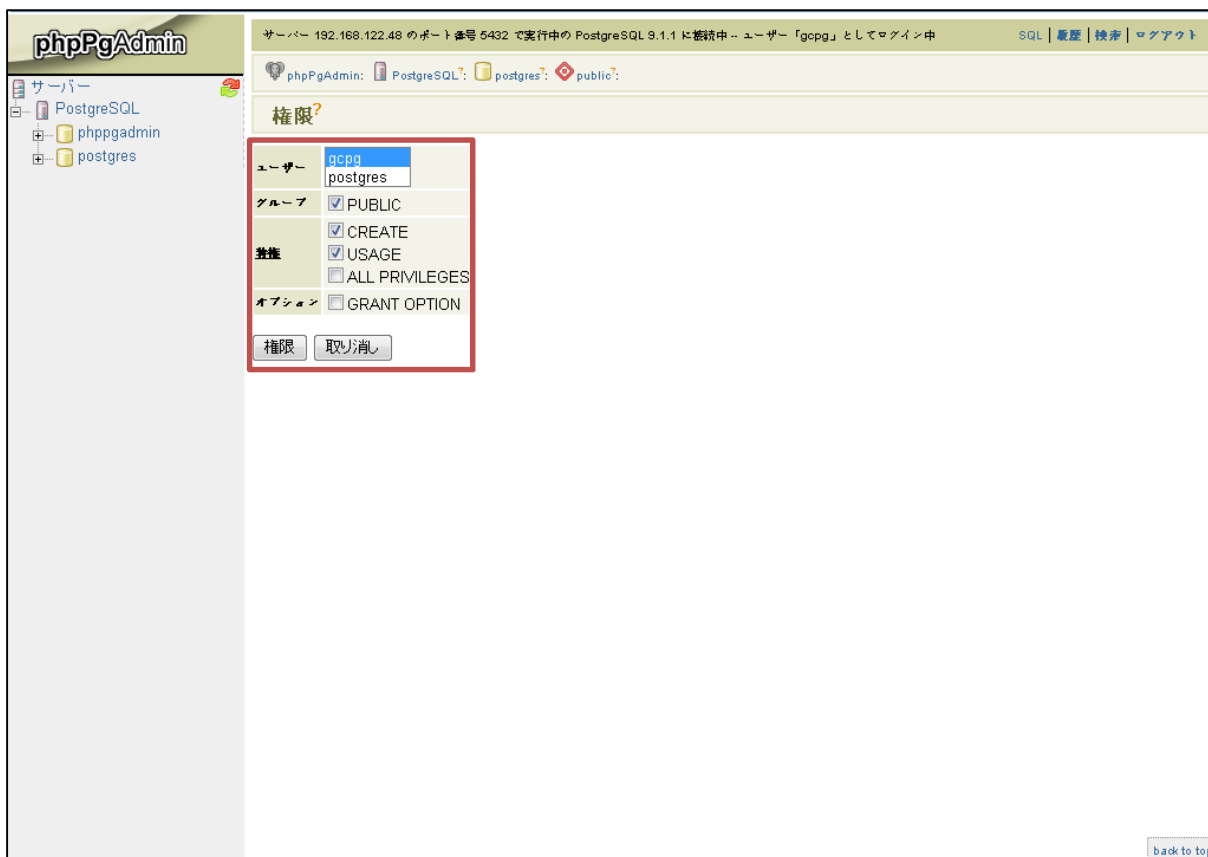


図 2-8-124 「スキーマの特権追加」

表 2-8-125 スキーマの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	<p>ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE を許可します。 ● USAGE : USAGE を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。

4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「スキーマの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。



図 2-8-126 「スキーマの特権操作」

2-8-7-II. スキーマの特権破棄

★ スキーマに対するアクセス権限を取り消します。

① 「スキーマの特権操作」で[廃止]をクリックします。

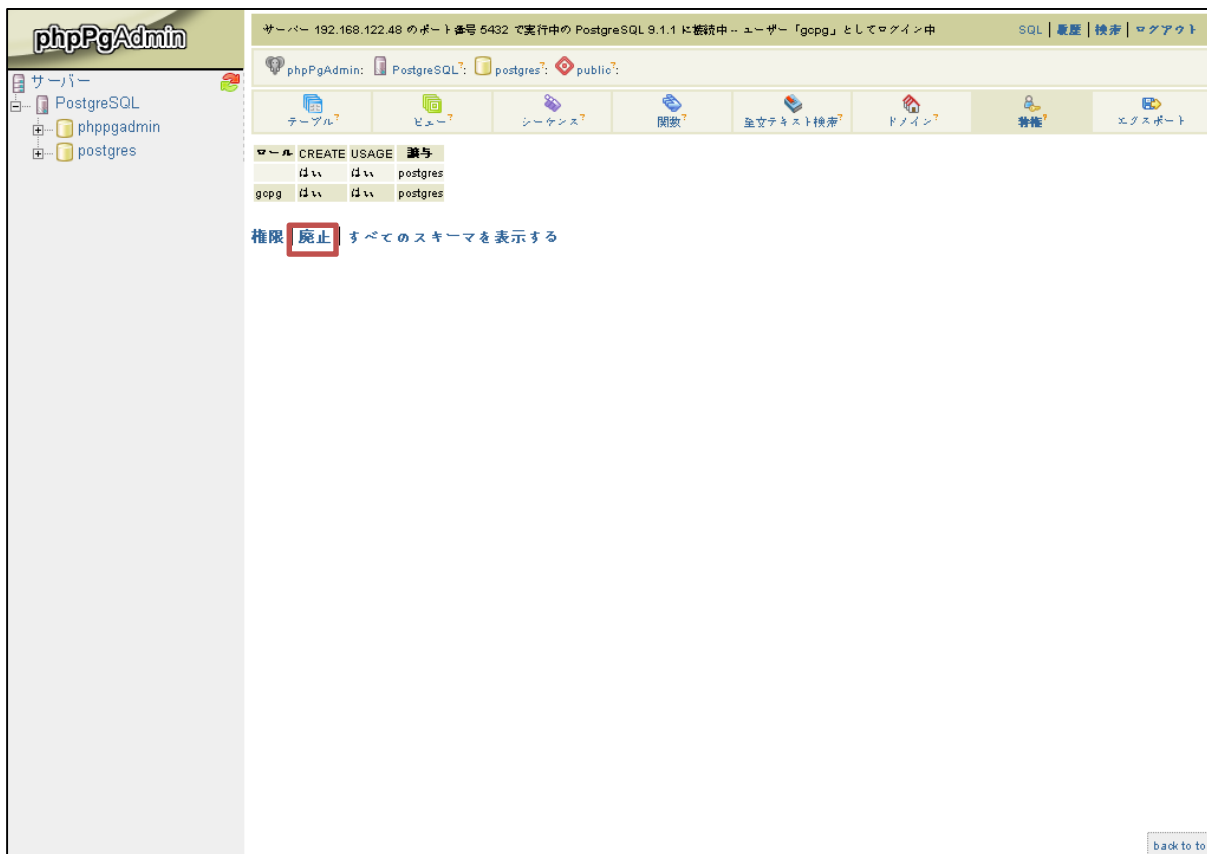


図 2-8-127 「スキーマの特権操作」

② 「スキーマの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

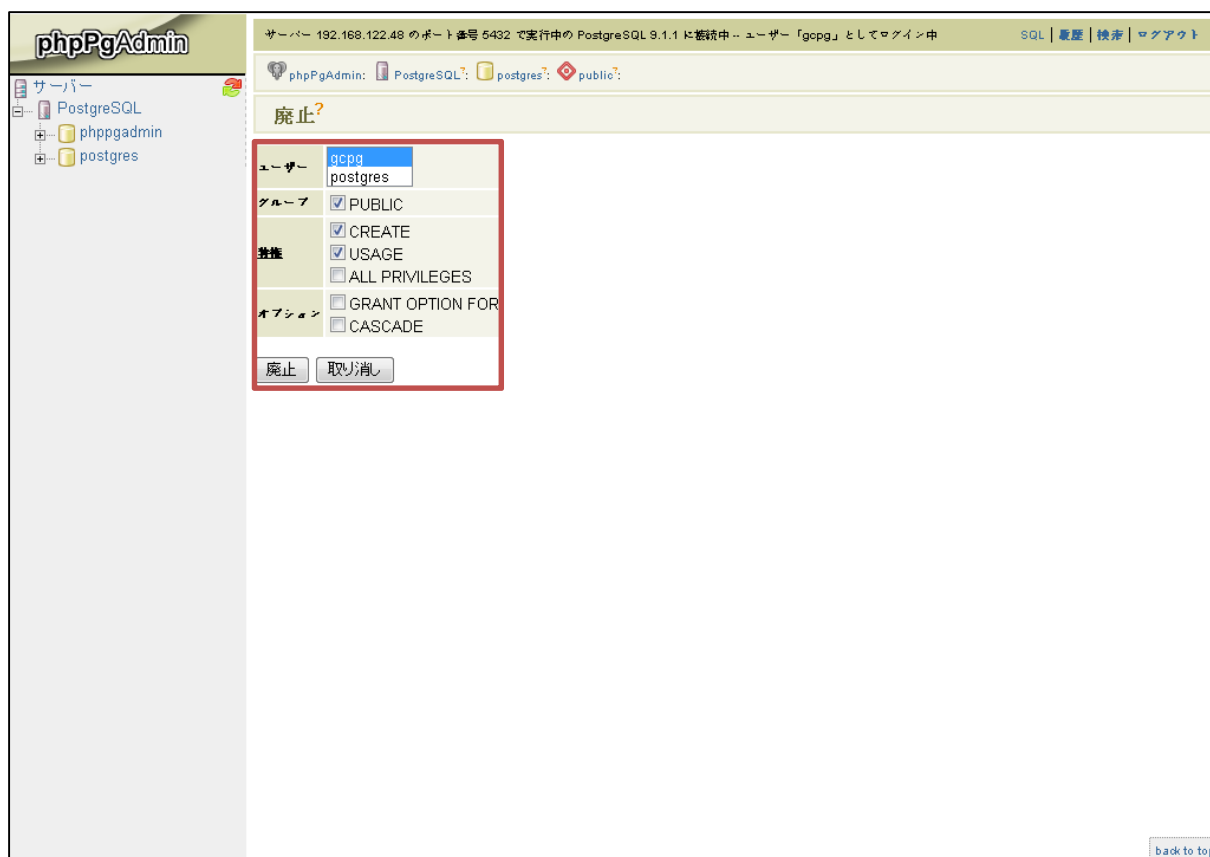


図 2-8-128 「スキーマの特権破棄」

表 2-8-129 スキーマの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> ● CREATE : CREATE 権限を取り消します。 ● USAGE : USAGE 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。

4	[オプション]	[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限のGRANT OPTION のみが取り消されます。 [CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「スキーマの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

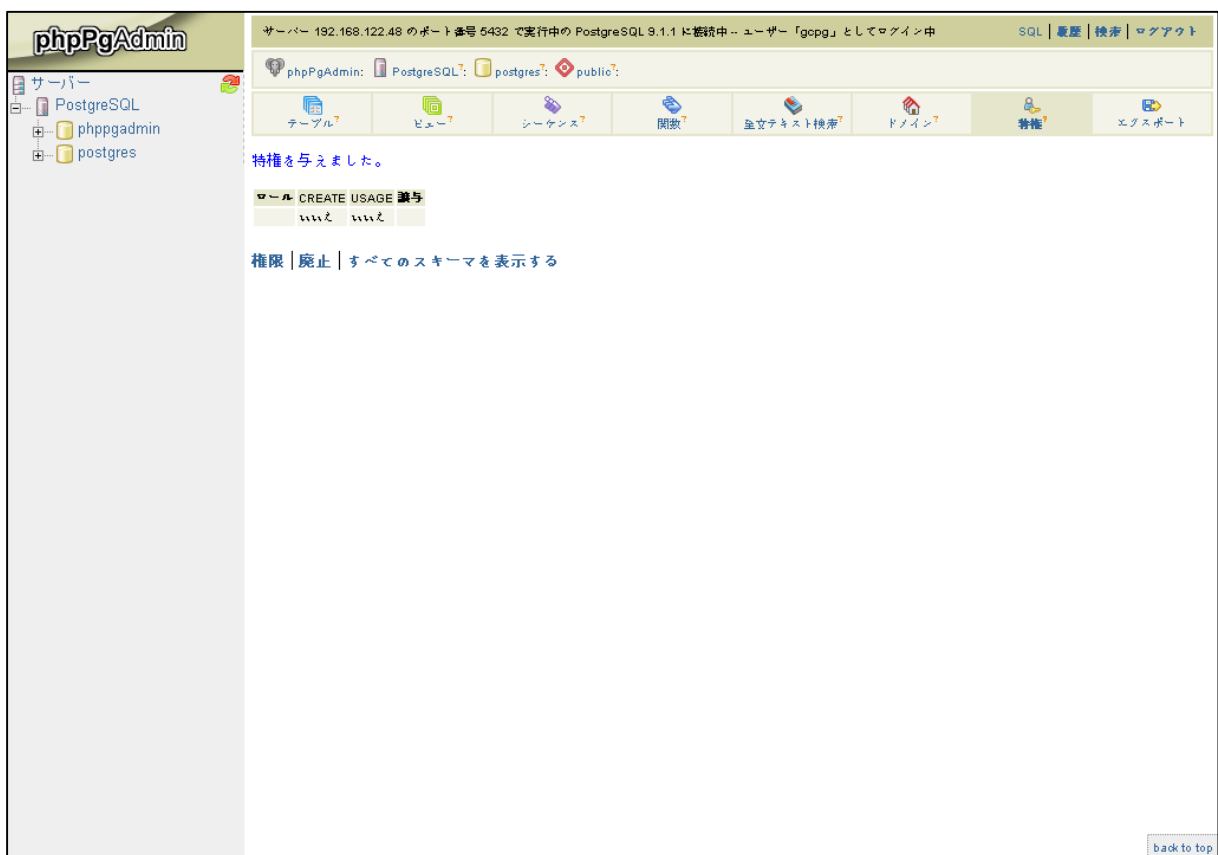


図 2-8-130 「スキーマの特権操作」

2-8-8 スキーマのエクスポート

★ スキーマのデータをエクスポートします。

① 「スキーマ個別操作メニュー」で [エクスポート] をクリックします。



図 2-8-131 「スキーマ個別操作メニュー」

② 「スキーマのエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

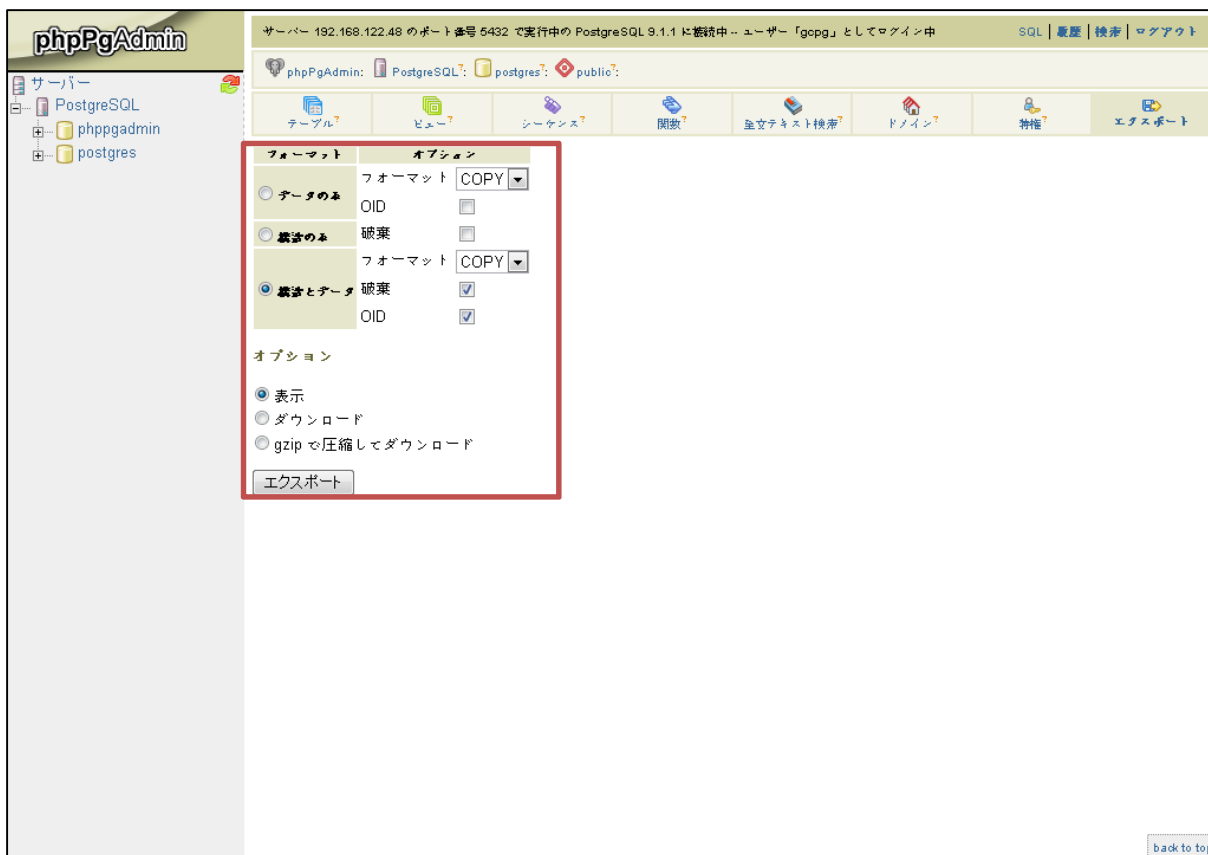


図 2-8-132 「スキーマのエクスポート」

表 2-8-133 スキーマのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● データのみ ● 構造のみ ● 構造とデータ
2	[フォーマット]でデータのみを選択した場合のオプション	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。

	[フォーマット]	<ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL
3	[フォーマット]でデータのみを選択した場合のオプション [OID]	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力します。スキーマがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
4	[フォーマット]で構造のみを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにスキーマが存在した場合に DROP してからスキーマを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
5	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [フォーマット]	<p>エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL
6	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにスキーマが存在した場合に DROP してからスキーマを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
7	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [OID]	本項目を有効にすると、オブジェクト識別子も出力します。スキーマがオブジェクト識別子に依存している場合は有効にする必要があります。
8	[オプション]	表示するかダウンロードするか gzip で圧縮してダウンロードするか選択します。
9	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】 データが表示されることを確認します。

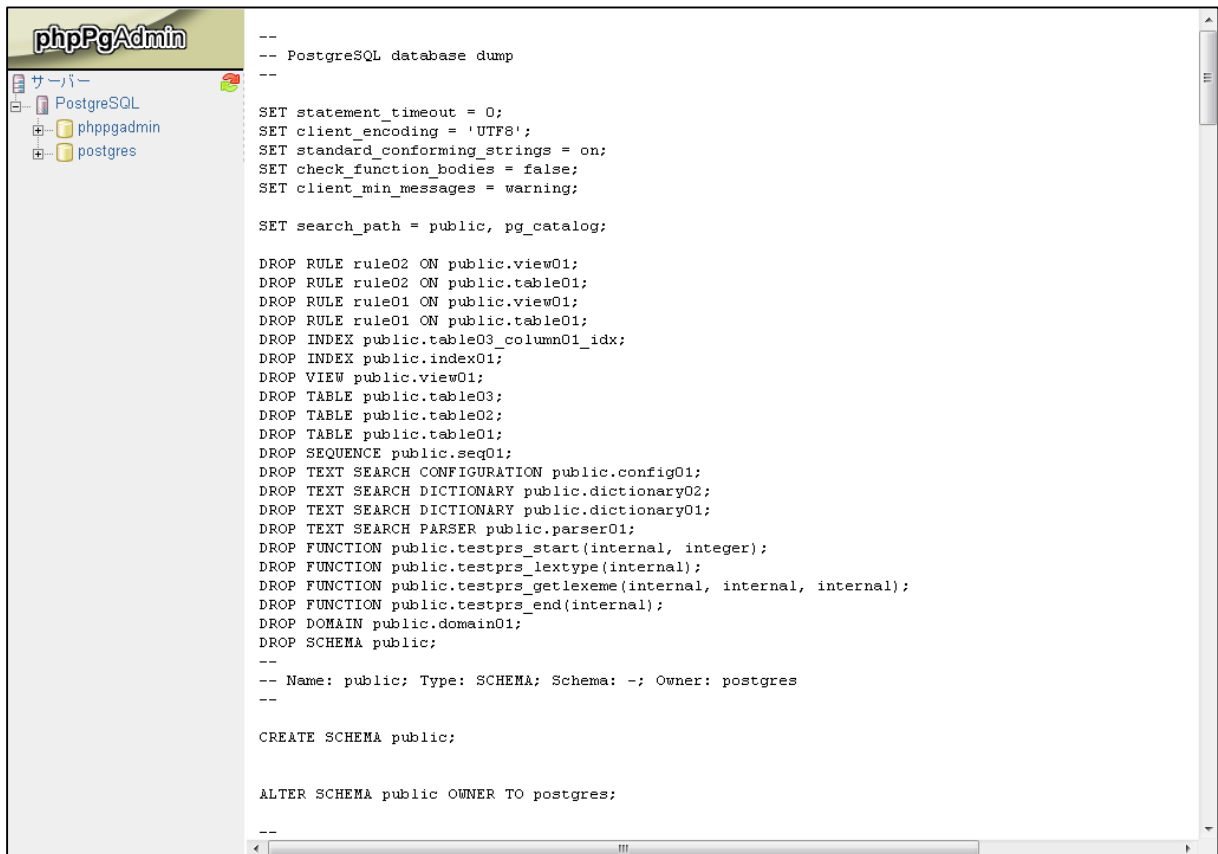


図 2-8-134 「スキーマのエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-8-135 「スキーマのエクスポート-ダウンロードダイアログ」

③-c 【[gzip で圧縮してダウンロードする]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存]ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-8-136 「スキーマのエクスポート-gzip ダウンロードダイアログ」

2-9 テーブル個別操作メニュー

★ 「テーブル個別操作メニュー」を表示します。

① 「テーブル一覧操作」で“個別テーブル名”をクリックします。



図 2-9-1 「テーブル一覧操作」

② 「テーブル個別操作メニュー」の表示を確認します。



図 2-9-2 「テーブル個別操作メニュー」

表 2-9-3 テーブル個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[カラム]	カラム一覧を表示します。カラムについての操作を行うことができます。
2	[インデックス]	インデックス一覧を表示します。インデックスについての操作を行うことができます。
3	[検査制約]	検査制約一覧を表示します。検査制約についての操作を行うことができます。
4	[トリガー]	トリガー一覧を表示します。トリガーについての操作を行うことができます。
5	[ルール]	ルール一覧を表示します。ルールについての操作を行うことができます。

6	[管理]	バキュームや解析を行うことができます。
7	[情報]	パフォーマンス情報を表示します。
8	[特権]	特権一覧を表示します。特権についての操作を行うことができます。
9	[インポート]	テーブルの情報をインポートすることができます。
10	[エクスポート]	テーブルの情報をエクスポートすることができます。

2-9-1 テーブルのカラム一覧操作

★ 「テーブルのカラム一覧操作」を表示します。テーブルのカラムの追加、変更、破棄ができます。また、テーブルの選択、テーブルへの挿入などができます。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [カラム]をクリックします。

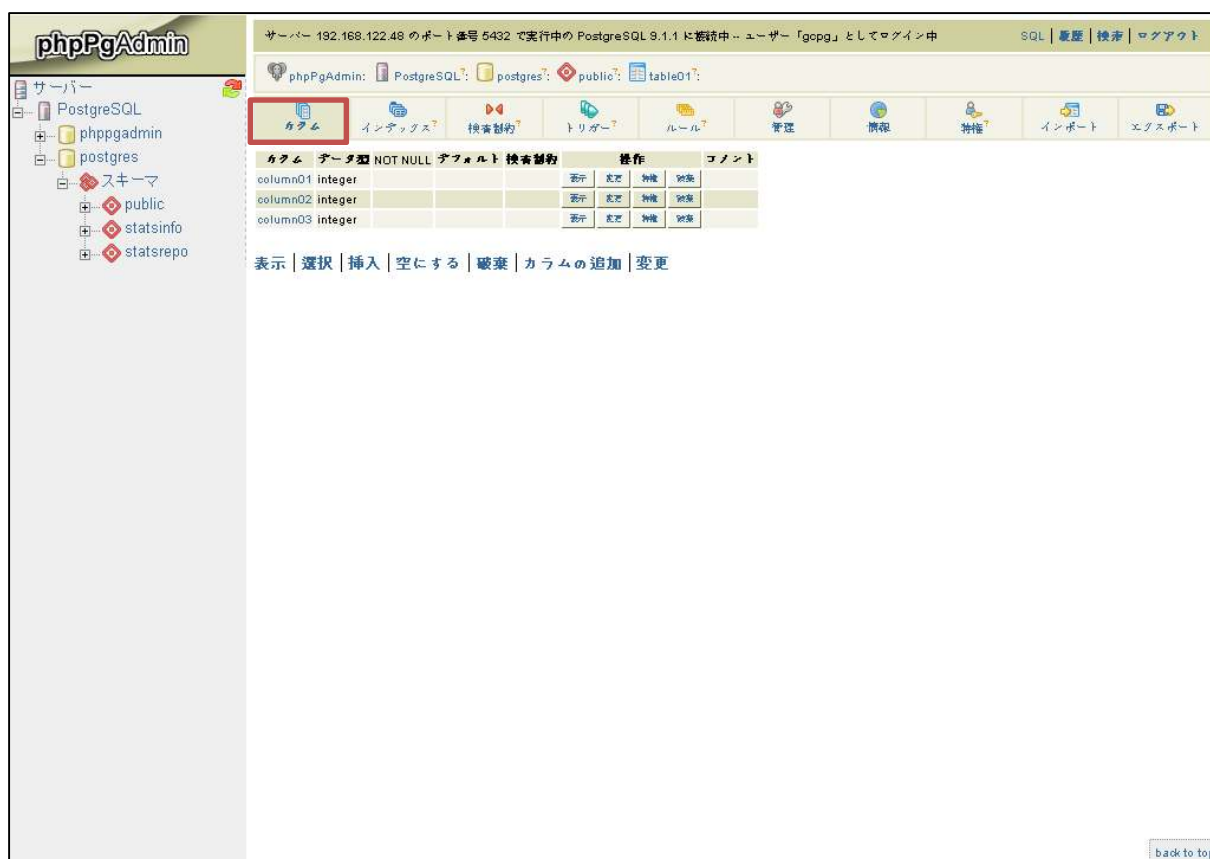


図 2-9-4 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのカラム一覧操作」の表示を確認します。

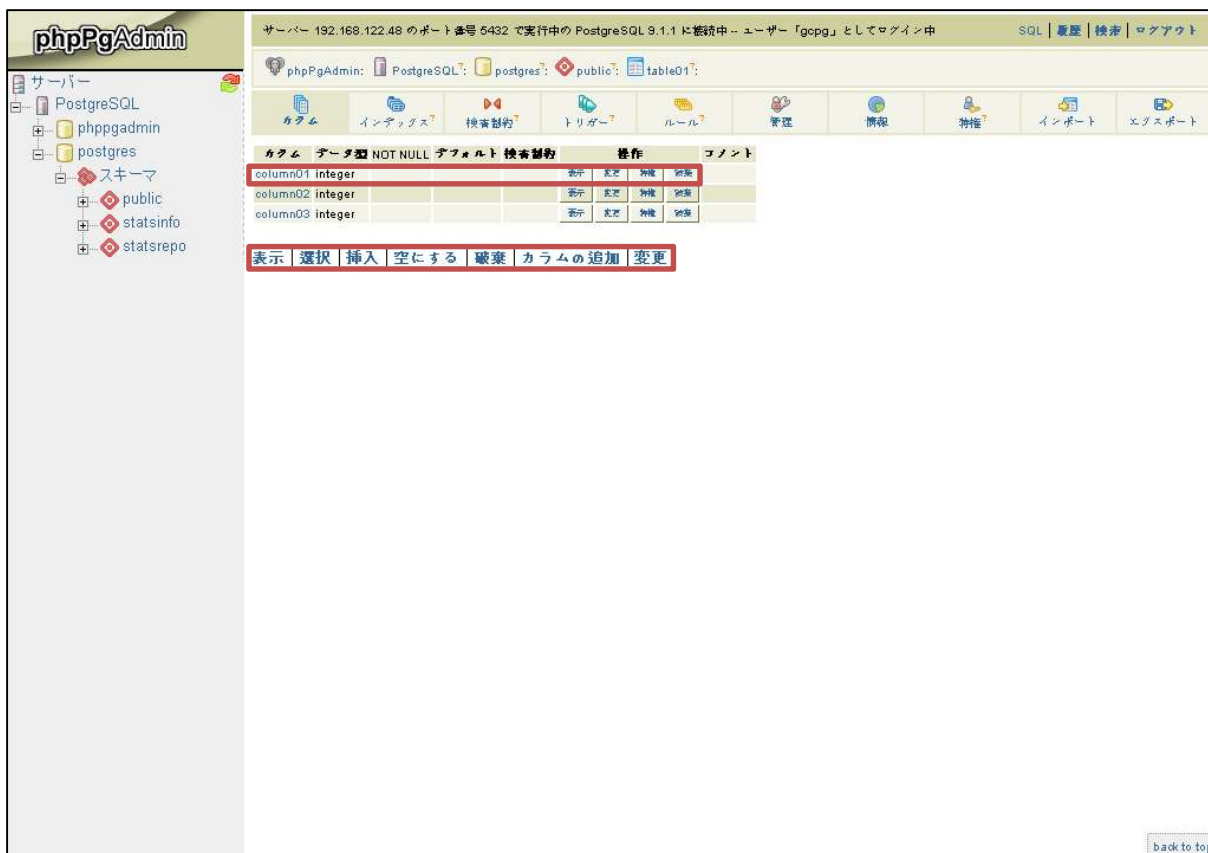


図 2-9-5 「テーブルのカラム一覧操作」

表 2-9-6 テーブルのカラム一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“個別カラム名”	「テーブルのカラム個別操作メニュー」を表示します。 詳細は 2-10「テーブルのカラム個別操作メニュー」を参照してください。
2	[表示]ボタン	レコードを表示します。 詳細は 2-10-1-I「テーブルのカラムの表示」を参照してください。
3	[変更]ボタン	カラムの定義を変更することができます。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-10-1-III「テーブルのカラムの変更」を参照してください。

4	[特権]ボタン	アクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-10-2「テーブルのカラムの特権操作」を参照してください。
5	[破棄]ボタン	カラムを削除することができます。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-10-1-IV「テーブルのカラムの破棄」を参照してください。
6	[表示]	データを表示します。 詳細は 2-9-1-I「テーブルの表示」を参照してください。
7	[選択]	条件を指定してデータを表示することができます。(SELECT に相当) 詳細は 2-9-1-II「テーブルの選択操作」を参照してください。
8	[挿入]	テーブルに新しい行を作成することができます。(INSERT に相当) 詳細は 2-9-1-III「テーブルの挿入操作」を参照してください。
9	[空にする]	テーブルを空にすることができます。(TRUNCATE に相当) 詳細は 2-9-1-IV「テーブルを空にする操作」を参照してください。
10	[破棄]	テーブルを削除することができます。(DROP TABLE に相当) 詳細は 2-9-1-V「テーブルの破棄」を参照してください。
11	[カラムの追加]	テーブルへカラムを追加することができます。(ALTER TABLE に相当) 詳細は「テーブルのカラムの追加」を参照してください。
12	[変更]	テーブルの定義を変更することができます。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-1-VII「テーブルの変更」を参照してください。

2-9-1-I. テーブルの表示

★ テーブルのデータを表示します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[表示]をクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The left sidebar displays a tree view of the database structure, including 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', 'postgres', 'スキーマ', 'public', 'statsinfo', and 'statsrepo'. The main content area is titled 'phpPgAdmin: PostgreSQL: postgres: public: table01:'. Below the title bar, there are several icons for database operations: 'カラム', 'インデックス', '検索制約', 'トリガー', 'ルール', '管理', '情報', '特権', 'インポート', and 'エクスポート'. A table lists the columns of 'table01':

カラム	データ型	NOT NULL	デフォルト	検索制約	操作	コメント
column01	integer				表示 変更 削除 複製	
column02	integer				表示 変更 削除 複製	
column03	integer				表示 変更 削除 複製	

Below the table, there is a row of buttons: '表示' (highlighted with a red box), '選択', '挿入', '空にする', '破棄', 'カラムの追加', and '変更'. At the bottom right, there is a 'back to top' button.

図 2-9-7 「テーブルのカラム一覧操作」

②テーブルのデータを確認します。

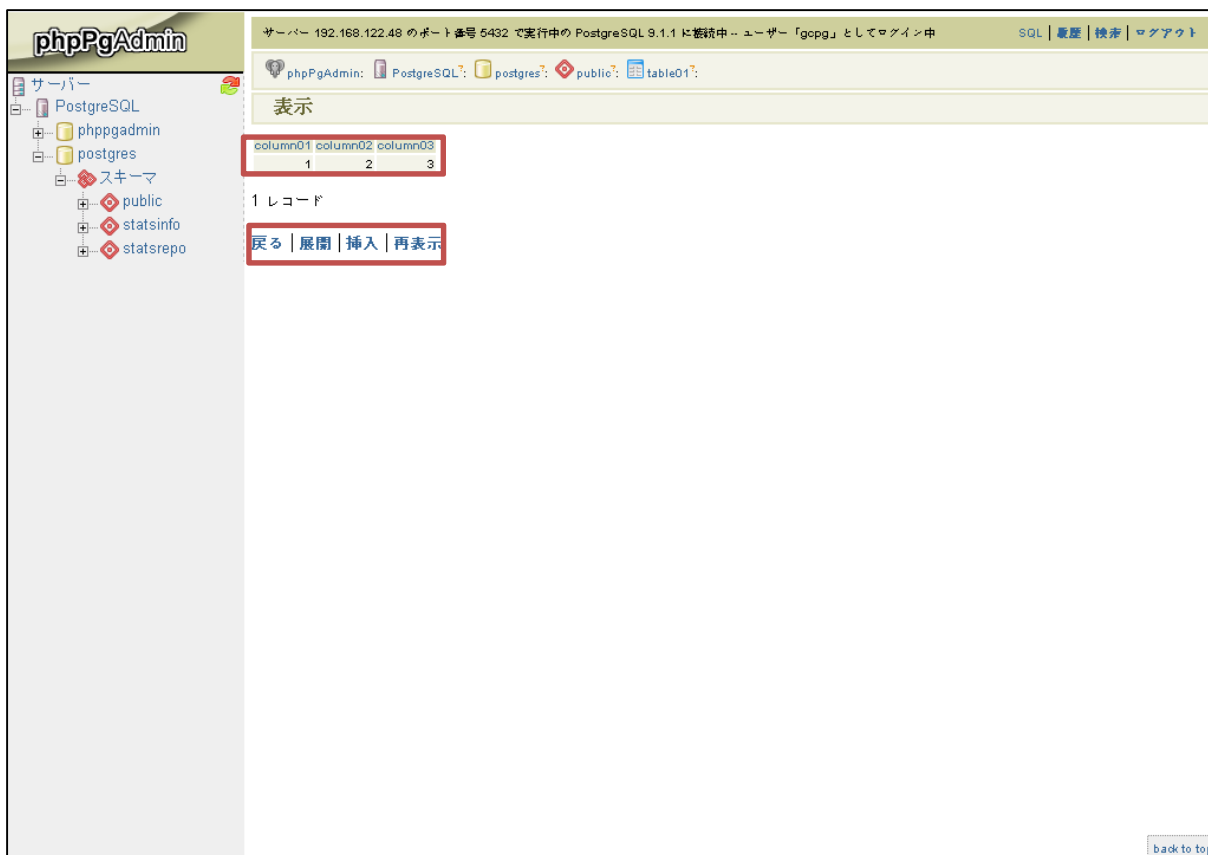


図 2-9-8 「テーブルの表示」

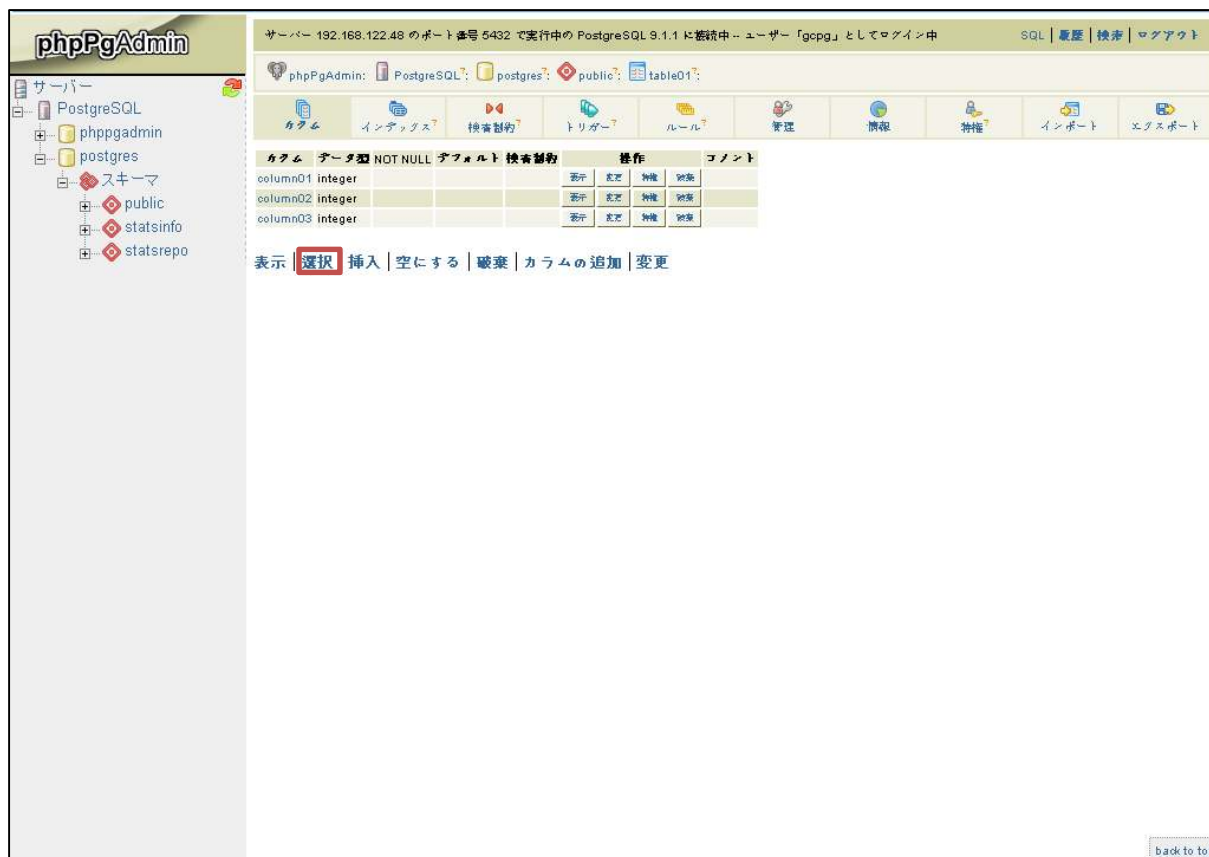
表 2-9-9 テーブルの表示画面項目

NO	項目名	説明
1	“カラム名”	当該テーブルのカラム名。
2	[戻る]	元の画面に戻ります。
3	[展開]	省略された文字列を展開して表示します。
4	[挿入]	当該テーブルに新しい行を作成します。 詳細は 2-9-1-III「テーブルの挿入操作」を参照してください。
5	[再表示]	当該テーブルを再表示します。

2-9-1-II. テーブルの選択操作

★ 指定条件でテーブルから行を選択します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[選択]をクリックします。



The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The left sidebar displays a tree view of the database structure, including 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', 'postgres', and 'スキーマ' (schemas) like 'public', 'statsinfo', and 'statsrepo'. The main content area is titled 'table01' and shows a table of columns:

カラム	データ型	NOT NULL	デフォルト	検索制約	操作	コメント
column01	integer				表示 更新 挿入 削除	
column02	integer				表示 更新 挿入 削除	
column03	integer				表示 更新 挿入 削除	

Below the table, there are navigation links: 表示 **選択** 挿入 | 空にする | 破棄 | カラムの追加 | 変更. The '選択' link is highlighted with a red box. At the top right of the interface, there are links for 'SQL', '履歴', '検索', and 'ログアウト'. A 'back to top' link is located at the bottom right corner.

図 2-9-10 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルの選択操作」で[選択]ボタンをクリックします。

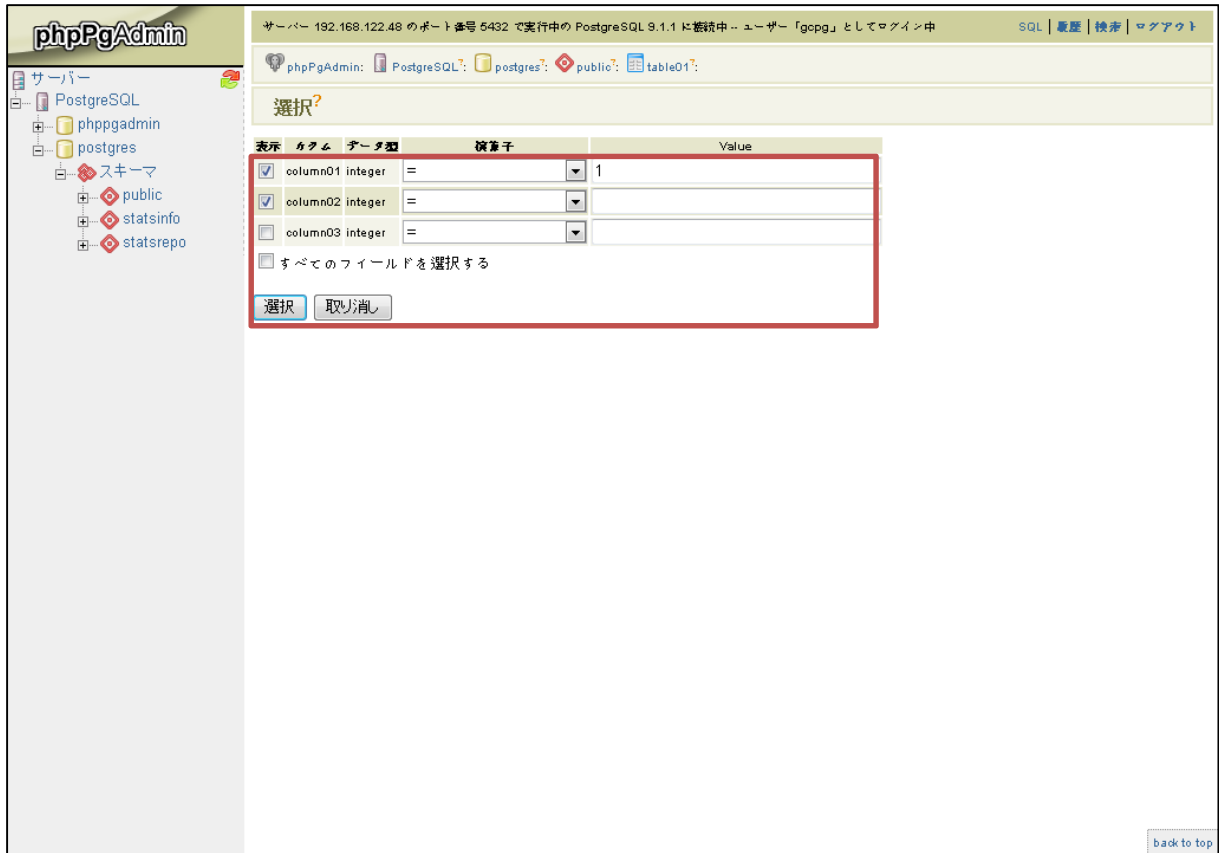


図 2-9-11 「テーブルの選択操作」

表 2-9-12 テーブルの選択操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[表示]	当該カラムを選択結果に表示させたい場合は有効にする。
2	“カラム名”	当該カラムの名称。
3	“データ型”	当該カラムのデータ型。
4	[演算子]	当該カラムの値と Value で指定した値を比較する際の演算子を下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● = ● != ● <

- >
- <=
- >=
- <<
- >>
- <<=
- >>=
- LIKE
- NOT LIKE
- ILIKE
- NOT ILIKE
- SIMILAR TO
- NOT SIMILAR TO
- ~
- !~
- ~*
- !~*
- IS NULL
- IS NOT NULL
- IN
- NOT IN
- @@
- @@@
- @>
- <@
- @@ to_tsquery
- @@@ to_tsquery
- @> to_tsquery
- <@ to_tsquery
- @@ plainto_tsquery
- @@@ plainto_tsquery
- @> plainto_tsquery
- <@ plainto_tsquery

5	[Value]	当該カラムの値と比較するための値を指定します。
6	[すべてのフィールドを選択する]	すべてのカラムの[表示]を有効にします。
7	[選択]ボタン	選択操作を実行します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「テーブルの選択操作完了画面」でテーブルのデータが選択されたことを確認します。

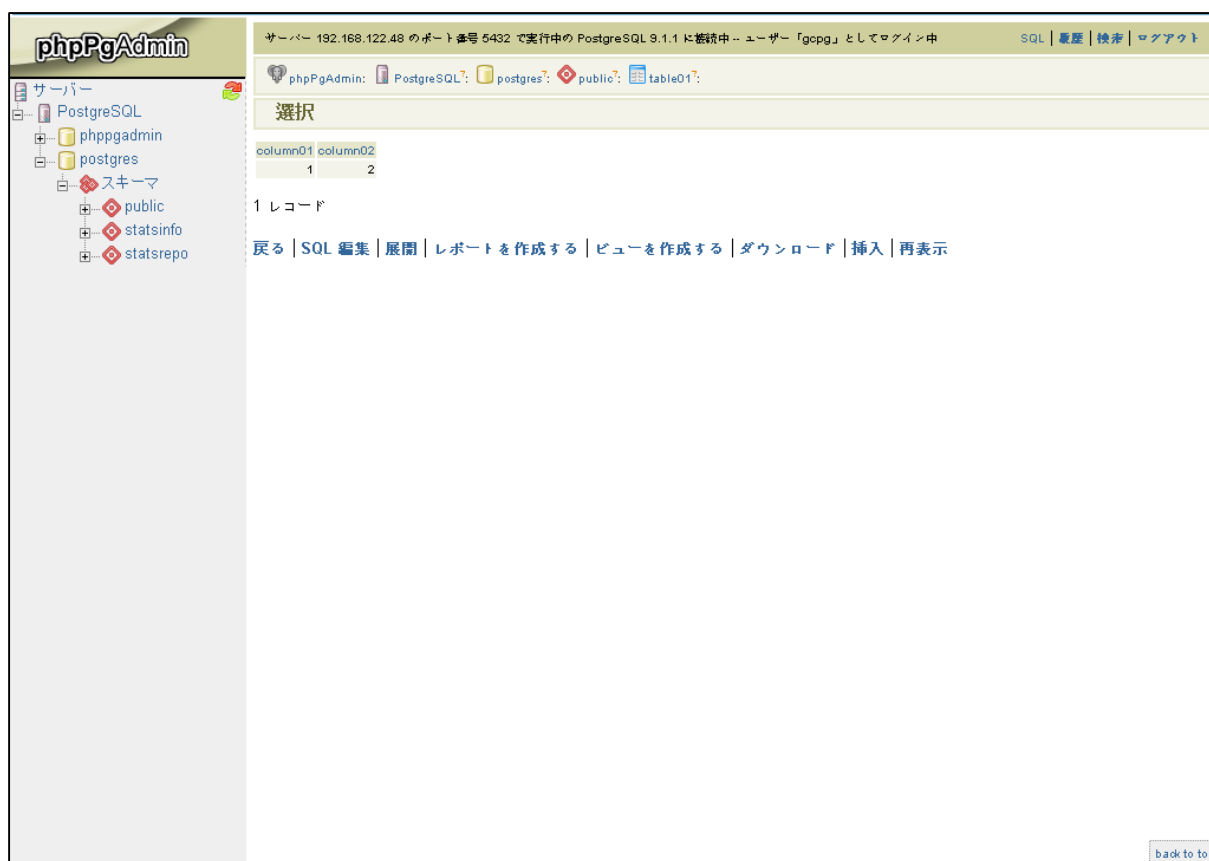
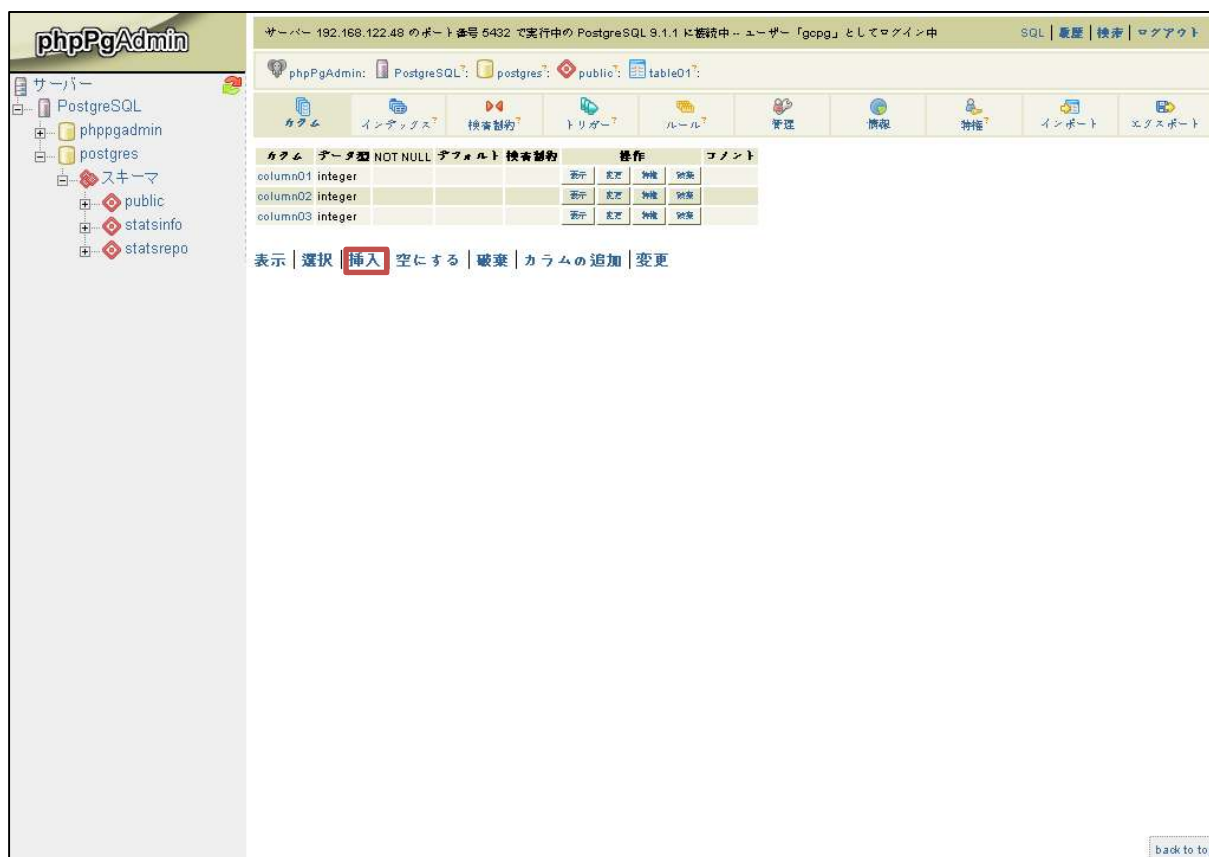


図 2-9-13 「テーブルの選択操作完了画面」

2-9-1-III. テーブルの挿入操作

★ テーブルに新しい行を作成します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[挿入]をクリックします。



The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The left sidebar displays a tree view of the database structure, including 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', 'postgres', and 'public' schemas. The main content area shows the 'table01' table structure with columns 'column01', 'column02', and 'column03', all of type 'integer'. Below the table structure, there are navigation buttons: '表示' (View), '選択' (Select), '挿入' (Insert), '空にする' (Clear), '破棄' (Delete), 'カラムの追加' (Add Column), and '変更' (Change). The '挿入' button is highlighted with a red box.

カラム	データ型	NOT NULL	デフォルト	検索制約	操作	コメント
column01	integer				表示 変更 挿入 破棄	
column02	integer				表示 変更 挿入 破棄	
column03	integer				表示 変更 挿入 破棄	

表示 | 選択 | **挿入** | 空にする | 破棄 | カラムの追加 | 変更

図 2-9-14 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルの挿入操作」で[挿入]ボタンまたは[挿入と繰り返し]ボタンをクリックします。

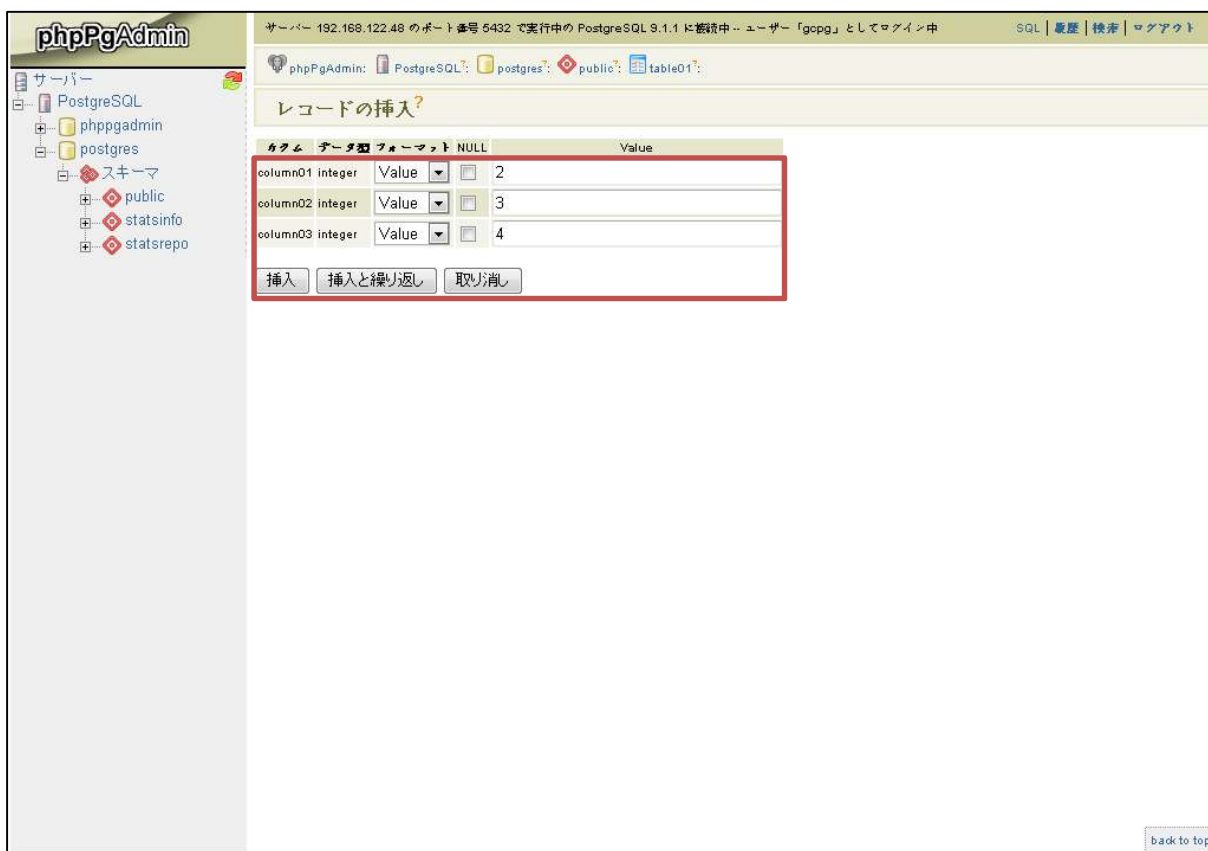


図 2-9-15 「テーブルの挿入操作」

表 2-9-16 テーブルの挿入操作画面項目

NO	項目名	説明
1	“カラム名”	当該カラムの名称。
2	“データ型”	当該カラムのデータ型。
3	[フォーマット]	[Value]の内容を下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● Value ● 評価式
4	[NULL]	本項目を有効にすると、当該カラムに NULL を挿入します。
5	[Value]	当該カラムに挿入する値を指定します。 [フォーマット]で[評価式]を選択した場合は、下記などの評価式（スカラ式）を指定できます。

		<ul style="list-style-type: none"> ● 定数あるいはリテラル値 例) E'foo¥nbar' ● 関数呼び出し 例) function01('foo') ● 型キャスト 例) CAST('00/11/22' AS DATE) ● スカラ副問い合わせ 例) (SELECT column02 FROM table01 WHERE column01 = 1)
6	[挿入]ボタン	挿入操作を実行します。
7	[挿入と繰り返し]ボタン	挿入操作を実行し、再度本画面を表示します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル一覧操作」で挿入完了メッセージが表示されたことを確認します。



図 2-9-17 「テーブル一覧操作」

2-9-1-IV. テーブルを空にする操作

★ テーブルを空にします。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[空にする]をクリックします。

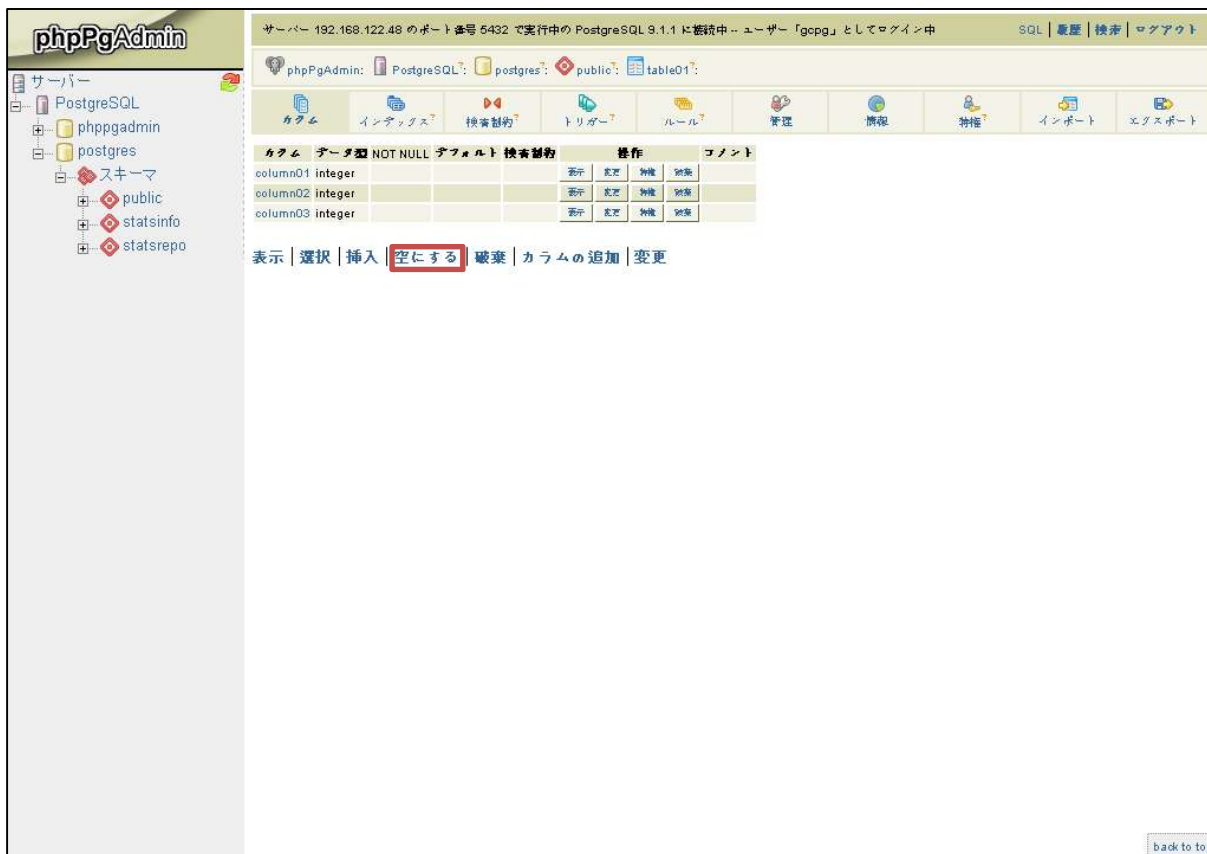


図 2-9-18 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルを空にする操作」で[空にする]ボタンをクリックします。

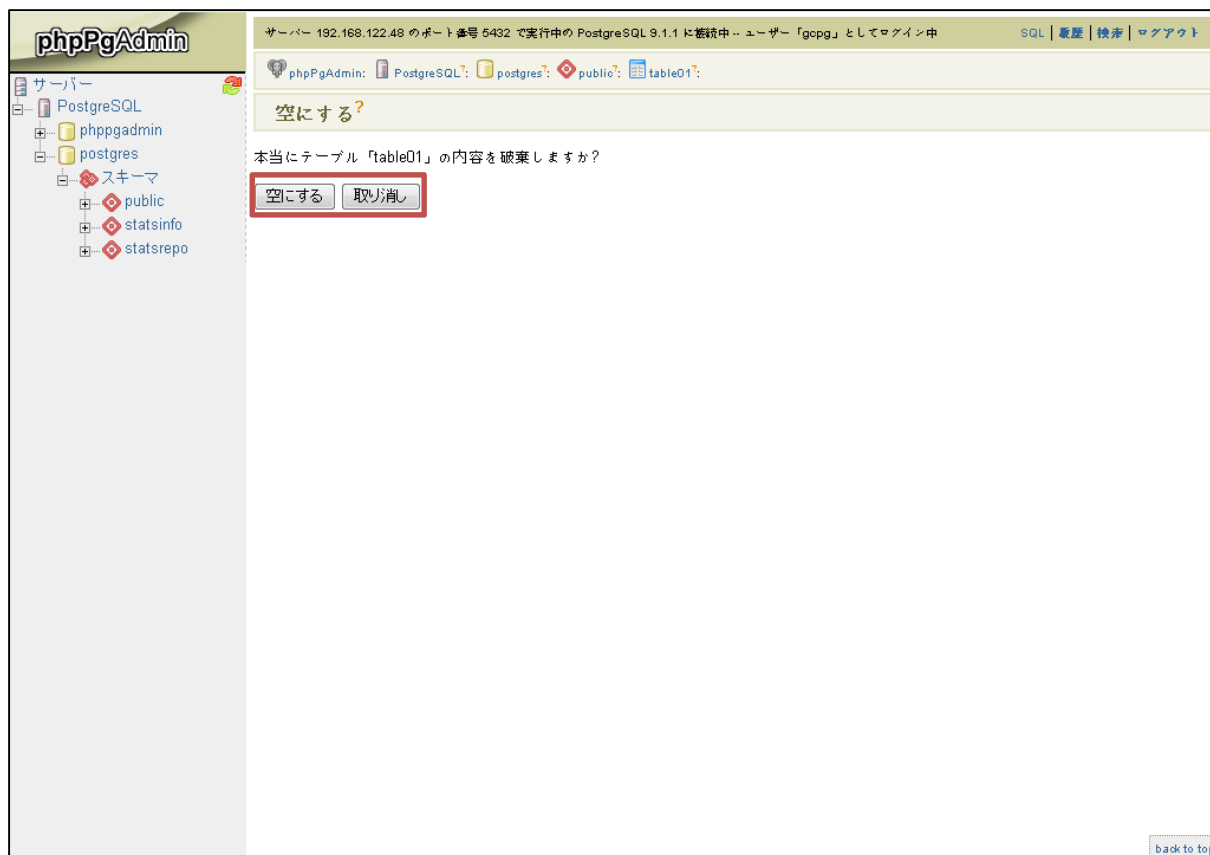


図 2-9-19 「テーブルを空にする操作」

表 2-9-20 テーブルの選択操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[空にする]ボタン	空にする操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル一覧操作」でテーブルが空になったことを示すメッセージが表示されたことを確認
します。



図 2-9-21 「テーブル一覧操作」

2-9-1-V. テーブルの破棄

★ テーブルを破棄します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[破棄]をクリックします。

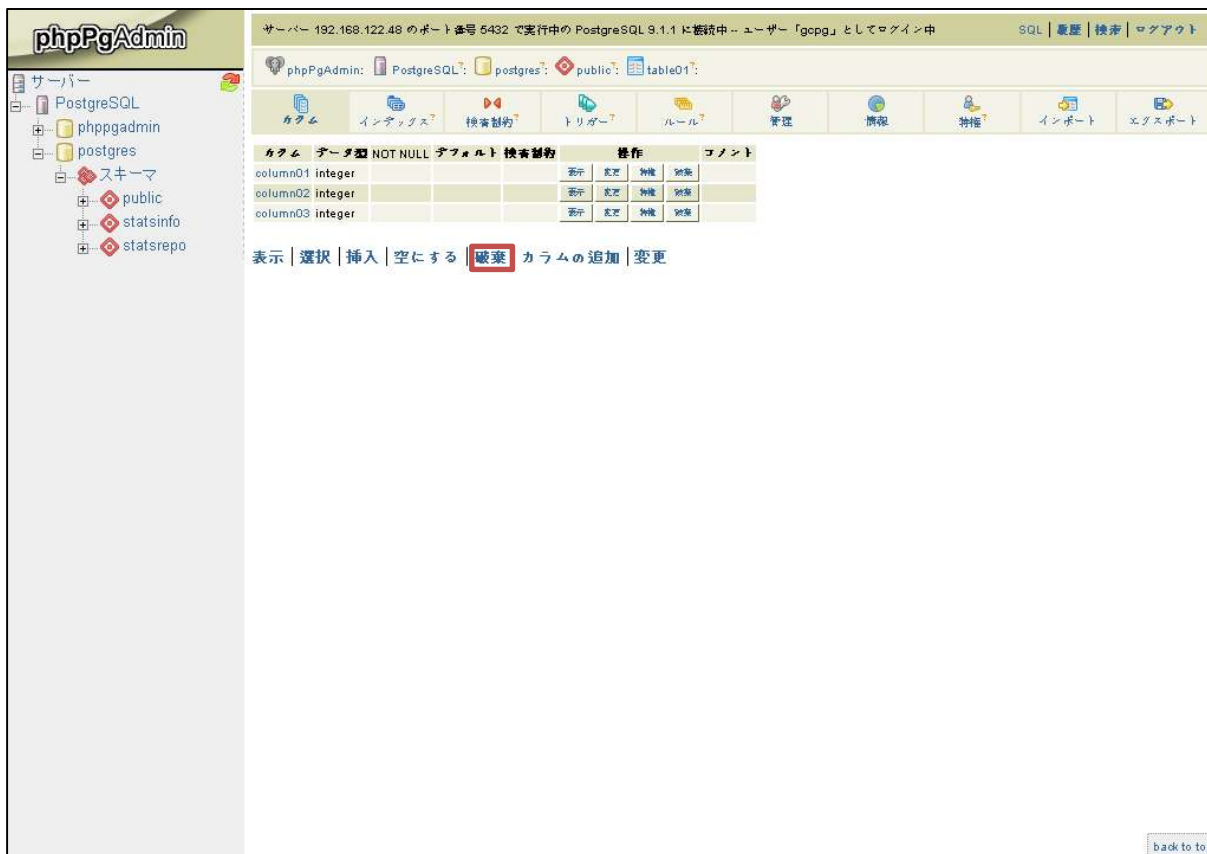


図 2-9-22 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

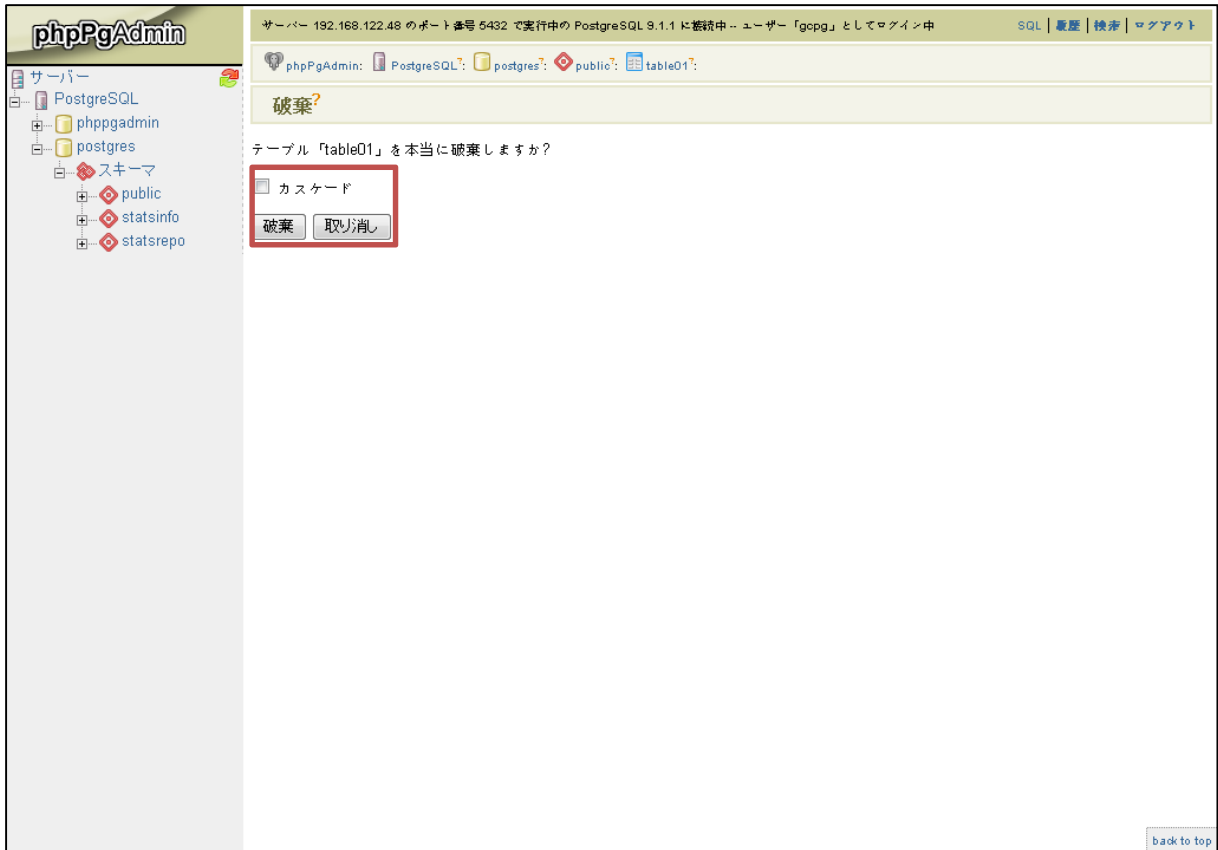


図 2-9-23 「テーブルの破棄」

表 2-9-24 テーブルの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するテーブルにビューなどが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブル一覧操作」でカラムが破棄されたことを確認します。

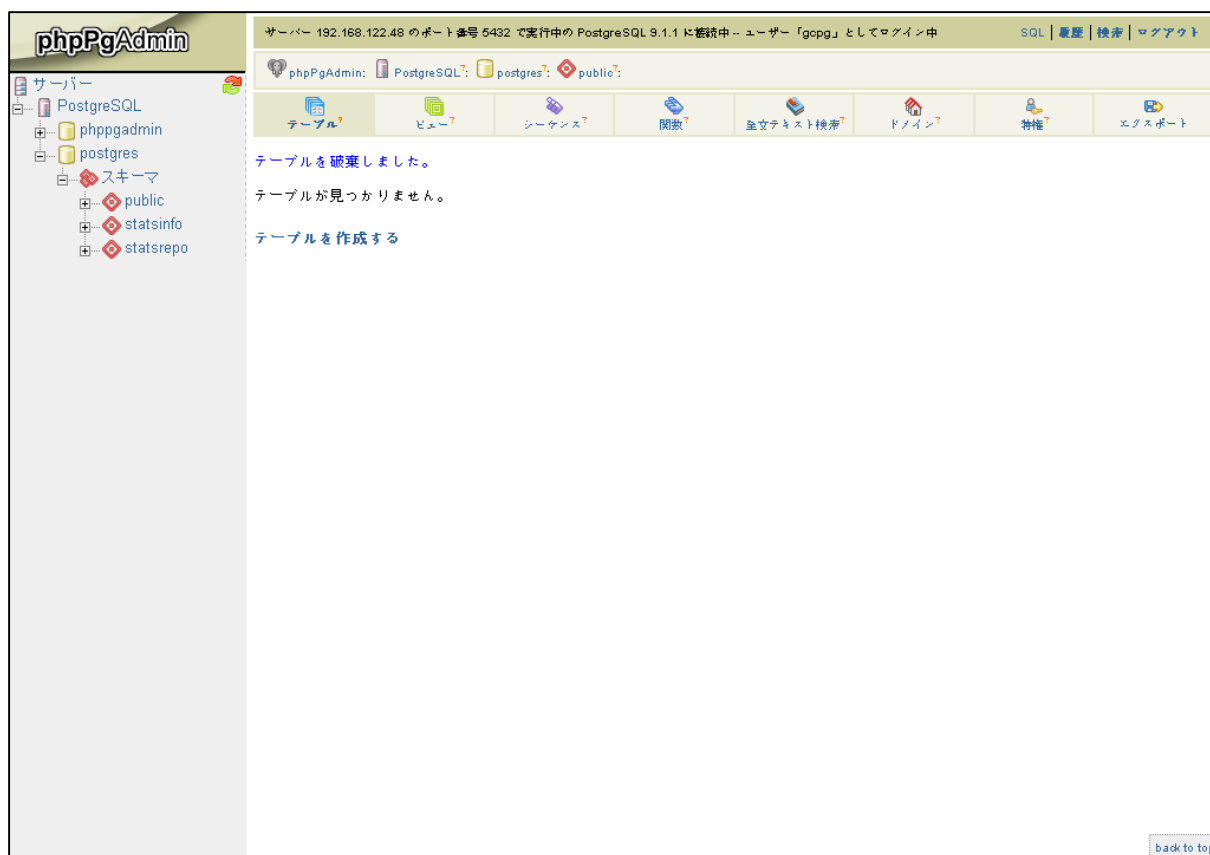


図 2-9-25 「テーブル一覧操作」

2-9-1-VI. テーブルのカラムの追加

★ テーブルに新しいカラムを追加します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[カラムの追加]をクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface for a PostgreSQL database. The left sidebar shows the server structure with 'statsinfo' selected. The main area displays the 'Columns' tab for a table named 'table01'. The table lists three columns: 'column01', 'column02', and 'column03', all of type 'integer'. Below the table, there are navigation buttons: '表示' (Show), '選択' (Select), '挿入' (Insert), '空にする' (Clear), '破棄' (Delete), 'カラムの追加' (Add Column), and '変更' (Change). The 'カラムの追加' button is highlighted with a red box. The top navigation bar includes buttons for 'カラム', 'インデックス', '検索制約', 'トリガー', 'ルール', '管理', '情報', '特権', 'インポート', and 'エクスポート'.

カラム	データ型	NOT NULL	デフォルト	検索制約	操作	コメント
column01	integer				表示 変更 挿入 破棄	
column02	integer				表示 変更 挿入 破棄	
column03	integer				表示 変更 挿入 破棄	

図 2-9-26 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルのカラムの追加」で[追加]ボタンをクリックします。

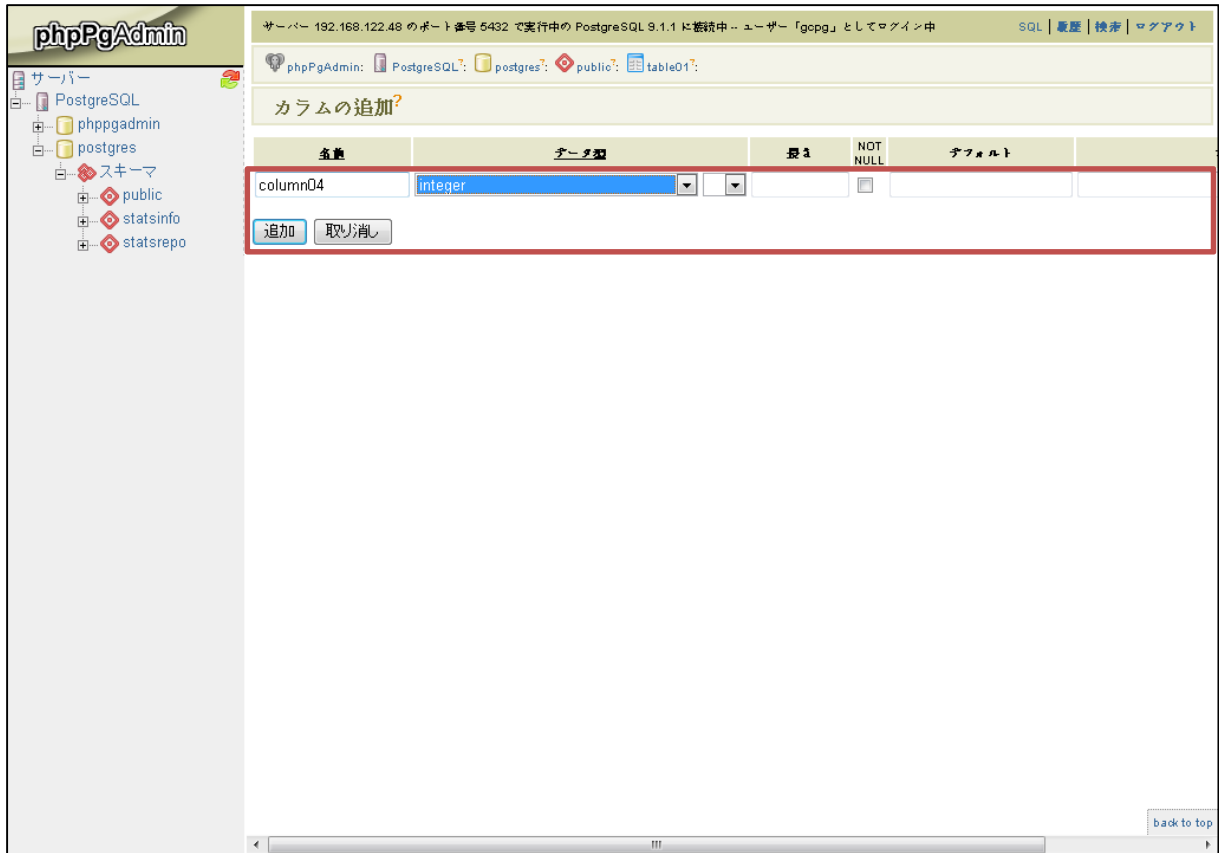


図 2-9-27 「カラムの追加」

表 2-9-28 カラムの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	カラムの名称を指定します。
2	[データ型]	カラムのデータ型を指定します。
3	配列	カラムのデータ型が配列か否か指定します。
4	[長さ]	カラムの長さを指定します。
5	[NOT NULL]	カラムに NOT NULL 制約を指定したい場合に有効にします。
6	[デフォルト]	カラムのデフォルト値を指定します。

7	[コメント]	カラムのコメントを指定します。
8	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラム一覧操作」でテーブルに新しいカラムが追加されたことを確認します。



図 2-9-29 「テーブルのカラム一覧操作」

2-9-1-VII. テーブルの変更

★ テーブルの定義を変更します。

① 「テーブルのカラム一覧操作」で[変更]をクリックします。

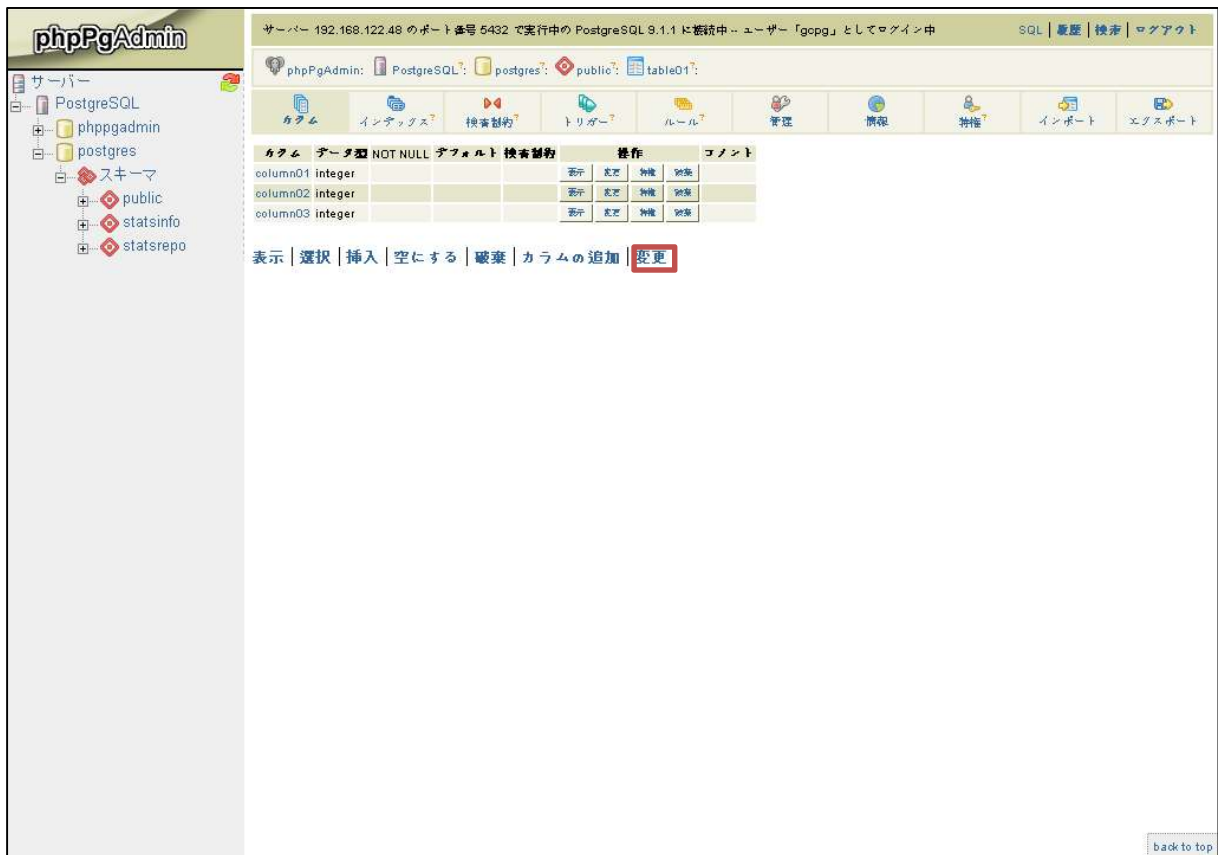


図 2-9-30 「テーブルのカラム一覧操作」

② 「テーブルの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

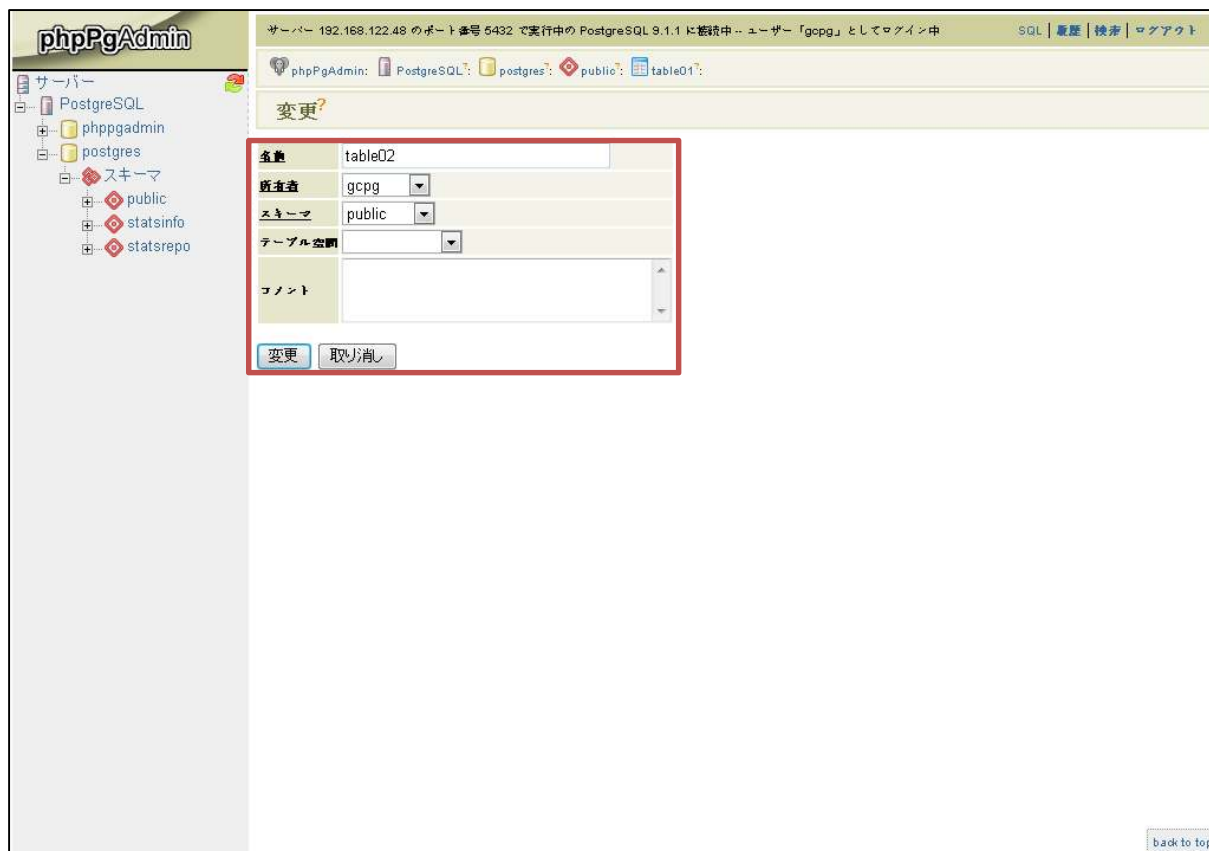


図 2-9-31 「テーブルの変更」

表 2-9-32 テーブルの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	テーブルの名称を指定します。
2	[所有者]	テーブルの所有者を指定します。
3	[スキーマ]	テーブルが作成されるスキーマを指定します。
4	[テーブル空間]	テーブルが作成されるテーブル空間を指定します。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
5	[コメント]	コメントを指定します。

6	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラム一覧操作」でテーブルが変更されたことを確認します。

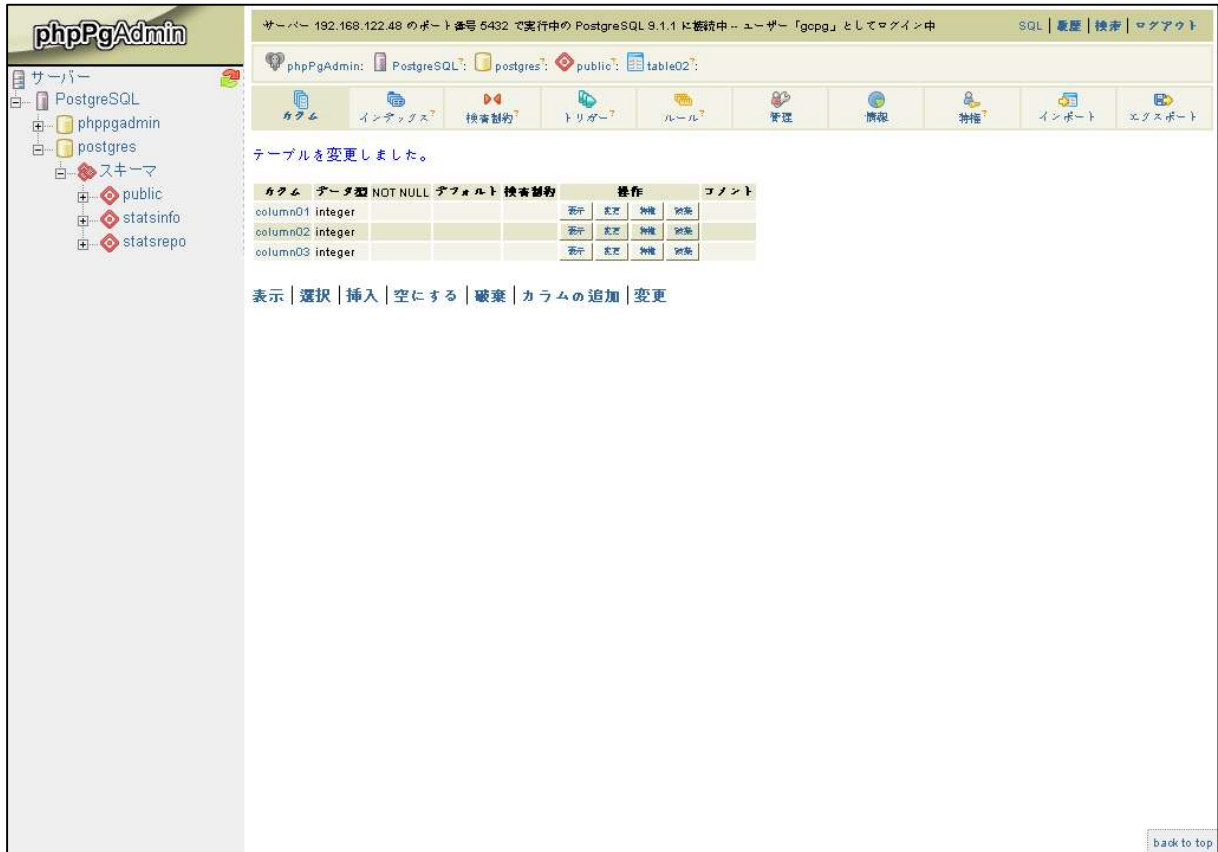


図 2-9-33 「テーブルのカラム一覧操作」

2-9-2 テーブルのインデックス一覧操作

★ 「テーブルのインデックス一覧操作」を表示します。インデックスの作成、破棄、クラスター化、再インデックスができます。

- ① 「テーブル個別操作メニュー」で [インデックス]をクリックします。

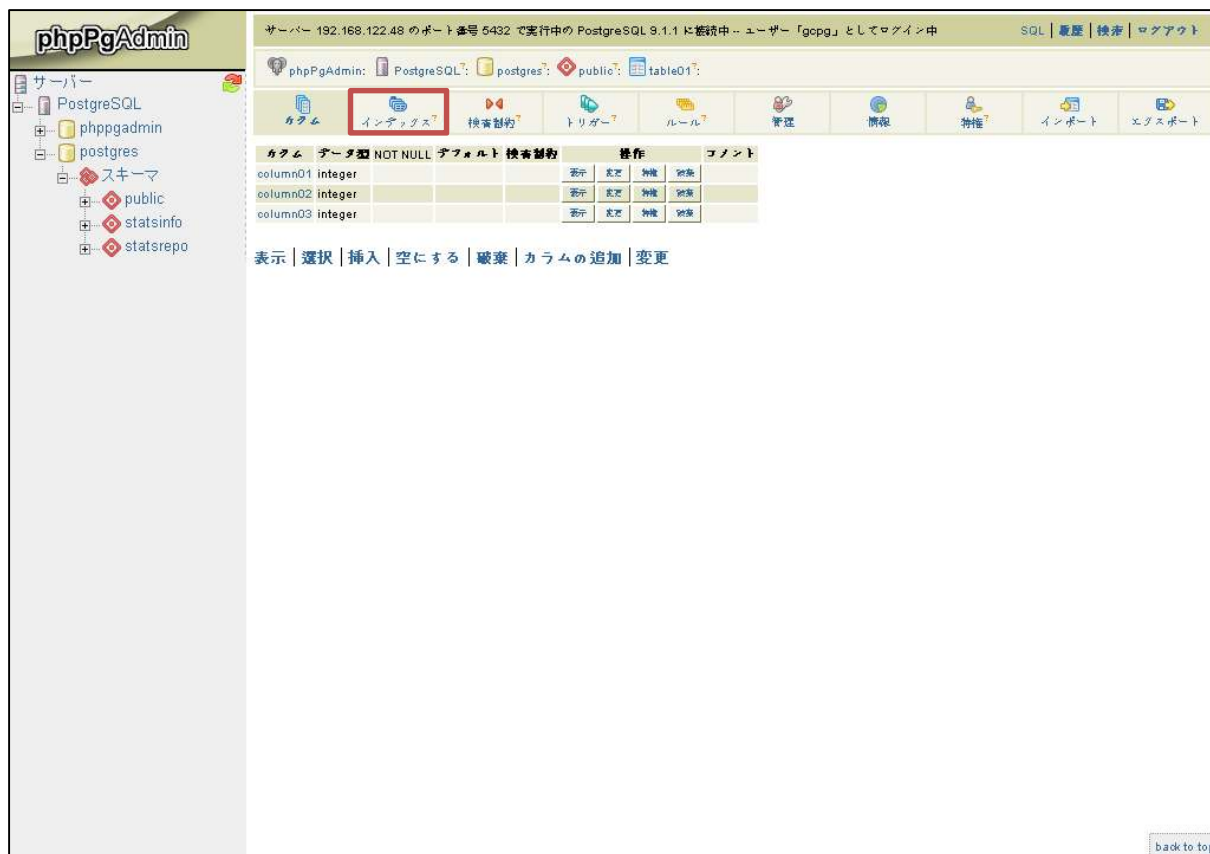


図 2-9-34 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのインデックス一覧操作」 の表示を確認します。

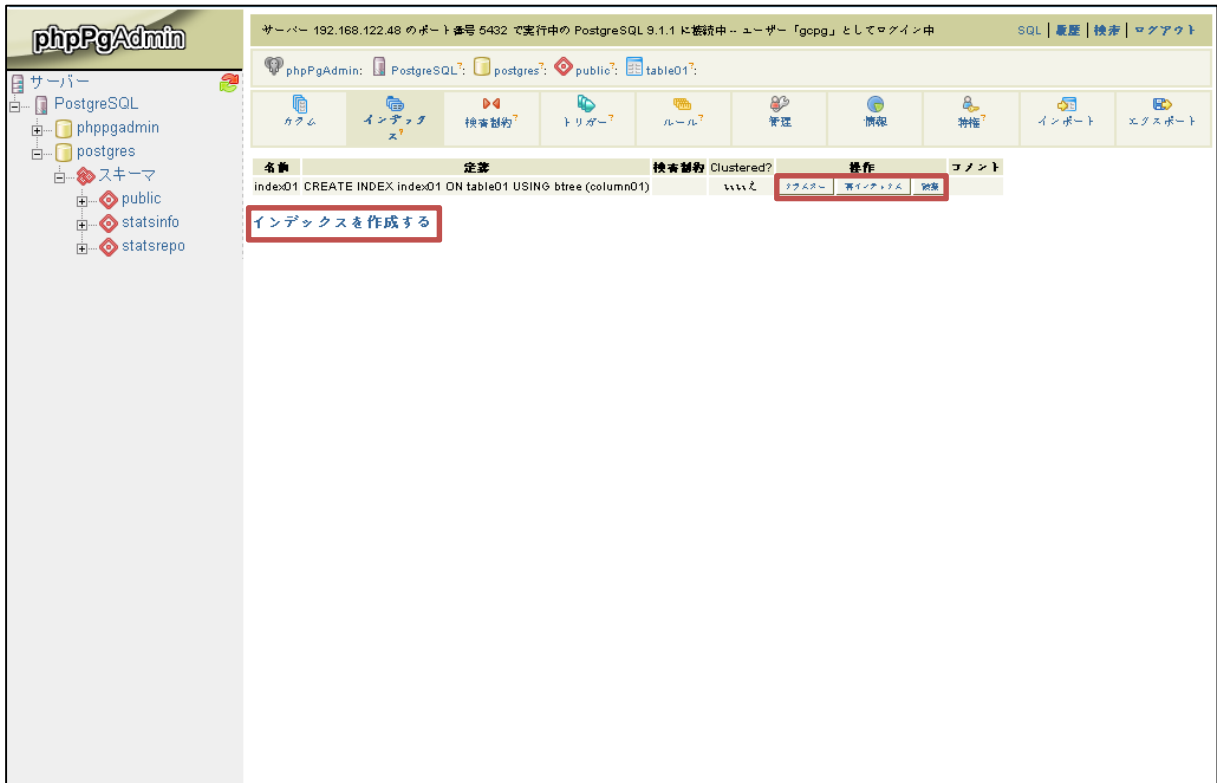


図 2-9-35 「テーブルのインデックス一覧操作」

表 2-9-36 テーブルのインデックス一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[クラスター]ボタン	インデックスに従ってテーブルをクラスター化します。 (CLUSTER に相当) 詳細は 2-9-2-I「テーブルのインデックスのクラスター操作」を参照してください。
2	[再インデックス]ボタン	再インデックスします。(REINDEX に相当)
3	[破棄]ボタン	インデックスを破棄します。(DROP INDEX に相当) 詳細は 2-9-2-II「テーブルのインデックスの破棄」を参照してください。
4	[インデックスを作成する]	インデックスを作成します。(CREATE INDEX に相当) 詳細は 2-9-2-III「テーブルのインデックスの作成」を参照してください。

2-9-2-I. テーブルのインデックスのクラスター操作

★ インデックスに従ってテーブルをクラスター化します。

① 「テーブルのインデックス一覧操作」で[クラスター]ボタンをクリックします。

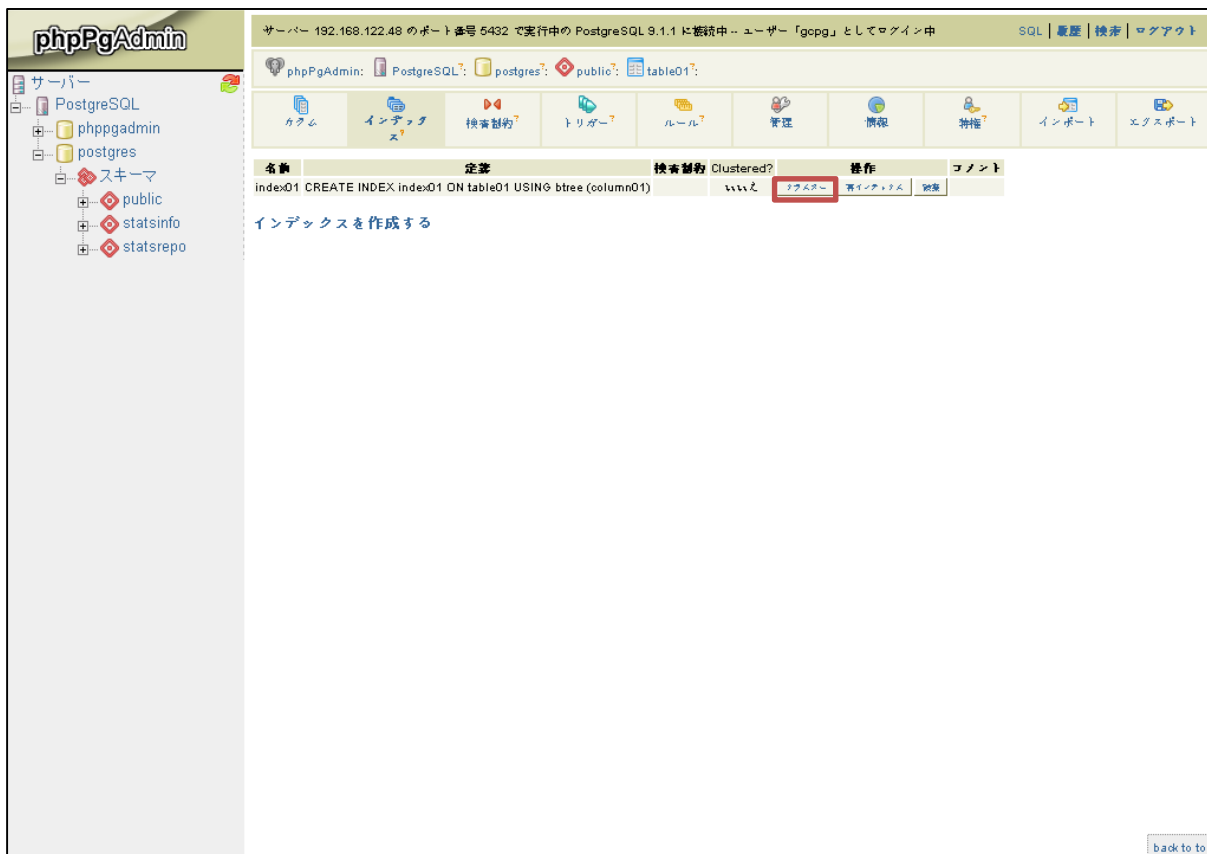


図 2-9-37 「テーブルのインデックス一覧操作」

② 「テーブルのインデックスのクラスター操作」で[クラスター]ボタンをクリックします。

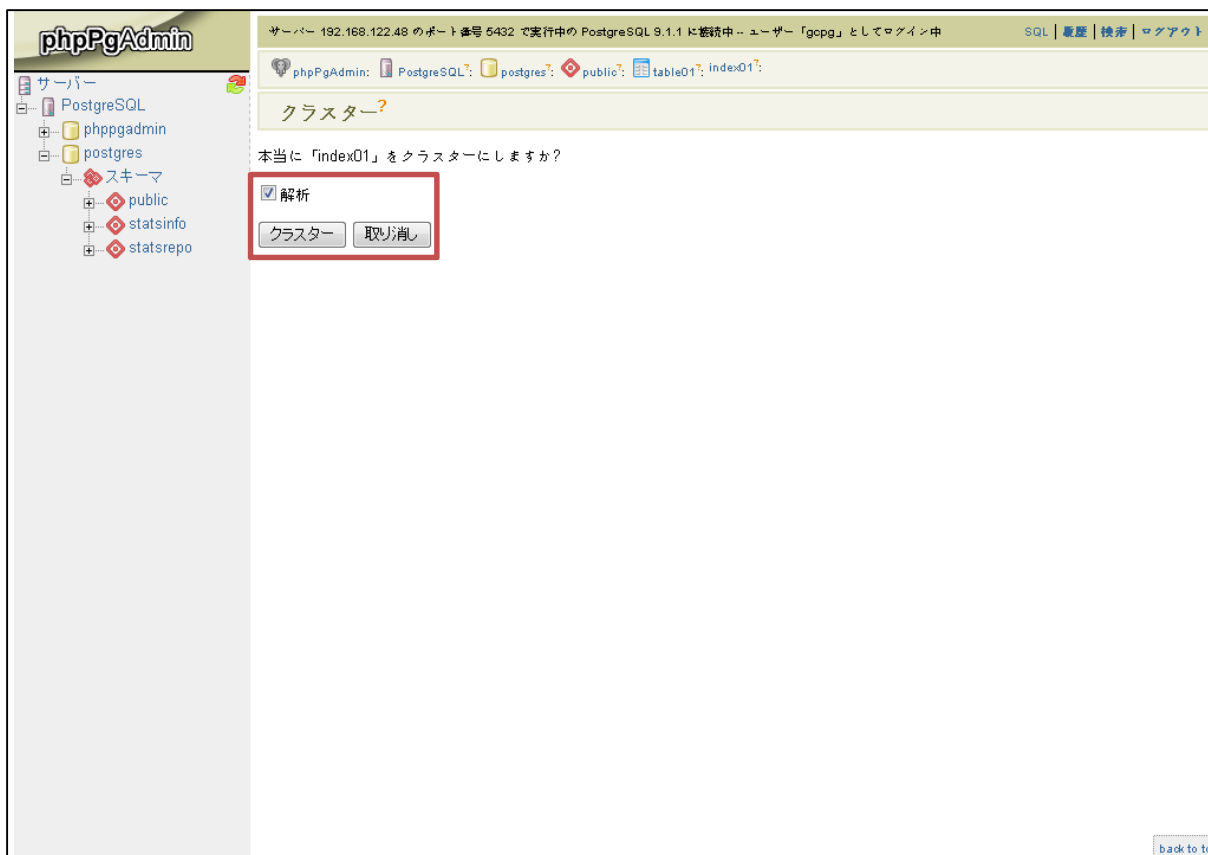


図 2-9-38 「テーブルのインデックスのクラスター操作」

表 2-9-39 テーブルのインデックスのクラスター操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[解析]	クラスター化時に解析 (ANALYZE) をする必要がある場合は、有効にします。特に意図がない場合は有効にしてください。
2	[クラスター]ボタン	クラスター化操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのインデックス一覧操作」 でクラスター化されたことを確認します。

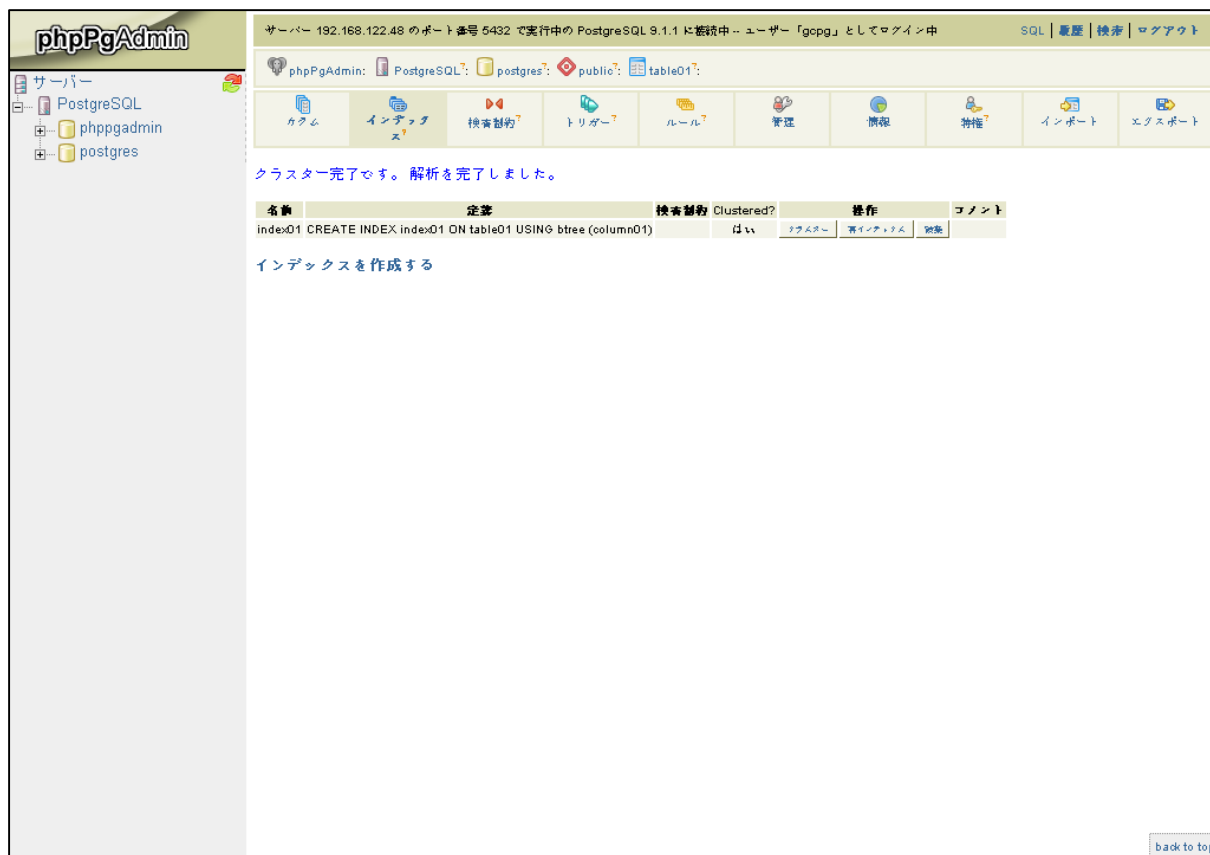


図 2-9-40 「テーブルのインデックス一覧操作」

2-9-2-II. テーブルのインデックスの破棄

★ インデックスを削除します。

① 「テーブルのインデックス一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

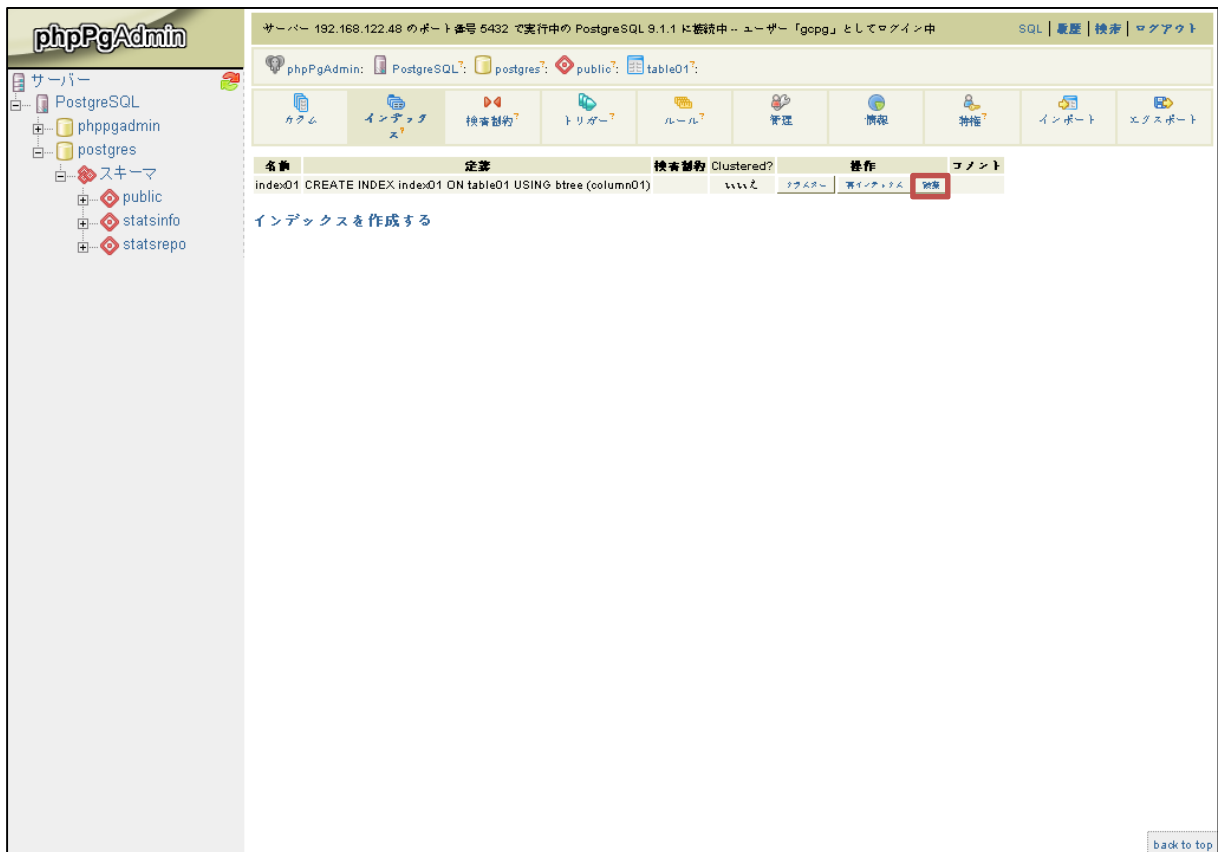


図 2-9-41 「テーブルのインデックス一覧操作」

② 「テーブルのインデックスの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-9-42 「テーブルのインデックスの破棄」

表 2-9-43 テーブルのインデックスの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するインデックスにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのインデックス一覧操作」で破棄されたことを確認します。

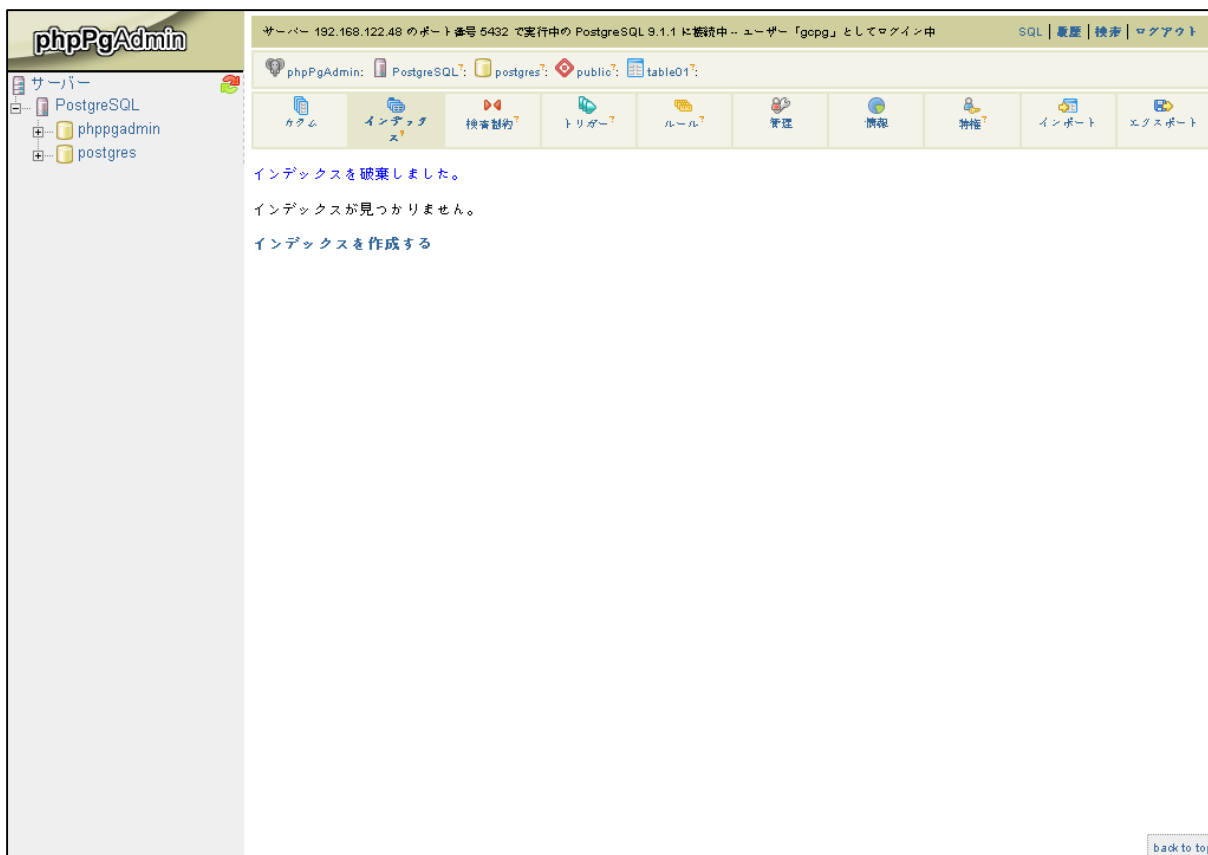


図 2-9-44 「テーブルのインデックス一覧操作」

2-9-2-III. テーブルのインデックスの作成

★ インデックスを作成します。

① 「テーブルのインデックス一覧操作」で[インデックスを作成する]をクリックします。

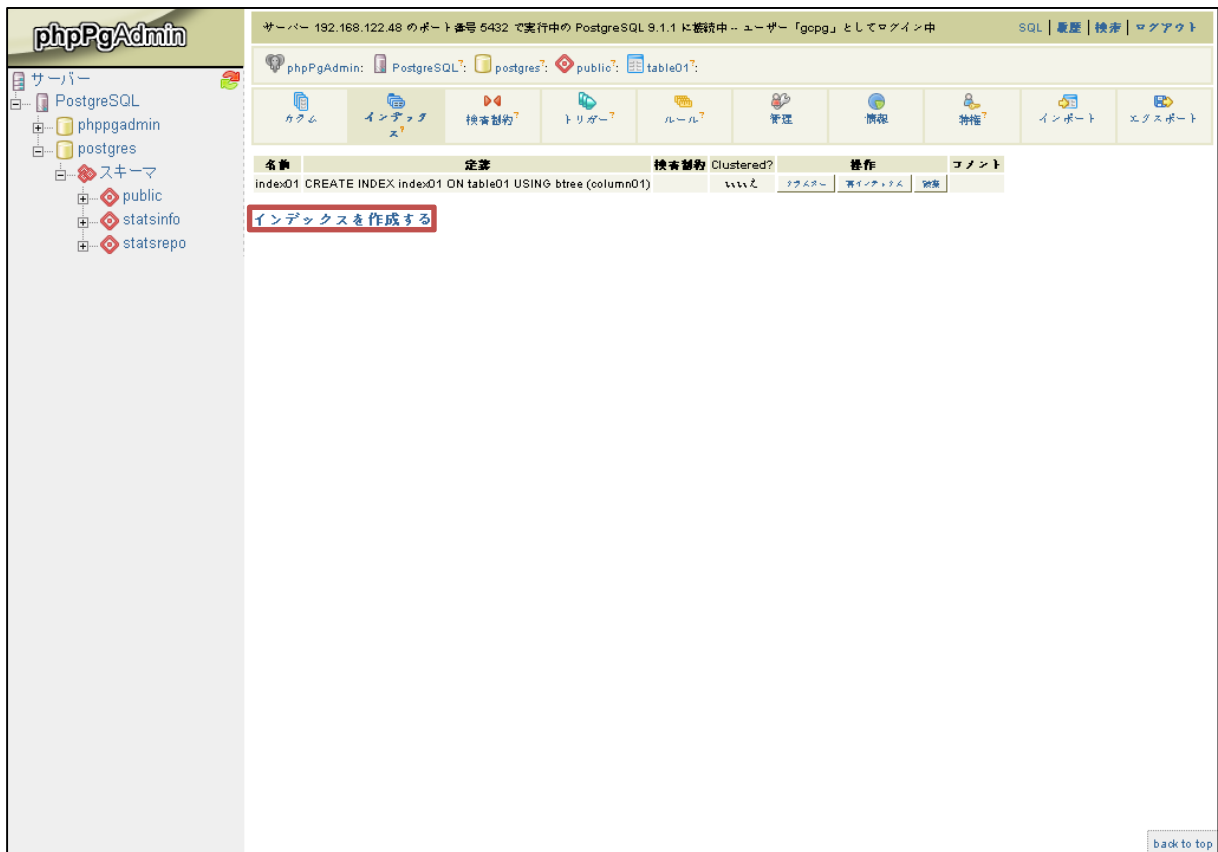


図 2-9-45 「テーブルのインデックス一覧操作」

② 「テーブルのインデックスの作成」で[作成]ボタンをクリックします。



図 2-9-46 「テーブルのインデックスの作成」

表 2-9-47 テーブルのインデックスの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[インデックス名]	インデックスの名称を指定します。
2	[テーブルの中のカラム]	インデックスの対象とするカラムを指定します。
3	[インデックスタイプ]	インデックスのタイプを指定します。
4	[ユニーク]	本項目を有効にすると、インデックス作成時、INSERT時にテーブル内の値が重複していないかチェックします。
5	[Where]	部分インデックスの制約式を指定します。

6	[テーブル空間]	インデックスを作成するテーブル空間を指定します。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
7	[Concurrently]	<p>本項目を有効にすると、書き込みロックを取得せずにインデックスを作成します。ただし、通常の方法よりも時間がかかります。</p> <p>ご利用のデータベースの運用状態によって、本項目を指定するか否か検討してください。</p> <p>PostgreSQL は通常、対象テーブルに対する書き込みをロックしてからインデックスを作成します。しかし、活発な運用状態のデータベースのテーブルに対して書き込みロックを行うことは、書き込み（挿入、更新、削除）がインデックス作成完了までブロックされるため、運用上重大な影響を及ぼします。</p>
8	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのインデックス一覧操作」で作成されたことを確認します。



図 2-9-48 「テーブルのインデックス一覧操作」

2-9-3 テーブルの検査制約一覧操作

★ 「テーブルの検査制約一覧操作」を表示します。テーブルへ検査制約、一意性制約、プライマリキー制約、外部キー制約の追加、破棄ができます。

- ① 「テーブル個別操作メニュー」で [検査制約]をクリックします。

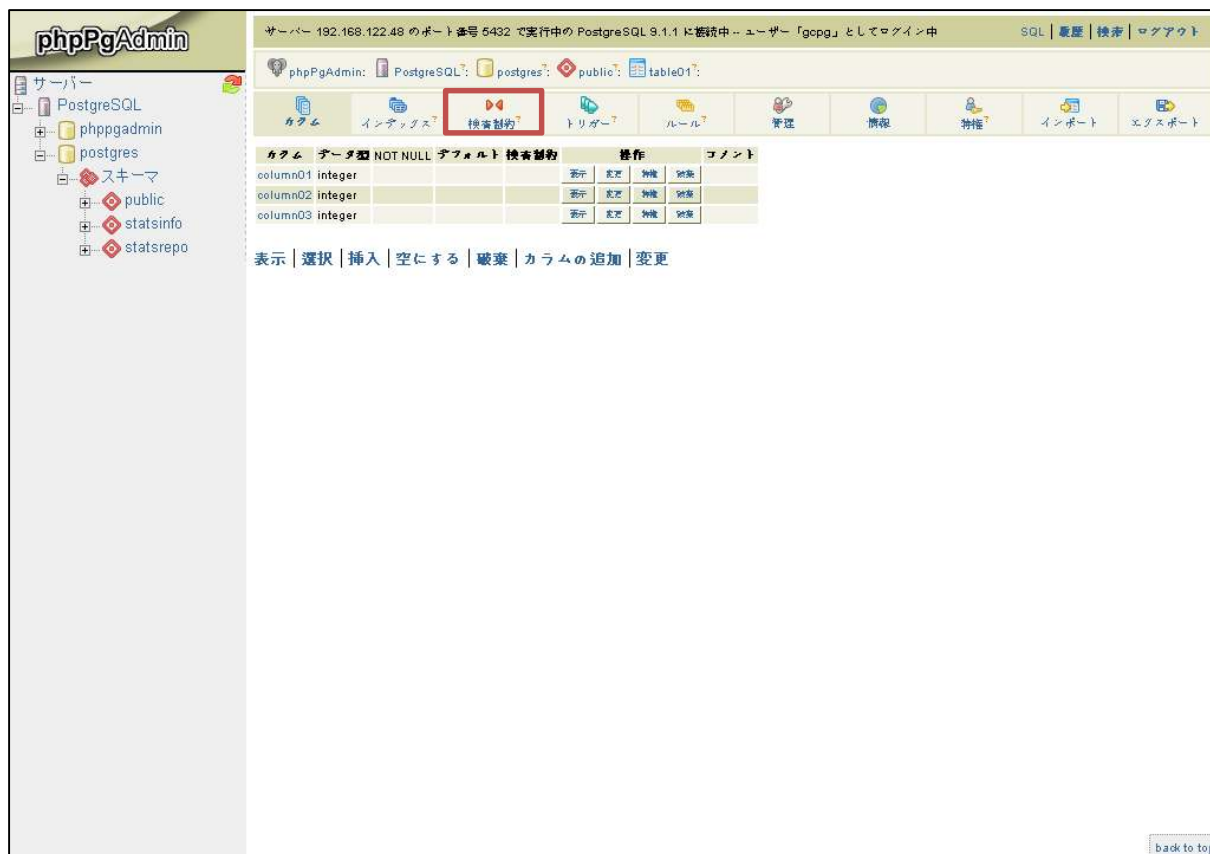


図 2-9-49 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルの検査制約一覧操作」の表示を確認します。

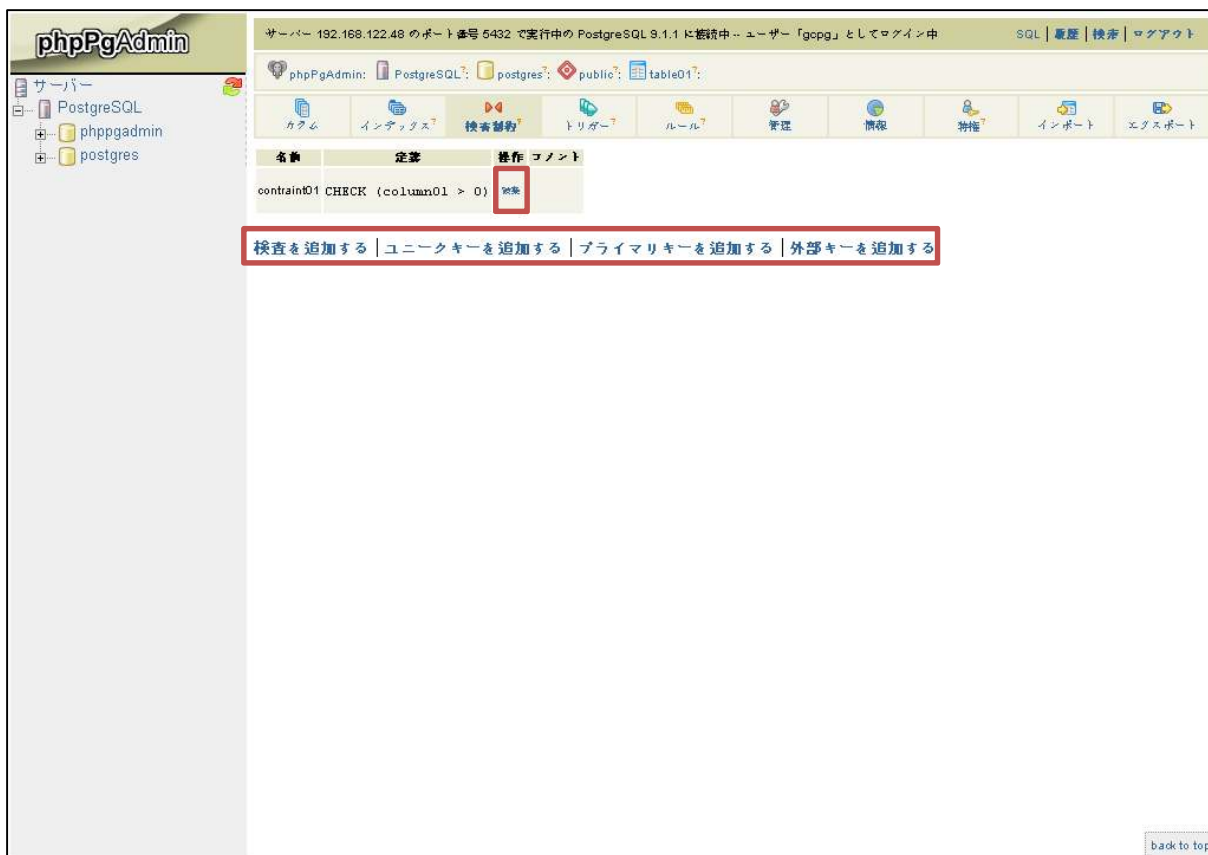


図 2-9-50 「テーブルの検査制約一覧操作」

表 2-9-51 テーブルの検査制約一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	検査制約を破棄します。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-3-I「テーブルの検査制約の破棄」を参照してください。
2	[検査を追加する]	検査制約を追加します。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-3-II「テーブルの検査の追加」を参照してください。
3	[ユニークキーを追加する]	一意性制約を追加します。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-3-III「テーブルのユニークキーの追加」を参照してください。
4	[プライマリキーを追加する]	プライマリキー制約を追加します。(ALTER TABLE に相

		当) 詳細は 2-9-3-IV「プライマリキー制約の追加」を参照してください。
5	[外部キーを追加する]	外部キー制約を追加します。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-3-V「外部キー制約の追加」を参照してください。

2-9-3-I. テーブルの検査制約の破棄

★ 検査制約を削除します。

① 「テーブルの検査制約一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

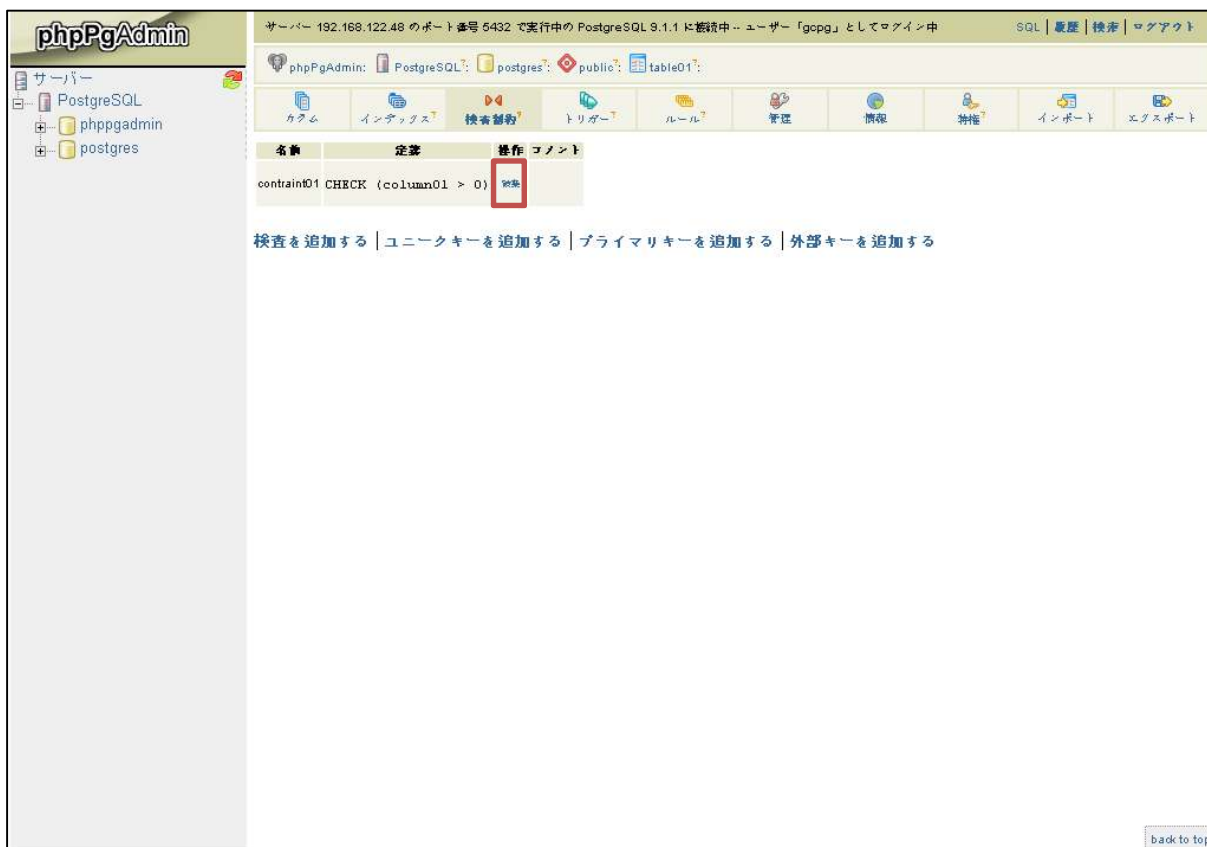


図 2-9-52 「テーブルの検査制約一覧操作」

② 「テーブルの検査制約の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-9-53 「テーブルの検査制約の破棄」

表 2-9-54 テーブルの検査制約の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄する検査制約にオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの検査制約一覧操作」で破棄されたことを確認します。

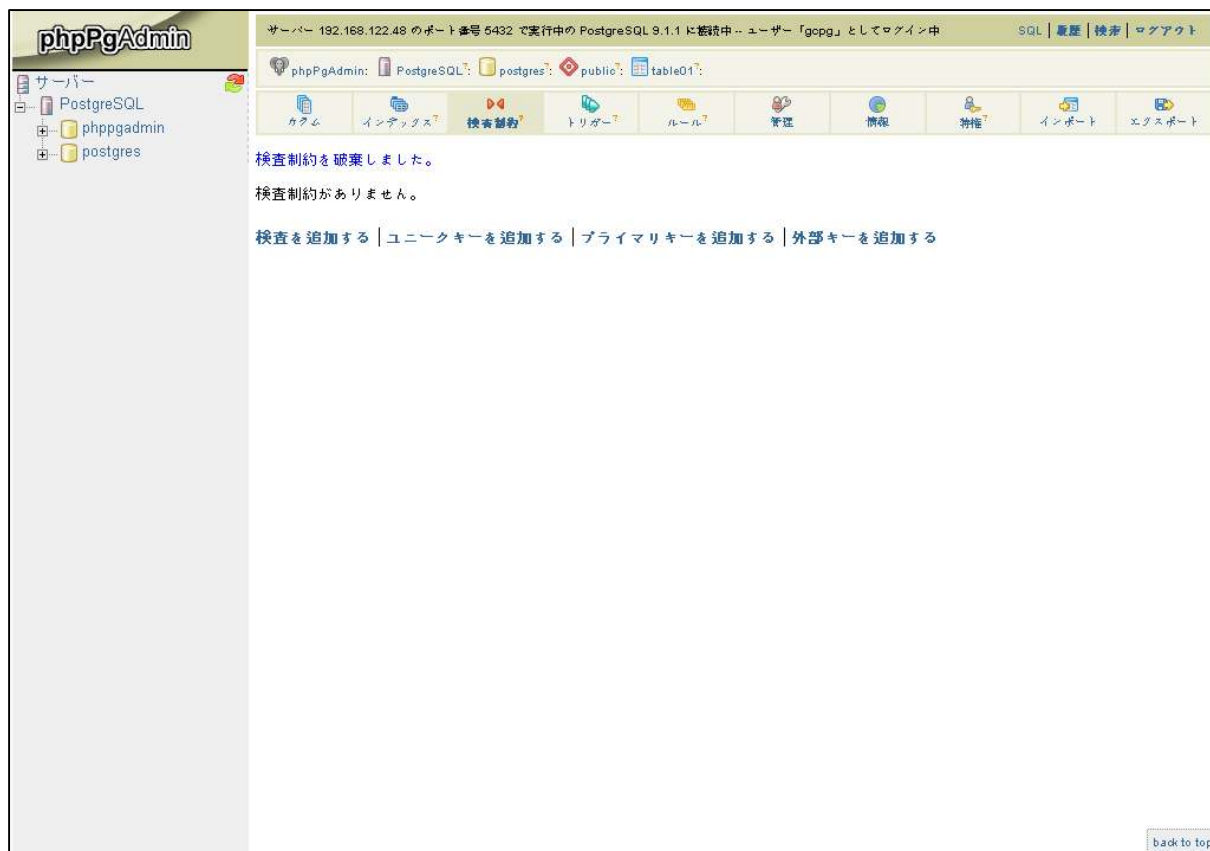


図 2-9-55 「テーブルの検査制約一覧操作」

2-9-3-II. テーブルの検査の追加

★ 検査制約を追加します。

① 「テーブルの検査制約一覧操作」で[検査を追加する]をクリックします。

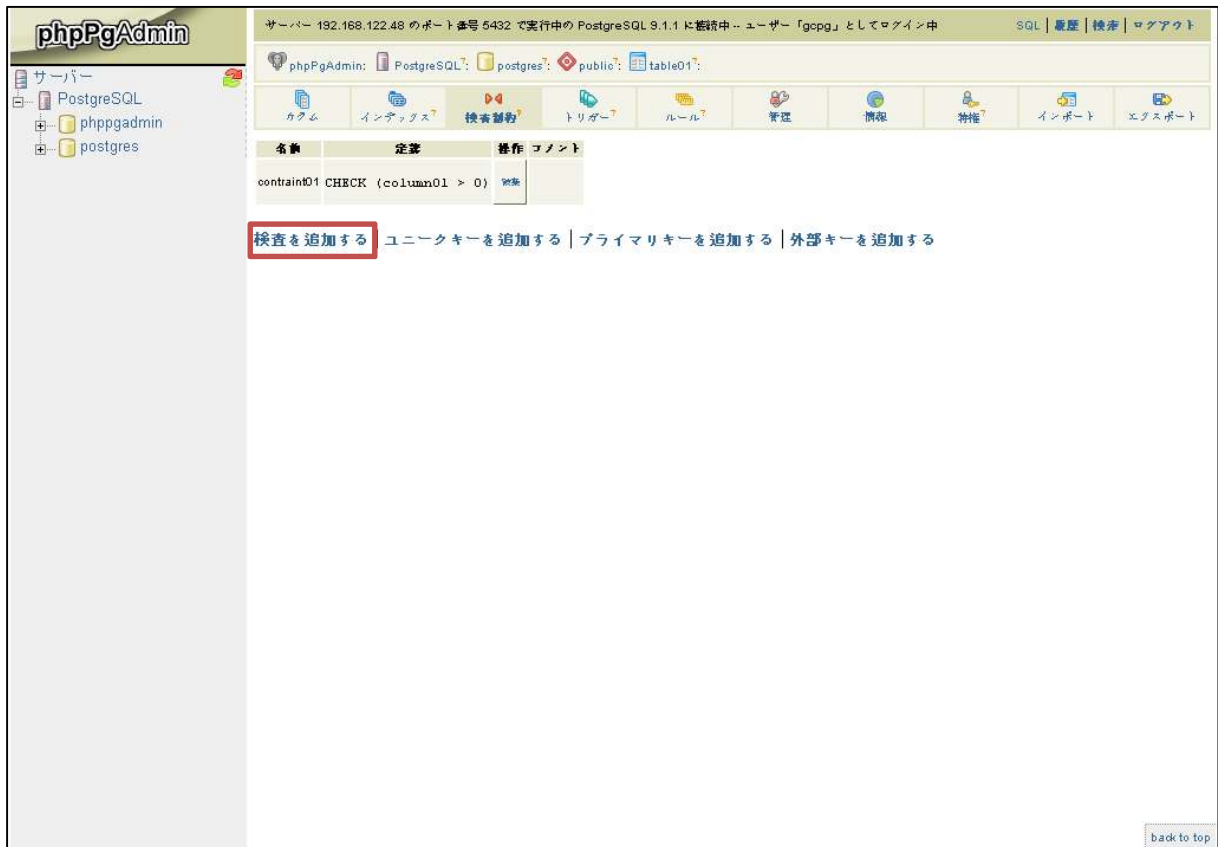


図 2-9-56 「テーブルの検査制約一覧操作」

② 「テーブルの検査の追加」で[追加]ボタンをクリックします。

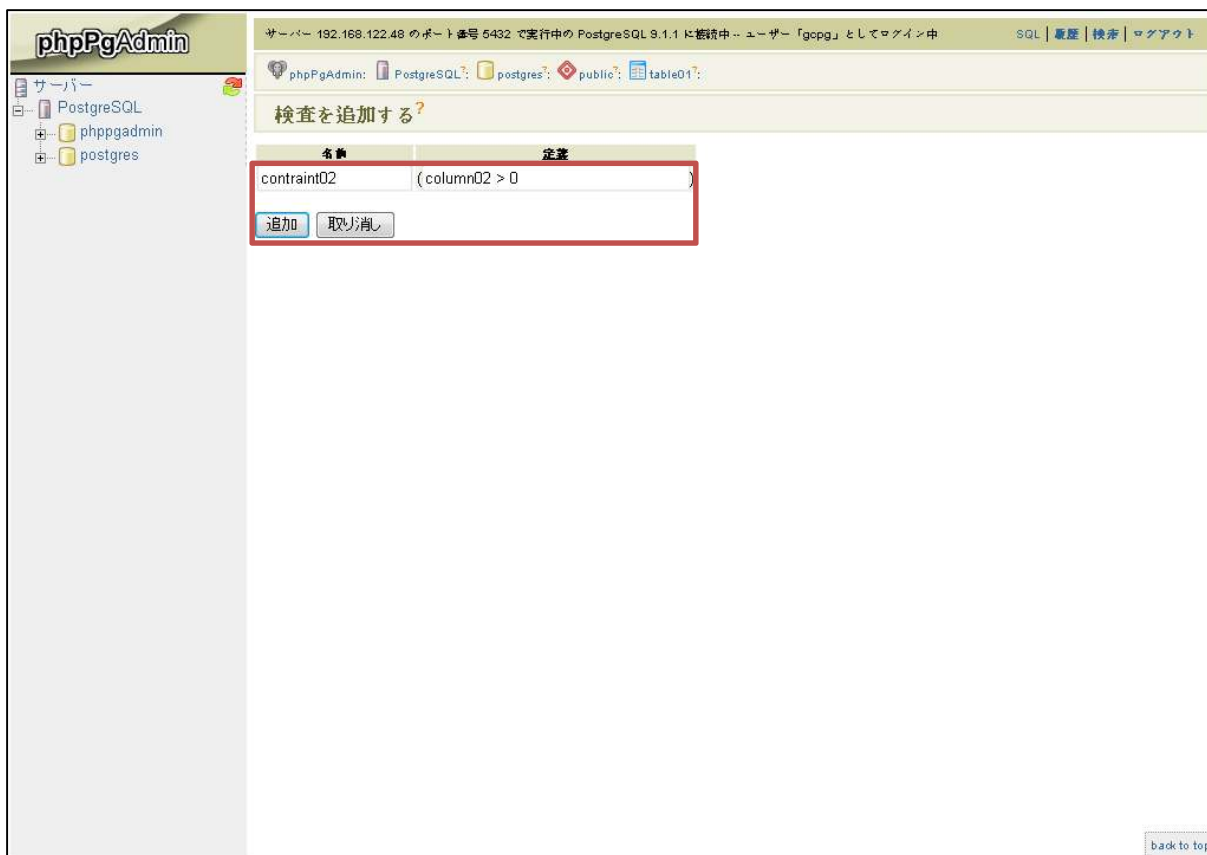


図 2-9-57 「テーブルの検査の追加」

表 2-9-58 テーブルの検査の追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	検査制約の名称を指定します。
2	[定義]	検査制約として定義する式を指定します。ALTER TABLE の CONSTRAINT の CHECK()内に記述する式に相当。本項目に指定された式を満たすか否か検査する制約が追加されます。
3	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
4	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの検査制約一覧操作」で追加されたことを確認します。

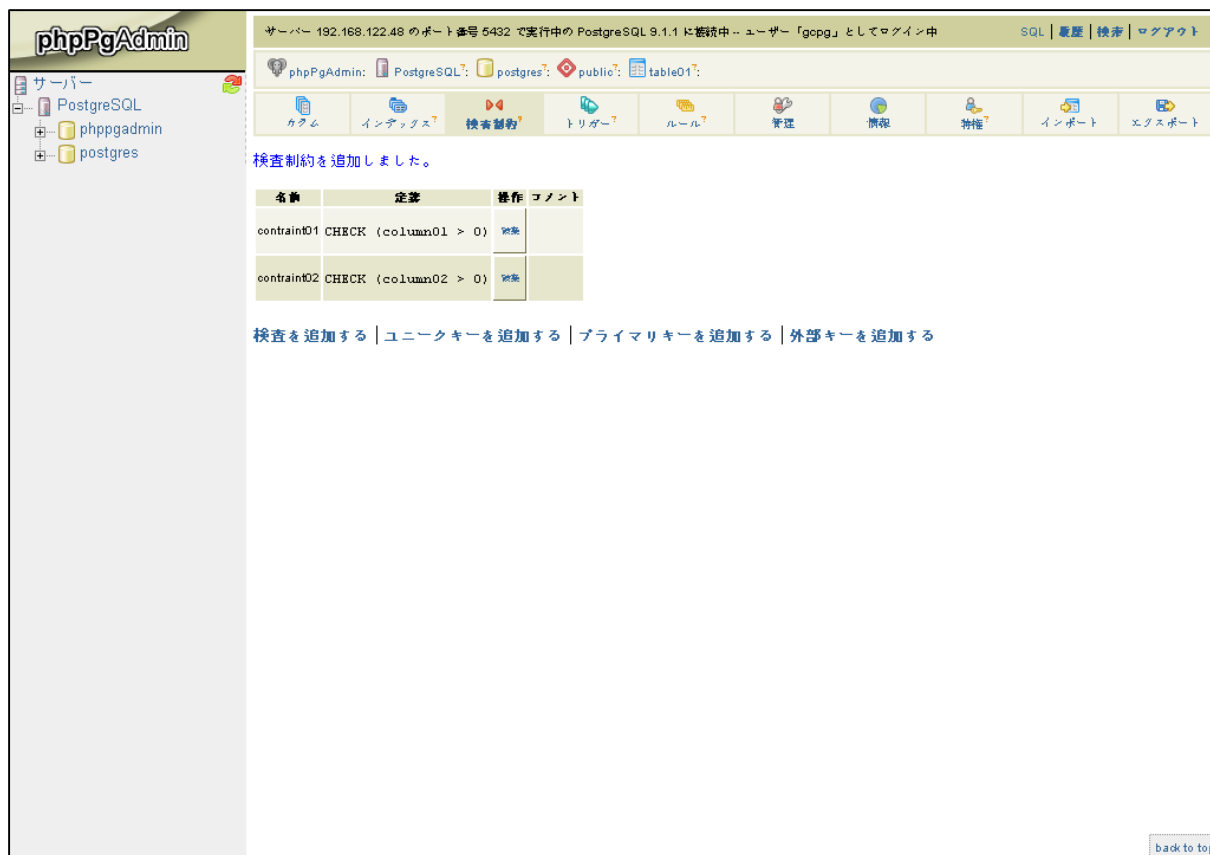


図 2-9-59 「テーブルの検査制約一覧操作」

2-9-3-III. テーブルのユニークキーの追加

★ ユニークキー制約を追加します。

① 「テーブルの検査制約一覧操作」で[ユニークキーを追加する]をクリックします。

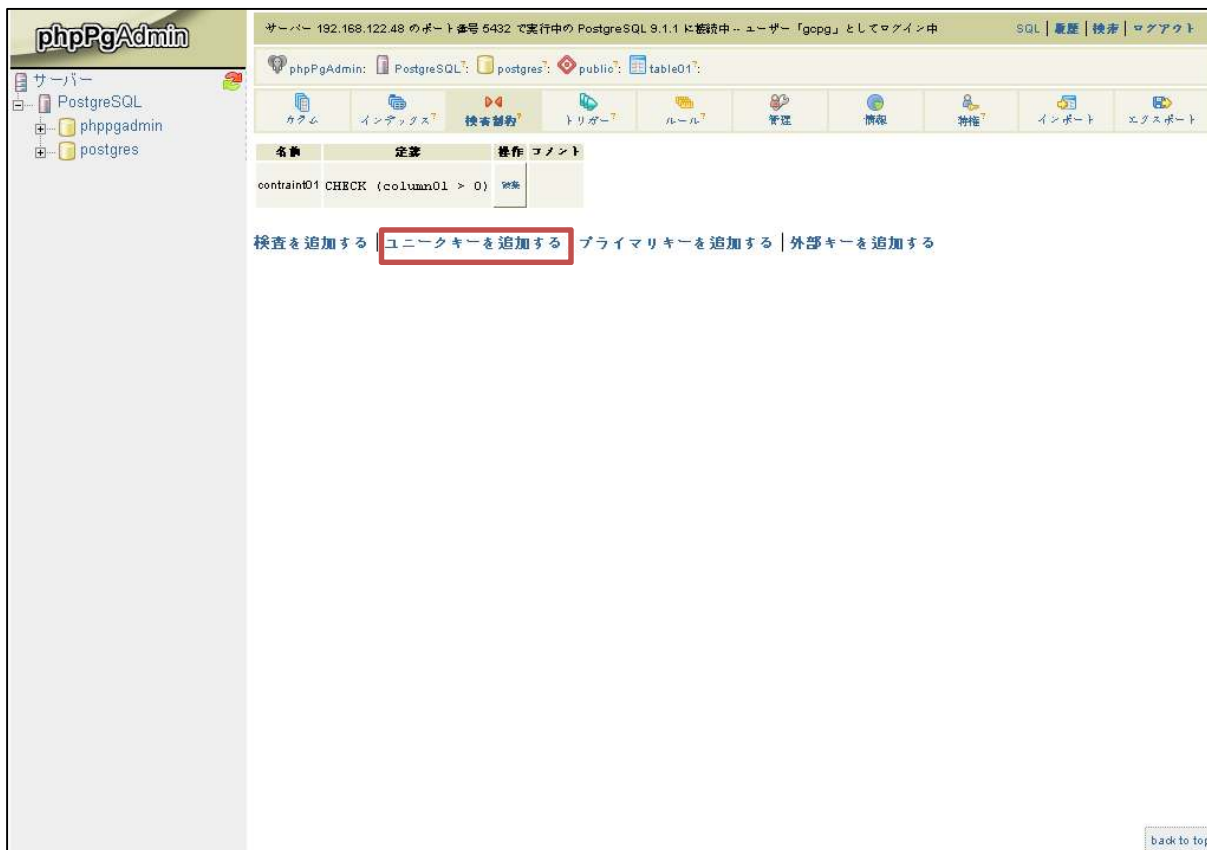


図 2-9-60 「テーブルの検査制約一覧操作」

② 「テーブルのユニークキーの追加」で[追加]ボタンをクリックします。



図 2-9-61 「テーブルのユニークキーの追加」

表 2-9-62 テーブルのユニークキーの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ユニークキー制約の名称を指定します。
2	[テーブル中のカラム]	現在のテーブルに含まれるカラム名が表示されます。
3	[インデックス中のカラム]	ユニークキーとするカラムを指定します。
4	[テーブル空間]	ユニークキー制約を作成するテーブル空間を指定します。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
5	[<<]ボタン	選択しているカラムを[インデックス中のカラム]から[テーブル中のカラム]に移動します。

6	[>>]ボタン	選択しているカラムを[テーブル中のカラム]から[インデックス中のカラム]に移動します。
7	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの検査制約一覧操作」で追加されたことを確認します。

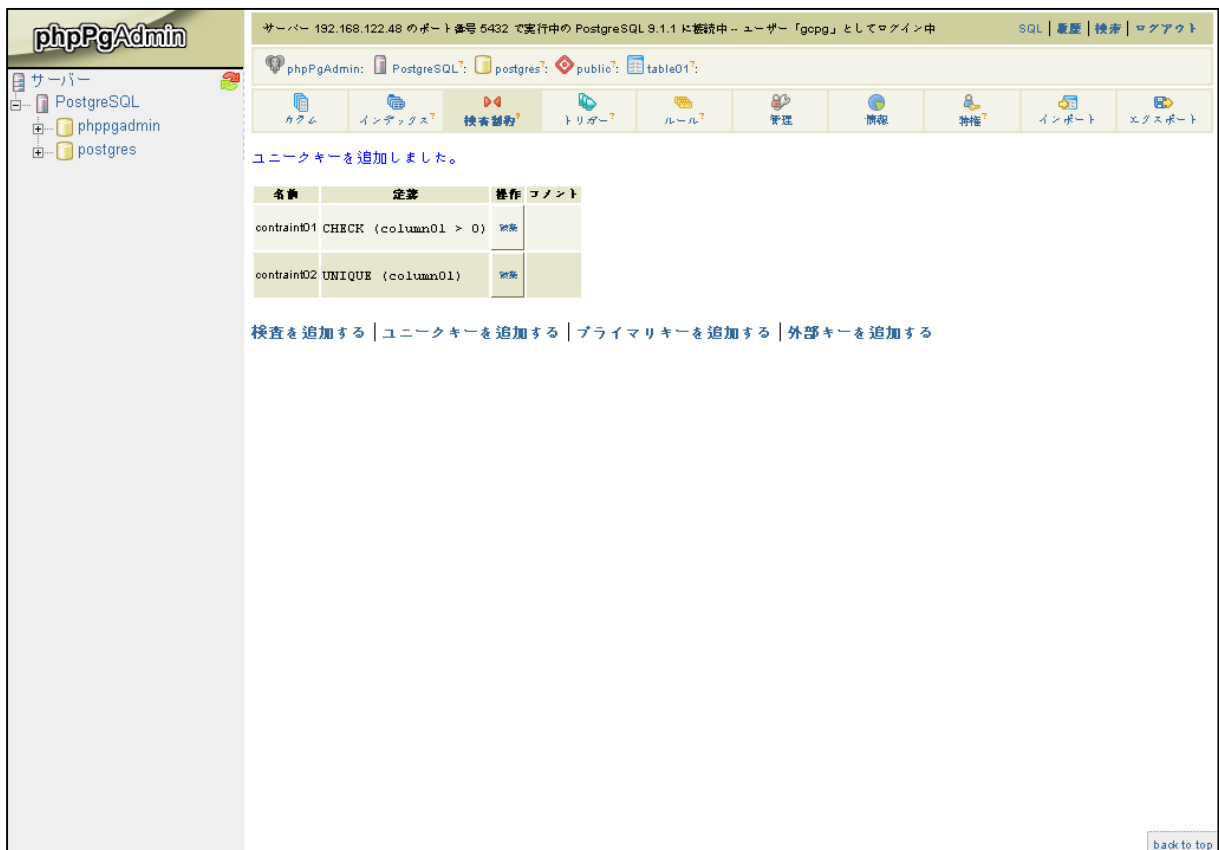


図 2-9-63 「テーブルの検査制約一覧操作」

2-9-3-IV. テーブルのプライマリキーの追加

★ プライマリキー制約を追加します。

① 「テーブルの検査制約一覧操作」で[プライマリキーを追加する]をクリックします。

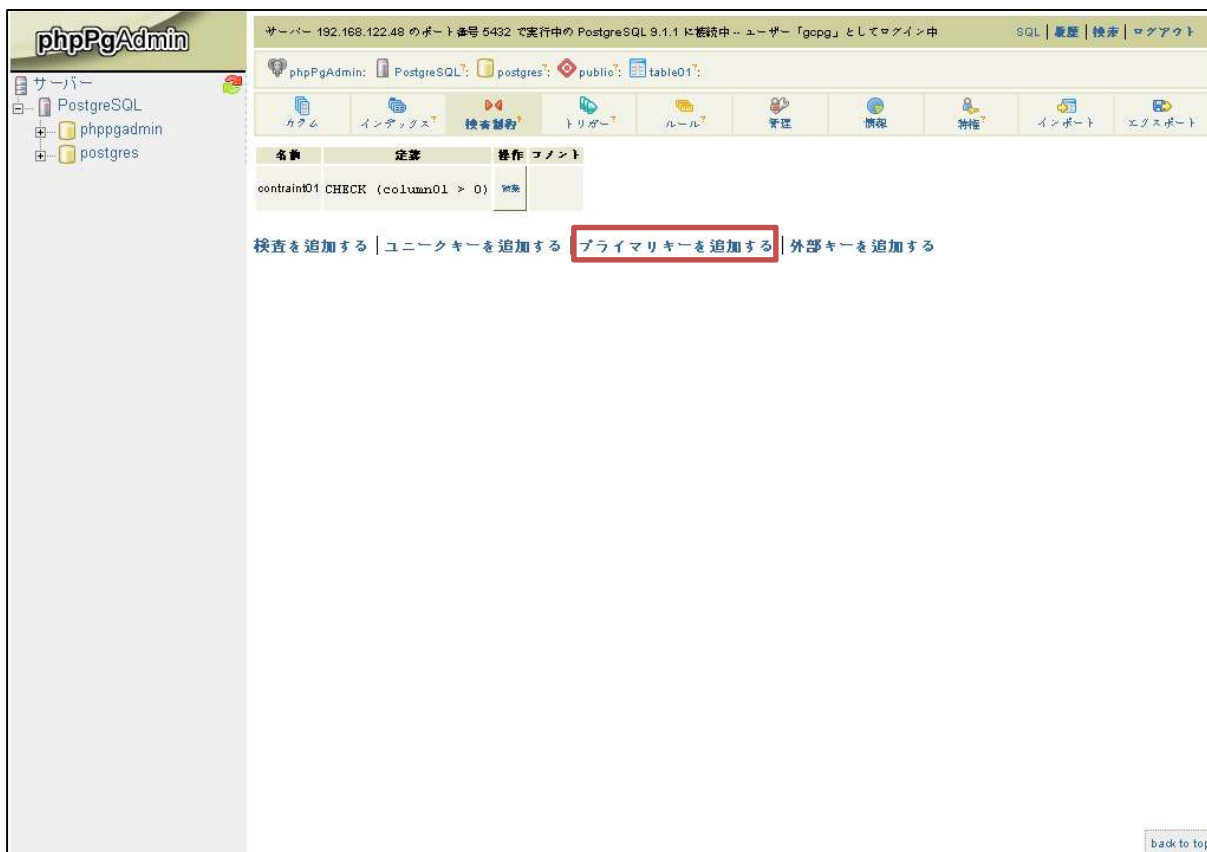


図 2-9-64 「テーブルの検査制約一覧操作」

② 「テーブルのプライマリキーの追加」で[追加]ボタンをクリックします。

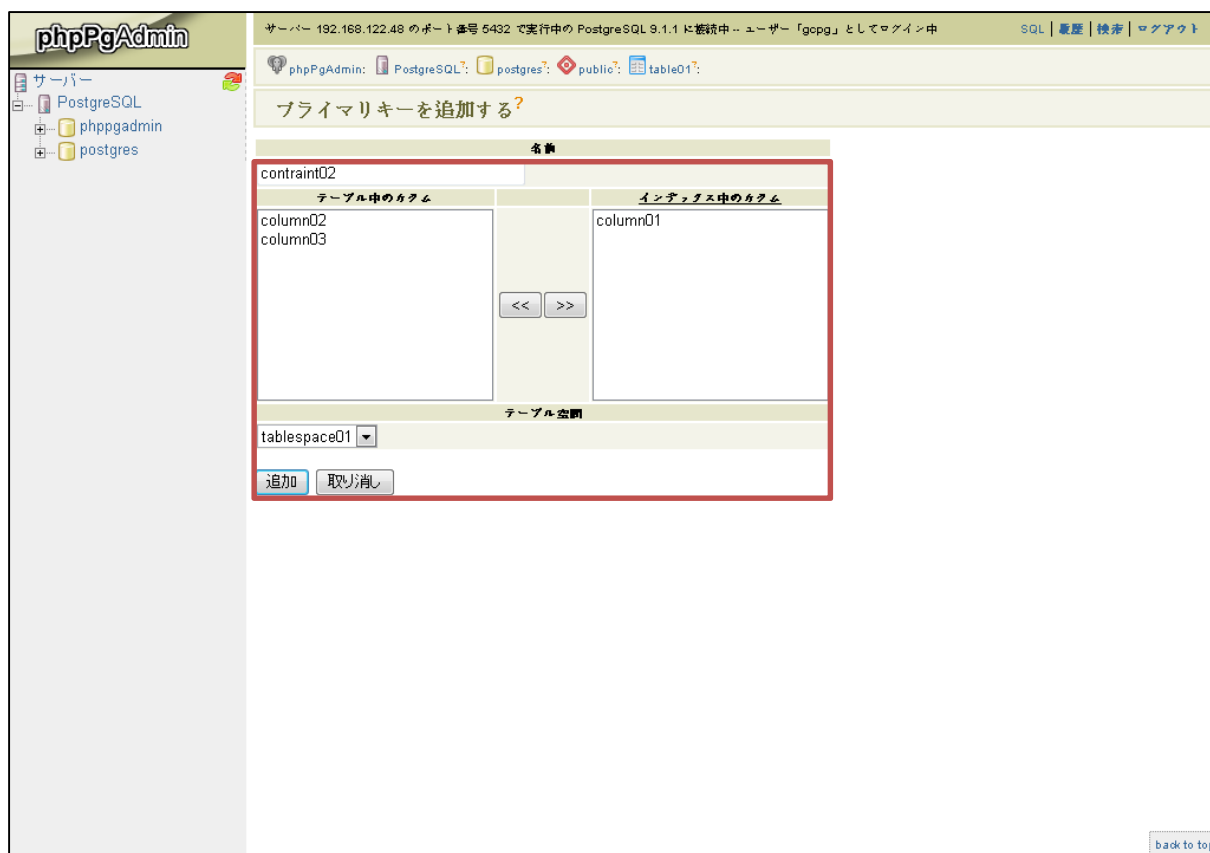


図 2-9-65 「テーブルのプライマリキーの追加」

表 2-9-66 テーブルのプライマリキーの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	プライマリキー制約の名称を指定します。
2	[テーブル中のカラム]	現在のテーブルに含まれるカラム名が表示されます。
3	[インデックス中のカラム]	プライマリキーとするカラムを指定します。
5	[<<]ボタン	選択しているカラムを[インデックス中のカラム]から[テーブル中のカラム]に移動します。
6	[>>]ボタン	選択しているカラムを[テーブル中のカラム]から[インデックス中のカラム]に移動します。
7	[テーブル空間]	プライマリキー制約を作成するテーブル空間を指定しま

		す。指定されなかった場合、デフォルトのテーブル空間になります。
8	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの検査制約一覧操作」で追加されたことを確認します。

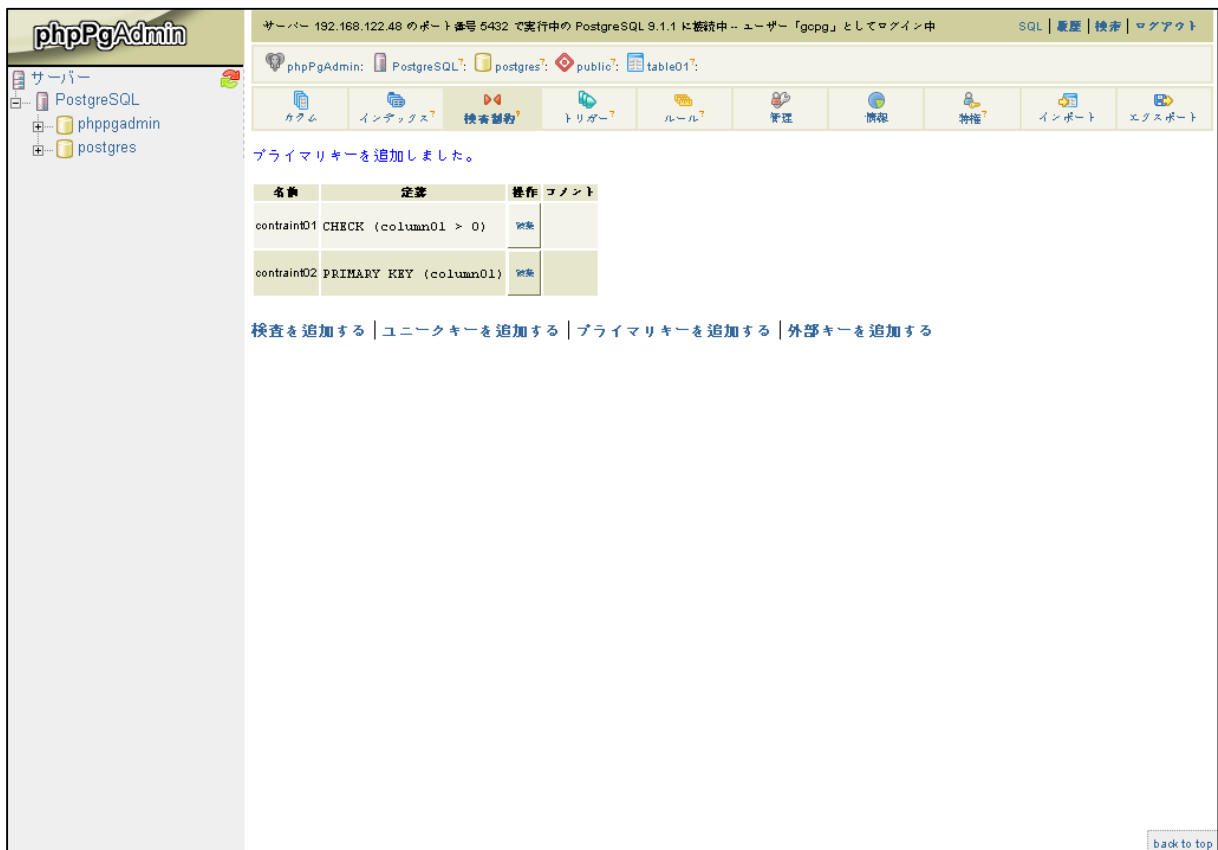


図 2-9-67 「テーブルの検査制約一覧操作」

2-9-3-V. テーブルの外部キーの追加

★ 外部キー制約を追加します。

① 「テーブルの検査制約一覧操作」で[外部キーを追加する]をクリックします。

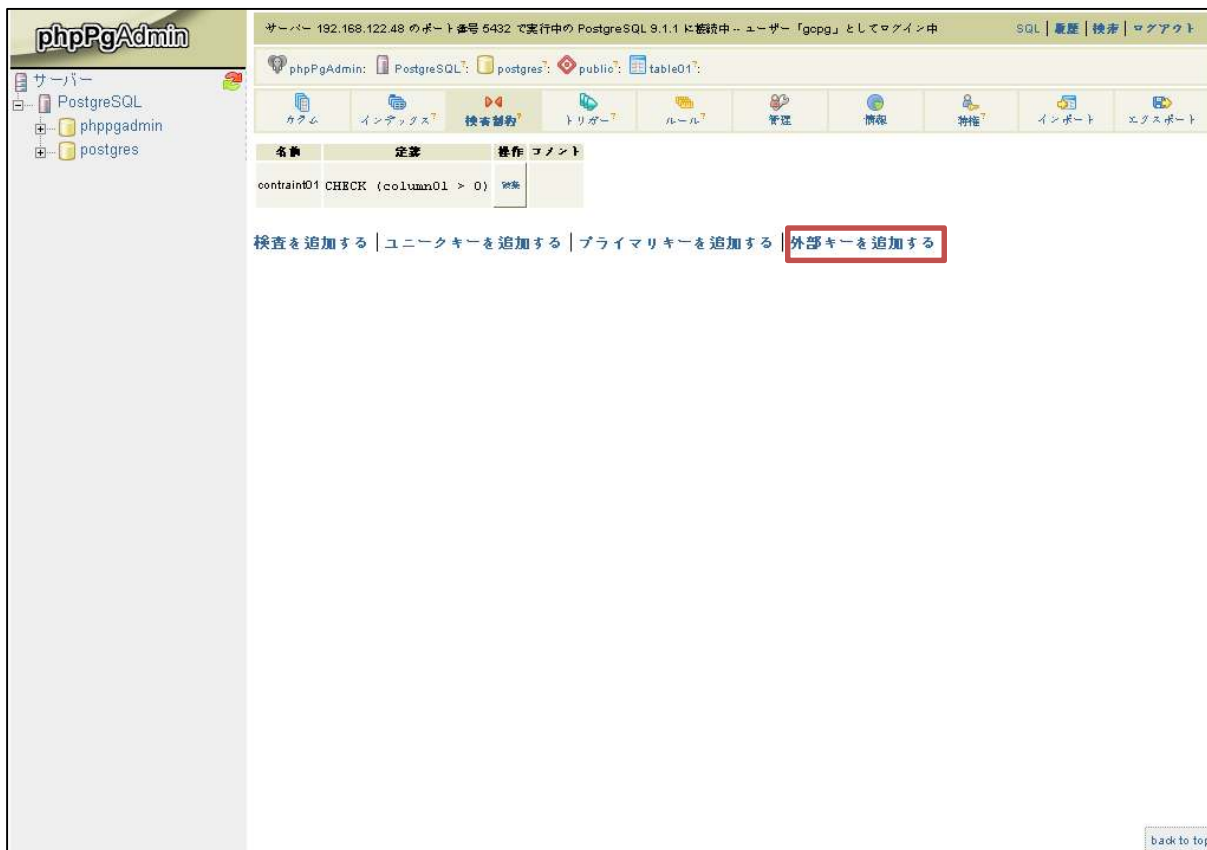


図 2-9-68 「テーブルの検査制約一覧操作」

② 「テーブルの外部キーの追加」で[追加]ボタンをクリックします。

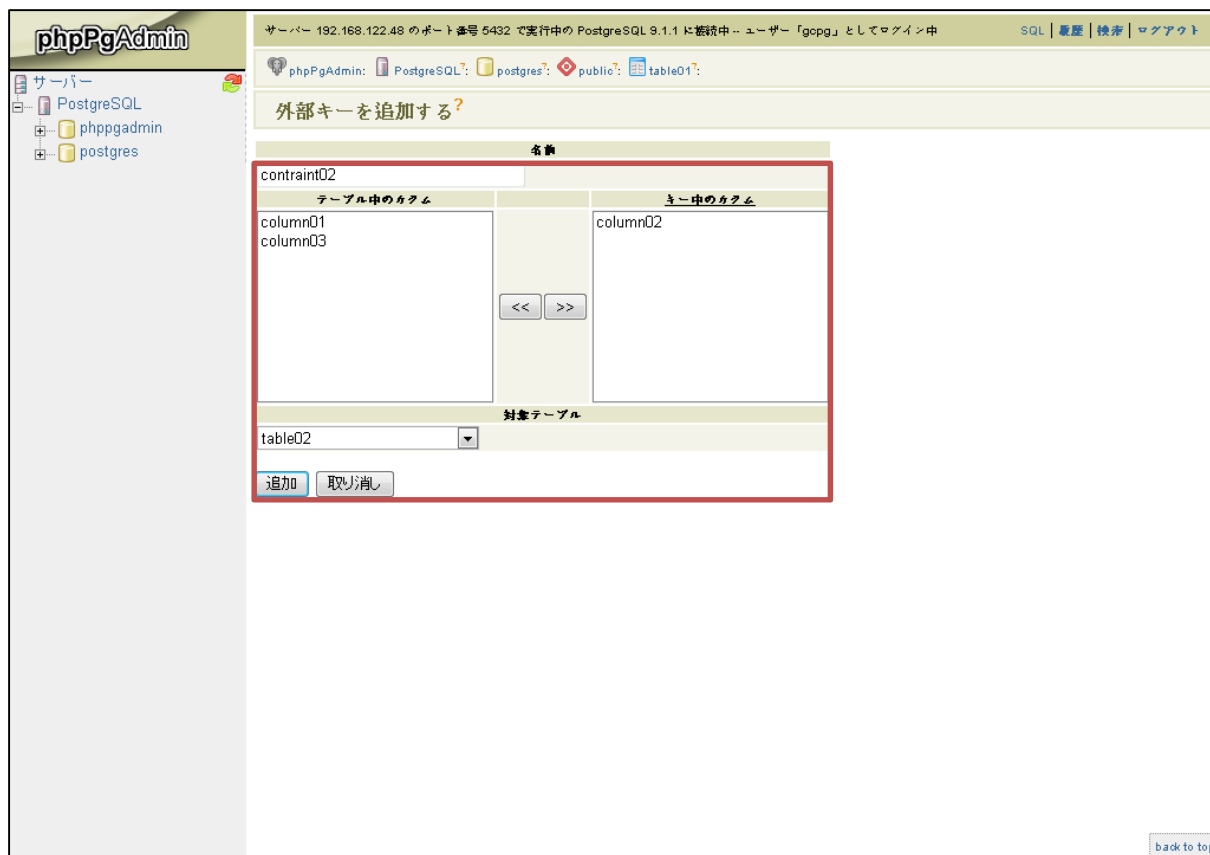


図 2-9-69 「テーブルの外部キーの追加」

表 2-9-70 テーブルの外部キーの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	外部キー制約の名称を指定します。
2	[テーブル中のカラム]	現在のテーブルに含まれるカラム名が表示されます。
3	[インデックス中のカラム]	外部キーとするカラムを指定します。
5	[<<]ボタン	選択しているカラムを[インデックス中のカラム]から[テーブル中のカラム]に移動します。
6	[>>]ボタン	選択しているカラムを[テーブル中のカラム]から[インデックス中のカラム]に移動します。
7	[対象テーブル]	外部キー制約の被参照テーブルを指定します。

8	[追加]ボタン	追加操作を続けます。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの外部キーの追加 2」 で[追加]ボタンをクリックします。

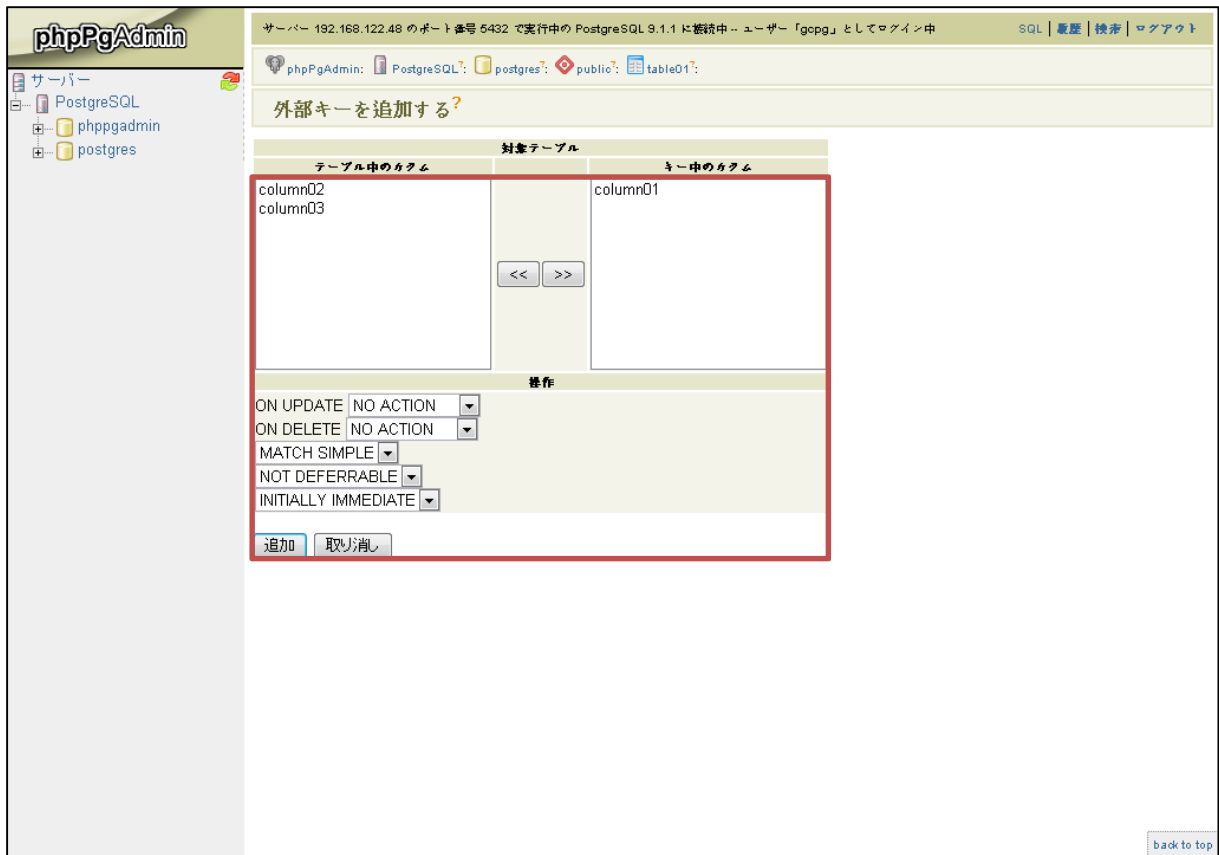


図 2-9-71 「テーブルの外部キーの追加 2」

表 2-9-72 テーブルの外部キーの追加 2 画面項目

NO	項目名	説明
1	[テーブル中のカラム]	被参照テーブルに含まれるカラム名が表示されます。
2	[キー中のカラム]	被参照カラムを指定します。
3	[<<]ボタン	選択しているカラムを[キー中のカラム]から[テーブル中のカラム]に移動します。
4	[>>]ボタン	選択しているカラムを[テーブル中のカラム]から[キー中のカラム]に移動します。

5	[ON UPDATE]	<p>被参照カラムのデータが UPDATE された際の動作を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NO ACTION : UPDATE が制約違反となることを示すエラーを発生します。 ● RESTRICT : UPADTE が制約違反となることを示すエラーを発生します。検査は遅延できません。 ● CASCADE : UPDATE された行を参照しているレコードはすべて UPDATE します。 ● SET NULL : 参照するカラムを NULL に設定します。 ● SET DEFAULT : 参照するカラムをデフォルト値に設定します。
6	[ON DELETE]	<p>被参照カラムのデータが DELETE された際の動作を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NO ACTION : DELETE が制約違反となることを示すエラーを発生します。 ● RESTRICT : DELETE が制約違反となることを示すエラーを発生します。検査は遅延できません。 ● CASCADE : DELETE された行を参照しているレコードはすべて DELETE します。 ● SET NULL : 参照するカラムを NULL に設定します。 ● SET DEFAULT : 参照するカラムをデフォルト値に設定します。
7	“照合型”	<p>照合型を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● MATCH SIMPLE : 複数カラムからなる外部キーにおいて、一部の外部キーカラムが NULL になることを許します。 ● MATCH FULL : 複数カラムからなる外部キーにおいて、すべての外部キーカラムが NULL となる場合を除き、一部の外部キーカラムが NULL となることを許しません。
8	“制約を遅延させることが可能か”	<p>制約の検査を遅延させることが可能かについて下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● NOT DEFERRABLE : 遅延不可

		<ul style="list-style-type: none"> ● DEFERRABLE : 遅延可能
9	“制約検査を行うデフォルトのタイミング”	<p>制約検査を行うデフォルトのタイミングを下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● INITIALLY IMMEDIATE : 各コマンドの実行後、検査されます。 ● INITIALLY DEFERRED : トランザクション終了時のみ検査されます。
10	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
11	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの検査制約一覧操作」で追加されたことを確認します。

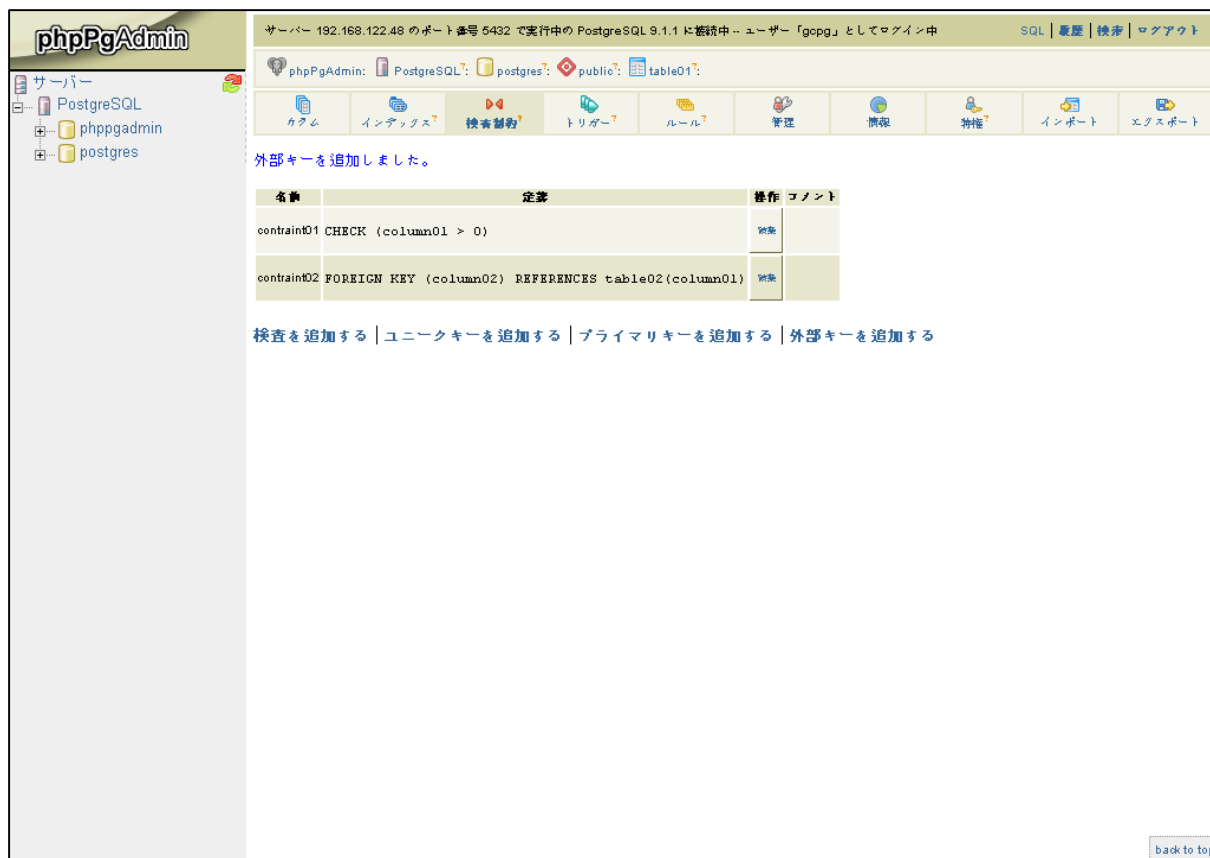


図 2-9-73 「テーブルの検査制約一覧操作」

2-9-4 テーブルのトリガー一覧操作

★ 「テーブルのトリガー一覧操作」を表示します。テーブルのトリガーの作成、変更、破棄などができます。

- ① 「テーブル個別操作メニュー」で [トリガー]をクリックします。

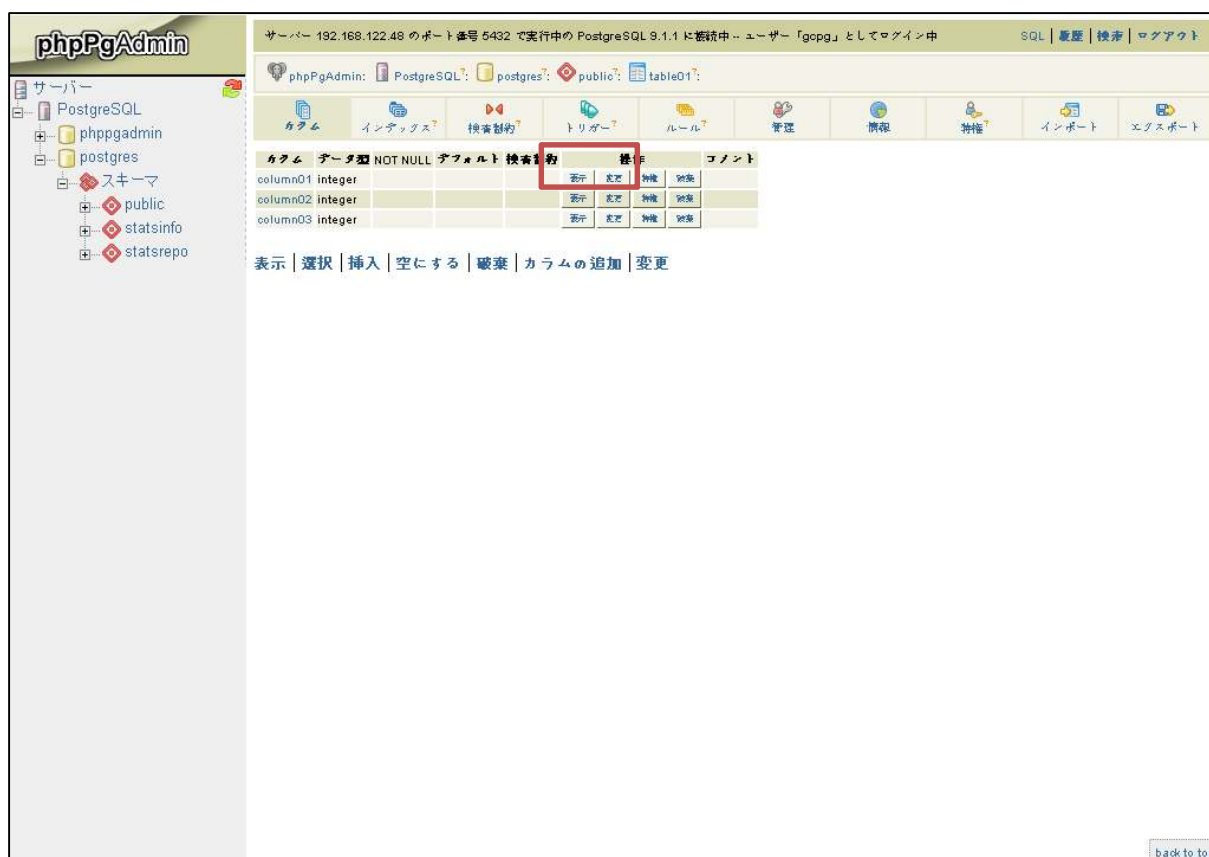


図 2-9-74 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのトリガー一覧操作」の表示を確認します。

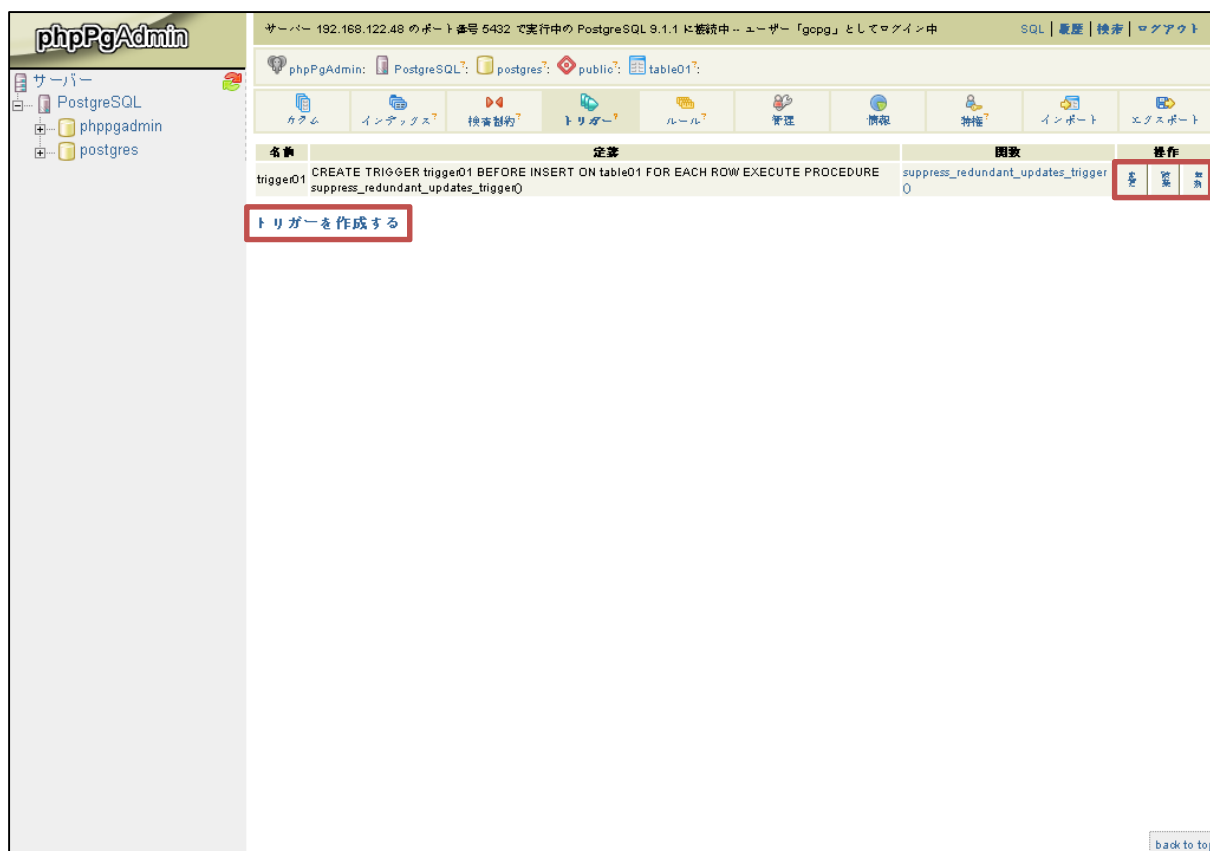


図 2-9-75 「テーブルのトリガー一覧操作」

表 2-9-76 テーブルのトリガー一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[変更]ボタン	トリガーを変更します。(ALTER TRIGGER に相当) 詳細は 2-9-4-I「テーブルのトリガーの変更」を参照してください。
2	[破棄]ボタン	トリガーを削除します。(DROP TRIGGER に相当) 詳細は 2-9-4-II「テーブルのトリガーの破棄」を参照してください。
3	[無効]ボタン	トリガーを無効化します。(ALTER TABLE に相当) 詳細は 2-9-4-III「テーブルのトリガーの無効化」を参照してください。
4	[トリガーを作成する]	新しいトリガーを定義します。(CREATE TRIGGER に相

当)

詳細は 2-9-4-IV「テーブルのトリガーの作成」を参照してください。

2-9-4-I. テーブルのトリガーの変更

★ トリガー定義を変更します。

① 「テーブルのトリガー一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface. The top navigation bar includes 'SQL | 履歴 | 検索 | ログアウト'. The main content area displays the trigger management page for 'table01'. A table lists the trigger 'trigger01' with its definition and the function 'suppress_redundant_updates_trigger0'. The 'Operations' column contains buttons for 'View', 'Edit', and 'Delete', with the 'Edit' button highlighted by a red box. Below the table, there is a link 'トリガーを作成する' and a 'back to top' button in the bottom right corner.

名前	定義	関数	操作
trigger01	CREATE TRIGGER trigger01 BEFORE INSERT ON table01 FOR EACH ROW EXECUTE PROCEDURE suppress_redundant_updates_trigger0	suppress_redundant_updates_trigger0	View Edit Delete

図 2-9-77 「テーブルのトリガー一覧操作」

② 「テーブルのトリガーの変更」で[OK]ボタンをクリックします。

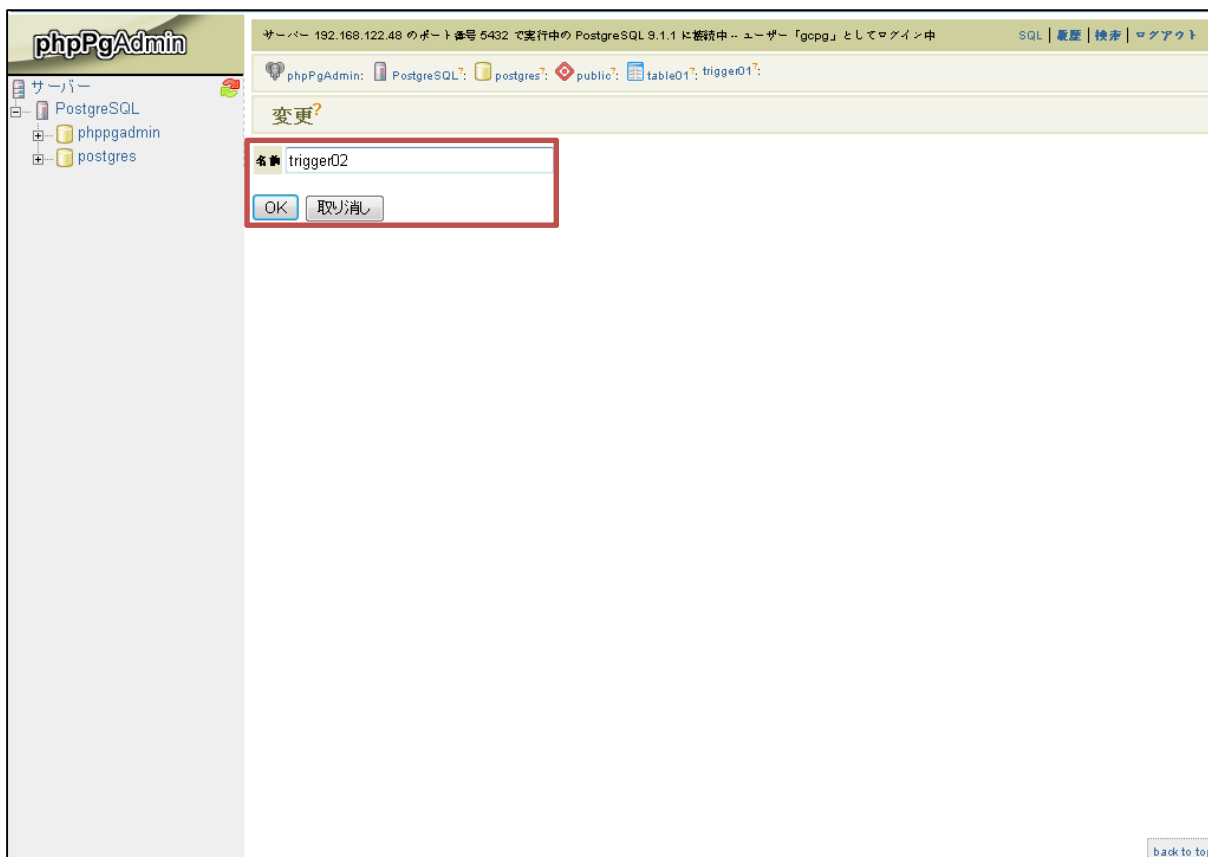


図 2-9-78 「テーブルのトリガーの変更」

表 2-9-79 テーブルのトリガーの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	トリガーの名称を指定します。
2	[OK]ボタン	変更操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのトリガー一覧操作」で変更されたことを確認します。

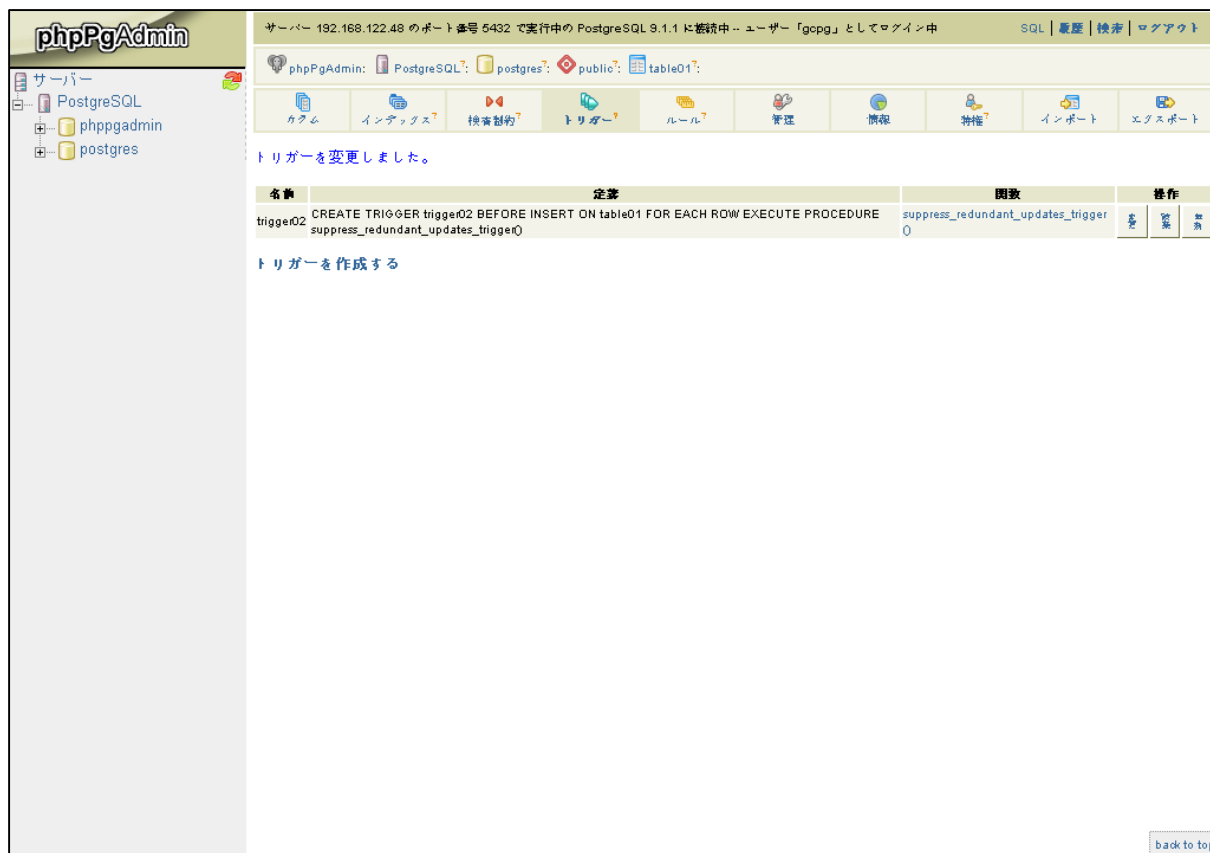


図 2-9-80 「テーブルのトリガー一覧操作」

2-9-4-II. テーブルのトリガーの破棄

★ トリガーを削除します。

① 「テーブルのトリガー一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

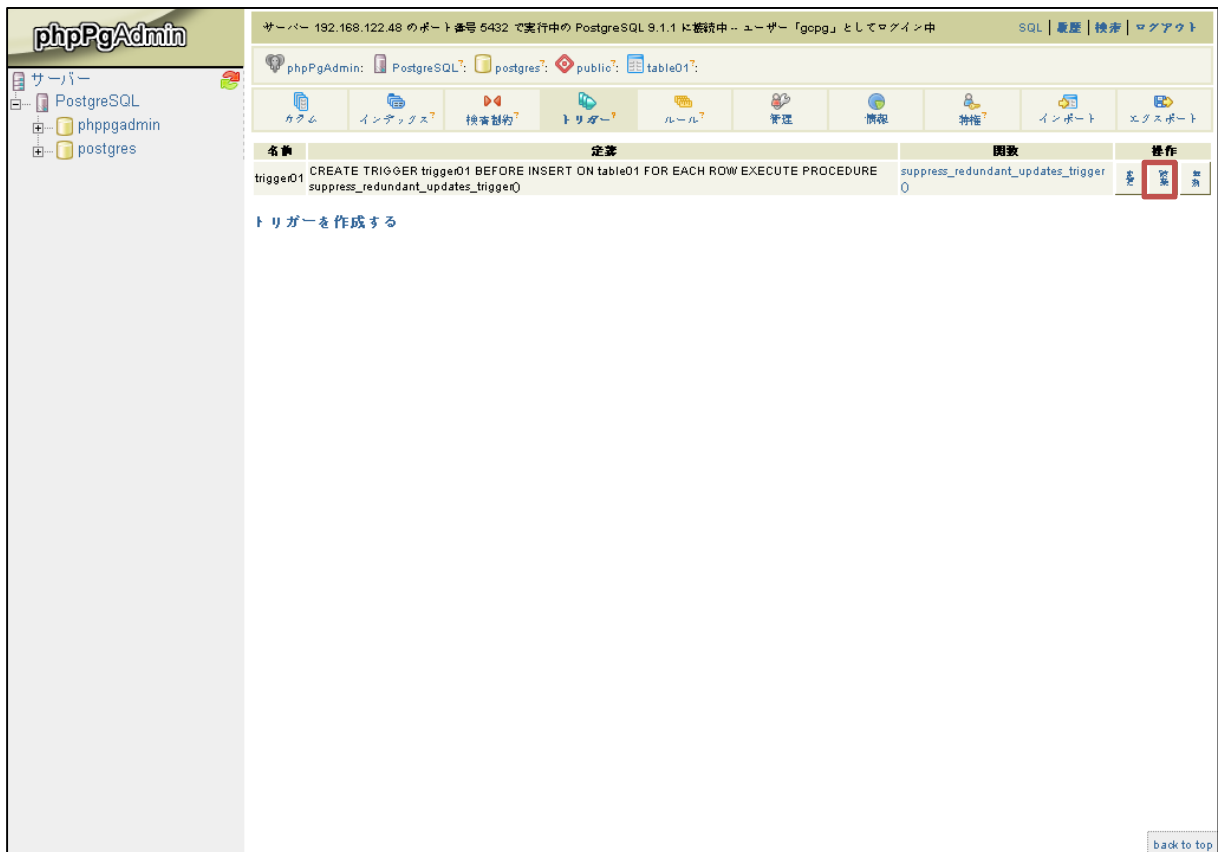


図 2-9-81 「テーブルのトリガー一覧操作」

② 「テーブルのトリガーの破棄」で[はい]ボタンをクリックします。



図 2-9-82 「テーブルのトリガーの破棄」

表 2-9-83 テーブルのトリガーの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するトリガーにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[はい]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのトリガー一覧操作」で破棄されたことを確認します。

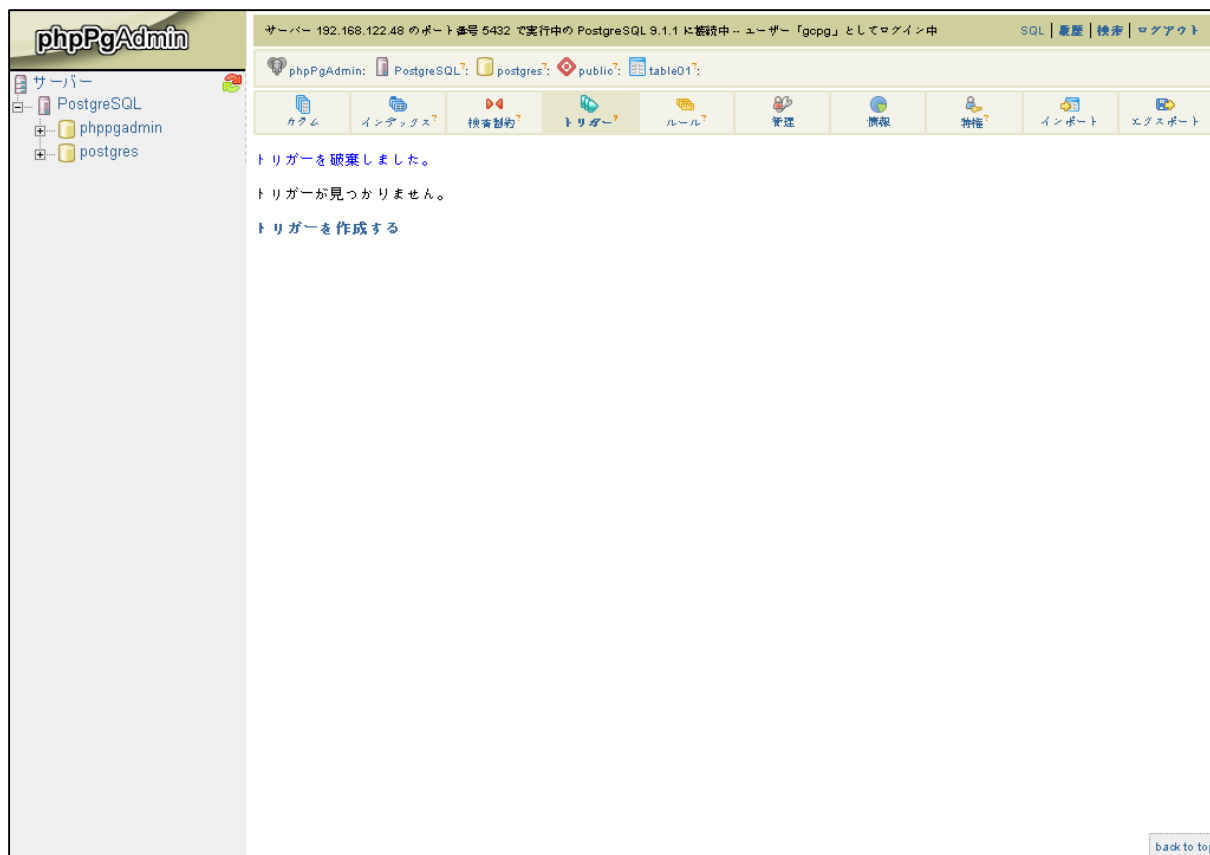


図 2-9-84 「テーブルのトリガー一覧操作」

2-9-4-III. テーブルのトリガーの無効化

★ トリガーを無効化します。

① 「テーブルのトリガー一覧操作」で[無効]ボタンをクリックします。

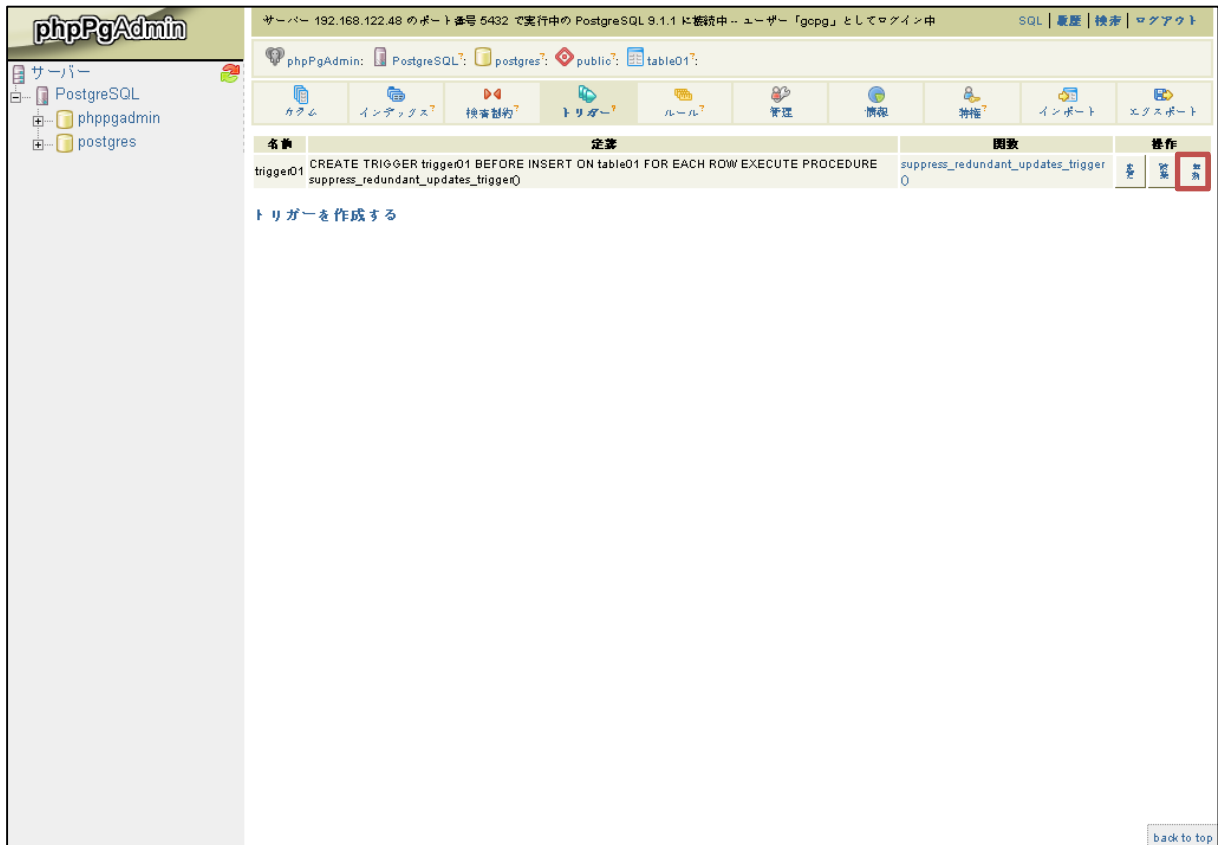


図 2-9-85 「テーブルのトリガー一覧操作」

② 「テーブルのトリガーの無効化」で[はい]ボタンをクリックします。

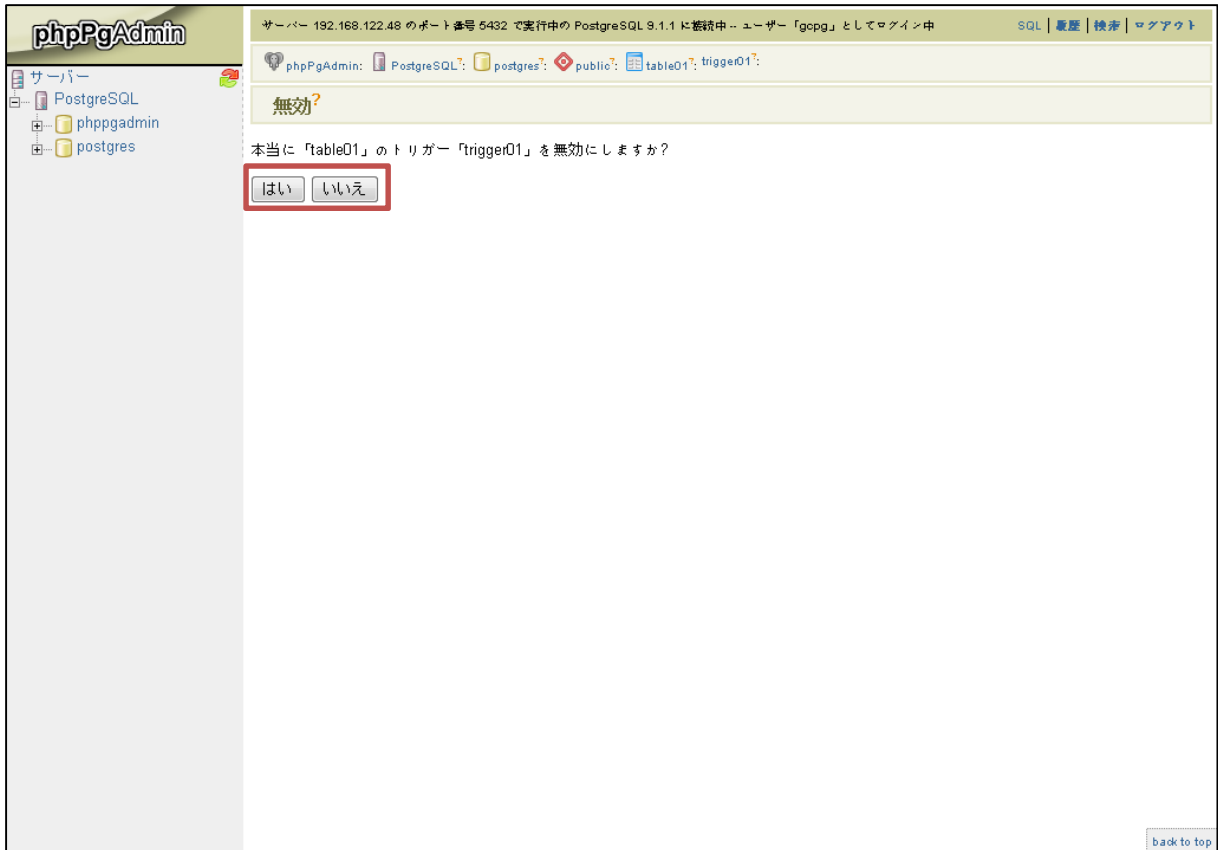


図 2-9-86 「テーブルのトリガーの無効化」

表 2-9-87 テーブルのトリガーの無効化画面項目

NO	項目名	説明
1	[はい]ボタン	無効化操作を実行します。
2	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのトリガー一覧操作」で無効化されたことを確認します。

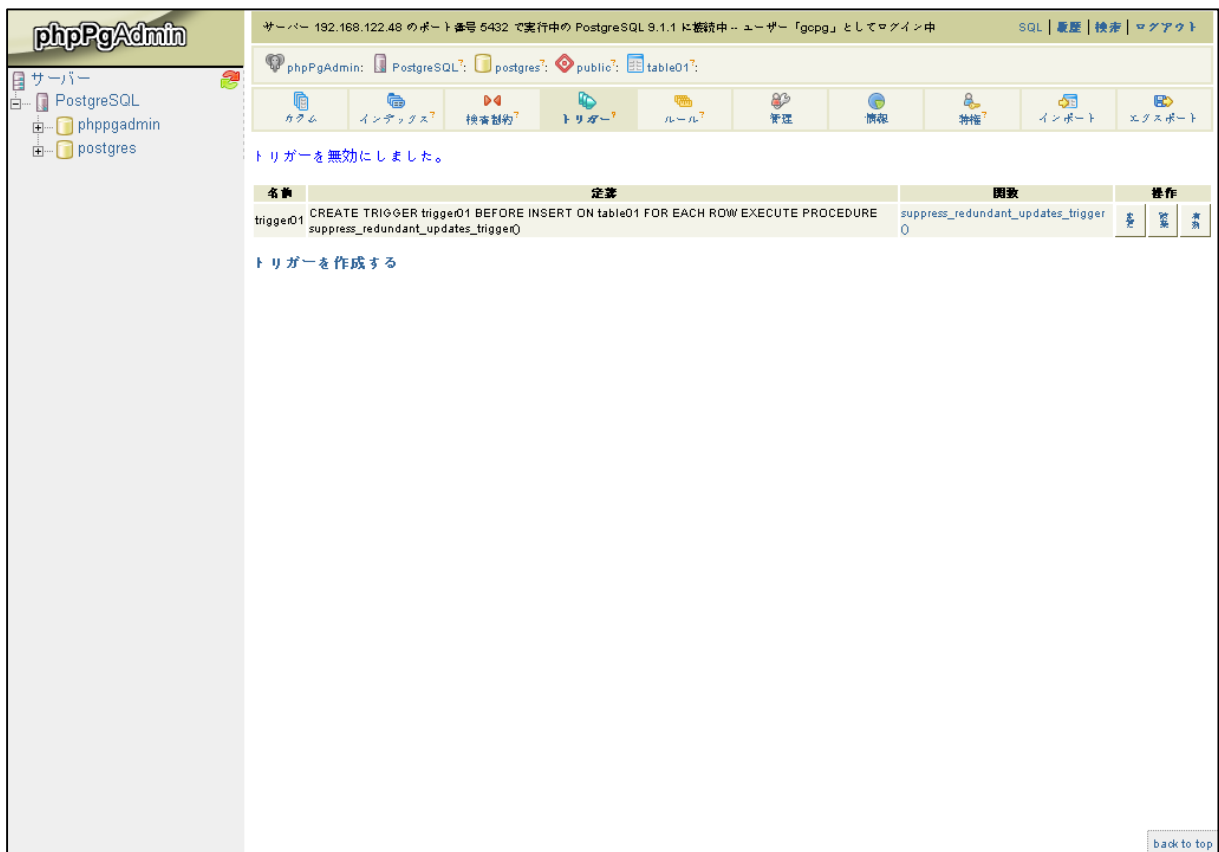


図 2-9-88 「テーブルのトリガー一覧操作」

2-9-4-IV. テーブルのトリガーの作成

★ 新しいトリガーを定義します。

① 「テーブルのトリガー一覧操作」で[トリガーを作成する]をクリックします。

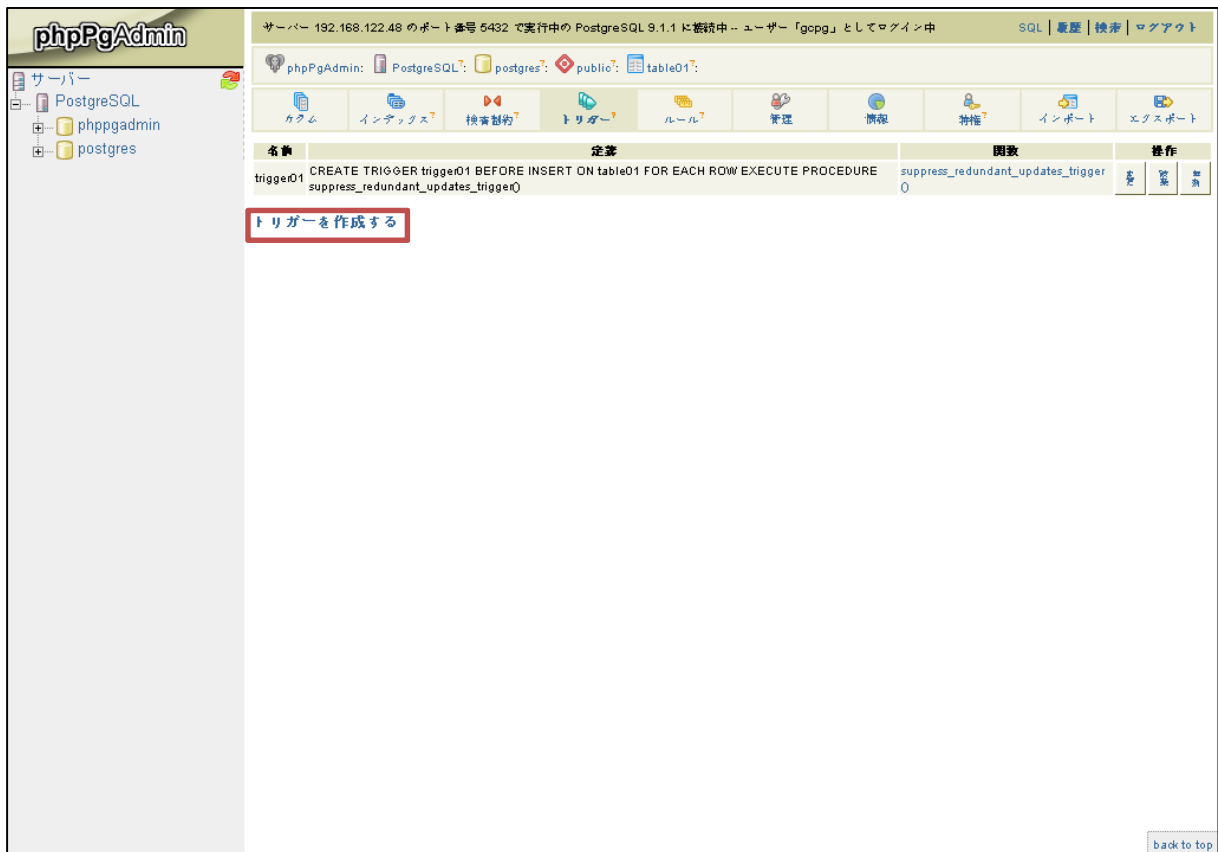


図 2-9-89 「テーブルのトリガー一覧操作」

② 「テーブルのトリガーの作成」で[作成]ボタンをクリックします。

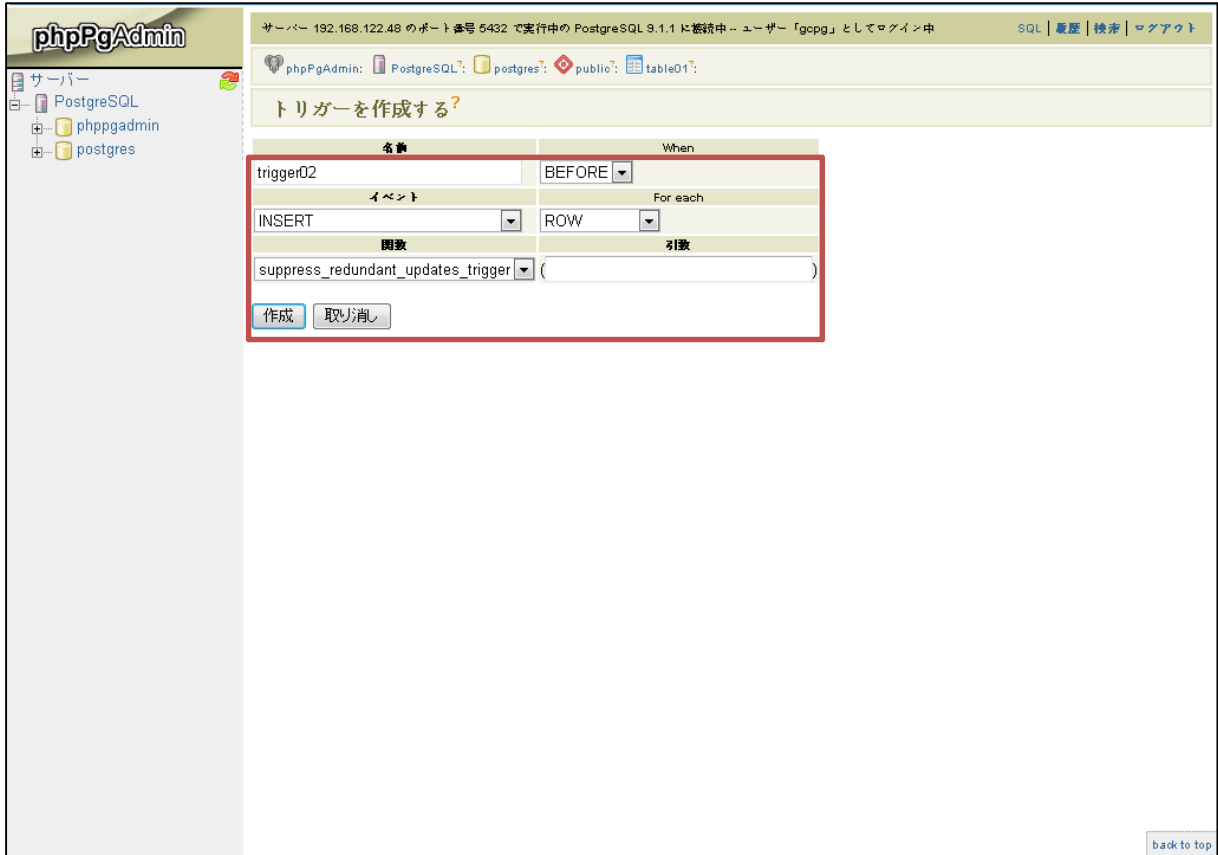


図 2-9-90 「テーブルのトリガーの作成」

表 2-9-91 テーブルのトリガーの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	トリガーの名称を指定します。
2	[When]	起動のタイミングを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● BEFORE：行への操作前 ● AFTER：行への操作後
3	[イベント]	起動契機となるイベントを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● INSERT ● UPDATE ● DELETE ● INSERT OR UPDATE ● INSERT OR DELETE

		<ul style="list-style-type: none"> ● DELETE OR UPDATE ● INSERT OR DELETE OR UPDATE
4	[For each]	<p>何を単位として呼び出しが行われるのか、下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ROW : 操作される行毎に 1 回ずつ呼び出されます。 ● STATEMENT : 操作ごとに 1 回のみ呼び出されます。
5	[関数]	トリガー関数とする関数名を指定します。
6	[引数]	トリガー関数に与える引数を指定します。
7	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
8	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのトリガー一覧操作」で作成されたことを確認します。

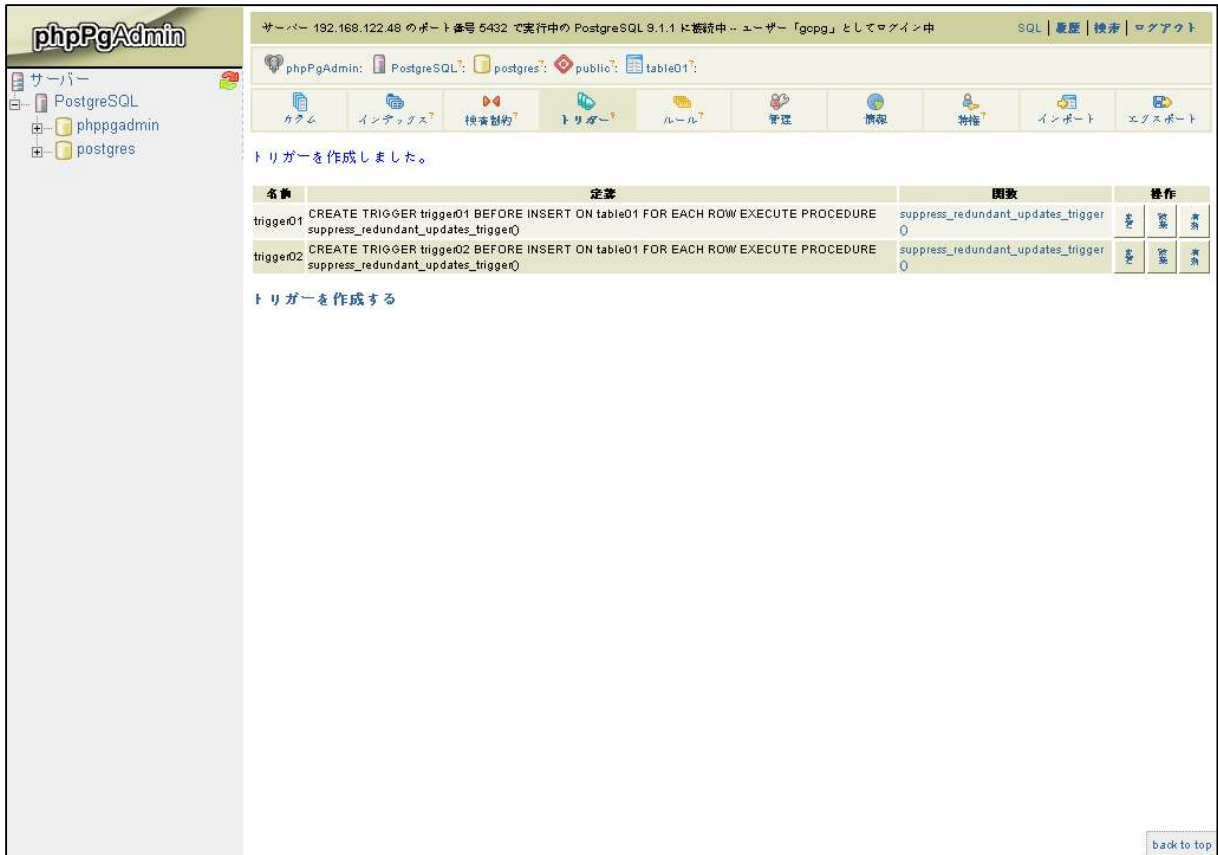


図 2-9-92 「テーブルのトリガー一覧操作」

2-9-5 テーブルのルール一覧操作

★ 「テーブルのルール一覧操作」を表示します。テーブルのルールの作成、破棄ができます。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [ルール]をクリックします。

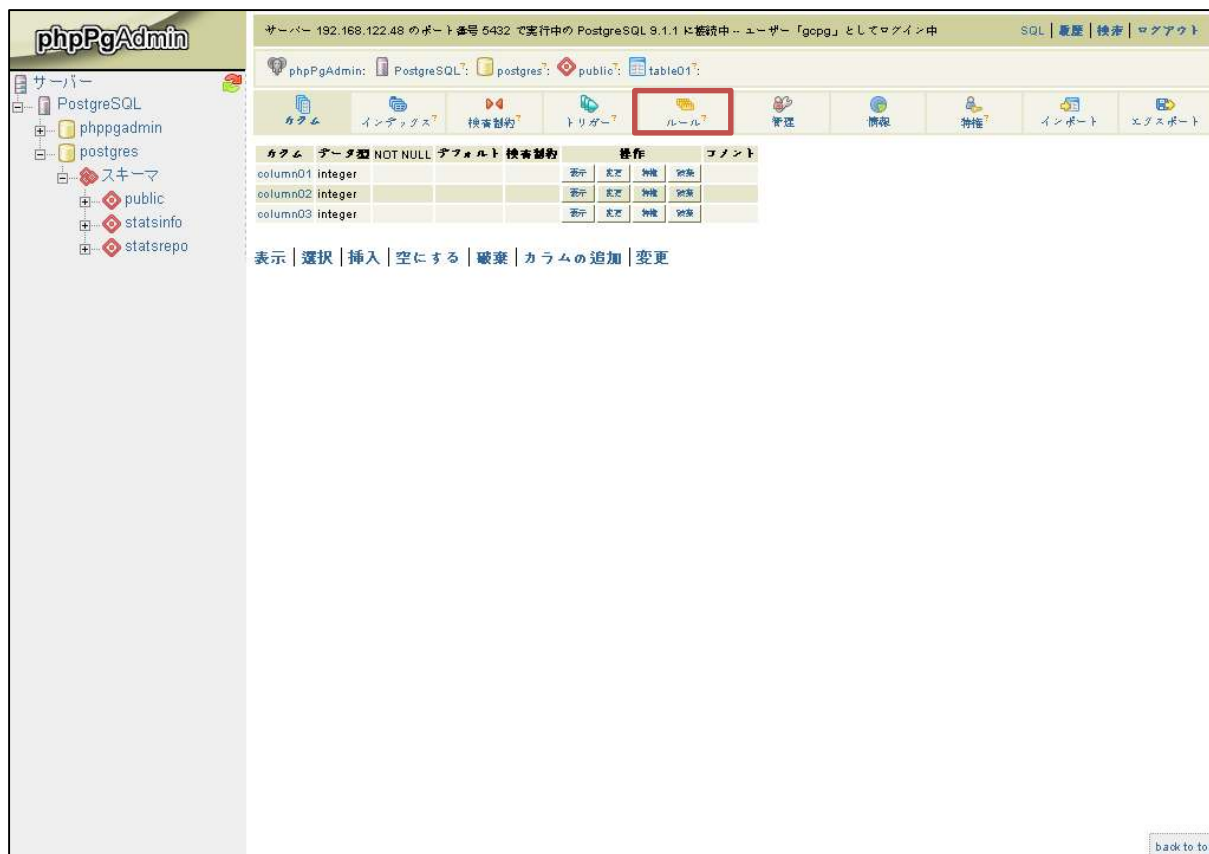


図 2-9-93 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのルール一覧操作」の表示を確認します。

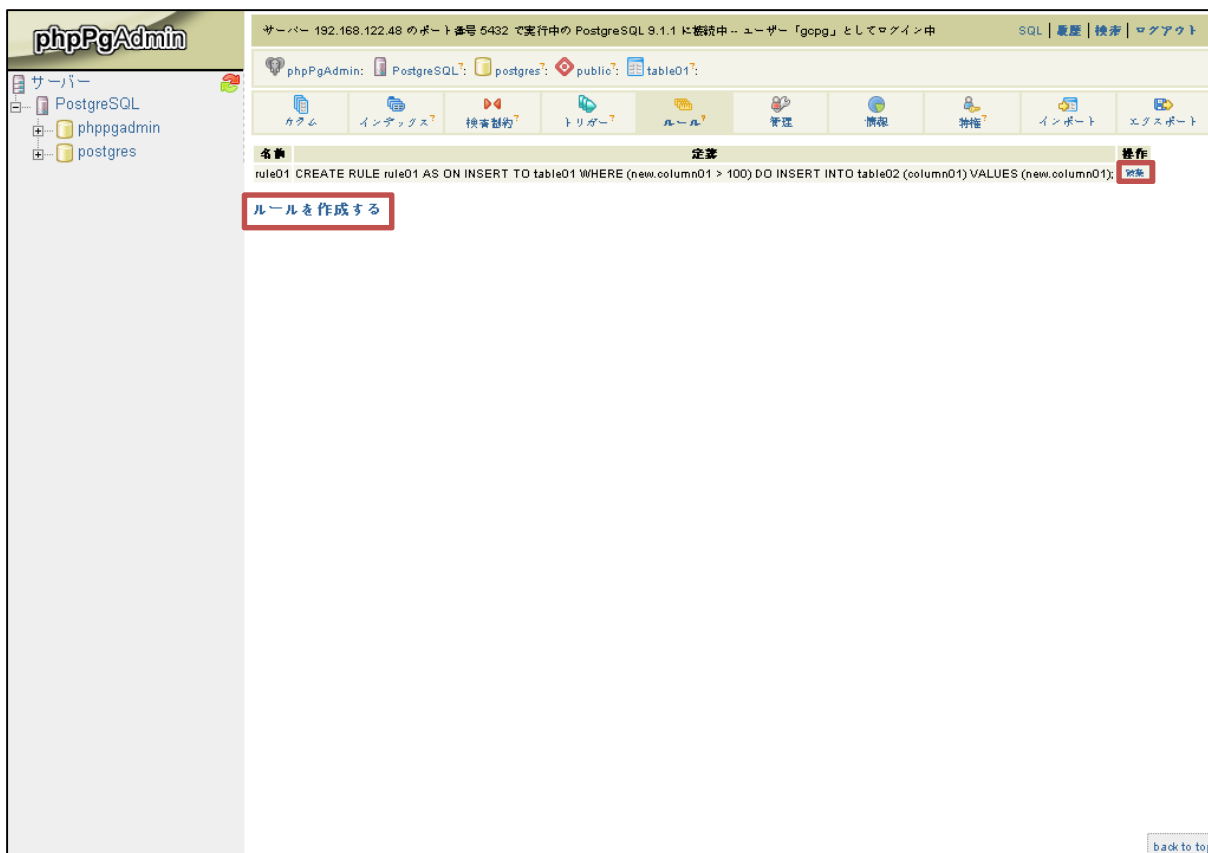


図 2-9-94 「テーブルのルール一覧操作」

表 2-9-95 テーブルのルール一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	ルールを削除します。(DROP RULE に相当) 詳細は 2-9-5-I「テーブルのルールの破棄」を参照してください。
2	[ルールを作成する]	新しいルールを定義します。(CREATE RULE に相当) 詳細は 2-9-5-II「テーブルのルールの作成」を参照してください。

2-9-5-I. テーブルのルールの破棄

★ 書き換えルールを削除します。

① 「テーブルのルール一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

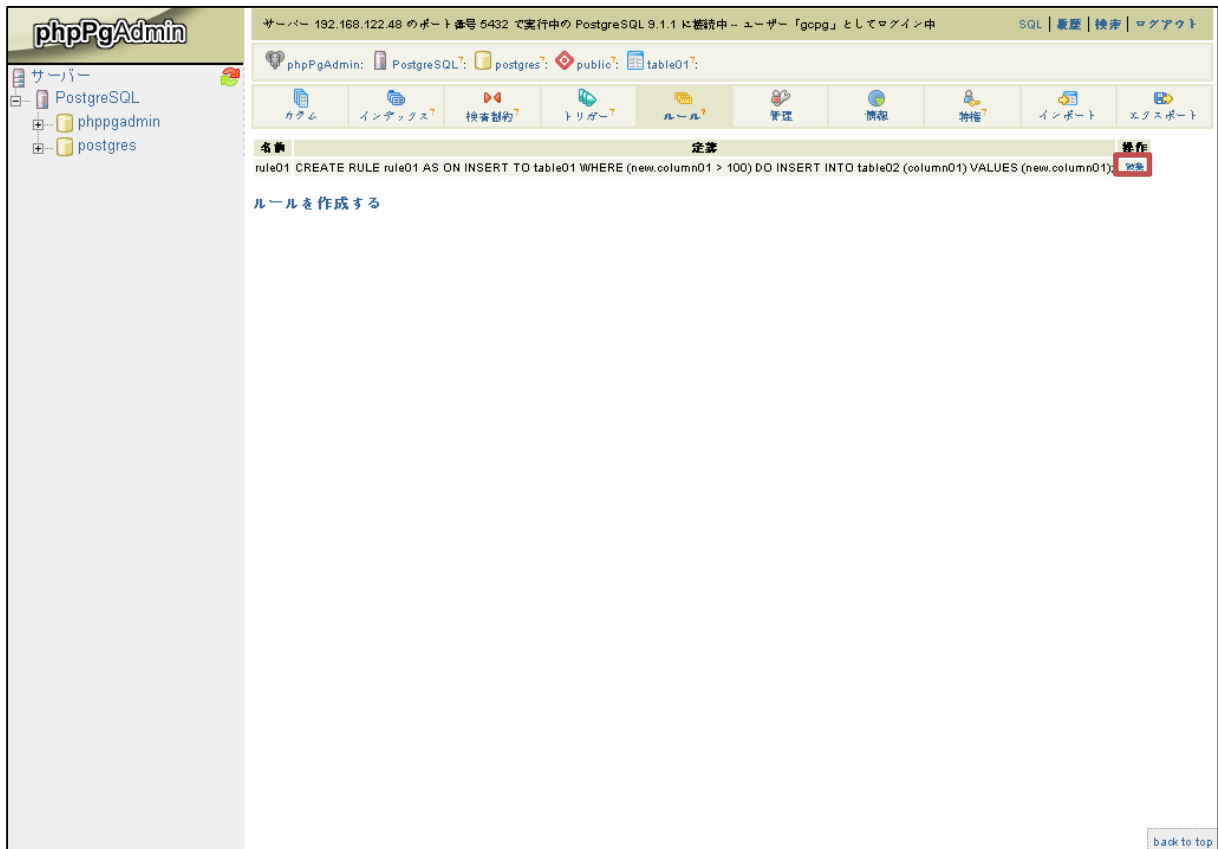


図 2-9-96 「テーブルのルール一覧操作」

② 「テーブルのルールの破棄」で[はい]ボタンをクリックします。

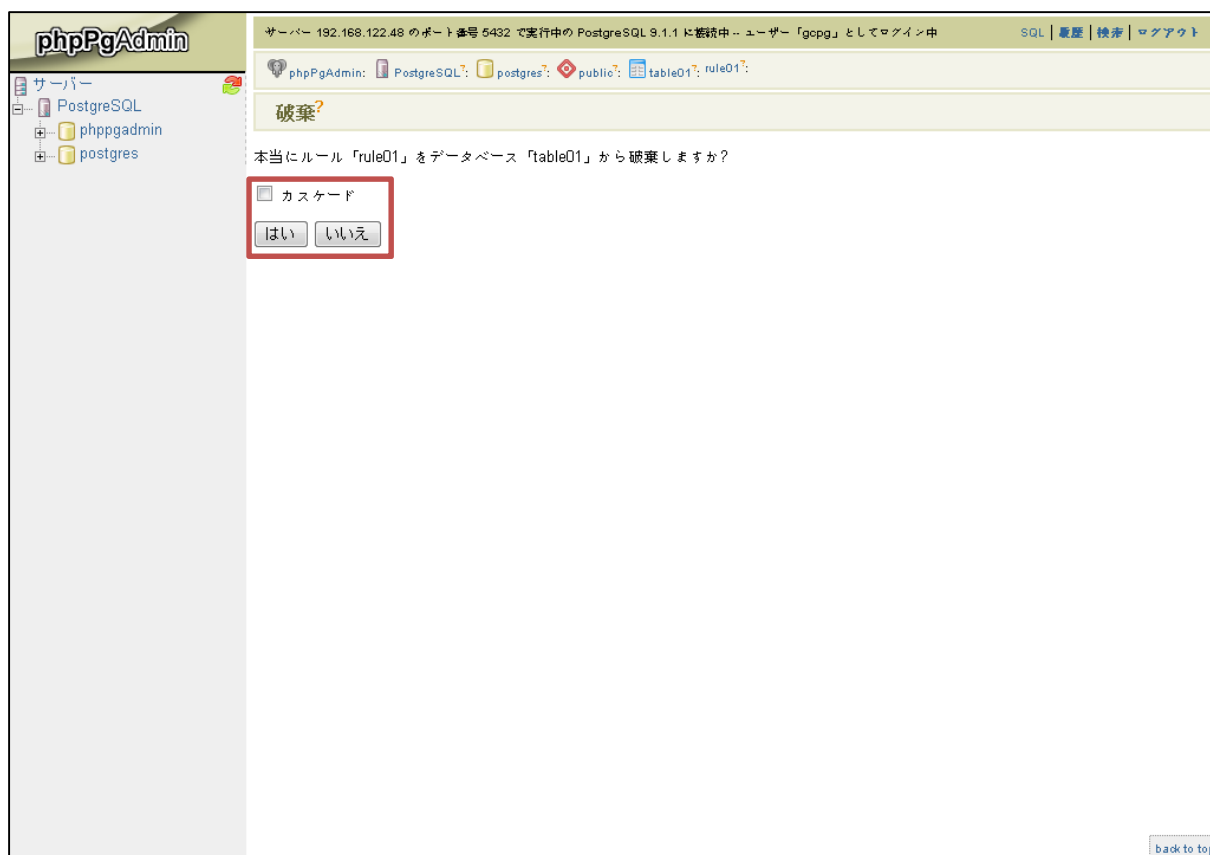


図 2-9-97 「テーブルのルールの破棄」

表 2-9-98 テーブルのルールの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するルールにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[はい]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのルール一覧操作」で破棄されたことを確認します。

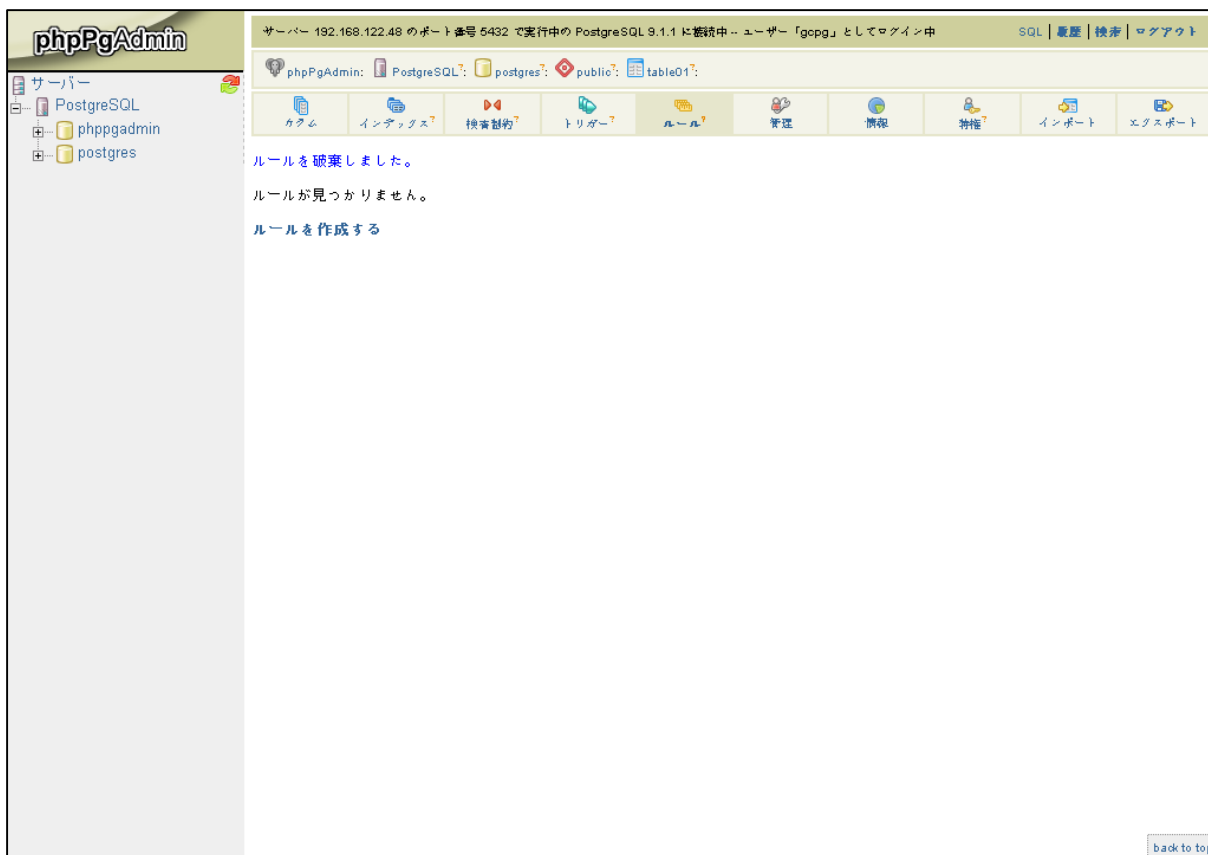


図 2-9-99 「テーブルのルール一覧操作」

2-9-5-II. テーブルのルールの作成

★ 新しい書き換えルールを定義します。

① 「テーブルのルール一覧操作」で[ルールを作成する]をクリックします。

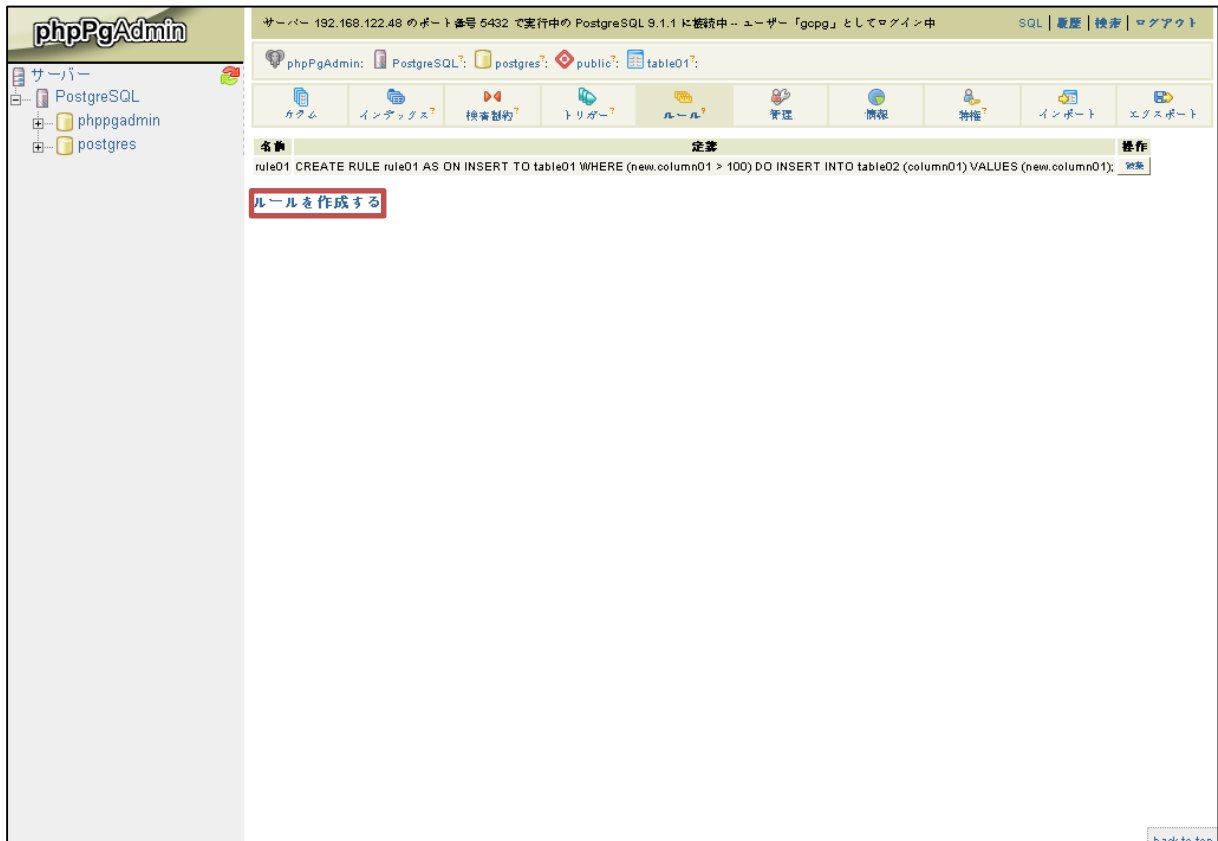


図 2-9-100 「テーブルのルール一覧操作」

② 「テーブルのルールを作成」で[作成]ボタンをクリックします。

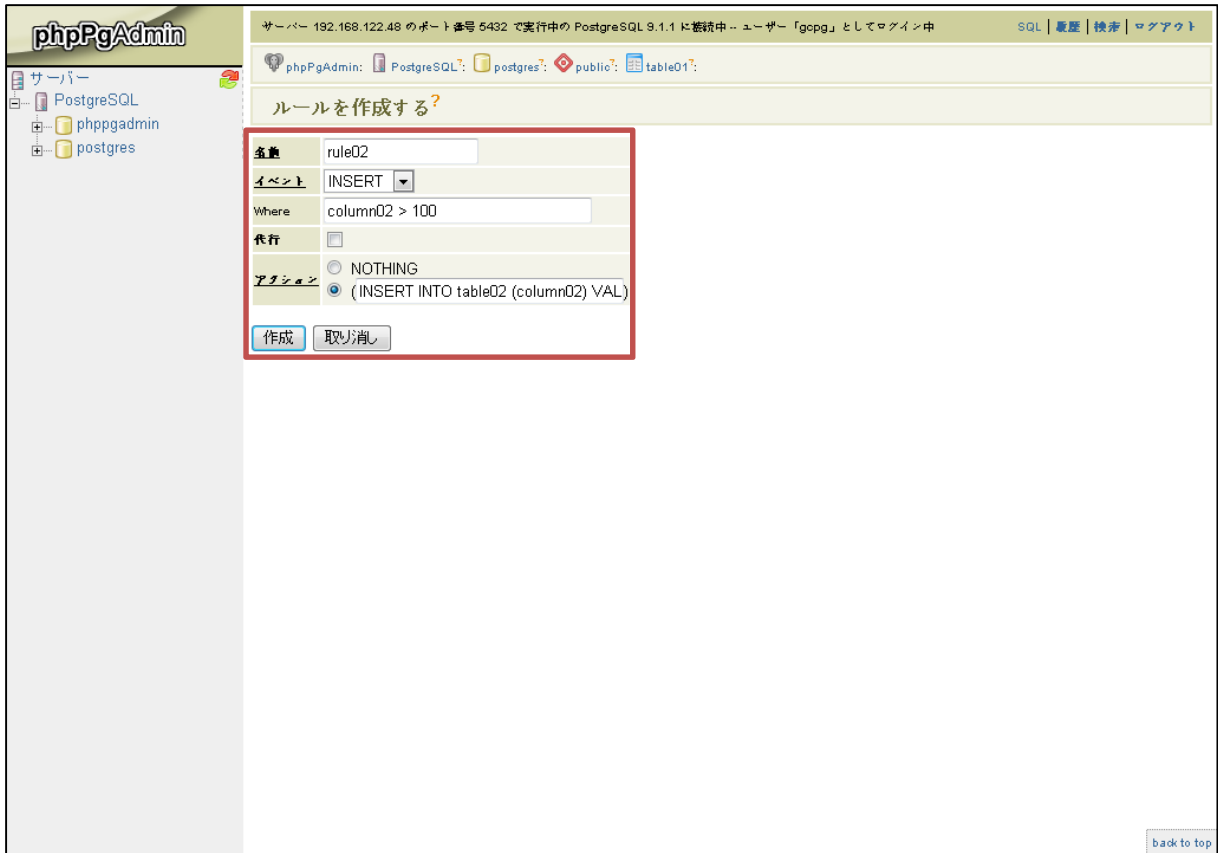


図 2-9-101 「テーブルのルールの破棄」

表 2-9-102 テーブルのトリガーの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ルールの名称を指定します。
2	[イベント]	対象とするイベントを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT ● INSERT ● UPDATE ● DELETE
3	[Where]	条件式を指定します。
4	[代行]	本項目を有効にすると、元のコマンドの代替としてアクションで指定したコマンドを実行します。

5	[アクション]	アクションを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● NOTHING : 何もしません。 ● “任意のコマンド” : 記述されたコマンドを実行します。
6	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

なお、[Where]と[アクション]では、特殊な記述、OLD と NEW を使用できます。OLD は既存の行、NEW は新しい行を示します。

③ 「テーブルのルール一覧操作」で作成されたことを確認します。

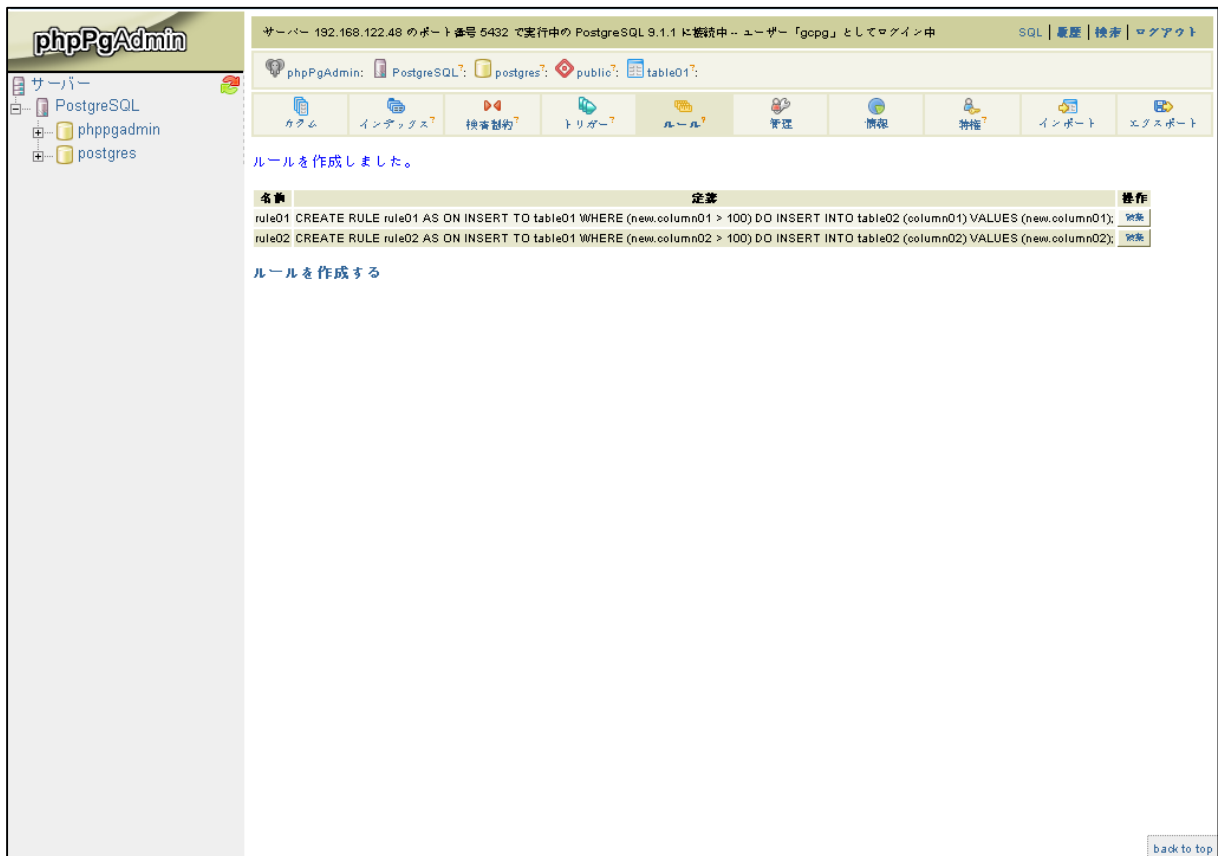


図 2-9-103 「テーブルのルール一覧操作」

2-9-6 テーブルの管理

★ 「テーブルの管理」を表示します。テーブルのバキューム、解析、クラスタ化、再インデックスができます。また、自動バキュームの追加、編集、削除ができます。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [管理] をクリックします。

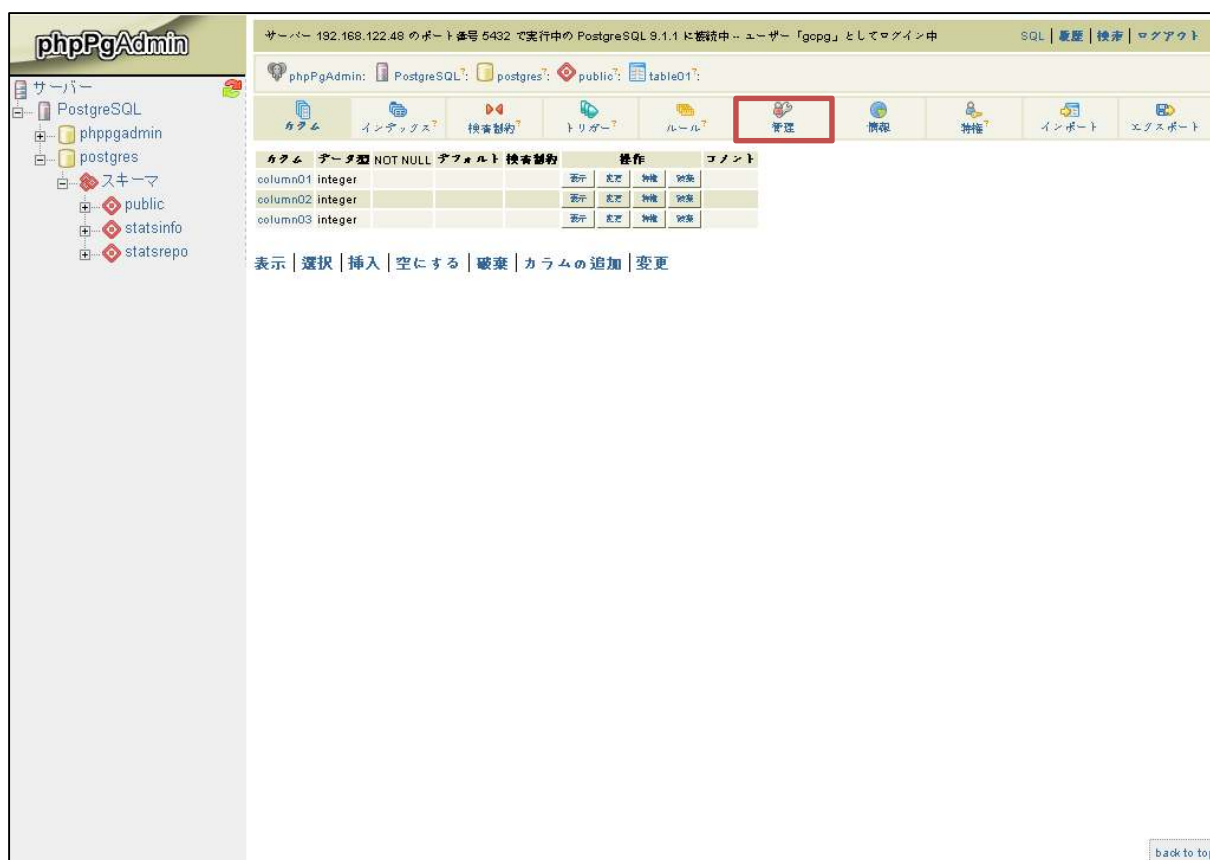


図 2-9-104 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルの管理」 の表示を確認します。

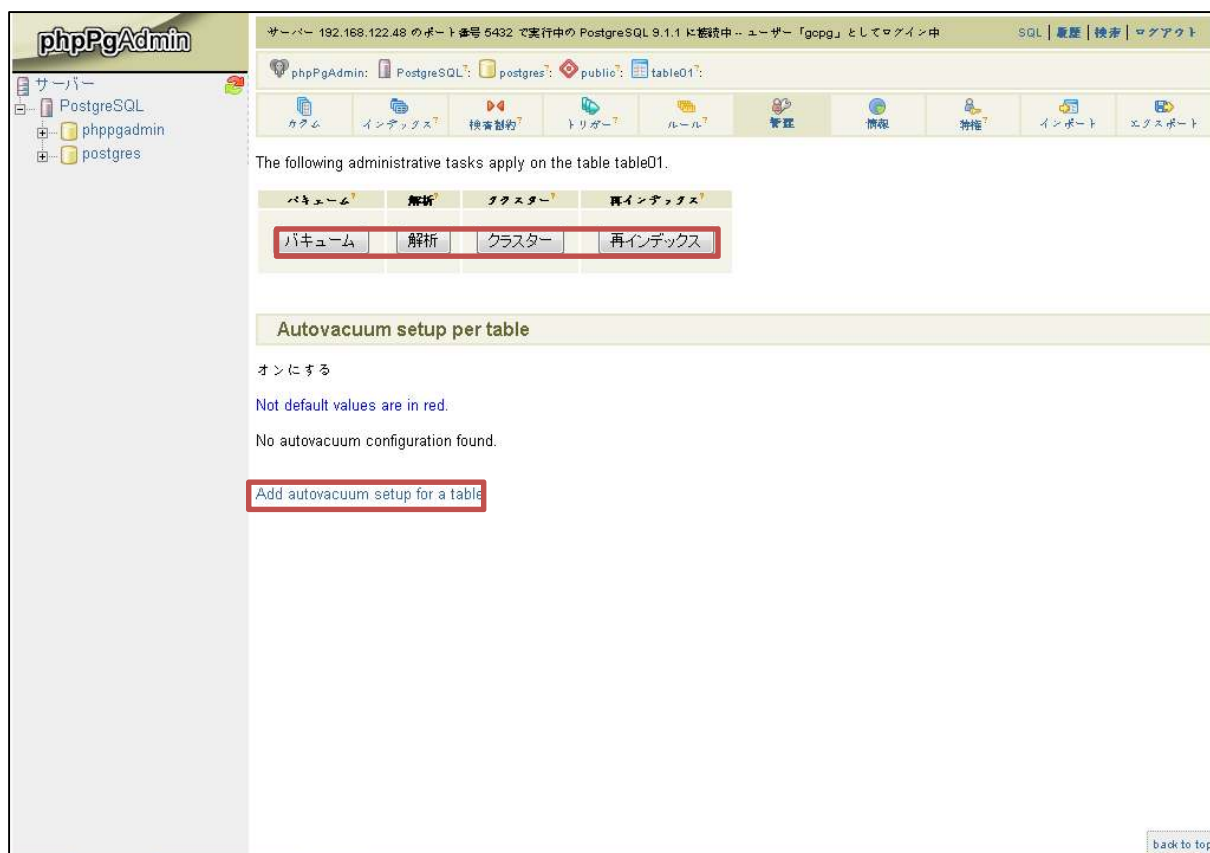


図 2-9-105 「テーブルの管理」

表 2-9-106 テーブルの管理画面項目

NO	項目名	説明
1	[バキューム]ボタン	データベースの不要領域を回収します。(VACUUM に相当)
2	[解析]ボタン	データベースについての統計を集計します。(ANALYZE に相当)
3	[クラスター]ボタン	インデックスに従ってテーブルをクラスター化します。(CLUSTER に相当)
4	[再インデックス]ボタン	インデックスを再構築します。(REINDEX に相当)
5	[Add autovacuum setup for a table]	テーブルの自動バキュームを追加します。

2-9-6-I. テーブルのバキューム

★ データベースの不要領域を回収します。

① 「テーブルの管理」で[バキューム]ボタンをクリックします。

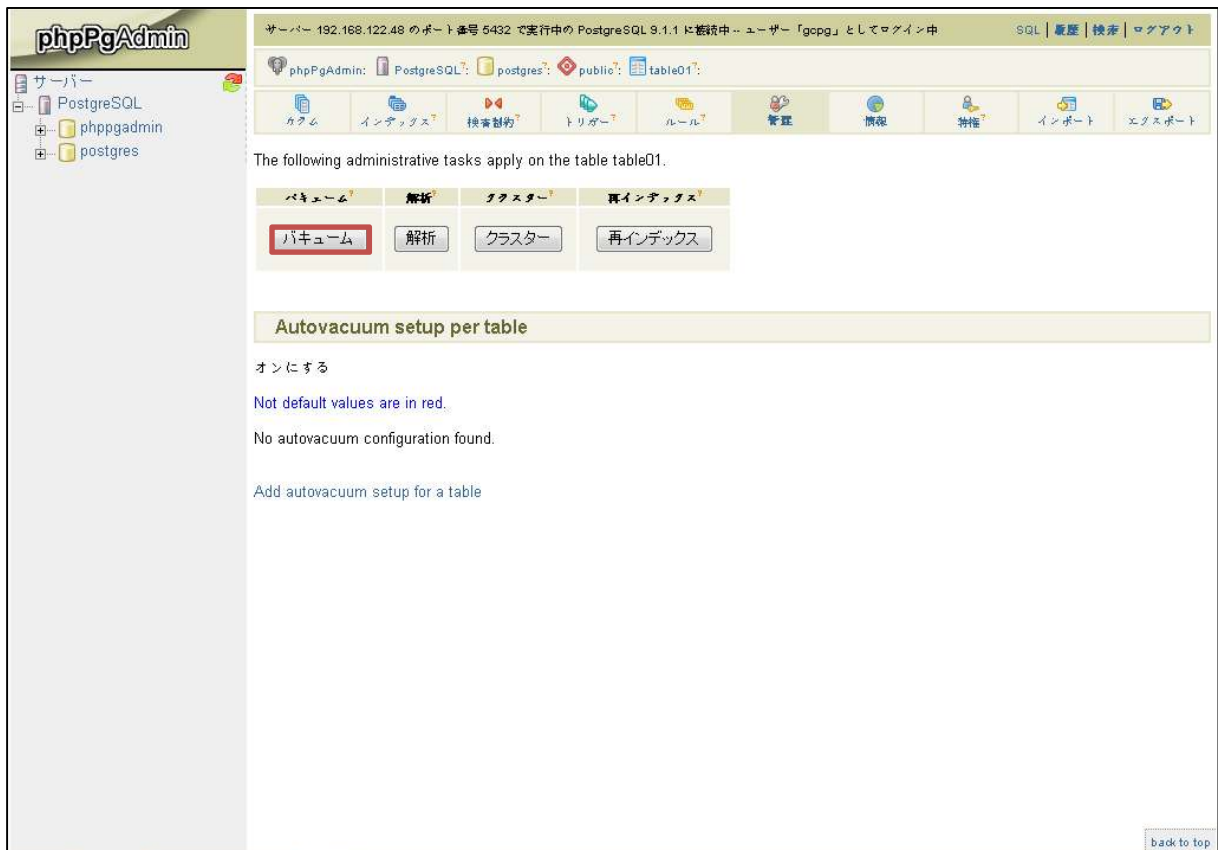


図 2-9-107 「テーブルの管理」

② 「テーブルのバキューム」 で[バキューム]ボタンをクリックします。

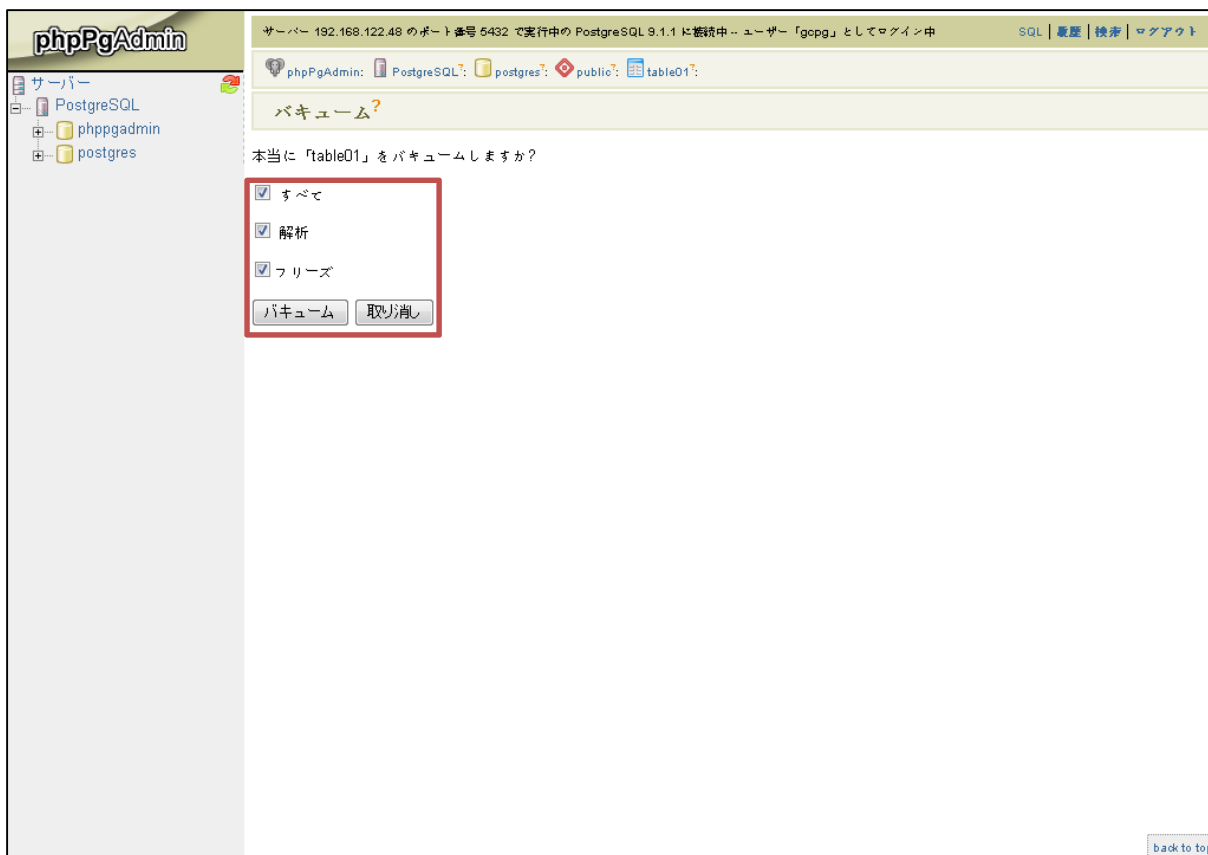


図 2-9-108 「テーブルのバキューム」

表 2-9-109 テーブルのバキューム画面項目

NO	項目名	説明
1	[すべて]	本項目を有効にすると、完全なバキュームを実行します。ただし、通常よりも時間がかかります。また、排他ロックも必要になります。
2	[解析]	ANALYZE を実行し、統計情報を更新します。
3	[フリーズ]	積極的にタプルの凍結(トランザクション ID を特殊な ID に置き換える処理)を行います。
4	[バキューム]ボタン	バキューム操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」でバキュームが実行されたことを確認します。

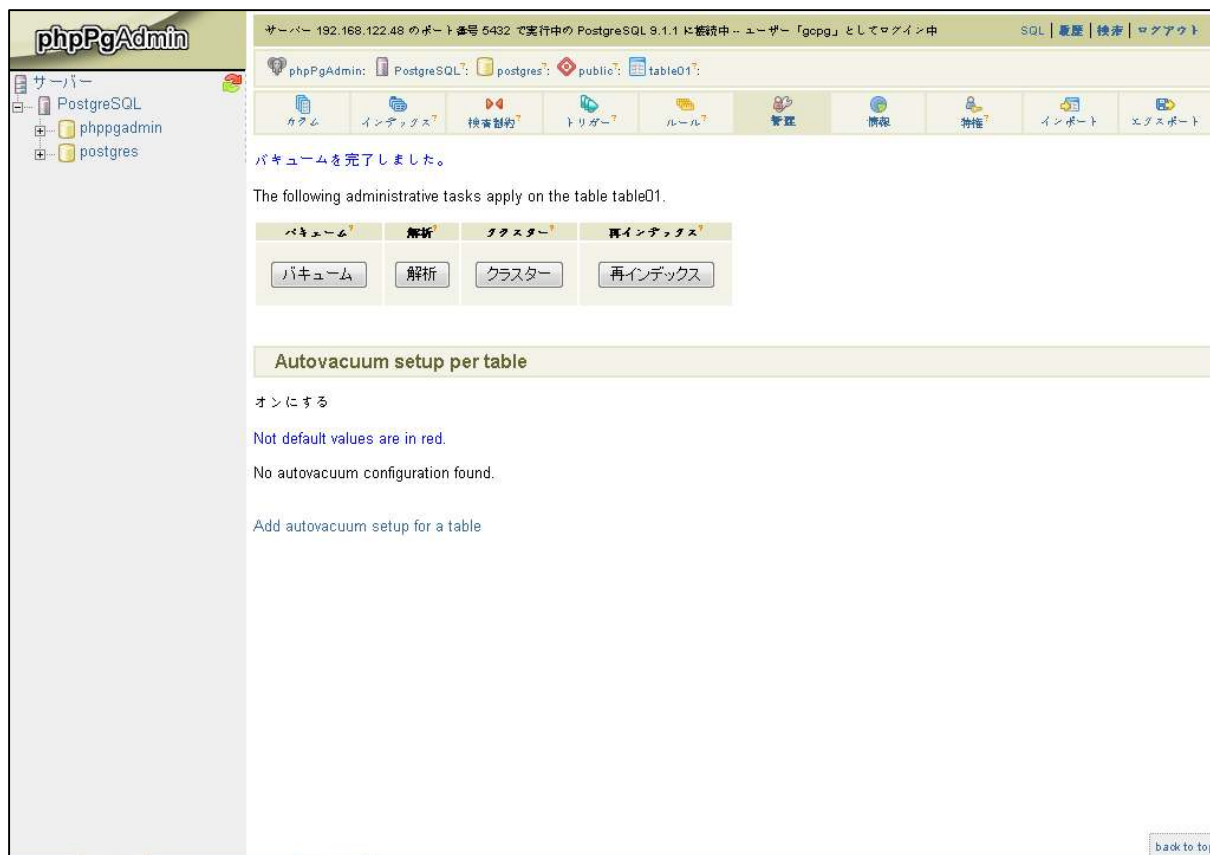


図 2-9-110 「テーブルの管理」

2-9-6-II. テーブルの解析

★ データベースについての統計を集計します。

① 「テーブルの管理」で[解析]ボタンをクリックします。

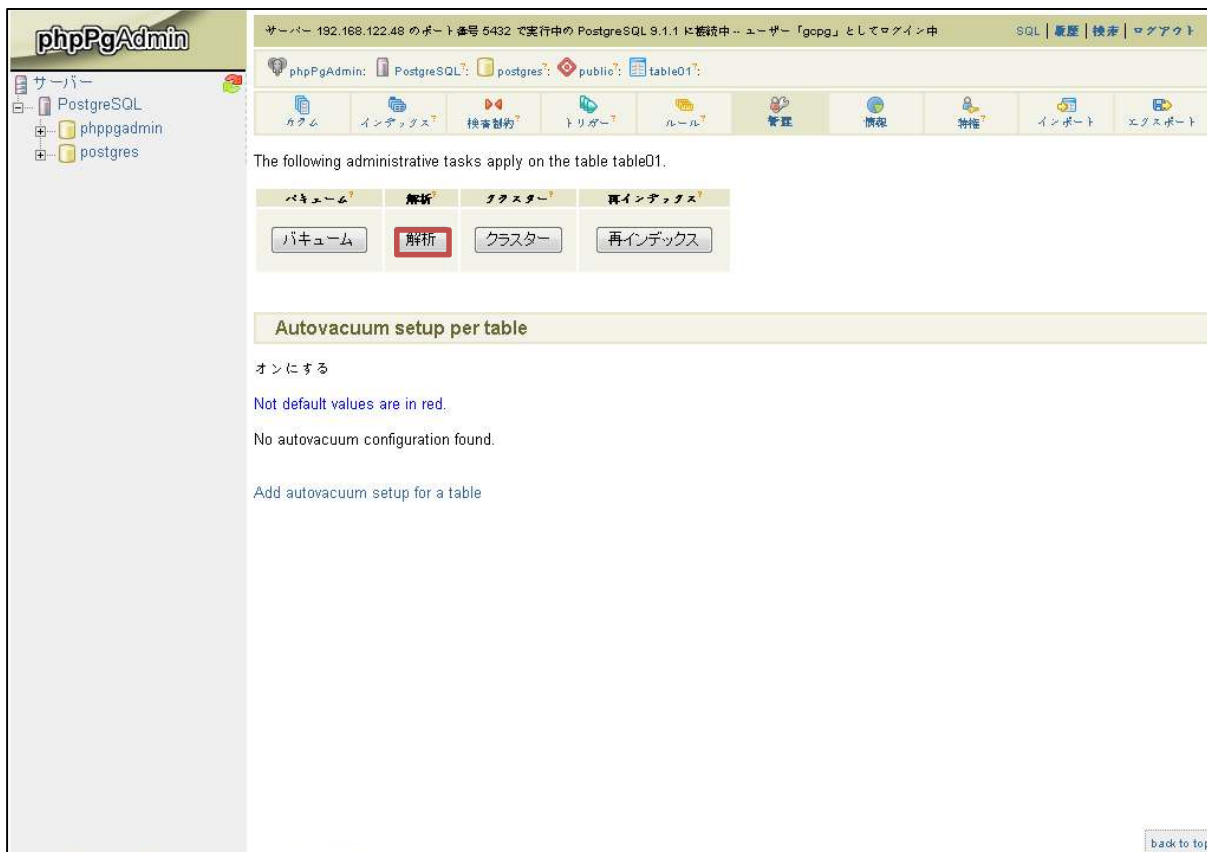


図 2-9-111 「テーブルの管理」

② 「テーブルの解析」で[解析]ボタンをクリックします。

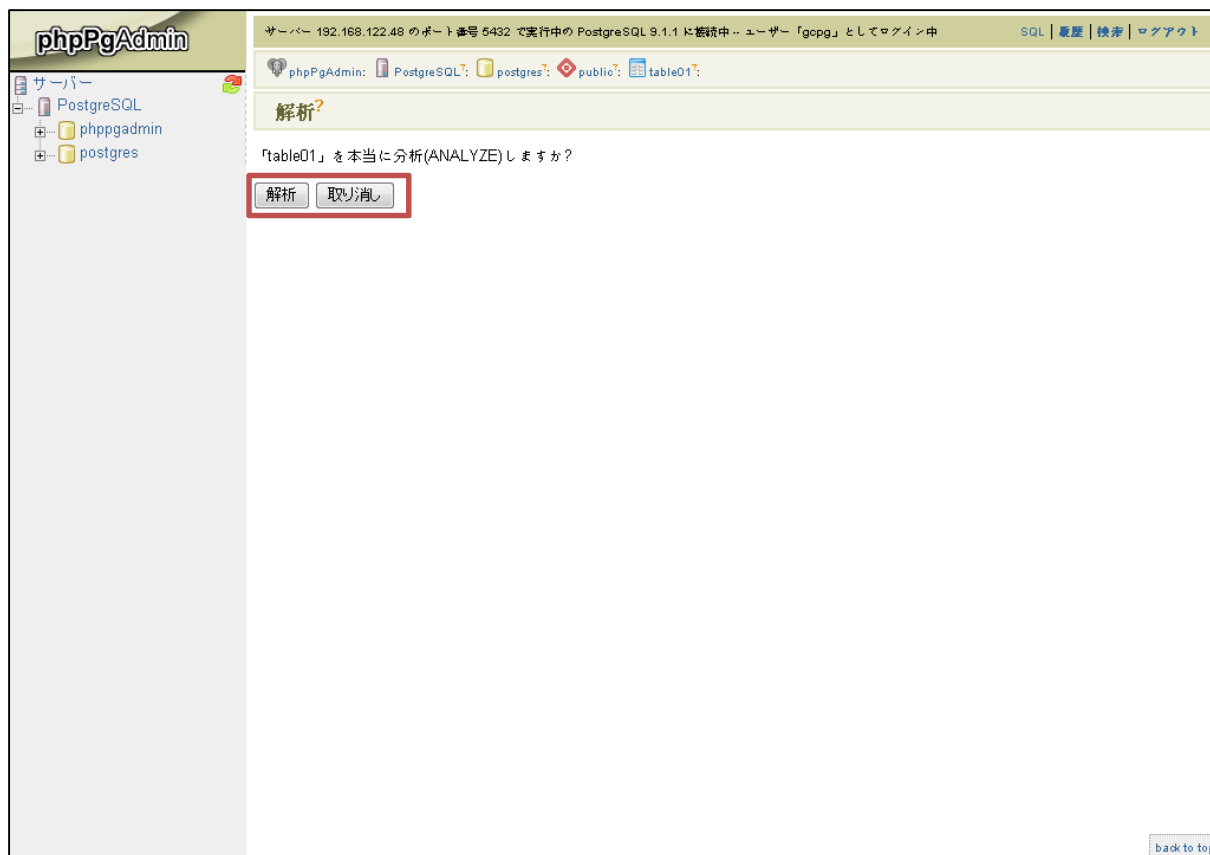


図 2-9-112 「テーブルの解析」

表 2-9-113 テーブルの解析画面項目

NO	項目名	説明
1	[解析]ボタン	解析操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」で解析が実行されたことを確認します。

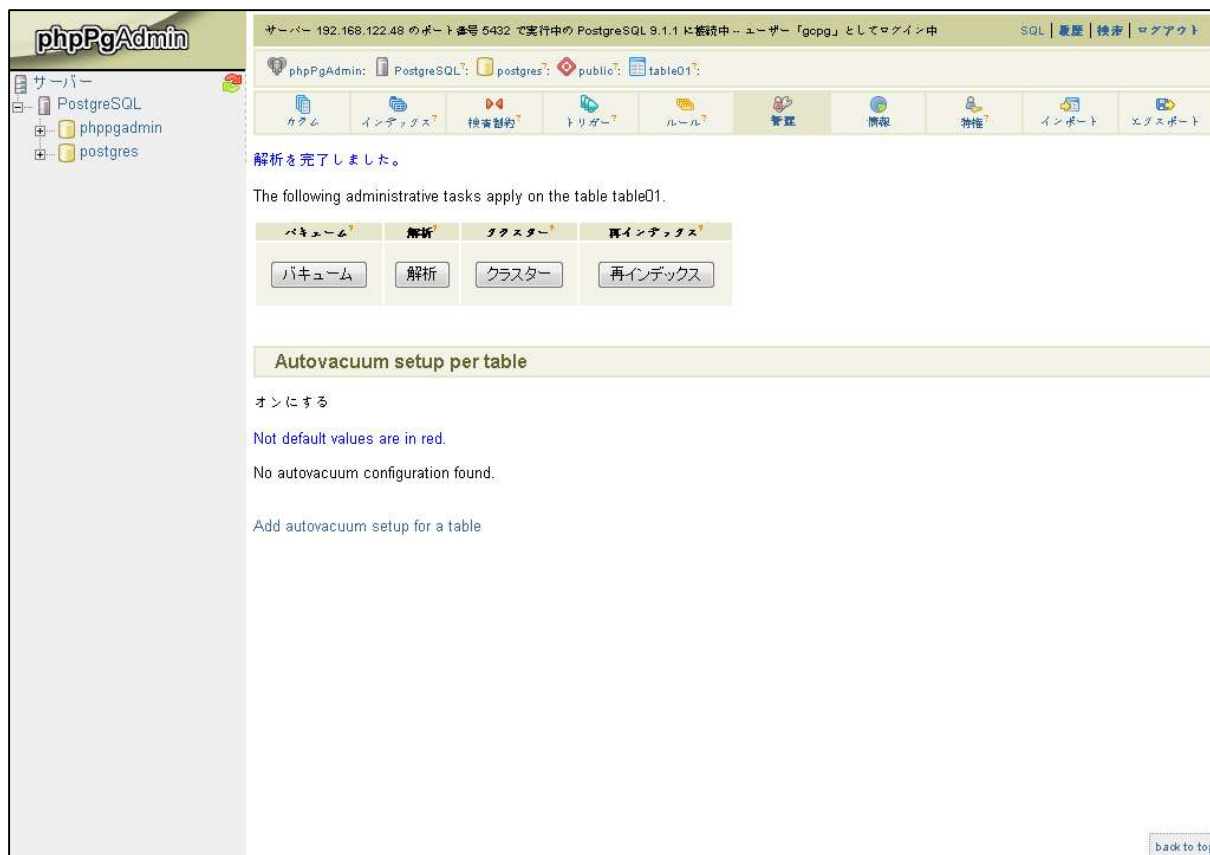


図 2-9-114 「テーブルの管理」

2-9-6-III. テーブルのクラスター化

★ インデックスに従ってテーブルをクラスター化します。

① 「テーブルの管理」で[クラスター]ボタンをクリックします。

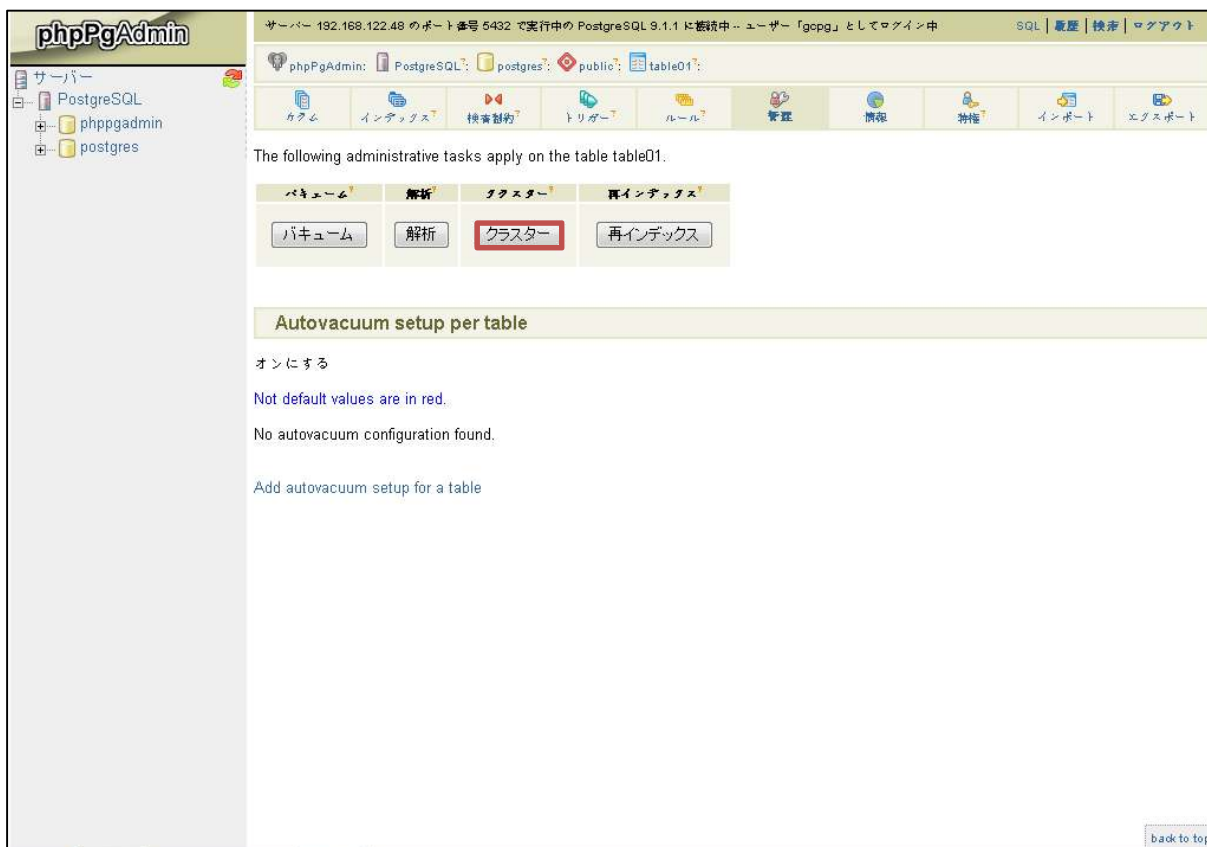


図 2-9-115 「テーブルの管理」

② 「テーブルのクラスター化」で[クラスター]ボタンをクリックします。

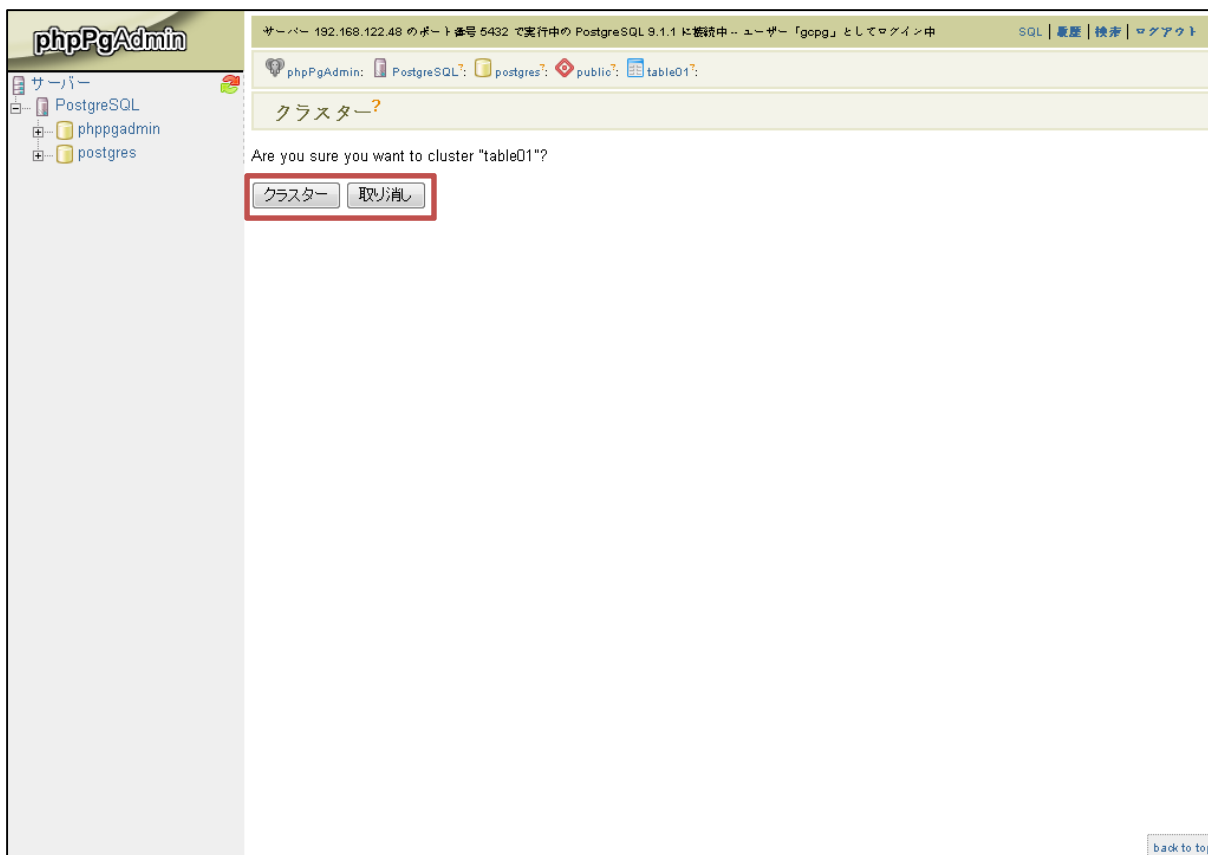


図 2-9-116 「テーブルのクラスター化」

表 2-9-117 テーブルのクラスター化画面項目

NO	項目名	説明
1	[クラスター]ボタン	クラスター化操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」でクラスター化が実行されたことを確認します。

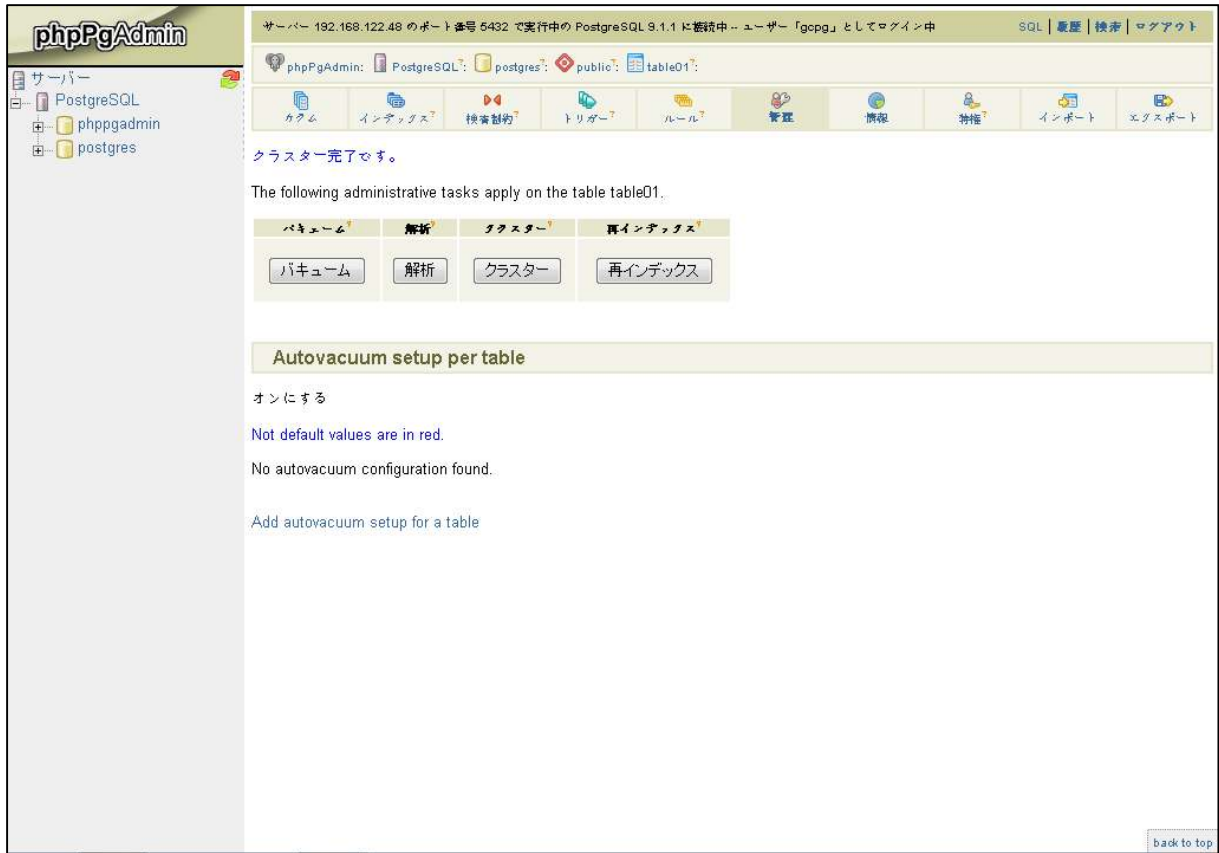


図 2-9-118 「テーブルの管理」

2-9-6-IV. テーブルの再インデックス

★ インデックスを再構築します。

① 「テーブルの管理」で[再インデックス]ボタンをクリックします。

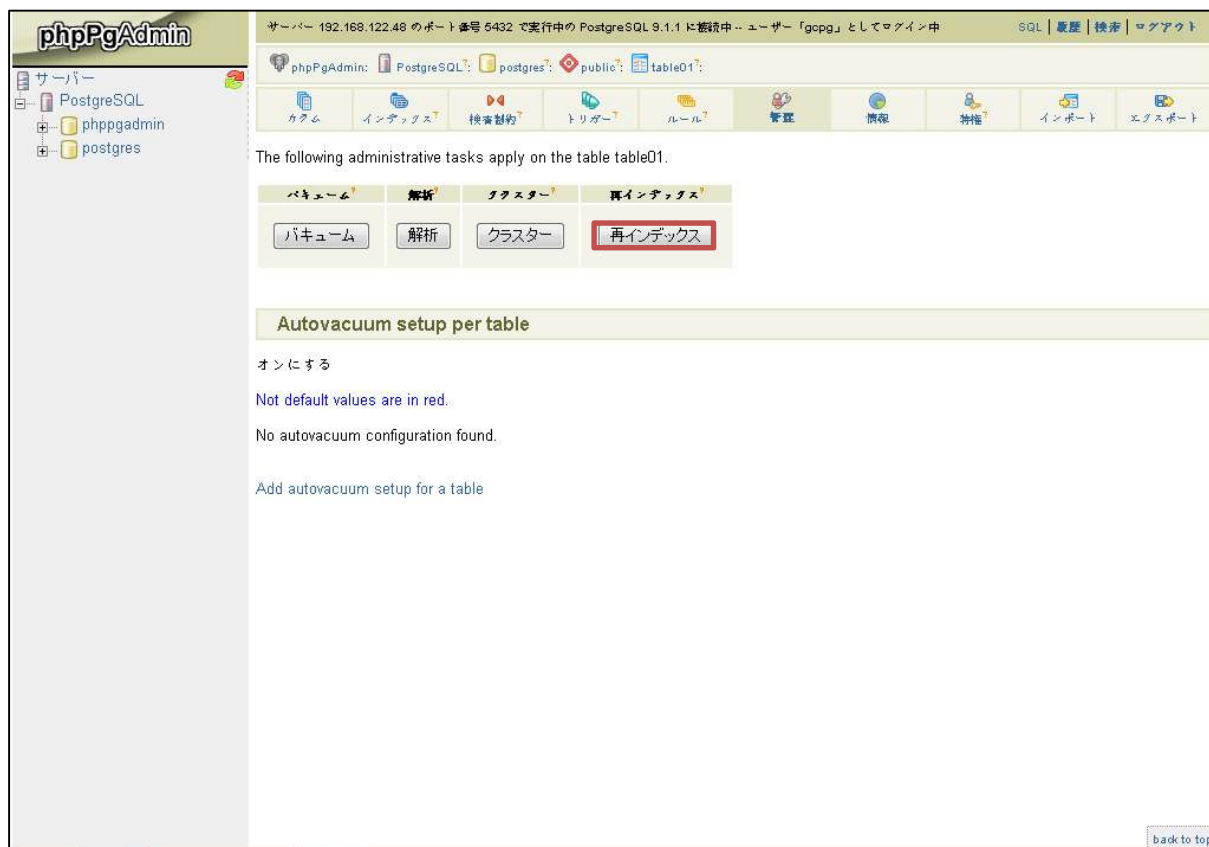


図 2-9-119 「テーブルの管理」

② 「テーブルの再インデックス」で[再インデックス]ボタンをクリックします。

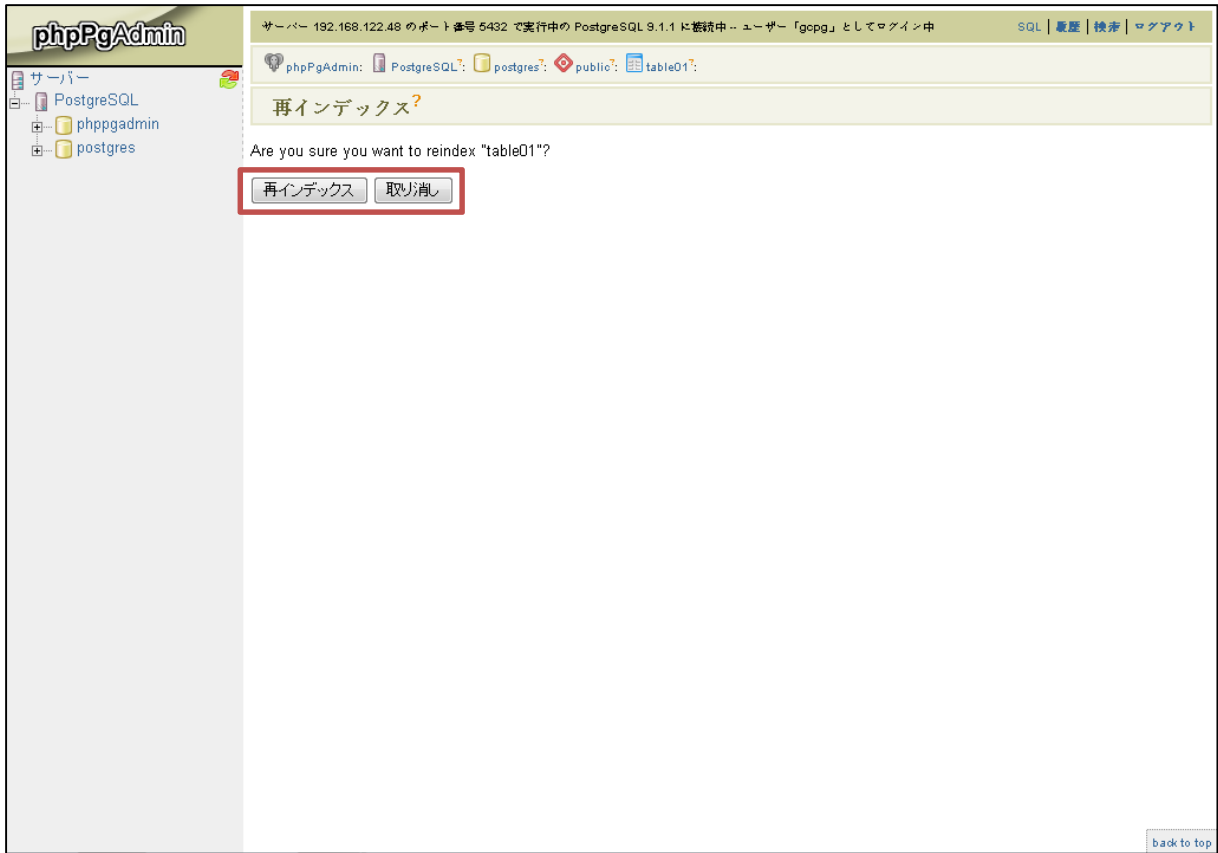


図 2-9-120 「テーブルの再インデックス」

表 2-9-121 テーブルの再インデックス画面項目

NO	項目名	説明
1	[再インデックス]ボタン	再インデックス操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」で再インデックスが実行されたことを確認します。

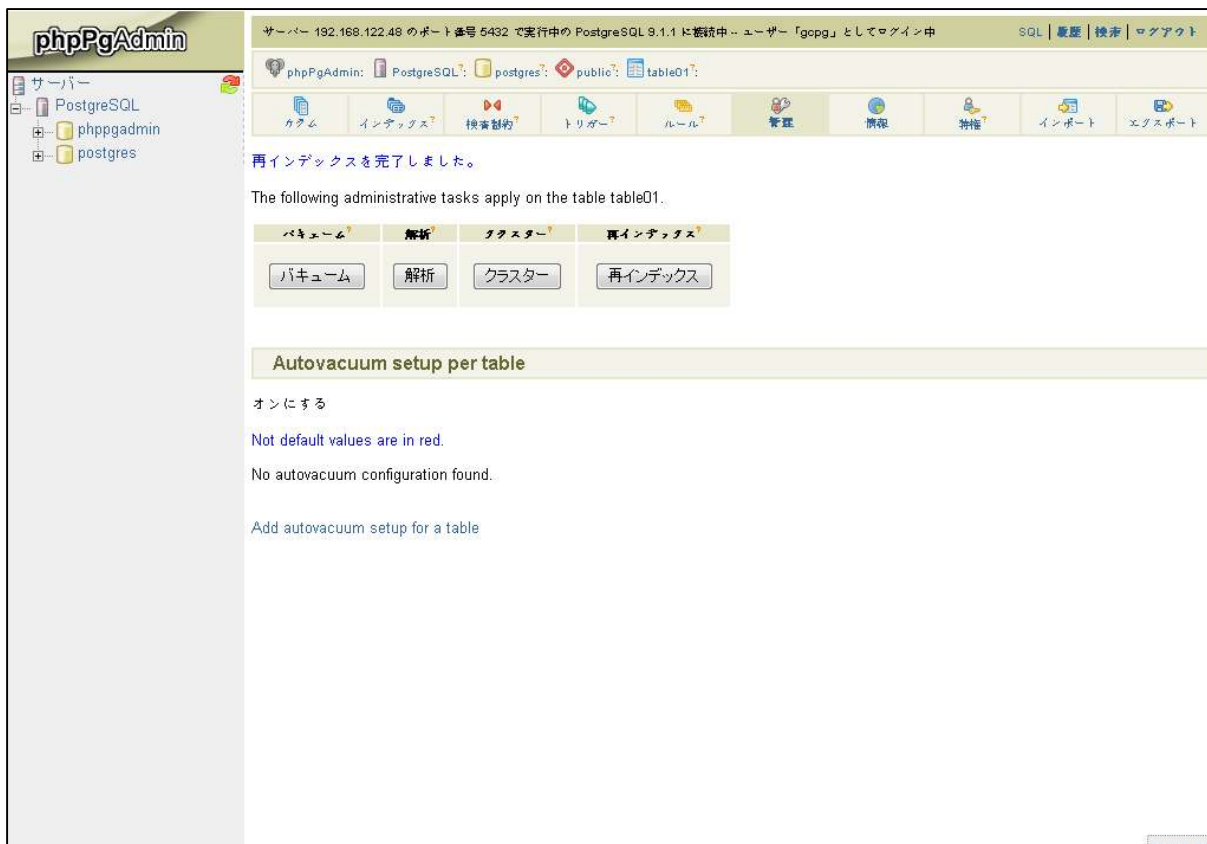


図 2-9-122 「テーブルの管理」

2-9-6-V. テーブルの自動バキュームの追加

★ 自動バキュームを追加します。

① 「テーブルの管理」で[Add autovacuum setup for a table]をクリックします。

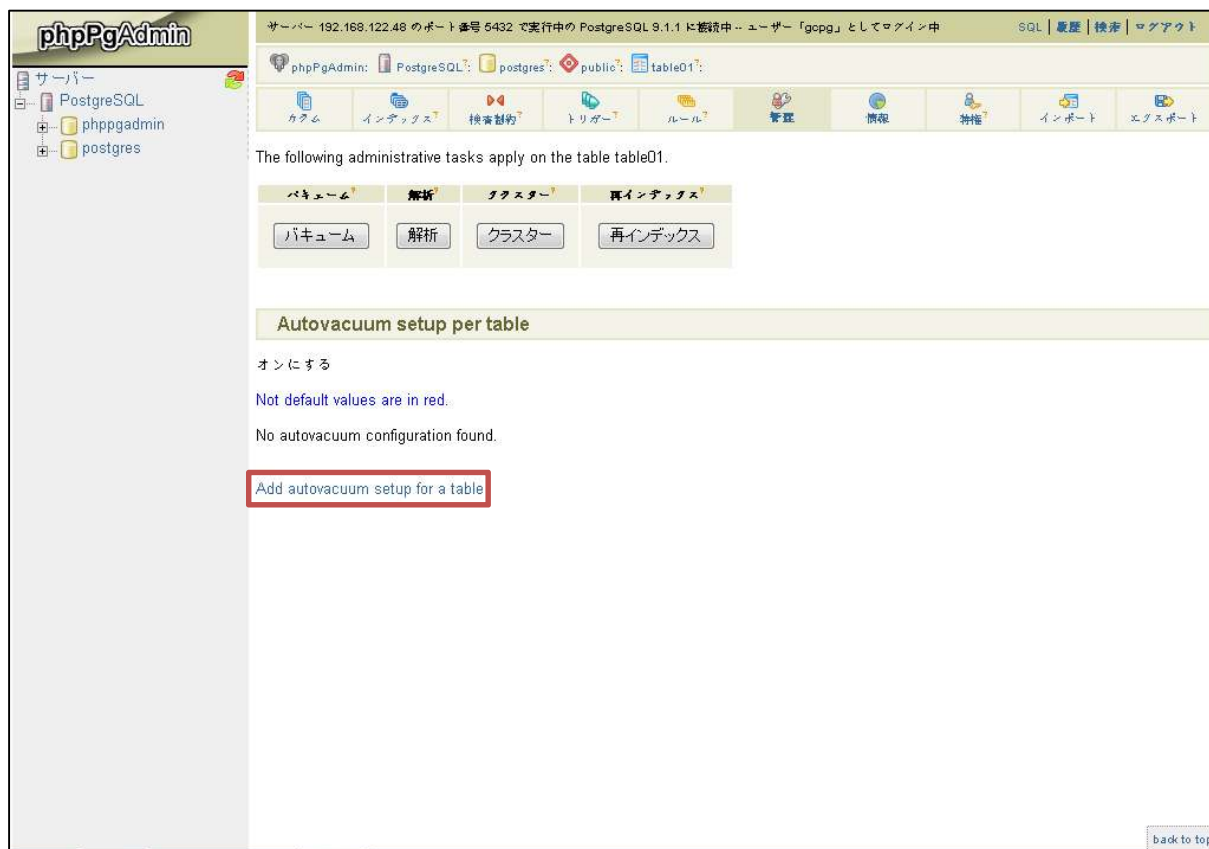


図 2-9-123 「テーブルの管理」

② 「テーブルの自動バキュームの追加」で[保存]ボタンをクリックします。

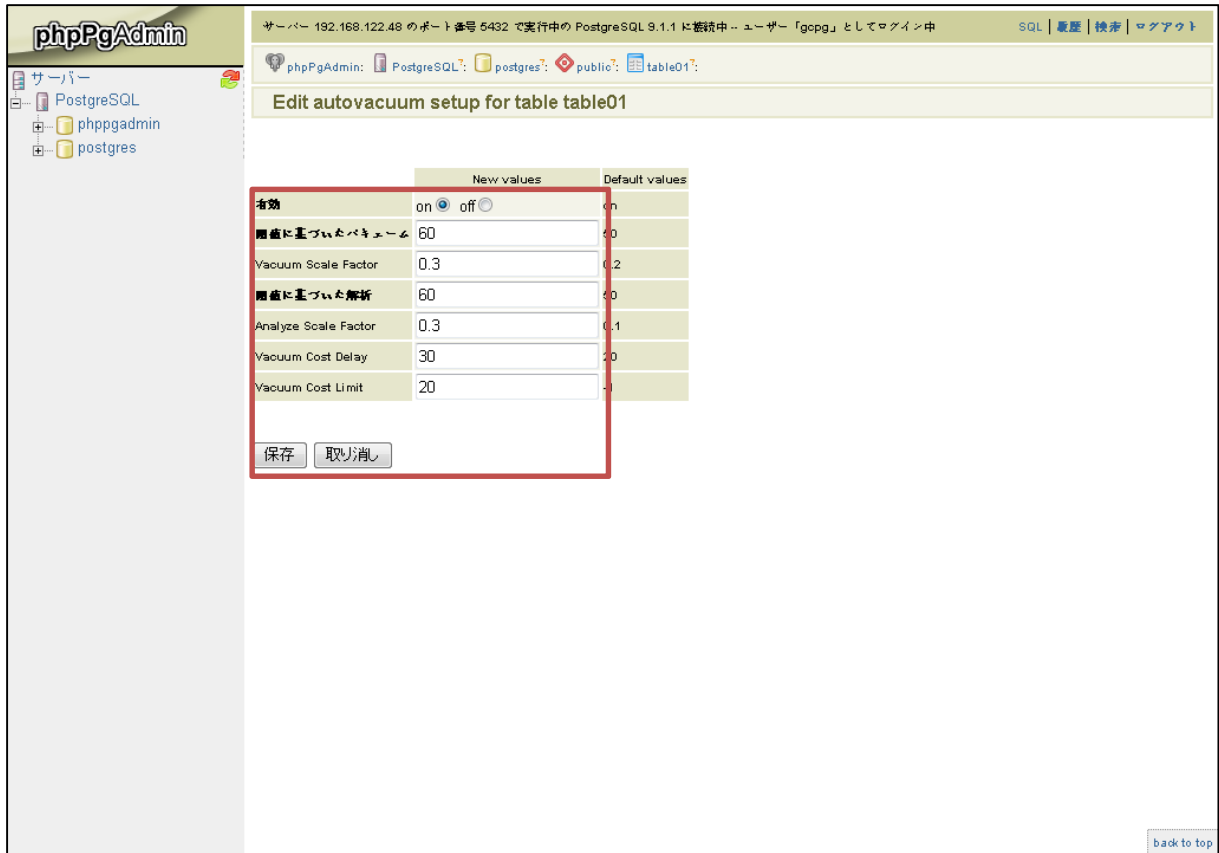


図 2-9-124 「テーブルの自動バキュームの追加」

表 2-9-125 テーブルの自動バキュームの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	有効	自動バキュームの有効無効を切り替えます。
2	閾値に基づいたバキューム	バキュームの契機となる閾値を算出するための値を指定します。デフォルトは 50 タプルです。 実際の閾値は以下の計算式によって算出されます。 閾値 = [Vacuum Scale Factor] * 行数 + [閾値に基づいたバキューム]
3	Vacuum Scale Factor	バキュームの契機となる閾値を算出するための係数を指定します。デフォルトは 0.2 です。 実際の閾値は以下の計算式によって算出されます。 閾値 = [Vacuum Scale Factor] * 行数 + [閾値に基づい

		たバキューム]
4	閾値に基づいた解析	<p>解析の契機となる閾値を算出するための値を指定します。デフォルトは 50 タプルです。</p> <p>実際の閾値は以下の計算式によって算出されます。</p> <p>閾値 = [Analyze Scale Factor] * 行数 + [閾値に基づいた解析]</p>
5	Analyze Scale Factor	<p>解析の契機となる閾値を算出するための係数を指定します。デフォルトは 0.1 です。</p> <p>実際の閾値は以下の計算式によって算出されます。</p> <p>閾値 = [Analyze Scale Factor] * 行数 + [閾値に基づいた解析]</p>
6	Vacuum Cost Delay	<p>自動バキュームのコスト遅延値を指定します。本項目は自動バキュームのコストが[Vacuum Cost Limit]に達した場合に、バキュームを休止する時間を示します。デフォルトは 20 ミリ秒です。-1 を指定すると、サーバ設定の vacuum_cost_delay が使用されます。</p>
7	Vacuum Cost Limit	<p>自動バキュームのコストの限界値を指定します。デフォルトは -1 です。-1 を指定すると、サーバ設定の vacuum_cost_limit が使用されます。</p>
8	[保存]ボタン	保存操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」で保存が実行されたことを確認します。

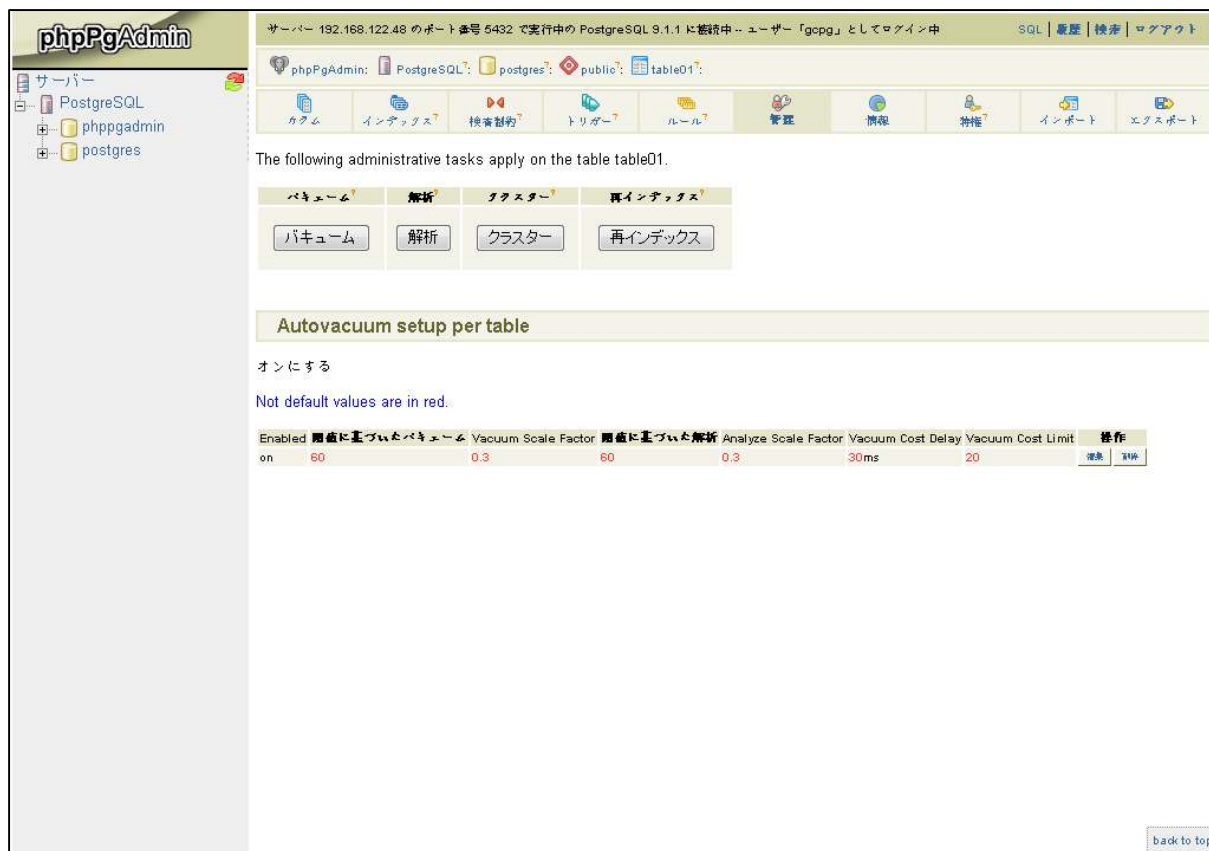


図 2-9-126 「テーブルの管理」

2-9-6-VI. テーブルの自動バキュームの編集

★ 自動バキュームを編集します。

① 「テーブルの管理」で[編集]ボタンをクリックします。

Enabled	両値に基づいたバキューム	Vacuum Scale Factor	両値に基づいた解析	Analyze Scale Factor	Vacuum Cost Delay	Vacuum Cost Limit	操作
on	60	0.3	60	0.3	30ms	20	編集 削除

図 2-9-127 「テーブルの管理」

以降は「テーブルの自動バキュームの追加」と同様のため、省略します。詳細は 2-9-6-V 「テーブルの自動バキュームの追加」を参照してください。

2-9-6-VII. テーブルの自動バキュームの削除

★ 自動バキュームを削除します。

① 「テーブルの管理」で[削除]ボタンをクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin interface for managing a table. The main content area displays the 'Autovacuum setup per table' configuration for 'table01'. The configuration is as follows:

Enabled	真空に基づいたバキューム	Vacuum Scale Factor	解析に基づいた解析	Analyze Scale Factor	Vacuum Cost Delay	Vacuum Cost Limit	操作
on	60	0.3	60	0.3	30ms	20	削除

図 2-9-128 「テーブルの管理」

② 「テーブルの自動バキュームの削除」で[はい]ボタンをクリックします。

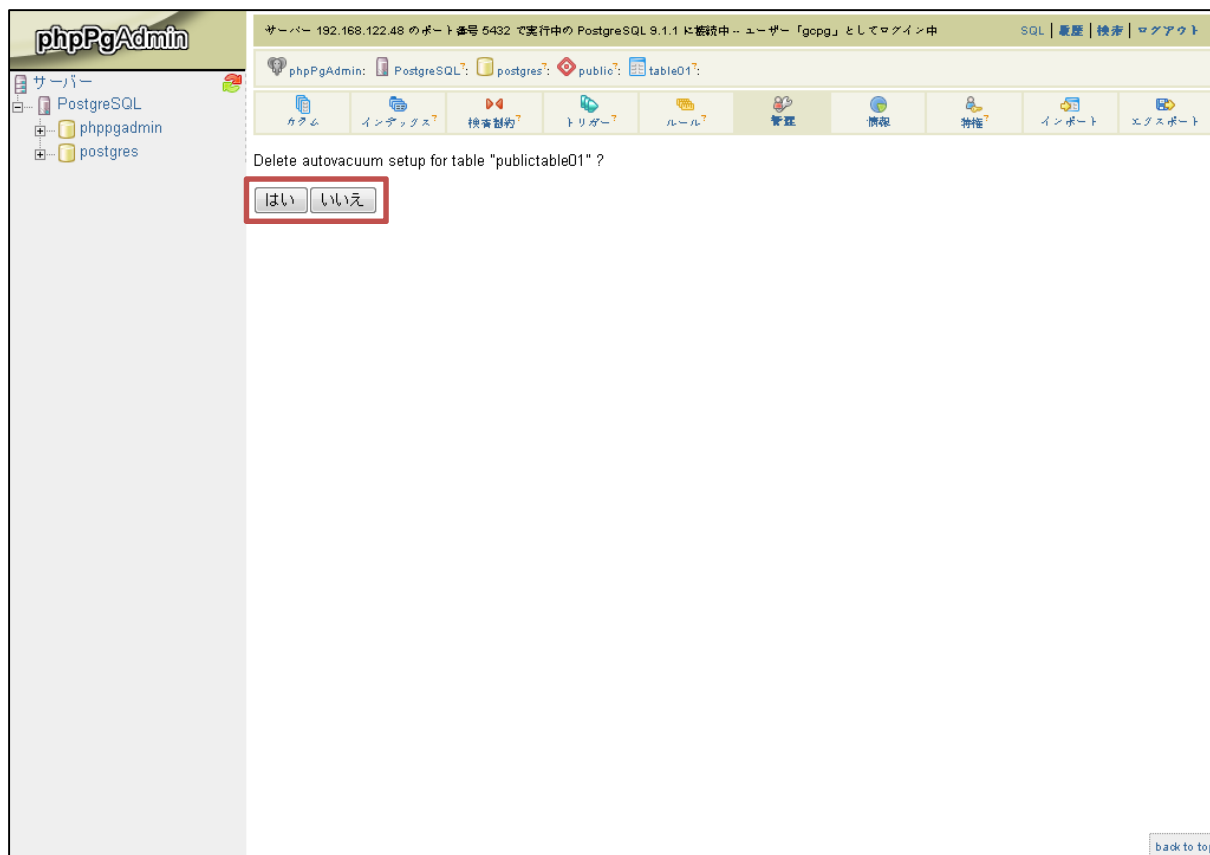


図 2-9-129 「テーブルの自動バキュームの削除」

表 2-9-130 テーブルの自動バキュームの削除画面項目

NO	項目名	説明
1	[はい]ボタン	削除操作を実行します。
2	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの管理」で削除が実行されたことを確認します。

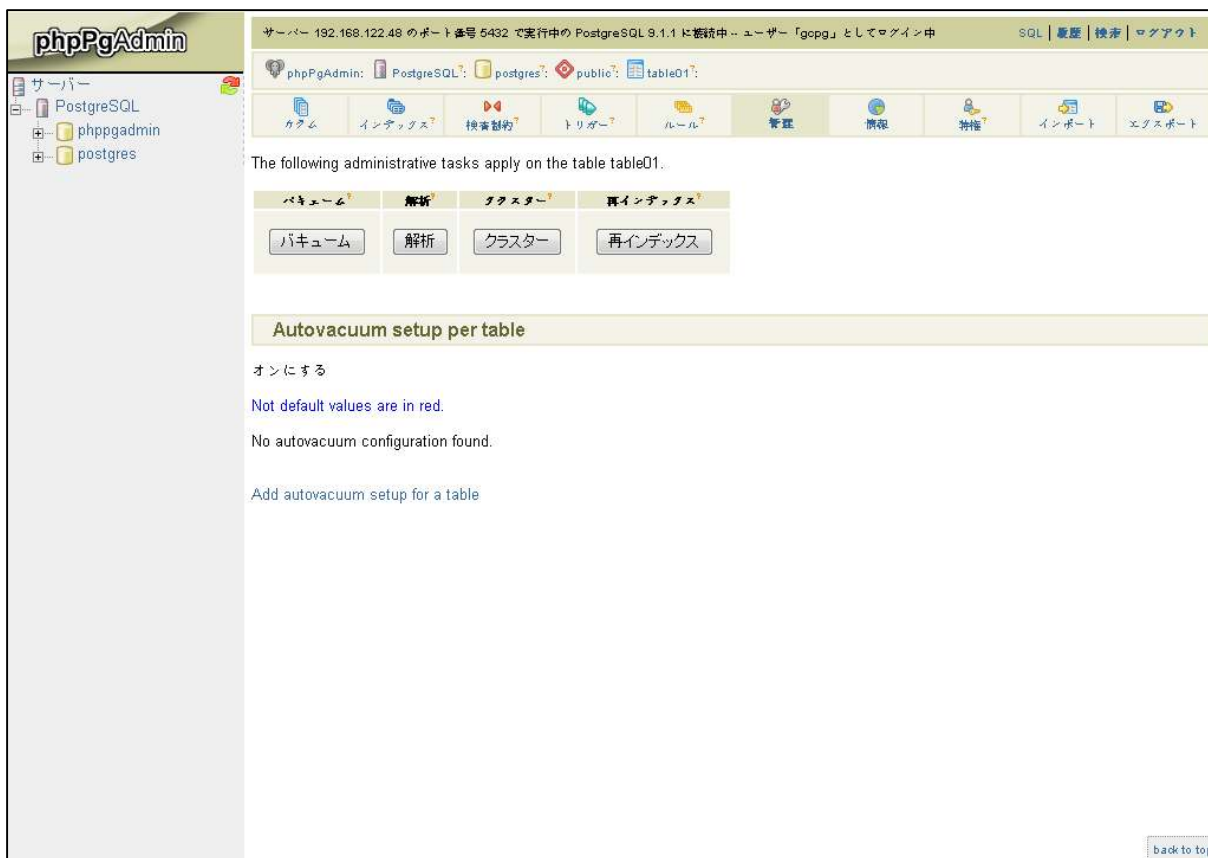


図 2-9-131 「テーブルの管理」

2-9-7 テーブルの情報

★ 「テーブルの情報」を表示します。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [情報]をクリックします。

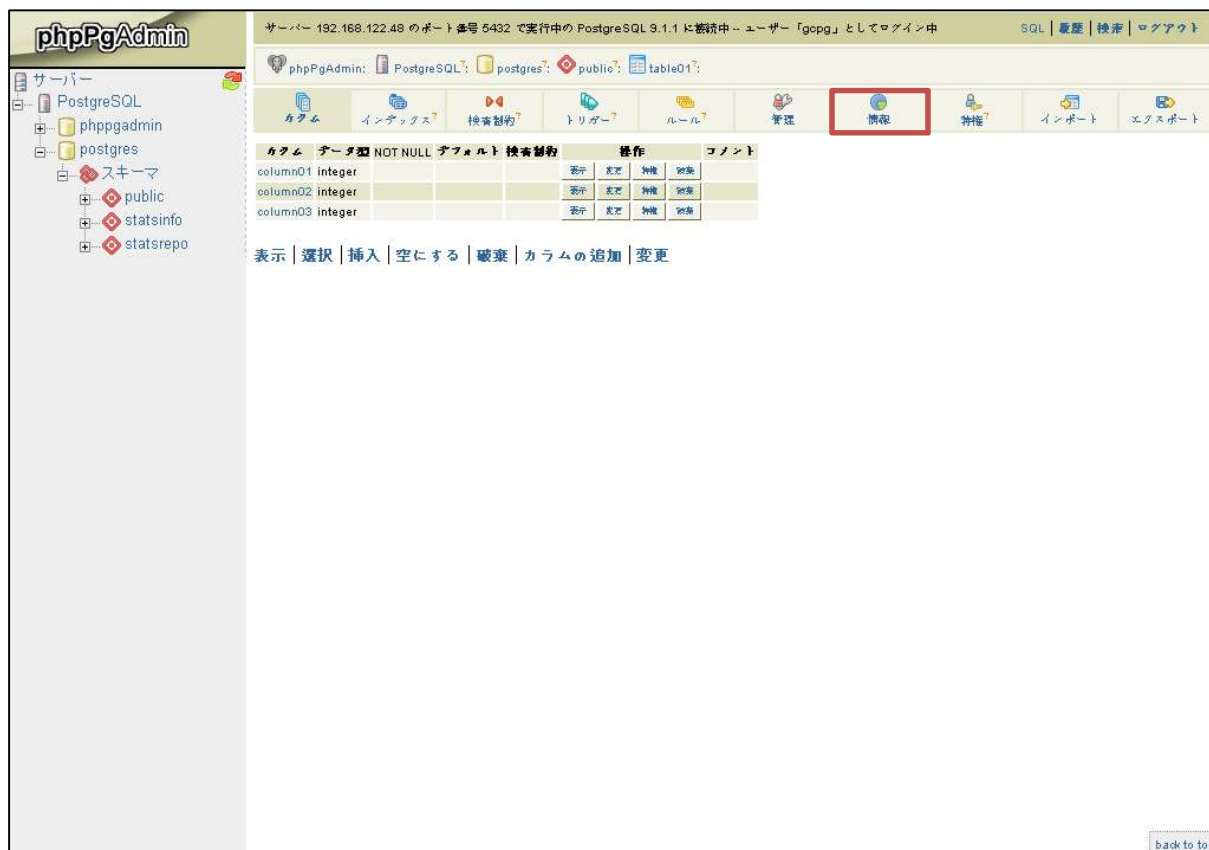


図 2-9-132 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルの情報」 の表示を確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top navigation bar includes 'サーバ', 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', and 'postgres'. The main content area displays performance metrics for a table named 'table01'.

行パフォーマンス

シーケンシャル インデックス		インデックス		行	
検索	読込	検索	取得	挿入	削除
6	0	2	0	0	0

I/O パフォーマンス

ヒープ		インデックス		TOAST		TOAST インデックス	
ディスク キャッシュ	%	ディスク キャッシュ	%	ディスク キャッシュ	%	ディスク キャッシュ	%
0	0 (0%)	2	0 (0%)	NULL	NULL	(0%) NULL	NULL (0%)

インデックス行パフォーマンス

インデックス	検索	読込	取得
index01	2	0	0

インデックス I/O パフォーマンス

インデックス	ディスク	キャッシュ	%
index01	2	0	0 (0%)

Navigation buttons at the top include: ホーム, インデックス, 検索制約, トリガー, ルール, 管理, 情報, 権限, インポート, エクスポート. A 'back to top' button is located at the bottom right.

図 2-9-133 「テーブルの情報」

2-9-8 テーブルの特権操作

★ 「テーブルの特権操作」を表示します。テーブルに対する特権の追加、破棄ができます。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [特権]をクリックします。

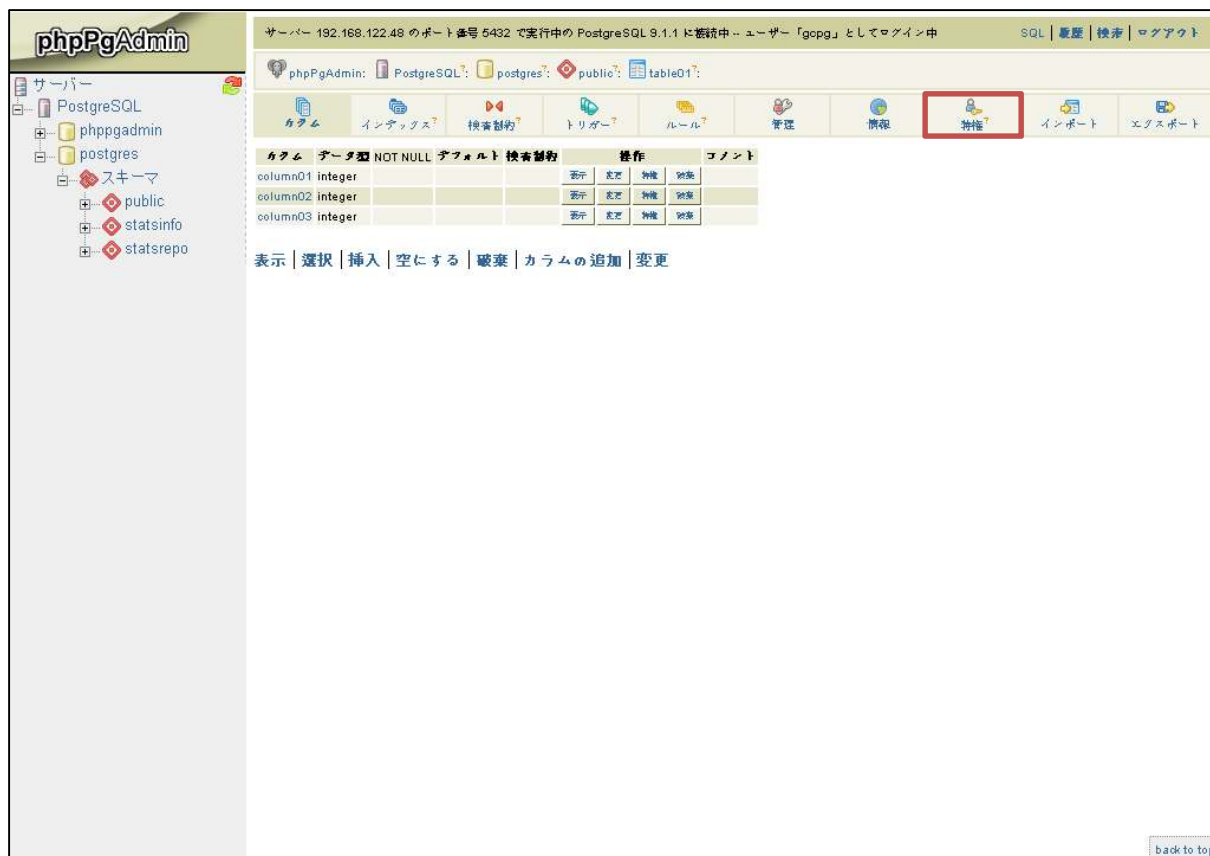


図 2-9-134 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルの特権操作」の表示を確認します。

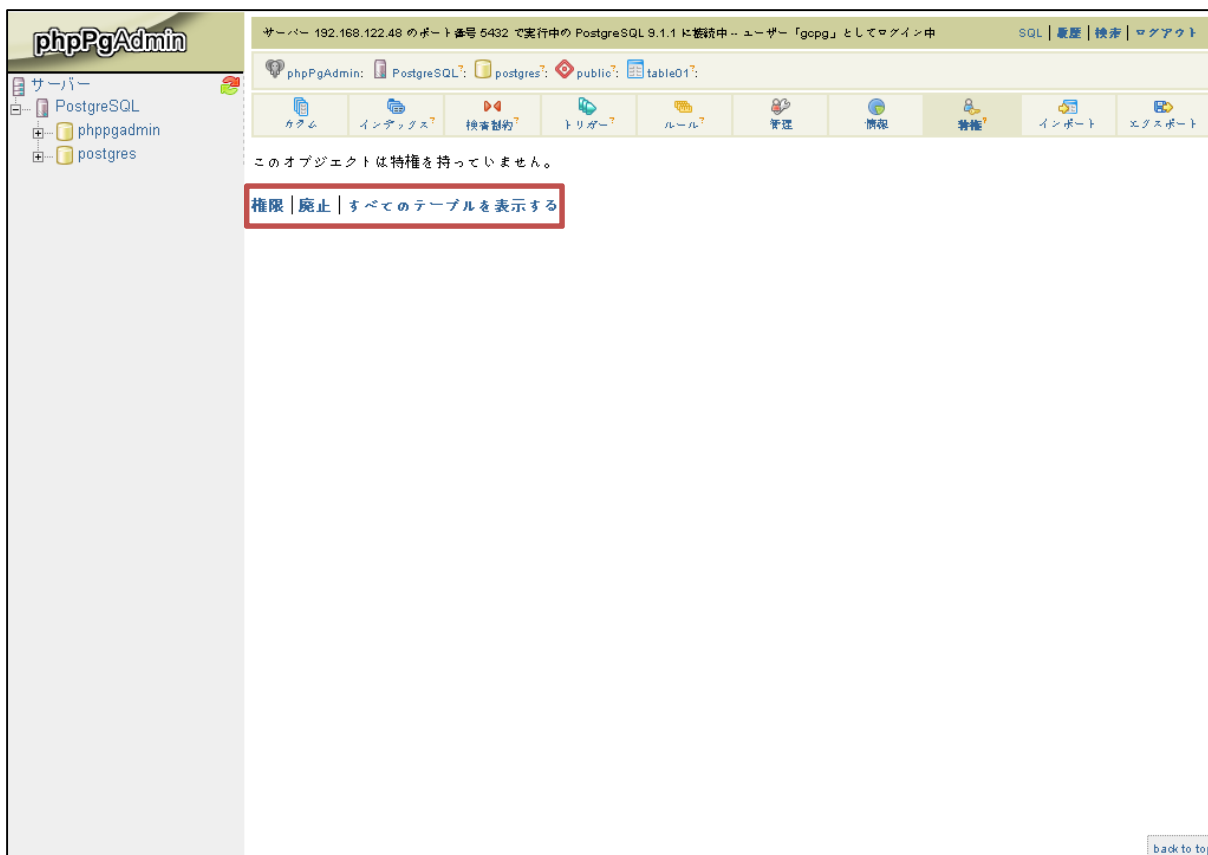


図 2-9-135 「テーブルの特権操作」

表 2-9-136 テーブルの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該テーブルについてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-9-8-I「テーブルの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該テーブルについてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-9-8-II「テーブルの特権破棄」を参照してください。
3	[すべてのテーブルを表示する]	「テーブル一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-1「テーブル一覧操作」を参照してください。

2-9-8-I. テーブルの特権追加

★ テーブルに対するアクセス権限を定義します。

① 「テーブルの特権操作」で[権限]をクリックします。

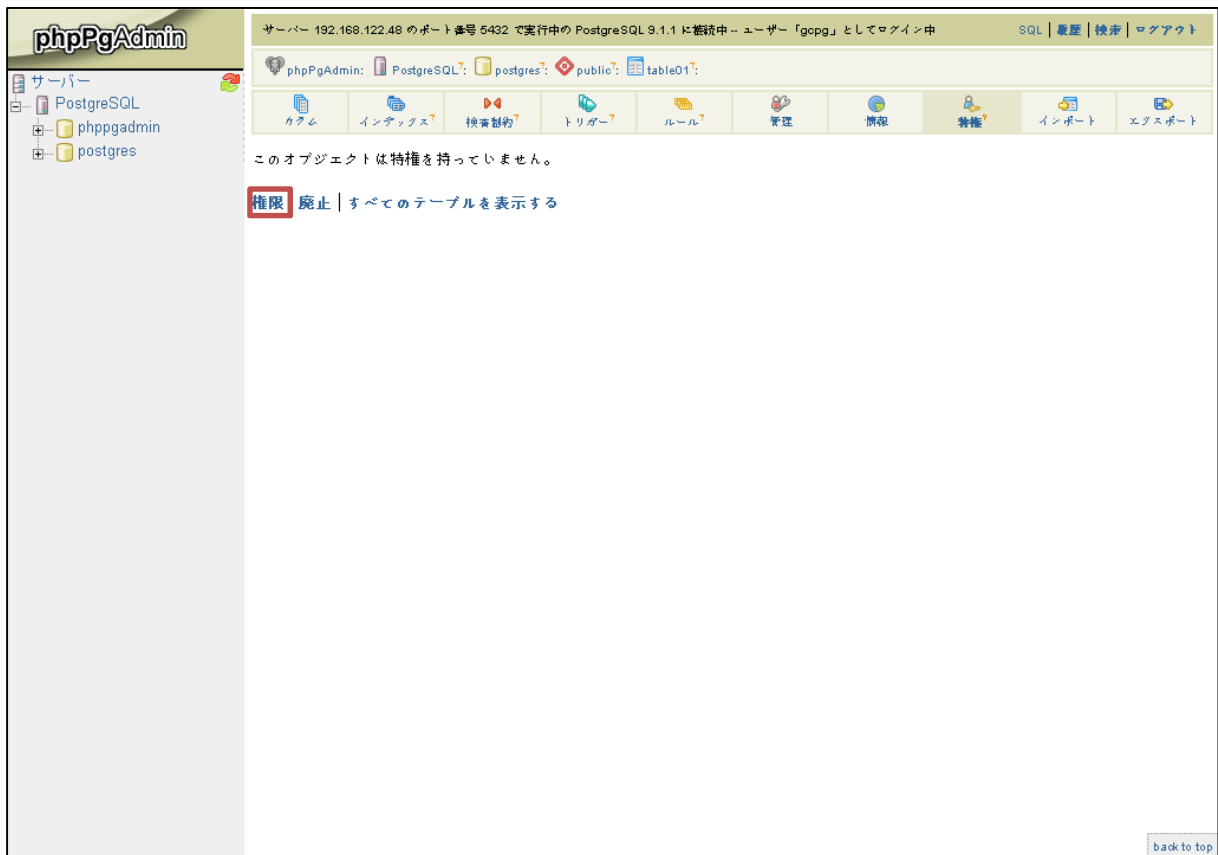


図 2-9-137 「テーブルの特権操作」

② 「テーブルの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

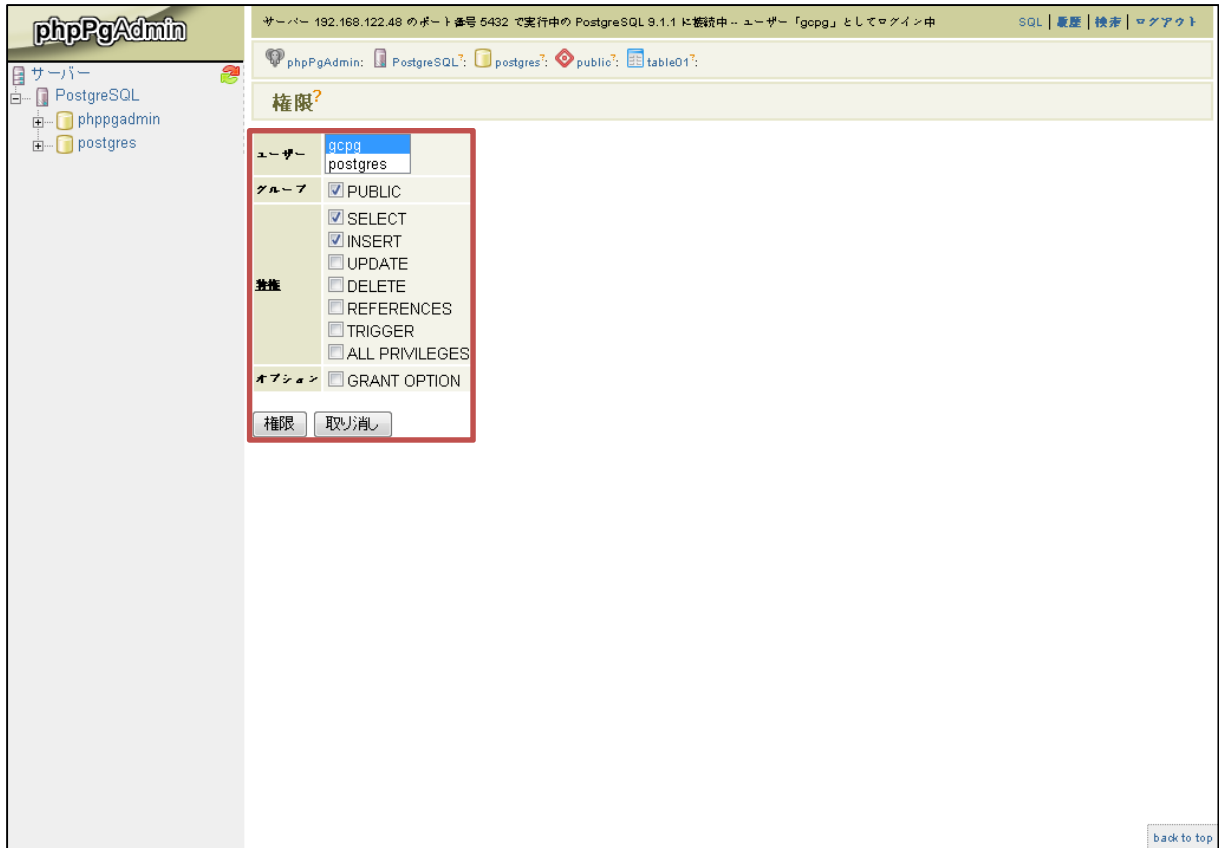


図 2-9-138 「テーブルの特権追加」

表 2-9-139 テーブルの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。

		<ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT を許可します。 ● INSERT : INSERT を許可します。 ● UPDATE : UPDATE を許可します。 ● DELETE : DELETE を許可します。 ● REFERENCES : 外部キー制約を作成するには、参照元、参照先の両方の列がこの権限を保持している必要があります。 ● TRIGGER : トリガーの作成を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。

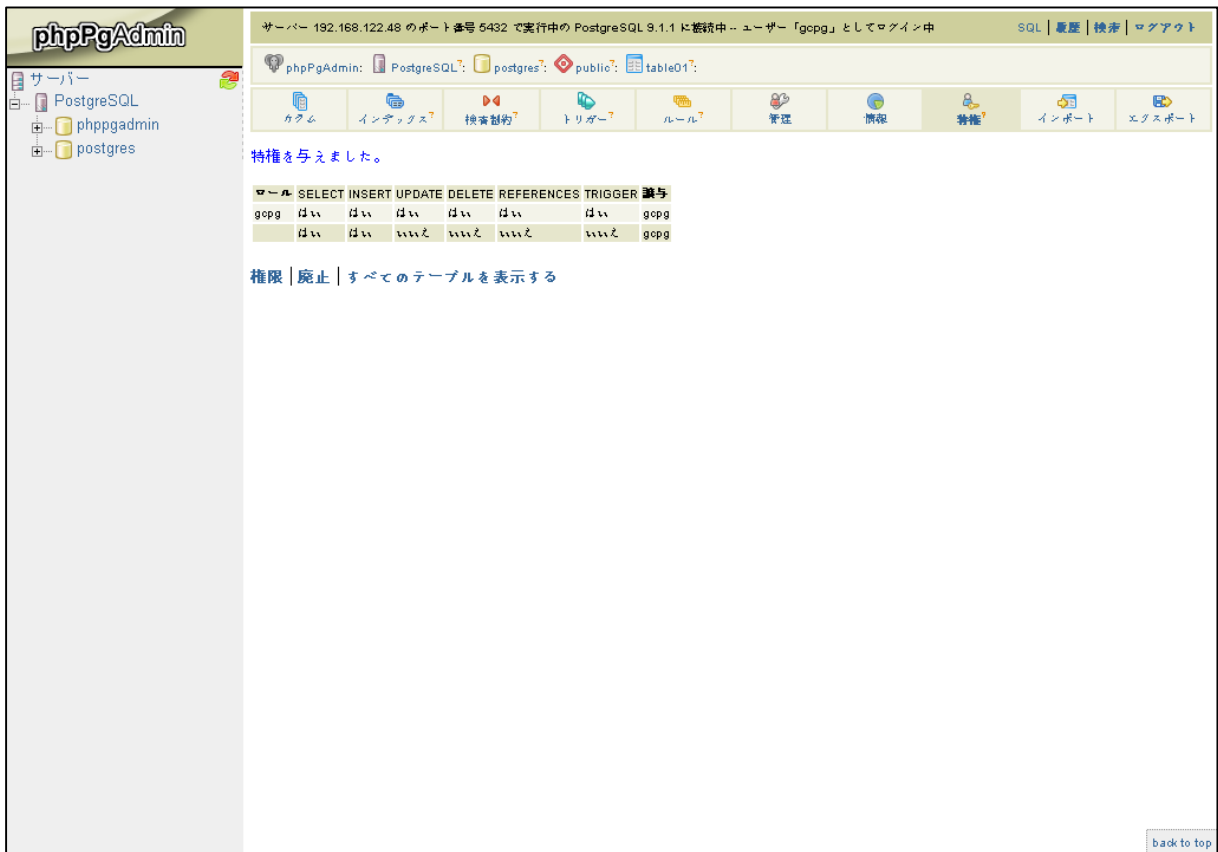


図 2-9-140 「テーブルの特権操作」

2-9-8-II. テーブルの特権破棄

★ テーブルに対するアクセス権限を取り消します。

① 「テーブルの特権操作」で[廃止]をクリックします。

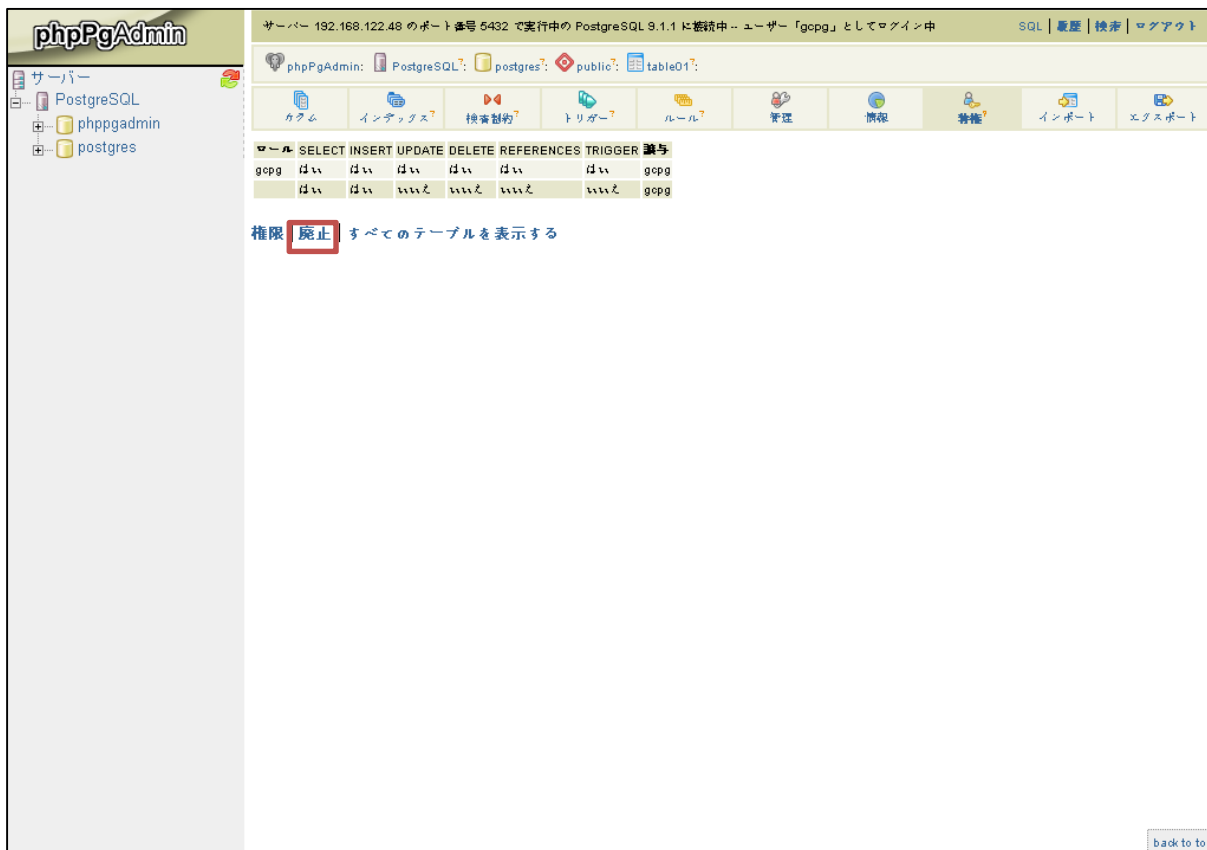


図 2-9-141 「テーブルの特権操作」

② 「テーブルの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

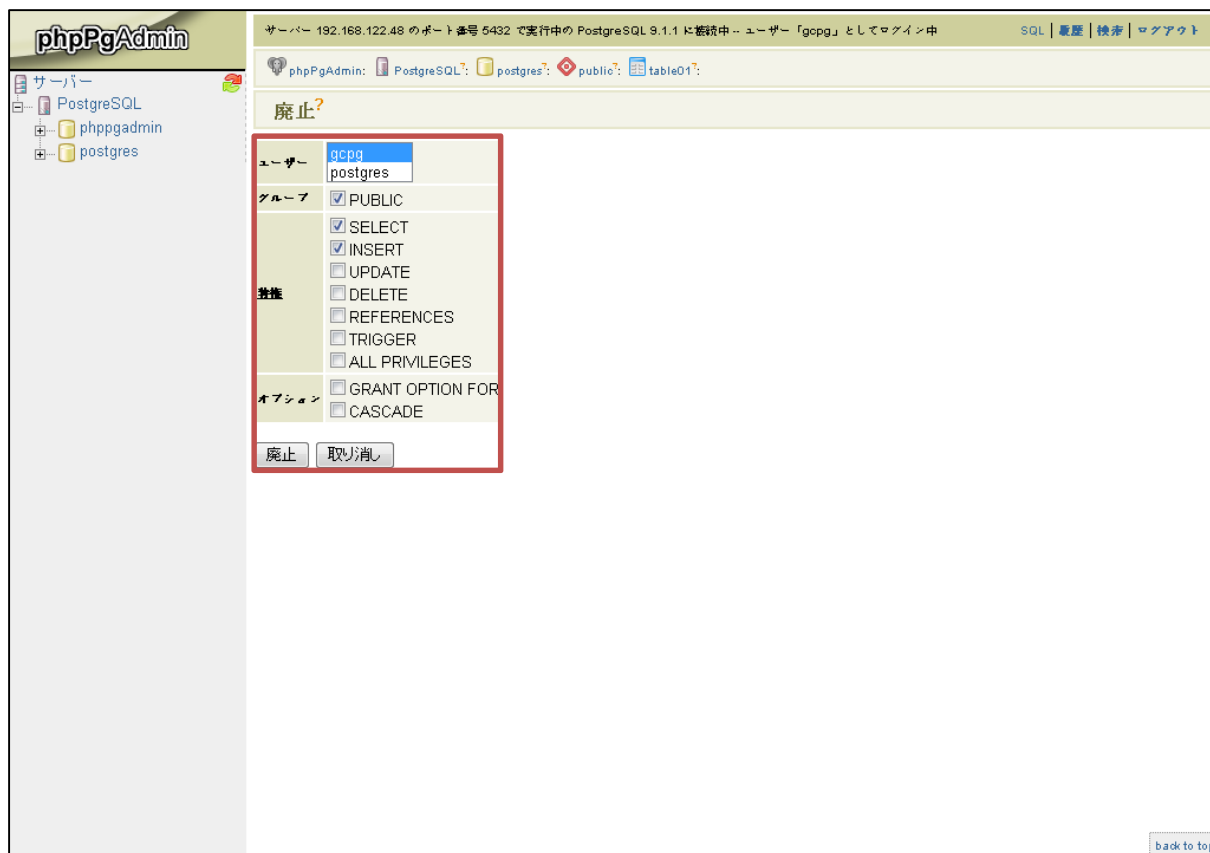


図 2-9-142 「テーブルの特権破棄」

表 2-9-143 テーブルの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	<p>ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT 権限を取り消します。 ● INSERT : INSERT 権限を取り消します。 ● UPDATE : UPDATE 権限を取り消します。 ● DELETE : DELETE 権限を取り消します。

		<ul style="list-style-type: none"> ● REFERENCES : 外部キー制約を作成するには、参照元、参照先の両方の列がこの権限を保持している必要があります。 ● TRIGGER : トリガーの作成権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。
4	[オプション]	<p>[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限のGRANT OPTIONのみが取り消されます。</p> <p>[CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。</p>
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

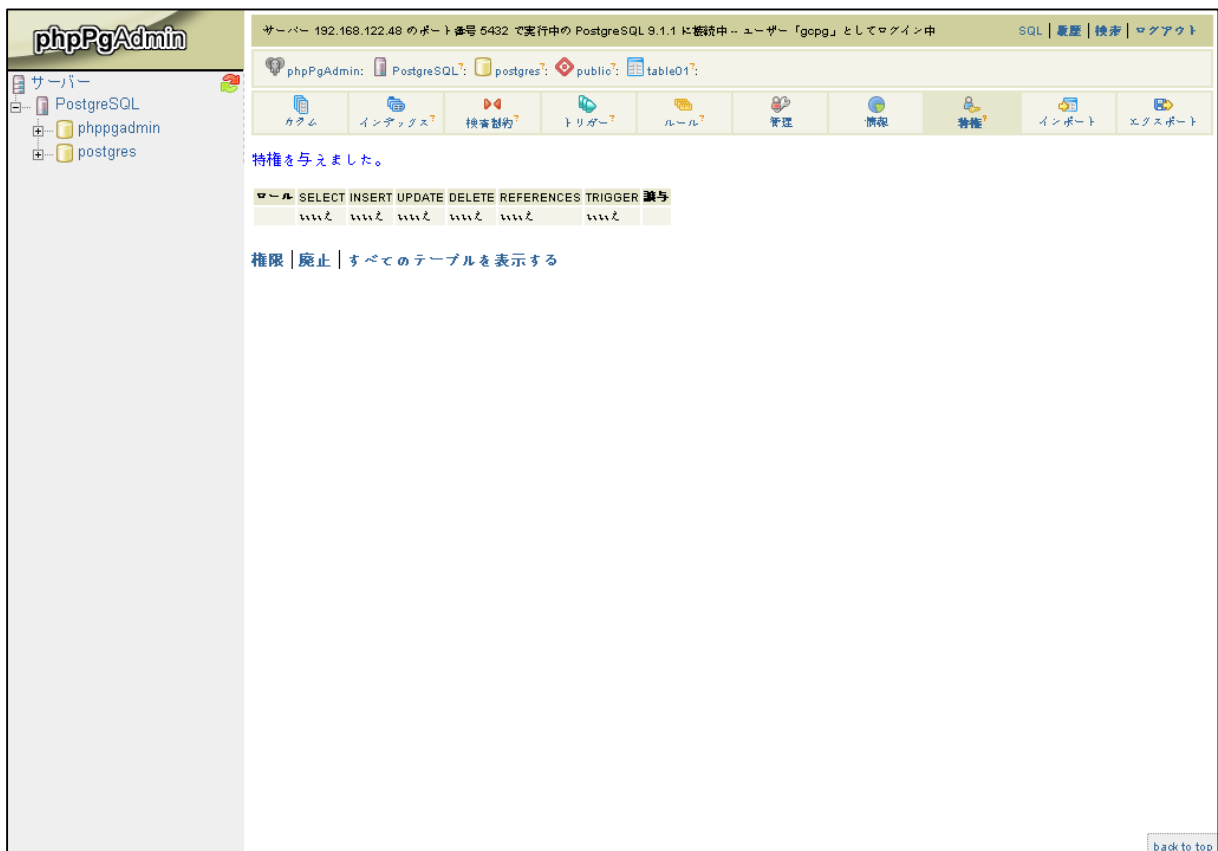


図 2-9-144 「テーブルの特権操作」

2-9-9 テーブルのインポート

★ テーブルのデータをインポートします。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [インポート]をクリックします。

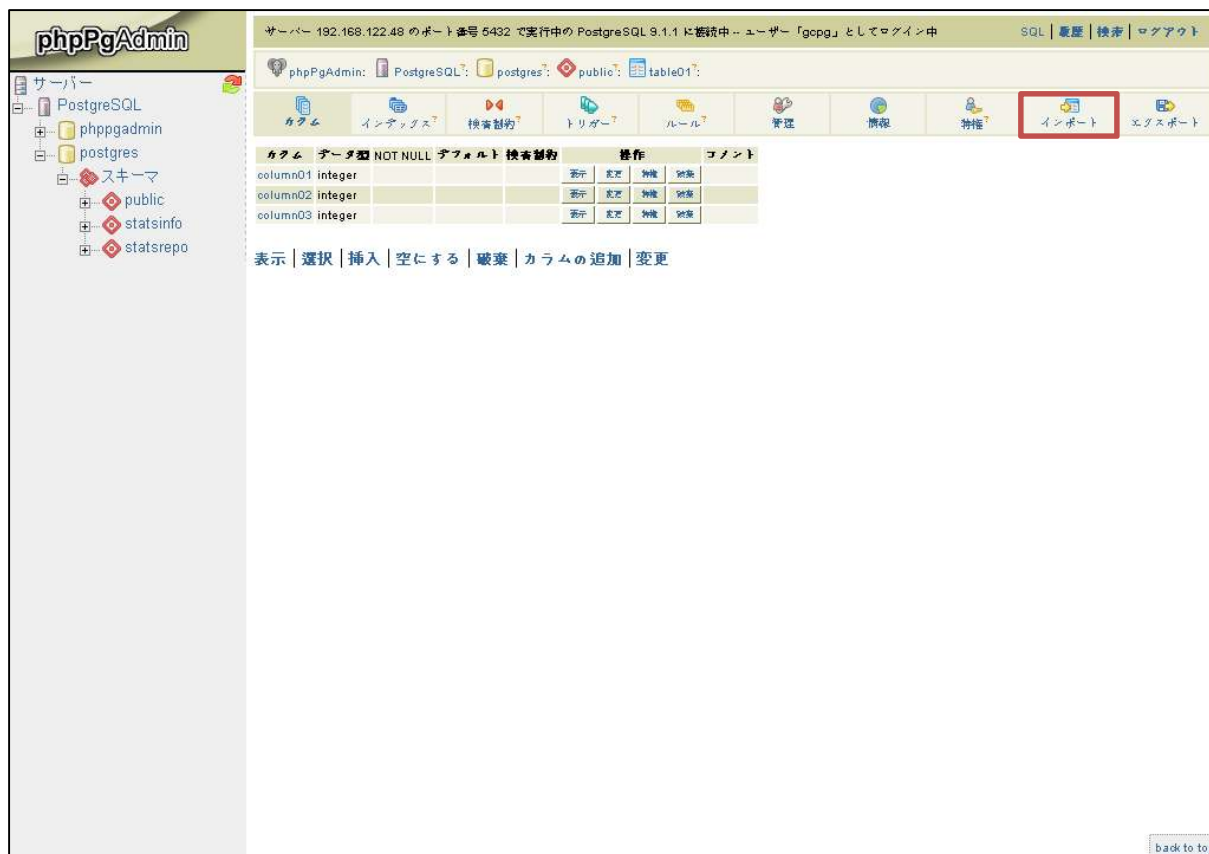


図 2-9-145 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのエクスポート」で[インポート]ボタンをクリックします。

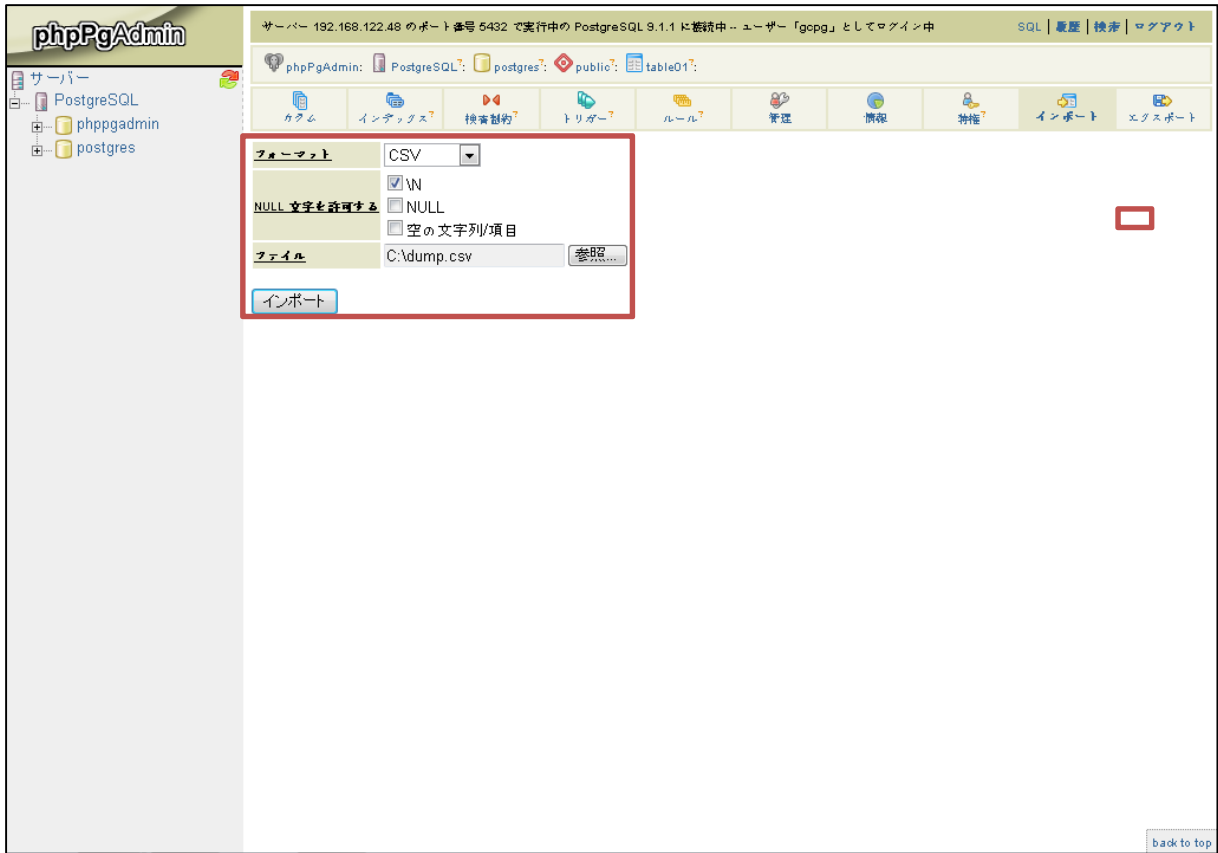


図 2-9-146 「テーブルのエクスポート」

表 2-9-147 テーブルのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	インポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 自動 ● CSV ● タブ区切り ● XML
2	[NULL 文字を許可する]	NULL 文字と見なす文字列を指定します。
3	[ファイル]	インポートするクライアントマシン上のファイルを指定します。

4

[インポート]ボタン

インポート操作を実行します。

③ 「テーブルのインポート完了画面」でデータがインポートされたことを確認します。

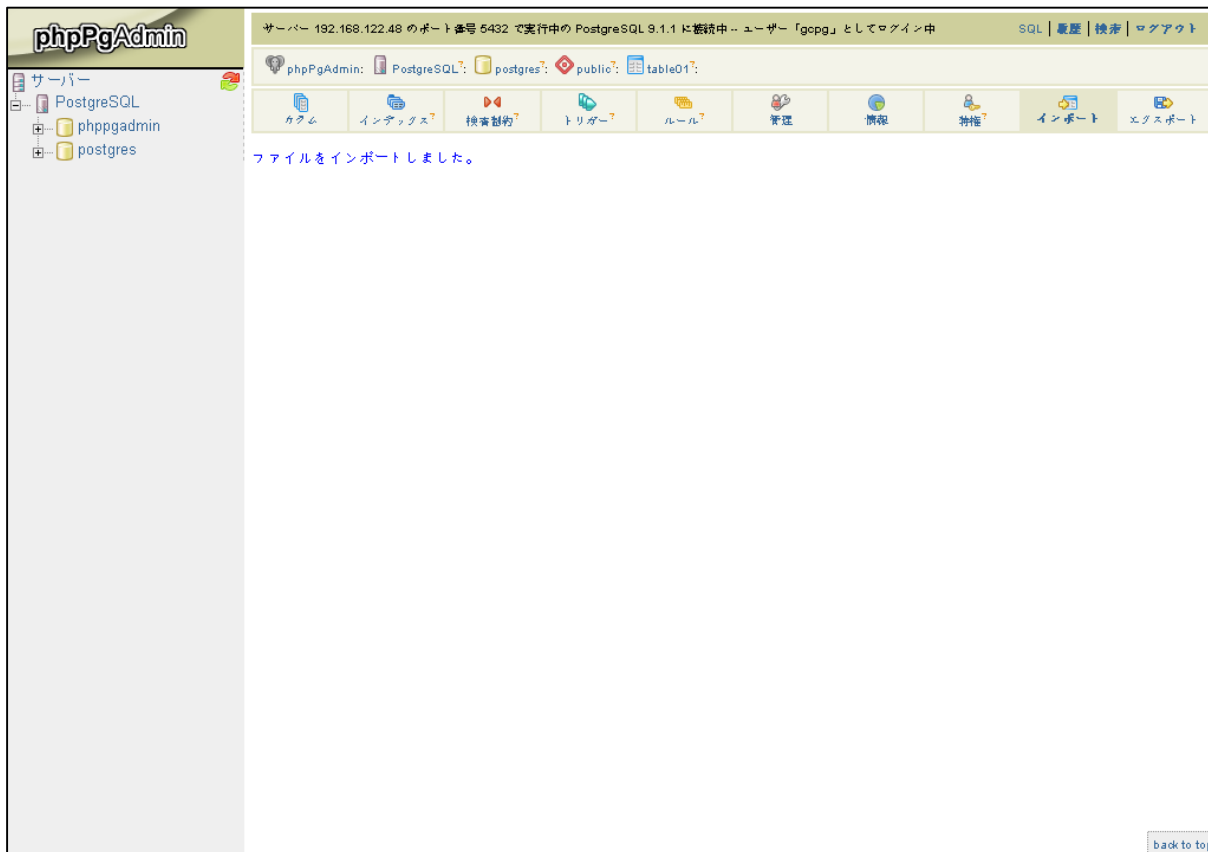


図 2-9-148 「テーブルのインポート完了画面」

2-9-10 テーブルのエクスポート

★ テーブルのデータをエクスポートします。

① 「テーブル個別操作メニュー」で [エクスポート] をクリックします。

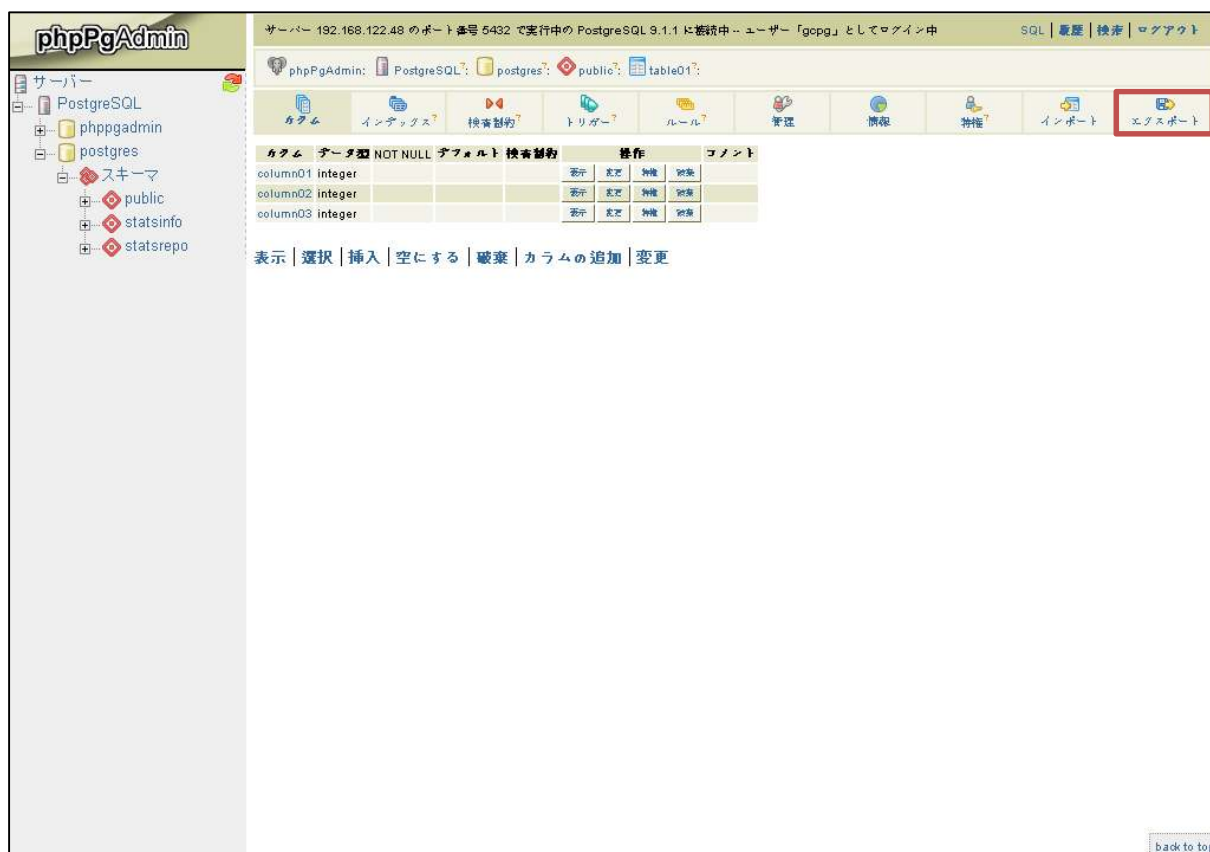


図 2-9-149 「テーブル個別操作メニュー」

② 「テーブルのエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

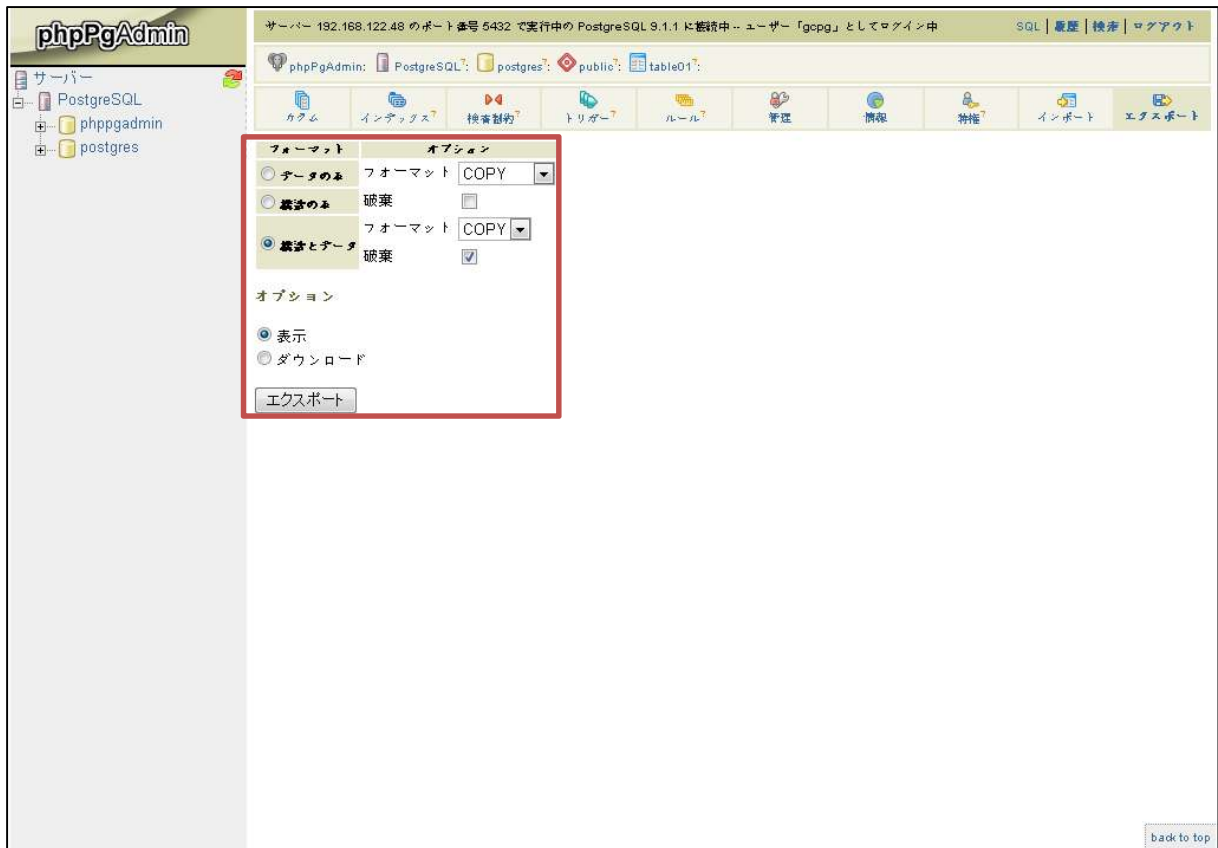


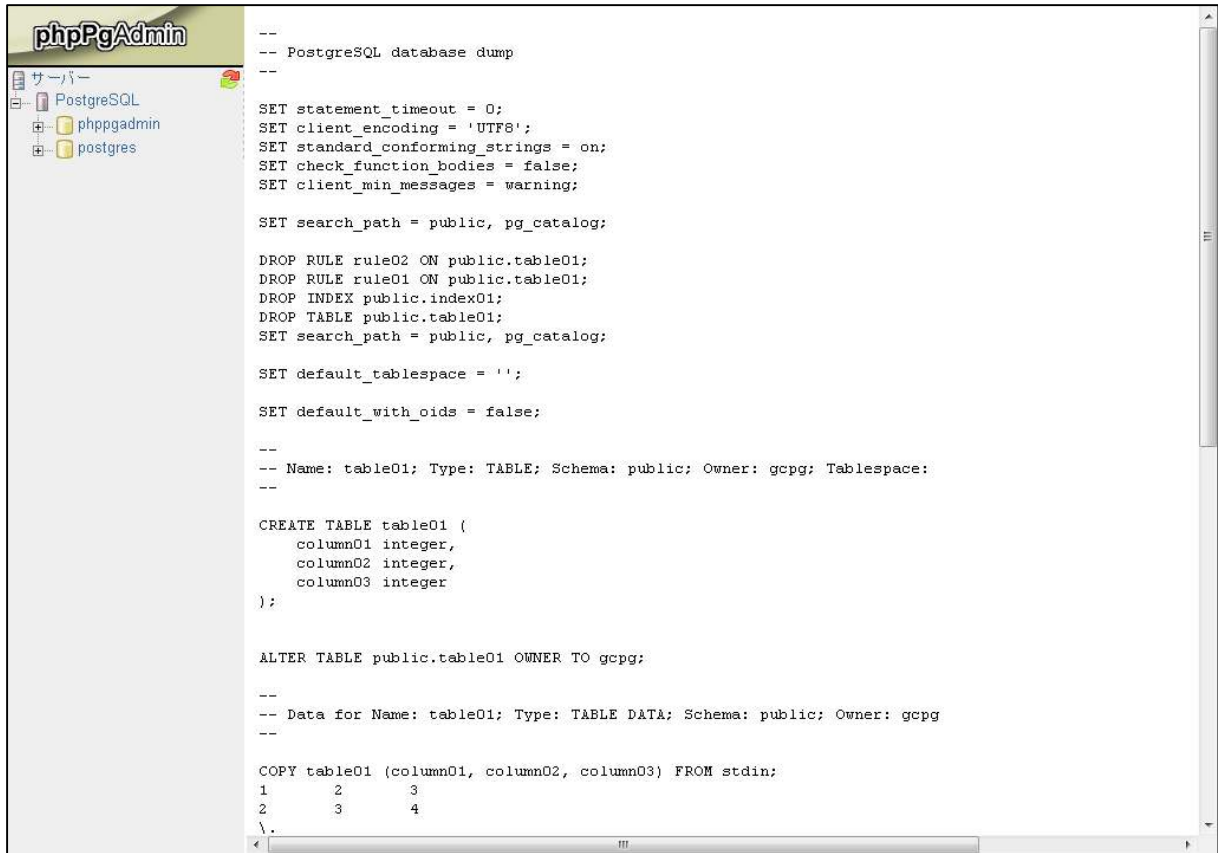
図 2-9-150 「テーブルのエクスポート」

表 2-9-151 テーブルのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● データのみ ● 構造のみ ● 構造とデータ
2	[フォーマット]でデータのみを選択した場合のオプション [フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL ● CSV

		<ul style="list-style-type: none"> ● タブ区切り ● XHTML ● XML
3	[フォーマット]で構造のみを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにテーブルが存在した場合には DROP してからテーブルを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
4	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [フォーマット]	<p>エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● COPY ● SQL
5	[フォーマット]で構造とデータを選択した場合のオプション [破棄]	本項目を有効にすると、すでにテーブルが存在した場合には DROP してからテーブルを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
6	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
7	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。



```
--
-- PostgreSQL database dump
--

SET statement_timeout = 0;
SET client_encoding = 'UTF8';
SET standard_conforming_strings = on;
SET check_function_bodies = false;
SET client_min_messages = warning;

SET search_path = public, pg_catalog;

DROP RULE rule02 ON public.table01;
DROP RULE rule01 ON public.table01;
DROP INDEX public.index01;
DROP TABLE public.table01;
SET search_path = public, pg_catalog;

SET default_tablespace = '';

SET default_with_oids = false;

--
-- Name: table01; Type: TABLE; Schema: public; Owner: gcpg; Tablespace:
--

CREATE TABLE table01 (
    column01 integer,
    column02 integer,
    column03 integer
);

ALTER TABLE public.table01 OWNER TO gcpg;

--
-- Data for Name: table01; Type: TABLE DATA; Schema: public; Owner: gcpg
--

COPY table01 (column01, column02, column03) FROM stdin;
1      2      3
2      3      4
\.

```

図 2-9-152 「テーブルのエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-9-153 「テーブルのエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-10 テーブルの列個別操作メニュー

★ 「テーブルの列個別操作メニュー」を表示します。

① 「テーブルの列一覧操作」で“個別列名”をクリックします。

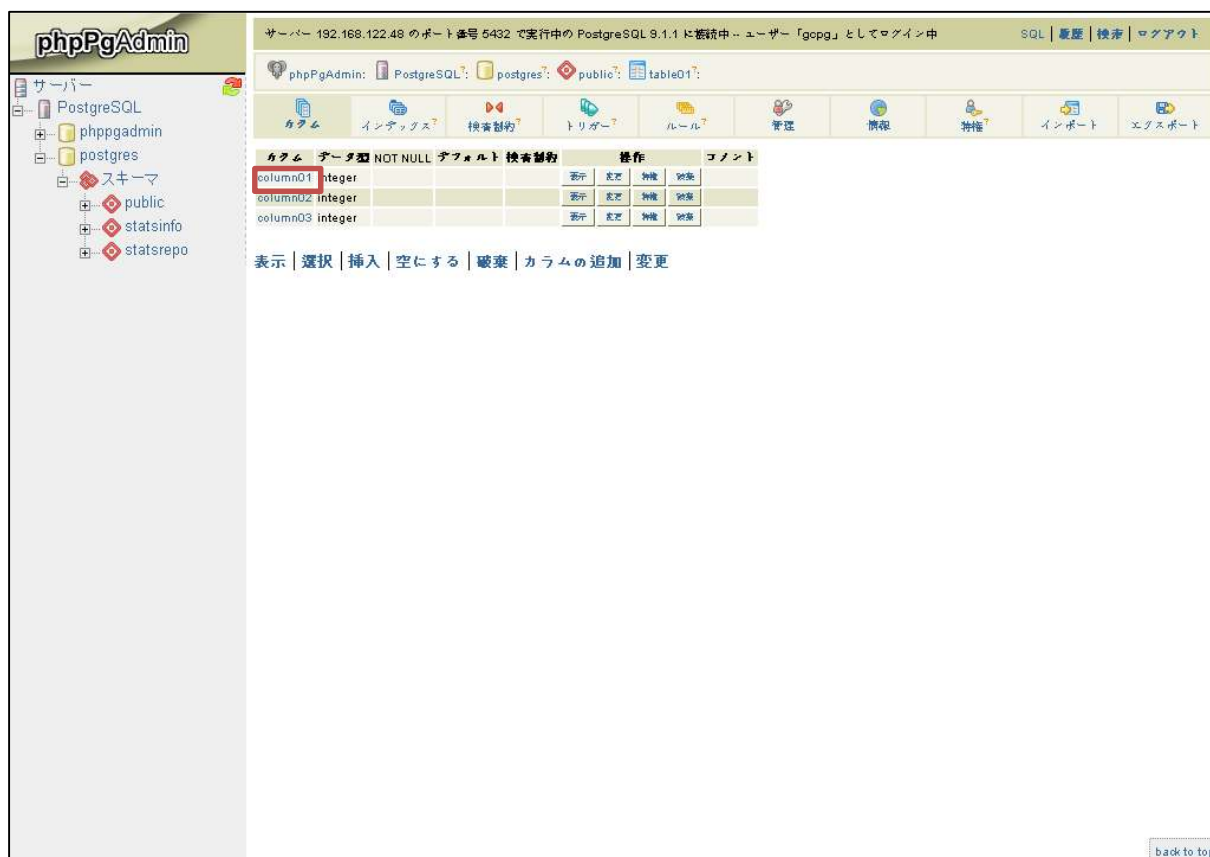


図 2-10-1 「テーブルの列一覧操作」

② 「テーブルのカラム個別操作メニュー」の表示を確認します。

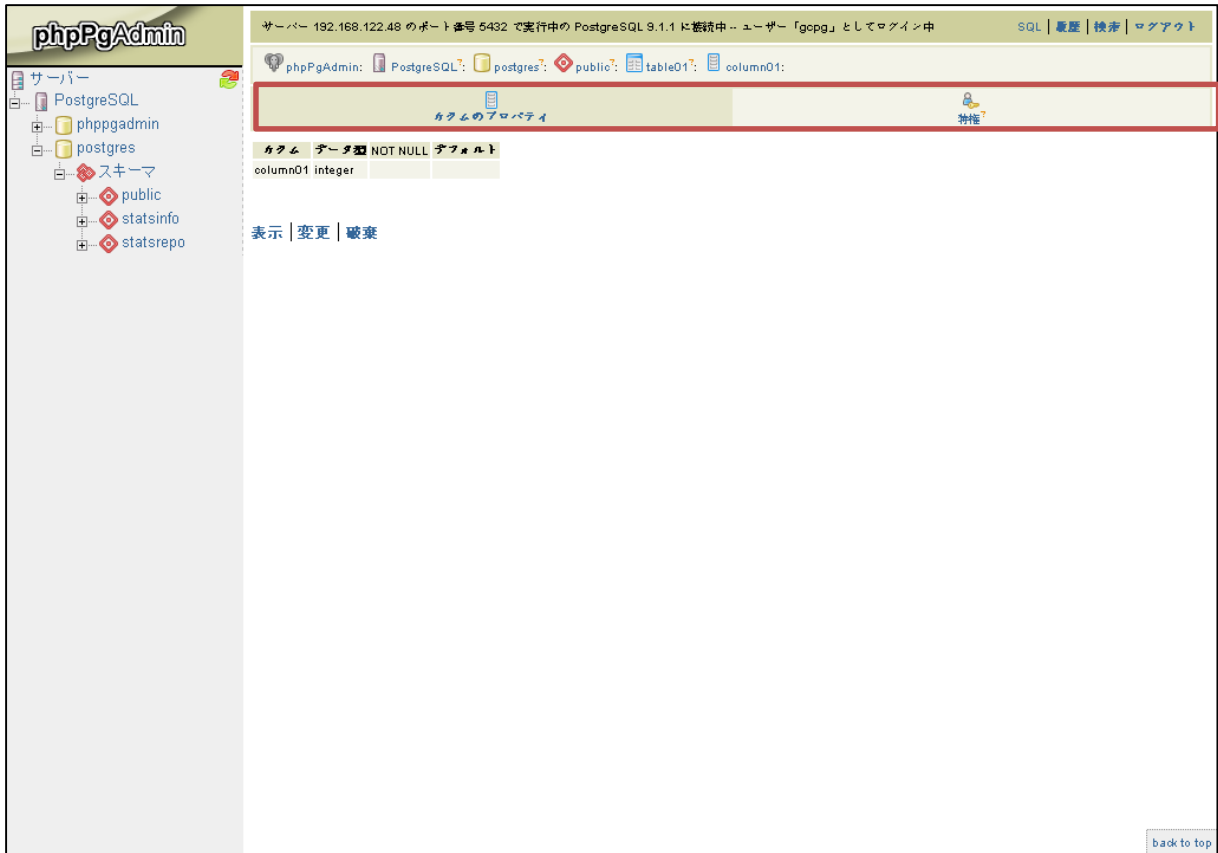


図 2-10-2 「テーブルのカラム個別操作メニュー」

表 2-10-3 テーブルのカラム個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[カラムのプロパティ]	カラムのプロパティを表示します。カラムについての操作を行うことができます。
2	[特権]	カラムの特権を表示します。特権についての操作を行うことができます。

2-10-1 テーブルのカラムのプロパティ操作

★ 「カラムのプロパティ」を表示します。テーブルのカラムの変更、破棄、およびカラムのデータの表示ができます。

- ① 「テーブルのカラム個別操作メニュー」で [カラムのプロパティ]をクリックします。

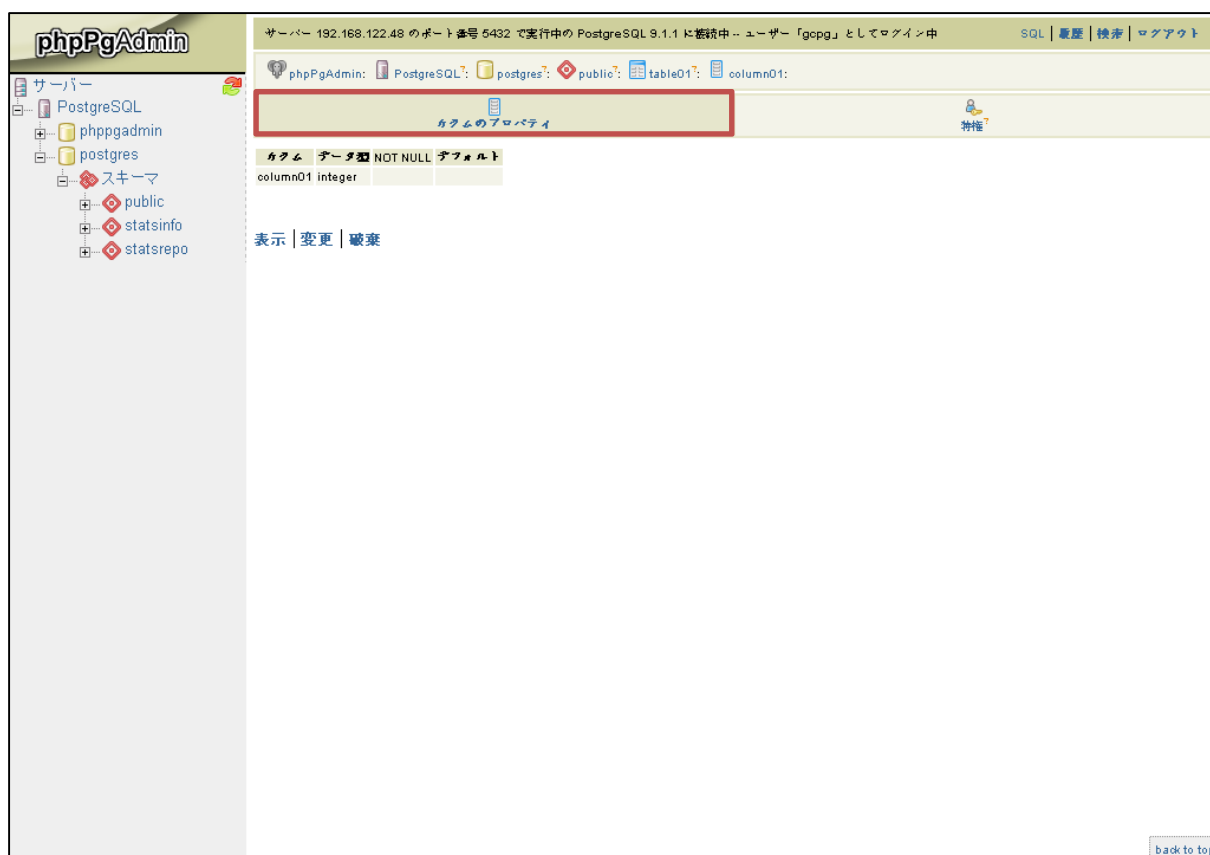


図 2-10-4 「テーブルのカラム個別操作メニュー」

② 「テーブルのカラムのプロパティ操作」の表示を確認します。

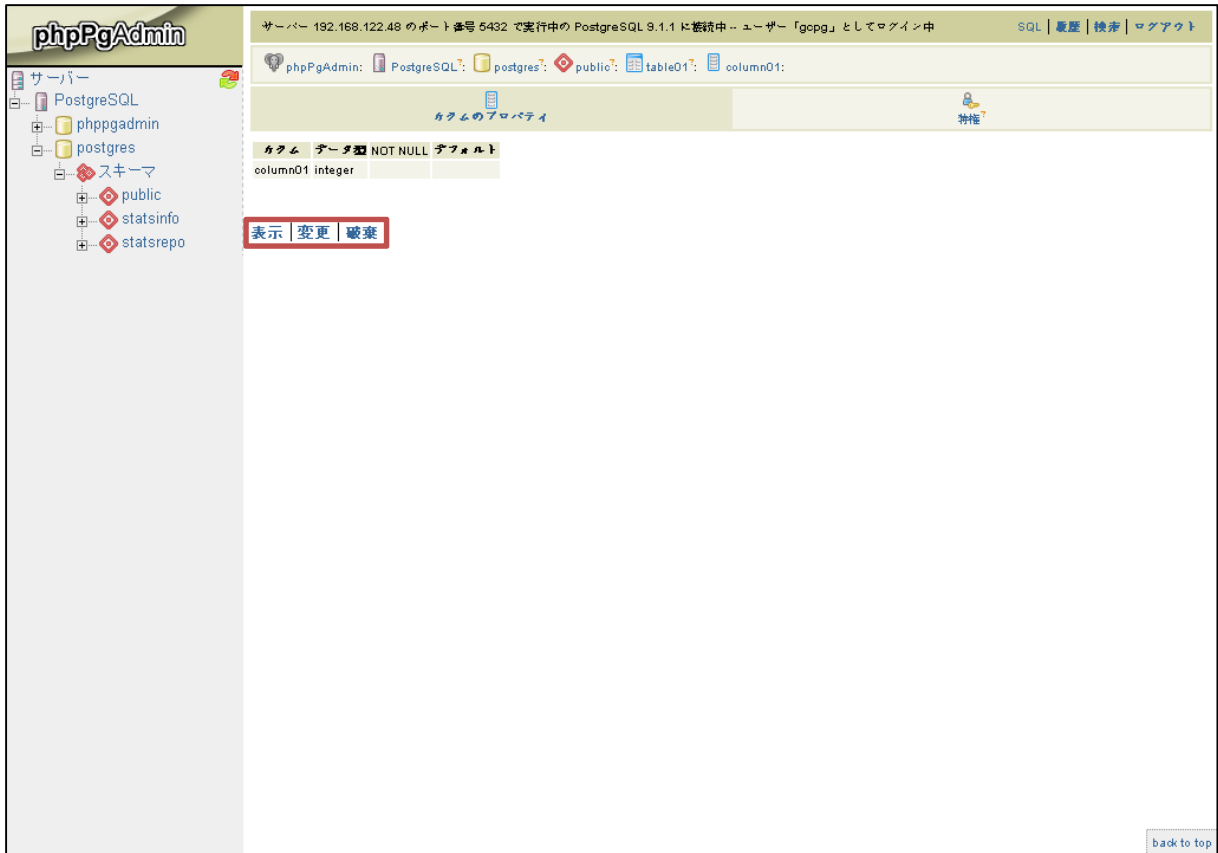


図 2-10-5 「テーブルのカラムのプロパティ操作」

表 2-10-6 テーブルのカラムのプロパティ操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[表示]	当該カラムのデータを表示します。
2	[変更]	当該カラムの定義を変更することができます。(ALTER TABLE に相当)
3	[破棄]	当該カラムを削除することができます。(ALTER TABLE に相当)

2-10-1-I. テーブルのカラムの表示

★ カラムのデータを表示します。

① 「テーブルのカラムのプロパティ操作」で[表示]をクリックします。

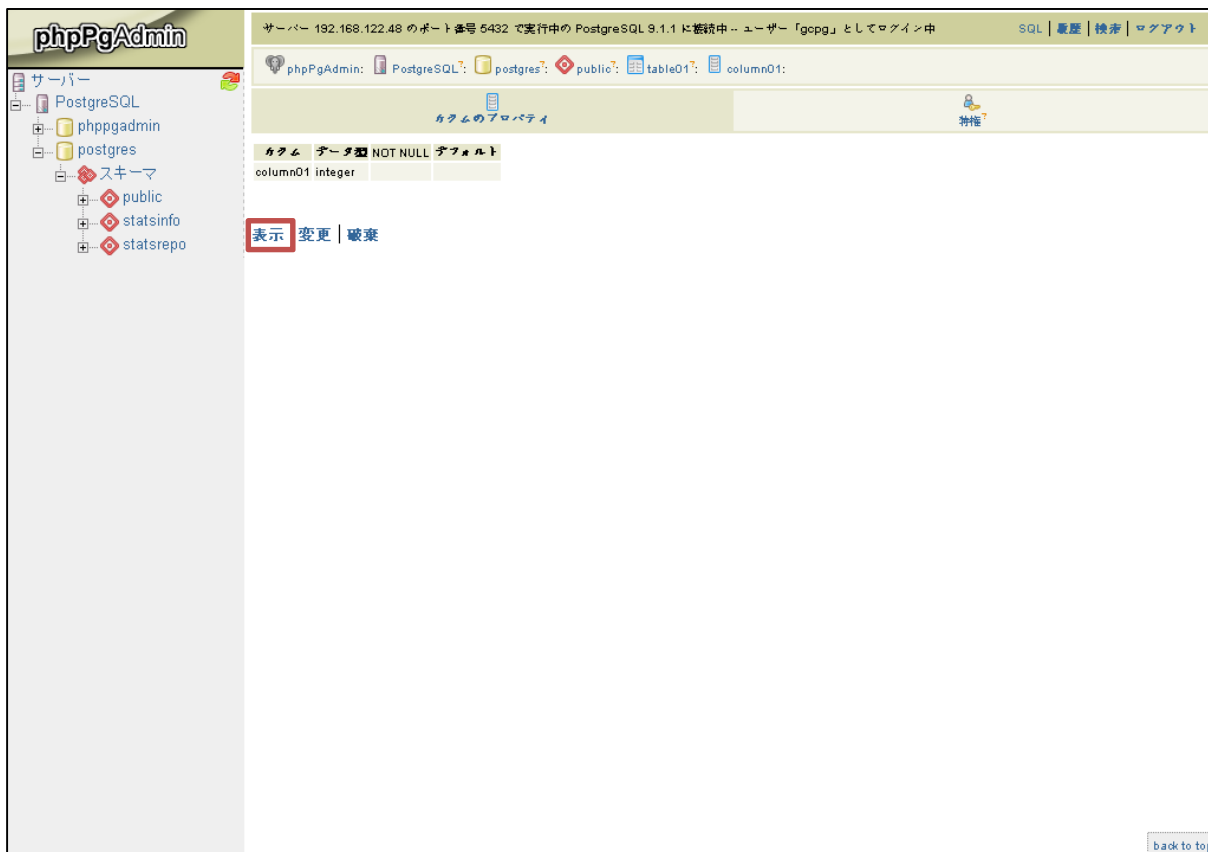


図 2-10-7 「テーブルのカラムのプロパティ操作」

②カラムのデータを確認します。

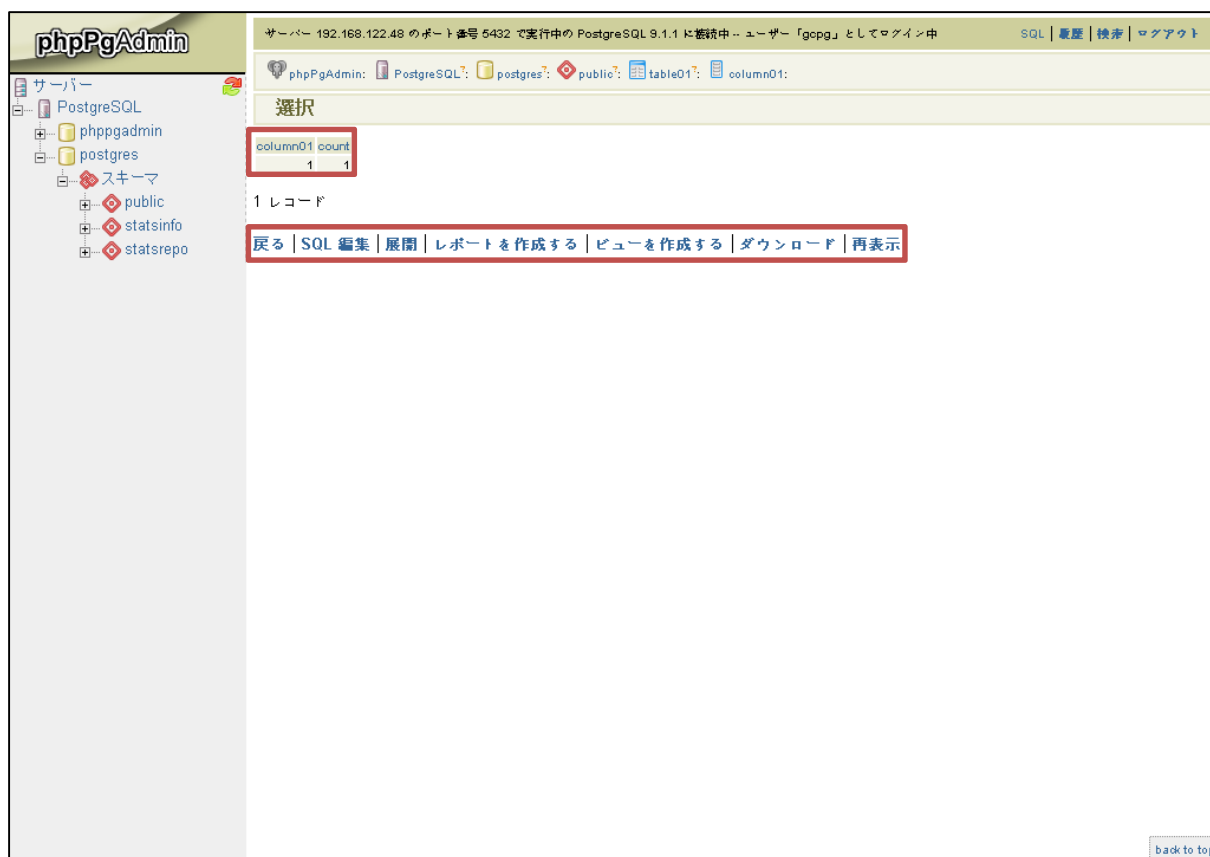


図 2-10-8 「テーブルのカラムの表示」

表 2-10-9 テーブルのカラムの表示画面項目

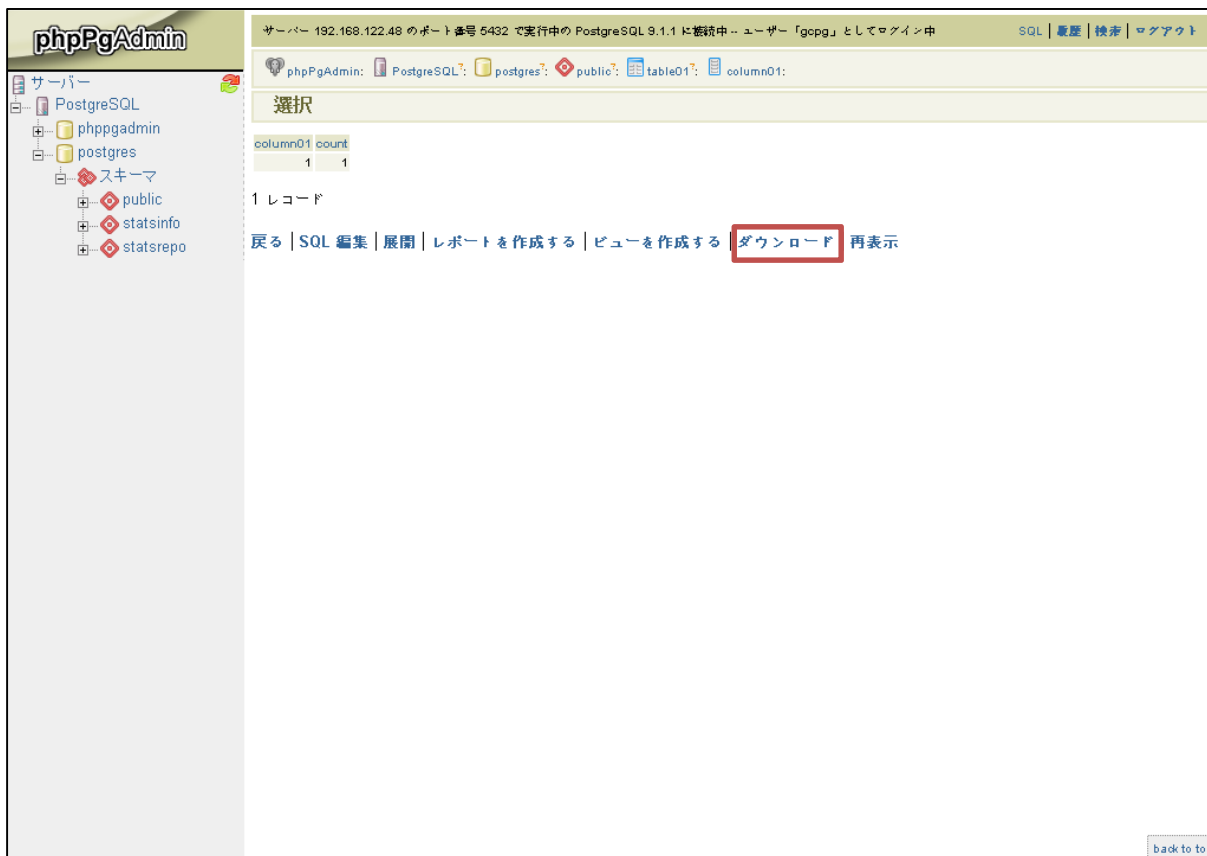
NO	項目名	説明
1	“カラム名”	当該カラムの名称。
2	[戻る]	元の画面に戻ります。
3	[SQL 編集]	当該カラムを対象とした SELECT 文を生成し、「SQL の実行」を表示します。 詳細は 2-5-2 「SQL の実行」を参照してください。
4	[展開]	省略された文字列を展開して表示します。
5	[レポートを作成する]	当該カラムを対象としたレポート定義を生成し、「レポートの作成」を表示します。

		詳細は 2-4-7-IV「レポートの作成」を参照してください。
6	[ビューを作成する]	当該カラムを対象としたビュー定義を生成し、「ビュー操作」を表示します。 詳細は 2-8-2-I-i「ビューの作成」を参照してください。
7	[ダウンロード]	当該カラムのデータをダウンロードできます。 詳細は 2-10-1-II「テーブルのカラムのダウンロード」を参照してください。
8	[再表示]	当該カラムを再表示します。

2-10-1-II. テーブルのカラムのダウンロード

★ カラムのデータをダウンロードします。

① 「テーブルのカラムの表示」で[ダウンロード]をクリックします。



The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The left sidebar displays a tree view of the database structure, including 'PostgreSQL', 'phpPgAdmin', 'postgres', and 'スキーマ' (schemas) like 'public', 'statsinfo', and 'statsrepo'. The main content area shows the 'column01' table with a single record. The table has two columns: 'column01' and 'count', with values '1' and '1' respectively. Below the table, there is a '1 レコード' (1 record) label and a row of navigation buttons: '戻る' (Back), 'SQL 編集' (Edit SQL), '展開' (Expand), 'レポートを作成する' (Create Report), 'ビューを作成する' (Create View), 'ダウンロード' (Download), and '再表示' (Refresh). The 'ダウンロード' button is highlighted with a red box. At the top right, there are links for 'SQL', '履歴' (History), '検索' (Search), and 'ログアウト' (Logout). At the bottom right, there is a 'back to top' link.

図 2-10-10 「テーブルのカラムの表示」

② 「テーブルのカラムのダウンロード」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

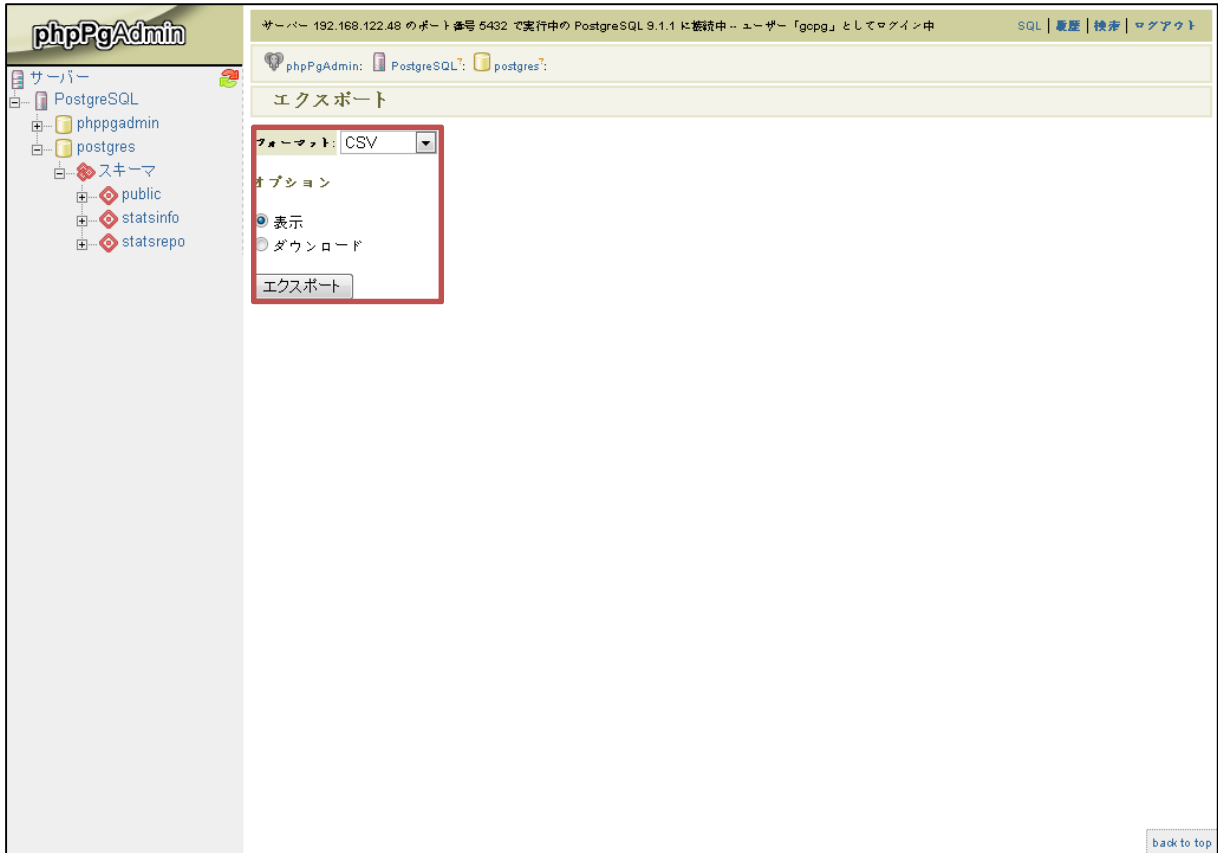


図 2-10-11 「テーブルのカラムのダウンロード」

表 2-10-12 テーブルのカラムのダウンロード画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	ダウンロードするファイルのフォーマットを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● CSV ● タブ区切り ● XHTML ● XML
2	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
3	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。

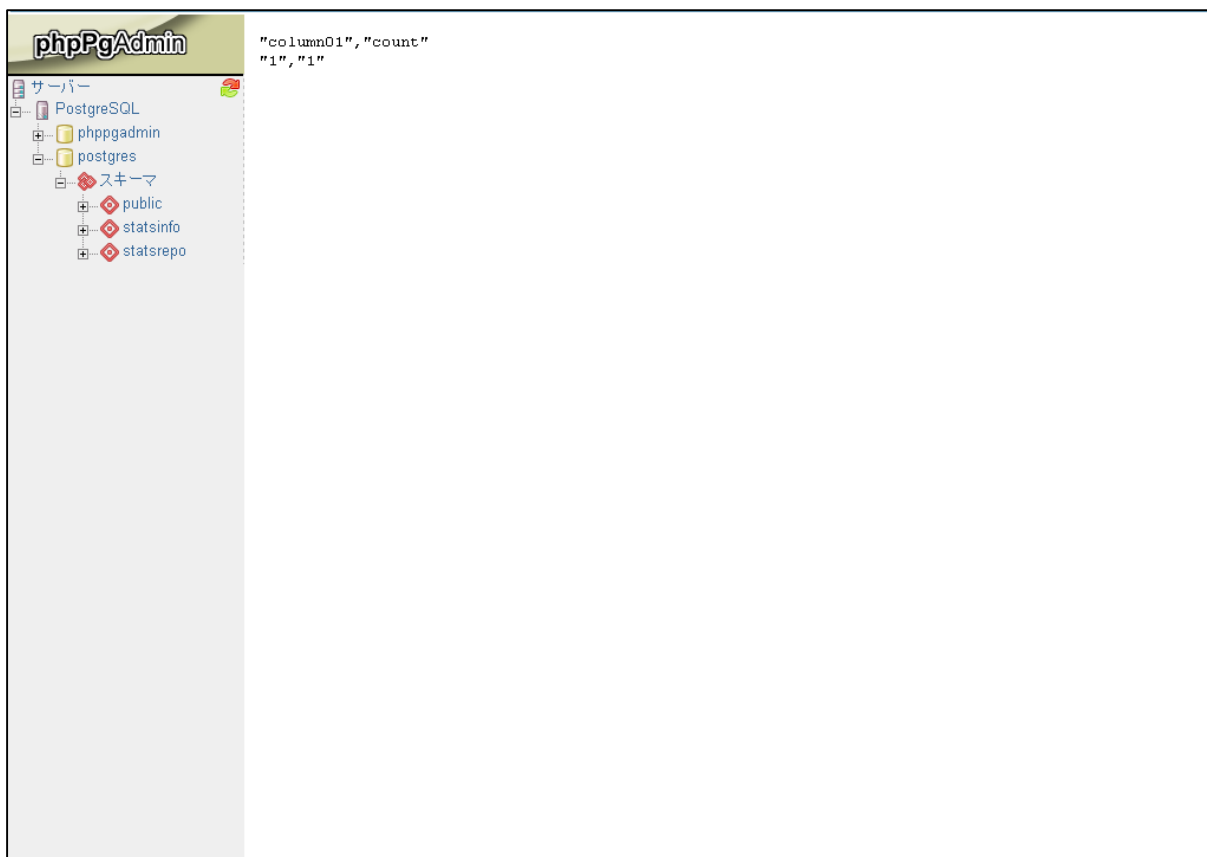


図 2-10-13 「テーブルのカラムのダウンロード-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-10-14 「テーブルのカラムのダウンロード-ダウンロードダイアログ」

2-10-1-III. テーブルのカラムの変更

★ カラムを変更します。

① 「テーブルのカラムのプロパティ操作」で[変更]をクリックします。

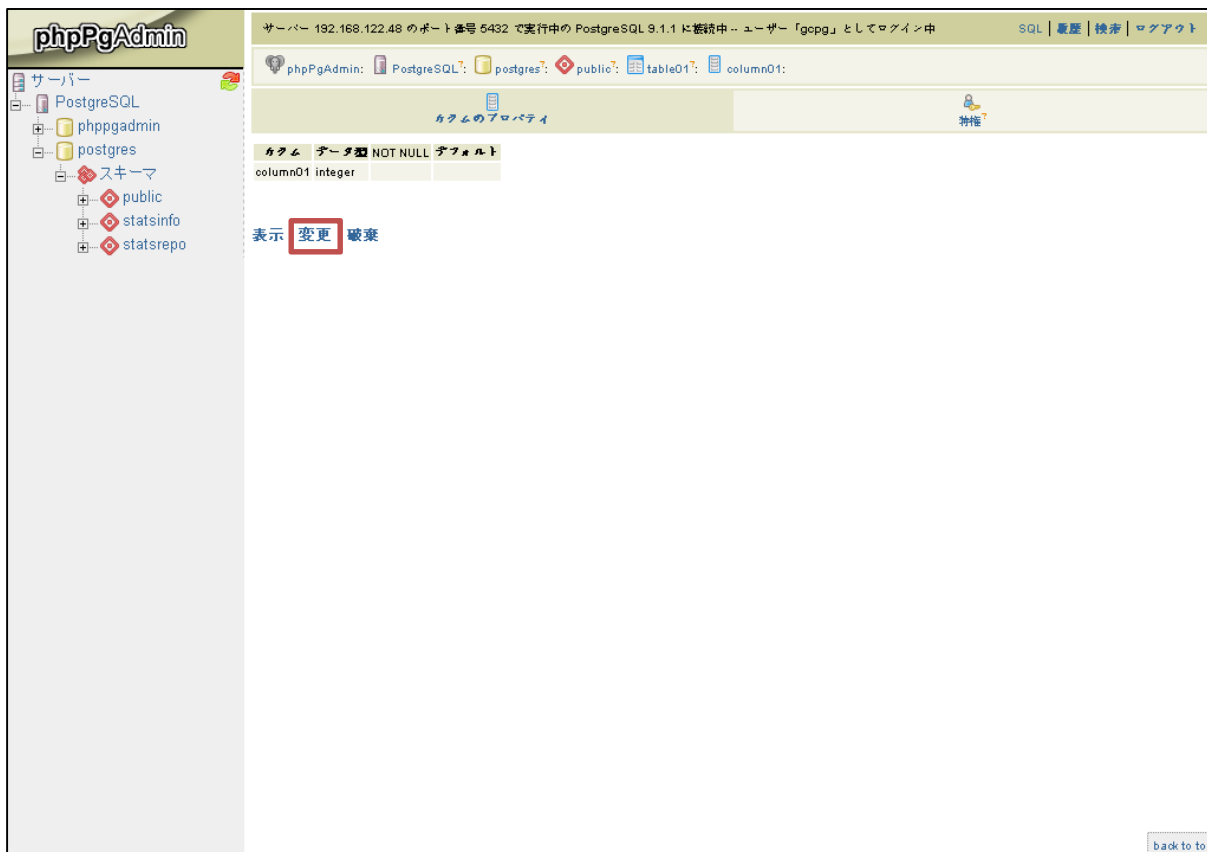


図 2-10-15 「テーブルのカラムのプロパティ操作」

② 「テーブルのカラムの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

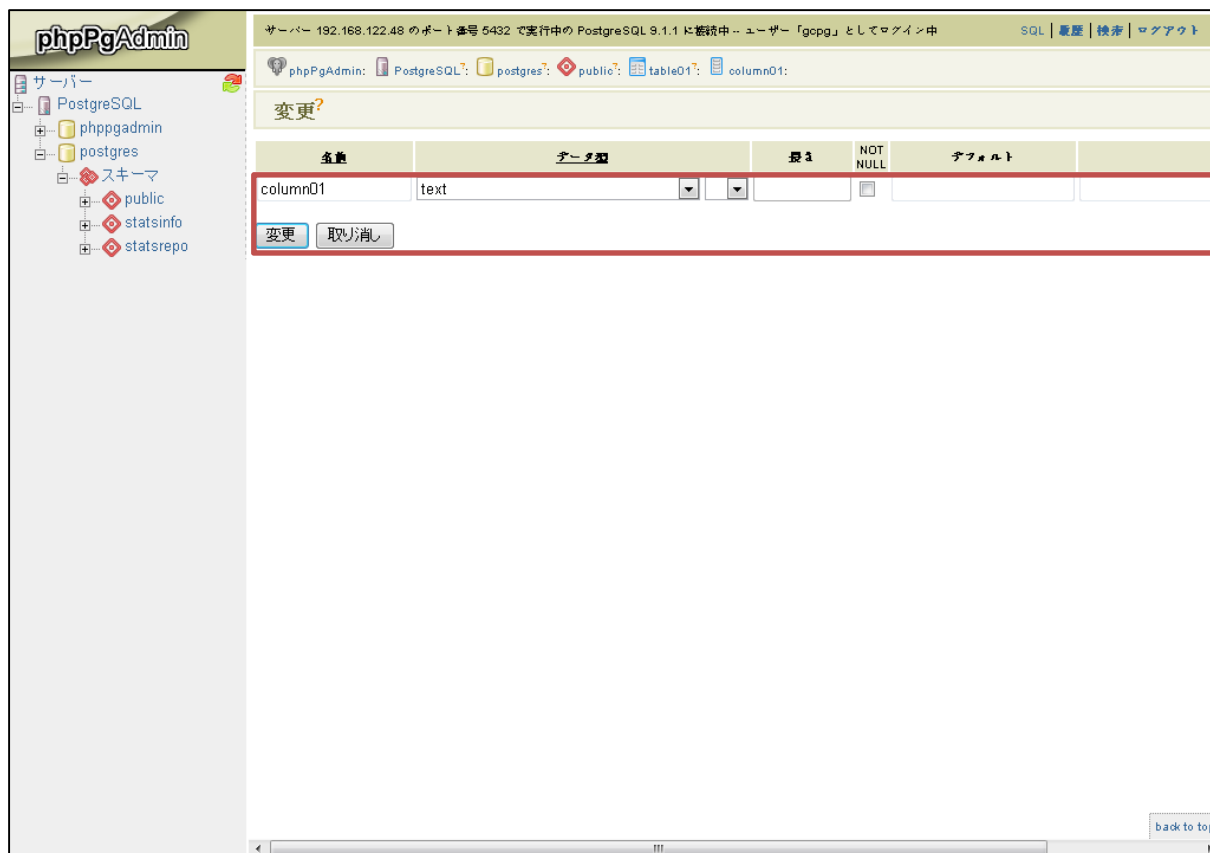


図 2-10-16 「テーブルのカラムの変更」

表 2-10-17 テーブルのカラムの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	カラムの名称を指定します。
2	[データ型]	カラムのデータ型を指定します。
3	配列	カラムのデータ型が配列か否か指定します。
4	[長さ]	カラムの長さを指定します。
5	[NOT NULL]	カラムに NOT NULL 制約を指定したい場合に有効にします。
6	[デフォルト]	カラムのデフォルト値を指定します。

7	[コメント]	カラムのコメントを指定します。
8	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
9	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラムのプロパティ操作」でカラムの定義が変更されたことを確認します。

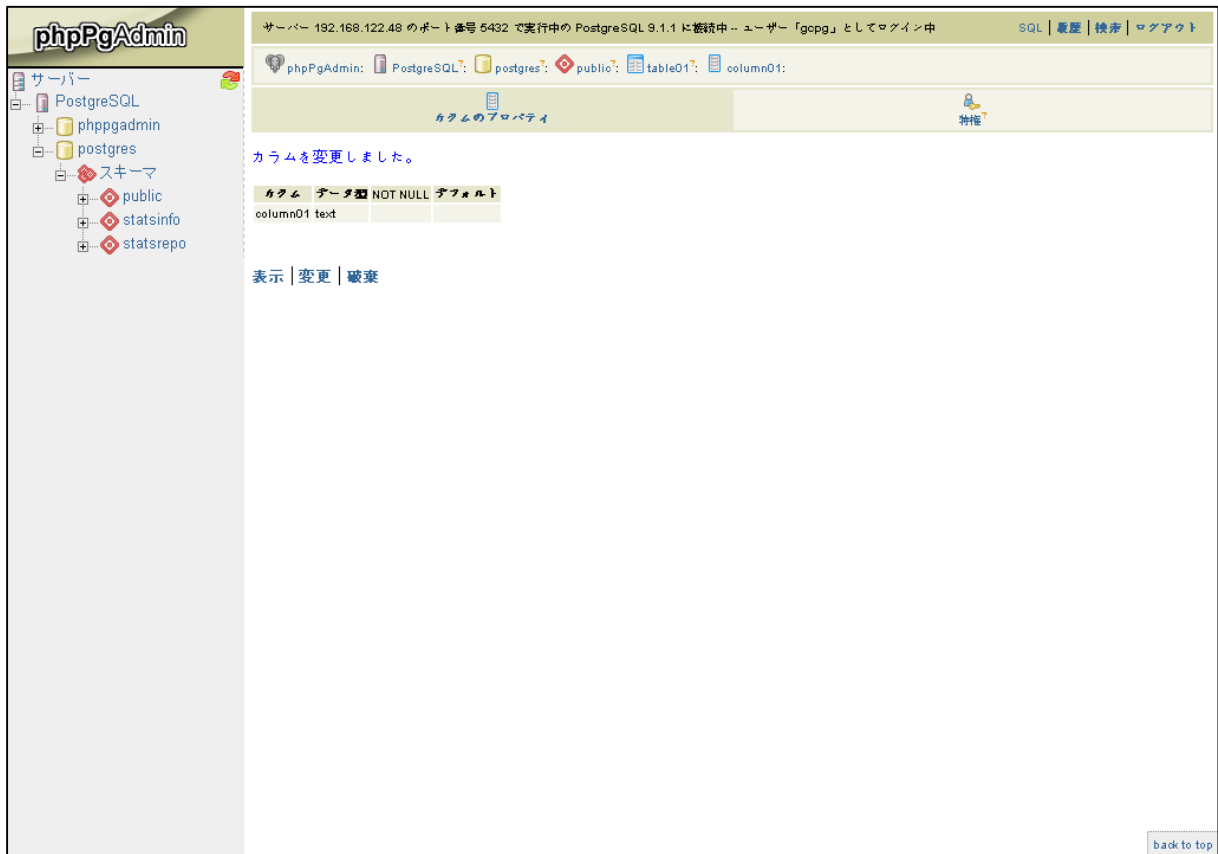


図 2-10-18 「テーブルのカラムのプロパティ操作」

2-10-1-IV. テーブルのカラムの破棄

★ カラムを破棄します。

① 「テーブルのカラムのプロパティ操作」で[破棄]をクリックします。

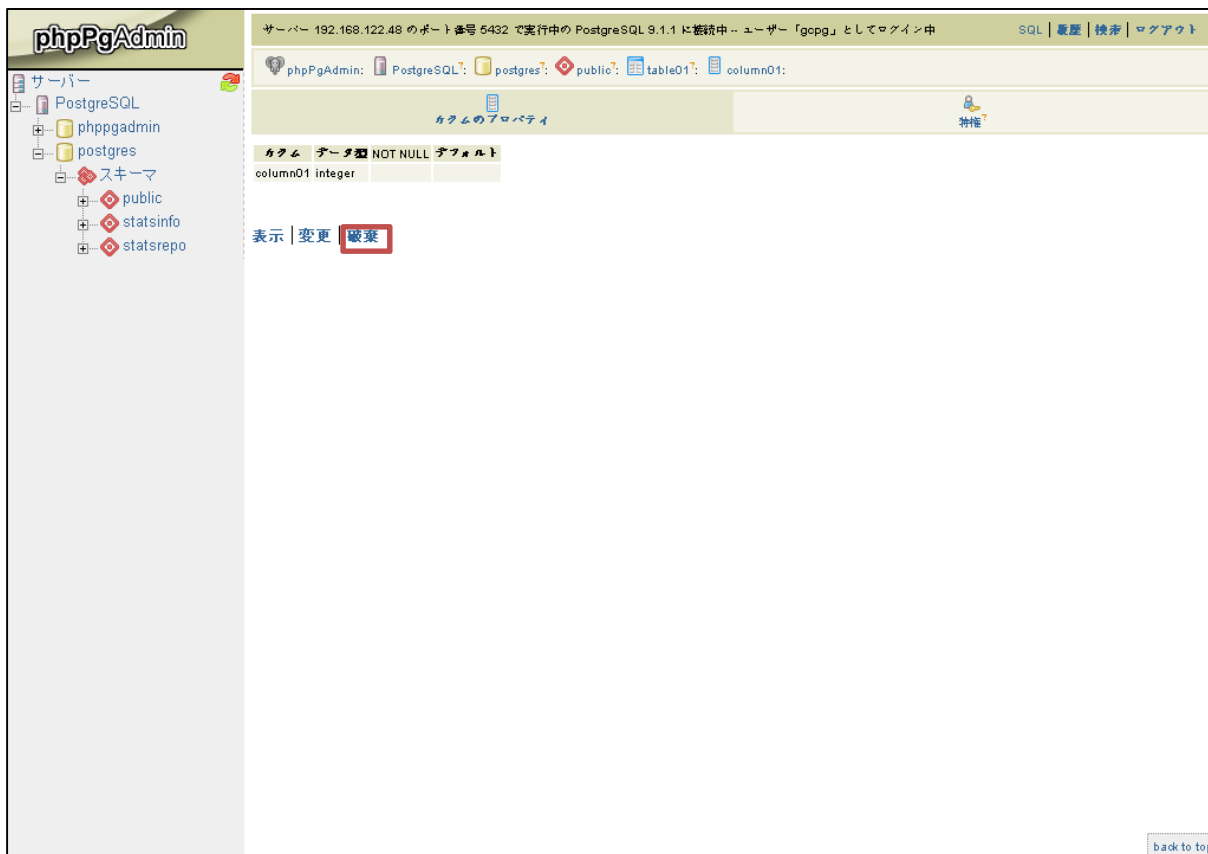


図 2-10-19 「テーブルのカラムのプロパティ操作」

② 「テーブルのカラムの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-10-20 「テーブルのカラムの破棄」

表 2-10-21 テーブルのカラムの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄する列に外部キー制約、ビューなどが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラム一覧操作」でカラムが破棄されたことを確認します。

サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中 -- ユーザー「gopg」としてログイン中 SQL | 履歴 | 検索 | ログアウト

phpPgAdmin: PostgreSQL: postgres: public: table01:

カラム インデックス 検索制約 トリガー ルール 管理 検索 挿入 インポート エクスポート

カラムを破棄しました。

カラム	データ型	NOT NULL	デフォルト	検索制約	操作	コメント
column02	integer				表示 変更 挿入 削除	
column03	integer				表示 変更 挿入 削除	

表示 | 選択 | 挿入 | 空にする | 破棄 | カラムの追加 | 変更

back to top

図 2-10-22 「テーブルのカラム一覧操作」

2-10-2 テーブルのカラムの特権操作

★ 「テーブルのカラムの特権操作」を表示します。テーブルのカラムに対する特権の追加、破棄ができます。

- ① 「テーブルのカラム個別操作メニュー」で [特権] をクリックします。

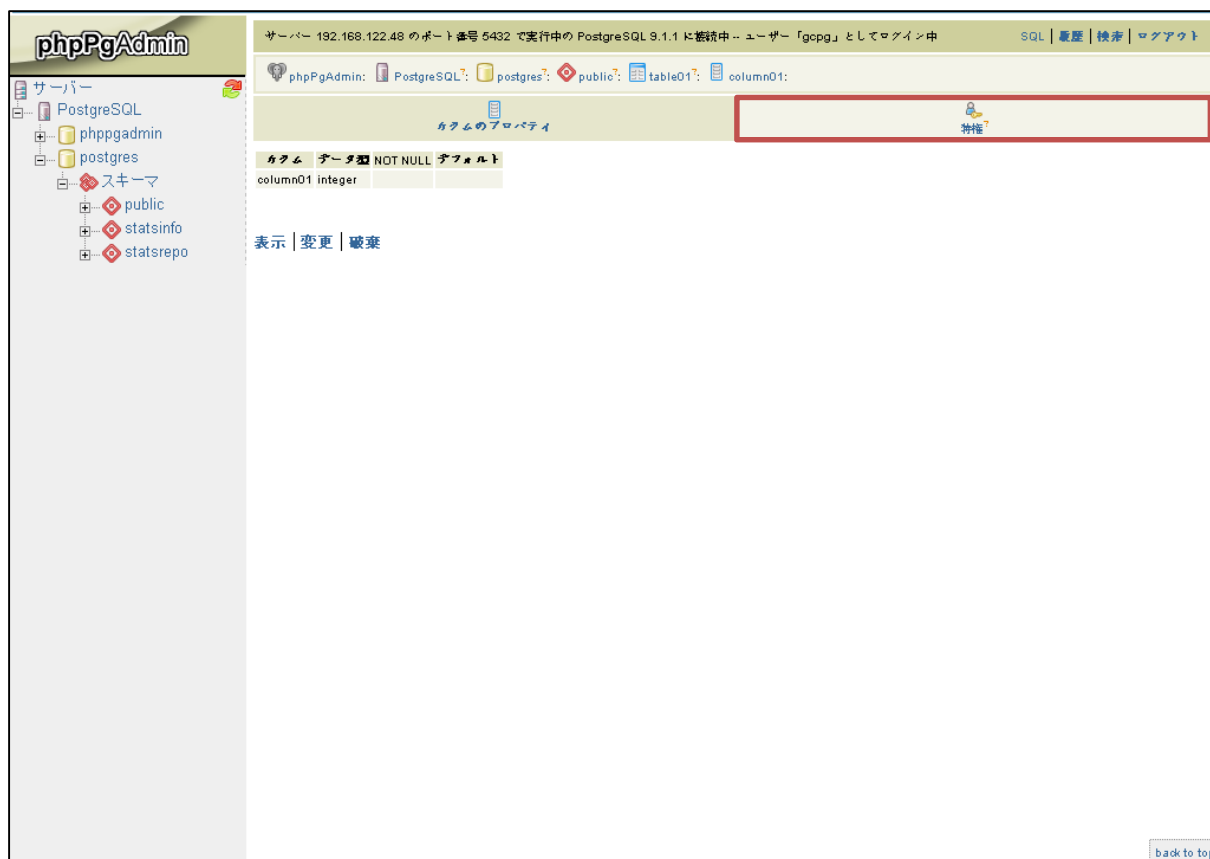


図 2-10-23 「テーブルのカラム個別操作メニュー」

② 「テーブルのカラムの特権操作」の表示を確認します。

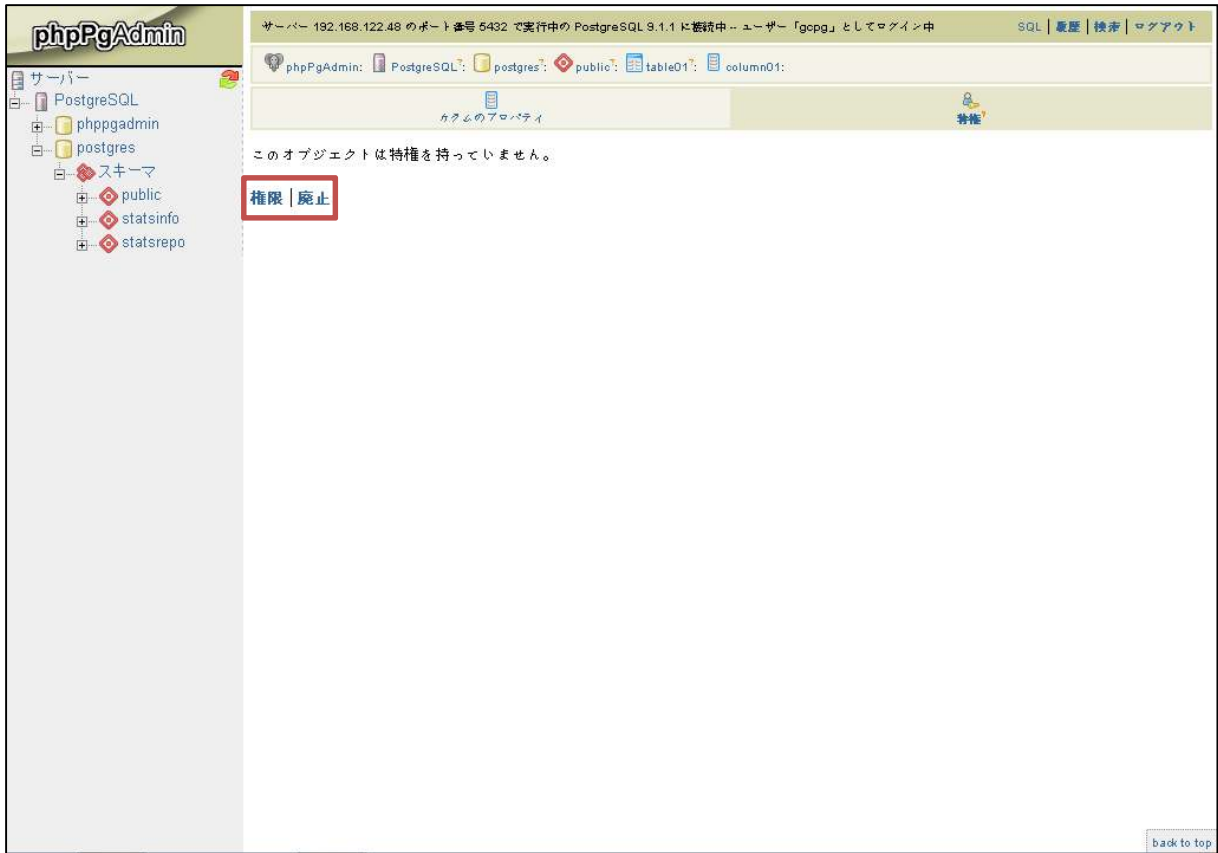


図 2-10-24 「テーブルのカラムの特権操作」

表 2-10-25 テーブルのカラムの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該カラムについてアクセス権を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-10-2-I 「テーブルのカラムの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該カラムについてアクセス権を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-10-2-II 「テーブルのカラムの特権破棄」を参照してください。

2-10-2-I. テーブルのカラムの特権追加

★ カラムに対するアクセス権限を定義します。

① 「テーブルのカラムの特権操作」で[権限]をクリックします。

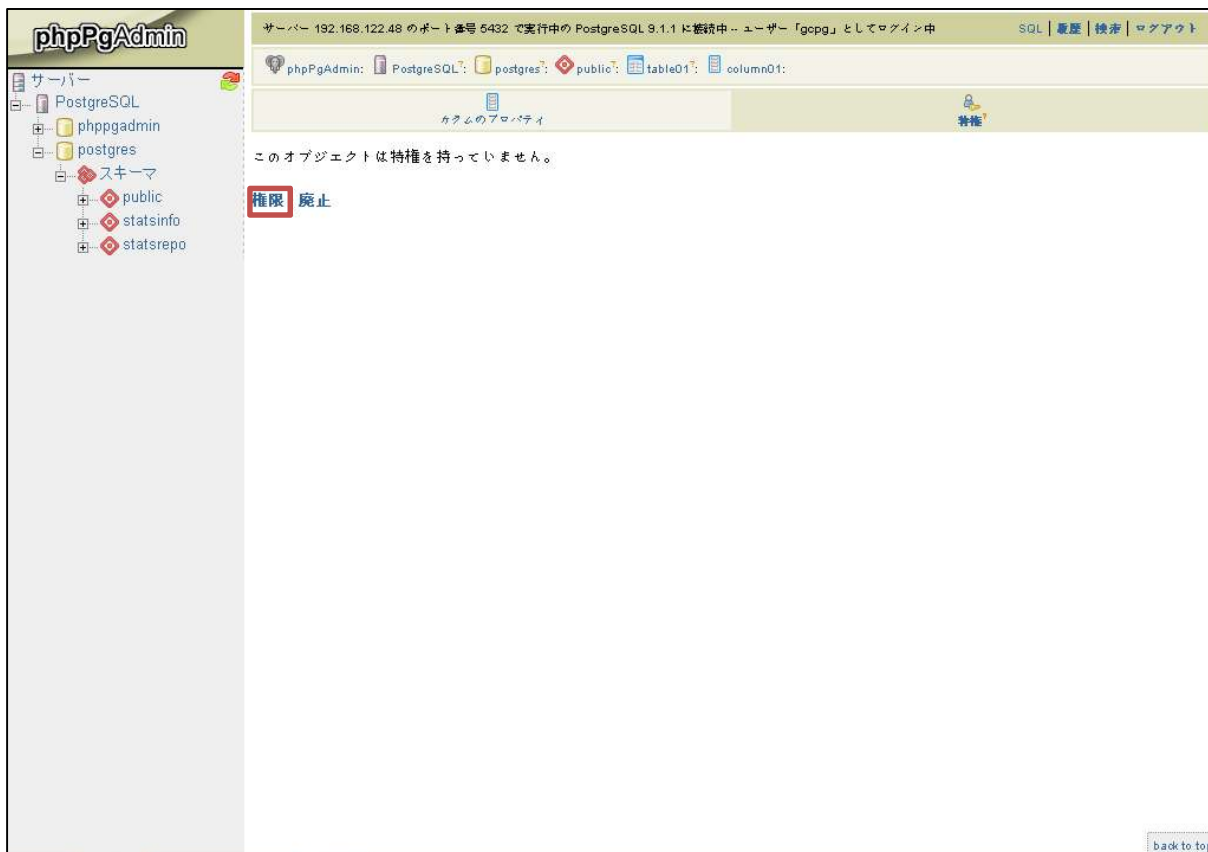


図 2-10-26 「テーブルのカラムの特権操作」

② 「テーブルのカラムの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

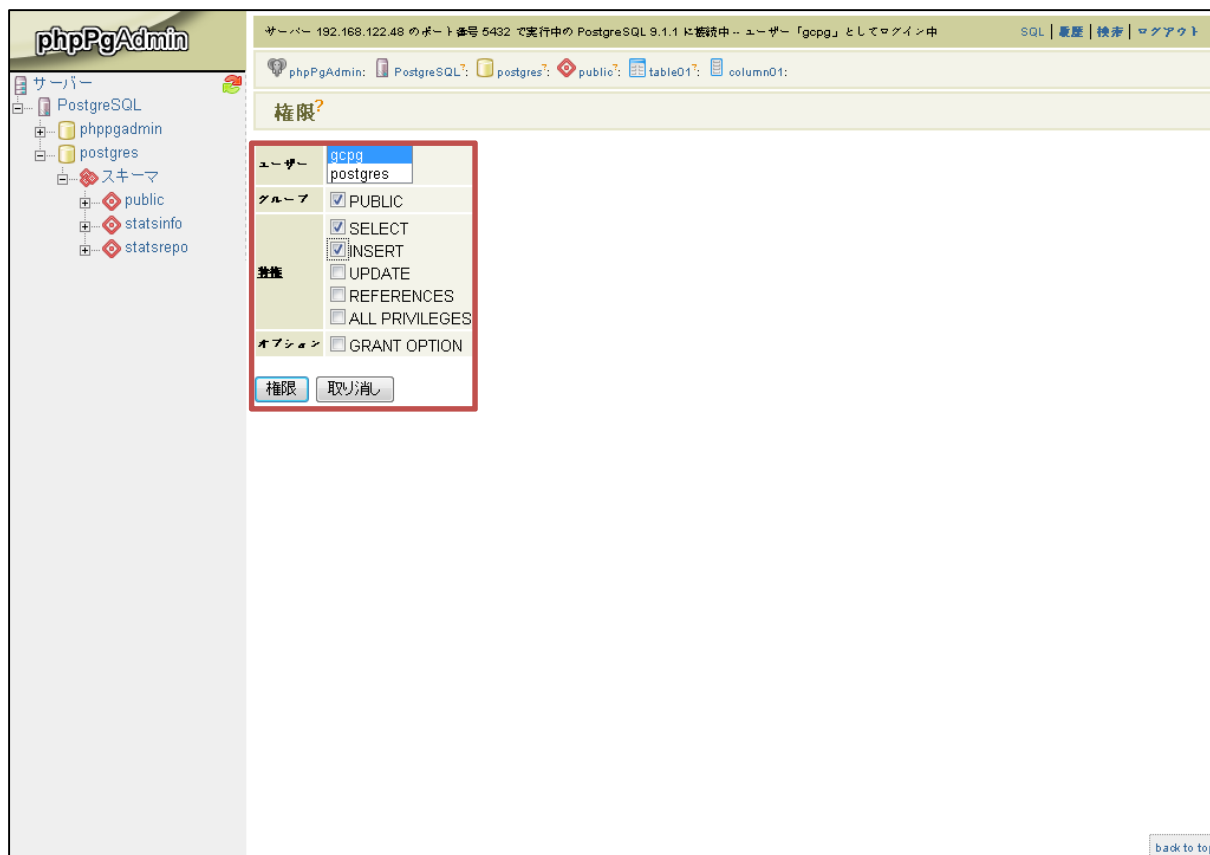


図 2-10-27 「テーブルのカラムの特権追加」

表 2-10-28 テーブルのカラムの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	<p>ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT を許可します。 ● INSERT : INSERT を許可します。 ● UPDATE : UPDATE を許可します。

		<ul style="list-style-type: none"> ● REFERENCES : REFERENCES を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラムの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。

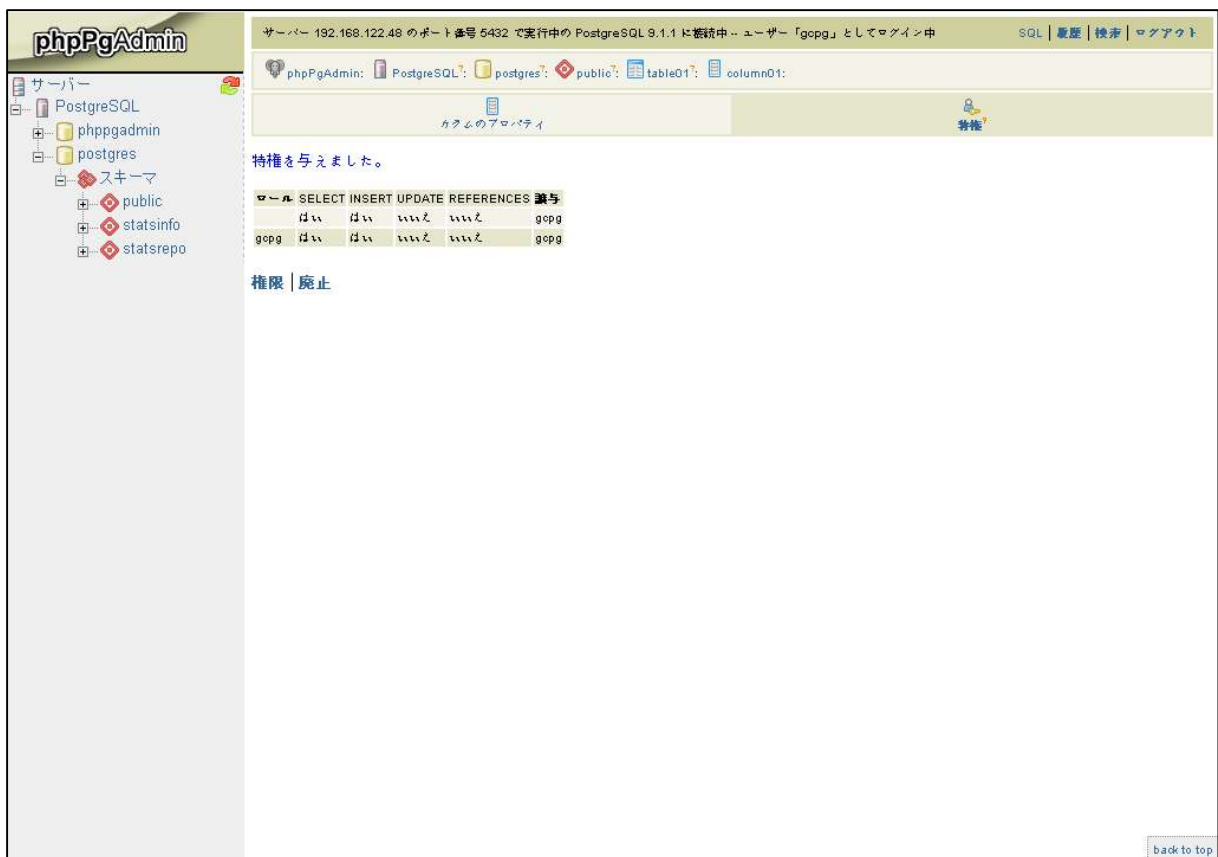


図 2-10-29 「テーブルのカラムの特権操作」

2-10-2-II. テーブルのカラムの特権破棄

★ カラムに対するアクセス権限を取り消します。

① 「テーブルのカラムの特権操作」で[廃止]をクリックします。

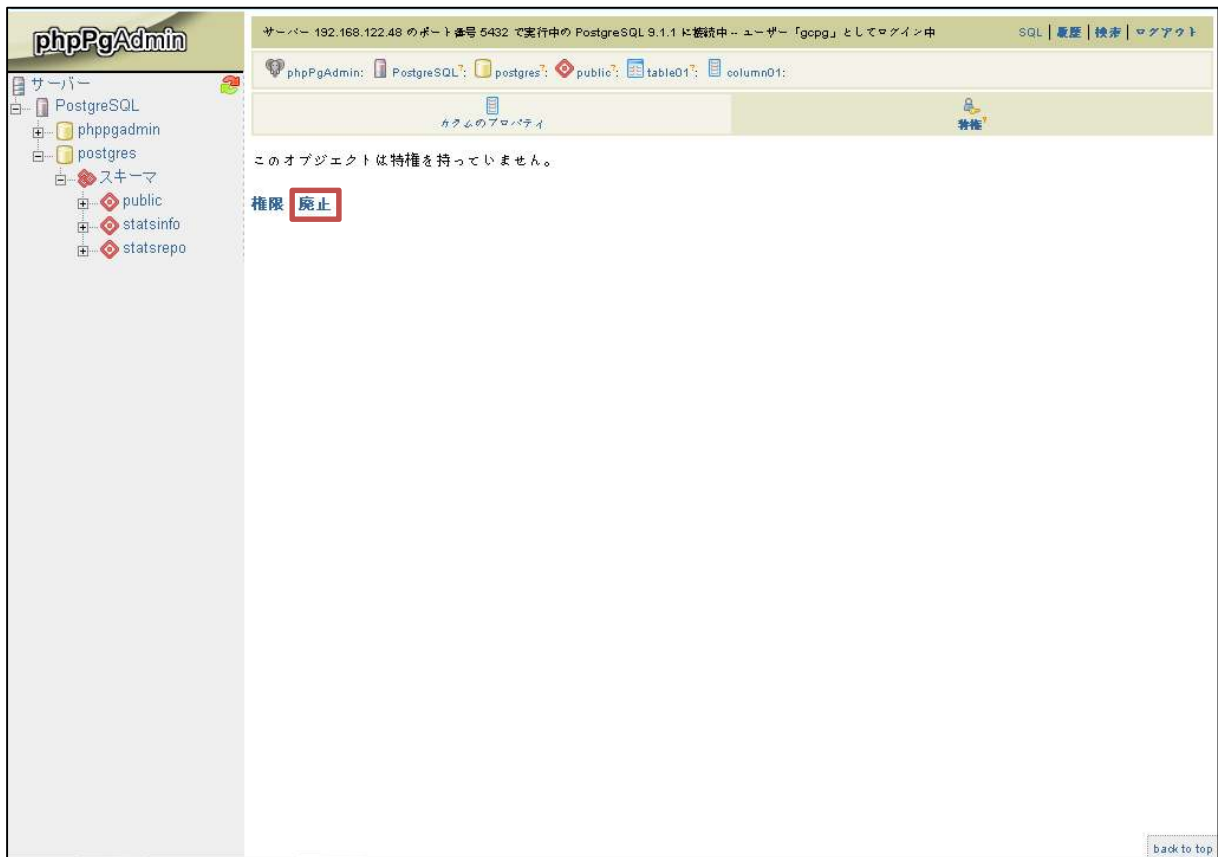


図 2-10-30 「テーブルのカラムの特権操作」

② 「テーブルのカラムの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

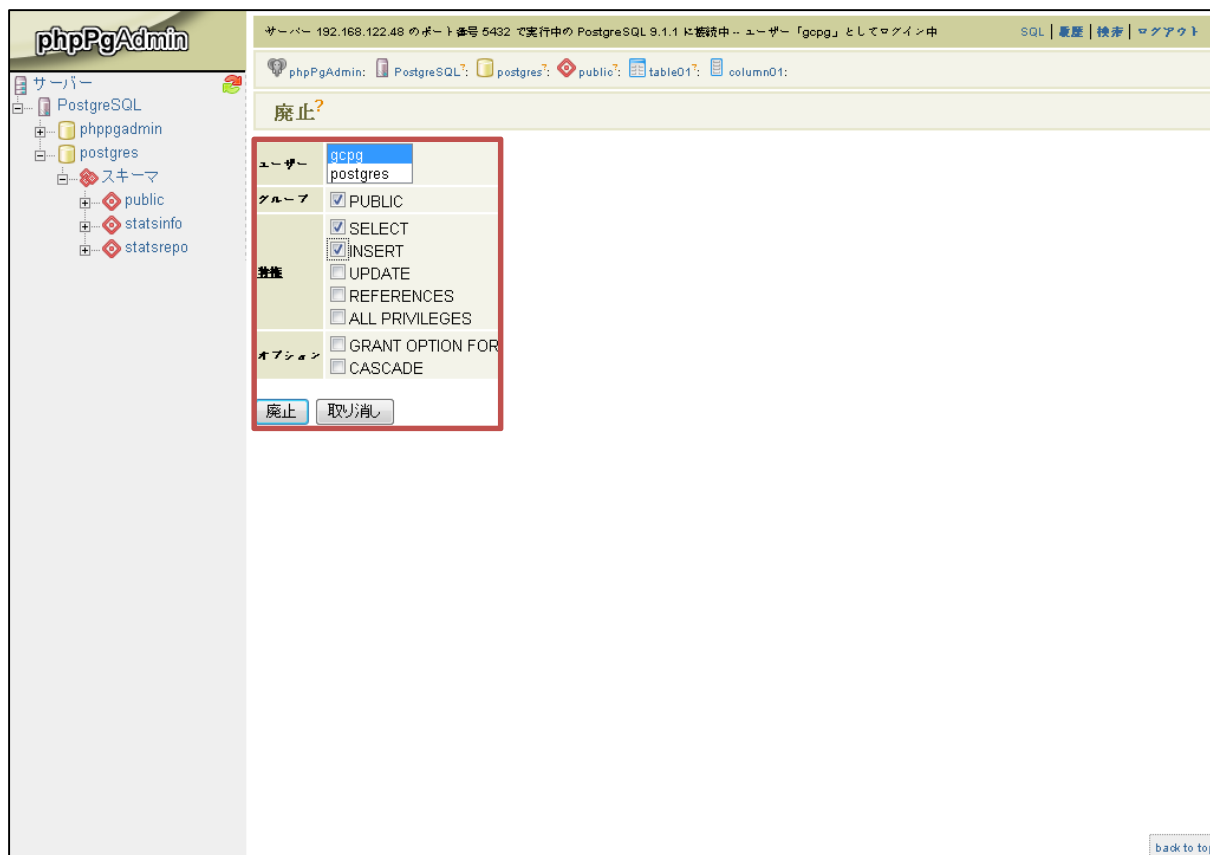


図 2-10-31 「テーブルのカラムの特権破棄」

表 2-10-32 テーブルのカラムの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	<p>ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT 権限を取り消します。 ● INSERT : INSERT 権限を取り消します。 ● UPDATE : UPDATE 権限を取り消します。 ● REFERENCES : REFERENCES 権限を取り消します。

		<ul style="list-style-type: none"> ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。
4	[オプション]	<p>[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限のGRANT OPTION のみ取り消されます。</p> <p>[CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。</p>
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「テーブルのカラムの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

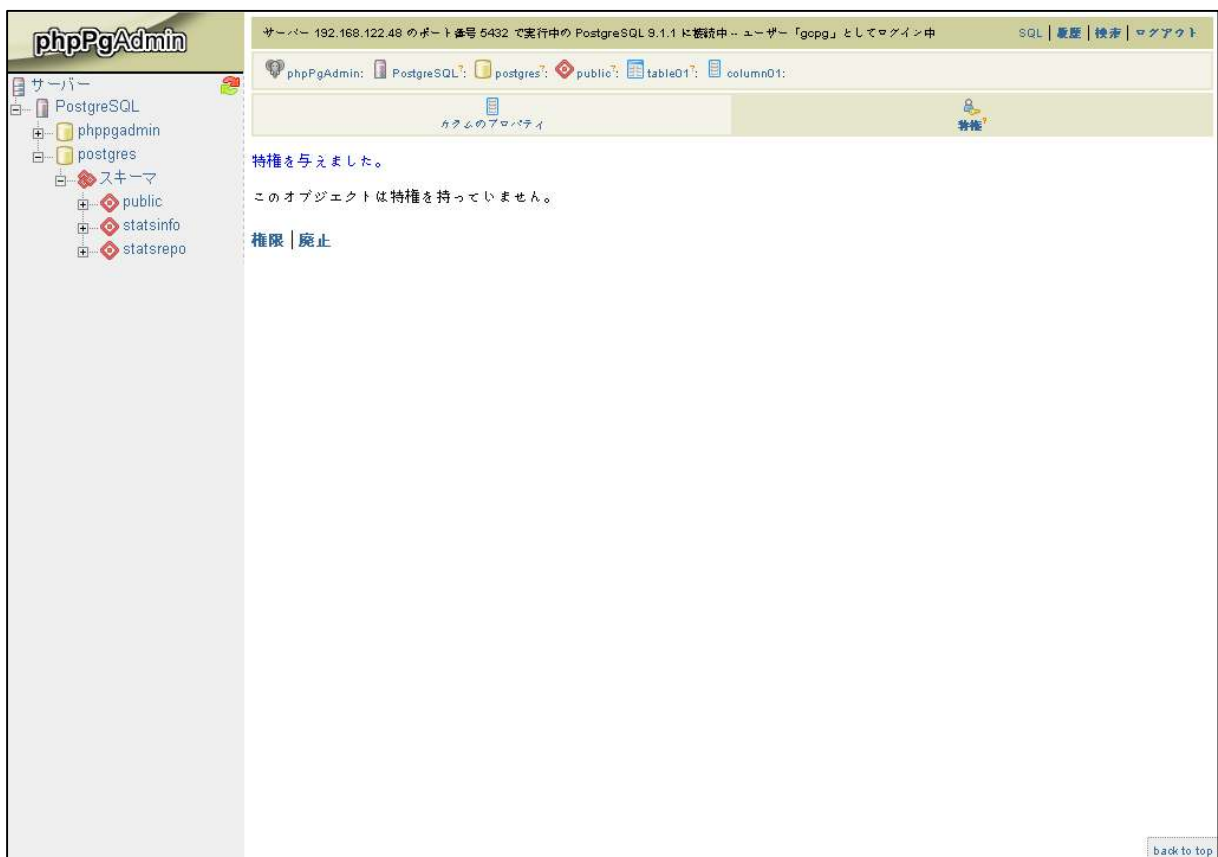


図 2-10-33 「テーブルのカラムの特権操作」

2-11 ビュー個別操作メニュー

★ 「ビュー個別操作メニュー」を表示します。

① 「ビュー一覧操作」で“個別ビュー名”をクリックします。



図 2-11-1 「ビュー一覧操作」

② 「ビュー個別操作メニュー」の表示を確認します。

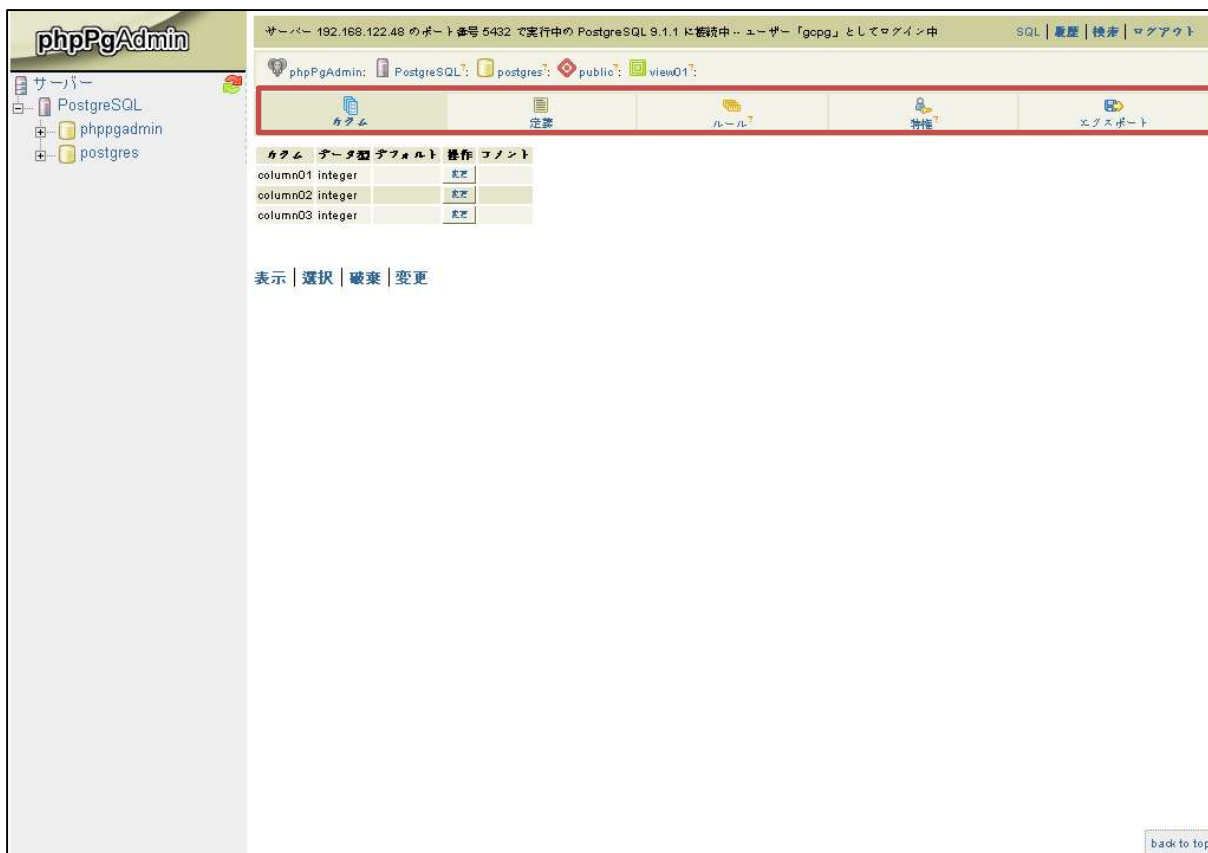


図 2-11-2 「ビュー個別操作メニュー」

表 2-11-3 ビュー個別操作メニュー画面項目

NO	項目名	説明
1	[カラム]	カラム一覧を表示します。カラムについての操作を行うことができます。
2	[定義]	ビューの定義を表示します。定義についての操作を行うことができます。
3	[ルール]	ルール一覧を表示します。ルールについての操作を行うことができます。
4	[特権]	特権一覧を表示します。特権についての操作を行うことができます。
5	[エクスポート]	ビューの情報をエクスポートすることができます。

2-11-1 ビューのカラム一覧操作

★ 「ビューのカラム一覧操作」を表示します。ビューのカラムの変更、破棄ができます。また、ビューのデータの選択などができます。

① 「ビュー個別操作メニュー」で [カラム]をクリックします。

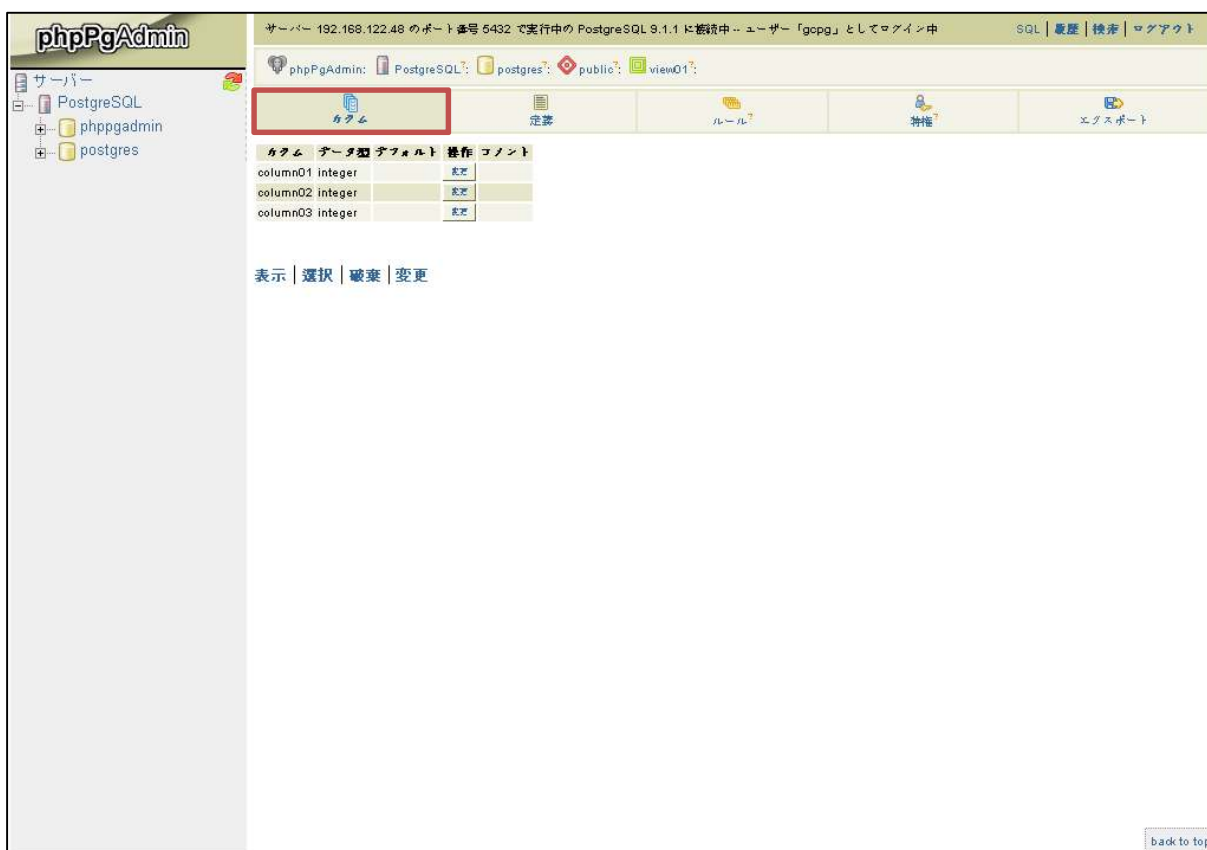


図 2-11-4 「ビュー個別操作メニュー」

② 「ビューのカラム一覧操作」の表示を確認します。

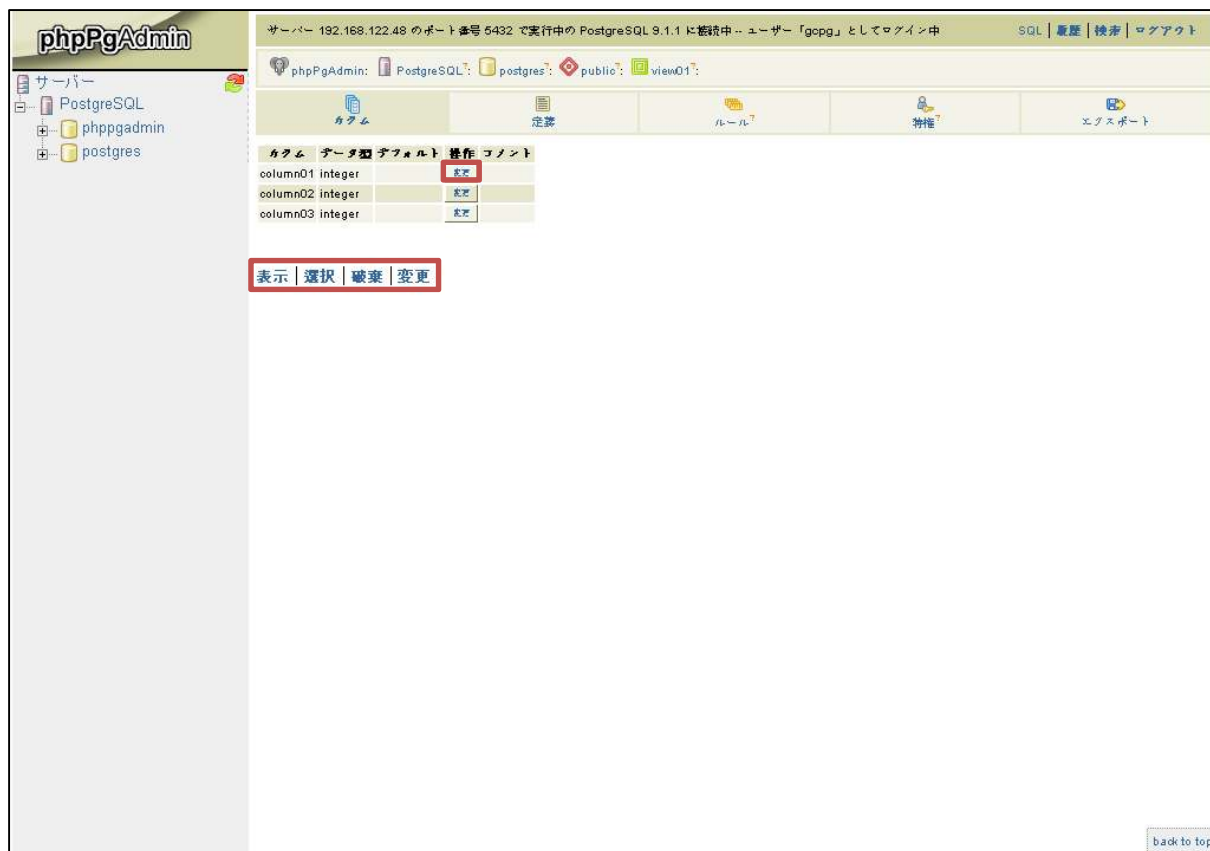


図 2-11-5 「ビューのカラム一覧操作」

表 2-11-6 ビューのカラム一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[変更]ボタン	カラムの定義を変更することができます。(ALTER VIEWに相当) 詳細は 2-11-1-I「ビューのカラムの変更」を参照してください。
2	[表示]	データを表示します。 詳細は 2-11-1-II「ビューの表示」を参照してください。
3	[選択]	条件を指定してデータを表示することができます。(SELECTに相当) 詳細は 2-11-1-III「ビューの選択操作」を参照してください。

4	[破棄]	ビューを削除することができます。(DROP VIEW に相当) 詳細は 2-11-1-IV「ビューの破棄」を参照してください。
5	[変更]	ビューの定義を変更することができます。(ALTER VIEW に相当) 詳細は 2-11-1-V「ビューの変更」を参照してください。

2-11-1-I. ビューのカラムの変更

★ カラムを変更します。

① 「ビューのカラム一覧操作」で[変更]ボタンをクリックします。

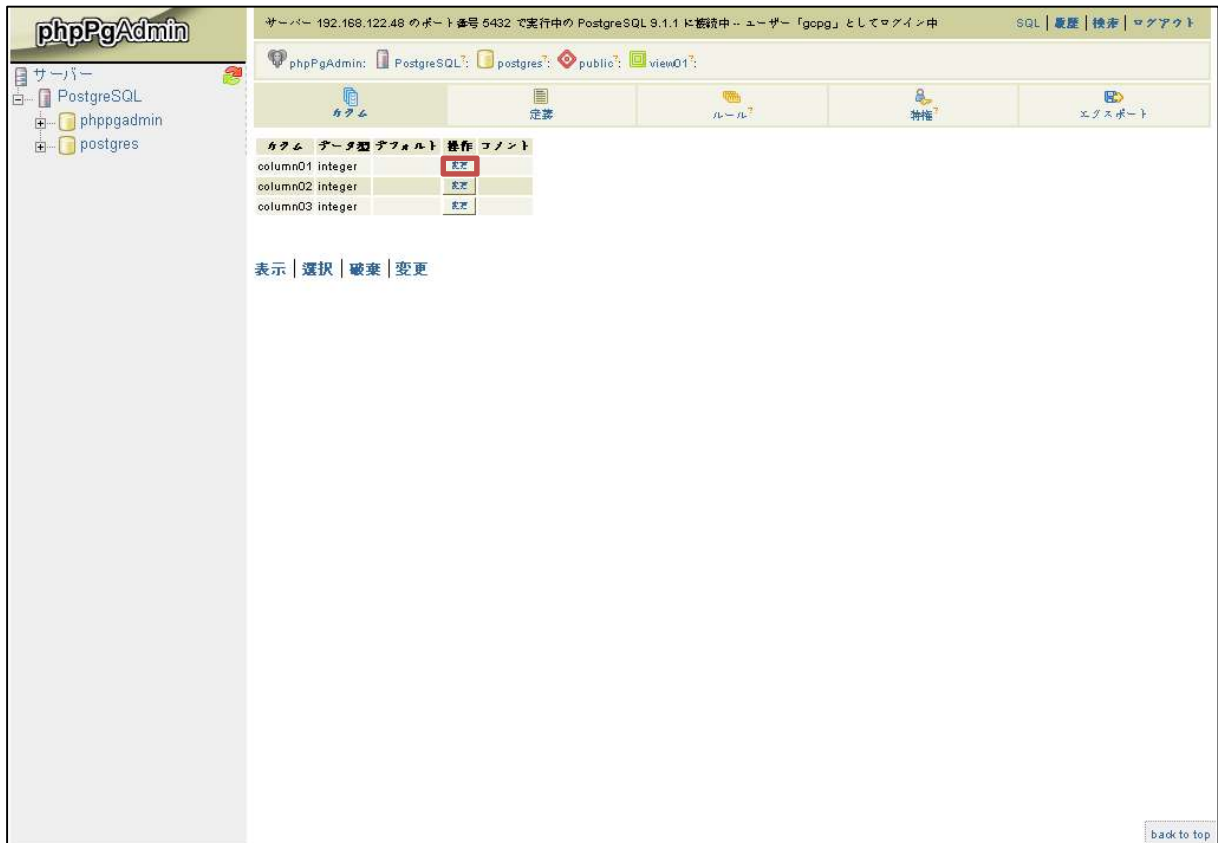


図 2-11-7 「ビューのカラム一覧操作」

② 「ビューのカラムの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

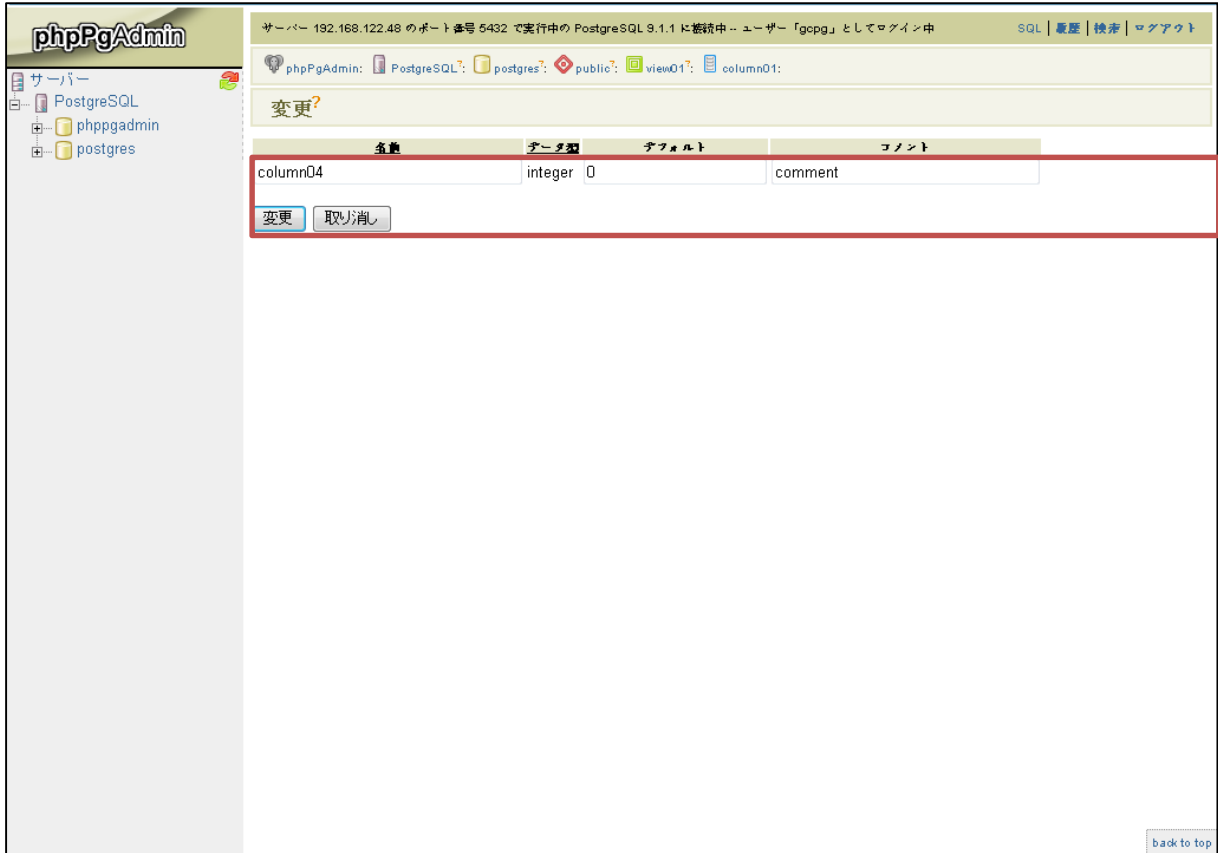


図 2-11-8 「ビューのカラムの変更」

表 2-11-9 ビューのカラムの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	カラムの名称を指定します。
2	[データ型]	カラムのデータ型を表示します。
3	[デフォルト]	カラムのデフォルト値を指定します。
4	[コメント]	カラムのコメントを指定します。
5	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューのカラム一覧操作」でカラムの定義が変更されたことを確認します。

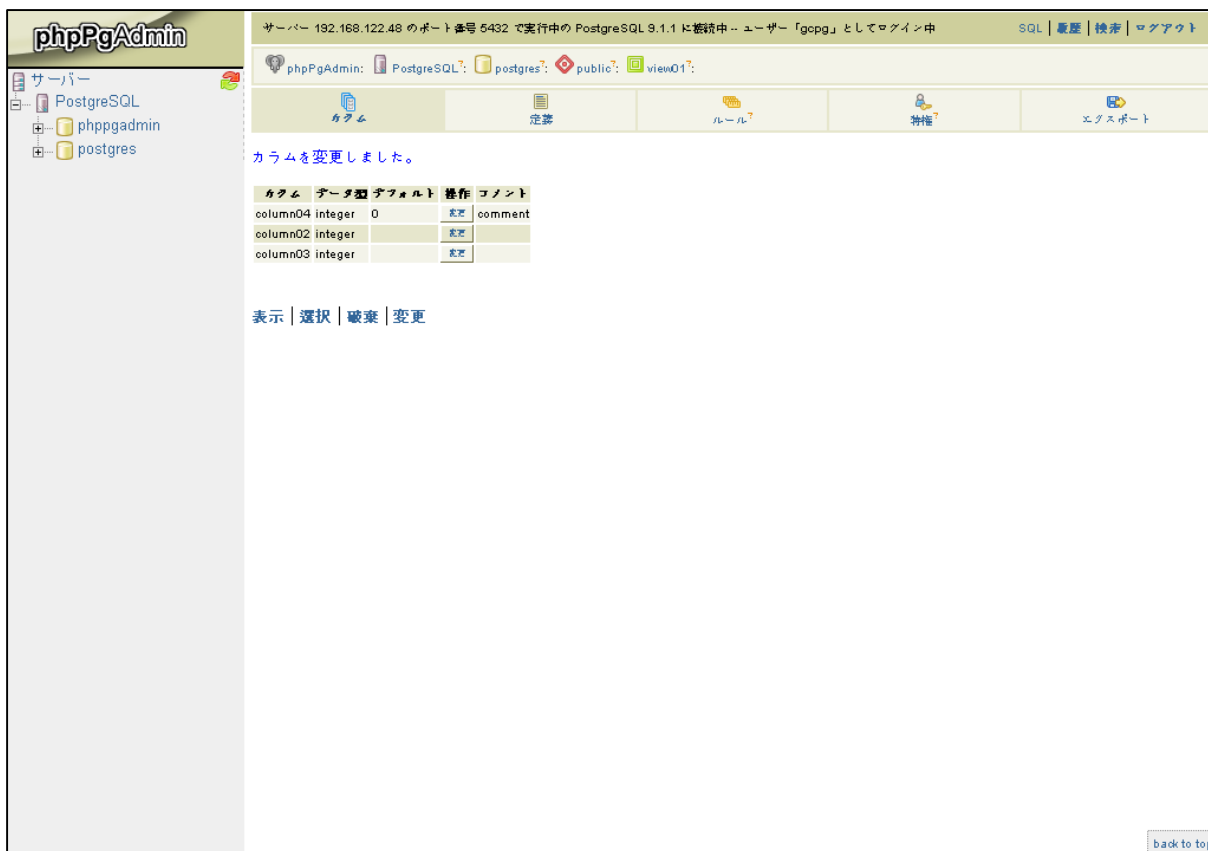


図 2-11-10 「ビューのカラム一覧操作」

2-11-1-II. ビューの表示

★ ビューのデータを表示します。

① 「ビューのカラム一覧操作」で[表示]をクリックします。

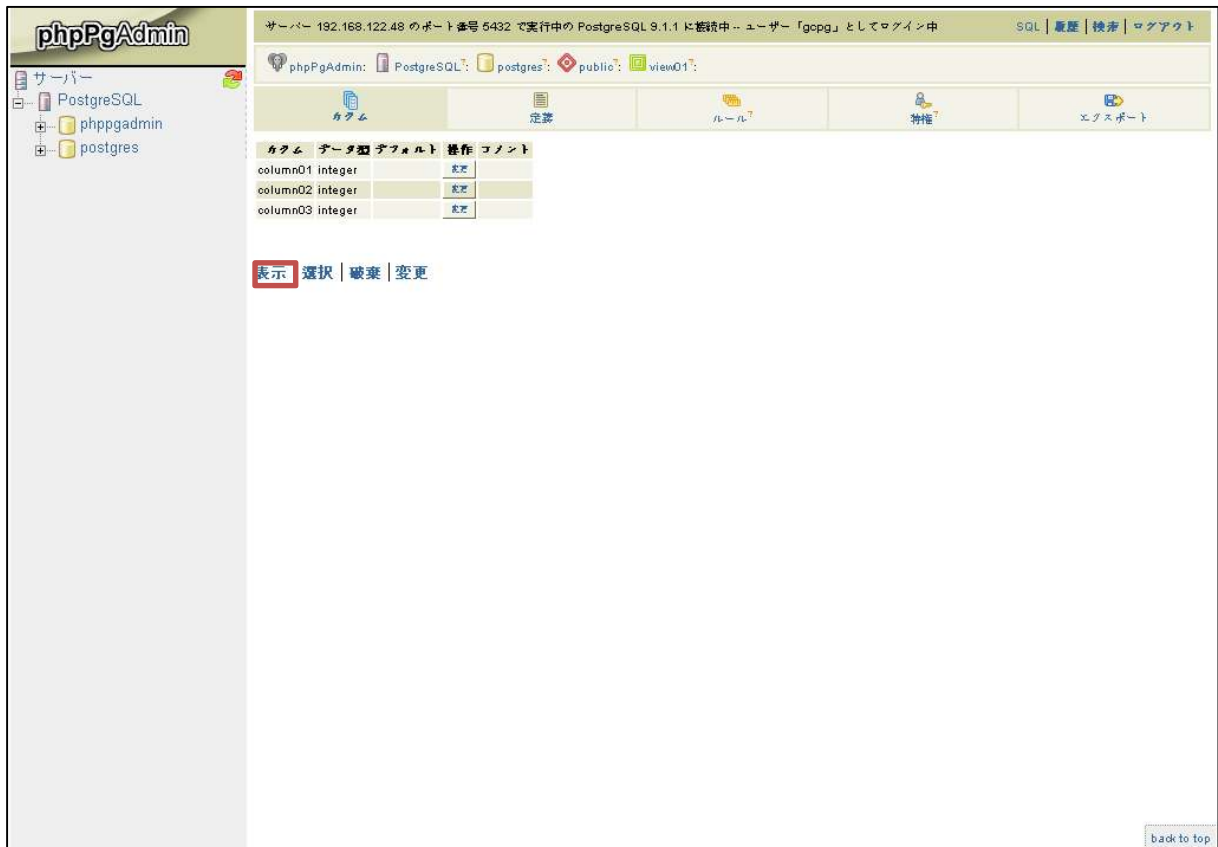


図 2-11-11 「ビューのカラム一覧操作」

②ビューのデータを確認します。

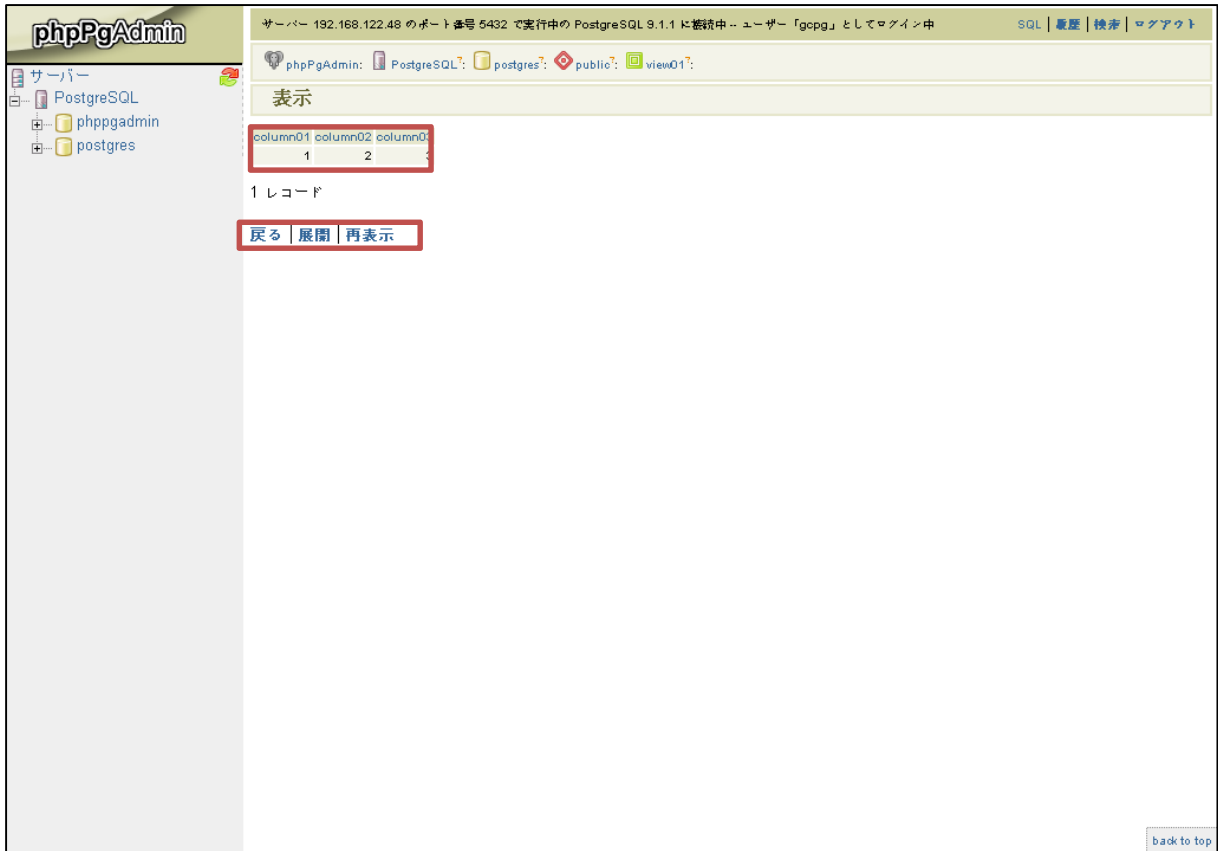


図 2-11-12 「ビューの表示」

表 2-11-13 ビューの表示画面項目

NO	項目名	説明
1	“カラム名”	当該ビューのカラム名。
2	[戻る]	元の画面に戻ります。
3	[展開]	省略された文字列を展開して表示します。
4	[再表示]	当該ビューを再表示します。

2-11-1-III. ビューの選択操作

★ 指定条件でビューから行を選択します。

① 「ビューのカラム一覧操作」で[選択]をクリックします。

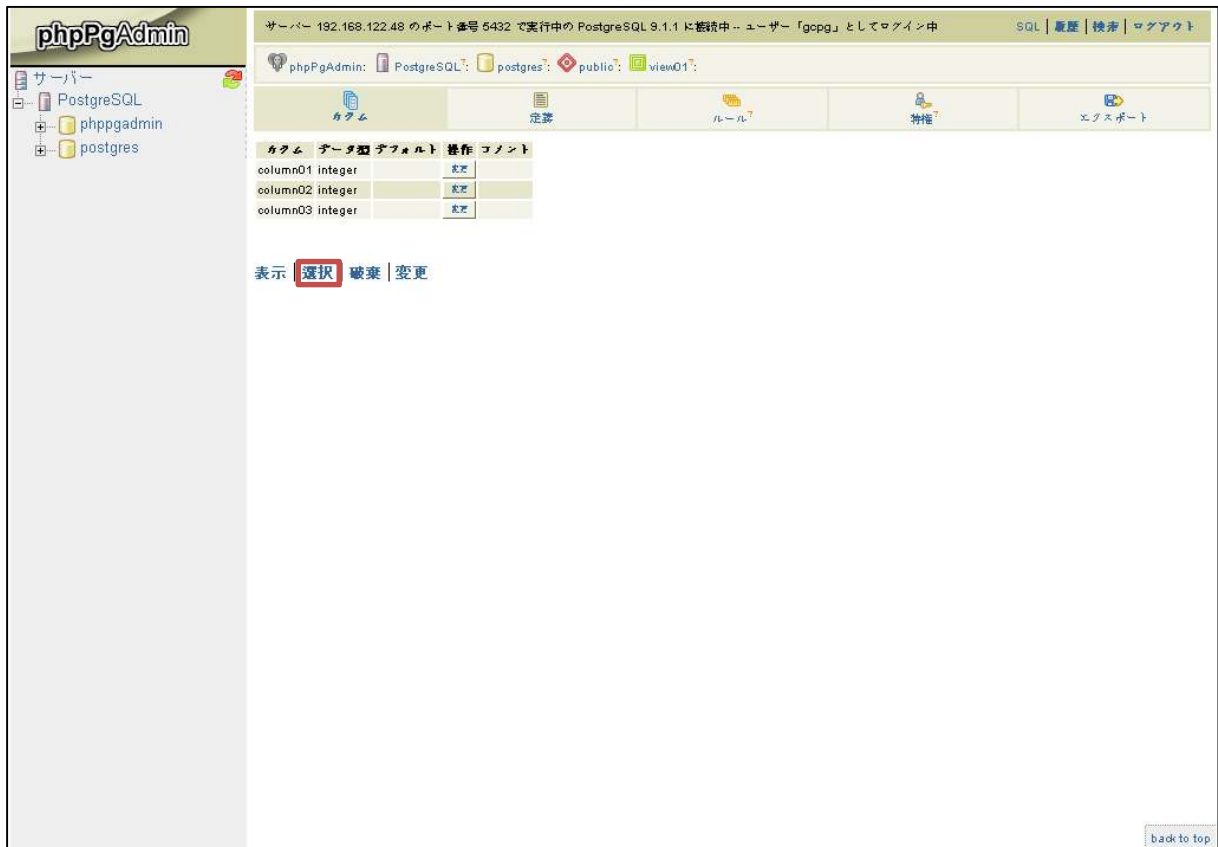


図 2-11-14 「ビューのカラム一覧操作」

② 「ビューの選択操作」で[選択]ボタンをクリックします。

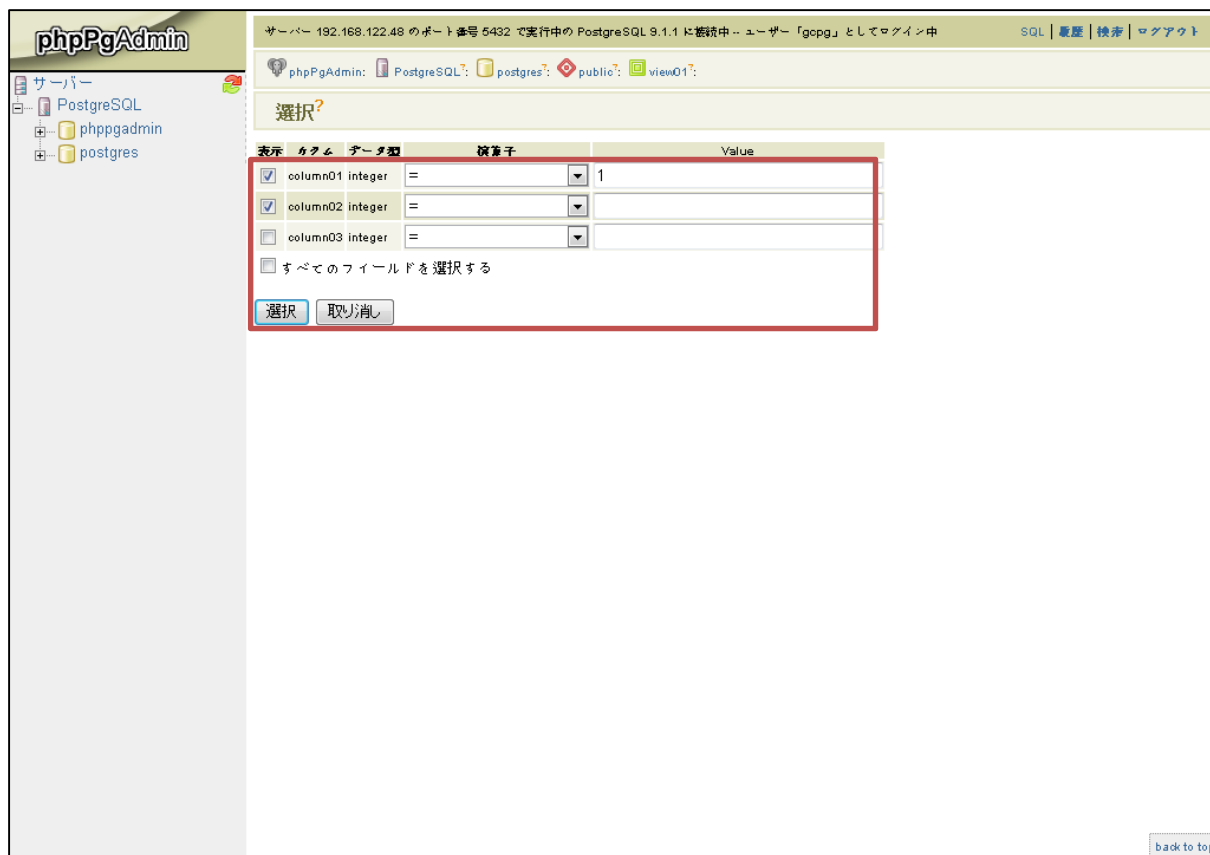


図 2-11-15 「ビューの選択操作」

表 2-11-16 ビューの選択操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[表示]	当該カラムを選択結果に表示させたい場合は有効にする。
2	“カラム名”	当該カラムの名称。
3	“データ型”	当該カラムのデータ型。
4	[演算子]	当該カラムの値と Value で指定した値を比較する際の演算子を下記から選択します。

- =
- !=
- <
- >
- <=
- >=
- <<
- >>
- <<=
- >>=
- LIKE
- NOT LIKE
- ILIKE
- NOT ILIKE
- SIMILAR TO
- NOT SIMILAR TO
- ~
- !~
- ~*
- !~*
- IS NULL
- IS NOT NULL
- IN
- NOT IN
- @@
- @@@
- @>
- <@
- @@ to_tsquery
- @@@ to_tsquery
- @> to_tsquery
- <@ to_tsquery
- @@ plainto_tsquery

		<ul style="list-style-type: none"> ● @@@ plainto_tsquery ● @> plainto_tsquery ● <@ plainto_tsquery
5	[Value]	当該カラムの値と比較するための値を指定します。
6	[選択]ボタン	選択操作を実行します。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューの選択操作完了画面」でビューのデータが選択されたことを確認します。

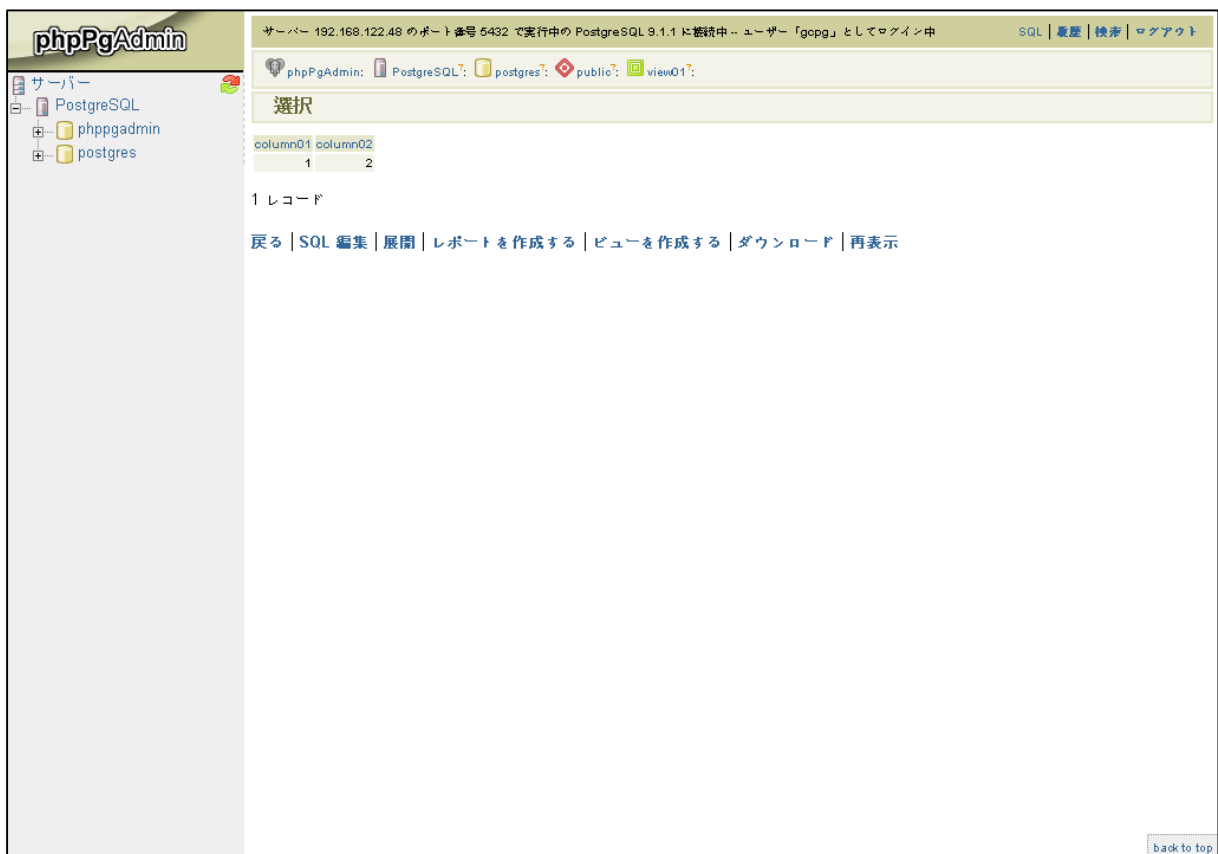


図 2-11-17 「ビューの選択操作完了画面」

2-11-1-IV. ビューの破棄

★ ビューを破棄します。

① 「ビューのカラム一覧操作」で[破棄]をクリックします。

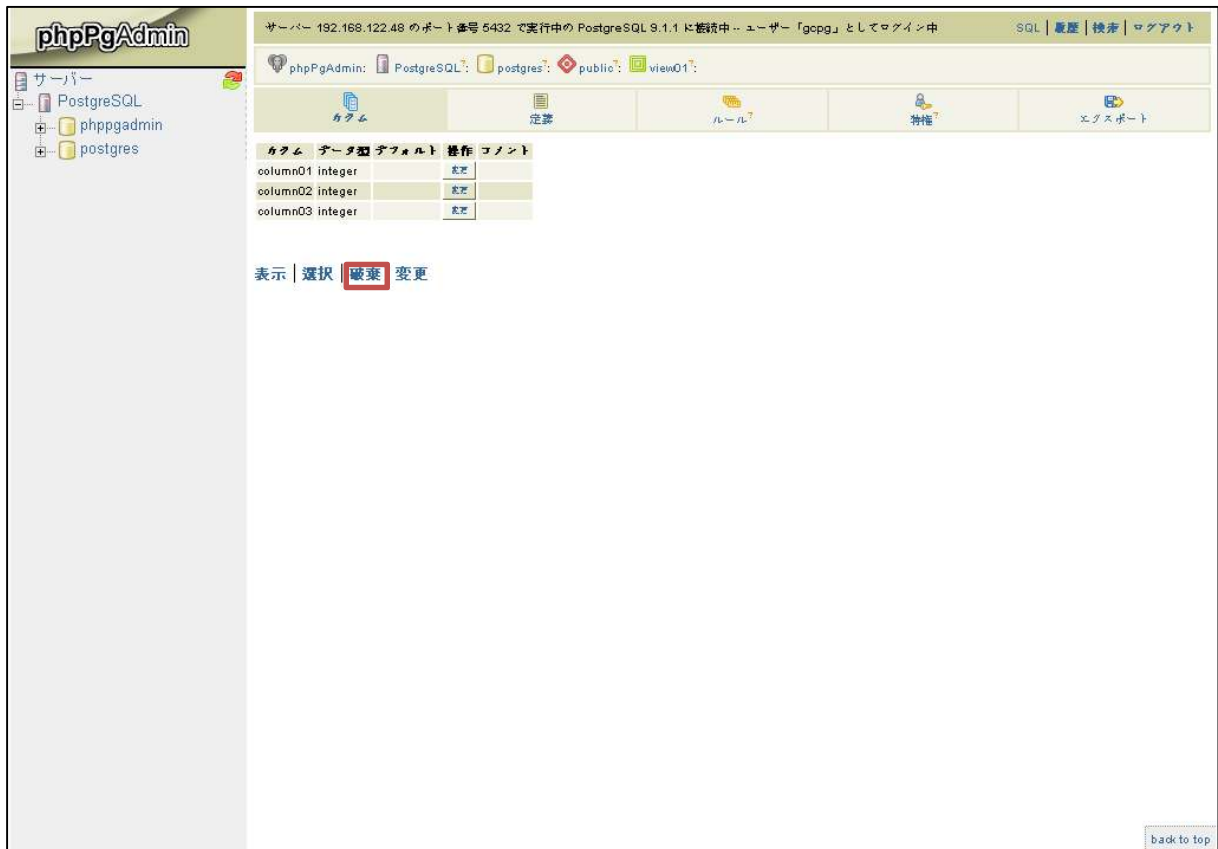


図 2-11-18 「ビューのカラム一覧操作」

② 「ビューの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

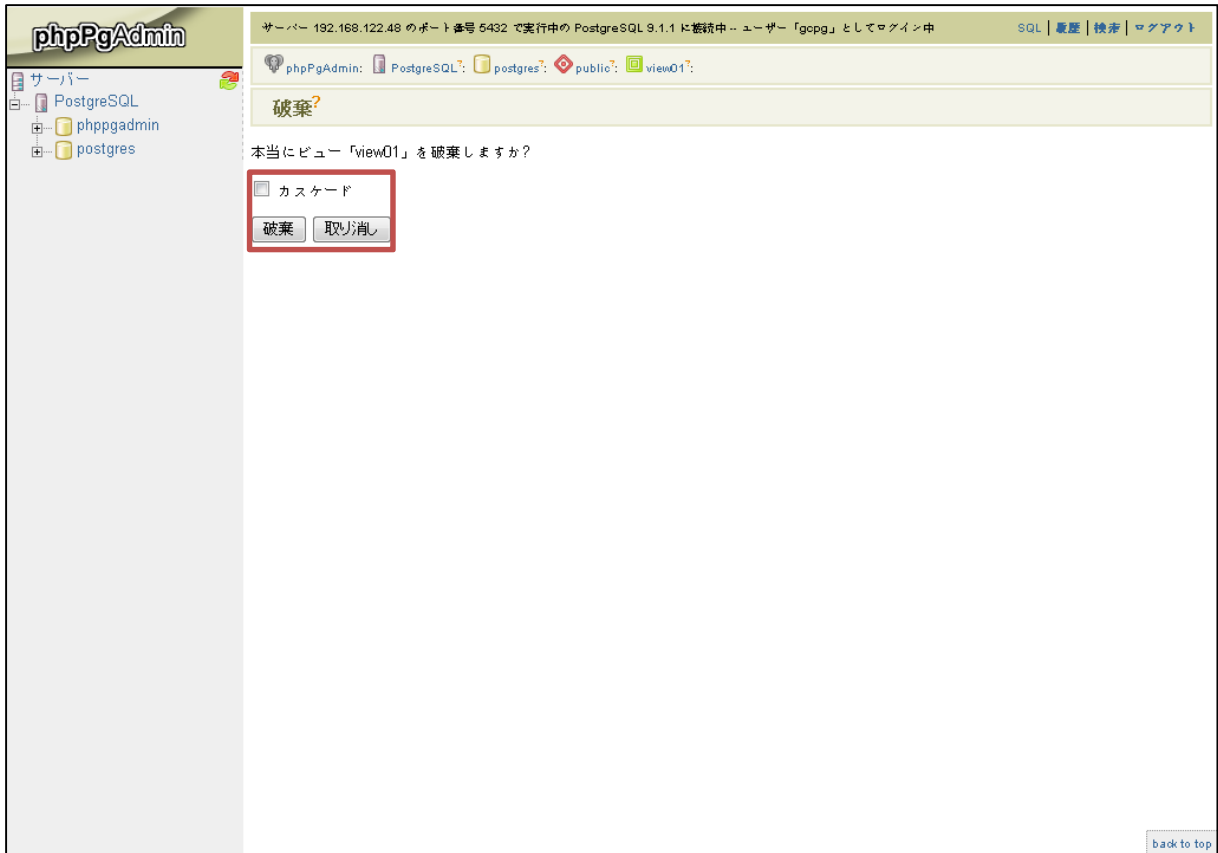


図 2-11-19 「ビューの破棄」

表 2-11-20 ビューの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するビューに他のビューなどが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビュー一覧操作」でカラムが破棄されたことを確認します。

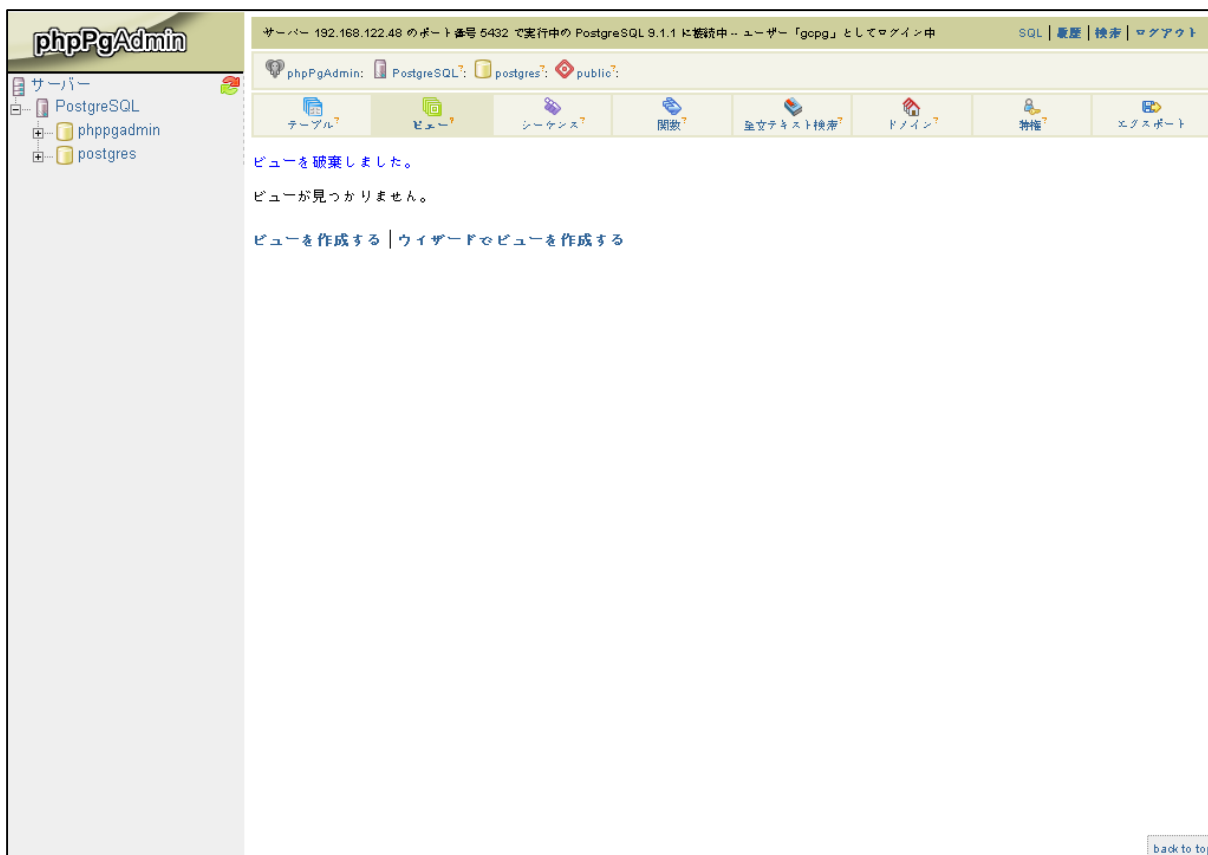


図 2-11-21 「ビュー一覧操作」

2-11-1-V. ビューの変更

★ ビューの定義を変更します。

① 「ビューのカラム一覧操作」で[変更]をクリックします。

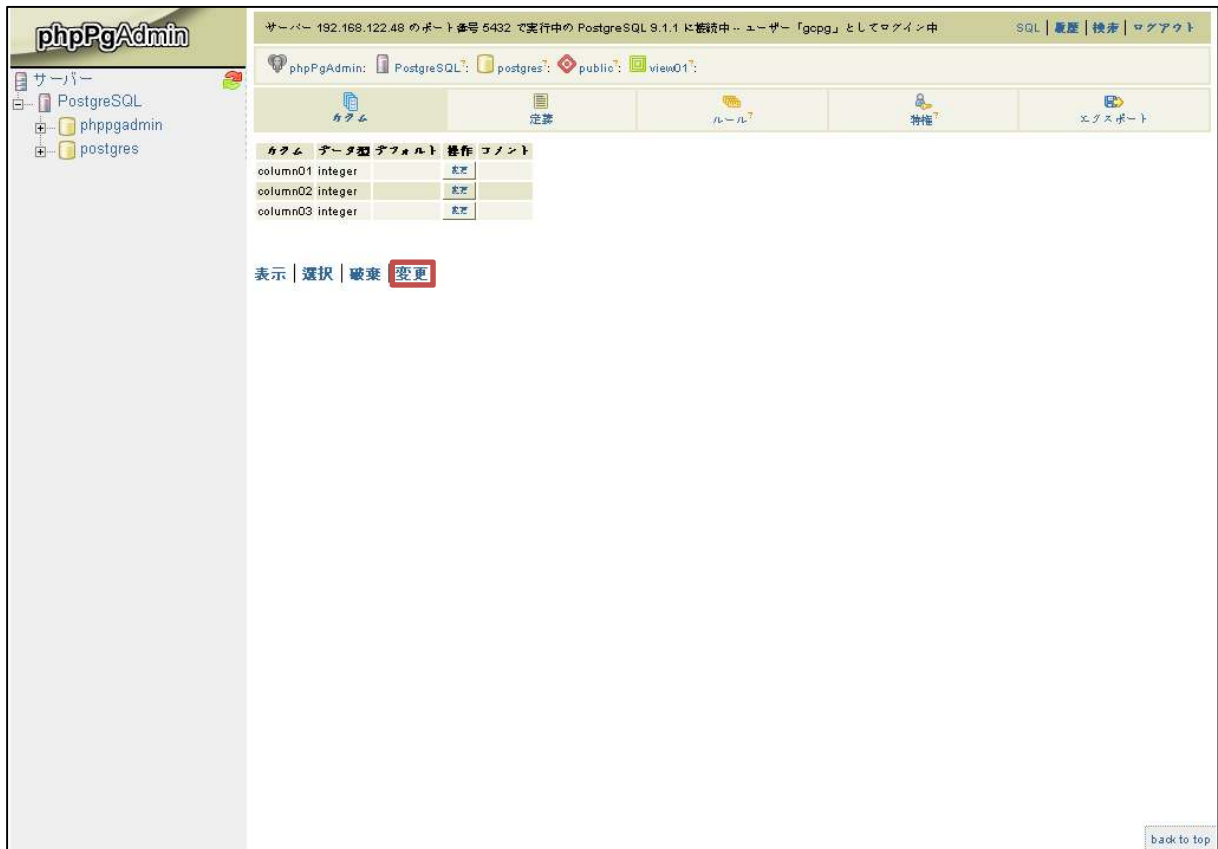


図 2-11-22 「ビューのカラム一覧操作」

② 「ビューの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

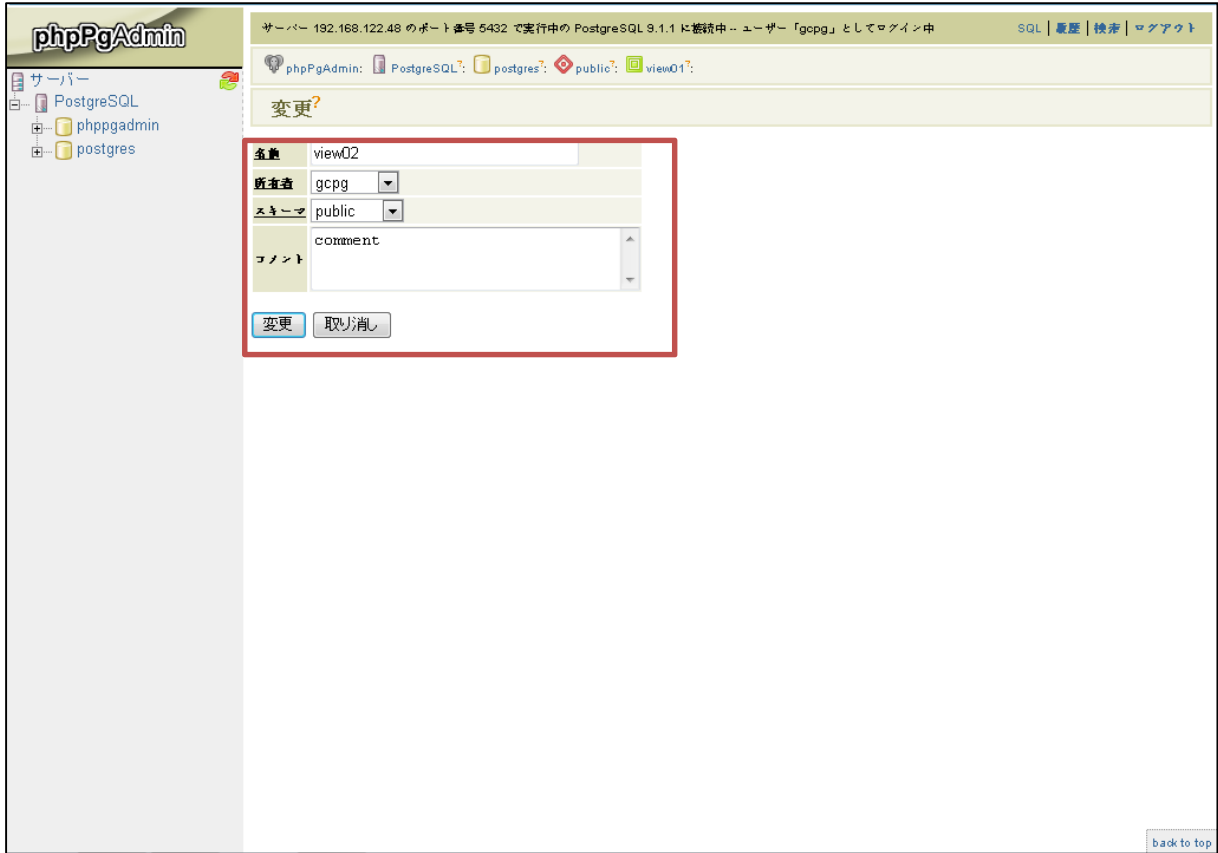


図 2-11-23 「ビューの変更」

表 2-11-24 ビューの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ビューの名称を指定します。
2	[所有者]	ビューの所有者を指定します。
3	[スキーマ]	ビューが作成されるスキーマを指定します。
4	[コメント]	コメントを指定します。
5	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューのカラム一覧操作」でビューが変更されたことを確認します。

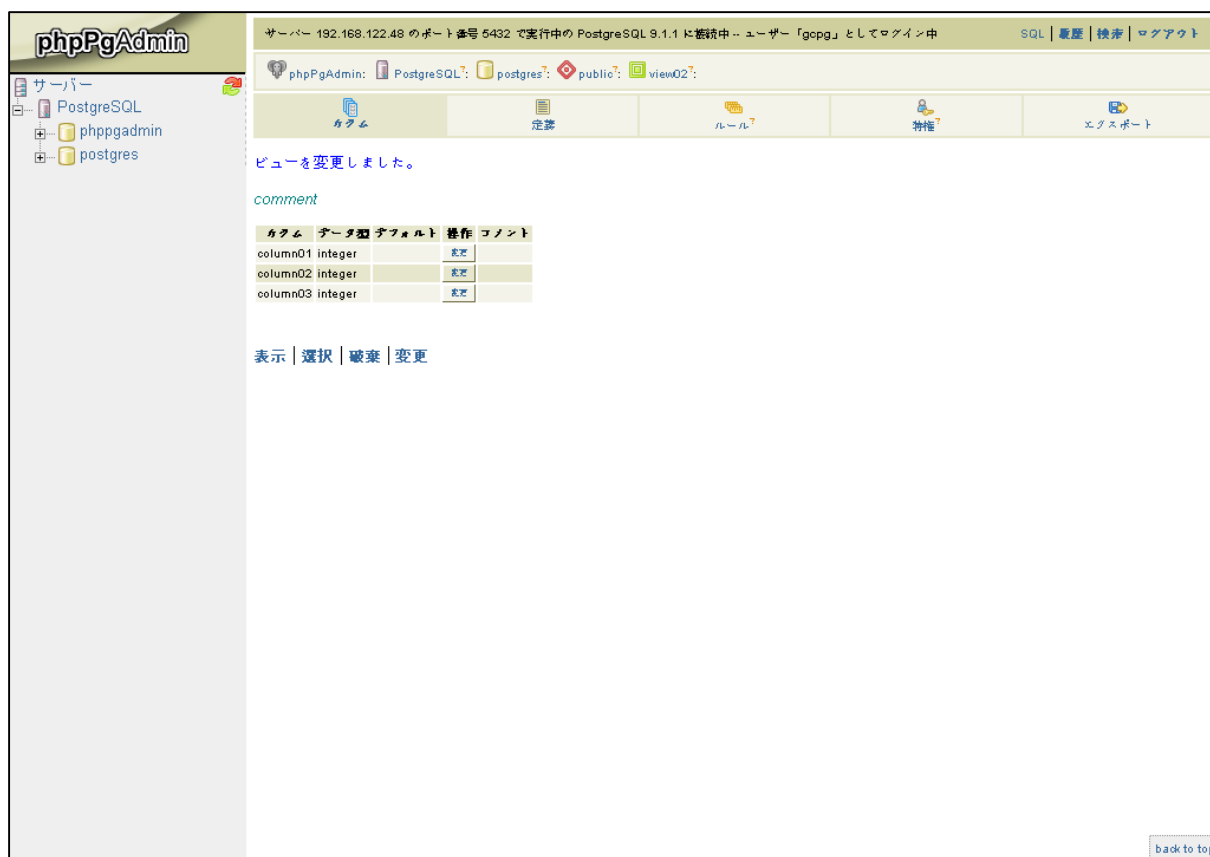


図 2-11-25 「ビューのカラム一覧操作」

2-11-2 ビューの定義

★ 「ビューの定義」を表示します。ビューの定義の変更ができます。

① 「ビュー個別操作メニュー」で [定義]をクリックします。

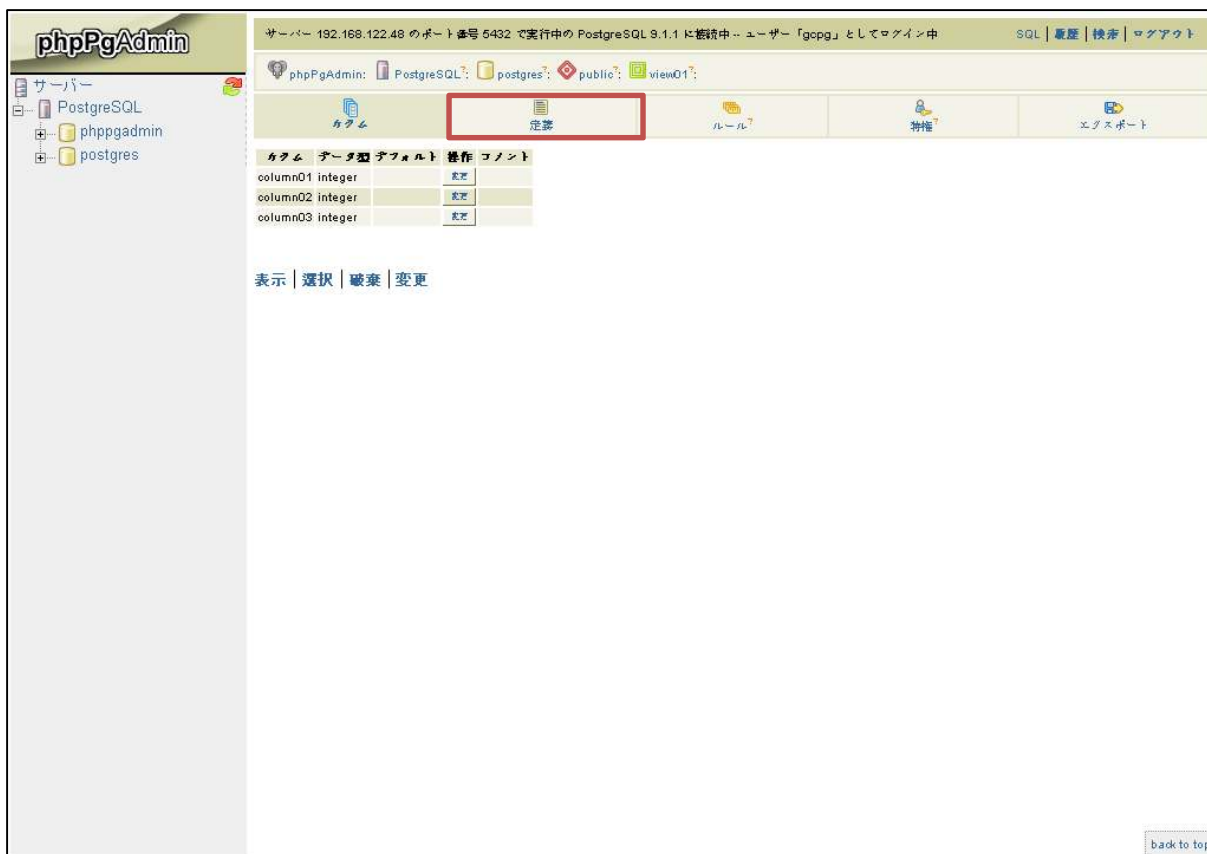


図 2-11-26 「ビュー個別操作メニュー」

② 「ビューの定義」 の表示を確認します。

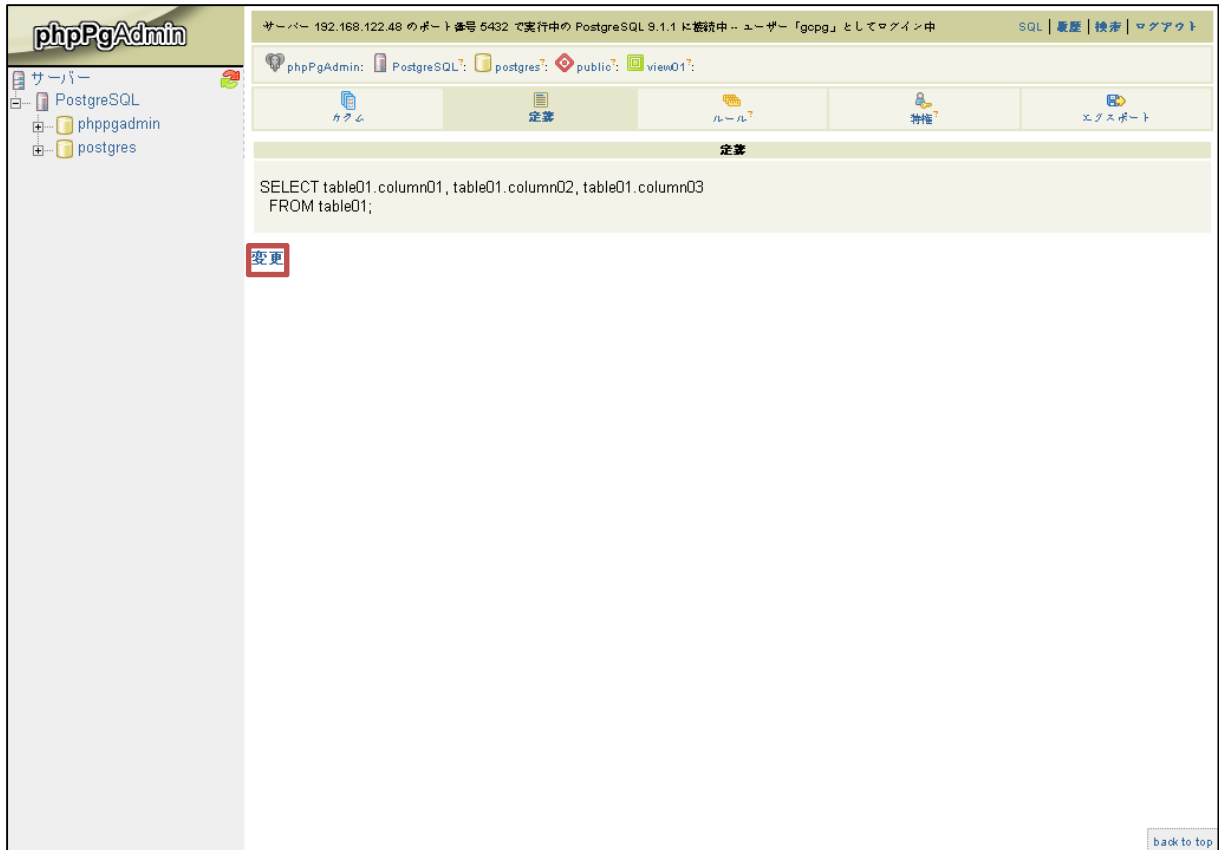


図 2-11-27 「ビューのカラム一覧操作」

表 2-11-28 ビューのカラム一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[変更]	ビューの定義を変更することができます。(ALTER VIEW に相当) 詳細は 2-11-1-V 「ビューの変更」 を参照してください。

2-11-3 ビューのルール一覧操作

★ 「ビューのルール一覧操作」を表示します。ビューのルールの作成、破棄ができます。

① 「ビュー個別操作メニュー」で [ルール]をクリックします。

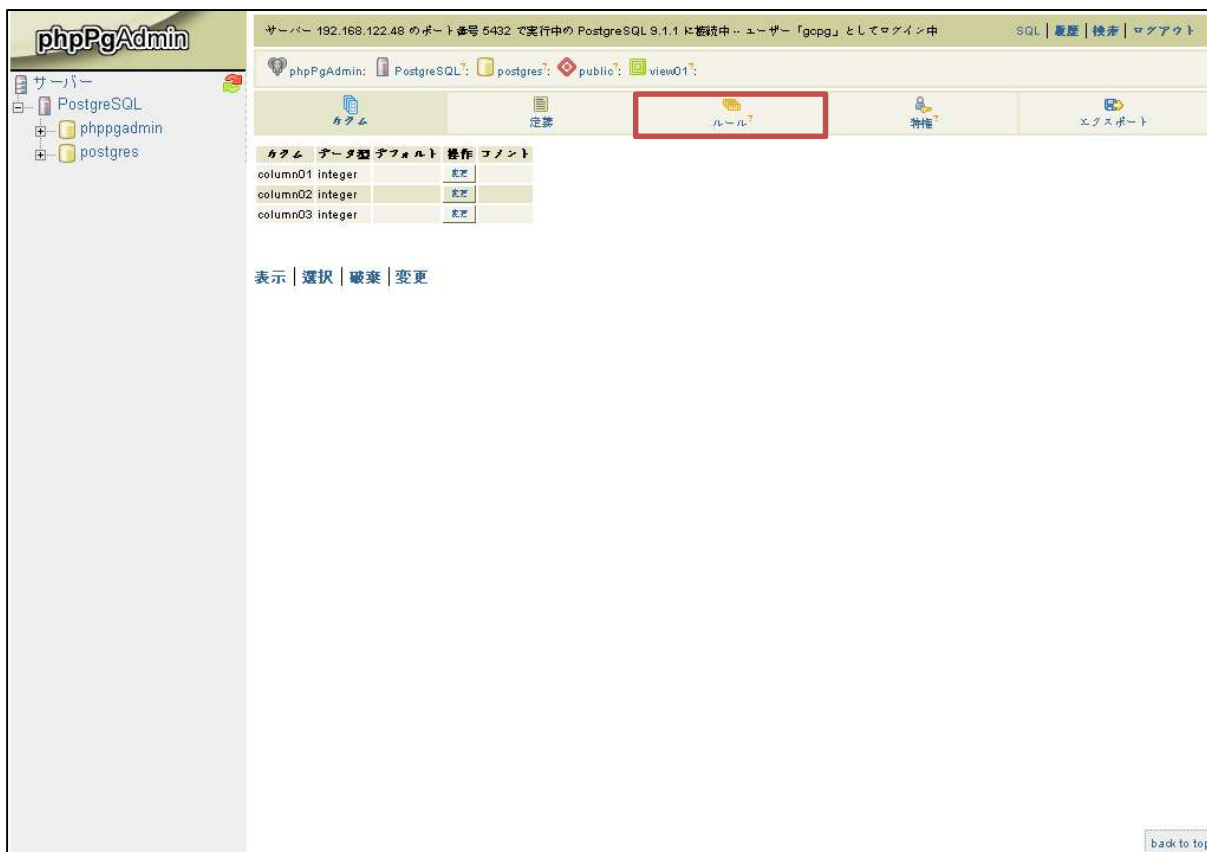


図 2-11-29 「ビュー個別操作メニュー」

② 「ビューのルール一覧操作」 の表示を確認します。

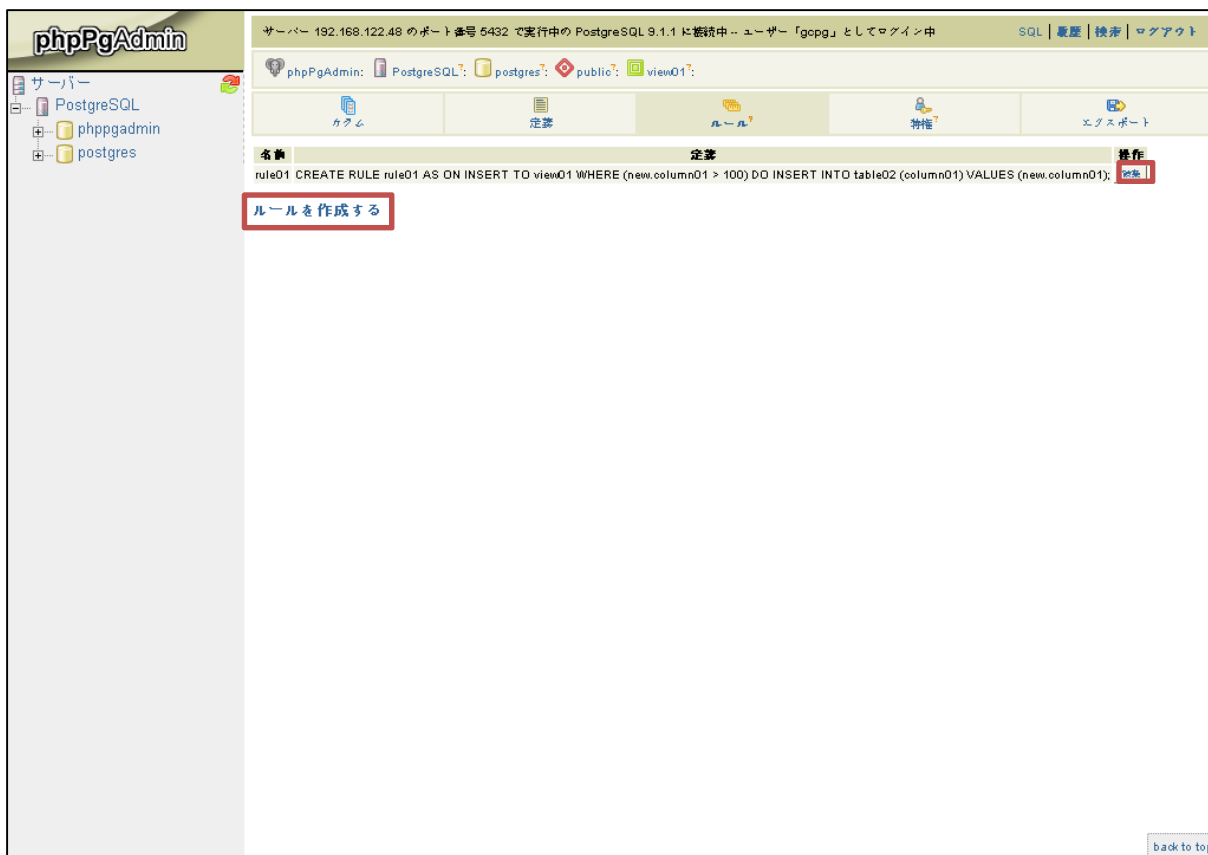


図 2-11-30 「ビューのルール一覧操作」

表 2-11-31 ビューのルール一覧操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	ルールを削除します。(DROP RULE に相当) 詳細は 2-11-3-I 「ビューのルールの破棄」を参照してください。
2	[ルールを作成する]	新しいルールを定義します。(CREATE RULE に相当) 詳細は 2-11-3-II 「ビューのルールの作成」を参照してください。

2-11-3-I. ビューのルール**の破棄**

★ 書き換えルールを削除します。

① 「ビューのルール一覧操作」で[破棄]ボタンをクリックします。

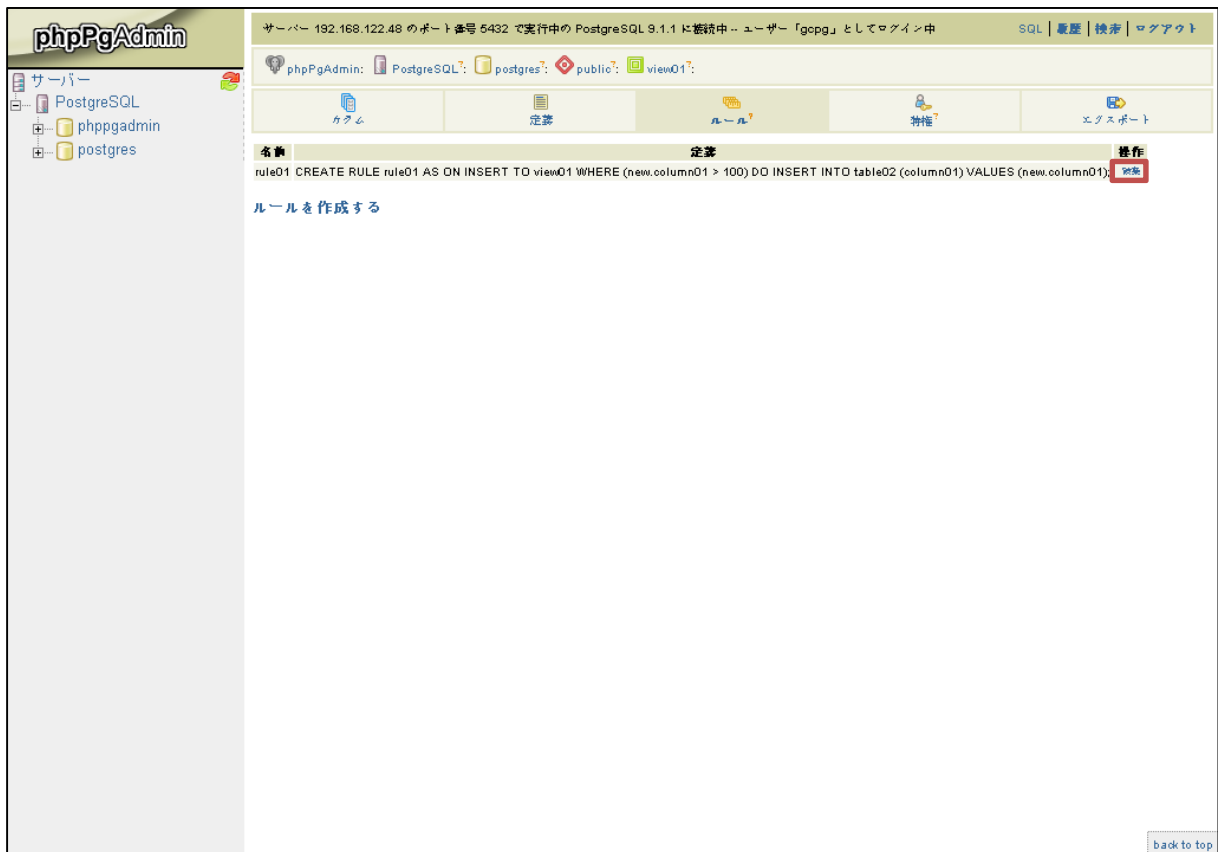


図 2-11-32 「ビューのルール一覧操作」

② 「ビューのルール of 破棄」 で[はい]ボタンをクリックします。



図 2-11-33 「ビューのルール of 破棄」

表 2-11-34 ビューのルール of 破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するルールにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[はい]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[いいえ]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューのルール一覧操作」で破棄されたことを確認します。

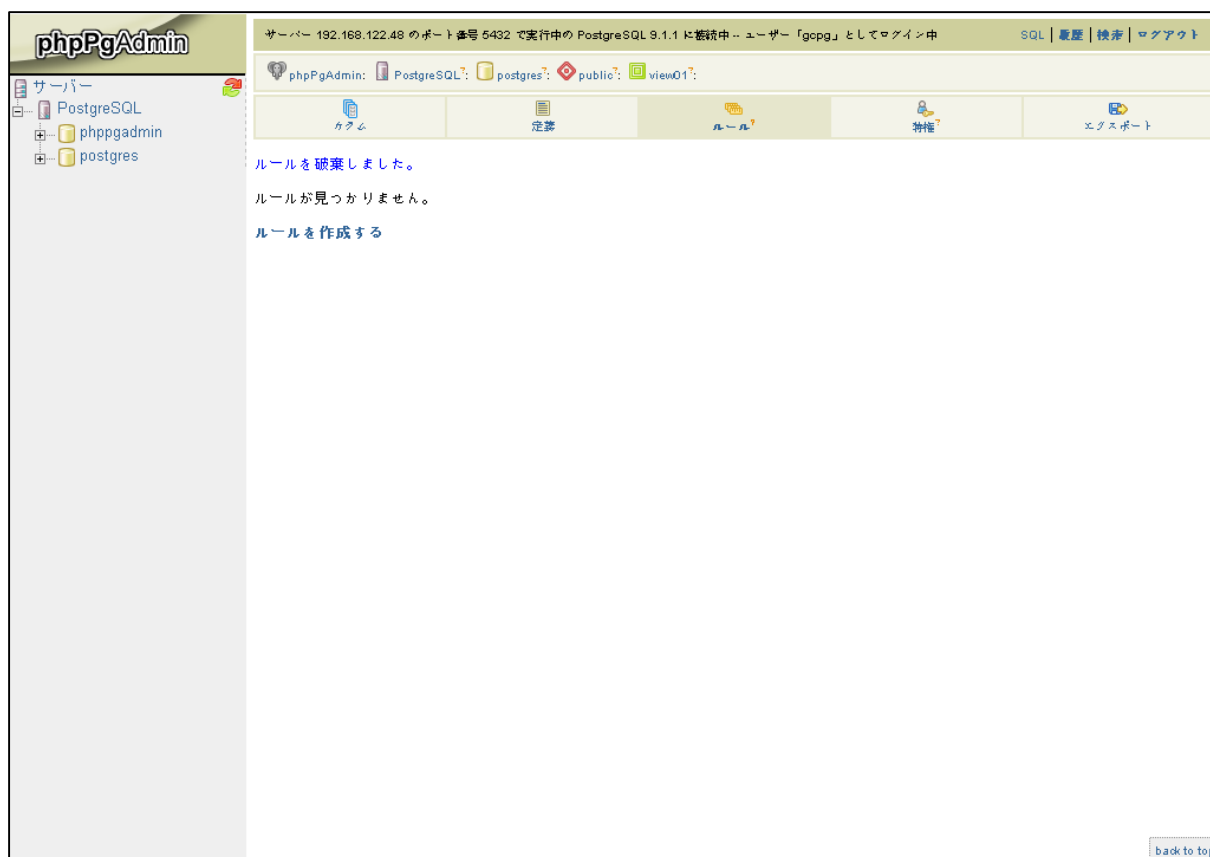


図 2-11-35 「ビューのルール一覧操作」

2-11-3-II. ビューのルール作成

★ 新しい書き換えルールを定義します。

① 「ビューのルール一覧操作」で[ルールを作成する]をクリックします。

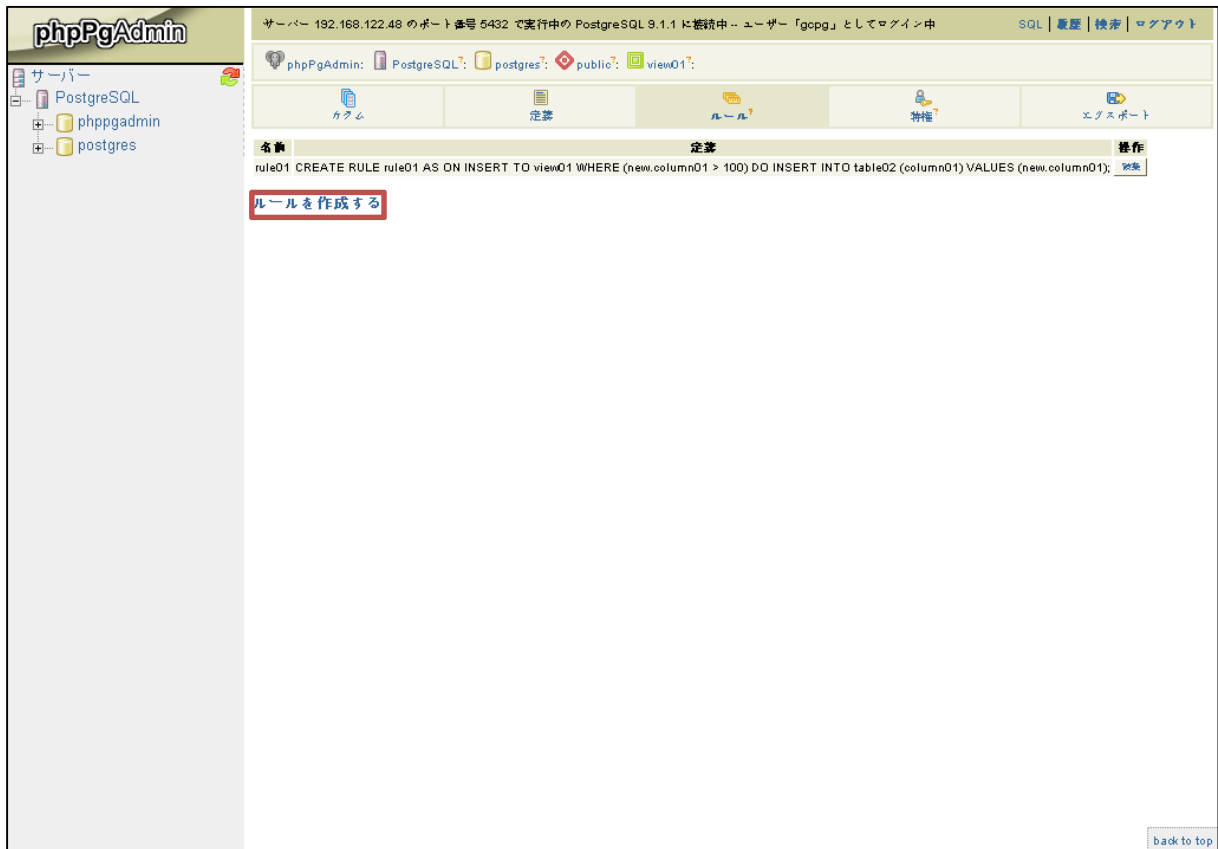


図 2-11-36 「ビューのルール一覧操作」

② 「ビューのルール作成」で[作成]ボタンをクリックします。

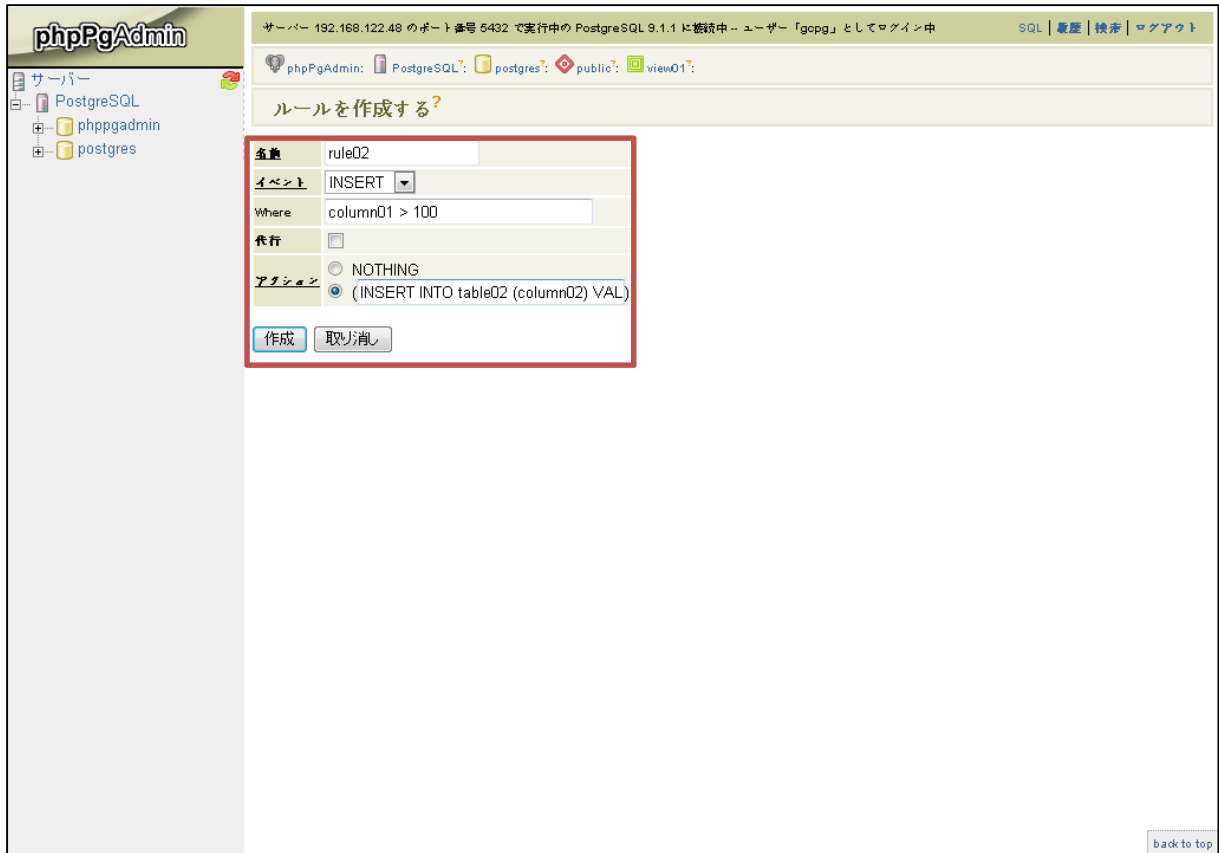


図 2-11-37 「ビューのルール作成」

表 2-11-38 ビューのルールの作成画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ルールの名称を指定します。
2	[イベント]	対象とするイベントを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT ● INSERT ● UPDATE ● DELETE
3	[Where]	条件式を指定します。
4	[代行]	本項目を有効にすると、元のコマンドの代替としてアクションで指定したコマンドを実行します。

5	[アクション]	アクションを下記から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● NOTHING : 何もしません。 ● “任意のコマンド” : 記述されたコマンドを実行します。
6	[作成]ボタン	作成操作を実行します。
7	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

なお、[Where]と[アクション]では、特殊な記述、OLD と NEW を使用できます。OLD は既存の行、NEW は新しい行を示します。

③ 「ビューのルール一覧操作」で作成されたことを確認します。

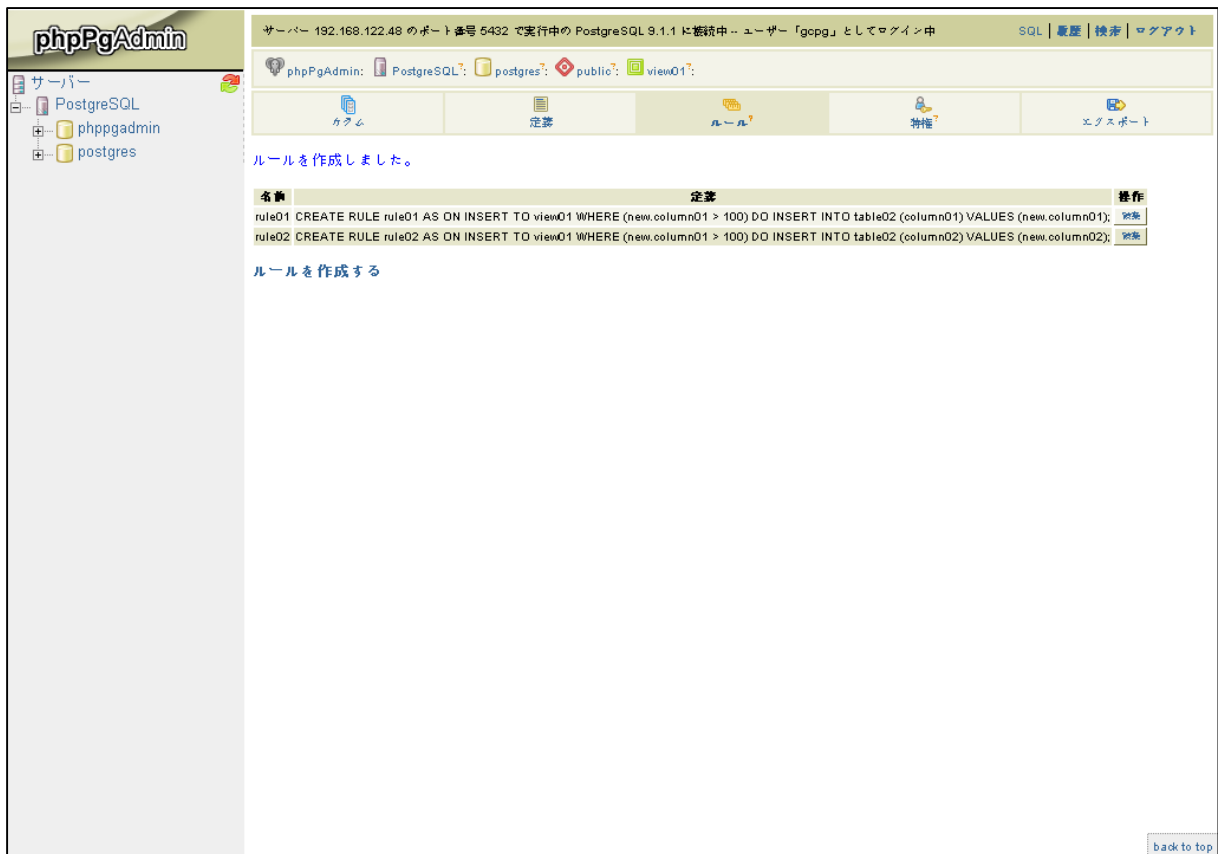


図 2-11-39 「ビューのルール一覧操作」

2-11-4 ビューの特権操作

★ 「ビューの特権操作」を表示します。ビューに対する特権の追加、破棄ができます。

① 「ビュー個別操作メニュー」で [特権]をクリックします。

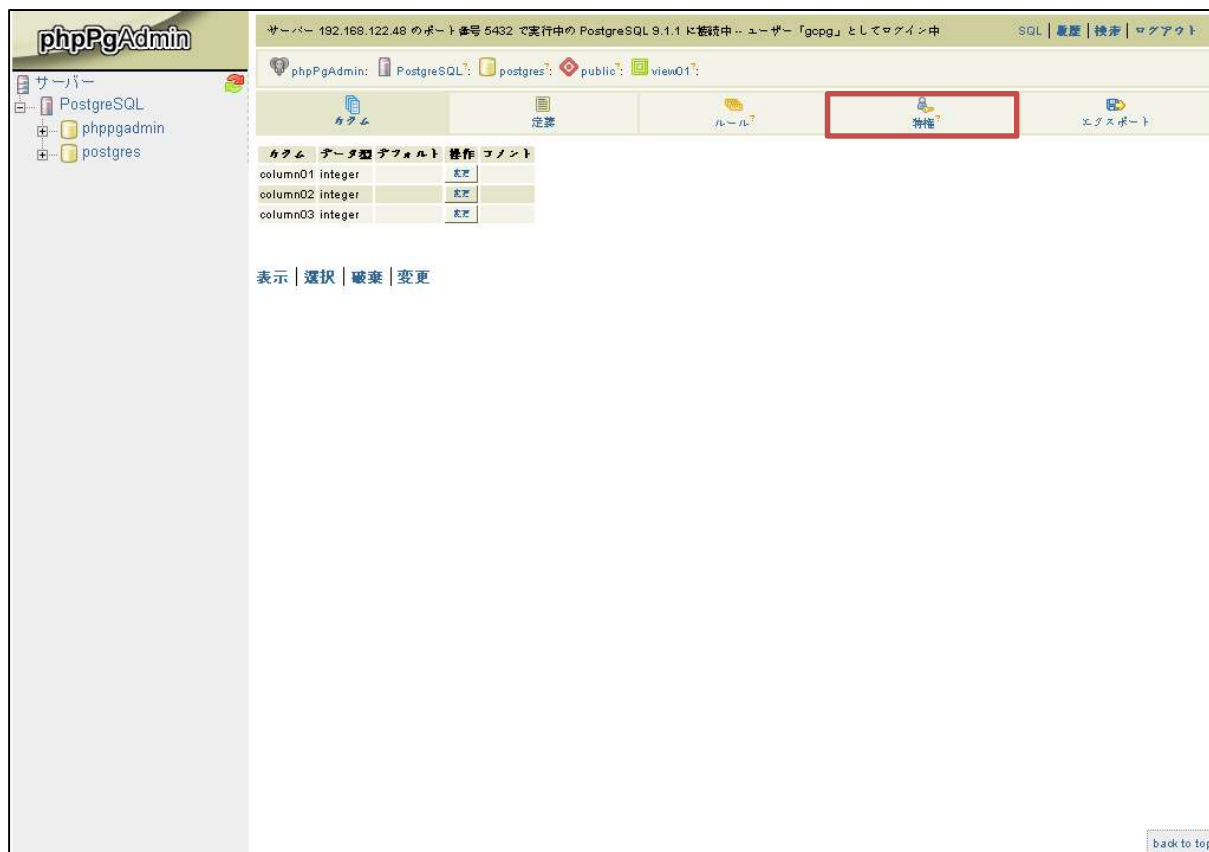


図 2-11-40 「ビュー個別操作メニュー」

② 「ビューの特権操作」の表示を確認します。

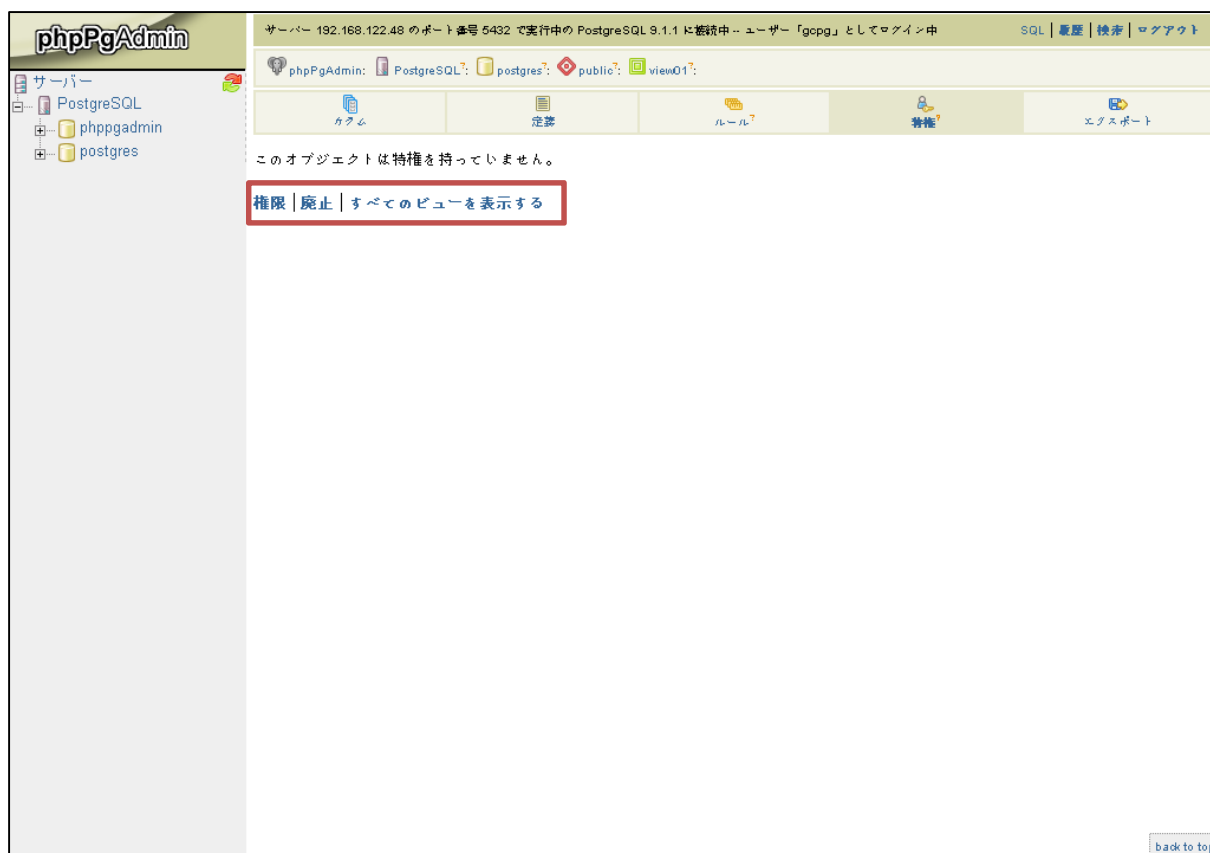


図 2-11-41 「ビューの特権操作」

表 2-11-42 ビューの特権操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[権限]	当該ビューについてアクセス権限を定義することができます。(GRANT に相当) 詳細は 2-11-4-I 「ビューの特権追加」を参照してください。
2	[廃止]	当該ビューについてアクセス権限を取り消すことができます。(REVOKE に相当) 詳細は 2-11-4-II 「ビューの特権破棄」を参照してください。
3	[すべてのビューを表示する]	「ビュー一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-2 「ビュー一覧操作」を参照してください。

2-11-4-I. ビューの特権追加

★ ビューに対するアクセス権限を定義します。

① 「ビューの特権操作」で[権限]をクリックします。

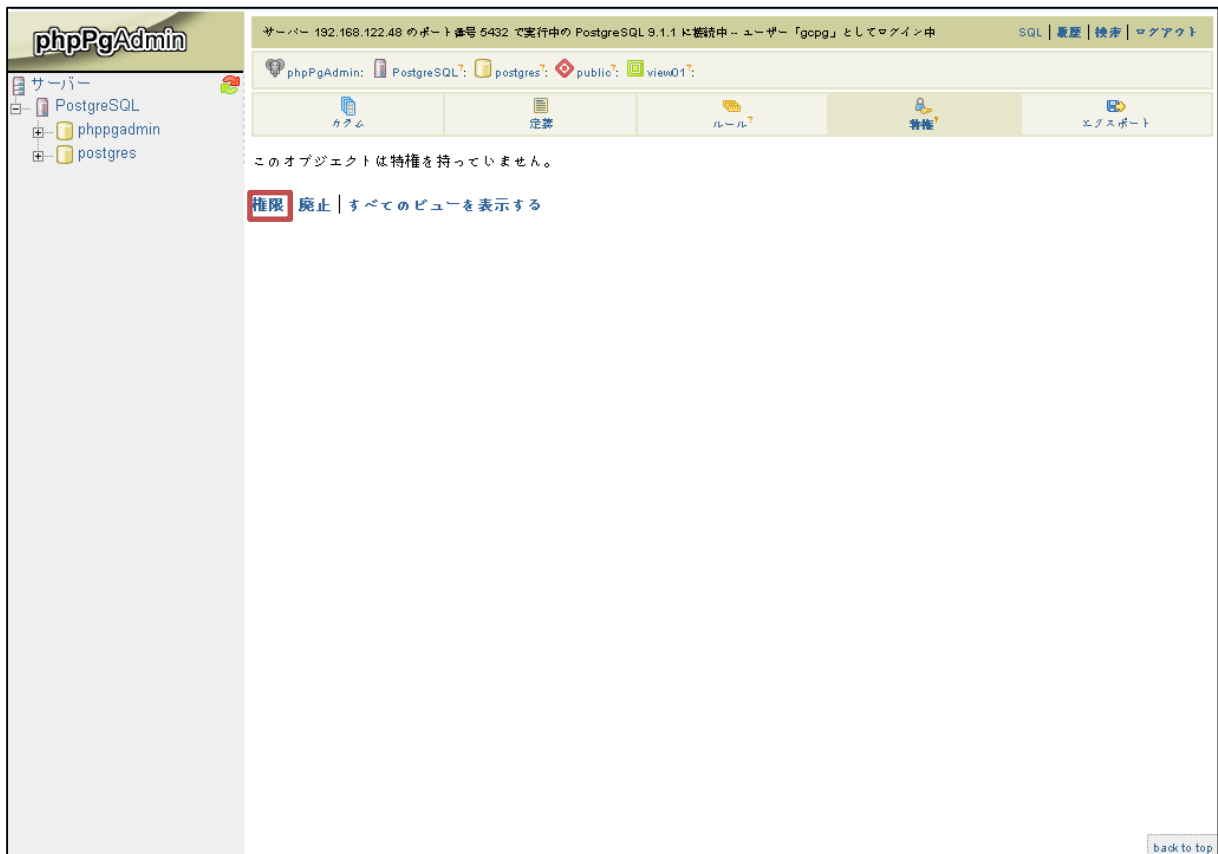


図 2-11-43 「ビューの特権操作」

② 「ビューの特権追加」で[権限]ボタンをクリックします。

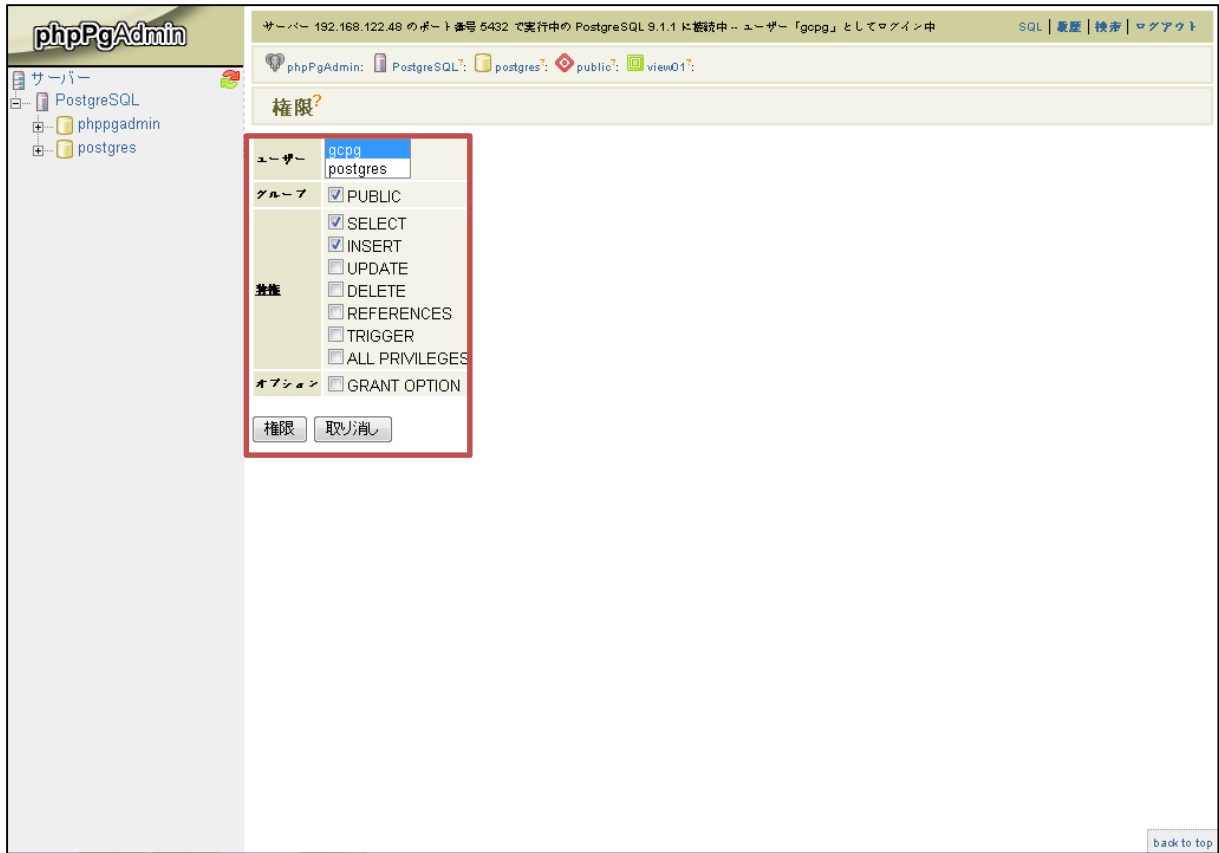


図 2-11-44 「ビューの特権追加」

表 2-11-45 ビューの特権追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を定義するロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を定義するロールを選択します。本項目を有効にすると、今後作成されるロールを含む、すべてのロールへ権限が与えられます。
3	[特権]	<p>ロールに対して定義したい権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT を許可します。 ● INSERT : INSERT を許可します。 ● UPDATE : UPDATE を許可します。

		<ul style="list-style-type: none"> ● DELETE : DELETE を許可します。 ● REFERENCES : REFERENCES を許可します。 ● TRIGGER : TRIGGER を許可します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に与えます。
4	[オプション]	[GRANT OPTION]を有効にすると、権限を定義されたロールは、その後、他のロールにその権限を与えることができます。
5	[権限]ボタン	特権追加を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューの特権操作」でロールに権限が定義されたことを確認します。

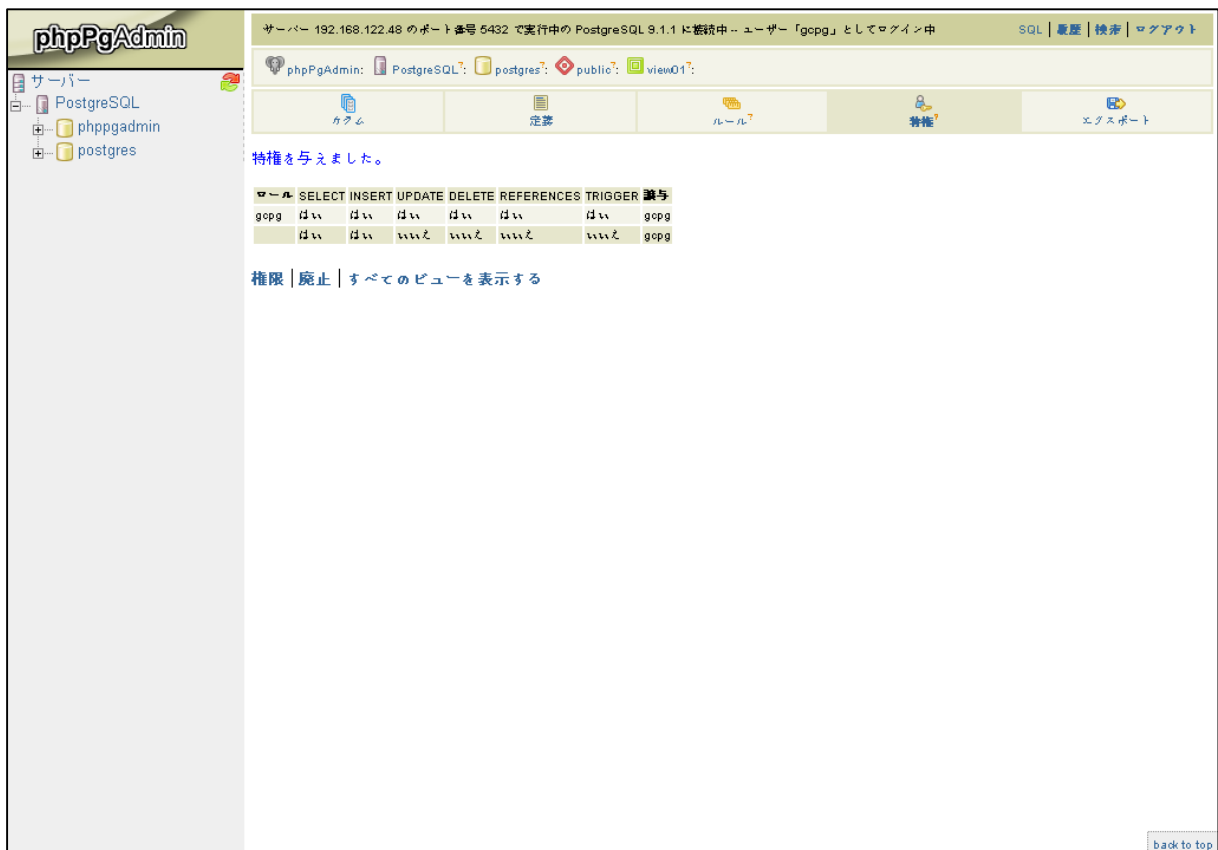


図 2-11-46 「ビューの特権操作」

2-11-4-II. ビューの特権破棄

★ ビューに対するアクセス権限を取り消します。

① 「ビューの特権操作」で[廃止]をクリックします。

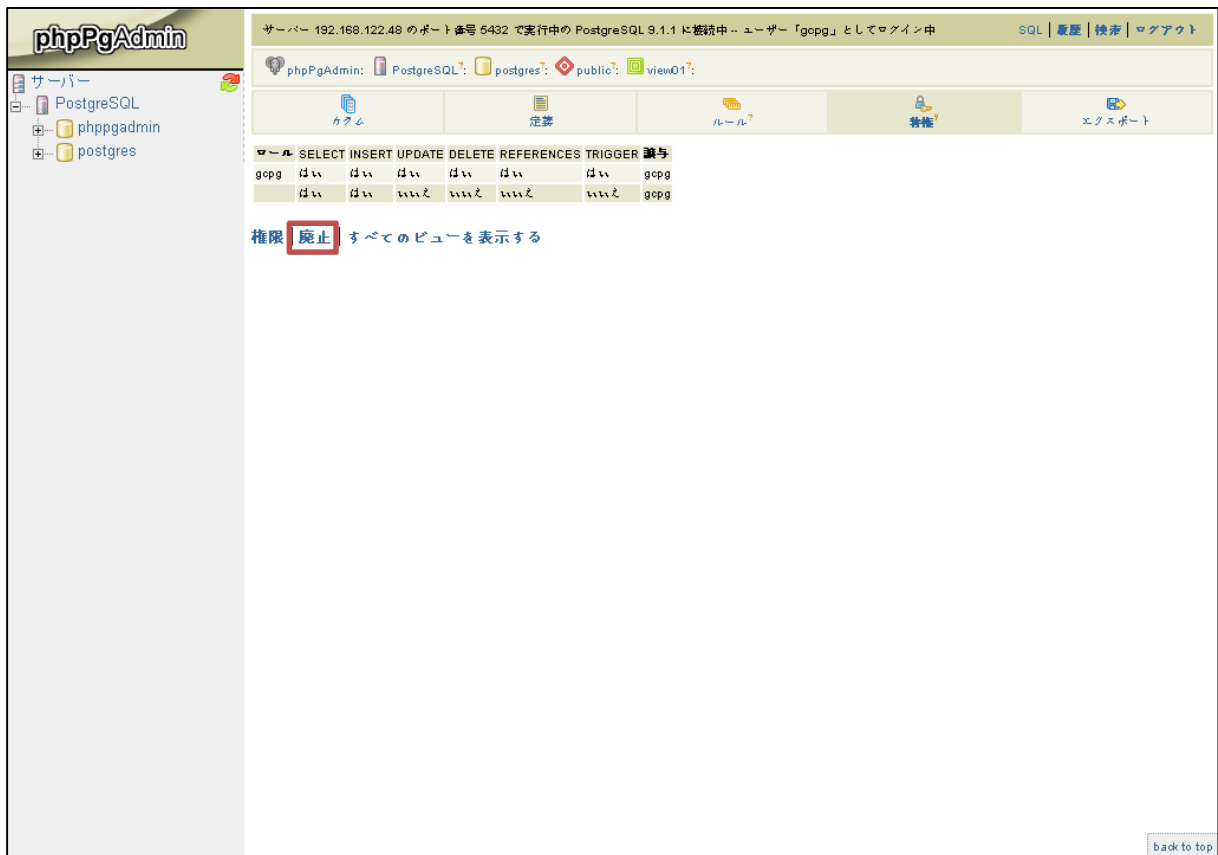


図 2-11-47 「ビューの特権操作」

② 「ビューの特権破棄」で[廃止]ボタンをクリックします。

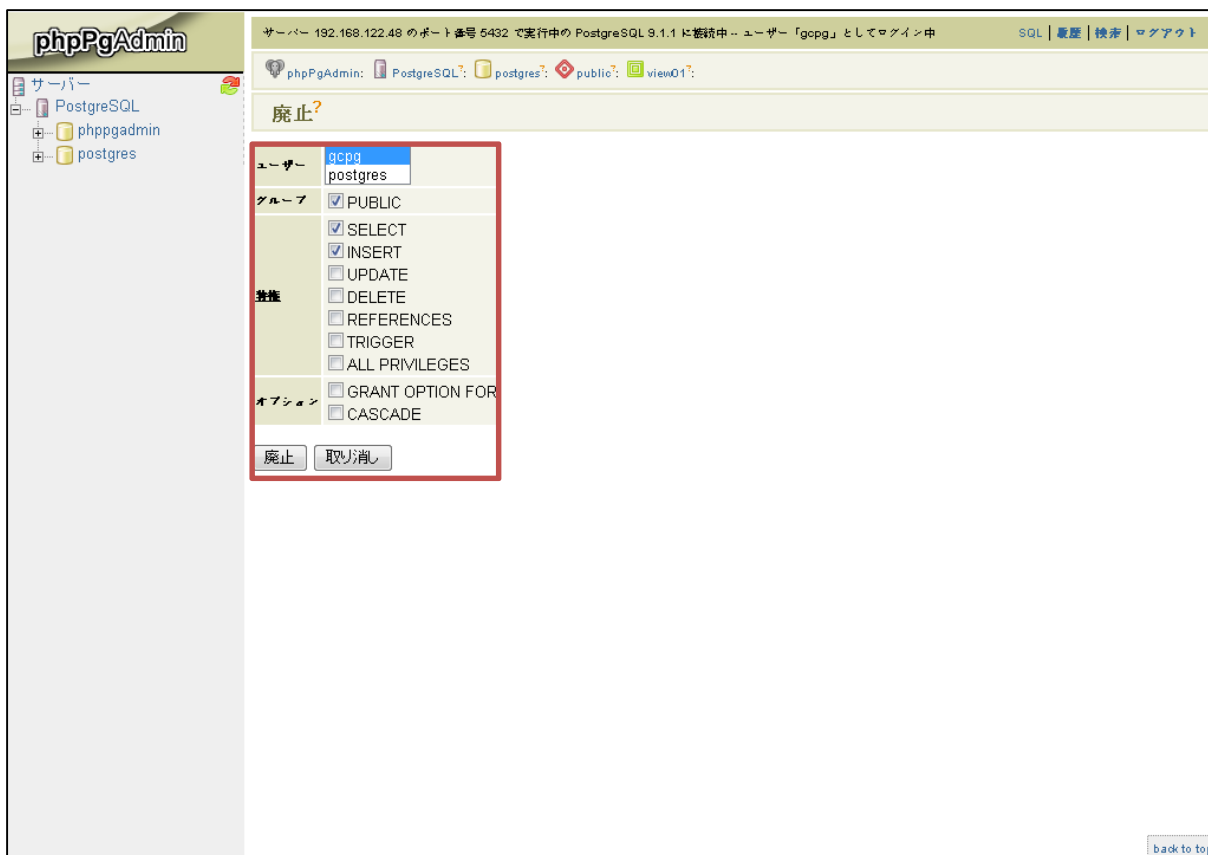


図 2-11-48 「ビューの特権破棄」

表 2-11-49 ビューの特権破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[ユーザー]	権限を取り消すロールを選択します。ここでは、ユーザー名を選択します。
2	[グループ][PUBLIC]	権限を取り消すロールを選択します。本項目を有効にすると、すべてのロールへ定義された権限を取り消します。
3	[特権]	<p>ロールに対して取り消す権限を下記から 1 つ以上有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SELECT : SELECT 権限を取り消します。 ● INSERT : INSERT 権限を取り消します。 ● UPDATE : UPDATE 権限を取り消します。 ● DELETE : DELETE 権限を取り消します。

		<ul style="list-style-type: none"> ● REFERENCES : REFERENCES 権限を取り消します。 ● TRIGGER : TRIGGER 権限を取り消します。 ● ALL PRIVILEGES : すべての権限を一度に取り消します。
4	[オプション]	<p>[GRANT OPTION FOR]を有効にすると、その権限の GRANT OPTION のみを取り消されます。</p> <p>[CASCADE]を有効にすると、依存権限も取り消されます。</p>
5	[廃止]ボタン	特権破棄を実行します。
6	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ビューの特権操作」でロールの権限が取り消されたことを確認します。

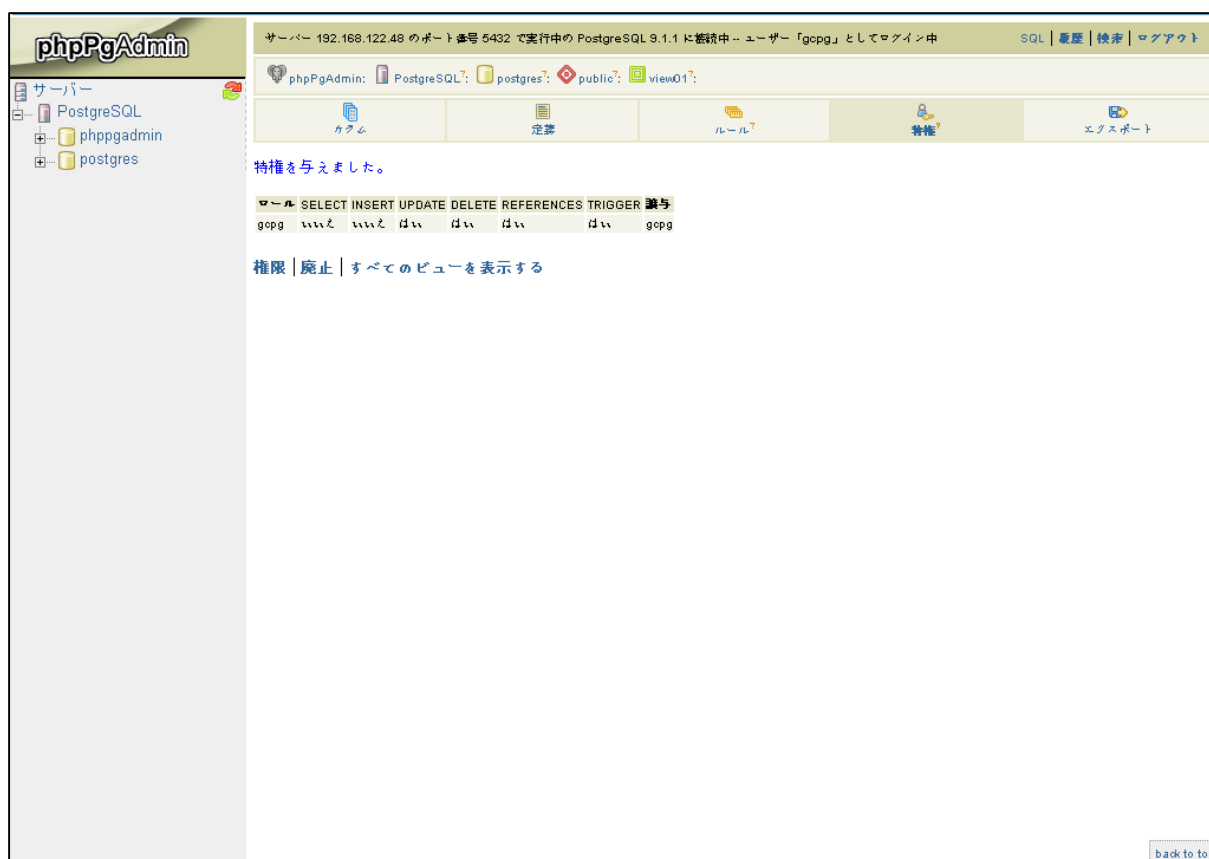


図 2-11-50 「ビューの特権操作」

2-11-5 ビューのエクスポート

★ ビューのデータをエクスポートします。

① 「ビュー個別操作メニュー」で [エクスポート]をクリックします。

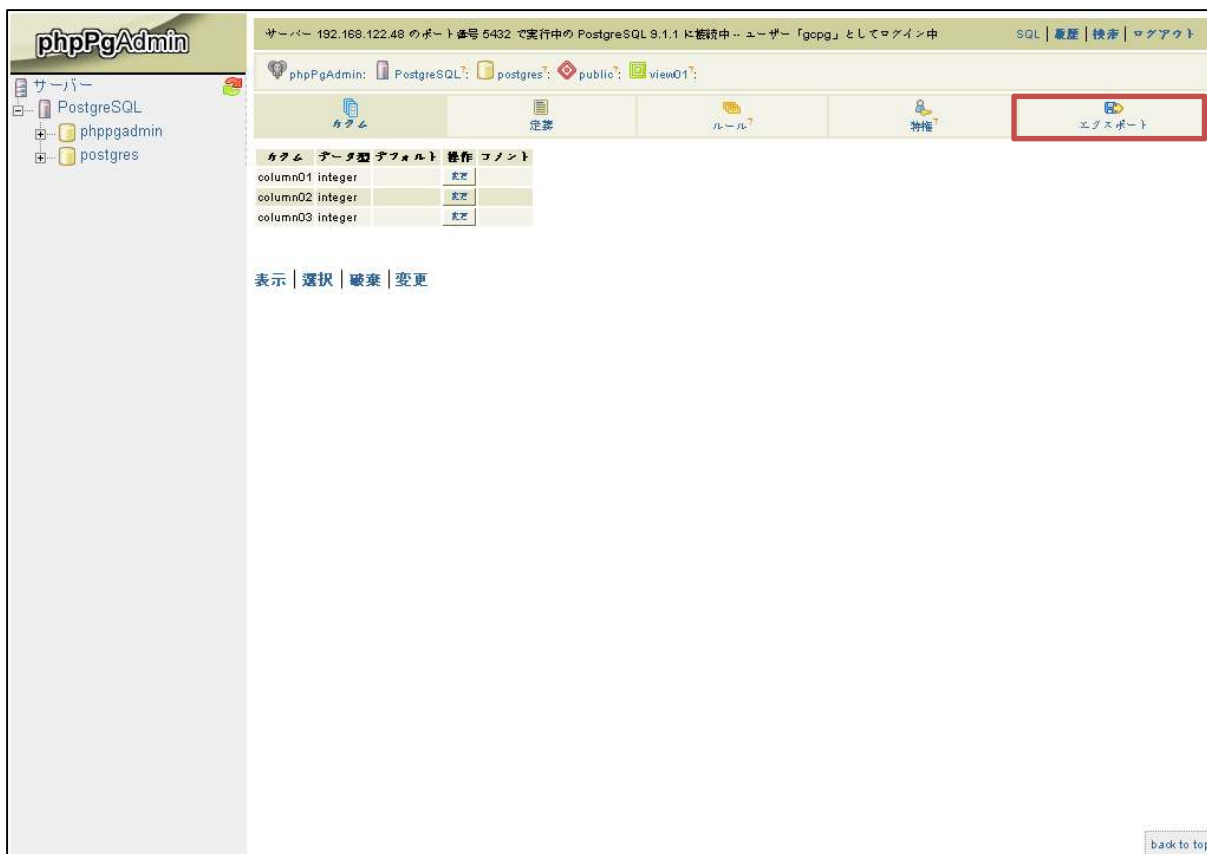


図 2-11-51 「ビュー個別操作メニュー」

② 「ビューのエクスポート」で[エクスポート]ボタンをクリックします。

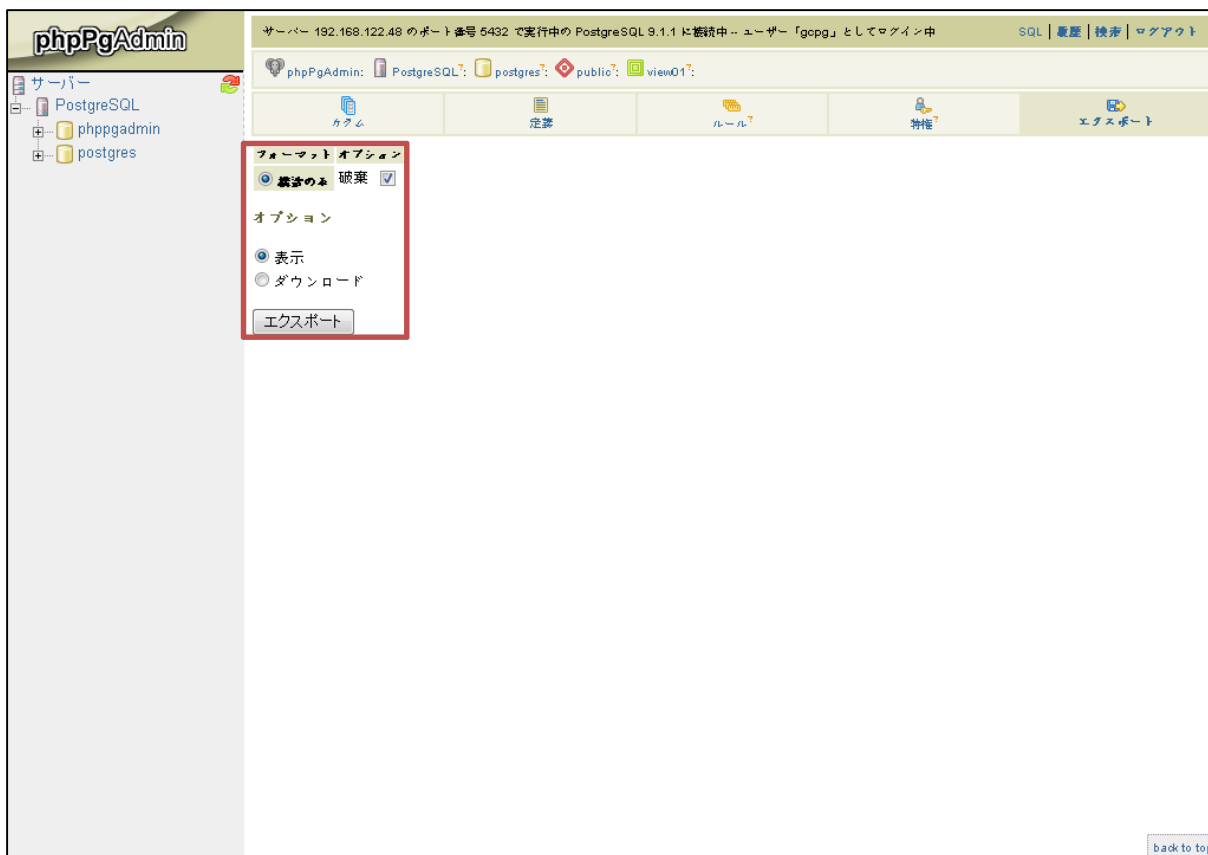
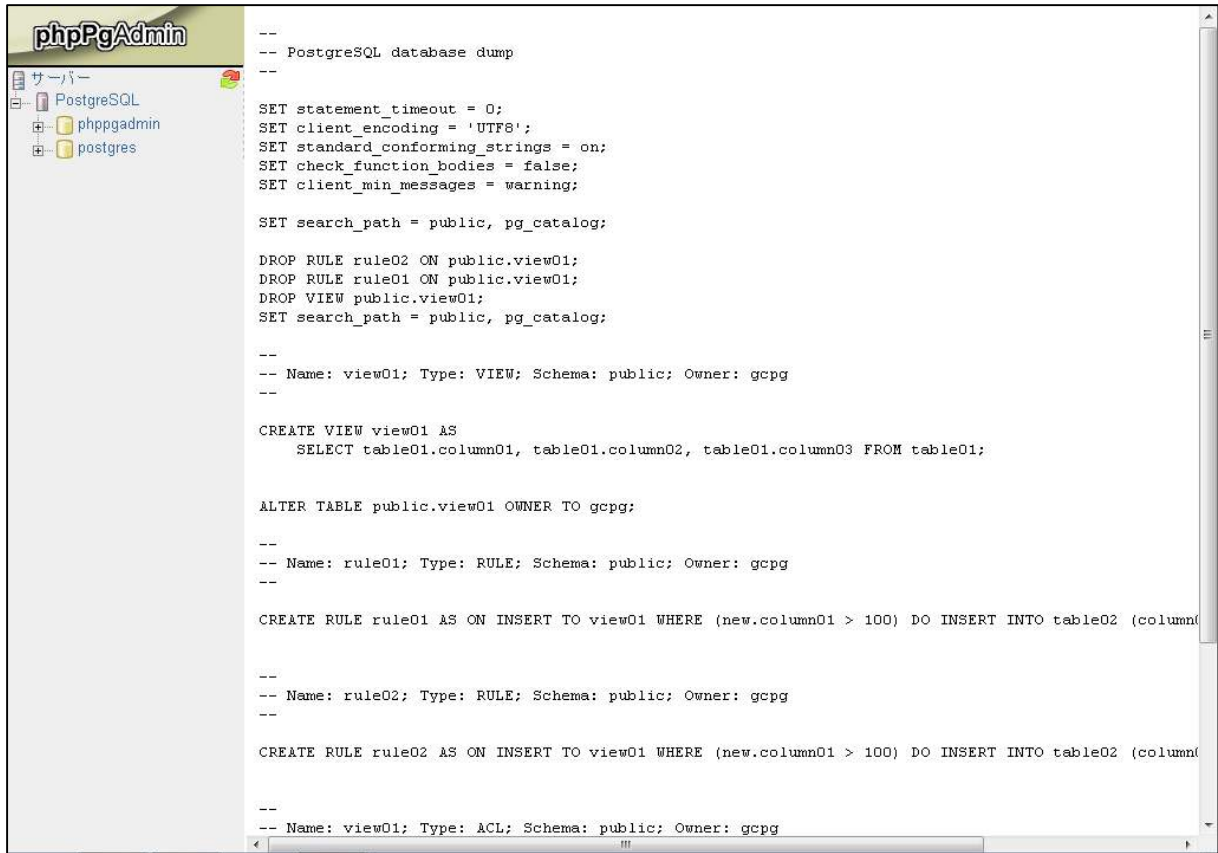


図 2-11-52 「ビューのエクスポート」

表 2-11-53 ビューのエクスポート画面項目

NO	項目名	説明
1	[フォーマット]	エクスポートするファイルのフォーマットを下記から選択します。 ● 構造のみ
2	[破棄]	本項目を有効にすると、すでにビューが存在した場合には DROP してからビューを作成するよう、出力の冒頭に DROP 文を追加します。
3	[オプション]	表示するかダウンロードするか選択します。
4	[エクスポート]ボタン	エクスポート操作を実行します。

③-a 【[表示]を指定した場合】データが表示されることを確認します。



```
--
-- PostgreSQL database dump
--

SET statement_timeout = 0;
SET client_encoding = 'UTF8';
SET standard_conforming_strings = on;
SET check_function_bodies = false;
SET client_min_messages = warning;

SET search_path = public, pg_catalog;

DROP RULE rule02 ON public.view01;
DROP RULE rule01 ON public.view01;
DROP VIEW public.view01;
SET search_path = public, pg_catalog;

--
-- Name: view01; Type: VIEW; Schema: public; Owner: gcpg
--

CREATE VIEW view01 AS
    SELECT table01.column01, table01.column02, table01.column03 FROM table01;

ALTER TABLE public.view01 OWNER TO gcpg;

--
-- Name: rule01; Type: RULE; Schema: public; Owner: gcpg
--

CREATE RULE rule01 AS ON INSERT TO view01 WHERE (new.column01 > 100) DO INSERT INTO table02 (column01, column02, column03) VALUES (new.column01, new.column02, new.column03);

--
-- Name: rule02; Type: RULE; Schema: public; Owner: gcpg
--

CREATE RULE rule02 AS ON INSERT TO view01 WHERE (new.column01 > 100) DO INSERT INTO table02 (column01, column02, column03) VALUES (new.column01, new.column02, new.column03);

--
-- Name: view01; Type: ACL; Schema: public; Owner: gcpg
```

図 2-11-54 「ビューのエクスポート-表示」

③-b 【[ダウンロード]を指定した場合】ダウンロードダイアログが表示されることを確認、[保存] ボタンをクリックし、ファイルをローカル PC にダウンロードします。



図 2-11-55 「ビューのエクスポート-ダウンロードダイアログ」

2-12 シーケンス個別操作

★ 「シーケンス個別操作」を表示します。

① 「シーケンス一覧操作」で“個別シーケンス名”をクリックします。



図 2-12-1 「シーケンス一覧操作」

② 「シーケンス個別操作」の表示を確認します。



図 2-12-2 「シーケンス個別操作」

表 2-12-3 シーケンス個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[変更]	シーケンスの定義を変更することができます。 詳細は 2-12-1「シーケンスの変更」を参照してください。
2	[値を設定する]	シーケンス値を設定することができます。 詳細は 2-12-2「シーケンスの値の設定」を参照してください。
3	[値を増加する]	シーケンス値を増加させることができます。 詳細は 2-12-3「シーケンスの値の増加」を参照してください。
4	[Restart]	シーケンス値をリスタート、つまり開始値にすることができます。

		詳細は 2-12-4「シーケンスのリスタート」を参照してください。
5	[リセット]	シーケンス値をリセット、つまり最小値にすることができます。 詳細は 2-12-5「シーケンスのリセット」を参照してください。
6	[すべてのシーケンスを表示する]	「シーケンス一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-3「シーケンス一覧操作」を参照してください。

2-12-1 シーケンスの変更

★ シーケンスの定義を変更します。

① 「シーケンス個別操作」で[変更]をクリックします。



図 2-12-4 「シーケンス個別操作」

② 「シーケンスの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

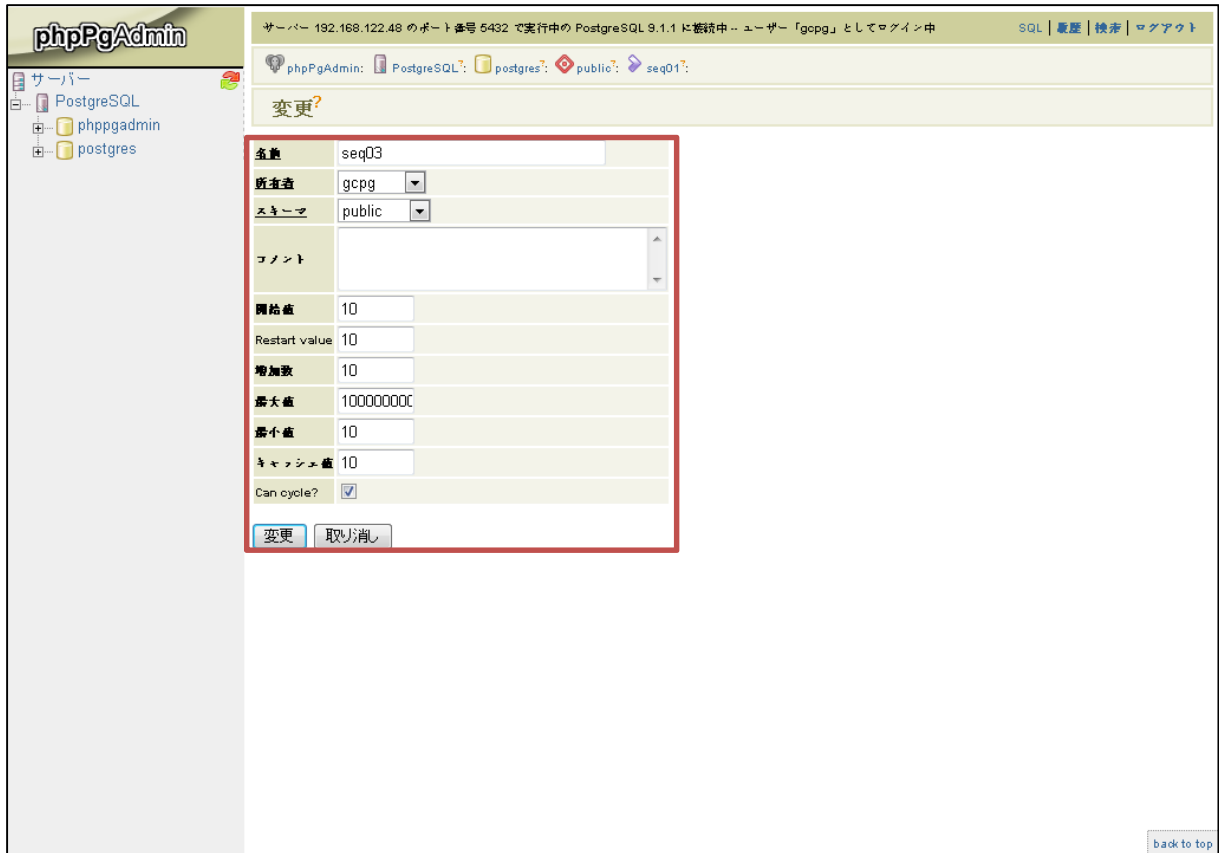


図 2-12-5 「シーケンスの変更」

表 2-12-6 シーケンスの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	シーケンスの名称を指定します。
2	[所有者]	シーケンスの所有者を指定します。
3	[スキーマ]	シーケンスが作成されるスキーマを指定します。
4	[コメント]	コメントを指定します。
5	[開始値]	シーケンス値の開始時の値を指定します。デフォルトは[最小値]です。
6	[Restart value]	リスタートする際の値を指定します。

7	[増加数]	現在のシーケンス値から新しいシーケンス値を作成する際の値の増加量を指定します。デフォルトは1です。
8	[最大値]	シーケンス値として作成される最大値を指定します。デフォルトは $2^{63}-1$ です。
9	[最小値]	シーケンス値として作成される最小値を指定します。デフォルトは1です。
10	[キャッシュ値]	予めメモリに格納しておくシーケンスの量を指定します。デフォルトは1（キャッシュなし）です。
11	[Can cycle?]	本項目を有効にすると、シーケンスを周回させることができます。
12	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
13	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンス個別操作」でシーケンスが変更されたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top header indicates the server is 192.168.122.48 on port 5432, running PostgreSQL 9.1.1, and the user 'gopg' is logged in. The left sidebar shows a tree view with 'PostgreSQL' expanded to show 'phpPgAdmin' and 'postgres'. The main content area is titled 'プロパティ?' and displays a message: 'シーケンスを変更しました。' (Sequence modified). Below this is a table with the following data:

名前	開始値	最終値	増加数	最大値	最小値	キャッシュ値	ログアウト	Can cycle?	Will increment last value before returning next value (is_called)?
seq03	10	10	10	10000000000000000000	10	10	1	はい	いいえ

Below the table are several action links: '変更 | 値を設定する | 値を増加する | Restart | リセット | すべてのシーケンスを表示する'. A 'back to top' button is located in the bottom right corner of the interface.

図 2-12-7 「シーケンス個別操作」

2-12-2 シーケンスの値の設定

★ シーケンス値を設定します。

① 「シーケンス個別操作」で[値を設定する]をクリックします。



図 2-12-8 「シーケンス個別操作」

② 「シーケンスの値の設定」で[値を設定する]ボタンをクリックします。



図 2-12-9 「シーケンスの変更」

表 2-12-10 シーケンスの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[最終値]	シーケンスの現在の値を指定します。
2	[値を設定する]ボタン	設定操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「シーケンス個別操作」でシーケンスの値が設定されたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top navigation bar includes the phpPgAdmin logo and server information: "サーバー 192.168.122.48 のポート番号 5432 で実行中の PostgreSQL 9.1.1 に接続中... ユーザー「gopg」としてログイン中". There are links for "SQL", "履歴", and "ログアウト". Below the navigation bar, the breadcrumb path is "phpPgAdmin: PostgreSQL: postgres: public: seq01". The main content area is titled "プロパティ?" and displays a message: "シーケンス値を設定しました。". Below this message is a table with the following data:

名前	開始値	最終値	増加数	最大値	最小値	キャッシュ値	ログアウト	Can cycle?	Will increment last value before returning next value (is_called)?
seq01	1	10	1	10000000000000000000	1	1	0	はい	はい

Below the table, there are several action links: "変更", "値を設定する", "値を増加する", "Restart", "リセット", and "すべてのシーケンスを表示する". A "back to top" link is located in the bottom right corner of the interface.

図 2-12-11 「シーケンス個別操作」

2-12-3 シーケンスの値の増加

★ シーケンス値を増加させます。

① 「シーケンス個別操作」で[値を増加する]をクリックします。

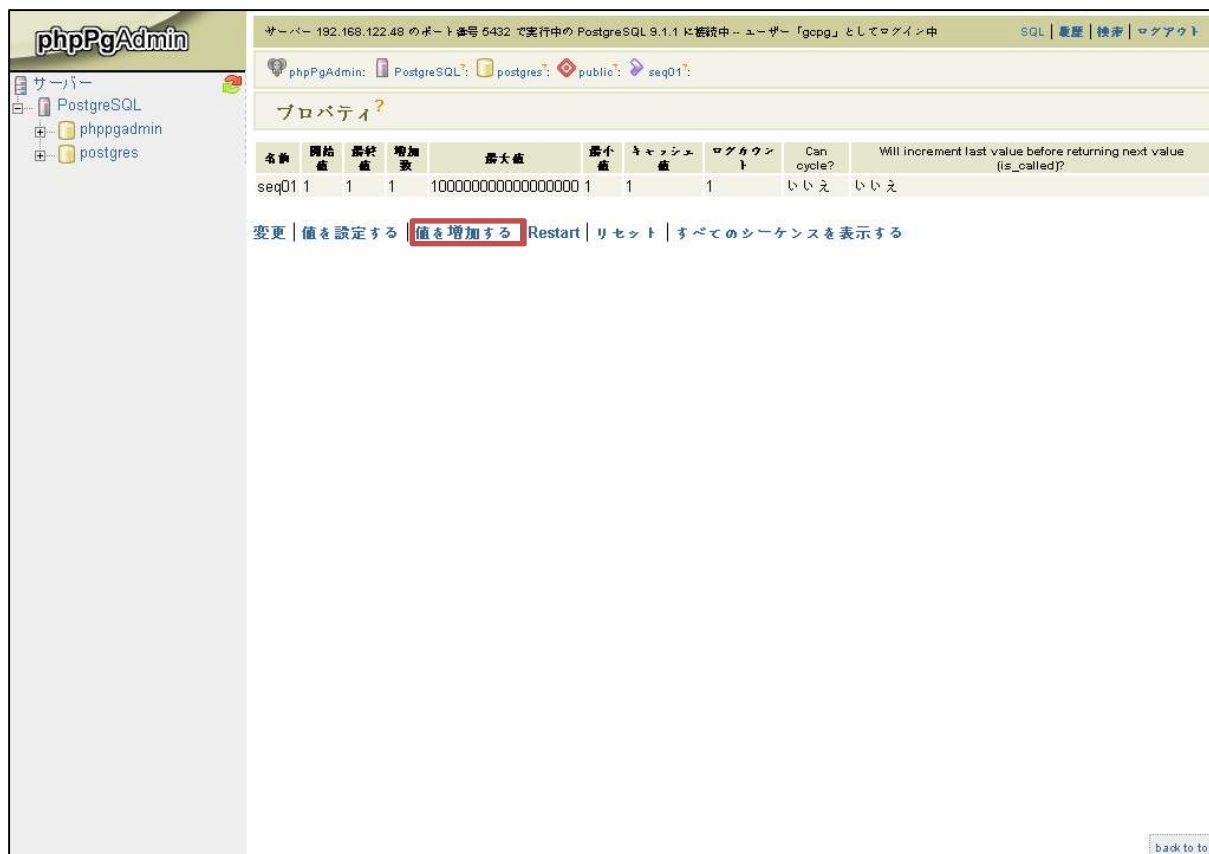


図 2-12-12 「シーケンス個別操作」

② 「シーケンス個別操作」でシーケンスの値が増加されたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top navigation bar includes 'SQL | 履歴 | 検索 | ログアウト'. The left sidebar shows a tree view with 'PostgreSQL' expanded to show 'phpPgAdmin' and 'postgres'. The main content area is titled 'プロパティ?' and displays a message '値を増加しました。' (Value increased). Below this is a table with the following data:

名前	開始値	終値	増加数	最大値	最小値	キャッシュ数	ログアウト	Can cycle?	Will increment last value before returning next value (is_called)?
seq01	1	2	1	10000000000000000000	1	1	32	はい	はい

Below the table are several action links: '変更 | 値を設定する | 値を増加する | Restart | リセット | すべてのシーケンスを表示する'. A 'back to top' link is located in the bottom right corner of the interface.

図 2-12-13 「シーケンス個別操作」

2-12-4 シーケンスのリスタート

★ シーケンス値をリスタートします。

① 「シーケンス個別操作」で[Restart]をクリックします。



図 2-12-14 「シーケンス個別操作」

② 「シーケンス個別操作」でシーケンスの値がリスタートされたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top status bar indicates the server is 192.168.122.48 on port 5432, running PostgreSQL 9.1.1, and the user 'gopg' is logged in. The left sidebar shows a tree view with 'PostgreSQL' expanded to show 'phpPgAdmin' and 'postgres' databases. The main content area is titled 'プロパティ?' (Properties?) and displays the message 'Sequence restarted.' Below this is a table with the following data:

名前	開始値	最終値	増加数	最大値	最小値	キャッシュ数	ログアウト	Can cycle?	Will increment last value before returning next value (is_called)?
seq01	1	1	1	1000000000000000000	1	1	1	はい	いいえ

Below the table, there are several action links: '変更' (Change), '値を設定する' (Set value), '値を増加する' (Increase value), 'Restart', 'リセット' (Reset), and 'すべてのシーケンスを表示する' (Show all sequences). A 'back to top' link is located in the bottom right corner of the interface.

図 2-12-15 「シーケンス個別操作」

2-12-5 シーケンスのリセット

★ シーケンス値をリセットします。

① 「シーケンス個別操作」で[リセット]をクリックします。



図 2-12-16 「シーケンス個別操作」

② 「シーケンス個別操作」でシーケンスの値がリセットされたことを確認します。



The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top navigation bar includes the phpPgAdmin logo, server information (192.168.122.48), and user details (gpgg). The left sidebar shows a tree view of the database structure. The main content area displays the 'Properties' page for the 'seq01' sequence. A blue message indicates that the sequence has been reset. Below this is a table with the following data:

名前	開始値	最終値	増加数	最大値	最小値	キャッシュ値	ログカウント	Can cycle?	Will increment last value before returning next value (is_called)?
seq01	1	1	1	1000000000000000000	1	1	0	はい	はい

Below the table, there are several action links: 変更 | 値を設定する | 値を増加する | Restart | リセット | すべてのシーケンスを表示する. A 'back to top' button is located in the bottom right corner of the interface.

図 2-12-17 「シーケンス個別操作」

2-13 関数個別操作

★ 「関数個別操作」を表示します。

① 「関数一覧操作」で“個別関数名”をクリックします。

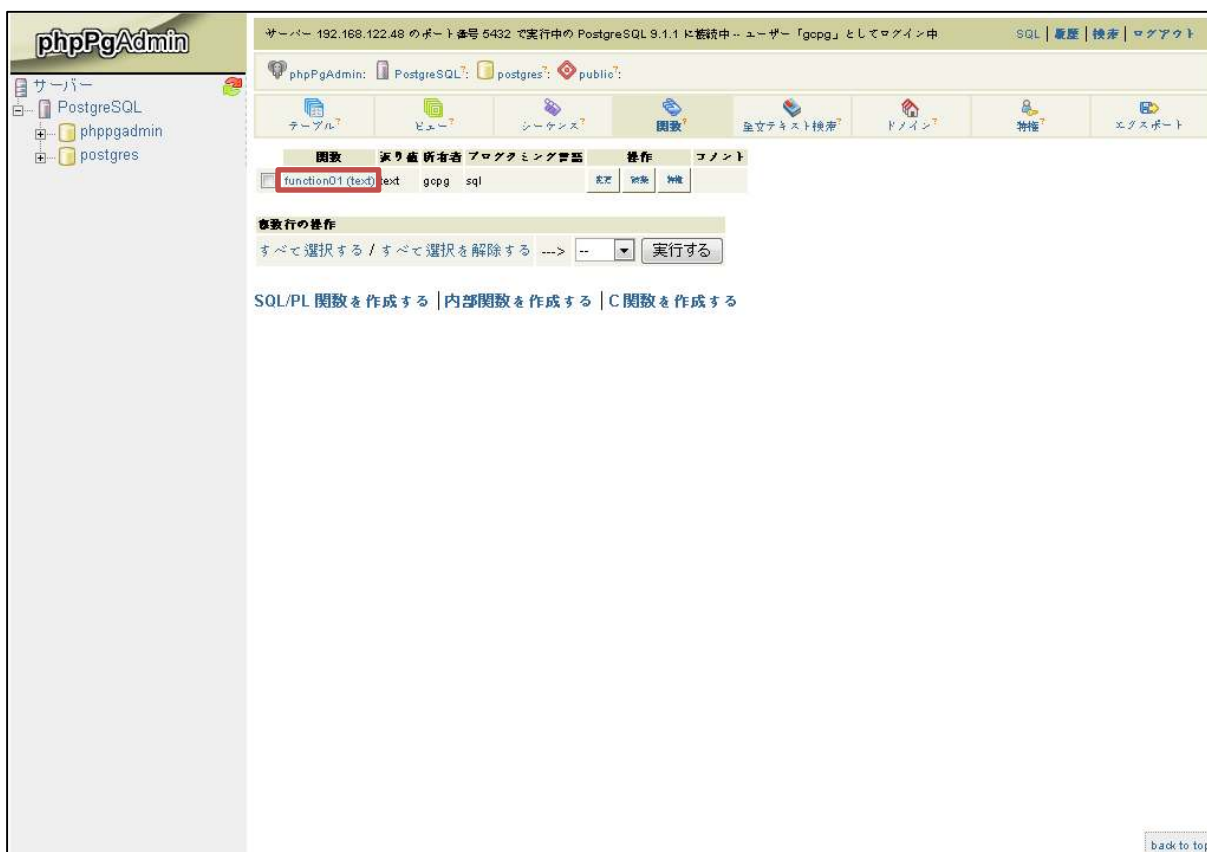


図 2-13-1 「関数一覧操作」

② 「関数個別操作」 の表示を確認します。

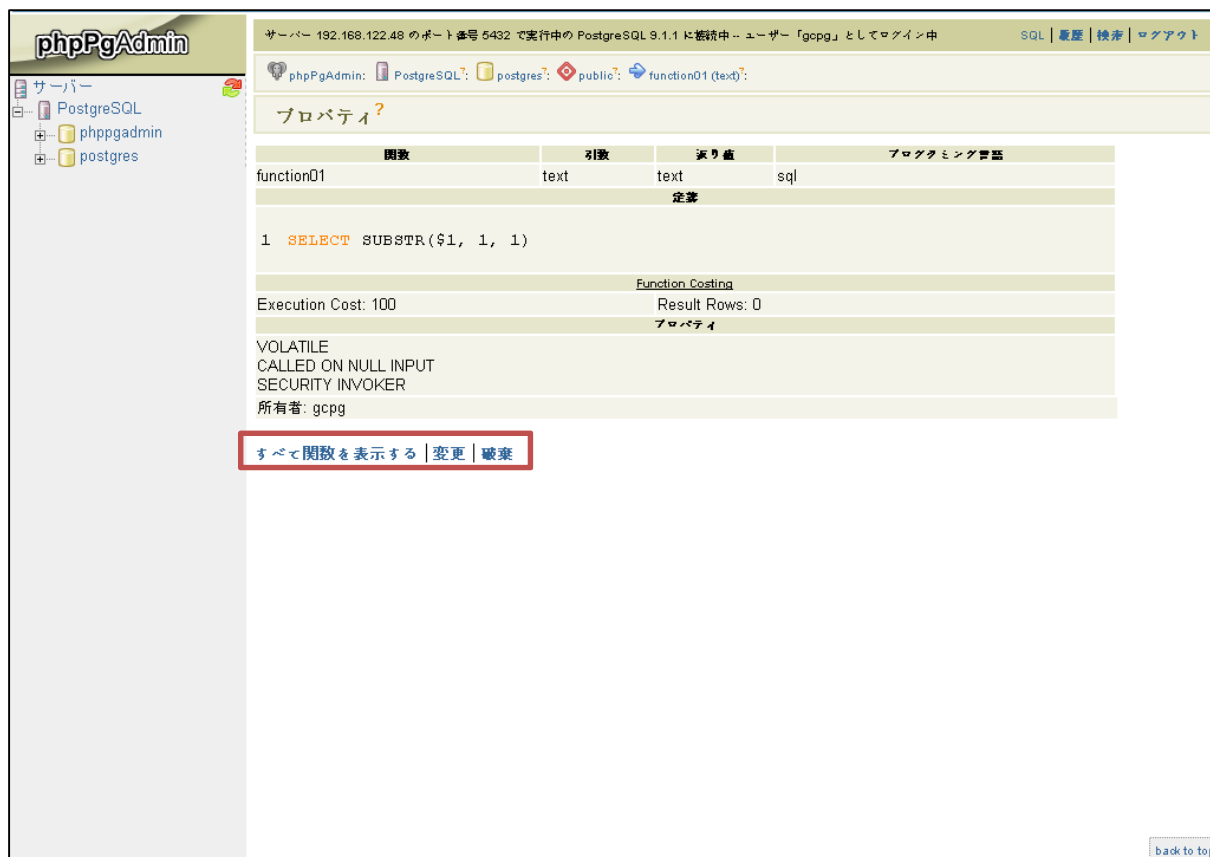


図 2-13-2 「関数個別操作」

表 2-13-3 関数個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[すべて関数を表示する]	「関数一覧操作」を表示します。 詳細は 2-8-4 「関数一覧操作」を参照してください。
2	[変更]	関数の定義を変更することができます。(ALTER FUNCTION に相当) 詳細は 2-13-1 「関数の変更」を参照してください。
3	[破棄]	関数を削除することができます。(DROP FUNCTION に相当) 詳細は 2-13-2 「関数の破棄」を参照してください。

2-13-1 関数の変更

★ 関数の定義を変更します。

① 「関数個別操作」で[変更]をクリックします。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The left sidebar displays a tree view with 'PostgreSQL' expanded to show 'phpPgAdmin' and 'postgres'. The main content area is titled 'プロパティ?' and displays the following information:

関数	引数	戻り値	プログラミング言語
function01	text	text	sql

定義

```
1 SELECT SUBSTR($1, 1, 1)
```

Function Costing

Execution Cost: 100	Result Rows: 0
---------------------	----------------

プロパティ

VOLATILE
CALLED ON NULL INPUT
SECURITY INVOKER
所有者: gcpg

すべて関数を表示する **変更** 破棄

back to top

図 2-13-4 「関数個別操作」

② 「関数の変更」で[変更]ボタンをクリックします。なお、下記は SQL/PL 関数の変更画面です。

内部関数、C 関数についても類似の画面が表示されます。詳細は各作成画面を参照してください。

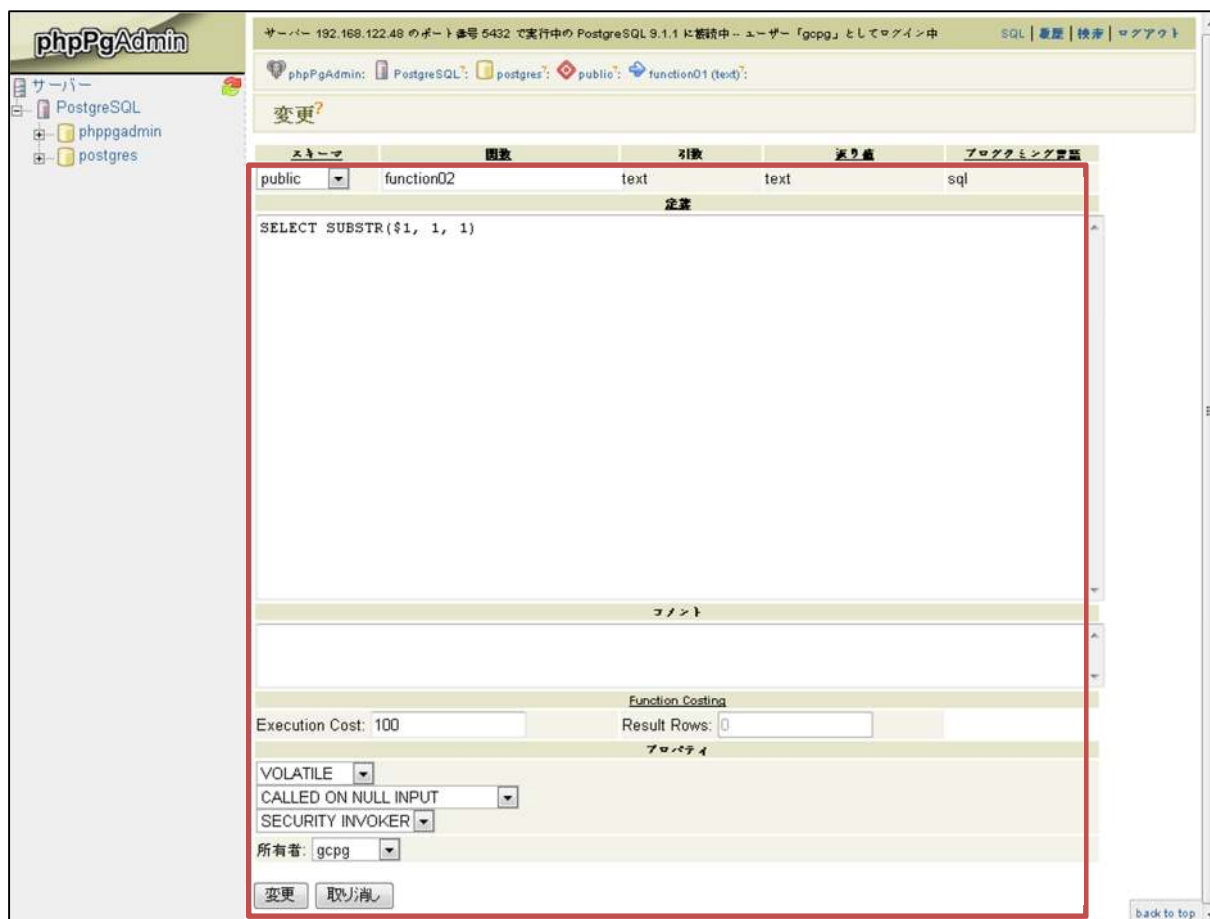


図 2-13-5 「関数の変更」

表 2-13-6 関数の変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	関数の名称を指定します。
2	[定義]	関数の定義を指定します。
3	[コメント]	コメントを指定します。
4	[Function Costing][Execution Cost]	関数の推定実行コストを指定します。関数が集合を返す場合は 1 行当たりのコストとなります。デフォルトは 100 です。値を大きくするとプランナは必要以上に頻繁

		に関数を評価しなくなります。
5	[Function Costing][Result Rows]	関数が返す行数の推定値を指定します。[SETOF 修飾子]が指定されている場合のみ指定可能です。デフォルトは1000です。
6	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報	オプティマイザに提供する関数の動作についての情報を下記から選択します。デフォルトはVOLATILEです。 <ul style="list-style-type: none"> ● VOLATILE: 1 テーブルスキャン内に関数の値が変化する可能性があり、最適化できないことを示します。 ● IMMUTABLE: データベースに変更を加えないこと、同引数値は同結果を返すことを示します。 ● STABLE: データベースに変更を加えないこと、同引数値は1 テーブルスキャン内には同結果を返すことを示します。
7	引数に NULL が含まれている場合の挙動	引数に NULL が含まれていた場合の挙動を下記から選択します。デフォルトはCALLED ON NULL INPUTです。 <ul style="list-style-type: none"> ● CALLED ON NULL INPUT: 引数に NULL が含まれている場合でも関数が呼び出されます。このとき NULL チェックは関数作成者の責任です。 ● RETURNS NULL ON NULL INPUT: 引数に NULL が含まれている場合、関数を呼び出さず、自動的に NULL を返します。
8	関数を実行する際の権限	関数を実行する際の権限を下記から選択します。デフォルトはSECURITY INVOKERです。 <p>SECURITY INVOKER: 関数を呼び出したユーザーの権限で関数が実行されます。</p> <p>SECURITY DEFINER: 関数を作成したユーザーの権限で関数が実行されます。</p>
9	[所有者]	関数の所有者を指定します。
10	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
11	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数個別操作」で関数に変更されたことを確認します。

The screenshot shows the phpPgAdmin web interface. The top navigation bar includes the phpPgAdmin logo, server information (192.168.122.48), and user status (logged in as 'gopg'). The left sidebar shows a tree view of the database structure, including PostgreSQL, phpPgAdmin, and postgres. The main content area displays the details for 'function02'. It includes a table with columns for '関数' (Function), '引数' (Arguments), '戻り値' (Return Value), and 'プログラミング言語' (Programming Language). Below the table, the function definition is shown as a SQL query: '1 SELECT SUBSTR(\$1, 1, 1)'. Further down, the 'Function Costing' section shows 'Execution Cost: 100' and 'Result Rows: 0'. The 'プロパティ' (Properties) section lists 'VOLATILE', 'CALLED ON NULL INPUT', 'SECURITY INVOKER', and '所有者: gcpag'. At the bottom right, there is a 'back to top' button.

関数	引数	戻り値	プログラミング言語
function02	text	text	sql

関数を更新しました。

```
1 SELECT SUBSTR($1, 1, 1)
```

Function Costing
Execution Cost: 100 Result Rows: 0
プロパティ
VOLATILE
CALLED ON NULL INPUT
SECURITY INVOKER
所有者: gcpag

[すべて関数を表示する](#) | [変更](#) | [破棄](#)

[back to top](#)

図 2-13-7 「関数個別操作」

2-13-2 関数の破棄

★ 関数を削除します。

① 「関数個別操作」で[破棄]をクリックします。

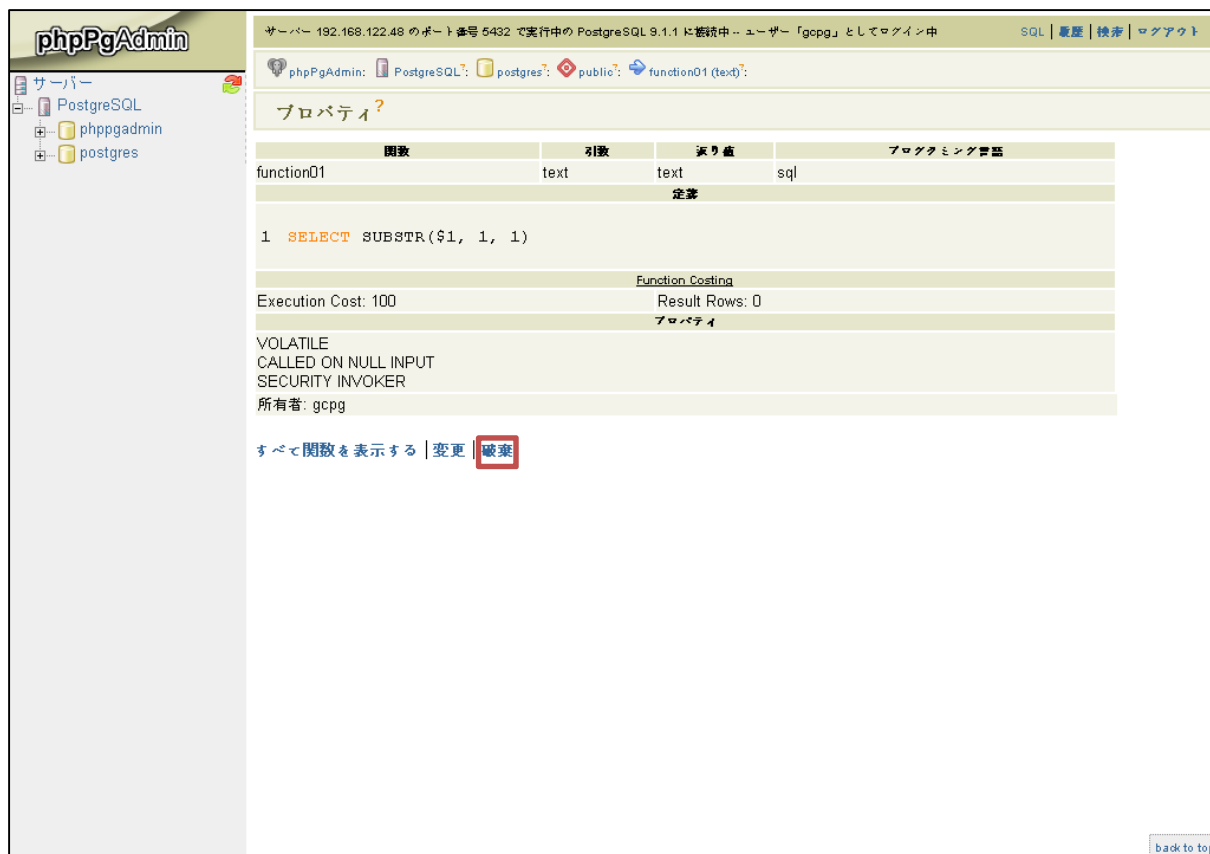


図 2-13-8 「関数個別操作」

② 「関数の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

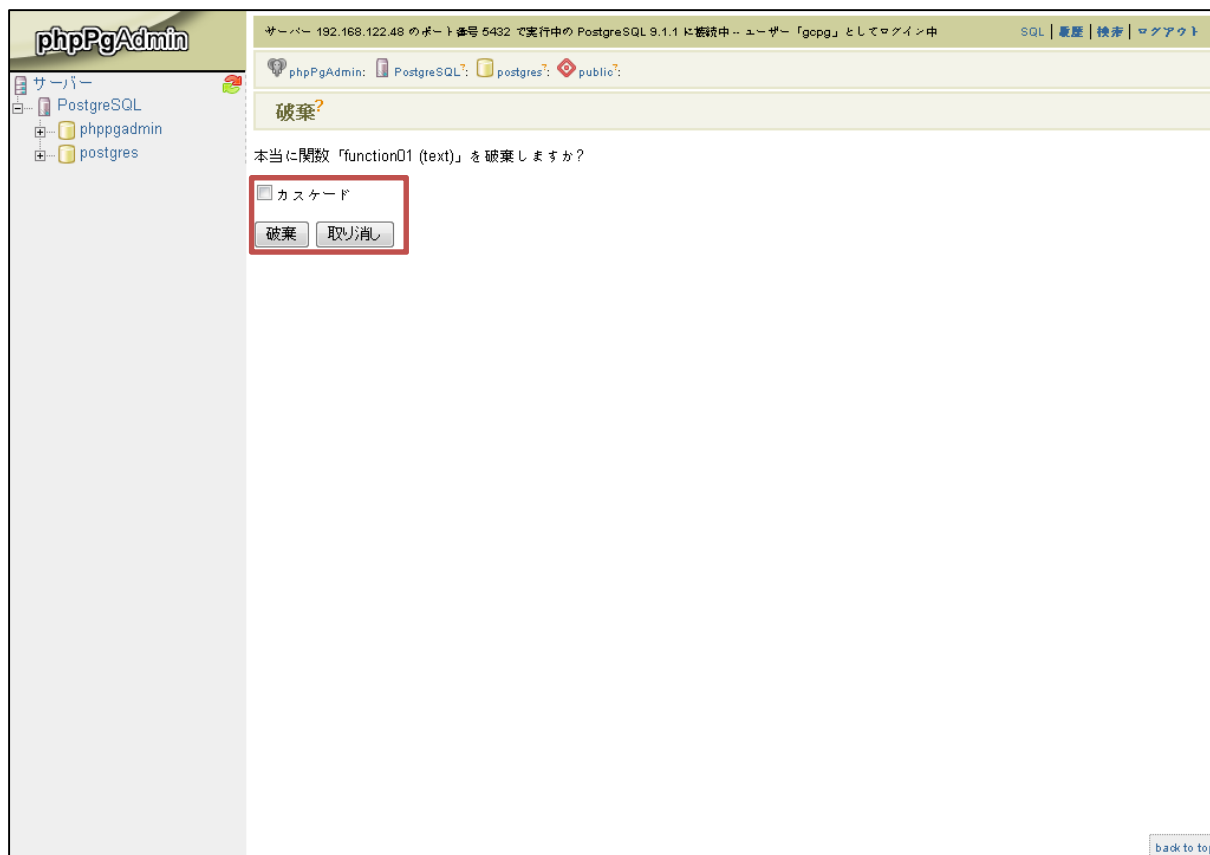


図 2-13-9 「関数の破棄」

表 2-13-10 関数の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄する関数に演算子やトリガーなどのオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「関数一覧操作」で関数が破棄されたことを確認します。

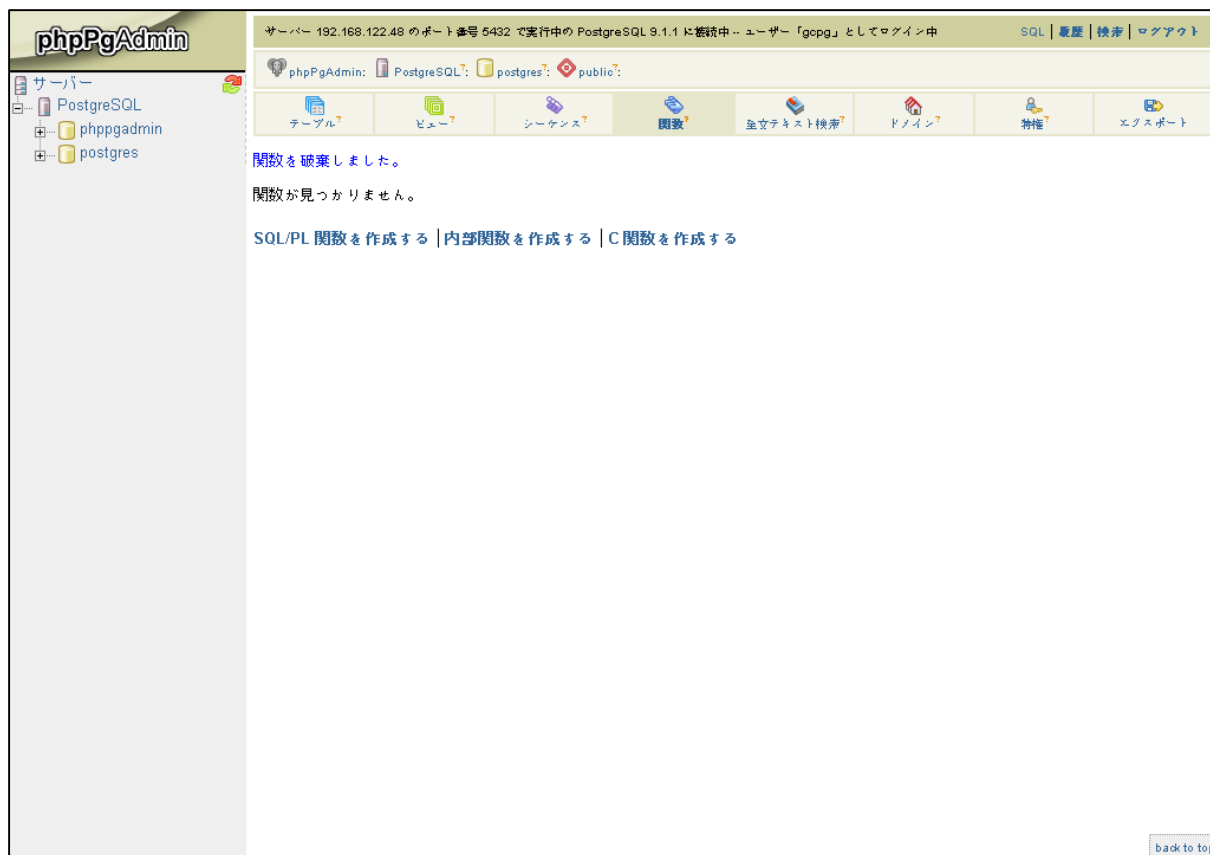


図 2-13-11 「関数一覧操作」

2-14 全文テキスト検索設定個別操作

★ 「全文テキスト検索設定個別操作」を表示します。

① 「全文テキスト検索の設定一覧操作」で“個別全文テキスト検索設定名”をクリックします。

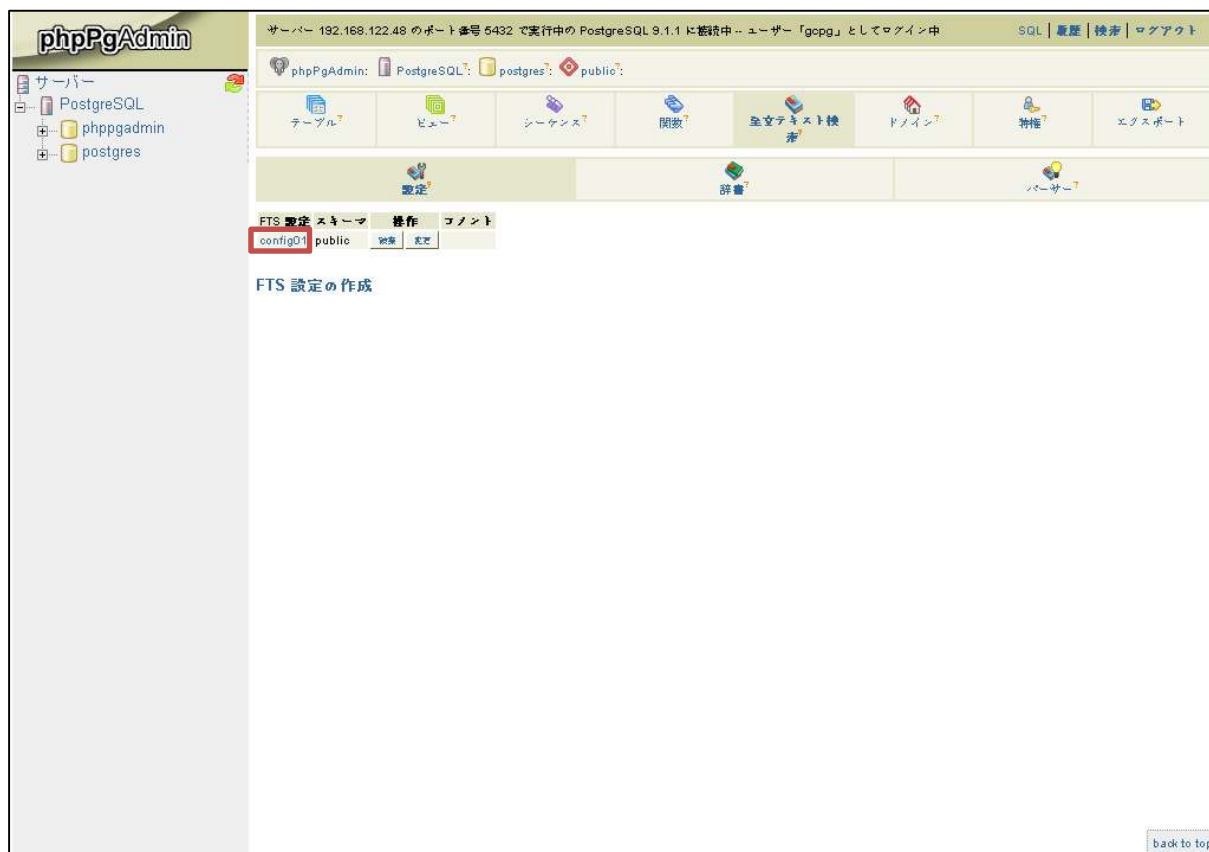


図 2-14-1 「全文テキスト検索の設定一覧操作」

② 「全文テキスト検索設定個別操作」の表示を確認します。

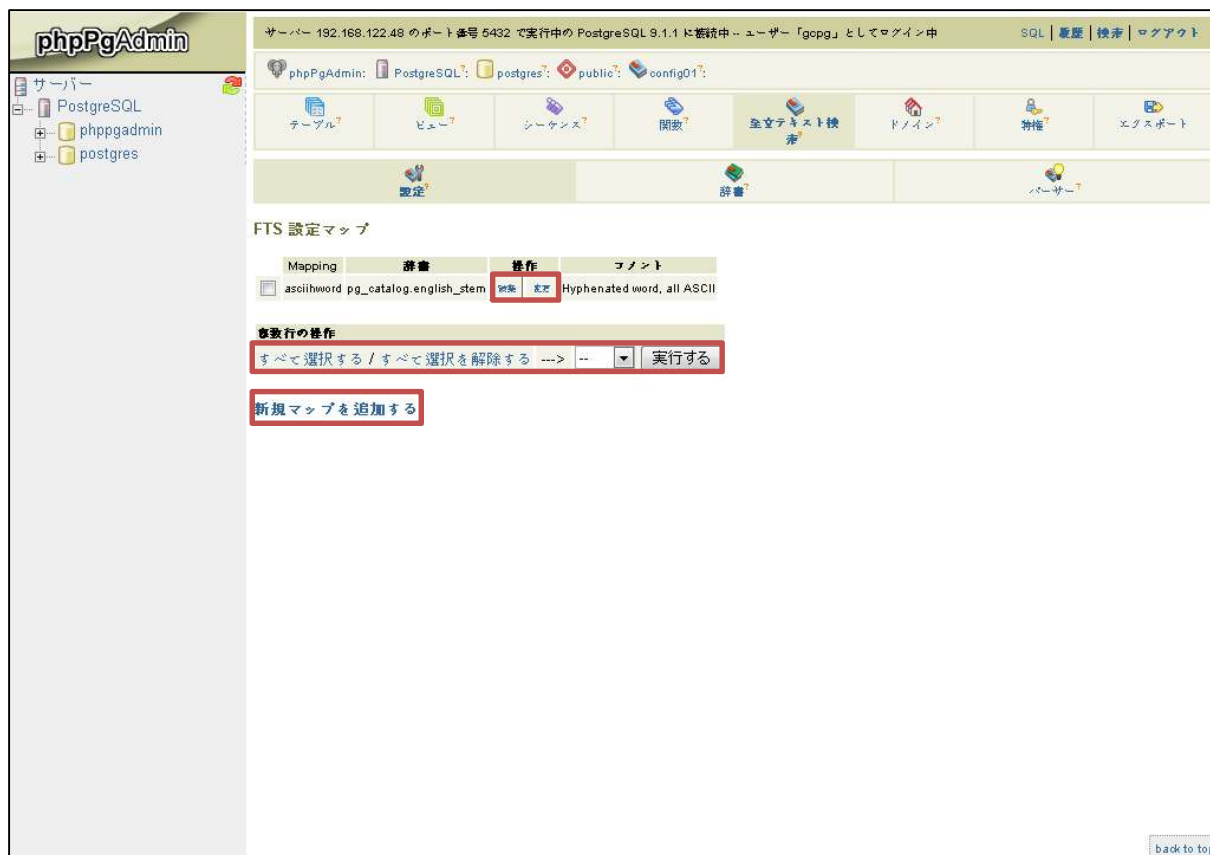


図 2-14-2 「全文テキスト検索設定個別操作」

表 2-14-3 全文テキスト検索設定個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	全文テキスト検索設定マップを削除することができます。(ALTER TEXT SEARCH CONFIGURATION に相当) 詳細は 2-14-1「全文テキスト検索設定マップの破棄」を参照してください。
2	[変更]ボタン	全文テキスト検索設定マップの定義を変更することができます。(ALTER TEXT SEARCH CONFIGURATION に相当) 詳細は 2-14-2「全文テキスト検索設定マップの変更」を参照してください。
3	[複数行の操作]	選択されている全文テキスト検索設定マップに対して以

		<p>下の操作を一括で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 破棄 <p>対象が複数になったこと以外は、個々の操作と変わらないため、本マニュアルでの説明は割愛します。</p>
4	[新規マップを追加する]	<p>新しい全文テキスト検索設定マップを定義することができます。(ALTER TEXT SEARCH CONFIGURATIONに相当)</p> <p>詳細は 2-14-3「全文テキスト検索設定マップの追加」を参照してください。</p>

2-14-1 全文テキスト検索設定マップの破棄

★ 全文テキスト検索設定マップを削除します。

① 「全文テキスト検索設定個別操作」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-14-4 「全文テキスト検索設定個別操作」

② 「全文テキスト検索設定マップの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

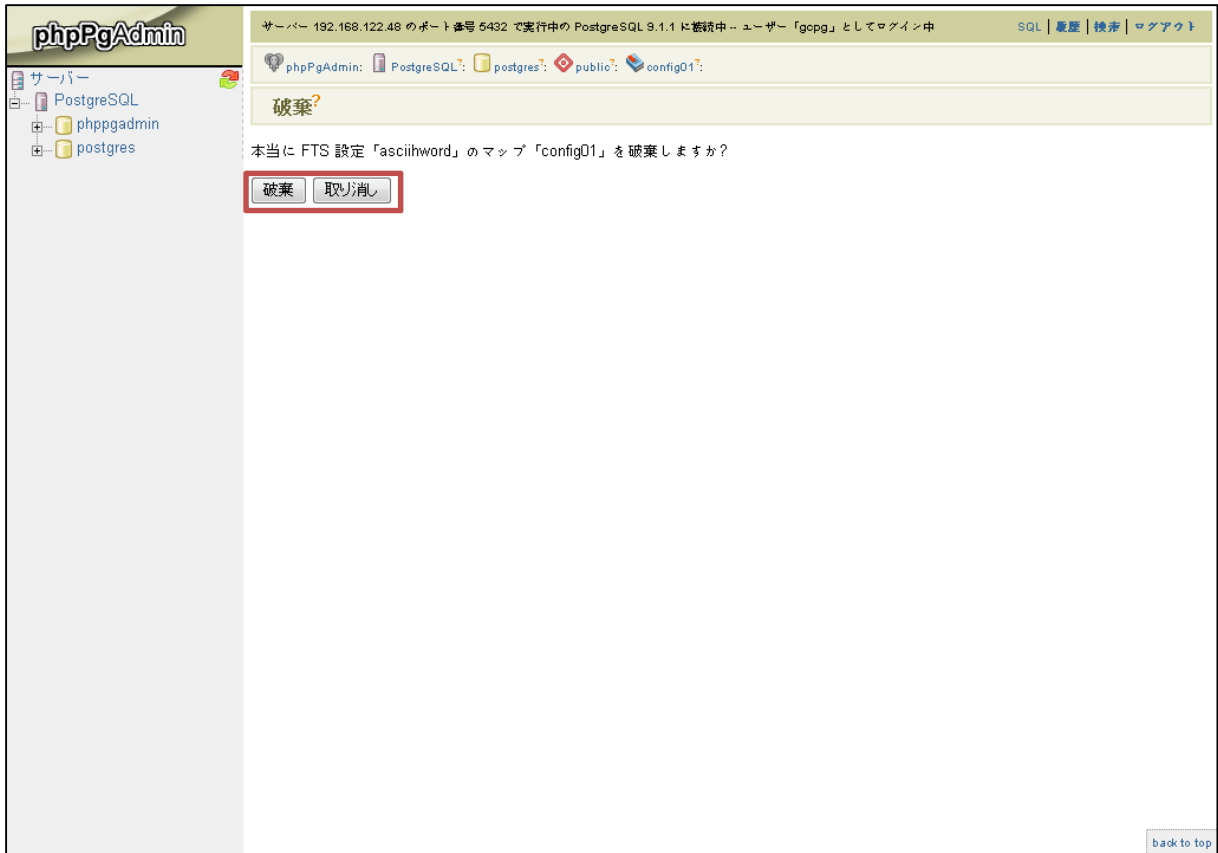


図 2-14-5 「全文テキスト検索設定マップの破棄」

表 2-14-6 全文テキスト検索設定マップの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
2	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「全文テキスト検索設定個別操作」で全文テキスト検索設定マップが破棄されたことを確認します。

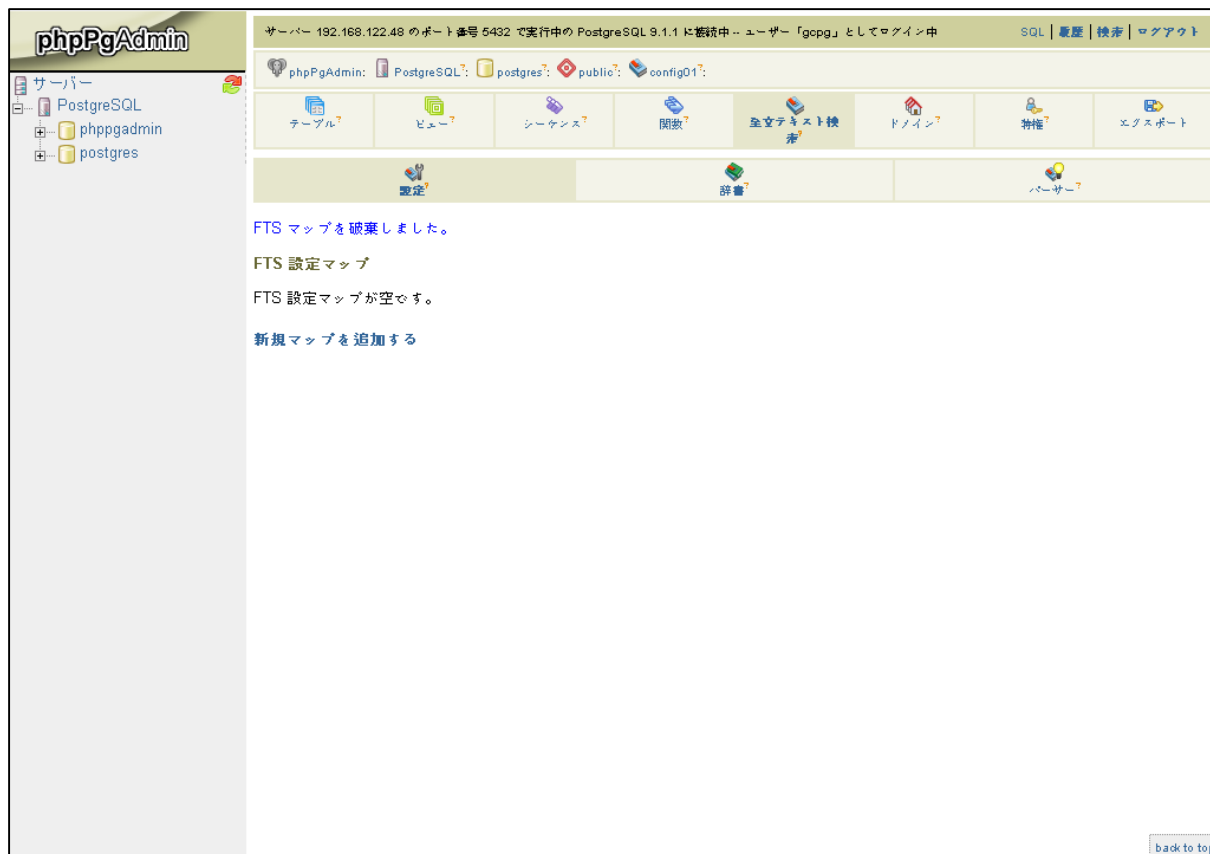


図 2-14-7 「全文テキスト検索設定個別操作」

2-14-2 全文テキスト検索設定マップの変更

★ 全文テキスト検索設定マップの定義を変更します。

① 「全文テキスト検索設定個別操作」で[変更]ボタンをクリックします。



図 2-14-8 「全文テキスト検索設定個別操作」

② 「全文テキスト検索設定マップの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

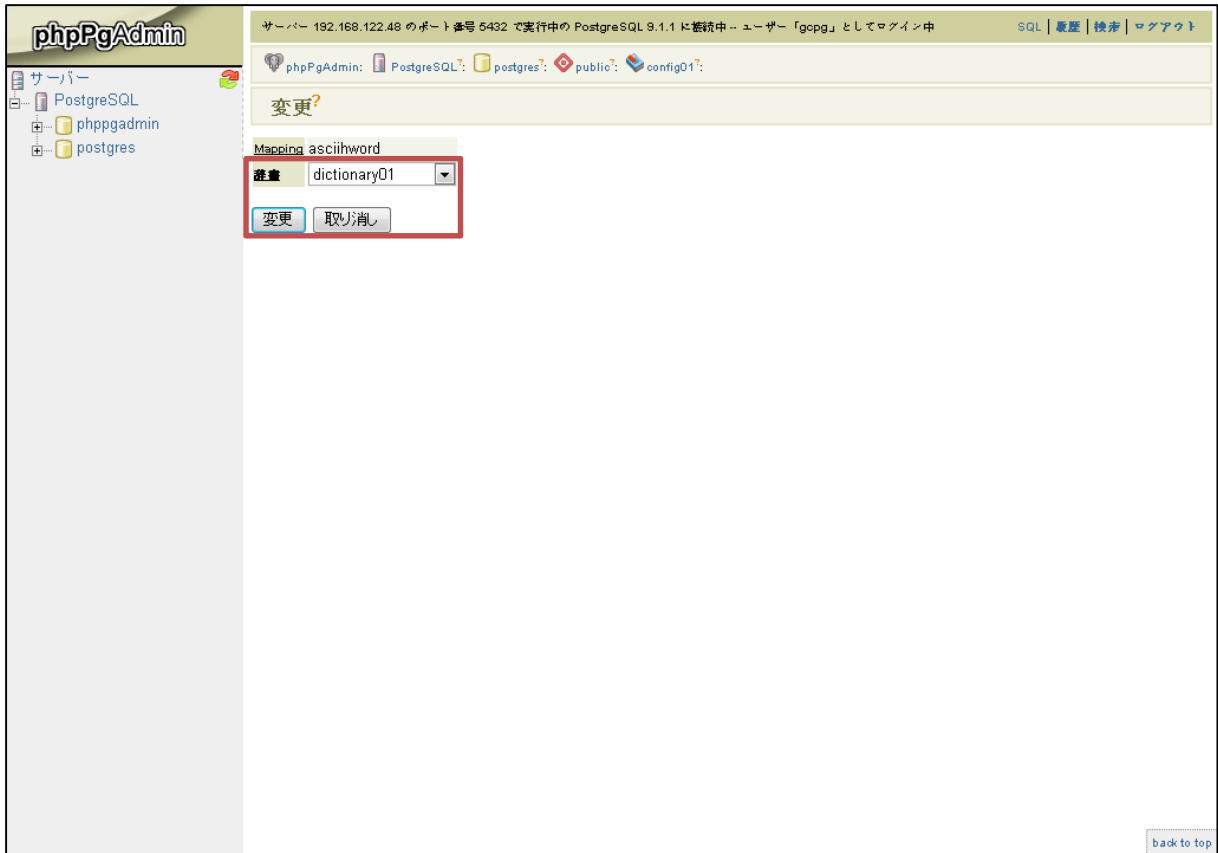


図 2-14-9 「全文テキスト検索設定マップの変更」

表 2-14-10 全文テキスト検索設定マップの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[辞書]	全文テキスト検索設定マップ用の辞書を指定します。
2	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「全文テキスト検索設定個別操作」で全文テキスト検索設定マップが変更されたことを確認します。



図 2-14-11 「全文テキスト検索設定個別操作」

2-14-3 全文テキスト検索設定マップの追加

★ 全文テキスト検索設定マップを定義します。

① 「全文テキスト検索設定個別操作」で[新規マップを追加する]をクリックします。

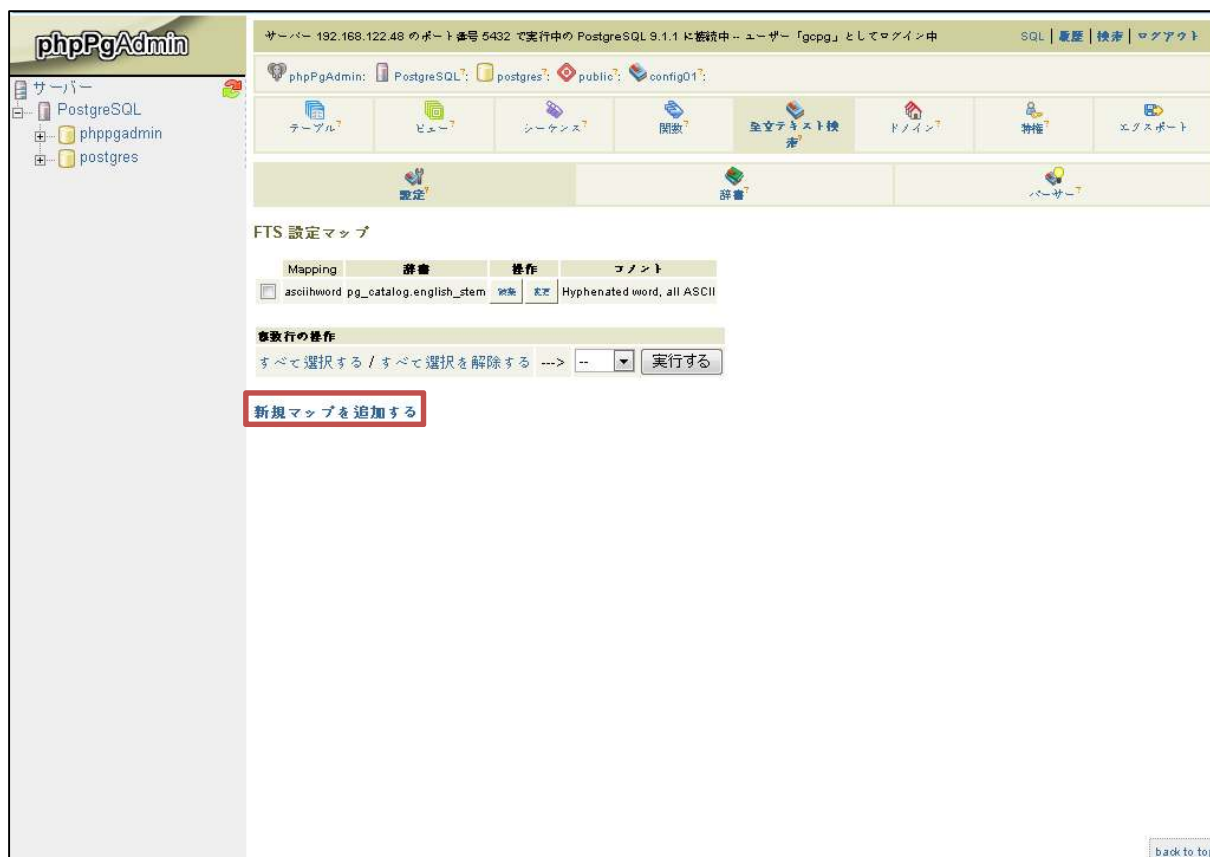


図 2-14-12 「全文テキスト検索設定個別操作」

② 「全文テキスト検索設定マップの追加」で[追加]ボタンをクリックします。

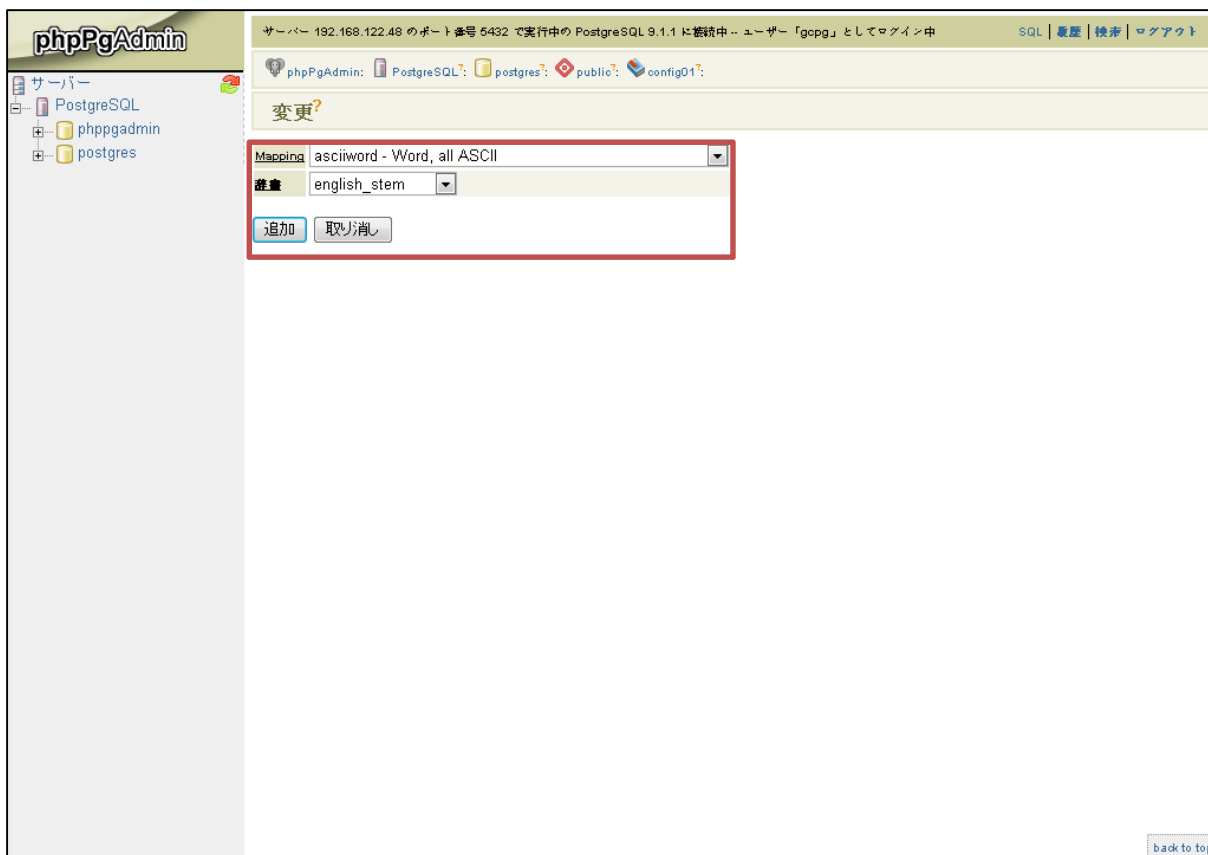


図 2-14-13 「全文テキスト検索設定マップの追加」

表 2-14-14 全文テキスト検索設定マップの追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[Mapping]	<p>全文テキスト検索設定マップのトークン型を下記から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● asciihword - Hyphenated word, all ASCII ● asciword - Word, all ASCII ● blank - Space symbols ● email - Email address ● entity - XML entity ● file - File or path name ● float - Decimal notation

		<ul style="list-style-type: none"> ● host - Host ● hword - Hyphenated word, all letters ● hword_asciipart - Hyphenated word part, all ASCII ● hword_numpart - Hyphenated word part, letters and digits ● hword_part - Hyphenated word part, all letters ● int - Signed integer ● numhword - Hyphenated word, letters and digits ● numword - Word, letters and digits ● protocol - Protocol head ● sfloat - Scientific notation ● tag - XML tag ● uint - Unsigned integer ● url - URL ● url_path - URL path ● version - Version number ● word - Word, all letters
2	[辞書]	<p>全文テキスト検索設定マップ用の辞書を指定します。</p> <p>指定できる辞書は、システムカタログスキーマである pg_catalog スキーマに存在する全文テキスト検索設定および、「全文テキスト検索の辞書一覧操作」で表示されている全文テキスト検索辞書です。</p>
3	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
4	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③「全文テキスト検索設定個別操作」で全文テキスト検索設定マップが追加されたことを確認します。



図 2-14-15 「全文テキスト検索設定個別操作」

2-15 ドメイン個別操作

★ 「ドメイン個別操作」を表示します。

① 「ドメイン一覧操作」で“個別ドメイン名”をクリックします。

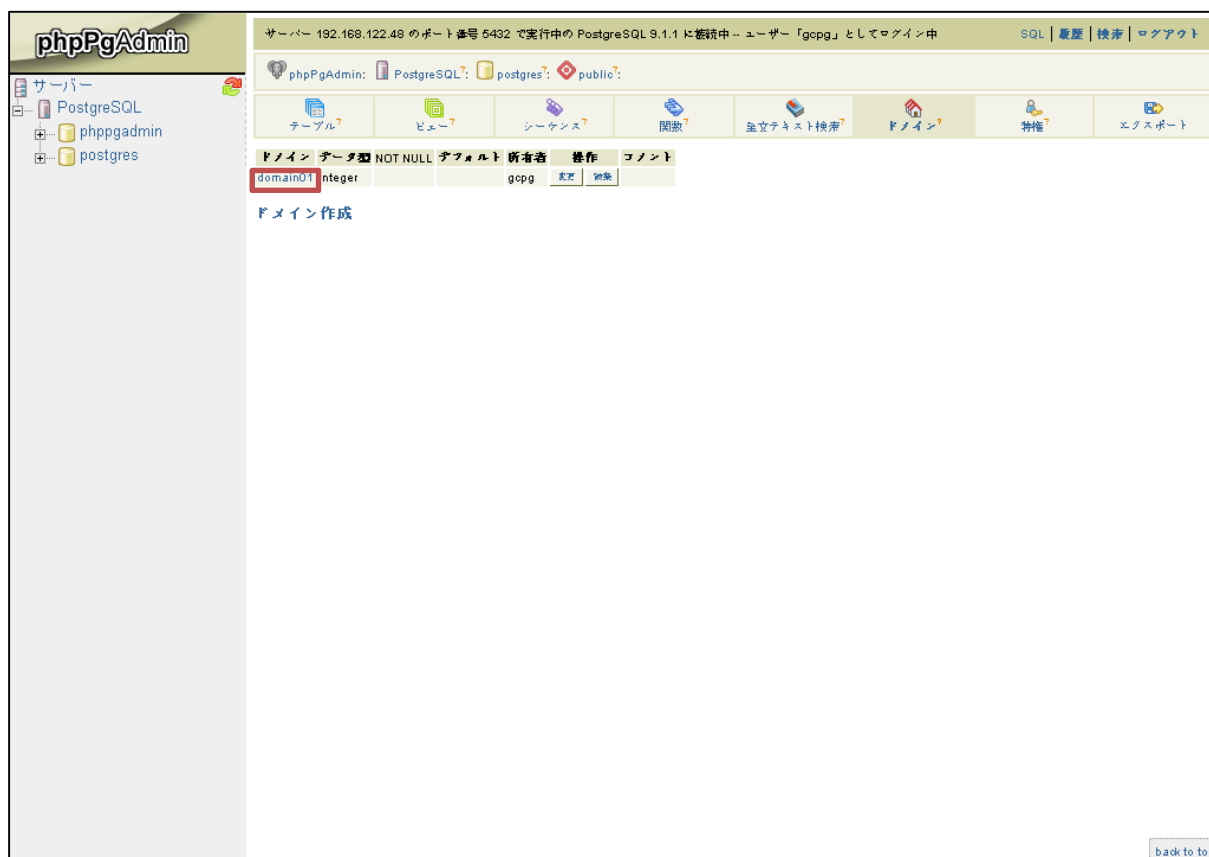


図 2-15-1 「ドメイン一覧操作」

② 「ドメイン個別操作」の表示を確認します。

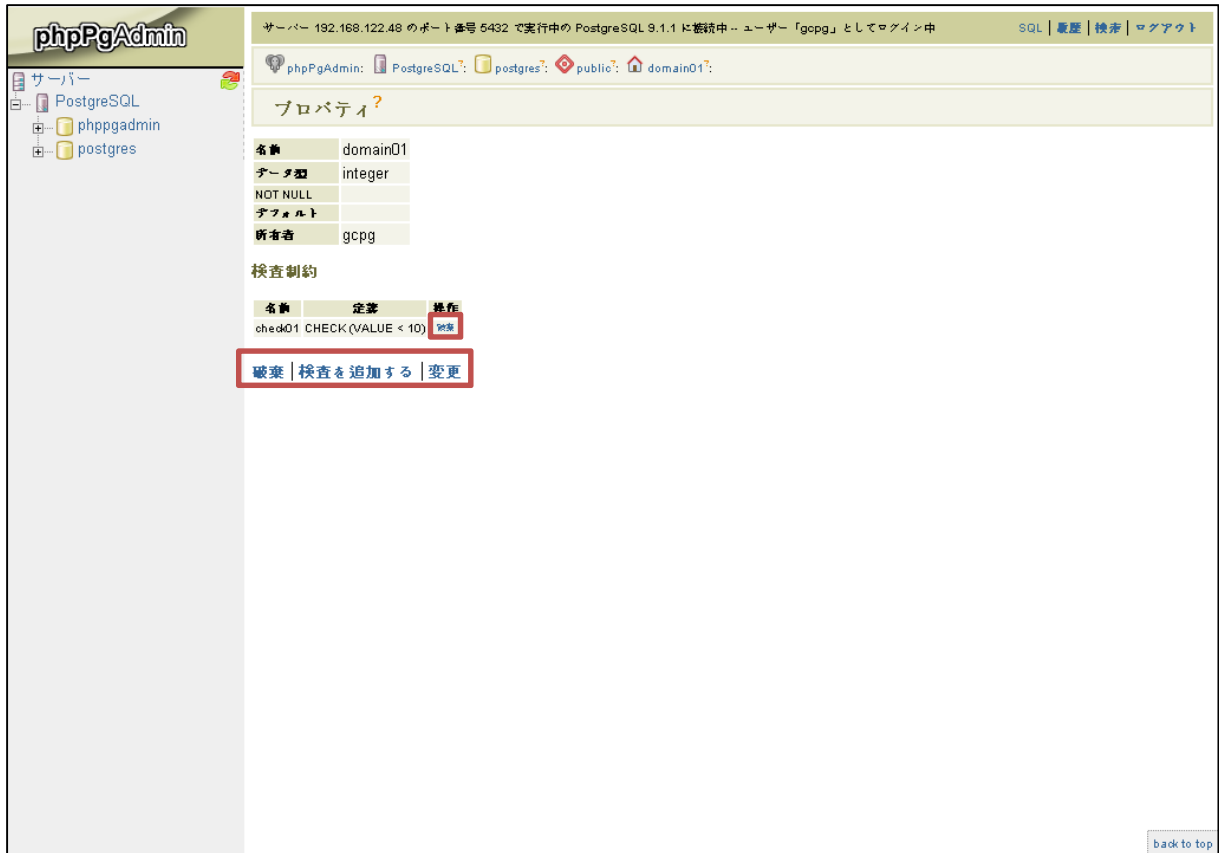


図 2-15-2 「ドメイン個別操作」

表 2-15-3 ドメイン個別操作画面項目

NO	項目名	説明
1	[破棄]ボタン	ドメインの検査制約を削除することができます。(ALTER DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-1 「ドメインの検査制約の破棄」を参照してください。
2	[破棄]	ドメインを削除することができます。(DROP DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-2 「ドメインの破棄」を参照してください。
3	[検査を追加する]	ドメインに検査を追加することができます。(ALTER DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-3 「ドメインの検査制約の追加」を参照して

		ください。
4	[変更]	ドメインの定義を変更することができます。(ALTER DOMAIN に相当) 詳細は 2-15-4 「ドメインの変更」を参照してください。

2-15-1 ドメインの検査制約の破棄

★ ドメインの検査制約を削除します。

① 「ドメイン個別操作」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-15-4 「ドメイン個別操作」

② 「ドメインの検査制約の破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。



図 2-15-5 「ドメインの検査制約の破棄」

表 2-15-6 ドメインの検査制約の破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するドメインにオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ドメイン個別操作」でドメインの検査制約が破棄されたことを確認します。



図 2-15-7 「ドメイン個別操作」

2-15-2 ドメインの破棄

★ ドメインを削除します。

① 「ドメイン個別操作」で[破棄]をクリックします。



図 2-15-8 「ドメイン個別操作」

② 「ドメインの破棄」で[破棄]ボタンをクリックします。

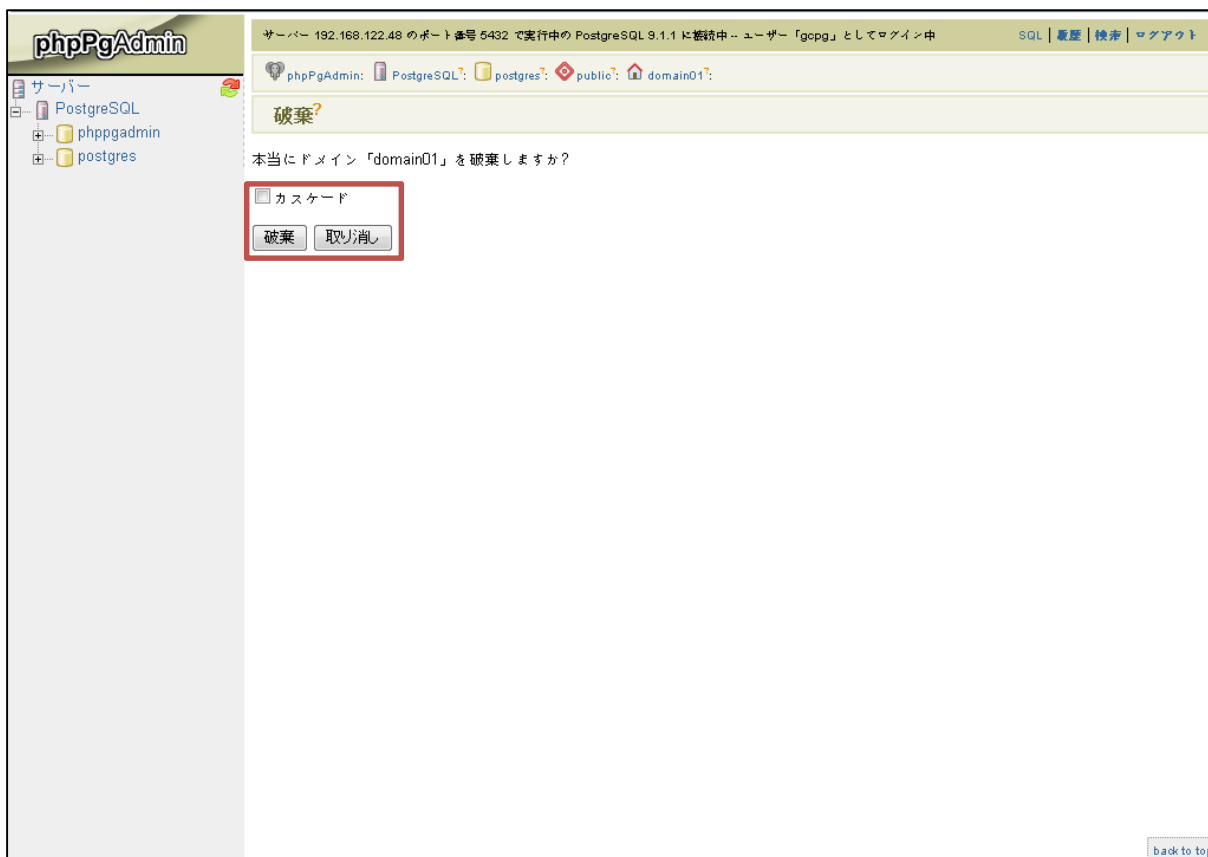


図 2-15-9 「ドメインの破棄」

表 2-15-10 ドメインの破棄画面項目

NO	項目名	説明
1	[カスケード]	破棄するドメインにテーブルの列などのオブジェクトが依存している場合、有効にする必要があります。
2	[破棄]ボタン	破棄操作を実行します。
3	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ドメイン一覧操作」でドメインが破棄されたことを確認します。

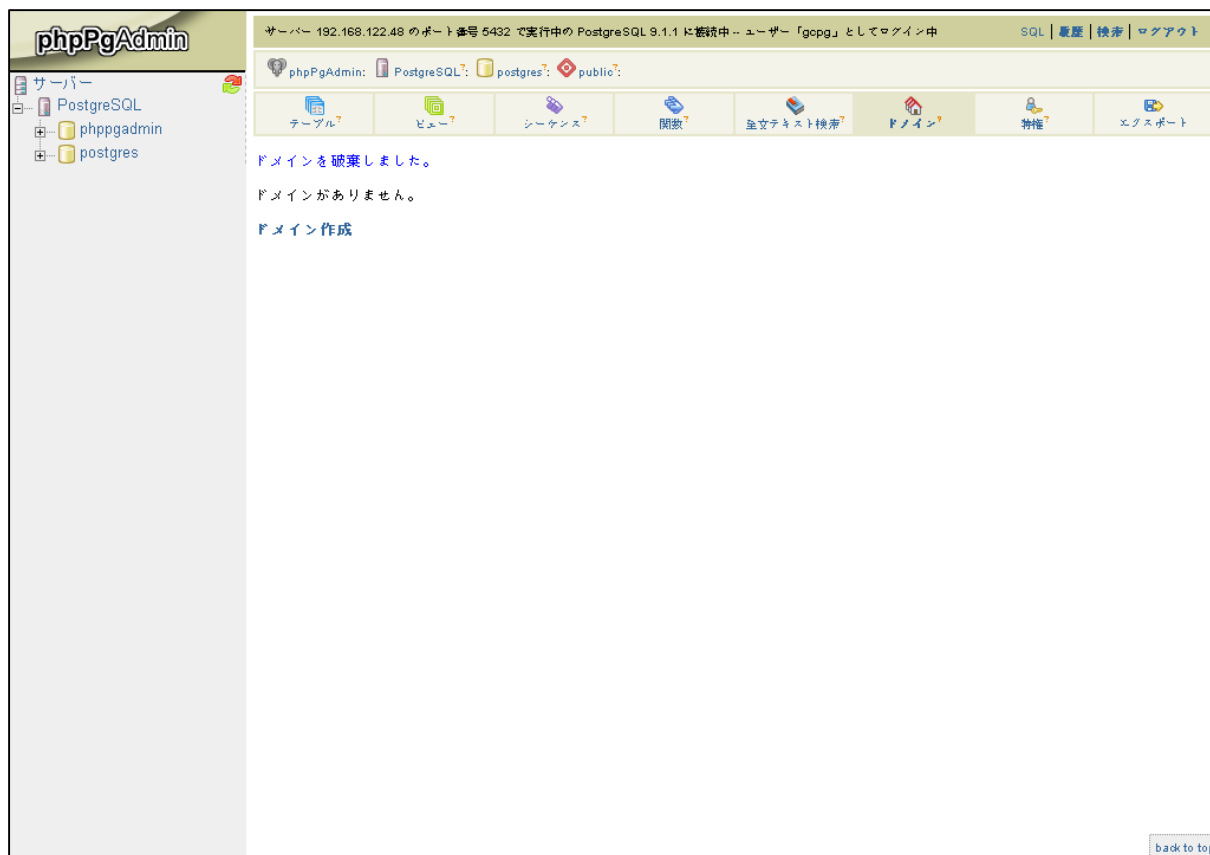


図 2-15-11 「ドメイン一覧操作」

2-15-3 ドメインの検査制約の追加

★ ドメインへ検査制約を追加します。

① 「ドメイン個別操作」で[検査を追加する]をクリックします。



図 2-15-12 「ドメイン個別操作」

② 「ドメインの検査制約の追加」で[追加]ボタンをクリックします。

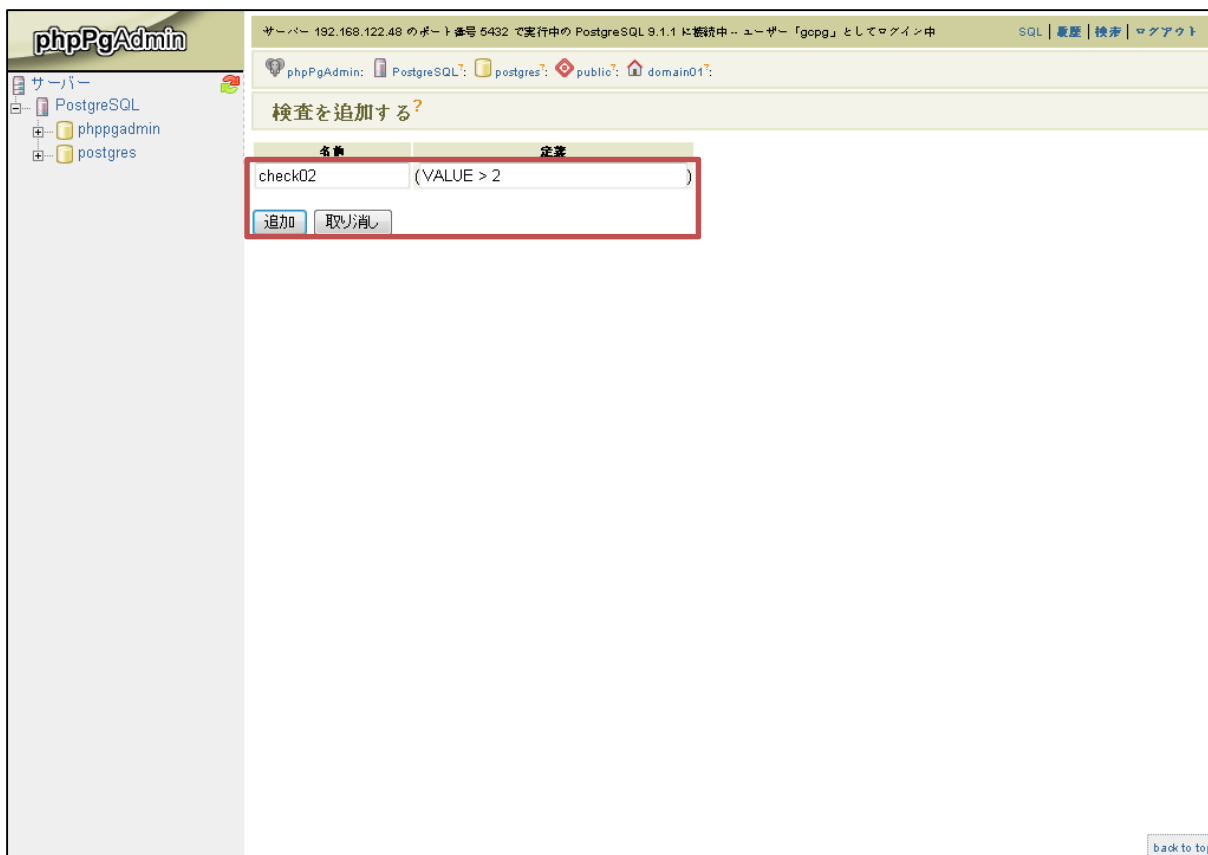


図 2-15-13 「ドメインの検査制約の追加」

表 2-15-14 ドメインの検査制約の追加画面項目

NO	項目名	説明
1	[名前]	ドメインの検査制約の名称を指定します。
2	[定義]	検査制約として定義する式を指定します。ALTER DOMAIN の CHECK()内に記述する式に相当。本項目に指定された式を満たすか否か検査する制約が追加されます。
3	[追加]ボタン	追加操作を実行します。
4	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ドメイン個別操作」でドメインへ検査制約が追加されたことを確認します。



図 2-15-15 「ドメイン個別操作」

2-15-4 ドメインの変更

★ ドメインの定義を変更します。

① 「ドメイン個別操作」で[変更]をクリックします。



図 2-15-16 「ドメイン個別操作」

② 「ドメインの変更」で[変更]ボタンをクリックします。

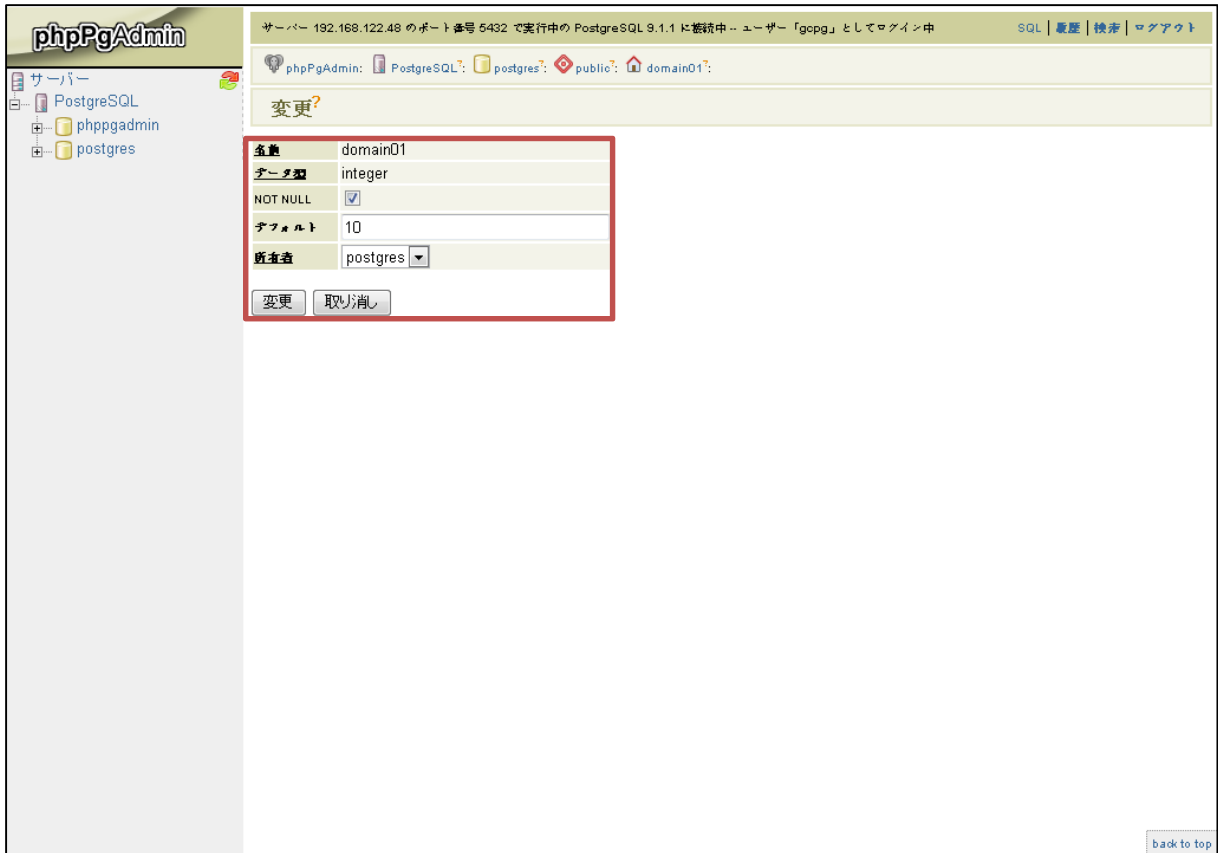


図 2-15-17 「ドメインの変更」

表 2-15-18 ドメインの変更画面項目

NO	項目名	説明
1	[NOT NULL]	ドメインに NOT NULL 制約を指定したい場合に有効にします。
2	[デフォルト]	デフォルト値を指定します。
3	[所有者]	ドメインの所有者を指定します。
4	[変更]ボタン	変更操作を実行します。
5	[取り消し]ボタン	操作を取り消します。

③ 「ドメイン個別操作」でドメインが変更されたことを確認します。



図 2-15-19 「ドメイン個別操作」

IM-AccelDB DB 操作機能利用マニュアル

第 1.0 版

2016 年 9 月 1 日 第 1.0 版発行

発行者 株式会社 NTT データ イントラマート

東京都港区赤坂 4-15-1 赤坂ガーデンシティ 5 階

無断転載禁止